

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ニ 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の構造及び設備</p> <p>(1) 核燃料物質取扱設備の構造</p> <p><u>ニ(1)-①核燃料物質取扱設備（燃料取扱設備）は、燃料取替機（1号及び2号炉共用、既設）、原子炉建物天井クレーン（1号及び2号炉共用、既設）等で構成する。</u></p> <p><u>ウラン新燃料は、原子炉建物原子炉棟内に設ける新燃料貯蔵庫ニ(1)-②等から原子炉建物天井クレーン等で燃料プールに移し、燃料取替機により炉心に挿入する。</u></p> <p><u>MOX新燃料は、MOX新燃料の輸送容器から原子炉建物天井クレーン等で燃料プールに移し、燃料取替機により炉心に挿入する。</u></p> <p>燃料の取替えは、原子炉上部の<u>ニ(1)-③</u>ウェルに水を</p>	<p>4. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>4.1 燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備</p> <p>4.1.1 通常運転時等</p> <p>4.1.1.1 概要</p> <p><u>燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備は、新燃料貯蔵庫、燃料プール（1号及び2号炉共用、既設）、燃料取替機（1号及び2号炉共用、既設）、原子炉建物天井クレーン（1号及び2号炉共用、既設）、輸送容器除染ピット（1号及び2号炉共用、既設）等で構成する。</u></p> <p><中略></p> <p><u>燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備は、新燃料を原子炉建物原子炉棟に搬入してから炉心に装荷するまで及び使用済燃料を炉心から取り出し原子炉建物原子炉棟から搬出するまでの貯蔵、並びに取扱いを行うものである。</u></p> <p><中略></p> <p>4.1.1.2 設計方針</p> <p>(4) 遮蔽</p> <p><中略></p> <p>燃料体等の取扱設備は、使用済燃料の炉心から燃料プ</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 燃料取扱設備</p> <p><u>ニ(1)-①燃料体又は使用済燃料（以下「燃料体等」という。）の取扱設備は、燃料取替機、原子炉建物天井クレーン及びチャンネル着脱装置で構成し、燃料取替機、原子炉建物天井クレーン及びチャンネル着脱装置は、新燃料を原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）に搬入してから原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）外へ搬出するまで、燃料体等を安全に取り扱うことができる設計とする。</u></p> <p><u>新燃料は、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内に設けるニ(1)-②新燃料貯蔵庫または新燃料の輸送容器から原子炉建物天井クレーン及びチャンネル着脱装置を介して燃料プールに移し、燃料取替機により発電用原子炉に装荷できる設計とする。</u></p> <p>また、燃料の取替えは、原子炉上部の<u>ニ(1)-③</u>原子炉ウェ</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））二項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ニ(1)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ニ(1)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置許可変更申請書（本文）において許可を受けた「1号機との共用」について、本工事計画では申請しないため、本工事計画の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ニ(1)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ニ(1)-②</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置許可変更申請書（本文）において許可を受けた「MOX燃料」について、本工事計画では申請しないため、本工事計画の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>張り、水中で燃料取替機を用いて行う。</u></p> <p><u>使用済燃料は、遮蔽に必要な水深を確保した状態で、水中で燃料取替機により移送し、原子炉建物原子炉棟内の燃料プール（1号及び2号炉共用、既設）の二(1)-④水中に貯蔵する。</u></p> <p><u>燃料取替機は、二(1)-⑤燃料取扱い時において燃料体等が臨界に達することのない設計とする。</u></p> <p><u>また、燃料体等の取扱中における二(1)-⑥燃料体等の落下を防止する設計とするとともに、燃料プール周辺の設備状況等を踏まえて、燃料プールの機能に影響を及ぼす重量物については落下を防止できる設計とする。</u></p>	<p>ールへの移送操作、燃料プールから炉心への移送操作及び使用済燃料輸送容器への収容操作並びにMOX新燃料の燃料プールから炉心への移送操作が、使用済燃料及びMOX新燃料の遮蔽に必要な水深を確保した状態で、<u>水中で行うことができる設計とする。</u></p> <p>(4) 遮蔽 燃料プール及び輸送容器置場の壁面及び底部は、コンクリート壁による遮蔽を施すとともに、使用済燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物（以下4.では「MOX」という。）新燃料の上部には十分な遮蔽効果を有する水深を確保する設計とする。 <中略></p> <p>(1) 未臨界性 燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備は、幾何学的な安全配置又は適切な手段により、<u>臨界を防止できる設計とする。</u> 燃料体等の貯蔵設備は、燃料体等を貯蔵容量最大に収容した場合でも通常時はもちろん、想定されるいかなる場合でも、未臨界性を確保できる設計とする。 また、燃料体等の取扱設備は、燃料体等を直接取り扱う場合には、一体ずつ取り扱う構造とすることにより、燃料体等の臨界を防止する設計とする。</p> <p>(7) 落下防止 落下時に燃料プールの機能に影響を及ぼす重量物については、燃料プール周辺の状況、現場における作業実績、図面等にて確認することにより、落下時のエネルギーを評価し、気中落下試験時の模擬燃料集合体（チャンネル・ボックス含む。）の落下エネルギー（15.5kJ）以上となる設備等を抽出する。 床面や壁面へ固定する設備等については、燃料プール</p>	<p><u>ルに水を張り、水中で燃料取替機により行うことができる設計とする。</u></p> <p><u>使用済燃料は、遮蔽に必要な水深を確保した状態で、燃料取替機により水中移送し、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内の燃料プールの二(1)-④使用済燃料貯蔵ラックに貯蔵できる設計とする。</u> <中略></p> <p><u>燃料取替機及びチャンネル着脱装置は、二(1)-⑤燃料体等を一体ずつ取り扱う構造とすることにより、臨界を防止する設計とし、燃料体等の検査等を行う際に水面に近づいた状態であっても、燃料体等からの放射線の遮蔽に必要な水深を確保できる設計とする。</u></p> <p>原子炉建物天井クレーンは、未臨界性を確保した容器に収納して吊り上げる場合を除き、燃料体等を取り扱う場合は、一体ずつ取り扱う構造とし、臨界を防止する設計とする。 燃料取替機は、燃料体等の発電用原子炉から燃料プールへの移送操作、燃料プールから発電用原子炉への移送操作及び使用済燃料輸送容器への収納操作等をすべて水中で行うことで、崩壊熱により燃料体等が溶融せず、燃料体等からの放射</p>	<p>二(1)-③は、設置変更許可申請書(本文)(五号)の二(1)-③と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の二(1)-④は、設置変更許可申請書(本文)(五号)の二(1)-④を具体的に記載しており、整合している。 設置許可変更申請書(本文)において許可を受けた「1号機との共用」について、本工事計画では申請しないため、本工事計画の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の二(1)-⑤は、設置変更許可申請書(本文)(五号)の二(1)-⑤を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の二(1)-⑥a及び二(1)-⑥bは、設置変更許可申請(本文)(五号)の二(1)-⑥を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>からの離隔を確保するため、燃料プールへ落下するおそれはない。</p> <p>4.1.1.4 主要設備</p> <p>(1) 燃料取替機</p> <p>燃料取替機は、原子炉ウェル、燃料プール及び気水分離器・蒸気乾燥器ピット上を水平に移動する走行台車並びにその上を移動する横行台車で構成する。</p> <p>また、燃料把握機は、二重のワイヤや燃料体等を確実につかんでいない場合には、吊上げができない等のインターロックを設け、圧縮空気が喪失した場合にも、燃料体等が外れない設計とする。</p> <p>燃料取替作業による放射線業務従事者の被ばくを低減するため、燃料取替機は遠隔自動で運転できる設計とする。</p> <p>(2) 原子炉建物天井クレーン</p> <p>原子炉建物天井クレーンは、新燃料、使用済燃料輸送容器、MOX新燃料輸送容器の運搬に使用するとともに、原子炉遮蔽体、原子炉格納容器上蓋、原子炉压力容器上蓋、蒸気乾燥器、気水分離器等の取外し、運搬及び取付けに使用する。</p> <p>また、原子炉建物天井クレーンの主要要素は、種々の二重化を行うとともに重量物を吊った状態で使用済燃料貯蔵ラック上を通過できないようインターロックを設ける。</p>	<p>線に対して、適切な遮蔽能力を有する設計とする。</p> <p>チャンネル着脱装置は、燃料体等の検査等のための昇降操作等をすべて水中で行うことで、崩壊熱により燃料体等が熔融せず、燃料体等からの放射線に対して、適切な遮蔽能力を有する設計とする。</p> <p>燃料取替機の燃料把握機は、<u>ニ(1)-⑥a</u>昇降を安全かつ確実に行うため、定格荷重を保持でき、必要な安全率を有するワイヤロープの二重化、フック部の外れ止めを有し、グラブには機械的インターロックを設ける設計とする。</p> <p>原子炉建物天井クレーンは、フック部の外れ止めを有し、使用済燃料輸送容器等を取り扱う主巻フックは、定格荷重を保持でき、必要な安全率を有するワイヤロープを二重化することにより、燃料体等の重量物取扱中に落下を防止できる設計とする。また、想定される燃料プール内への落下物によって燃料プール内の燃料体等が破損しないことを計算により確認する。</p> <p>なお、ワイヤロープ及びフックは、それぞれクレーン構造規格、クレーン等安全規則の規定を満たす安全率を有する設計とする。</p> <p>チャンネル着脱装置は、下限ストップによる機械的インターロック及び燃料体等を上部で保持する固定具により燃料体等の燃料プール床面への落下を防止できる設計とする。</p> <p>燃料取替機は、<u>ニ(1)-⑥b</u>燃料体等の取扱中に過荷重となった場合に上昇を阻止するインターロックを設けるとともに荷重監視を行うことにより、過荷重による燃料体等の落下を防止できる設計とする。</p> <p>燃料取替機は、地震時にも転倒することがないように走行レール及び横行レール頭部を抱き込む構造をした燃料取替機のブリッジ及びトロリの脱線防止ラグを設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>燃料取替機の燃料把握機は、空気作動式とし、燃料体等をつかんだ状態で圧縮空気が喪失した場合にも、つかんだ状態を保持し、燃料体等が外れない設計とする。</p> <p>燃料取替機、原子炉建物天井クレーン及びチャンネル着脱装置は、動力電源喪失時に電磁ブレーキによる保持機能により、燃料体等の落下を防止できる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>なお、使用済燃料の(1)-⑦運搬には、使用済燃料輸送容器を使用する。</p> <p>(2) 核燃料物質貯蔵設備の構造及び貯蔵能力 (i) 新燃料貯蔵庫 a. 構造 新燃料貯蔵庫は、(2)(i) a.-①ウラン新燃料を貯蔵ラックに挿入して貯蔵するものであり、原子炉建物原子炉棟内に設置する。 新燃料貯蔵庫は、想定されるいかなる状態においても燃料が臨界に達することのない設計とする。</p> <p>b. 貯蔵能力 全炉心燃料の約35%相当分</p> <p>(ii) 燃料プール a. 構造</p>	<p>4.1.1.1 概要 <中略> なお、使用済燃料の運搬には、使用済燃料輸送容器を使用する。 <中略></p> <p>4.1.1.4 主要設備 (3) 新燃料貯蔵庫 新燃料貯蔵庫は、発電所に到着したウラン新燃料を受取検査後炉心に装荷するまで貯蔵する鉄筋コンクリート造の設備で、原子炉建物原子炉棟内に設け全炉心燃料の約35%を収納できる。燃料は堅固な構造のラックに垂直に入れ、乾燥状態で貯蔵する。新燃料貯蔵庫には水が充満するのを防止するための排水口を設ける。 なお、ウラン新燃料は発電所敷地内に仮貯蔵庫を設けて所定の保安上の措置を行った上、一時仮置することもある。 新燃料貯蔵ラックは、貯蔵燃料の臨界を防止するために必要な燃料間距離を保持し、たとえウラン新燃料を貯蔵容量最大で貯蔵した状態で、万一新燃料貯蔵庫が水で満たされる等の厳しい状態を仮定しても、実効増倍率を0.95以下に保つ。さらに実際には起こることは考えられないが、反応度が最も高くなるというような水分雰囲気で満たされる場合を仮定しても臨界未満とする。</p> <p>(3) 新燃料貯蔵庫 新燃料貯蔵庫は、発電所に到着したウラン新燃料を受取検査後炉心に装荷するまで貯蔵する鉄筋コンクリート造の設備で、原子炉建物原子炉棟内に設け全炉心燃料の約35%を収納できる。 <中略></p> <p>(4) 燃料プール</p>	<p>1. 燃料取扱設備 <中略> 使用済燃料の(1)-⑦発電所外への搬出には、使用済燃料輸送容器を使用する。使用済燃料はキャスク置場で使用済燃料輸送容器に収納し、キャスク除染設備で使用済燃料輸送容器の除染を行い発電所外へ搬出する。</p> <p>2. 燃料貯蔵設備 <中略> 新燃料貯蔵庫は、原子炉建物原子炉棟(2)(i) a.-①(二次格納施設)内の独立した区画に設け、新燃料を新燃料貯蔵ラックで貯蔵できる設計とする。 新燃料貯蔵庫は、鉄筋コンクリート造とし、想定されるいかなる状態においても新燃料が臨界に達することのない設計とする。 新燃料は、乾燥状態で保管し、堅固な構造のラックに垂直に入れ、新燃料貯蔵庫には水が充満するのを防止するための排水口を設ける設計とする。</p> <p>2. 燃料貯蔵設備 <中略> 新燃料貯蔵庫は、通常時の燃料取替を考慮し、適切な貯蔵能力を有し、全炉心燃料の約35%を収納できる設計とする。 <中略></p> <p>2. 燃料貯蔵設備 <中略></p>	<p>設計及び工事の計画の(1)-⑦は、設置変更許可申請（本文（五号））の(1)-⑦を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画(2)(i) a.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(2)(i) a.-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>燃料プールは、燃料体等を水中の(2)(ii)a.-①貯蔵ラックに入れて貯蔵する鉄筋コンクリート造、ステンレス鋼内張りの水槽であり、原子炉建物原子炉棟内に設ける。</p> <p>燃料プール(2)(ii)a.-②は、燃料体等の上部に十分な水深を確保する設計とするとともに、...</p> <p>(2)(ii)a.-③燃料プール水位、燃料プール水温、燃料プール上部の空間線量率及び燃料プール水の漏えいを監視する設備を設ける。</p>	<p>燃料プールは、原子炉建物原子炉棟内にあって、2号炉の全炉心燃料の約630%相当分の貯蔵が可能であり、さらに放射化された機器等の貯蔵及び取扱いができるスペースをもたせる。壁の厚さは遮蔽を考慮して十分とり、内面はステンレス鋼でライニングし漏えいを防止する。燃料プールの水深は約11.5mである。また、著しく破損した燃料体等は、燃料プール内の破損燃料貯蔵ラックに収納する。</p> <p><中略></p> <p>4.1.1.2 設計方針 (4) 遮蔽 燃料プール及び輸送容器置場の壁面及び底部は、コンクリート壁による遮蔽を施すとともに、使用済燃料及びウラン・プルトニウム混合酸化物（以下4.では「MOX」という。）新燃料の上部には十分な遮蔽効果を有する水深を確保する設計とする。</p> <p>4.1.1.4 主要設備 (4) 燃料プール <中略> 燃料プール水の漏えい又は崩壊熱の除去能力の喪失に至る状態を監視するため、燃料プール監視設備として、燃料プール水位、燃料プールライナドレン漏えい水位、燃料プール冷却ポンプ入口温度、燃料プール温度、燃料プール水位・温度（SA）、燃料取替階エリア放射線モニタ及び燃料取替階放射線モニタを設ける。</p>	<p>燃料プールは、原子炉建物原子炉棟(2)(ii)a.-①（二次格納施設）内に設け、燃料体等を水中の使用済燃料貯蔵ラックに垂直に一体ずつ入れて貯蔵し、使用済燃料貯蔵ラックは、中性子吸収材であるほう素を添加したステンレス鋼を使用するとともに適切な燃料間距離をとることにより、燃料を貯蔵容量最大で貯蔵し、かつ燃料プール水温及び使用済燃料貯蔵ラック内燃料貯蔵位置等について、想定されるいかなる場合でも実効増倍率を0.95以下に保ち、貯蔵燃料の臨界を防止できる設計とする。</p> <p>燃料プールは、鉄筋コンクリート造、ステンレス鋼内張りの水槽であり、燃料プールからの放射性物質を含む水があふれ、又は漏れない構造とする。</p> <p><中略> 使用済燃料は、使用済燃料貯蔵ラックに収納するが、使用済燃料貯蔵ラックに収納できないような破損燃料が生じた場合は、燃料プール水の放射能汚染拡大を防ぐため、燃料プール内の制御棒・破損燃料貯蔵ラックに収納できる設計とする。 使用済燃料を貯蔵する乾式キャスク（兼用キャスクを含む。）は保有しない。</p> <p>2. 燃料貯蔵設備 <中略> 燃料プール(2)(ii)a.-②及び輸送容器置場の壁面及び底部は、コンクリート壁による遮蔽を施すとともに、燃料体等の上部には十分な遮蔽効果を有する水深を確保することにより、燃料体等からの放射線に対して適切な遮蔽能力を有し、放射線業務従事者の被ばくを低減する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3. 計測装置等 燃料プールの水温を計測する装置として(2)(ii)a.-③a燃料プール温度、燃料プール冷却ポンプ入口温度及び燃料プール水位・温度（SA）を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。 燃料プールの水位を計測する装置として燃料プール水位及</p>	<p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-①は、設計変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-①を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画(2)(ii)a.-②は、設計変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-③a及び(2)(ii)a.-③bは、設置変更許可申請（本文（五号））(2)(ii)a.-③を具体的に記載して</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>燃料プールは、想定されるいかなる(2)(ii)a.-④状態においても燃料体等が臨界に達することのない設計とする。</p>	<p>(4) 燃料プール <中略></p> <p>使用済燃料貯蔵ラックは、中性子吸収材であるボロンを添加（1.00～1.75wt%）したステンレス鋼⁽¹⁾を使用するとともに適切な燃料間距離をとることにより、燃料体等を貯蔵容量最大で貯蔵し、かつ、燃料プール水温、使用済燃料貯蔵ラック内燃料位置等について、<u>想定されるいかなる場合でも実効増倍率を0.95以下に保ち、貯蔵燃料の臨界を防止する。</u></p>	<p>び燃料プールライナドレン漏えい水位を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、記録はプロセス計算機から帳票として出力し保存できる設計とする。</p> <p>燃料プールの水位を計測する装置として燃料プール水位・温度（S.A.）を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、当該発電用原子炉施設における各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するために、(2)(ii)a.-③b プロセスモニタリング設備、エリアモニタリング設備及び放射線サーベイ機器を設ける設計とする。</p> <p>出入管理関係設備（1，2号機共用）には、放射線業務従事者及び一時立入者の出入管理、汚染管理のための測定機器等を設ける設計とする。各系統の試料、放射性廃棄物の放出管理用試料及び環境試料の化学分析並びに放射能測定を行うため、試料分析関係設備（1，2，3号機共用）を設ける設計とする。</p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 燃料貯蔵設備 <中略></p> <p>燃料プールは、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内に設け、燃料体等を水中の使用済燃料貯蔵ラックに垂直に一体ずつ入れて貯蔵し、使用済燃料貯蔵ラックは、中性子吸収材であるほう素を添加したステンレス鋼を使用するとともに適切な燃料間距離をとることにより、燃料を貯蔵容量最大で貯蔵し、かつ燃料プール水温及び使用済燃料貯蔵ラック内燃料貯蔵位置等について、<u>想定されるいかなる(2)(ii)a.-④場</u></p>	<p>おり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-④を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、燃料プール(二)(ii)a.-⑤)のライニングは、燃料体等の取扱中に想定される燃料体等の落下時及び重量物の落下時においても燃料プールの機能を損なうような損傷を生じない設計とする。</p>	<p><中略></p> <p>4.1.1.2 設計方針</p> <p>(6) 構造強度</p> <p>燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備は、地震荷重等の適切な組合せを考慮しても強度上耐え得る設計とする。</p> <p>また、燃料プールのライニングは、燃料体等の取扱中に想定される燃料体等の落下時及び重量物の落下時においても燃料プールの機能を損なうような損傷を生じない設計とする。</p> <p>(7) 落下防止</p> <p>落下時に燃料プールの機能に影響を及ぼす重量物については、燃料プール周辺の状況、現場における作業実績、図面等にて確認することにより、落下時のエネルギーを評価し、気中落下試験時の模擬燃料集合体（チャンネル・ボックス含む。）の落下エネルギー（15.5kJ）以上となる設備等を抽出する。床面や壁面へ固定する設備等については、燃料プールからの離隔を確保するため、燃料プールへ落下するおそれはない。</p> <p>a. 原子炉建物原子炉棟</p> <p>原子炉建物原子炉棟の屋根を支持する屋根トラスは、基準地震動に対する発生応力が終局耐力を超えず、燃料プール内に落下しない設計とする。また、屋根については鋼板（デッキプレート）の上に鉄筋コンクリート造の床を設けた構造とし、地震による剥落のない構造とする。</p> <p>また、燃料取替階の床面より上部を構成する壁は、鉄筋コンクリート造の耐震壁であり、燃料取替階の床面より下部の耐震壁とあわせて基準地震動に対して燃料プール内へ落下しない設計とする。</p> <p>b. 燃料取替機</p> <p>燃料取替機は、基準地震動による地震荷重に対し、燃料取替機本体の健全性評価及び転倒落下防止評価を行い、燃料プールへの落下物とならないよう、以下を満足する設計とする。</p> <p>また、燃料取替機は、ワイヤロープの二重化、フック部の外れ止め及び動力電源喪失時の保持機能により、落</p>	<p>合でも実効増倍率を0.95以下に保ち、貯蔵燃料の臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>燃料プール(二)(ii)a.-⑤)は、内面にステンレス鋼内張りを施設することにより、燃料体等の取扱中に想定される燃料体等の落下及び重量物の落下により機能を失うような損傷が生じない設計とする。</p> <p>燃料体等の落下に関しては、模擬燃料体の気中落下試験（以下「落下試験」という。）での最大減肉量を考慮しても燃料プールの機能が損なわれない厚さ以上のステンレス鋼内張りを施設する。なお、使用済燃料輸送容器等に使用済燃料を収納する場合などは、落下試験での落下高さを超えるため、水の浮力を考慮することにより落下試験時の落下エネルギーを下回することを確認する。</p> <p>重量物の落下に関しては、燃料プール周辺の状況、現場における作業実績、図面等にて確認することにより、落下時のエネルギーを評価し、落下試験時の燃料体等の落下エネルギー以上となる設備等に対しては、以下のとおり適切な落下防止対策を施し、燃料プールの機能を維持する設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料プールからの離隔を確保できる重量物については、燃料プールへ落下するおそれがないよう、転倒等を仮定しても燃料プールに届かない距離に設置する。また、転倒防止のため床面や壁面へ固定する。 原子炉建物天井クレーンは、使用済燃料貯蔵ラック上を使用済燃料輸送容器等重量物を吊った状態で通過できないように可動範囲を制限するインターロックを設ける設計とする。 原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）の屋根を支持する屋根トラスは、基準地震動S_sに対する発生応力が終局耐力を超えず、燃料プール内に落下しない設計とする。また、屋根については鋼板（デッキプレート）の上に鉄筋コンクリート造の床を設けた構造とし、地震による剥落のない構造とする。 	<p>設計及び工事の計画の(二)(ii)a.-⑤)は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(二)(ii)a.-⑤)を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>下防止対策を講じた設計とする。</p> <p>(a) 燃料取替機本体の健全性評価においては、想定される使用条件において評価が保守的となるよう最大質量の吊荷を吊った状態を考慮し、基準地震動 S_s に対して燃料取替機本体（構造物フレーム）に発生する応力が許容応力以下であること。</p> <p>(b) 転倒落下防止評価においては、走行レール及び横行レール頭部を抱き込む構造をした燃料取替機のブリッジ及びトロリの脱線防止ラグについて、想定される使用条件において評価が保守的となるよう最大質量の吊荷を吊った状態を考慮し、基準地震動 S_s に対してブリッジ及びトロリの脱線防止ラグ及び取付ボルトに発生する応力が許容応力以下であること。</p> <p>(c) 走行レールの健全性評価においては、想定される使用条件において評価が保守的となるよう最大質量の吊荷を吊った状態を考慮し、基準地震動 S_s に対して走行レール及びアンカボルトに発生する応力が許容応力以下であること。</p> <p>c. 原子炉建物天井クレーン</p> <p>原子炉建物天井クレーンは、基準地震動による地震荷重に対し、クレーン本体の健全性評価及び転倒落下防止評価を行い、燃料プールへの落下物とならないよう、以下を満足する設計とする。</p> <p>また、原子炉建物天井クレーンは、ワイヤロープ二重化、フック部の外れ止め及び動力電源喪失時の保持機能により落下防止対策を施すとともに、使用済燃料輸送容器を吊った場合は、使用済燃料貯蔵ラック上を走行できない等のインターロックを設ける設計とする。</p> <p>さらに、重量物の移送時には、走行範囲を制限する措置を講ずることで、仮に吊荷が原子炉建物天井クレーンから落下したとしても、吊荷が燃料プールに落下しない設計とする。</p> <p>(a) 原子炉建物天井クレーン本体の健全性評価においては、想定される使用条件において評価が保守的となるよう最大質量の吊荷を吊った状態を考慮し、基準地震動 S_s に対してクレーン本体に発生する応力が許容応力以下であること。</p> <p>(b) 転倒落下防止評価においては、走行方向及び横行方</p>	<p>また、燃料取替階の床面より上部を構成する壁は、鉄筋コンクリート造の耐震壁であり、燃料取替階の床面より下部の耐震壁と合わせて基準地震動 S_s に対して燃料プール内に落下しない設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料取替機及び原子炉建物天井クレーンは、基準地震動 S_s による地震荷重に対し、燃料取替機本体及び原子炉建物天井クレーン本体の健全性評価及び転倒落下防止評価を行い、燃料プールへの落下物とならない設計とする。 ・燃料取替機本体及び原子炉建物天井クレーン本体の健全性評価においては、想定される使用条件において評価が保守的になるよう吊荷の条件を考慮し、基準地震動 S_s に対して燃料取替機本体（構造物フレーム）及びクレーン本体に発生する応力が許容応力以下となる設計とする。 ・燃料取替機の転倒落下防止評価においては、走行レール及び横行レール頭部を抱き込む構造をした燃料取替機のブリッジ及びトロリの脱線防止ラグについて、想定される使用条件において評価が保守的になるよう吊荷の条件を考慮し、地震時の各部発生応力が許容応力以下となる設計とする。 ・燃料取替機の走行レール及び横行レールの健全性評価においては、想定される使用条件において、基準地震動 S_s に対して走行レール及びアンカボルトに発生する応力が許容応力以下となる設計とする。 ・原子炉建物天井クレーンの転倒落下防止評価においては、走行方向及び横行方向に浮上り代を設けた構造をした原子炉建物天井クレーンの落下防止ラグ及びトロリストoppaについて、想定される使用条件において評価が保守的になるよう吊荷の条件を考慮し、地震時の各部発生応力が許容応力以下となる設計とする。 ・燃料プールからの離隔を確保できないその他の重量物については、基準地震動 S_s を考慮しても、地震時の各部発生応力が許容応力以下となる設計とすることで、燃料プールへの落下物とならない設計とする。 		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>燃料プールは、<u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プール水の小規模な漏えい</u>二(2)(ii)a.-⑥が発生した場合において、<u>燃料体等の貯蔵機能を確保する設計とする。</u></p> <p>燃料プールの冷却機能又は<u>二(2)(ii)a.-⑦</u>注水機能が喪失し、又は<u>二(2)(ii)a.-⑧</u>燃料プールからの水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が低下した場合及び燃料プールからの大量の水の漏えい<u>二(2)(ii)a.-⑨</u>その他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、<u>二(2)(ii)a.-⑩</u>臨界にならないよう配慮した使用済燃料貯蔵ラックの形状により臨界を防止できる設計とす</p>	<p>向に浮上り代を設けた構造をした原子炉建物天井クレーンの落下防止ラグ及びトロリストッパについて、想定される使用条件において評価が保守的となるよう最大質量の吊荷を吊った状態を考慮し、基準地震動S_sに対して落下防止ラグ及びトロリストッパに発生する応力が許容応力以下であること。</p> <p>4.1.2 重大事故等時 4.1.2.1 概要</p> <p>燃料プールは、<u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プール水の小規模な漏えい</u>が発生した場合において、<u>燃料の貯蔵機能を確保する設計とする。</u> <中略></p> <p>燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が低下した場合及び燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、<u>臨界にならないよう配慮した使用済燃料貯蔵ラックの形状により臨界を防止できる設計とする。</u></p>	<p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 4.2 燃料プールへの注水 4.2.1 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへの注水</p> <p><u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失若しくは残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えい</u>二(2)(ii)a.-⑥により燃料プールの水位が低下した場合に、<u>燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プールへ注水することにより、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</u></p> <p>また、燃料プールは、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持した状態において、燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）による冷却及び水位確保により燃料プールの機能を維持し、実効増倍率が最も高くなる冠水状態においても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。 <中略></p> <p>4.2.1 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへの注水</p> <p><u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失</u>二(2)(ii)a.-⑦a若しくは<u>残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は</u>二(2)(ii)a.-⑧a燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、<u>燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備</u></p>	<p>設計及び工事の計画二(2)(ii)a.-⑥は、設計変更許可申請書（本文（五号））の二(2)(ii)a.-⑥を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の二(2)(ii)a.-⑦a及び二(2)(ii)a.-⑦bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の二(2)(ii)a.-⑦を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>る。</p>		<p>として使用する燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プールへ注水することにより、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、燃料プールは、使用済燃料貯蔵ラックの形状を(2)(ii)a.-⑩a維持した状態において、燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による冷却及び水位確保により燃料プールの機能を維持し、実効増倍率が最も高くなる冠水状態においても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.2.2 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへの注水</p> <p>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は(2)(ii)a.-⑦b残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は(2)(ii)a.-⑧b燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プールへ注水することにより、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、燃料プールは、使用済燃料貯蔵ラックの形状(2)(ii)a.-⑩bを維持した状態において、燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による冷却及び水位確保により燃料プールの機能を維持し、実効増倍率が最も高くなる冠水状態においても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3.1 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい(2)(ii)a.-⑨a等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内の燃料体等の上部全面にスプレイすることによりできる限り環境への放</p>	<p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-⑧a及び(2)(ii)a.-⑧bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-⑧と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-⑨a及び(2)(ii)a.-⑨bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-⑨と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(2)(ii)a.-⑩a～(2)(ii)a.-⑩dは、設置変更許可申請書（本文（五号））の(2)(ii)a.-⑩を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プール内の燃料体等に直接スプレイすることにより、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できるよう、燃料プールの全面に向けてスプレイし、燃料プール内に貯蔵している燃料体等からの崩壊熱による蒸発量を上回る量をスプレイできる設計とする。</p> <p>燃料プールは、<u>ニ(2)(ii)a.-⑩c</u>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）にて、使用済燃料貯蔵ラック及び燃料体等を冷却し、臨界にならないように配慮したラック形状において、いかなる一様な水密度であっても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3.2 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい<u>ニ(2)(ii)a.-⑨b</u>より、燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内の燃料体等の上部全面にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により、代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プール内の燃料体等に直接スプレイすることにより、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できるよう燃料プールの全面に向けてスプレイし、燃料プール内に貯蔵している燃料体等からの崩壊熱による蒸発量を上回る量をスプレイできる設計とする。</p> <p>燃料プールは、<u>ニ(2)(ii)a.-⑩d</u>燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）にて、使用済燃料貯蔵ラック及び燃料体等を冷却し、臨界にならないように配慮したラック形状において、いかなる一様な水密度であっても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本文（十号） ニ(2)(ii)a. -⑪燃料プール等の主要機器の形状に関する条件は設計値を用いるものとする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・記載箇所 ハ(2)(ii)a. (b)(b-3)(b-3-1) 		<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 (要目表)</p> <p>3. 使用済燃料貯蔵設備に係る次の事項 (1) 使用済燃料貯蔵槽の名称、種類、容量、主要寸法、材料及び個数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>燃料プール</td> <td>燃料プール*1</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">容量</td> <td>燃料集合体</td> <td>3518</td> </tr> <tr> <td>制御棒本</td> <td>154*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主</td> <td>たて</td> <td>mm 14000*3, *4, *5</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm 13500*3, *4, *6</td> </tr> <tr> <td>深さ</td> <td>mm 12070*3, *7, *8, 9000*3, *9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">要</td> <td>ライニング材厚さ*10</td> <td>mm *11(6.0*3), *9(12.0*3)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">寸法</td> <td>*9, *12 東壁</td> <td>mm 2246*3</td> </tr> <tr> <td>西壁</td> <td>mm 2000*3</td> </tr> <tr> <td>南壁</td> <td>mm 2000*3</td> </tr> <tr> <td>北壁</td> <td>mm 2000*3</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>mm 2030*3, *7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ライニング材</td> <td>— SUS304</td> </tr> <tr> <td>壁・床*9</td> <td>— 鉄筋コンクリート*13</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>— 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プール冷却系、燃料プールのスプレイ系）と兼用 *2：制御棒・破損燃料貯蔵ラック1個にすべて制御棒（10本）を貯蔵した場合 *3：公称値を示す。 *4：燃料プール内のり *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「14.0m」と記載 *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「13.5m」と記載 *7：使用済燃料貯蔵ラック等据付エリア *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「12.1m」と記載 *9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内張り材厚さ(最小)」と記載 *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「」と記載 *12：ライニング材を含む厚さ *13：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類IV-2-5-3「燃料プール（キャスク置場を含む）の耐震性についての計算書」による。</p>			変更前	変更後	名	称	燃料プール	燃料プール*1	種	類	ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)	変更なし	容量	燃料集合体	3518	制御棒本	154*2	主	たて	mm 14000*3, *4, *5	横	mm 13500*3, *4, *6	深さ	mm 12070*3, *7, *8, 9000*3, *9	要	ライニング材厚さ*10	mm *11(6.0*3), *9(12.0*3)	寸法	*9, *12 東壁	mm 2246*3	西壁	mm 2000*3	南壁	mm 2000*3	北壁	mm 2000*3	床	mm 2030*3, *7	材料	ライニング材	— SUS304	壁・床*9	— 鉄筋コンクリート*13	個	数	— 1		
		変更前	変更後																																															
名	称	燃料プール	燃料プール*1																																															
種	類	ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)	変更なし																																															
容量	燃料集合体	3518																																																
	制御棒本	154*2																																																
主	たて	mm 14000*3, *4, *5																																																
	横	mm 13500*3, *4, *6																																																
	深さ	mm 12070*3, *7, *8, 9000*3, *9																																																
要	ライニング材厚さ*10	mm *11(6.0*3), *9(12.0*3)																																																
	寸法	*9, *12 東壁		mm 2246*3																																														
西壁		mm 2000*3																																																
南壁		mm 2000*3																																																
北壁		mm 2000*3																																																
床		mm 2030*3, *7																																																
材料	ライニング材	— SUS304																																																
	壁・床*9	— 鉄筋コンクリート*13																																																
個	数	— 1																																																
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 整合性 ・設置変更許可申請書（本文（十号））のニ(2)(ii)a. -⑪で使用している条件は、設計値を用いていることから、設計及び工事の計画の燃料プール等の主要機器の設計と整合している。 </div>																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 貯蔵能力</p> <p><u>全炉心燃料の約630%相当分（1号及び2号炉共用、既設）</u></p> <p>(3) 核燃料物質貯蔵用冷却設備の構造及び冷却能力 (i) 燃料プール冷却系</p> <p><u>燃料プール冷却系は、ニ(3)(i)-①ポンプ、熱交換器、ろ過脱塩装置等で構成し、使用済燃料及びMOX新燃料からの崩壊熱を除去するとともに、燃料プール水を浄化できる設計とする。さらに、全炉心燃料を取り出した場合ニ(3)(i)-②においても、残留熱除去系を併用して、燃料プール水の十分な冷却が可能設計とする。</u></p>	<p>第4.1-1表 燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備の主要仕様</p> <p>(1) 種類 ステンレス鋼内張りプール形（ラック貯蔵方式） (2) 貯蔵能力 2号炉全炉心の約630%相当分</p> <p>4.2 使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備 4.2.1 燃料プール冷却系（1号及び2号炉共用、既設） 4.2.1.1 概要</p> <p>燃料プール冷却系は、使用済燃料及びMOX新燃料からの崩壊熱を熱交換器で除去して燃料プール水を冷却するとともに、ろ過脱塩装置で燃料プール水をろ過脱塩して、燃料プール、原子炉ウェル及び気水分離器・蒸気乾燥器ピット水の純度、透明度を維持する。 燃料プール冷却系の系統概要図を第4.2-1図に示す。</p> <p>4.2.1.2 設計方針</p> <p>燃料プール冷却系は、燃料プール内に貯蔵する使用済燃料及びMOX新燃料からの崩壊熱を除去でき、かつ、燃料プールの水中及び水面上の不純物を除去できる設計とする。 燃料プール冷却系の能力以上の使用済燃料を燃料プールに貯蔵した場合、又は燃料プール冷却系の機能が喪失した場合等には、残留熱除去系を使用できる設計とする。 <中略></p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 燃料貯蔵設備 <中略> 燃料プールは、2号機の全炉心燃料の約630%相当分の貯蔵が可能であり、さらに放射化された機器等の貯蔵及び取扱いができるスペースを確保した設計とする。なお、通常運転中、全炉心の燃料体等を貯蔵できる容量を確保できる設計とする。 <中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 4.1 燃料プール冷却系による燃料プール水の冷却 燃料プールは、ニ(3)(i)-①燃料プール冷却ポンプ、燃料プール冷却系熱交換器、燃料プール冷却系ろ過脱塩装置等で構成する燃料プール冷却系を設け、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、使用済燃料からの崩壊熱を除去するとともに、燃料プール水を浄化できる設計とする。また、補給水ラインを設け、燃料プール水の補給が可能設計とする。 さらに、全炉心燃料を燃料プールに取り出した場合や燃料プール冷却系で燃料プール水の冷却ができない場合ニ(3)(i)-②は、残留熱除去系を用いて使用済燃料からの崩壊熱を除去できる設計とする。 <中略></p>	<p>設置許可変更申請書（本文）において許可を受けた「1号機との共用」について、本工事計画では申請しないため、本工事計画の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画ニ(3)(i)-①は、設計変更許可申請書（本文）（五号）のニ(3)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画ニ(3)(i)-②は、設計変更許可申請書（本文）（五号）のニ(3)(i)-②と同義であり、整合している。</p> <p>設置許可変更申請書（本文）において許可を受けた「MOX燃料」について、本工事計画では申請しないため、本工事計画の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、残留熱除去系を用いて、<u>ニ(3)(i)-③</u>燃料プール水の補給も可能な設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系及び残留熱除去系の熱交換器で除去した熱は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）を経て、<u>ニ(3)(i)-④</u>最終ヒートシンクである海へ輸送できる設計とする。</p>	<p>4.1 燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備</p> <p>4.1.1 通常運転時等</p> <p>4.1.1.2 設計方針</p> <p>(2) 非常用補給能力</p> <p>燃料プール水の補給に復水貯蔵タンク水が使用できない場合には、<u>残留熱除去系を用いてサプレッション・チェンバのプール水を補給できる設計とする。</u></p> <p>4.2 使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備</p> <p>4.2.1 燃料プール冷却系（1号及び2号炉共用，既設）</p> <p>4.2.1.4 主要設備</p> <p><中略></p> <p>燃料プール冷却系及び残留熱除去系の熱交換器で除去した熱は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）を経て、<u>最終的な熱の逃がし場である海へ輸送する。</u></p>	<p>2. 燃料貯蔵設備</p> <p><中略></p> <p><u>ニ(3)(i)-③</u>万一、燃料プールからの水の漏えいが発生し、かつ、燃料プール水の補給に復水貯蔵タンクの水が使用できない場合には、<u>残留熱除去系を用いてサプレッションチェンバのプール水を補給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.1 燃料プールスプレイ系による燃料プール水の冷却</p> <p><中略></p> <p>燃料プール冷却系熱交換器で除去した熱は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）を経て、<u>ニ(3)(i)-④a</u>最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.1 残留熱除去系</p> <p>4.1.5 燃料プール冷却</p> <p>全炉心燃料を燃料プールに取り出した場合や燃料プール冷却系で燃料プール水の冷却ができない場合は、残留熱除去系を用いて使用済燃料からの崩壊熱を除去できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系熱交換器で除去した熱は、<u>ニ(3)(i)-④b</u>原子炉補機冷却系及び原子炉補機海水系を経て、<u>最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ニ(3)(i)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ニ(3)(i)-③</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ニ(3)(i)-④a</u>及び<u>ニ(3)(i)-④b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ニ(3)(i)-④</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																		
<p>a. ニ(3)(i)-⑤ポンプ</p> <p>台数 <u>2</u></p> <p>容量 ニ(3)(i)-⑥約200m³/h/台</p>	<p>第4.2-1表 燃料プール冷却系主要仕様</p> <p>(2) <u>ポンプ</u></p> <p>台数 <u>2</u></p> <p>容量 <u>約200m³/h/台</u></p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項</p> <p>4.1 燃料プール冷却系</p> <p>(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名称</td> <td>燃料プール冷却ポンプ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>ターボ形</td> <td>ニ(3)(i)-⑤</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td>□以上^{*2}(128^{*3})</td> <td>ニ(3)(i)-⑥</td> </tr> <tr> <td>揚程^{*4}</td> <td>□以上^{*2}(88^{*3})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>1.37^{*5, *6}</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>66^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込内径^{*2}</td> <td>mm</td> <td>200.0^{*2}</td> </tr> <tr> <td>吐出内径^{*2}</td> <td>mm</td> <td>200.0^{*2}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td>□(20.0^{*2})</td> </tr> <tr> <td>たて^{*2}</td> <td>mm</td> <td>540^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">横^{*2}</td> <td>mm</td> <td>1000^{*3}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td>880^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td>□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー^{*2}</td> <td>□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>取付箇所</td> <td>A-燃料プール冷却ポンプ^{*1} (A-燃料プール冷却系)</td> <td>B-燃料プール冷却ポンプ^{*1} (B-燃料プール冷却系)</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL. 3050mm^{*2}</td> <td>原子炉建物 EL. 3050mm^{*2}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原動機</td> <td>種類</td> <td>誘導電動機</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>110^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取付箇所</td> <td>個数</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td></td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	名称	燃料プール冷却ポンプ		種類	ターボ形	ニ(3)(i)-⑤	容量 ^{*1}	□以上 ^{*2} (128 ^{*3})	ニ(3)(i)-⑥	揚程 ^{*4}	□以上 ^{*2} (88 ^{*3})		最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5, *6}	最高使用温度	℃	66 ^{*3}	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*2}	吐出内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*2}	ケーシング厚さ ^{*2}	mm	□(20.0 ^{*2})	たて ^{*2}	mm	540 ^{*2}	横 ^{*2}	mm	1000 ^{*3}		高さ ^{*2}	mm	880 ^{*3}	材料	ケーシング	□		ケーシングカバー ^{*2}	□		個数		2				変更前	変更後	ポンプ	取付箇所	A-燃料プール冷却ポンプ ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却ポンプ ^{*1} (B-燃料プール冷却系)	設置床	原子炉建物 EL. 3050mm ^{*2}	原子炉建物 EL. 3050mm ^{*2}	溢水防護上の区画番号			原動機	種類	誘導電動機		出力	kW/個	110 ^{*3}	取付箇所	個数		2	取付箇所		ポンプと同じ	<p>変更なし</p>	<p>変更なし</p>
		変更前	変更後																																																																																			
ポンプ	名称	燃料プール冷却ポンプ																																																																																				
	種類	ターボ形	ニ(3)(i)-⑤																																																																																			
	容量 ^{*1}	□以上 ^{*2} (128 ^{*3})	ニ(3)(i)-⑥																																																																																			
	揚程 ^{*4}	□以上 ^{*2} (88 ^{*3})																																																																																				
	最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5, *6}																																																																																			
	最高使用温度	℃	66 ^{*3}																																																																																			
	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*2}																																																																																		
		吐出内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*2}																																																																																		
		ケーシング厚さ ^{*2}	mm	□(20.0 ^{*2})																																																																																		
		たて ^{*2}	mm	540 ^{*2}																																																																																		
	横 ^{*2}	mm	1000 ^{*3}																																																																																			
		高さ ^{*2}	mm	880 ^{*3}																																																																																		
	材料	ケーシング	□																																																																																			
		ケーシングカバー ^{*2}	□																																																																																			
個数		2																																																																																				
		変更前	変更後																																																																																			
ポンプ	取付箇所	A-燃料プール冷却ポンプ ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却ポンプ ^{*1} (B-燃料プール冷却系)																																																																																			
	設置床	原子炉建物 EL. 3050mm ^{*2}	原子炉建物 EL. 3050mm ^{*2}																																																																																			
	溢水防護上の区画番号																																																																																					
原動機	種類	誘導電動機																																																																																				
	出力	kW/個	110 ^{*3}																																																																																			
取付箇所	個数		2																																																																																			
	取付箇所		ポンプと同じ																																																																																			
<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のニ(3)(i)-⑤は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(i)-⑤と同義であり、整合している。</p> <p>・設計及び工事の計画のニ(3)(i)-⑥は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(i)-⑥を詳細に記載しており、整合している。</p>																																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																								
b. ニ(3)(i)-⑦ 熱交換器 基数 <u>2</u>	(3) 熱交換器 基数 <u>2</u>	4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項 4.1 燃料プール冷却系 (1) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。）、最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。）、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 常設																																																																																										
整合性 ・設計及び工事の計画の ニ(3)(i)-⑦ は、設置変更許可申請書(本文(五号))の ニ(3)(i)-⑦ と同義であり、整合している。		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">名</td> <td style="text-align: center;">称</td> <td>燃料プール冷却系熱交換器</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">ニ(3)(i)-⑦</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">種</td> <td style="text-align: center;">類</td> <td>横置U字管式</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">容量（設計熱交換量）</td> <td style="text-align: center;">MW/個</td> <td style="text-align: center;">□以上*¹(1.88*²*³)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">管側</td> <td style="text-align: center;">最高使用圧力</td> <td style="text-align: center;">MPa</td> <td style="text-align: center;">1.37*²</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">最高使用温度</td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td style="text-align: center;">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">胴側</td> <td style="text-align: center;">最高使用圧力</td> <td style="text-align: center;">MPa</td> <td style="text-align: center;">1.37*²</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">最高使用温度</td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td style="text-align: center;">85</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">伝熱面積</td> <td style="text-align: center;">m²/個</td> <td style="text-align: center;">□以上*¹(□*³)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">主 要 寸 法</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">管</td> <td style="text-align: center;">胴内径*⁴</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">650*³</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">胴板厚さ*⁵</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□*⁶(9.0*³)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鏡板厚さ*⁷</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□*⁶(9.0*³)</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">側</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">鏡板の形状に係る寸法*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">650*³ (鏡板の中央部における内面の半径) 65*³ (すみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（管側入口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">165.2*³</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（管側入口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□(7.1*³)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（管側出口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">165.2*³</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（管側出口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□(7.1*³)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">フランジ厚さ*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">76.0*³</td> </tr> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">胴側</td> <td style="text-align: center;">胴内径*⁸</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">650*³</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">胴板厚さ*⁹</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□*⁶(9.0*³)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平板厚さ*¹⁰</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□*⁶(60.0*³)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（胴側入口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">216.3*³</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台厚さ（胴側入口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□(8.2*³)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管台外径（胴側出口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">216.3*³</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">管台厚さ（胴側出口）*⁶</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td style="text-align: center;">□(8.2*³)</td> </tr> </tbody> </table>					変 更 前	変 更 後	名	称	燃料プール冷却系熱交換器	ニ(3)(i)-⑦	種	類	横置U字管式	容量（設計熱交換量）		MW/個	□ 以上* ¹ (1.88* ² * ³)	管側	最高使用圧力	MPa	1.37* ²	最高使用温度	℃	66	胴側	最高使用圧力	MPa	1.37* ²	最高使用温度	℃	85	伝熱面積		m ² /個	□ 以上* ¹ (□ * ³)	主 要 寸 法	管	胴内径* ⁴	mm	650* ³	胴板厚さ* ⁵	mm	□ * ⁶ (9.0* ³)	鏡板厚さ* ⁷	mm	□ * ⁶ (9.0* ³)	側	鏡板の形状に係る寸法* ⁶		mm	650* ³ (鏡板の中央部における内面の半径) 65* ³ (すみの丸みの内半径)	管台外径（管側入口）* ⁶	mm	165.2* ³	管台厚さ（管側入口）* ⁶	mm	□ (7.1* ³)	管台外径（管側出口）* ⁶	mm	165.2* ³	管台厚さ（管側出口）* ⁶	mm	□ (7.1* ³)	フランジ厚さ* ⁶		mm	76.0* ³	胴側	胴内径* ⁸	mm	650* ³	胴板厚さ* ⁹	mm	□ * ⁶ (9.0* ³)	平板厚さ* ¹⁰	mm	□ * ⁶ (60.0* ³)	管台外径（胴側入口）* ⁶	mm	216.3* ³	管台厚さ（胴側入口）* ⁶	mm	□ (8.2* ³)	管台外径（胴側出口）* ⁶	mm	216.3* ³	管台厚さ（胴側出口）* ⁶		mm	□ (8.2* ³)
		変 更 前	変 更 後																																																																																									
名	称	燃料プール冷却系熱交換器	ニ(3)(i)-⑦																																																																																									
種	類	横置U字管式																																																																																										
容量（設計熱交換量）		MW/個	□ 以上* ¹ (1.88* ² * ³)																																																																																									
管側	最高使用圧力	MPa	1.37* ²																																																																																									
	最高使用温度	℃	66																																																																																									
胴側	最高使用圧力	MPa	1.37* ²																																																																																									
	最高使用温度	℃	85																																																																																									
伝熱面積		m ² /個	□ 以上* ¹ (□ * ³)																																																																																									
主 要 寸 法	管	胴内径* ⁴	mm	650* ³																																																																																								
		胴板厚さ* ⁵	mm	□ * ⁶ (9.0* ³)																																																																																								
		鏡板厚さ* ⁷	mm	□ * ⁶ (9.0* ³)																																																																																								
	側	鏡板の形状に係る寸法* ⁶		mm	650* ³ (鏡板の中央部における内面の半径) 65* ³ (すみの丸みの内半径)																																																																																							
		管台外径（管側入口）* ⁶	mm	165.2* ³																																																																																								
		管台厚さ（管側入口）* ⁶	mm	□ (7.1* ³)																																																																																								
		管台外径（管側出口）* ⁶	mm	165.2* ³																																																																																								
		管台厚さ（管側出口）* ⁶	mm	□ (7.1* ³)																																																																																								
		フランジ厚さ* ⁶		mm	76.0* ³																																																																																							
		胴側	胴内径* ⁸	mm	650* ³																																																																																							
胴板厚さ* ⁹	mm		□ * ⁶ (9.0* ³)																																																																																									
平板厚さ* ¹⁰	mm		□ * ⁶ (60.0* ³)																																																																																									
管台外径（胴側入口）* ⁶	mm		216.3* ³																																																																																									
管台厚さ（胴側入口）* ⁶	mm		□ (8.2* ³)																																																																																									
管台外径（胴側出口）* ⁶	mm		216.3* ³																																																																																									
管台厚さ（胴側出口）* ⁶		mm	□ (8.2* ³)																																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																												
		<p>(つづき)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>管板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*6}(65.0^{*3})</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>□^{*3}</td> </tr> <tr> <td>伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*6}(□^{*3})</td> </tr> <tr> <td>全長</td> <td>mm</td> <td>5154^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">材側</td> <td rowspan="3">銅板^{*11}</td> <td>鏡板^{*12}</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>フランジ^{*6}</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>銅板^{*13}</td> <td>—</td> <td>SM41A</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">銅側</td> <td>銅板^{*14}</td> <td>—</td> <td>SM41A</td> </tr> <tr> <td>管板</td> <td>—</td> <td>SM41A^{*15}</td> </tr> <tr> <td>伝熱管</td> <td>—</td> <td>SUS304TB</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>A-燃料プール冷却系熱交換器^{*1} (A-燃料プール冷却系)</td> <td>B-燃料プール冷却系熱交換器^{*1} (B-燃料プール冷却系)</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 3480mm^{*1}</td> <td>原子炉建物 EL 3480mm^{*1}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：S I 単位に換算したものである。 *3：公称値を示す。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室銅板厚さ」と記載 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の強度計算書」による。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「銅体内径」と記載 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「銅体銅板厚さ」と記載 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「銅体平板厚さ」と記載 *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室銅板」と記載 *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板」と記載 *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「銅体銅板」と記載 *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「銅体平板」と記載 *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A（管側ステンレス鋼クラッド）」と記載</p>			変更前		変更後	主要寸法	管板厚さ	mm	□ ^{*6} (65.0 ^{*3})	変更なし	伝熱管外径	mm	□ ^{*3}	伝熱管厚さ	mm	□ ^{*6} (□ ^{*3})	全長	mm	5154 ^{*3}	材側	銅板 ^{*11}	鏡板 ^{*12}	—	SUS304	フランジ ^{*6}	—	SUS304	銅板 ^{*13}	—	SM41A	銅側	銅板 ^{*14}	—	SM41A	管板	—	SM41A ^{*15}	伝熱管	—	SUS304TB	個数	—	2	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (B-燃料プール冷却系)	設置床	—	原子炉建物 EL 3480mm ^{*1}	原子炉建物 EL 3480mm ^{*1}	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—			
		変更前		変更後																																																												
主要寸法	管板厚さ	mm	□ ^{*6} (65.0 ^{*3})	変更なし																																																												
	伝熱管外径	mm	□ ^{*3}																																																													
	伝熱管厚さ	mm	□ ^{*6} (□ ^{*3})																																																													
	全長	mm	5154 ^{*3}																																																													
材側	銅板 ^{*11}	鏡板 ^{*12}	—		SUS304																																																											
		フランジ ^{*6}	—		SUS304																																																											
		銅板 ^{*13}	—		SM41A																																																											
	銅側	銅板 ^{*14}	—		SM41A																																																											
		管板	—		SM41A ^{*15}																																																											
	伝熱管	—	SUS304TB																																																													
	個数	—	2																																																													
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (B-燃料プール冷却系)																																																												
	設置床	—	原子炉建物 EL 3480mm ^{*1}	原子炉建物 EL 3480mm ^{*1}																																																												
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																													
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの水の漏えいその他の要因により当該燃料プールの水位が低下した場合において燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備^{ニ(3)(ii)-①}を設置及び保管する。</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合において、燃料プール内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備^{ニ(3)(ii)-②}を設置及び保管する。</p> <p>^{ニ(3)(ii)-③}燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの小規模な水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が低下した場合においても燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止できるよう燃料プールの水位を維持するための設備として、燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける。</p> <p>また、^{ニ(3)(ii)-④}燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により</p>	<p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>4.3.1 概要</p> <p>燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの水の漏えいその他の要因により当該燃料プールの水位が低下した場合において燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合において、燃料プール内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p><中略></p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの小規模な水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が低下した場合においても燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止できるよう燃料プールの水位を維持するための設備として、燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける。</p> <p>また、燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.2 燃料プールへの注水</p> <p>燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの水の漏えいその他の要因により当該燃料プールの水位が低下した場合において燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備^{ニ(3)(ii)-①}として燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3 燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合において、燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備^{ニ(3)(ii)-②}として燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.2 燃料プールへの注水</p> <p>燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料プールからの^{ニ(3)(ii)-③}水の漏えいその他の要因により当該燃料プールの水位が低下した場合において燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な重大事故等対処設備として燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3 燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により燃料プールの水位が異常に低下した場合において、燃料プール</p>	<p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-①}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-①}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-②}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-②}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-③}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-③}と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>より燃料プールの水位が異常に低下した場合においても燃料プール内燃料体等の著しい損傷を緩和し、及び臨界を防止するための設備として、燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける。</p> <p>燃料プールに接続する配管の破損等により、燃料プール冷却系戻り配管からサイフォン現象による水の漏えいが発生した場合に、漏えいの継続を防止^{ニ(3)(ii)-⑤}するため、燃料プール冷却系戻り配管の逆止弁にサイフォンブレイク配管を設ける。</p> <p>^{ニ(3)(ii)-⑥}燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プール内燃料体等の著しい損傷に至った場合において大気への放射性物質の拡散を抑制するための設備として原子炉建物放水設備を設ける。</p>	<p>プールの水位が異常に低下した場合においても燃料プール内燃料体等の著しい損傷を緩和し、及び臨界を防止するための設備として、燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける。</p> <p>燃料プールに接続する配管の破損等により、燃料プール冷却系戻り配管からサイフォン現象による水の漏えいが発生した場合に、漏えいの継続を防止するため、燃料プール冷却系戻り配管の逆止弁にサイフォンブレイク配管を設ける。</p> <p><中略></p> <p>4.1 燃料体等の取扱設備及び貯蔵設備 4.1.1 通常運転時等 4.1.1.2 設計方針 (5)漏えい防止、漏えい監視及び崩壊熱の除去能力の喪失に至る状態の監視 燃料プール水の漏えいを防止するため、燃料プール及び輸送容器置場には排水口を設けない設計とする。また、燃料プールに入る配管には逆止弁を設け、配管が破損しても、サイフォン効果により燃料プール水が流出しない設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備 4.3.2 設計方針 <中略></p> <p>燃料プールの冷却等のための設備のうち、燃料プール内燃料体等の著しい損傷に至った場合において大気への放射性物質の拡散を抑制するための設備として原子炉建物放水設備を設ける。</p>	<p>内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するため^{ニ(3)(ii)-④}に必要な重大事故等対処設備として燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.2 燃料プールへの注水 <中略></p> <p>燃料プールに接続する配管の破損等により、燃料プール冷却系戻り配管からサイフォン現象による水の漏えいが発生した場合に、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）4階における線量率が放射線被ばくを管理する上で定めた線量率を満足できるように、漏えいの継続を防止^{ニ(3)(ii)-⑤}し、燃料体等からの放射線の遮蔽に必要となる水位を維持するため、燃料プール冷却系戻り配管の逆止弁にサイフォンブレイク配管を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.6 燃料プール接続配管</p> <p>燃料プール水の漏えいを防止するため、燃料プールには排水口を設けない設計とし、燃料プールに接続された配管には逆止弁を設け、配管が破損しても、サイフォン現象により、燃料プール水が継続的に流出しない設計とする。</p> <p>4.4 発電所外への放射性物質の拡散抑制 4.4.1 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等による燃料プールの水位の異常な低下により、燃料プール内の燃料体等の著しい損傷に至った場合において、燃料損傷時にはできる限り^{ニ(3)(ii)-⑥}環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、原子炉建物放水設備を設ける設計と</p>	<p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-④}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-④}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-⑤}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-⑤}と同義であり、整理している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{ニ(3)(ii)-⑥}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{ニ(3)(ii)-⑥}と同義であり、整理してい</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ニ(3)(ii)-⑦燃料プールの冷却等のための設備のうち、<u>重大事故等時において、燃料プールの状態を監視するための設備として、燃料プールの監視設備を設ける。</u></p> <p>a. 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>(a) 燃料プール代替注水 (a-1) 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへの注水 <u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プ</u></p>	<p>燃料プールの冷却等のための設備のうち、<u>重大事故等時において、燃料プールの状態を監視するための設備として、燃料プールの監視設備を設ける。</u></p> <p>(1) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プール代替注水 (a) 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへの注水 <u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料</u></p>	<p>する。 <中略></p> <p>3. 計測装置等 <中略></p> <p><u>重大事故等時ニ(3)(ii)-⑦aの燃料プールの監視設備として、燃料プール水位・温度（SA）及び燃料プール水位（SA）を設け、想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</u></p> <p><u>燃料プール監視カメラ（SA）（個数1）は、想定される重大事故等時において赤外線機能により燃料プールの状態を監視できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 1.1.2 エリアモニタリング設備 <中略></p> <p><u>重大事故等時ニ(3)(ii)-⑦bの燃料プールの監視設備として、燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）及び燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ）（SA）を設け、想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 4.2 燃料プールへの注水 4.2.1 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへの注水 <u>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失若しくは残留熱除去ポンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プ</u></p>	<p>る。</p> <p>設計及び工事の計画のニ(3)(ii)-⑦a及びニ(3)(ii)-⑦bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のニ(3)(ii)-⑦を具体的に記載しており整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ルに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのプレイ系配管等を経由して常設プレイヘッドから燃料プールへ注水することで、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持し、(3)(ii)a.(a)(a-1)-①することにより臨界を防止できる設計とする。</p> <p>(3)(ii)a.(a)(a-1)-②燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）は、(3)(ii)a.(a)(a-1)-③代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p>	<p>プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）を使用する。</p> <p>燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）は、大量送水車、常設プレイヘッド、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのプレイ系配管等を経由して常設プレイヘッドから燃料プールへ注水することで、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持することにより臨界を防止できる設計とする。</p> <p>燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのプレイ系配管等を経由して常設プレイヘッドから燃料プールへ注水することにより、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、燃料プールは、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持し、(3)(ii)a.(a)(a-1)-①した状態において、燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）による冷却及び水位確保により燃料プールの機能を維持し、実効増倍率が最も高くなる冠水状態においても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>燃料プールのプレイ系（常設プレイヘッド）による燃料プールへの注水の流路として、設計基準対象施設である燃料プールを重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.9 水の供給設備 5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の(3)(ii)a.(a)(a-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(3)(ii)a.(a)(a-1)-①と同義であり、整理している。</p> <p>設計及び工事の計画の(3)(ii)a.(a)(a-1)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(3)(ii)a.(a)(a-1)-②を全て含んでおり、整合</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、<u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、</u>低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</u>の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p>	<p>る。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③a</u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>二(3)(ii)a.(a)(a-1)-②燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</u>の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大量送水車二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③bは、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な十分な量の二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③c水を供給するために必要な設備として、</u>大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車</u></p>	<p>している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③a～二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③c</u>は、設置変更許可申請書(本文(五号))の<u>二(3)(ii)a.(a)(a-1)-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>(a-2) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポン</p>	<p>4. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(1) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プール代替注水</p> <p>(a) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及びタンクローリにより補給できる設計とする。</p> <p>4.3.2.3 容量等</p> <p>燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及びタンクローリにより補給できる設計とする。</p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(1) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プール代替注水</p> <p>(b) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及びタンクローリにより補給できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポン</p>	<p>を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.2 燃料プールへの注水</p> <p>4.2.1 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>大量送水車は、想定される重大事故等において、燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な注水流量を有する設計とする。</p> <p>4.2.2 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p> <p>残留熱除去系（燃料プール冷却）及び燃料プール冷却系の有する燃料プールの冷却機能喪失又は残留熱除去ポン</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>プによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プールへ注水することで、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</u></p> <p>また、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持し(3)(ii)a.(a)(a-2)-①することにより臨界を防止できる設計とする。</p> <p>(3)(ii)a.(a)(a-2)-②燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、(3)(ii)a.(a)(a-2)-③代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p>	<p><u>ンプによる燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を使用する。</u></p> <p>燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車、可搬型スプレイノズル、ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、大量送水車により代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プールへ注水することで、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</p> <p>また、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持することにより臨界を防止できる設計とする。</p> <p>燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p><u>る燃料プールへの補給機能が喪失し、又は燃料プールに接続する配管の破損等により燃料プール水の小規模な漏えいにより燃料プールの水位が低下した場合に、燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プールへ注水することにより、燃料プールの水位を維持できる設計とする。</u></p> <p>また、燃料プールは、使用済燃料貯蔵ラックの形状を維持し(3)(ii)a.(a)(a-2)-①した状態において、燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による冷却及び水位確保により燃料プールの機能を維持し、実効増倍率が最も高くなる冠水状態においても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.9 水の供給設備 5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯</p>	<p>設計及び工事の計画の(3)(ii)a.(a)(a-2)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(3)(ii)a.(a)(a-2)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(3)(ii)a.(a)(a-2)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(3)(ii)a.(a)(a-2)-②を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(3)(ii)a.(a)(a-2)-③a</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、<u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、</u> 低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p> <p>4. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(1) 燃料プールの冷却機能若しくは注水機能の喪失時又は燃料プール水の小規模な漏えい発生時に用いる設備</p>	<p>水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>ニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-③a</u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>ニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-②</u>燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大量送水車ニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-③b</u>は、<u>海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な十分な量のニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-③c</u>水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.2 燃料プールへの注水</p>	<p>～ <u>ニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-③c</u></p> <p>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ニ(3)(ii)a.(a)(a-2)-③</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>b. 燃料プールからの大量の水の漏えい発生時に用いる設備</p> <p>(a) 燃料プールのスプレイ</p> <p>(a-1) 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内燃料体等の上部全面</p>	<p>a. 燃料プール代替注水</p> <p>(b) 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへの注水</p> <p><中略></p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及びタンクローリにより補給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3.2.3 容量等</p> <p><中略></p> <p>燃料プール冷却系で使用する原子炉補機代替冷却系の移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車は、想定される重大事故等時において、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を除去するために屋外の接続口を使用する場合は、必要な伝熱容量及びポンプ流量を有する移動式代替熱交換設備1セット1台と大型送水ポンプ車1セット1台を使用する。また、屋内の接続口を使用する場合は、大型送水ポンプ車1セット1台を使用する。移動式代替熱交換設備の保有数は、2セット2台に加えて、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1台の合計3台を保管する。大型送水ポンプ車の保有数は、2セット2台に加えて、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1台の合計3台を保管する。</p> <p><中略></p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(2) 燃料プールからの大量の水の漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プールのスプレイ</p> <p>(a) 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内燃料体等の上部</p>	<p>4.2.2 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへの注水</p> <p><中略></p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>大量送水車は、想定される重大事故等時において、燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な注水流量を有する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3 燃料プールへのスプレイ</p> <p>4.3.1 燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内の燃料体等の上部全面にスプレ</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プール内燃料体等に直接スプレイすることで、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できる設計とする。</p> <p>また、<u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-①</u>スプレイや蒸気条件下でも臨界にならないよう配慮したラック形状によって、臨界を防止することができる設計とする。</p> <p><u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-②</u>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、<u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-③</u>代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p>	<p>全面にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）を使用する。</p> <p>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車、常設スプレイヘッド、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プール内燃料体等に直接スプレイすることで、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できる設計とする。</p> <p>また、スプレイや蒸気条件下でも臨界にならないよう配慮したラック形状によって、臨界を防止することができる設計とする。</p> <p>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p>	<p>いすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）は、大量送水車により、代替淡水源の水を燃料プールのスプレイ系配管等を経由して常設スプレイヘッドから燃料プール内の燃料体等に直接スプレイすることにより、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できるよう、燃料プールの全面に向けてスプレイし、燃料プール内に貯蔵している燃料体等からの崩壊熱による蒸発量を上回る量をスプレイできる設計とする。</p> <p><u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-①</u>燃料プールは、燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）にて、使用済燃料貯蔵ラック及び燃料体等を冷却し、臨界にならないよう配慮したラック形状において、いかなる一様な水密度であっても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイの流路として、設計基準対象施設である燃料プールを重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.9 水の供給設備 5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とす</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-①</u> を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-②</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-1)-②</u> を全て含んでおり、整合</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、<u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、</u>低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</u>の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p>	<p>る。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③a</u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>二(3)(ii)b.(a)(a-1)-②</u>燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大量送水車二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③bは、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な十分な量の二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③c</u>水を供給するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車</u></p>	<p>している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③a～二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③c</u>は、設置変更許可申請書(本文(五号))の<u>二(3)(ii)b.(a)(a-1)-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>(a-2) 燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内燃料体等の上部全面にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により、代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プール内燃料体等に直接スプレイすることで、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できる設計とする。</p> <p>また、<u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-①</u>スプレイや蒸気条件下でも臨界にならないよう配慮したラック形状によって、臨界</p>	<p>4. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(2) 燃料プールからの大量の水の漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プールスプレイ</p> <p>(a) 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p><中略></p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は、燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及びタンクローリにより補給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(b) 燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内燃料体等の上部全面にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を使用する。</p> <p>燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車、可搬型スプレイノズル、ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、大量送水車により、代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プール内燃料体等に直接スプレイすることで、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できる設計とする。</p> <p>また、スプレイや蒸気条件下でも臨界にならないよう配慮したラック形状によって、臨界を防止することがで</p>	<p>を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.3 燃料プールへのスプレイ</p> <p>4.3.1 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）による燃料プールへのスプレイ</p> <p><中略></p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.3.2 燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位が異常に低下した場合に、燃料損傷を緩和するとともに、燃料損傷時には燃料プール内の燃料体等の上部全面にスプレイすることによりできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として使用する燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）は、大量送水車により、代替淡水源の水をホース等を経由して可搬型スプレイノズルから燃料プール内の燃料体等に直接スプレイすることにより、燃料損傷を緩和するとともに、環境への放射性物質の放出をできる限り低減できるよう燃料プールの全面に向けてスプレイし、燃料プール内に貯蔵している燃料体等からの崩壊熱による蒸発量を上回る量をスプレイできる設計とする。</p> <p><u>ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-①</u>燃料プールは、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）にて、使用済燃料貯蔵ラック</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>ニ</u></p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>を防止することができる設計とする。</p> <p>ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-②燃料プールのスプレイ系(可搬型スプレイノズル)は、ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-③代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p>	<p>きる設計とする。</p> <p>燃料プールのスプレイ系(可搬型スプレイノズル)は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。〈中略〉</p> <p>5. 原子炉冷却系統施設 5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備 5.7.2 設計方針 e. 海を水源とした場合に用いる設備 想定される重大事故等時において、淡水が枯渇した場</p>	<p>及び燃料体等を冷却し、臨界にならないように配慮したラック形状において、いかなる一様な水密度であっても実効増倍率は不確定性を含めて0.95以下で臨界を防止できる設計とする。</p> <p>〈中略〉</p> <p>燃料プールのスプレイ系(可搬型スプレイノズル)による燃料プールへのスプレイの流路として、設計基準対象施設である燃料プールを重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉冷却系統(蒸気タービンを除く)】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.9 水の供給設備 5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p>〈中略〉</p> <p>(5) 海からの水の供給 海は、想定される重大事故等時において、ニ(3)(ii)b.(a)(a</p>	<p>ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-①は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-②は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-②を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-③a~ニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-③cは、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p> <p>4. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>4.3 燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>4.3.2 設計方針</p> <p>(2) 燃料プールからの大量の水の漏えい発生時に用いる設備</p> <p>a. 燃料プールのスプレイ</p> <p>(b) 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p><中略></p> <p>また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>-2)-③a)淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段であるニ(3)(ii)b.(a)(a-2)-②)燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p>大量送水車(3)(ii)a.(a)(a-2)-③b)は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要な十分な量の(3)(ii)a.(a)(a-2)-③c)水を供給するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備</p> <p>4.3 燃料プールへのスプレイ</p> <p>4.3.2 燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）による燃料プールへのスプレイ</p> <p><中略></p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b) 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p>(b-1) 原子炉建物放水設備による大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p><u>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位の異常な低下により、燃料プール内燃料体等の著しい損傷に至った場合において、燃料損傷時にはできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、原子炉建物放水設備は、大型送水ポンプ車により海水をホースを経由して放水砲から原子炉建物へ放水することで、環境への放射性物質の放出を可能な限り低減できる設計とする。</u></p> <p>本系統の詳細については、リ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備に記載する。</p> <p>c. 重大事故等時の燃料プールの監視に用いる設備</p> <p>(a) 燃料プールの監視設備による燃料プールの状態監視</p> <p><u>燃料プールの監視設備として、燃料プール水位・温度（SA）、燃料プール水位（SA）、二(3)(ii)c.(a)-①燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）は、想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</u></p> <p>また、燃料プール監視カメラ（SA）は、想定される重大事故等時の燃料プールの状態を監視できる設計とする。</p> <p>燃料プール水位（SA）及び燃料プール監視カメラ用冷却設備は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から、燃料プール水位・温度（SA）、二(3)(ii)c.(a)-①燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）</p>	<p>b. 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p>(a) 原子炉建物放水設備による大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p><u>燃料プールからの大量の水の漏えい等により燃料プールの水位の異常な低下により、燃料プール内燃料体等の著しい損傷に至った場合において、燃料損傷時にはできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、原子炉建物放水設備を使用する。</u></p> <p>原子炉建物放水設備は、大型送水ポンプ車、放水砲、ホースで構成し、大型送水ポンプ車により海水をホースを経由して放水砲から原子炉建物へ放水することで、環境への放射性物質の放出を可能な限り低減できる設計とする。</p> <p>本系統の詳細については、「9.7 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備」に記載する。</p> <p>(3) 重大事故等時の燃料プールの監視に用いる設備</p> <p>a. 燃料プールの監視設備による燃料プールの状態監視</p> <p><u>燃料プールの監視設備として、燃料プール水位・温度（SA）、燃料プール水位（SA）、燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）及び燃料プール監視カメラ（SA）（燃料プール監視カメラ用冷却設備を含む。）を使用する。</u></p> <p><u>燃料プール水位・温度（SA）、燃料プール水位（SA）及び燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）は、想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</u></p> <p>また、燃料プール監視カメラ（SA）は、想定される重大事故等時の燃料プールの状態を監視できる設計とする。</p> <p>燃料プール水位（SA）及び燃料プール監視カメラ用冷却設備は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から、燃料プール水位・温度（SA）、燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）及</p>	<p>4.4 発電所外への放射性物質の拡散抑制</p> <p>4.4.1 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p><u>燃料プールからの大量の水の漏えい等による燃料プールの水位の異常な低下により、燃料プール内の燃料体等の著しい損傷に至った場合において、燃料損傷時にはできる限り環境への放射性物質の放出を低減するための重大事故等対処設備として、原子炉建物放水設備を設ける設計とする。</u></p> <p>原子炉建物放水設備は、大型送水ポンプ車により海水を取水し、ホースを経由して放水砲から原子炉建物へ放水することにより、環境への放射性物質の放出を可能な限り低減できる設計とする。</p> <p>大型送水ポンプ車及び放水砲は、設置場所を任意に設定し、複数の方向から原子炉建物に向けて放水できる設計とする。</p> <p>3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p>重大事故等時の燃料プールの監視設備として、燃料プール水位・温度（SA）及び燃料プール水位（SA）を設け、想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ（SA）（個数1）は、想定される重大事故等時において赤外線機能により燃料プールの状態を監視できる設計とする。</p> <p>燃料プール水位（SA）は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール水位・温度（SA）は、二(3)(ii)c.(a)-②a所内常設蓄電式直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「リ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画の二(3)(ii)c.(a)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の二(3)(ii)c.(a)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の二(3)(ii)c.(a)-②a～</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(S A) 及び燃料プール監視カメラ (S A) は、<u>ニ(3)(ii)c.(a)-②</u>所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>d. 燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための設備 (a) 燃料プール冷却系による燃料プールの除熱</p> <p>燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プール冷却系</p>	<p>び燃料プール監視カメラ (S A) は、<u>所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>(4) 燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための設備 a. 燃料プール冷却系による燃料プールの除熱</p> <p>燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための重大事故等対処設備として、燃料プール冷却系</p>	<p>が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ (S A) は、<u>ニ(3)(ii)c.(a)-②b</u>常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ (S A) の耐環境性向上のため、燃料プール監視カメラ用冷却設備 (個数 1, 容量 250ℓ/min 以上) を設ける設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ用冷却設備は、<u>常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</u></p> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 第 2 章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 1.1.2 エリアモニタリング設備 <中略></p> <p>重大事故等時の燃料プールの監視設備として、<u>ニ(3)(ii)c.(a)-①</u>燃料プールエリア放射線モニタ (低レンジ) (S A) 及び燃料プールエリア放射線モニタ (高レンジ) (S A) を設け、<u>想定される重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定可能な設計とする。</u></p> <p><u>ニ(3)(ii)c.(a)-①</u>燃料プールエリア放射線モニタ (低レンジ) (S A) 及び燃料プールエリア放射線モニタ (高レンジ) (S A) は、<u>ニ(3)(ii)c.(a)-②c</u>常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 (基本設計方針) 第 2 章 個別項目 4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 4.1 燃料プールスプレイ系による燃料プール水の冷却 <中略></p> <p>燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための重大事故等対処設備として使用する燃料プール冷却系</p>	<p><u>ニ(3)(ii)c.(a)-②c</u>は、設置変更許可申請書(本文(五号))の<u>ニ(3)(ii)c.(a)-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>は、燃料プールの水を二(3)(ii)d.(a)-①ポンプにより熱交換器等を経由して循環させることで、燃料プールを冷却できる設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系は、非常用交流電源設備及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）が機能喪失した場合でも、常設代替交流電源設備及び原子炉補機代替冷却系を用いて、燃料プールを除熱できる設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系で使用する原子炉補機代替冷却系は、移動式代替熱交換設備を屋外の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p>また、屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p>	<p>を使用する。</p> <p>燃料プール冷却系は、ポンプ、熱交換器、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、燃料プールの水をポンプにより熱交換器等を経由して循環させることで、燃料プールを冷却できる設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系は、非常用交流電源設備及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）が機能喪失した場合でも、常設代替交流電源設備及び原子炉補機代替冷却系を用いて、燃料プールを除熱できる設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系で使用する原子炉補機代替冷却系は、移動式代替熱交換設備淡水ポンプ及び熱交換器を搭載した移動式代替熱交換設備、大型送水ポンプ車、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、移動式代替熱交換設備を屋外の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p>また、屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>燃料プール冷却系の流路として、配管、弁、スキマ・サージ・タンク及びディフューザを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>原子炉補機代替冷却系の流路として、原子炉補機冷却系の配管、弁及びサージタンク並びにホースを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>その他、設計基準対象施設である燃料プール並びに設</p>	<p>は、燃料プール冷却ポンプ、燃料プール冷却系熱交換器、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、燃料プールの水を二(3)(ii)d.(a)-①燃料プール冷却ポンプにより燃料プール冷却系熱交換器等を経由して循環させることで、燃料プールを冷却できる設計とする。</p> <p>燃料プール冷却系は、非常用ディーゼル発電設備及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）が機能喪失した場合でも、常設代替交流電源設備及び原子炉補機代替冷却系を用いて、燃料プールを除熱できる設計とする。</p> <p>【原子炉冷却系統（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.3 原子炉補機代替冷却系</p> <p><中略></p> <p>燃料プール冷却系で使用する原子炉補機代替冷却系は、移動式代替熱交換設備を屋外の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で除去した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p>屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、燃料プール冷却系熱交換器等で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p> <p>移動式代替熱交換設備は、常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大型送水ポンプ車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の二(3)(ii)d.(a)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の二(3)(ii)d.(a)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																									
<p>常設代替交流電源設備...可搬型代替交流電源設備...所内常設蓄電式直流電源設備...常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備については、ス... (2)... (iv) 代替電源設備に記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備] 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）</p> <p>ニ(3)(ii)d.-①常設スプレイヘッド 数量 1</p>	<p>計基準事故対処設備である非常用取水設備の取水口、取水管及び取水槽を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p><中略></p> <p>常設代替交流電源設備...可搬型代替交流電源設備...所内常設蓄電式直流電源設備...常設代替直流電源設備...可搬型直流電源設備...代替所内電気設備及び燃料補給設備については、「10.2 代替電源設備」に記載する。</p> <p>第4.3-1表 燃料プールの冷却等のための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</p> <p>c...常設スプレイヘッド 数量 1</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （要目表）</p> <p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項</p> <p>4.2 燃料プールスプレイ系</p> <p>(8) 主配管（スプレイヘッドを含む。）の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。）</p> <table border="1" data-bbox="1668 869 2792 1260"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名</th> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）接続口（南）及び（西） ～ 燃料プールスプレイ系</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>165.2</td> <td>7.1</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP*3</td> </tr> <tr> <td>/114.3</td> <td>/6.0</td> <td></td> <td>114.3*3</td> <td>6.0*3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">燃料プールスプレイ系</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td>/114.3</td> <td>/6.0</td> <td></td> <td>/114.3</td> <td>/6.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">燃料プールスプレイ系</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP*2</td> </tr> <tr> <td>/114.3</td> <td>/6.0</td> <td></td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">燃料プールスプレイ系</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="2">2.45*2</td> <td rowspan="2">66*2</td> <td>114.3</td> <td>6.0</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td>/114.3</td> <td>/6.0</td> <td></td> <td>114.3*3</td> <td>6.0*3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ニ(3)(ii)d.-①</p>	名	変更前					変更後					最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）接続口（南）及び（西） ～ 燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	165.2	7.1	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP*3	/114.3	/6.0		114.3*3	6.0*3		燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	/114.3	/6.0		/114.3	/6.0		燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP*2	/114.3	/6.0		114.3	6.0	SUS304	燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	/114.3	/6.0		114.3*3	6.0*3		<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のニ(3)(ii)d.-①と同義であり、整合している。</p>	
名	変更前					変更後																																																																																							
	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料																																																																																			
燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）接続口（南）及び（西） ～ 燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	165.2	7.1	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP*3																																																																																			
			/114.3	/6.0				114.3*3	6.0*3																																																																																				
	燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP																																																																																		
				/114.3	/6.0				/114.3	/6.0																																																																																			
	燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP*2																																																																																		
				/114.3	/6.0				114.3	6.0	SUS304																																																																																		
	燃料プールスプレイ系	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP	2.45*2	66*2	114.3	6.0	SUS304TP																																																																																		
				/114.3	/6.0				114.3*3	6.0*3																																																																																			

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																		
<p>燃料プール監視設備 燃料プール水位・温度（SA）</p> <p>≡(3)(ii)d.-② (へ 計測制御系統施設の構造及び設備と兼用)...</p> <p>個 数 1</p> <p>燃料プール水位（SA）</p> <p>≡(3)(ii)d.-② (へ 計測制御系統施設の構造及び設備と兼用)...</p> <p>個 数 1</p>	<p>(3) 燃料プール監視設備</p> <p>a. 燃料プール水位・温度（SA）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり...</p> <ul style="list-style-type: none"> 計装設備（重大事故等対処設備） <p>個 数 1（検出点7箇所）</p> <p>計測範囲 水位 -1,000～6,710mm^{*1} （E L. 34, 518mm～E L. 42, 228mm）</p> <p>温度 0～150℃</p> <p>※1：基準点は使用済燃料貯蔵ラック上端（E L. 35, 518mm）</p> <p>b. 燃料プール水位（SA）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり...</p> <ul style="list-style-type: none"> 計装設備（重大事故等対処設備） <p>個 数 1</p> <p>計測範囲 -4.30～7.30m^{*2}（E L. 31, 218mm～E L. 42, 818mm）</p> <p>※2：基準点は使用済燃料貯蔵ラック上端（E L. 35, 518mm）</p>	<p>3. 使用済燃料貯蔵設備に係る次の事項</p> <p>(8) 使用済燃料貯蔵槽の温度、水位及び漏えいを監視する装置の名称、種類、計測範囲、取付箇所及び個数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>計測範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>計測範囲</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">燃料プール温度^{*1}</td> <td rowspan="3">熱電対</td> <td rowspan="3">0～150℃</td> <td rowspan="3">—</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 42800mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>R-4F-01-1N</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">EL 42800mm 以上</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">燃料プール冷却ポンプ入口温度^{*1}</td> <td rowspan="3">熱電対</td> <td rowspan="3">0～150℃</td> <td rowspan="3">—</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>燃料プール冷却ポンプ入口温度 (燃料プール冷却系)</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 30500mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">燃料プール水位・温度 (SA)</td> <td rowspan="2">熱電対</td> <td rowspan="2">水位： -1000～6710mm^{*1}</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 42800mm</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>温度： 0～150℃</td> <td colspan="2">—</td> <td>1^{*3}</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>計測範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>計測範囲</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">燃料プール水位^{*1}</td> <td rowspan="3">フロート式水位検出器</td> <td rowspan="3">-210～+60mm^{*1}</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 42800mm</td> </tr> <tr> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>変更なし</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">R-4F-01-1N</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">EL 42800mm 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">燃料プール水位 (SA)</td> <td rowspan="3">ガイドバール式水位検出器</td> <td rowspan="3">-4.30～+7.30m^{*2}</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 42800mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">燃料プールラインドレン漏えい水位^{*1}</td> <td rowspan="3">フロート式水位検出器</td> <td rowspan="3">+400mm^{*1}</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 30500mm</td> </tr> <tr> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>変更なし</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：本設備は既存の設備である。 *2：基準点は、使用済燃料貯蔵ラック上端（EL 35518mm）とする。 *3：検出点7箇所 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>	変更前				変更後				名称	種類	計測範囲	取付箇所	名称	種類	計測範囲	取付箇所	燃料プール温度 ^{*1}	熱電対	0～150℃	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	設置床	原子炉建物 EL 42800mm	溢水防護上の区画番号	R-4F-01-1N					溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 42800mm 以上		1	燃料プール冷却ポンプ入口温度 ^{*1}	熱電対	0～150℃	—	系統名 (ライン名)	燃料プール冷却ポンプ入口温度 (燃料プール冷却系)	—	—	設置床	原子炉建物 EL 30500mm	溢水防護上の区画番号	—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		1	燃料プール水位・温度 (SA)	熱電対	水位： -1000～6710mm ^{*1}	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	設置床	原子炉建物 EL 42800mm					温度： 0～150℃	—		1 ^{*3}					溢水防護上の区画番号	—		—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		—	変更前				変更後				名称	種類	計測範囲	取付箇所	名称	種類	計測範囲	取付箇所	燃料プール水位 ^{*1}	フロート式水位検出器	-210～+60mm ^{*1}	系統名 (ライン名)	—	—	—	—	設置床	原子炉建物 EL 42800mm	—						変更なし	変更なし		1					溢水防護上の区画番号	R-4F-01-1N						溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 42800mm 以上		燃料プール水位 (SA)	ガイドバール式水位検出器	-4.30～+7.30m ^{*2}	系統名 (ライン名)	—	—	—	—	設置床	原子炉建物 EL 42800mm	溢水防護上の区画番号	—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		1	燃料プールラインドレン漏えい水位 ^{*1}	フロート式水位検出器	+400mm ^{*1}	系統名 (ライン名)	—	—	—	—	設置床	原子炉建物 EL 30500mm	—						変更なし	変更なし		1					溢水防護上の区画番号	—						溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			
変更前				変更後																																																																																																																																																																																																		
名称	種類	計測範囲	取付箇所	名称	種類	計測範囲	取付箇所																																																																																																																																																																																															
燃料プール温度 ^{*1}	熱電対	0～150℃	—	系統名 (ライン名)	—	—	—																																																																																																																																																																																															
				設置床	原子炉建物 EL 42800mm																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の区画番号	R-4F-01-1N																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 42800mm 以上		1																																																																																																																																																																																															
燃料プール冷却ポンプ入口温度 ^{*1}	熱電対	0～150℃	—	系統名 (ライン名)	燃料プール冷却ポンプ入口温度 (燃料プール冷却系)	—		—																																																																																																																																																																																														
				設置床	原子炉建物 EL 30500mm																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		1																																																																																																																																																																																															
燃料プール水位・温度 (SA)	熱電対	水位： -1000～6710mm ^{*1}	—	系統名 (ライン名)	—	—		—																																																																																																																																																																																														
				設置床	原子炉建物 EL 42800mm																																																																																																																																																																																																	
				温度： 0～150℃	—		1 ^{*3}																																																																																																																																																																																															
				溢水防護上の区画番号	—		—																																																																																																																																																																																															
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		—																																																																																																																																																																																															
変更前				変更後																																																																																																																																																																																																		
名称	種類	計測範囲	取付箇所	名称	種類	計測範囲	取付箇所																																																																																																																																																																																															
燃料プール水位 ^{*1}	フロート式水位検出器	-210～+60mm ^{*1}	系統名 (ライン名)	—	—	—	—																																																																																																																																																																																															
			設置床	原子炉建物 EL 42800mm																																																																																																																																																																																																		
			—																																																																																																																																																																																																			
				変更なし	変更なし		1																																																																																																																																																																																															
				溢水防護上の区画番号	R-4F-01-1N																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 42800mm 以上																																																																																																																																																																																																	
燃料プール水位 (SA)	ガイドバール式水位検出器	-4.30～+7.30m ^{*2}	系統名 (ライン名)	—	—	—	—																																																																																																																																																																																															
			設置床	原子炉建物 EL 42800mm																																																																																																																																																																																																		
			溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																																																																		
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		1																																																																																																																																																																																															
燃料プールラインドレン漏えい水位 ^{*1}	フロート式水位検出器	+400mm ^{*1}	系統名 (ライン名)	—	—	—		—																																																																																																																																																																																														
			設置床	原子炉建物 EL 30500mm																																																																																																																																																																																																		
			—																																																																																																																																																																																																			
				変更なし	変更なし		1																																																																																																																																																																																															
				溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																																																																	
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																																																																	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>整合性</p> <p>・「燃料プール水位・温度（SA）」及び「燃料プール水位（SA）」は、設置変更許可申請書(本文(五号))における ≡(3)(ii)d.-② を設計及び工事の計画の「核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設」のうち「使用済燃料貯蔵設備」に整理しており、整合している。</p> </div>																																																																																																																																																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																		
<p>ニ(3)(ii)d.-③燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）</p> <p>ニ(3)(ii)d.-④（チ、(1)、(iii)放射線監視設備他と兼用）</p>	<p>第8.1-2表 放射線管理設備（重大事故等時）の主要機器仕様</p> <p>(3) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>a. 燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 ・計装設備（重大事故等対処設備） <p><中略></p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>1. 放射線管理用計測装置に係る次の事項（警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。）</p> <p>(つづき)</p> <table border="1" data-bbox="1694 527 2754 1003"> <thead> <tr> <th colspan="3">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）</td> <td>電離箱</td> <td>10⁻³~10⁰mSv/h</td> <td>燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）</td> <td>電離箱</td> <td>10⁻³~10⁰mSv/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建物放射線モニタ」と記載 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」と記載 *3：S 1単位に換算したものである。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建物 ④EL42800 3チャンネル ⑤EL22800 4チャンネル ⑥EL15300 2チャンネル ⑦EL1300 3チャンネル(合計12チャンネル) (監視・記録は中央制御室にて行う。）」と記載 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>	変更前			変更後			名称	検出器の種類	計測範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）	電離箱	10 ⁻³ ~10 ⁰ mSv/h	燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）	電離箱	10 ⁻³ ~10 ⁰ mSv/h	<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-③は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-③と同義であり、整合している。</p> <p>・「燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）」は、設置変更許可申請書(本文(五号))におけるニ(3)(ii)d.-④を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p>	
変更前			変更後																			
名称	検出器の種類	計測範囲	名称	検出器の種類	計測範囲																	
燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）	電離箱	10 ⁻³ ~10 ⁰ mSv/h	燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）	電離箱	10 ⁻³ ~10 ⁰ mSv/h																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>燃料プール監視カメラ（SA）（燃料プール監視カメラ用冷却設備(二)(3)(ii)d.-⑤を含む。)</p> <p>(二)(3)(ii)d.-⑥（へ、計測制御系統施設の構造及び設備と兼用）</p> <p>種類 (二)(3)(ii)d.-⑦赤外線カメラ</p> <p>個数 1</p>	<p>第4.3-1表 燃料プールの冷却等のための設備の主要機器仕様</p> <p>(3) 燃料プール監視設備</p> <p>d. 燃料プール監視カメラ（SA）（燃料プール監視カメラ用冷却設備を含む。）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <p>・計装設備（重大事故等対処設備）</p> <p>個数 1</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本事項）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p>燃料プール監視カメラ（SA）（個数1）は、想定される重大事故等時において(二)(3)(ii)d.-⑦赤外線機能により燃料プールの状態を監視できる設計とする。</p> <p>燃料プール水位（SA）は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール水位・温度（SA）は、所内常設蓄電式直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ（SA）は、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ（SA）の耐環境性向上のため、燃料プール監視カメラ用冷却設備（個数1、容量2500/min以上）(二)(3)(ii)d.-⑤を設ける設計とする。</p> <p>燃料プール監視カメラ用冷却設備は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータは、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータとし、計測する装置は「表1 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の主要設備リスト」の「使用済燃料貯蔵設備 使用済燃料貯蔵槽の温度、水位及び漏えいを監視する装置」に示す重大事故等対処設備の他、燃料プール監視カメラ（SA）（個数1）とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の(二)(3)(ii)d.-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(二)(3)(ii)d.-⑤と同義であり、整合している。</p> <p>「燃料プール監視カメラ（SA）」及び「燃料プール監視カメラ用冷却設備」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における(二)(3)(ii)d.-⑥を設計及び工事の計画の「核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設」のうち「基本設計方針」に整理しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(二)(3)(ii)d.-⑦は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(二)(3)(ii)d.-⑦と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																
<p>燃料プール冷却系 ニ(3)(ii)d.-⑧ポンプニ(3)(ii)d.-⑨（ニ(3)(i)燃料プール冷却系と兼用） 台数 ニ(3)(ii)d.-⑩1（予備1） 容量 ニ(3)(ii)d.-⑪約200m³/h/台 全揚程 約88m</p>	<p>(4) 燃料プール冷却系 a. ポンプ 台数 1（予備1） 容量 約200m³/h/台 全揚程 約88m</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】ニ(3)(ii)d.-⑨ (要目表) 4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項 (2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); text-align: center;">ポンプ</td> <td>名称</td> <td colspan="2">燃料プール冷却ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑧</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="2">ターボ形</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td colspan="2">m³/h/個 □以上^{*2}(498^{*3})</td> </tr> <tr> <td>揚程^{*4}</td> <td colspan="2">m □以上^{*2}(88^{*3})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">1.37^{*5}、^{*6}</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">66^{*5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>吸込内径^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">200.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>吐出内径^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">200.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□(20.0^{*3})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">寸法</td> <td>たて^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">540^{*3}</td> </tr> <tr> <td>横^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1000^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>高さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">880^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ケーシングカバー^{*2}</td> <td>—</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>ニ(3)(ii)d.-⑩</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); text-align: center;">ポンプ</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>A-燃料プール冷却ポンプ^{*2} (A-燃料プール冷却系)</td> <td>B-燃料プール冷却ポンプ^{*2} (B-燃料プール冷却系)</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 30500mm^{*2}</td> <td>原子炉建物 EL 30500mm^{*2}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); text-align: center;">原動機</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2"></td> <td>R-M2F-11N, R-M2F-12N, R-M2F-26N EL 28697mm以上</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td colspan="2">110^{*3}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td colspan="2">ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	ポンプ	名称	燃料プール冷却ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑧		変更なし	種類	ターボ形		容量 ^{*1}	m ³ /h/個 □ 以上 ^{*2} (498 ^{*3})		揚程 ^{*4}	m □ 以上 ^{*2} (88 ^{*3})		最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5} 、 ^{*6}		最高使用温度	℃	66 ^{*5}		主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*3}		吐出内径 ^{*2}	mm	200.0 ^{*3}		ケーシング厚さ ^{*2}	mm	□ (20.0 ^{*3})		寸法	たて ^{*2}	mm	540 ^{*3}		横 ^{*2}	mm	1000 ^{*3}		材料	高さ ^{*2}	mm	880 ^{*3}		ケーシング	—	□			ケーシングカバー ^{*2}	—	□		個数	—	2	ニ(3)(ii)d.-⑩				変更前		変更後	ポンプ	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却ポンプ ^{*2} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却ポンプ ^{*2} (B-燃料プール冷却系)	変更なし	設置床	—	原子炉建物 EL 30500mm ^{*2}	原子炉建物 EL 30500mm ^{*2}	溢水防護上の区画番号	—	—		原動機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			R-M2F-11N, R-M2F-12N, R-M2F-26N EL 28697mm以上	種類	—	誘導電動機		変更なし	出力	kW/個	110 ^{*3}		個数	—	2			取付箇所	—	ポンプと同じ		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑧は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑧と同義であり、整合している。 ・「燃料プール冷却ポンプ」は、設置変更許可申請書(本文(五号))におけるニ(3)(ii)d.-⑨を設計及び工事の計画の「核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設」のうち「使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備」に整理しており、整合している。 ・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑩は、個数の表現上の相違であり、変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑩と同義であり、整合している。 ・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑪は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑪を詳細に記載しており、整合している。 		
		変更前		変更後																																																																																																																
ポンプ	名称	燃料プール冷却ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑧		変更なし																																																																																																																
	種類	ターボ形																																																																																																																		
	容量 ^{*1}	m ³ /h/個 □ 以上 ^{*2} (498 ^{*3})																																																																																																																		
	揚程 ^{*4}	m □ 以上 ^{*2} (88 ^{*3})																																																																																																																		
	最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5} 、 ^{*6}																																																																																																																	
	最高使用温度	℃	66 ^{*5}																																																																																																																	
	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm		200.0 ^{*3}																																																																																																															
		吐出内径 ^{*2}	mm		200.0 ^{*3}																																																																																																															
		ケーシング厚さ ^{*2}	mm		□ (20.0 ^{*3})																																																																																																															
	寸法	たて ^{*2}	mm		540 ^{*3}																																																																																																															
横 ^{*2}		mm	1000 ^{*3}																																																																																																																	
材料	高さ ^{*2}	mm	880 ^{*3}																																																																																																																	
	ケーシング	—	□																																																																																																																	
	ケーシングカバー ^{*2}	—	□																																																																																																																	
個数	—	2	ニ(3)(ii)d.-⑩																																																																																																																	
		変更前		変更後																																																																																																																
ポンプ	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却ポンプ ^{*2} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却ポンプ ^{*2} (B-燃料プール冷却系)	変更なし																																																																																																															
	設置床	—	原子炉建物 EL 30500mm ^{*2}	原子炉建物 EL 30500mm ^{*2}																																																																																																																
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																	
原動機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			R-M2F-11N, R-M2F-12N, R-M2F-26N EL 28697mm以上																																																																																																															
	種類	—	誘導電動機		変更なし																																																																																																															
出力	kW/個	110 ^{*3}																																																																																																																		
個数	—	2																																																																																																																		
	取付箇所	—	ポンプと同じ																																																																																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																						
<p>ニ(3)(ii)d.-⑫熱交換器ニ(3)(ii)d.-⑬(ニ,(3),(i)燃料プール冷却系と兼用)...</p> <p>基数 <u>ニ(3)(ii)d.-⑭</u> 1 (予備1)</p> <p>伝熱容量 <u>ニ(3)(ii)d.-⑮</u> 約1.9MW</p>	<p>b. 熱交換器</p> <p>基数 <u>1</u> (予備1)</p> <p>伝熱容量 <u>約1.9MW</u></p>	<p>4. 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項</p> <p>4.1 燃料プール冷却系</p> <p>(1) 熱交換器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力 (管側及び胴側の別に記載すること。), 最高使用温度 (管側及び胴側の別に記載すること。), 伝熱面積, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p>																																																																																								
		常設																																																																																								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>燃料プール冷却系熱交換器</td> <td>ニ(3)(ii)d-⑫</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>横置U字管式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量 (設計熱交換量)</td> <td>MW/個</td> <td><u> </u>以上*1(1.88*2,*3)</td> <td>ニ(3)(ii)d-⑮</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴側</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>伝熱面積</td> <td>m²/個</td> <td><u> </u>以上*1(<u> </u>*3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">主要寸法</td> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">管</td> <td>胴内径*4</td> <td>mm</td> <td>650*3</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ*5</td> <td>mm</td> <td><u> </u>*6(9.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ*7</td> <td>mm</td> <td><u> </u>*6(9.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法*6</td> <td>mm</td> <td>650*3 (鏡板の中央部における内面の半径) 65*3 (すみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>管台外径 (管側入口)*6</td> <td>mm</td> <td>165.2*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">側</td> <td>管台厚さ (管側入口)*6</td> <td>mm</td> <td><u> </u>(7.1*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径 (管側出口)*6</td> <td>mm</td> <td>165.2*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ (管側出口)*6</td> <td>mm</td> <td><u> </u>(7.1*3)</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ*6</td> <td>mm</td> <td>76.0*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">胴</td> <td>胴内径*8</td> <td>mm</td> <td>650*3</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ*9</td> <td>mm</td> <td><u> </u>*6(9.0*3)</td> </tr> <tr> <td>平板厚さ*10</td> <td>mm</td> <td><u> </u>*6(60.0*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径 (胴側入口)*6</td> <td>mm</td> <td>216.3*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ (胴側入口)*6</td> <td>mm</td> <td><u> </u>(8.2*3)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">側</td> <td>管台外径 (胴側出口)*6</td> <td>mm</td> <td>216.3*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ (胴側出口)*6</td> <td>mm</td> <td><u> </u>(8.2*3)</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	名	称	燃料プール冷却系熱交換器	ニ(3)(ii)d-⑫	種	類	横置U字管式		容量 (設計熱交換量)	MW/個	<u> </u> 以上*1(1.88*2,*3)	ニ(3)(ii)d-⑮	管側	最高使用圧力	MPa	1.37*2	最高使用温度	℃	66	胴側	最高使用圧力	MPa	1.37*2	最高使用温度	℃	85	伝熱面積	m ² /個	<u> </u> 以上*1(<u> </u> *3)		主要寸法	管	胴内径*4	mm	650*3	胴板厚さ*5	mm	<u> </u> *6(9.0*3)	鏡板厚さ*7	mm	<u> </u> *6(9.0*3)	鏡板の形状に係る寸法*6	mm	650*3 (鏡板の中央部における内面の半径) 65*3 (すみの丸みの内半径)	管台外径 (管側入口)*6	mm	165.2*3	側	管台厚さ (管側入口)*6	mm	<u> </u> (7.1*3)	管台外径 (管側出口)*6	mm	165.2*3	管台厚さ (管側出口)*6	mm	<u> </u> (7.1*3)	フランジ厚さ*6	mm	76.0*3	胴	胴内径*8	mm	650*3	胴板厚さ*9	mm	<u> </u> *6(9.0*3)	平板厚さ*10	mm	<u> </u> *6(60.0*3)	管台外径 (胴側入口)*6	mm	216.3*3	管台厚さ (胴側入口)*6	mm	<u> </u> (8.2*3)	側	管台外径 (胴側出口)*6	mm	216.3*3	管台厚さ (胴側出口)*6	mm	<u> </u> (8.2*3)	変更なし
		変更前	変更後																																																																																							
名	称	燃料プール冷却系熱交換器	ニ(3)(ii)d-⑫																																																																																							
種	類	横置U字管式																																																																																								
容量 (設計熱交換量)	MW/個	<u> </u> 以上*1(1.88*2,*3)	ニ(3)(ii)d-⑮																																																																																							
管側	最高使用圧力	MPa	1.37*2																																																																																							
	最高使用温度	℃	66																																																																																							
胴側	最高使用圧力	MPa	1.37*2																																																																																							
	最高使用温度	℃	85																																																																																							
伝熱面積	m ² /個	<u> </u> 以上*1(<u> </u> *3)																																																																																								
主要寸法	管	胴内径*4	mm	650*3																																																																																						
		胴板厚さ*5	mm	<u> </u> *6(9.0*3)																																																																																						
		鏡板厚さ*7	mm	<u> </u> *6(9.0*3)																																																																																						
		鏡板の形状に係る寸法*6	mm	650*3 (鏡板の中央部における内面の半径) 65*3 (すみの丸みの内半径)																																																																																						
		管台外径 (管側入口)*6	mm	165.2*3																																																																																						
	側	管台厚さ (管側入口)*6	mm	<u> </u> (7.1*3)																																																																																						
		管台外径 (管側出口)*6	mm	165.2*3																																																																																						
		管台厚さ (管側出口)*6	mm	<u> </u> (7.1*3)																																																																																						
	フランジ厚さ*6	mm	76.0*3																																																																																							
	胴	胴内径*8	mm	650*3																																																																																						
胴板厚さ*9		mm	<u> </u> *6(9.0*3)																																																																																							
平板厚さ*10		mm	<u> </u> *6(60.0*3)																																																																																							
管台外径 (胴側入口)*6		mm	216.3*3																																																																																							
管台厚さ (胴側入口)*6		mm	<u> </u> (8.2*3)																																																																																							
側	管台外径 (胴側出口)*6	mm	216.3*3																																																																																							
	管台厚さ (胴側出口)*6	mm	<u> </u> (8.2*3)																																																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																													
		<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主要寸法</td> <td>管板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*6}(65.0^{*3})</td> <td rowspan="10" style="vertical-align: middle; text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>□^{*3}</td> </tr> <tr> <td>伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*6}(□^{*3})</td> </tr> <tr> <td>全長</td> <td>mm</td> <td>5154^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">材側</td> <td>銅板^{*11}</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>鏡板^{*12}</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>フランジ^{*6}</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">料側</td> <td>銅板^{*13}</td> <td>—</td> <td>SM41A</td> </tr> <tr> <td>平板^{*14}</td> <td>—</td> <td>SM41A</td> </tr> <tr> <td>管板</td> <td>—</td> <td>SM41A^{*15}</td> </tr> <tr> <td>伝熱管</td> <td>—</td> <td>SUS304TB</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>ニ(3)(ii)d-⑭</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>A-燃料プール冷却系熱交換器^{*1} (A-燃料プール冷却系)</td> <td>B-燃料プール冷却系熱交換器^{*1} (B-燃料プール冷却系)</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm^{*1}</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm^{*1}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2" rowspan="2" style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：S I 単位に換算したものである。 *3：公称値を示す。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室銅板厚さ」と記載 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の強度計算書」による。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体銅板厚さ」と記載 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体平板厚さ」と記載 *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室銅板」と記載 *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板」と記載</p>			変更前		変更後	主要寸法	管板厚さ	mm	□ ^{*6} (65.0 ^{*3})	変更なし	伝熱管外径	mm	□ ^{*3}	伝熱管厚さ	mm	□ ^{*6} (□ ^{*3})	全長	mm	5154 ^{*3}	材側	銅板 ^{*11}	—	SUS304	鏡板 ^{*12}	—	SUS304	フランジ ^{*6}	—	SUS304	料側	銅板 ^{*13}	—	SM41A	平板 ^{*14}	—	SM41A	管板	—	SM41A ^{*15}	伝熱管	—	SUS304TB	個数	—	2	ニ(3)(ii)d-⑭	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (B-燃料プール冷却系)	設置床	—	原子炉建物 EL 34800mm ^{*1}	原子炉建物 EL 34800mm ^{*1}	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		
		変更前		変更後																																																													
主要寸法	管板厚さ	mm	□ ^{*6} (65.0 ^{*3})	変更なし																																																													
	伝熱管外径	mm	□ ^{*3}																																																														
	伝熱管厚さ	mm	□ ^{*6} (□ ^{*3})																																																														
	全長	mm	5154 ^{*3}																																																														
材側	銅板 ^{*11}	—	SUS304																																																														
	鏡板 ^{*12}	—	SUS304																																																														
	フランジ ^{*6}	—	SUS304																																																														
料側	銅板 ^{*13}	—	SM41A																																																														
	平板 ^{*14}	—	SM41A																																																														
	管板	—	SM41A ^{*15}																																																														
伝熱管	—	SUS304TB																																																															
個数	—	2	ニ(3)(ii)d-⑭																																																														
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (A-燃料プール冷却系)	B-燃料プール冷却系熱交換器 ^{*1} (B-燃料プール冷却系)																																																													
	設置床	—	原子炉建物 EL 34800mm ^{*1}	原子炉建物 EL 34800mm ^{*1}																																																													
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																															
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑭は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑫と同義であり、整合している。 「燃料プール冷却系熱交換器」は、設置変更許可申請書(本文(五号))におけるニ(3)(ii)d.-⑬を設計及び工事の計画の「核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設」のうち「使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備」に整理しており、整合している。 設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑭は、個数の表現上の相違であり、変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑭と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑮は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑮を詳細に記載しており、整合している。 																																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																						
<p>[可搬型重大事故等対処設備] 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル） 大量送水車 二(3)(ii)d.-⑯ (ホ、(3)、(ii)、b、(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、リ、(3)、(ii) a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備、リ、(3)、(ii)、c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備及びホ、(4)、(vi) 重大事故等の収束に必要なとなる水の供給設備と兼用)...</p> <p>台 数 二(3)(ii)d.-⑰ 2 (予備1) 容 量 168m³/h/台以上 (吐出圧力 0.85MPa[gage]において) 二(3)(ii)d.-⑱ a) 120m³/h/台以上 (吐出圧力 1.4MPa[gage]において) 吐出圧力 0.85MPa[gage] ~ 二(3)(ii)d.-⑱ b) 1.4MPa[gage]以上</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号） 燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）を使用した燃料プールへの注水は、大量送水車 1台を使用するものとし、48m³/h の流量で注水する。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)d.(a)(a-6), ハ(2)(ii)d.(b)(b-8)</p> </div>	<p>(1) 燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）、燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル） a. 大量送水車 兼用する設備は以下のとおり... ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要なとなる水の供給設備</p> <p>型 式 ディフューザ形 台 数 2 (予備1) 容 量 168m³/h/台以上 (吐出圧力 0.85MPa[gage]において) 120m³/h/台以上 (吐出圧力 1.4MPa[gage]において) 吐出圧力 0.85MPa[gage]~1.4MPa[gage]以上</p>	<p>4.2 燃料プールスプレイ系 (2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">ポンプ</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>大量送水車*1 二(3)(ii)d.-⑱</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>ディフューザ形</td> </tr> <tr> <td>容 量*2</td> <td>m³/h/個</td> <td>48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, 120以上*8, 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*12,*13)</td> </tr> <tr> <td>吐 出 圧 力*2</td> <td>MPa</td> <td>1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*2</td> <td>MPa</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*2</td> <td>℃</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>た て 横</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">法</td> <td>車 両 全 長</td> <td>mm</td> <td>8350*13</td> </tr> <tr> <td>車 両 全 幅</td> <td>mm</td> <td>2490*13</td> </tr> <tr> <td>車 両 高 さ</td> <td>mm</td> <td>3550*13</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>4(予備1)</td> <td>二(3)(ii)d.-⑰</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変 更 後	ポンプ	名 称		大量送水車*1 二(3)(ii)d.-⑱	種 類	—	ディフューザ形	容 量*2	m ³ /h/個	48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, 120以上*8, 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*12,*13)	吐 出 圧 力*2	MPa	1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)	最高使用圧力*2	MPa	<input type="text"/>	最高使用温度*2	℃	<input type="text"/>	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	<input type="text"/> *13	吐 出 口 径	mm	<input type="text"/> *13	た て 横	mm	<input type="text"/> *13	高 さ	mm	<input type="text"/> *13	法	車 両 全 長	mm	8350*13	車 両 全 幅	mm	2490*13	車 両 高 さ	mm	3550*13	材 料	ケーシング	—	<input type="text"/>	個 数	—	4(予備1)	二(3)(ii)d.-⑰		
		変更前	変 更 後																																																							
ポンプ	名 称		大量送水車*1 二(3)(ii)d.-⑱																																																							
	種 類	—	ディフューザ形																																																							
	容 量*2	m ³ /h/個	48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, 120以上*8, 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*12,*13)																																																							
	吐 出 圧 力*2	MPa	1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)																																																							
	最高使用圧力*2	MPa	<input type="text"/>																																																							
	最高使用温度*2	℃	<input type="text"/>																																																							
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	<input type="text"/> *13																																																						
		吐 出 口 径	mm	<input type="text"/> *13																																																						
		た て 横	mm	<input type="text"/> *13																																																						
		高 さ	mm	<input type="text"/> *13																																																						
	法	車 両 全 長	mm	8350*13																																																						
		車 両 全 幅	mm	2490*13																																																						
		車 両 高 さ	mm	3550*13																																																						
	材 料	ケーシング	—	<input type="text"/>																																																						
	個 数	—	4(予備1)	二(3)(ii)d.-⑰																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ポンプ</td> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td> 保管場所： 屋外 EL.約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL.約 4400mm 第2保管エリア 屋外 EL.約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL.約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた5個を上記4箇所のうち第1保管エリアに1個、第2保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに2個保管する。 取付箇所：*14 屋外 EL.約 8500mm 2号取水槽及びタービン建物近傍 屋外 EL.約 15000mm 原子炉建物近傍 屋外 EL.約 44900mm 輪谷貯水槽近傍 屋外 EL.約 53200mm 輪谷貯水槽（西1）又は輪谷貯水槽（西2）上部 </td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>ディーゼルエンジン</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原動機</td> <td>出力</td> <td>—</td> <td>□*13</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>4(予備1)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	取付箇所	—	保管場所： 屋外 EL.約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL.約 4400mm 第2保管エリア 屋外 EL.約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL.約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた5個を上記4箇所のうち第1保管エリアに1個、第2保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに2個保管する。 取付箇所：*14 屋外 EL.約 8500mm 2号取水槽及びタービン建物近傍 屋外 EL.約 15000mm 原子炉建物近傍 屋外 EL.約 44900mm 輪谷貯水槽近傍 屋外 EL.約 53200mm 輪谷貯水槽（西1）又は輪谷貯水槽（西2）上部	種類	—	ディーゼルエンジン	原動機	出力	—	□*13	個数	—	4(予備1)	取付箇所	—	ポンプと同じ		
		変更前	変更後																						
ポンプ	取付箇所	—	保管場所： 屋外 EL.約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL.約 4400mm 第2保管エリア 屋外 EL.約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL.約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた5個を上記4箇所のうち第1保管エリアに1個、第2保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに2個保管する。 取付箇所：*14 屋外 EL.約 8500mm 2号取水槽及びタービン建物近傍 屋外 EL.約 15000mm 原子炉建物近傍 屋外 EL.約 44900mm 輪谷貯水槽近傍 屋外 EL.約 53200mm 輪谷貯水槽（西1）又は輪谷貯水槽（西2）上部																						
	種類	—	ディーゼルエンジン																						
原動機	出力	—	□*13																						
	個数	—	4(予備1)																						
	取付箇所	—	ポンプと同じ																						
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の二(3)(ii)d.-⑰は、設置変更許可申請書(本文(五号))の二(3)(ii)d.-⑰と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の二(3)(ii)d.-⑱は、個数の表現上の相違であり、設置変更許可申請書(本文(五号))の二(3)(ii)d.-⑱と同義であり、整合している。 設置変更許可申請書(本文(五号))の二(3)(ii)d.-⑲a及び二(3)(ii)d.-⑲bは、「動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令」で定められた「A-1級」の放水性能を記載しており、設計及び工事の計画二(3)(ii)d.-⑲の「A-1級」と整合している。 		<p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系、水の供給設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系、ベDESTAL代替注水系、低圧原子炉代替注水系）と兼用 二(3)(ii)d.-⑰</p> <p>*2：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*3：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（可搬型スプレイノズルを用いた燃料プールへの注水）で使用する場合の値</p> <p>*4：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（常設スプレイヘッドを用いた燃料プールへの注水）で使用する場合の値</p> <p>*5：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（可搬型スプレイノズルを用いた燃料プールへのスプレイ）で使用する場合の値</p> <p>*6：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（常設スプレイヘッドを用いた燃料プールへのスプレイ）で使用する場合の値</p> <p>*7：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（低圧原子炉代替注水系）で使用する場合の値</p> <p>*8：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（水の供給設備）で使用する場合の値</p> <p>*9：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系）で使用する場合の値</p> <p>*10：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（ベDESTAL代替注水系）で使用する場合の値</p> <p>*11：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系）との同時に使用する場合の値</p> <p>*12：消防法に基づく規格放水量・規格放水圧力を示す。</p> <p>*13：公称値を示す。</p> <p>*14：輪谷貯水槽（西1）又は輪谷貯水槽（西2）の上部に設置する場合と輪谷貯水槽（西1）又は輪谷貯水槽（西2）近傍に設置する場合がある。</p>																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																
<p>燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</p> <p><u>可搬型スプレイノズル</u></p> <p>数 量 <u>2（予備1）</u></p>	<p>b. <u>可搬型スプレイノズル</u></p> <p>数 量 <u>2（予備1）</u></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="8">変 更 前</th> <th colspan="8">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>名 称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>個数</th> <th>取 付 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>可搬型スプレイノズル</td> <td>1.60^{※1}</td> <td>□^{※2}</td> <td>75A^{※3}</td> <td>—^{※4}</td> <td>(ジャケッ ト部) ポリニステ ル (内張り部) 合成樹脂</td> <td>22 (予備1)^{※5}</td> <td> 供養場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた23本^{※6}を上記2箇所のうち第1保管エリアに12本及び第2保管エリアに11本保管する。 取付箇所： 屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉又は原子炉建物機器搬出入口 ～ 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍可搬型スプレイノズル (11本^{※7}) </td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>可搬型スプレイノズル</td> <td>1.60^{※1}</td> <td>□^{※2}</td> <td>65A^{※3}</td> <td>—^{※4}</td> <td>AC4CH</td> <td>2 (予備1)^{※5}</td> <td> 保管場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた3個^{※8}を上記2箇所のうち第1保管エリアに2個及び第2保管エリアに1個保管する。 取付箇所： 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍 (1個) </td> </tr> </tbody> </table> <p> 注記※1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系、水の供給設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系、ベダスタル代替注水系、低圧原子炉代替注水系）と兼用。 ※2：重大事故等時における使用時の値。 ※3：メーカー仕様に示るものとし、完成品として一般販売品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。 ※4：当該本数3本（必要本数1本（10m：1本）の2セットに予備1本を加えた数量）を保管する。 ※5：当該本数5本（必要本数2本（10m：2本）の2セットに予備1本を加えた数量）を保管する。 ※6：当該本数7本（必要本数3本（10m：2本）の2セットに予備1本を加えた数量）を保管する。 ※7：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部～屋外 EL約 49000mm 輪谷貯水槽近傍 大量送水車」に敷設した場合（10m：2本）の本数を示す。 ※8：当該本数116本（必要本数56本（50m：40本、10m：9本、5m：1本、1m：6本）の2セットに予備各1本を加えた数量）を保管する。 ※9：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉」に敷設した場合（50m：11本、10m：8本、5m：1本、1m：6本）の本数を示す。 ※10：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉」に敷設した場合（50m：11本、10m：5本、5m：1本、1m：6本）の本数を示す。 ※11：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 低圧原子炉代替注水系（可搬型）接続口（南）」に敷設した場合（50m：11本、10m：5本、5m：1本、1m：6本）の本数を示す。 ※12：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 8800mm タービン建物大物搬入口」に敷設した場合（50m：32本、1m：5本）の本数を示す。 ※13：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 14700mm 低圧原子炉代替注水槽」に敷設した場合（50m：15本、10m：8本、5m：1本、1m：6本）の本数を示す。 ※14：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉」に敷設した場合（50m：12本、10m：8本、5m：1本、1m：5本）の本数を示す。 ※15：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 低圧原子炉代替注水系（可搬型）接続口（南）」に敷設した場合（50m：10本、10m：9本、5m：1本、1m：5本）の本数を示す。 ※16：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 8800mm タービン建物大物搬入口」に敷設した場合（50m：2本、10m：1本、1m：4本）の本数を示す。 ※17：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 14700mm 低圧原子炉代替注水槽」に敷設した場合（50m：12本、10m：8本、5m：1本、1m：5本）の本数を示す。 ※18：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）」に敷設した場合（50m：32本、10m：1本）の本数を示す。 ※19：当該本数28本（必要本数12本（20m：5本、5m：2本、2m：4本、1m：1本）の2セットに予備各1本を加えた数量）を保管する。 ※20：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉」に敷設した場合（20m：3本、5m：1本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※21：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 低圧原子炉代替注水系（可搬型）接続口（南）」に敷設した場合（20m：3本、5m：1本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※22：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 8800mm タービン建物大物搬入口」に敷設した場合（5m：1本、2m：4本）の本数を示す。 ※23：最長ルートである「屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）上部 大量送水車～屋外 EL約 14700mm 低圧原子炉代替注水槽」に敷設した場合（20m：5本、5m：1本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※24：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉」に敷設した場合（5m：2本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※25：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 15300mm 低圧原子炉代替注水系（可搬型）接続口（南）」に敷設した場合（5m：2本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※26：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 8800mm タービン建物大物搬入口」に敷設した場合（5m：2本、2m：4本）の本数を示す。 ※27：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 15000mm 原子炉建物近傍 大量送水車～屋外 EL約 14700mm 低圧原子炉代替注水槽」に敷設した場合（5m：2本、2m：4本、1m：1本）の本数を示す。 ※28：最長ルートである「屋外 EL約 8500mm 2号取水槽近傍 大量送水車～屋外 EL約 53200mm 輪谷貯水槽（西2）」に敷設した場合（5m：1本）の本数を示す。 ※29：当該本数23本（必要本数11本（20m：11本）の2セットに予備1本を加えた数量）を保管する。 ※30：最長ルートである「屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉～室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍 可搬型スプレイノズル」に敷設した場合（20m：11本）の本数を示す。 ※31：当該個数3個（必要個数1個の2セットに予備1個を加えた数量）を保管する。 </p>	変 更 前								変 更 後								名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	個数	取付箇所	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	個数	取 付 箇 所	—	—	—	—	—	—	—	—	可搬型スプレイノズル	1.60 ^{※1}	□ ^{※2}	75A ^{※3}	— ^{※4}	(ジャケッ ト部) ポリニステ ル (内張り部) 合成樹脂	22 (予備1) ^{※5}	供養場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた23本 ^{※6} を上記2箇所のうち第1保管エリアに12本及び第2保管エリアに11本保管する。 取付箇所： 屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉又は原子炉建物機器搬出入口 ～ 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍可搬型スプレイノズル (11本 ^{※7})	—	—	—	—	—	—	—	—	可搬型スプレイノズル	1.60 ^{※1}	□ ^{※2}	65A ^{※3}	— ^{※4}	AC4CH	2 (予備1) ^{※5}	保管場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた3個 ^{※8} を上記2箇所のうち第1保管エリアに2個及び第2保管エリアに1個保管する。 取付箇所： 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍 (1個)		
変 更 前								変 更 後																																																												
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	個数	取付箇所	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	個数	取 付 箇 所																																																					
—	—	—	—	—	—	—	—	可搬型スプレイノズル	1.60 ^{※1}	□ ^{※2}	75A ^{※3}	— ^{※4}	(ジャケッ ト部) ポリニステ ル (内張り部) 合成樹脂	22 (予備1) ^{※5}	供養場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた23本 ^{※6} を上記2箇所のうち第1保管エリアに12本及び第2保管エリアに11本保管する。 取付箇所： 屋外 EL約 15300mm 原子炉建物南側扉又は原子炉建物機器搬出入口 ～ 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍可搬型スプレイノズル (11本 ^{※7})																																																					
—	—	—	—	—	—	—	—	可搬型スプレイノズル	1.60 ^{※1}	□ ^{※2}	65A ^{※3}	— ^{※4}	AC4CH	2 (予備1) ^{※5}	保管場所： 原子炉建物 EL約 15300mm 第1保管エリア 原子炉建物 EL約 23800mm 第2保管エリア 予備を含めた3個 ^{※8} を上記2箇所のうち第1保管エリアに2個及び第2保管エリアに1個保管する。 取付箇所： 室内 EL約 42800mm 燃料プール近傍 (1個)																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																					
<p>原子炉補機代替冷却系</p> <p>ニ(3)(ii)d.-⑱ 移動式代替熱交換設備</p> <p>ニ(3)(ii)d.-⑳ (ホ、(4)、(v) 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備と兼用)</p>	<p>第 5.10-1 表 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備の主要機器仕様</p> <p>(2) 原子炉補機代替冷却系</p> <p>a. 移動式代替熱交換設備</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 <p><中略></p>	<p>【原子炉冷却系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>8. 原子炉補機冷却設備に係る次の事項</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1647 430 2576 1753"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td></td> <td>移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>プレート式</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量*1 MW/個</td> <td></td> <td>10.5 以上 (11.5*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">淡水側</td> <td>最高使用圧力*1 MPa</td> <td></td> <td>1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1 °C</td> <td></td> <td>70*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">海水側</td> <td>最高使用圧力*1 MPa</td> <td></td> <td>1.00*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1 °C</td> <td></td> <td>65*2</td> </tr> <tr> <td>伝</td> <td>熱 面 積*1 m²/個</td> <td></td> <td>□以上(□*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主 要 寸 法</td> <td>た</td> <td>て mm</td> <td>2177*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>780*2</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ mm</td> <td>2000*2</td> </tr> <tr> <td>車 両 全 長</td> <td>mm</td> <td>15900*2</td> </tr> <tr> <td>車 両 全 幅</td> <td>mm</td> <td>2490*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>熱 交 換 器 側 板</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>熱 交 換 器 伝 熱 板</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>4*3</td> </tr> <tr> <td>車 両</td> <td>個 数</td> <td></td> <td>2(予備1)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器は大型送水ポンプ車と連結して使用する。 注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：車両1台につき2個設置する。</p>			変更前	変更後	名	称		移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器	種	類	—	プレート式	容	量*1 MW/個		10.5 以上 (11.5*2)	淡水側	最高使用圧力*1 MPa		1.37*2	最高使用温度*1 °C		70*2	海水側	最高使用圧力*1 MPa		1.00*2	最高使用温度*1 °C		65*2	伝	熱 面 積*1 m ² /個		□以上(□*2)	主 要 寸 法	た	て mm	2177*2	横	mm	780*2	高	さ mm	2000*2	車 両 全 長	mm	15900*2	車 両 全 幅	mm	2490*2	材 料	熱 交 換 器 側 板	—	□	熱 交 換 器 伝 熱 板	—	□	個	数	—	4*3	車 両	個 数		2(予備1)	取 付 箇 所	—	—	保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍	<p>ニ(3)(ii)d.-⑱a</p>	
		変更前	変更後																																																																						
名	称		移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器																																																																						
種	類	—	プレート式																																																																						
容	量*1 MW/個		10.5 以上 (11.5*2)																																																																						
淡水側	最高使用圧力*1 MPa		1.37*2																																																																						
	最高使用温度*1 °C		70*2																																																																						
海水側	最高使用圧力*1 MPa		1.00*2																																																																						
	最高使用温度*1 °C		65*2																																																																						
伝	熱 面 積*1 m ² /個		□以上(□*2)																																																																						
主 要 寸 法	た	て mm	2177*2																																																																						
	横	mm	780*2																																																																						
	高	さ mm	2000*2																																																																						
	車 両 全 長	mm	15900*2																																																																						
	車 両 全 幅	mm	2490*2																																																																						
材 料	熱 交 換 器 側 板	—	□																																																																						
	熱 交 換 器 伝 熱 板	—	□																																																																						
個	数	—	4*3																																																																						
車 両	個 数		2(予備1)																																																																						
取 付 箇 所	—	—	保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																		
		<p>(3) ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p style="text-align: center;">可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 80%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">ポ ン プ</td> <td>名 称</td> <td></td> <td></td> <td>移動式代替熱交換設備淡水ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑱b</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td></td> <td>うず巻形</td> </tr> <tr> <td>容 量*1</td> <td>m³/h/個</td> <td></td> <td>300 以上 (300*2, *3)</td> </tr> <tr> <td>揚 程*1</td> <td>m</td> <td></td> <td>55 以上 (75*2)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td></td> <td>70*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td></td> <td>150*2</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td></td> <td>100.0*2</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td></td> <td>670*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td>140*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>ケ ー シ ン グ</td> <td>—</td> <td></td> <td>SCS14</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>4*3</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td> 保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管 エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4 保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍 </td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 80%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td></td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td></td> <td>110*2</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>4*4</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：車両1台につき2個設置する。 *4：車両1台につき2個設置する。</p>				変更前	変更後	ポ ン プ	名 称			移動式代替熱交換設備淡水ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑱b	種 類	—		うず巻形	容 量*1	m ³ /h/個		300 以上 (300*2, *3)	揚 程*1	m		55 以上 (75*2)	最高使用圧力*1	MPa		1.37*2	最高使用温度*1	℃		70*2	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		150*2	吐 出 口 径	mm		100.0*2	た て	mm		670*2	横	mm		140*2	材 料	ケ ー シ ン グ	—		SCS14	個 数	—		4*3	取 付 箇 所	—		保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管 エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4 保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍				変更前	変更後	原 動 機	種 類	—		誘導電動機	出 力	kW/個		110*2	個 数	—		4*4	取 付 箇 所	—		ポンプと同じ		
			変更前	変更後																																																																																		
ポ ン プ	名 称			移動式代替熱交換設備淡水ポンプ ニ(3)(ii)d.-⑱b																																																																																		
	種 類	—		うず巻形																																																																																		
	容 量*1	m ³ /h/個		300 以上 (300*2, *3)																																																																																		
	揚 程*1	m		55 以上 (75*2)																																																																																		
	最高使用圧力*1	MPa		1.37*2																																																																																		
	最高使用温度*1	℃		70*2																																																																																		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		150*2																																																																																	
		吐 出 口 径	mm		100.0*2																																																																																	
		た て	mm		670*2																																																																																	
		横	mm		140*2																																																																																	
材 料	ケ ー シ ン グ	—		SCS14																																																																																		
	個 数	—		4*3																																																																																		
取 付 箇 所	—		保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管 エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4 保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍																																																																																			
			変更前	変更後																																																																																		
原 動 機	種 類	—		誘導電動機																																																																																		
	出 力	kW/個		110*2																																																																																		
	個 数	—		4*4																																																																																		
	取 付 箇 所	—		ポンプと同じ																																																																																		
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-⑱a及びニ(3)(ii)d.-⑱bは, 設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-⑱と同義であり, 整合している。 ・「移動式代替熱交換設備」は, 設置変更許可申請書(本文(五号))におけるニ(3)(ii)d.-⑳を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち「原子炉補機代替冷却系」に整理しており, 整合している。 																																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																	
<p>大型送水ポンプ車ニ(3)(ii)d.-㉑(ホ),(4),(v)最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備と兼用)</p>	<p>b. 大型送水ポンプ車 兼用する設備は以下のとおり。 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 10%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">ポンプ</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>大型送水ポンプ車</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>うず巻形</td> </tr> <tr> <td>容 量*1</td> <td>m³/h/個</td> <td>□以上*2, □以上*3 (1800*3)</td> </tr> <tr> <td>吐 出 圧 力*1</td> <td>MPa</td> <td>□以上*2, □以上*3 (1.20*4)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主 要 寸 法</td> <td>主 吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td>□*4</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td>□*4</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td>□*4</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>□*4</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>□*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">車 両 寸 法</td> <td>車 両 全 長</td> <td>mm</td> <td>11995*4</td> </tr> <tr> <td>車 両 全 幅</td> <td>mm</td> <td>2495*4</td> </tr> <tr> <td>車 両 全 幅 (アウトリガ最大張出)</td> <td>mm</td> <td>3980*4</td> </tr> <tr> <td>法 車 両 高 さ</td> <td>mm</td> <td>3510*4</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>□ (JIS G 5502相当)</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>2(予備1*5)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td>保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 10%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">原 動 機</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>ディーゼルエンジン</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kw/個</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>2 (予備1*5)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	名 称		大型送水ポンプ車	種 類	—	うず巻形	容 量*1	m ³ /h/個	□以上*2, □以上*3 (1800*3)	吐 出 圧 力*1	MPa	□以上*2, □以上*3 (1.20*4)	最高使用圧力*1	MPa	□	最高使用温度*1	℃	□	主 要 寸 法	主 吸 込 口 径	mm	□*4	吐 出 口 径	mm	□*4	た て	mm	□*4	横	mm	□*4	高 さ	mm	□*4	車 両 寸 法	車 両 全 長	mm	11995*4	車 両 全 幅	mm	2495*4	車 両 全 幅 (アウトリガ最大張出)	mm	3980*4	法 車 両 高 さ	mm	3510*4	材 料	ケーシング	—	□ (JIS G 5502相当)	個 数	—		2(予備1*5)	取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍			変更前	変更後	原 動 機	名 称		ディーゼルエンジン	出 力	kw/個	□	個 数	—	2 (予備1*5)	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ	<p>整合性</p> <p>・「大型送水ポンプ車」は、設置変更許可申請書(本文(五号))におけるニ(3)(ii)d.-㉑を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち「原子炉補機代替冷却系」に整理しており、整合している。</p>	
		変更前	変更後																																																																																		
ポンプ	名 称		大型送水ポンプ車																																																																																		
	種 類	—	うず巻形																																																																																		
	容 量*1	m ³ /h/個	□以上*2, □以上*3 (1800*3)																																																																																		
	吐 出 圧 力*1	MPa	□以上*2, □以上*3 (1.20*4)																																																																																		
	最高使用圧力*1	MPa	□																																																																																		
	最高使用温度*1	℃	□																																																																																		
	主 要 寸 法	主 吸 込 口 径	mm	□*4																																																																																	
		吐 出 口 径	mm	□*4																																																																																	
		た て	mm	□*4																																																																																	
		横	mm	□*4																																																																																	
		高 さ	mm	□*4																																																																																	
	車 両 寸 法	車 両 全 長	mm	11995*4																																																																																	
		車 両 全 幅	mm	2495*4																																																																																	
		車 両 全 幅 (アウトリガ最大張出)	mm	3980*4																																																																																	
	法 車 両 高 さ	mm	3510*4																																																																																		
材 料	ケーシング	—	□ (JIS G 5502相当)																																																																																		
個 数	—		2(予備1*5)																																																																																		
取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍																																																																																		
		変更前	変更後																																																																																		
原 動 機	名 称		ディーゼルエンジン																																																																																		
	出 力	kw/個	□																																																																																		
	個 数	—	2 (予備1*5)																																																																																		
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ																																																																																		

注記*1：重事故等時における使用時の値
 *2：原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備（移動式代替熱交換設備使用時）で使用する場合の値
 *3：原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備（大型送水ポンプ車による海水直接注入時）で使用する場合の値
 *4：公称値を示す。
 *5：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（原子炉建物放水設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（原子炉建物放水設備）と予備を兼用

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																												
<p>原子炉建物放水設備 大型送水ポンプ車 ニ(3)(ii)d.-㉒ (リ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備と兼用)...</p> <p>放水砲 ニ(3)(ii)d.-㉓ (リ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備と兼用)...</p>	<p>第9.7-1表 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 原子炉建物放水設備 a. 大型送水ポンプ車 兼用する設備は以下のとおり... ・燃料プールの冷却等のための設備</p> <p>b. 放水砲 兼用する設備は以下のとおり... ・燃料プールの冷却等のための設備</p>	<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 (要目表)</p> <p>4.3 原子炉建物放水設備</p> <p>(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>可搬型</p> <p>以下の設備は、原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備の原子炉補機代替冷却系であり、原子炉建物放水設備として本工事計画で予備を兼用する。</p> <p>可搬型 大型送水ポンプ車</p> <p>(8) 主配管（スプレイヘッドを含む。）の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。）</p> <p>可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="10">変更前</th> <th colspan="10">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>材</th> <th>種</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>名</th> <th>材</th> <th>種</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>放水砲¹⁾</td> <td></td> <td></td> <td>1.40²⁾</td> <td></td> <td>□³⁾</td> <td>□⁴⁾</td> <td>□</td> <td>1 (予備1)</td> <td>集管構造: ・ 屋外径約 7000mm 第1保管エリア ・ 屋外径約 6500mm 第4保管エリア 予備を含めた2層を上記2箇所のうち第1保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を配管する。 取付箇所: ・ 屋外径約 1500mm 原子炉建物放水設備 (1個)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">注記*1：原子炉補機施設のうち圧力減衰設備その他の安全設備のうち放射線遮蔽安全設備（原子炉建物放水設備）と兼用。 *2：重大事故等種における使用時の値 *3：公称値を示す。 *4：メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえて、重大事故等種における使用圧力及び使用温度が定められた装置において使用可能なものを使用する。 *5：メーカーにて規定する呼び名を示す。 *6：大型送水ポンプ車入口ライン放水用 20m、5m、1mホースのうち5m、1mホースのみ原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機代替冷却設備（原子炉補機代替冷却）の予備として兼用する。 *7：当課本数31本（必要本数29本（20m：2本、5m：16本、1m：11本）に予備各2本を加えた数値）を保管する。 *8：当該本数18本（必要本数18本（30m：10本、5m：7本、2m：1本））を保管する。 *9：最も大きい径である 屋外径約 8500mm 2号取水槽送水用 大型送水ポンプ車～西側送水用～屋外径約 13000mm 原子炉補機代替冷却設備（放水砲）に設置した場合（50m：10本、5m：7本、2m：1本）の本数を示す。 *10：放水砲寸法（公称値）：たて4680mm、横1920mm、高さ2300mm。</p>	変更前										変更後										名	材	種	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名	材	種	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所											放水砲 ¹⁾			1.40 ²⁾		□ ³⁾	□ ⁴⁾	□	1 (予備1)	集管構造: ・ 屋外径約 7000mm 第1保管エリア ・ 屋外径約 6500mm 第4保管エリア 予備を含めた2層を上記2箇所のうち第1保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を配管する。 取付箇所: ・ 屋外径約 1500mm 原子炉建物放水設備 (1個)	<p>ニ(3)(ii)d.-㉒</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-㉒は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-㉒と同義であり、整合している。 ・ 設計及び工事の計画のニ(3)(ii)d.-㉓は、設置変更許可申請書(本文(五号))のニ(3)(ii)d.-㉓と同義であり、整合している。
変更前										変更後																																																						
名	材	種	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名	材	種	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所																																													
										放水砲 ¹⁾			1.40 ²⁾		□ ³⁾	□ ⁴⁾	□	1 (予備1)	集管構造: ・ 屋外径約 7000mm 第1保管エリア ・ 屋外径約 6500mm 第4保管エリア 予備を含めた2層を上記2箇所のうち第1保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を配管する。 取付箇所: ・ 屋外径約 1500mm 原子炉建物放水設備 (1個)																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ホ. 原子炉冷却系統施設の構造及び設備</p> <p>(1) 一次冷却設備</p> <p>(i) 冷却材の種類</p> <p>ホ(1)(i)-①軽水</p> <p>(ii) 主要な機器及び管の個数及び構造</p> <p>ホ(1)(ii)-①一次冷却設備（原子炉冷却設備）は、原子炉再循環系、主蒸気系、蒸気タービン、復水器、復水・給水系等で構成する。</p>	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.1 原子炉圧力容器及び一次冷却材設備</p> <p>5.1.1 通常運転時等</p> <p>5.1.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>また、一次冷却材設備は、主蒸気系、再循環系、復水・給水系、タービン、復水器等で構成する。</p> <p><中略></p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 原子炉冷却材</p> <p>ホ(1)(i)-①原子炉冷却材は、通常運転時における圧力、温度及び放射線によって起こる最も厳しい条件において、核的性質として核反応断面積が核反応維持のために適切であり、熱水力的性質として冷却能力が適切であることを保持し、かつ、燃料体及び構造材の健全性を妨げることのない性質であり、通常運転時において放射線に対して化学的に安定であることを保持し得る設計とする。</p> <p>2. 原子炉冷却材再循環設備</p> <p>2.1 原子炉再循環系</p> <p>原子炉再循環系ホ(1)(ii)-①aは、原子炉再循環ポンプ及び原子炉圧力容器内に設けられたジェットポンプにより、炉水を原子炉圧力容器内に循環させて、炉心から熱除去を行う。</p> <p>原子炉再循環ポンプの1台が急速停止又は電源喪失の場合にも、燃料棒が十分な熱的余裕を有し、かつ、タービントリップ又は負荷遮断直後の原子炉出力を抑制できるように、原子炉再循環系は適切な慣性を有する設計とする。</p> <p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.1 主蒸気系、復水給水系等</p> <p>ホ(1)(ii)-①b 炉心で発生した蒸気は、原子炉圧力容器内の気水分離器及び蒸気乾燥器を通した後、主蒸気管で蒸気タービンへ導く設計とする。</p> <p>なお、主蒸気管には、逃がし安全弁及び主蒸気隔離弁を取り付ける。</p> <p>蒸気タービンで仕事をした蒸気は、復水器で凝縮し、復</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））ホ項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(i)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-①a及びホ(1)(ii)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉再循環系は、原子炉再循環ポンプ及び原子炉圧力容器内に設けるホ(1)(ii)-②ジェット・ポンプにより、ホ(1)(ii)-③冷却材を炉心に循環させて、炉心の熱除去を行う。</p>	<p>原子炉圧力容器及び一次冷却材設備は、次の機能を有している。</p> <p>(1) 冷却材を炉心に強制循環させ炉心から熱を除去する。</p>	<p>水は、復水ポンプ、復水脱塩装置、復水昇圧ポンプ、低圧給水加熱器等を通り、給水ポンプにより加圧して高圧給水加熱器を通して発電用原子炉に戻す設計とする。</p> <p>主蒸気管には、炉心で発生した蒸気をタービンを通さず直接復水器に導くタービンバイパス系を設ける設計とする。</p> <p>復水・給水系には復水中の核分裂生成物及び腐食生成物を除去するために復水脱塩装置（ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置）を設け、高純度の給水を発電用原子炉へ供給できるようにする。また、6段の給水加熱器を設け、給水を加熱する設計とする。</p> <p>タービンバイパス系は、原子炉の起動時、停止時及び過渡状態において、蒸気を直接復水器に導き、主蒸気定格流量の約100%を処理できる設計とする。</p> <p>2. 原子炉冷却材再循環設備 2.1 原子炉再循環系</p> <p>原子炉再循環系は、原子炉再循環ポンプ及び原子炉圧力容器内に設けられたホ(1)(ii)-②ジェットポンプにより、ホ(1)(ii)-③炉水を原子炉圧力容器内に循環させて、炉心から熱除去を行う。</p> <p>原子炉再循環ポンプの1台が急速停止又は電源喪失の場合にも、燃料棒が十分な熱的余裕を有し、かつ、タービントリップ又は負荷遮断直後の原子炉出力を抑制できるように、原子炉再循環系は適切な慣性を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-③と同義であり、整合している。</p> <p>以下、同一の用語については、説明を省略する。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>炉心で発生した蒸気は、原子炉圧力容器内の気水分離器及び蒸気乾燥器を通した後、主蒸気管ホ(1)(ii)-④でタービンへ導く。タービンで仕事をした蒸気は、復水器で凝縮し、復水は、復水ポンプ、復水脱塩装置、復水昇圧ポンプ、低圧給水加熱器等を通り、給水ポンプにより加圧して高圧給水加熱器を通して原子炉圧力容器にもどす。</p> <p>ホ(1)(ii)-⑤蒸気タービンは、想定される環境条件において材料に及ぼす化学的及び物理的影響に対し、耐性を有する材料が用いられ、かつ、蒸気タービンの振動対策及び過速度対策を含み、十分な構造強度を有する設計とし、その運転状態を中央制御室及び現場において監視可能となるように設計する。</p>	<p>(2) 炉心で発生した高温、高圧の蒸気をタービンに導き、タービンを駆動させる。更にタービンを駆動させた後の蒸気を凝縮させて復水にし、復水を再び原子炉圧力容器に供給する。</p> <p>5.12 タービン設備 5.12.2 設計方針 <中略></p> <p>(4) 復水・給水系には、復水脱塩装置（ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置）を設け、高純度の給水を原子炉へ供給できるようにする。また、6段の給水加熱器を設け、給水を加熱する。</p> <p>(5) 復水脱塩装置は、復水中の核分裂生成物及び腐食生成物を除去し、復水の水質を次の値に保つことを目標とする。</p> <p>出口水質 C l⁻ 10ppb 以下 S_iO₂ 10ppb 以下 電導度 0.1 μS/cm 以下 (25℃)</p> <p>5.12.2 設計方針</p> <p>(1) タービン定格出力は、復水器真空度 722mmHg、補給水率 0.5%にて発電端で 820,000kW とする。</p> <p>蒸気タービンは、想定される環境条件において材料に及ぼす化学的及び物理的影響に対し、耐性を有する材料が用いられ、かつ、蒸気タービンの振動対策及び過速度対策を含み、十分な構造強度を有する設計とし、その運転状態を監視可能な設備を設ける。</p>	<p>3. 原子炉冷却材の循環設備 3.1 主蒸気系、復水給水系等</p> <p>炉心で発生した蒸気は、原子炉圧力容器内の気水分離器及び蒸気乾燥器を通した後、主蒸気管ホ(1)(ii)-④で蒸気タービンへ導く設計とする。</p> <p>なお、主蒸気管には、逃がし安全弁及び主蒸気隔離弁を取り付ける。</p> <p>蒸気タービンで仕事をした蒸気は、復水器で凝縮し、復水は、復水ポンプ、復水脱塩装置、復水昇圧ポンプ、低圧給水加熱器等を通り、給水ポンプにより加圧して高圧給水加熱器を通して発電用原子炉にもどす設計とする。</p> <p><中略></p> <p>復水・給水系には復水中の核分裂生成物及び腐食生成物を除去するために復水脱塩装置（ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置）を設け、高純度の給水を発電用原子炉へ供給できるようにする。また、6段の給水加熱器を設け、給水を加熱する設計とする。</p> <p>【蒸気タービン】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 蒸気タービン</p> <p>ホ(1)(ii)-⑤a 設計基準対象施設に施設する蒸気タービン及び蒸気タービンの附属設備は、想定される環境条件において、材料に及ぼす化学的及び物理的影響を考慮した設計とする。また、振動対策、過速度対策等各種の保護装置及び監視制御装置によって、運転状態の監視を行い、発電用原子炉施設の安全性を損なわないよう、以下の事項を考慮した設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-④と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-⑤a及びホ(1)(ii)-⑤bは、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-⑤と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>なお、炉心で発生した蒸気をタービンを通さず直接復水器に導くタービン・バイパス系をホ(1)(ii)-⑥設ける。</p>	<p>5.12.3 主要設備 5.12.3.1 蒸気タービン (4) タービン・バイパス系</p> <p>タービン・バイパス系は、主蒸気をタービンを通さずに直接復水器に導く配管及び弁で構成し、主蒸気定格流量の約 100%を処理する能力をもたせ、原子炉の起動時、停止時及び過渡状態での主蒸気圧力の調整を行う。</p>	<p>1.1 蒸気タービン本体 蒸気タービンの定格出力は、排気圧力真空度 96.3kPa、補給水率 0.5%にて、発電端で 820000kW となる設計とする。 定格熱出力一定運転の実施においても、蒸気タービン設備の保安が確保できるように定格熱出力一定運転を考慮した設計とする。 蒸気タービンは、非常调速装置が作動したときに達する回転速度、及びタービンの起動時及び停止過程を含む運転中に主要な軸受又は軸に発生しうる最大の振動に対して構造上十分なホ(1)(ii)-⑤b 機械的強度を有する設計とする。 ... <中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 原子炉冷却材の循環設備 3.1 主蒸気系，復水給水系等 <中略></p> <p>主蒸気管には、炉心で発生した蒸気をタービンを通さず直接復水器に導くタービンバイパス系をホ(1)(ii)-⑥設ける設計とする。 ... <中略></p> <p>タービンバイパス系は、原子炉の起動時、停止時及び過渡状態において、蒸気を直接復水器に導き、主蒸気定格流量の約 100%を処理できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-⑥と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、<u>ホ(1)(ii)-⑦</u>原子炉冷却材系の過度の圧力上昇を防止するため、<u>アクチュエータ作動の逃がし弁機能及びバネ作動の安全弁機能を有するホ(1)(ii)-⑧</u>主蒸気逃がし安全弁を<u>ホ(1)(ii)-⑨</u>主蒸気管に設け、蒸気をサブプレッション・チェンバのプール水中に導ける設計とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>本文（十号） <u>逃がし安全弁（逃がし弁機能）ホ(1)(ii)-⑩</u>にて、<u>原子炉冷却材圧力バウンダリの過度の圧力上昇を抑えるものとする。</u></p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(a)(a-5), ハ(2)(ii)b.(b)(b-5), ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-6), ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-6), ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-6), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-6), ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-6), ハ(2)(ii)b.(e)(e-7), ハ(2)(ii)b.(f)(f-5), ハ(2)(ii)c.(b)(b-9)</p> </div>	<p>5. 原子炉冷却系統施設 5.1 原子炉圧力容器及び一次冷却材設備 5.1.1 通常運転時等 5.1.1.4 主要設備 5.1.1.4.3 主蒸気系 5.1.1.4.3.3 逃がし安全弁</p> <p>逃がし安全弁は、原子炉冷却材圧力バウンダリの過度の圧力上昇を防止するため原子炉格納容器内の主蒸気管に取り付ける。排気は、排気管によりサブプレッション・プール水面下に導き凝縮するようにする。逃がし安全弁は、バネ式（アクチュエータ付）で、アクチュエータにより逃がし弁として作動させることもできるバネ式安全弁である。</p> <p>すなわち、逃がし安全弁は、バネ式の安全弁に、外部から強制的に開閉を行うアクチュエータを取り付けたもので、蒸気圧力がスプリングの設定圧力に達すると自動開放するほか、外部信号によってアクチュエータのピストンに窒素あるいは空気を供給して弁を強制的に開放することができる。</p> <p>逃がし安全弁は、12個からなり、次の機能を有している。 <中略></p>	<p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑧</u>逃がし安全弁は、アクチュエータ作動の逃がし弁機能及びバネ作動の安全弁機能を有し、蒸気をサブプレッションチェンバのプール水中に導き、<u>ホ(1)(ii)-⑦</u>原子炉冷却系統の過度の圧力上昇を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.1 主蒸気系、復水給水系等 <中略></p> <p>なお、<u>ホ(1)(ii)-⑨</u>主蒸気管には、<u>逃がし安全弁及び主蒸気隔離弁を取り付ける。</u></p> <p><中略></p> <p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p><u>逃がし安全弁は、アクチュエータ作動の逃がし弁機能及びバネ作動の安全弁機能ホ(1)(ii)-⑩を有し、蒸気をサブプレッションチェンバのプール水中に導き、原子炉冷却系統の過度の圧力上昇を防止できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(1)(ii)-⑦</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））<u>ホ(1)(ii)-⑦</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(1)(ii)-⑧</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））<u>ホ(1)(ii)-⑧</u>と同義であり、整合している。</p> <p>以下、同一の用語については、説明を省略する。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(1)(ii)-⑨</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））<u>ホ(1)(ii)-⑨</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(1)(ii)-⑩</u>は、設置変更許可申請書（本文（十号））<u>ホ(1)(ii)-⑩</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ホ(1)(ii)-⑪原子炉冷却材圧力バウンダリは、原子炉圧力容器及びそれに接続される配管系等から構成され、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、原子炉停止系等の作動等とあいまって、圧力及び温度変化に対し十分耐え、その健全性を確保する設計とする。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリに接続するホ(1)(ii)-⑫配管系には、適切に隔離弁を設ける設計とする。</p> <p>また、原子炉冷却材圧力バウンダリからのホ(1)(ii)-⑬原子炉冷却材の漏えいを早期に検出するため、漏えい監視設備を設ける。</p>	<p>5.1.1.4 主要設備</p> <p>5.1.1.4.4 弁類</p> <p><中略></p> <p>原子炉圧力容器及び一次冷却材設備に接続され、その一部が原子炉冷却材圧力バウンダリを形成する配管系に関して原則として、次のとおり隔離弁を設ける。</p> <p>a. 通常時開及び事故時閉の場合は2個の隔離弁</p> <p>b. 通常時開又は事故時開となるおそれがある通常時開及び事故時閉の場合は2個の隔離弁</p> <p>c. 通常時閉及び事故時閉のうちb.以外の場合は1個の隔離弁</p> <p>d. 通常時閉及び事故時開の非常用炉心冷却系等はa.に準じる。</p> <p>ここで「隔離弁」とは、自動隔離弁、逆止弁、通常時ロックされた閉止弁及び遠隔操作閉止弁をいう。</p>	<p>3.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ</p> <p>ホ(1)(ii)-⑪原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する機器は、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時に生ずる衝撃、炉心の反応度の変化による荷重の増加その他の原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する機器に加わる負荷に耐える設計とする。</p> <p>設計における衝撃荷重として、原子炉冷却材喪失事故に伴うジェット反力等、安全弁等の開放に伴う荷重を考慮するとともに、反応度が炉心に投入されることにより原子炉冷却系の圧力が増加することに伴う荷重の増加（浸水燃料の破損に加えて、ペレット／被覆管機械的相互作用を原因とする破損による衝撃圧力等に伴う荷重の増加を含む。）を考慮した設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.3 原子炉冷却材圧力バウンダリの隔離装置等</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリには、原子炉冷却材圧力バウンダリに接続するホ(1)(ii)-⑫配管等が破損することによって、原子炉冷却材の流出を制限するために配管系の通常運転時の状態及び使用目的を考慮し、適切に隔離弁を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>9. 原子炉格納容器内の原子炉冷却材漏えいを監視する装置</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリからの原子炉冷却材の漏えいホ(1)(ii)-⑬に対して、ドライウエル冷却装置凝縮水量、ドライウエル床ドレンサンプ水位、ドライウエル機器ドレンサンプ水位及びドライウエル内雰囲気放射性物質濃度の測定により検出する装置を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-⑪は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-⑪を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-⑫は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-⑫を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)-⑬は、設置変更許可申請書（本文（五号））ホ(1)(ii)-⑬を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉压力容器は、<u>ホ(1)(ii)-⑭</u>想定される重大事故等時において、<u>重大事故等対処設備として使用する。</u></p>	<p>5.1.2 重大事故等時 5.1.2.1 概要</p> <p>原子炉压力容器（炉心支持構造物を含む。）については、重大事故に至るおそれのある事故時において、<u>重大事故等対処設備としてその健全性を確保できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>4. 残留熱除去設備 4.1 残留熱除去系 4.1.2 原子炉停止時冷却モード</p> <p><中略></p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑭a</u> 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</u></p> <p><中略></p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.2 高圧炉心スプレイ系</p> <p><中略></p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑭b</u> 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p>高圧炉心スプレイ系の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物、原子炉格納容器（サブプレッションチェンバ）及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</u></p> <p><中略></p> <p>5.3 低圧炉心スプレイ系</p> <p><中略></p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑭c</u> <u>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧炉心スプレイ</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(1)(ii)-⑭a</u>～<u>ホ(1)(ii)-⑭h</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））<u>ホ(1)(ii)-⑭</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>系は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>低圧炉心スプレイ系は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、低圧炉心スプレイポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉圧力容器へスプレイすることで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本システムに使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>低圧炉心スプレイ系の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物、原子炉格納容器（サプレッションチェンバ）及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備として使用すること</u>から、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p> <p>5.4 高圧原子炉代替注水系</p> <p><中略></p> <p>ホ(1)(ii)-⑭d 高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する高圧原子炉代替注水系は、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉隔離時冷却系等を経由して、原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>高圧原子炉代替注水系の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備として使用すること</u>から、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5.5 原子炉隔離時冷却系</p> <p>ホ(1)(ii)-⑭e 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である原子炉隔離時冷却系が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>原子炉隔離時冷却系の流路として、設計基準対象施設で</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>ある原子炉压力容器，炉心支持構造物，原子炉压力容器内部構造物，原子炉格納容器（サブプレッションチェンバ）及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備</u>として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑭f</u> 原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であつて，設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため，発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備として，炉心の著しい損傷に至るまでの時間的余裕のない場合に対応するための低圧原子炉代替注水系（常設）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として，設計基準対象施設である原子炉压力容器，炉心支持構造物，原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備</u>として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>ホ(1)(ii)-⑭g</u> 原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であつて，設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため，発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備として，低圧原子炉代替注水系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として，設計基準対象施設である原子炉压力容器，炉心支持構造物，原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を<u>重大事故等対処設備</u>として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>5.8 ほう酸水注入系</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、事象進展抑制のための設備として、ほう酸水注入系を設ける設計とする。</p> <p><u>ホ(1)(ii)-④h</u> 高圧原子炉代替注水系及び原子炉隔離時冷却系を用いた発電用原子炉への高圧注水により原子炉水位を維持できない場合を想定した重大事故等対処設備として使用するほう酸水注入系は、ほう酸水注入ポンプにより、ほう酸水貯蔵タンクのほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで、重大事故等の進展を抑制できる設計とする。</p> <p>ほう酸水注入系の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																													
<p>a. 原子炉再循環系</p> <p>(a) ホ(1)(ii)a.(b)-①ループ数 2</p> <p>(b) 原子炉再循環ポンプ</p> <p>ホ(1)(ii)a.(b)-①台数 1/ループ</p> <p>容量 ホ(1)(ii)a.(b)-②約7,300m³/h/台</p>	<p>第 5.1-2 表 原子炉再循環系主要機器仕様</p> <p>(1) 再循環ポンプ</p> <p>形式 たて形うず巻式</p> <p>台数 2</p> <p>容量 約7,300m³/h/台</p> <p>材料</p> <p>ケーシング ステンレス鋼</p> <p>羽根 ステンレス鋼</p> <p>軸 ステンレス鋼</p> <p>電動機</p> <p>出力 約4,500kW</p> <p>回転数 約1,700rpm</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>原子炉冷却系統施設</p> <p>沸騰型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項</p> <p>3. 原子炉冷却材再循環設備に係る次の事項</p> <p>3.1 原子炉再循環系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、慣性定数又は回転速度半減時間、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数（インターナルポンプにあつては、原動機の冷却方式及び定格回転速度を付記すること。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); text-align: center;">ポンプ</td> <td>名称</td> <td colspan="2">原子炉再循環ポンプ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>うず巻形</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td>m³/h/個</td> <td>□以上(7380^{*2})</td> <td>ホ(1)(ii)a.(b)-②</td> </tr> <tr> <td>揚程^{*3}</td> <td>m</td> <td>□以上^{*4}(245^{*2})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>回転速度半減時間^{*4}</td> <td>s</td> <td>4.0以上(4.5^{*2})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>吸込側 8.62/吐出側 10.4^{*5, *6}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>302^{*5}</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>吸込内径^{*4}</td> <td>mm</td> <td>443^{*2}</td> </tr> <tr> <td>吐出内径^{*4}</td> <td>mm</td> <td>443^{*2}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>□(□^{*2})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法</td> <td>ケーシングカバー厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>□(□^{*2})</td> </tr> <tr> <td>横^{*4}</td> <td>mm</td> <td>687^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>ケーシング高さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>932^{*2}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">個数</td> <td>ボルト</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>ホ(1)(ii)a.(b)-①</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>4540</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載</p> <p>*2：公称値を示す。</p> <p>*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載</p> <p>*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「原子炉圧力容器からA-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプまで、A-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプから原子炉圧力容器まで」による。</p> <p>*6：S I 単位に換算したものである。</p>			変更前	変更後	ポンプ	名称	原子炉再循環ポンプ		種類	—	うず巻形	容量 ^{*1}	m ³ /h/個	□以上(7380 ^{*2})	ホ(1)(ii)a.(b)-②	揚程 ^{*3}	m	□以上 ^{*4} (245 ^{*2})		回転速度半減時間 ^{*4}	s	4.0以上(4.5 ^{*2})		最高使用圧力	MPa	吸込側 8.62/吐出側 10.4 ^{*5, *6}		最高使用温度	℃	302 ^{*5}		主要寸法	吸込内径 ^{*4}	mm	443 ^{*2}	吐出内径 ^{*4}	mm	443 ^{*2}	ケーシング厚さ ^{*4}	mm	□(□ ^{*2})	法	ケーシングカバー厚さ ^{*4}	mm	□(□ ^{*2})	横 ^{*4}	mm	687 ^{*2}	材料	ケーシング高さ ^{*4}	mm	932 ^{*2}	ケーシング	—	□	ケーシングカバー	—	□	個数	ボルト	—	□	個数	—	2	ホ(1)(ii)a.(b)-①	原動機	種類	—	誘導電動機	出力	kW/個	4540		個数	—	2	<p>変更なし</p>	
		変更前	変更後																																																																														
ポンプ	名称	原子炉再循環ポンプ																																																																															
	種類	—	うず巻形																																																																														
	容量 ^{*1}	m ³ /h/個	□以上(7380 ^{*2})	ホ(1)(ii)a.(b)-②																																																																													
	揚程 ^{*3}	m	□以上 ^{*4} (245 ^{*2})																																																																														
	回転速度半減時間 ^{*4}	s	4.0以上(4.5 ^{*2})																																																																														
	最高使用圧力	MPa	吸込側 8.62/吐出側 10.4 ^{*5, *6}																																																																														
	最高使用温度	℃	302 ^{*5}																																																																														
	主要寸法	吸込内径 ^{*4}	mm	443 ^{*2}																																																																													
		吐出内径 ^{*4}	mm	443 ^{*2}																																																																													
		ケーシング厚さ ^{*4}	mm	□(□ ^{*2})																																																																													
	法	ケーシングカバー厚さ ^{*4}	mm	□(□ ^{*2})																																																																													
		横 ^{*4}	mm	687 ^{*2}																																																																													
	材料	ケーシング高さ ^{*4}	mm	932 ^{*2}																																																																													
		ケーシング	—	□																																																																													
ケーシングカバー		—	□																																																																														
個数	ボルト	—	□																																																																														
	個数	—	2	ホ(1)(ii)a.(b)-①																																																																													
原動機	種類	—	誘導電動機																																																																														
	出力	kW/個	4540																																																																														
	個数	—	2																																																																														
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)a.(b)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)a.(b)-①を詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)a.(b)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)a.(b)-②を詳細に記載しており、整合している。 																																																																																	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																												
<p>(c) ホ(1)(ii)a.(c)-①原子炉再循環配管</p> <p>材料 ホ(1)(ii)a.(c)-②ステンレス鋼</p> <p>内径 ホ(1)(ii)a.(c)-③約0.44m (主配管) 約0.23m (ライザ管)</p>	<p>(2) 再循環配管</p> <p>ループ数 2</p> <p>材料 ステンレス鋼</p> <p>内径 約0.44m (主配管) 約0.23m (ライザ管)</p>	<p>(3) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th rowspan="2">材 料</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>523.0</td> <td>33.7^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>26.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード入口ライン分岐部^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>570.0</td> <td>57.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード入口ライン分岐部</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>570.0</td> <td>57.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>26.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側)^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>508.0^{**}</td> <td>26.2^{*1}**</td> <td>SUSF316^{**}</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側)</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>A-原子炉再循環ポンプ^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>508.0^{**}</td> <td>30.5^{*1}**</td> <td>SUSF316^{**}</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器</td> <td></td> <td></td> <td>523.0</td> <td>33.7^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>26.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側)^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>508.0</td> <td>26.2^{*1}</td> <td>SUS316TP</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側)</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUS316TP</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0^{**}</td> <td>30.5^{*1}**</td> <td>SUSF316^{**}</td> </tr> <tr> <td>B-原子炉再循環ポンプ^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>508.0^{**}</td> <td>30.5^{*1}**</td> <td>SUSF316^{**}</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード入口ライン分岐部^{*7}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>502.8</td> <td>29.4^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>457.2</td> <td>29.4^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> </tbody> </table>	名	変更前		変更後		材 料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	原子炉圧力容器	8.62 ^{*3}	302	523.0	33.7 ^{*1}	SUSF316	～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316	停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*2}			570.0	57.2 ^{*1}	SUSF316	停止時冷却モード入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	570.0	57.2 ^{*1}	SUSF316	～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側) ^{*2}			508.0 ^{**}	26.2 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側)	8.62 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316	～			508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316	A-原子炉再循環ポンプ ^{*2}			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}	原子炉圧力容器			523.0	33.7 ^{*1}	SUSF316	～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側) ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	508.0	26.2 ^{*1}	SUS316TP	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側)			508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP	～			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}	B-原子炉再循環ポンプ ^{*2}			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}	停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*7}	8.62 ^{*3}	302	502.8	29.4 ^{*1}	SUSF316	～			457.2	29.4 ^{*1}	SUSF316	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th rowspan="2">材 料</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力容器</td> <td>8.98^{*5}</td> <td>304^{*5}</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード入口ライン分岐部^{*5}</td> <td>8.98^{*5}</td> <td>304^{*5}</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	名	変更前		変更後		材 料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	原子炉圧力容器	8.98 ^{*5}	304 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし	～			変更なし	変更なし	変更なし	停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*5}	8.98 ^{*5}	304 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし	<p>ホ(1)(ii)a.(c)-②a 変更なし</p>
名	変更前			変更後		材 料																																																																																																																																										
	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)																																																																																																																																												
原子炉圧力容器	8.62 ^{*3}	302	523.0	33.7 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*2}			570.0	57.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
停止時冷却モード入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	570.0	57.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側) ^{*2}			508.0 ^{**}	26.2 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}																																																																																																																																											
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側)	8.62 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
A-原子炉再循環ポンプ ^{*2}			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}																																																																																																																																											
原子炉圧力容器			523.0	33.7 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			508.0	26.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側) ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	508.0	26.2 ^{*1}	SUS316TP																																																																																																																																											
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側)			508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP																																																																																																																																											
～			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}																																																																																																																																											
B-原子炉再循環ポンプ ^{*2}			508.0 ^{**}	30.5 ^{*1} **	SUSF316 ^{**}																																																																																																																																											
停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*7}	8.62 ^{*3}	302	502.8	29.4 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			457.2	29.4 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
名	変更前		変更後		材 料																																																																																																																																											
	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)																																																																																																																																												
原子炉圧力容器	8.98 ^{*5}	304 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																											
～			変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																											
停止時冷却モード入口ライン分岐部 ^{*5}	8.98 ^{*5}	304 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																											
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)a.(c)-①a及びホ(1)(ii)a.(c)-①bは、設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のホ(1)(ii)a.(c)-①と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)a.(c)-②a及びホ(1)(ii)a.(c)-②bは、設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のホ(1)(ii)a.(c)-②と同義であり、整合している。 ホ(1)(ii)a.(c)-③ : 523.0mm (外形) - 2×33.7mm (厚さ) = 455.6mm ≒ 0.44m 508.0mm (外形) - 2×26.2mm (厚さ) = 455.6mm ≒ 0.44m 508.0mm (外形) - 2×30.5mm (厚さ) = 447.0mm ≒ 0.44m 570.0mm (外形) - 2×57.2mm (厚さ) = 455.6mm ≒ 0.44m 267.4mm (外形) - 2×18.2mm (厚さ) = 231.0mm ≒ 0.23m 		<p>ホ(1)(ii)a.(c)-③a</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th rowspan="2">材 料</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側)^{**}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>215.0</td> <td>35.9^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>165.2</td> <td>11.0^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側)^{**}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>215.0</td> <td>35.9^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>165.2</td> <td>11.0^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>原子炉再循環ポンプ</td> <td>10.4^{*3}</td> <td>302</td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUS316TP</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUS316TP</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード戻りライン合流部^{*10}</td> <td></td> <td></td> <td>550.0</td> <td>51.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード戻りライン合流部</td> <td>10.4^{*3}</td> <td>302</td> <td>508.0</td> <td>30.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>550.0</td> <td>51.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器^{*10}</td> <td>10.4^{*3}</td> <td>302</td> <td>406.4</td> <td>27.0^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>450.0</td> <td>48.8^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>267.4</td> <td>18.2^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>310.0</td> <td>39.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>停止時冷却モード戻りライン合流部^{*11}</td> <td>10.4^{*3}</td> <td>302</td> <td>267.4</td> <td>18.2^{*1}</td> <td>SUS316TP</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> <td>310.0</td> <td>39.5^{*1}</td> <td>SUSF316</td> </tr> </tbody> </table>	名	変更前		変更後		材 料	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側) ^{**}	8.62 ^{*3}	302	215.0	35.9 ^{*1}	SUSF316	～			165.2	11.0 ^{*1}	SUSF316	原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側) ^{**}	8.62 ^{*3}	302	215.0	35.9 ^{*1}	SUSF316	～			165.2	11.0 ^{*1}	SUSF316	原子炉再循環ポンプ	10.4 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP	～			508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP	停止時冷却モード戻りライン合流部 ^{*10}			550.0	51.5 ^{*1}	SUSF316	停止時冷却モード戻りライン合流部	10.4 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316	～			550.0	51.5 ^{*1}	SUSF316	原子炉圧力容器 ^{*10}	10.4 ^{*3}	302	406.4	27.0 ^{*1}	SUSF316	～			450.0	48.8 ^{*1}	SUSF316	～			267.4	18.2 ^{*1}	SUSF316	～			310.0	39.5 ^{*1}	SUSF316	停止時冷却モード戻りライン合流部 ^{*11}	10.4 ^{*3}	302	267.4	18.2 ^{*1}	SUS316TP	～			310.0	39.5 ^{*1}	SUSF316	<p>ホ(1)(ii)a.(c)-②b</p>																																								
名	変更前		変更後		材 料																																																																																																																																											
	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)																																																																																																																																												
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (A-再循環ループ側) ^{**}	8.62 ^{*3}	302	215.0	35.9 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			165.2	11.0 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
原子炉浄化系入口ライン分岐部 (B-再循環ループ側) ^{**}	8.62 ^{*3}	302	215.0	35.9 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			165.2	11.0 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
原子炉再循環ポンプ	10.4 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP																																																																																																																																											
～			508.0	30.5 ^{*1}	SUS316TP																																																																																																																																											
停止時冷却モード戻りライン合流部 ^{*10}			550.0	51.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
停止時冷却モード戻りライン合流部	10.4 ^{*3}	302	508.0	30.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			550.0	51.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
原子炉圧力容器 ^{*10}	10.4 ^{*3}	302	406.4	27.0 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			450.0	48.8 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			267.4	18.2 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
～			310.0	39.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
停止時冷却モード戻りライン合流部 ^{*11}	10.4 ^{*3}	302	267.4	18.2 ^{*1}	SUS316TP																																																																																																																																											
～			310.0	39.5 ^{*1}	SUSF316																																																																																																																																											
		<p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載</p> <p>注記*1：公称値を示す。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器からA-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプまで」と記載</p> <p>*3：S I 単位に換算したものである。</p> <p>*4：残留熱除去設備 (残留熱除去系) と兼用</p> <p>*5：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*6：エルボを示す。</p> <p>*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器からA-原子炉再循環ポンプまで」の分岐点から残留熱除去系の取合点まで」と記載</p> <p>*8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-1-1-1 管の基本板厚計算書」による。</p> <p>*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器からA-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプまで」の分岐点から原子炉浄化系との取合点まで」と記載</p> <p>*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「A-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプから原子炉圧力容器まで」と記載</p> <p>*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系との取合点から「A-原子炉再循環ポンプ及びB-原子炉再循環ポンプから原子炉圧力容器まで」の合流点まで」と記載</p>																																																																																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																			
<p>(d) <u>ジェット・ポンプ</u></p> <p>台 数 ホ(1)(ii)a.(d)-①10/ループ</p> <p>容 量 約 2,400m³/h/台</p>	<p>第 3.2-2 表 炉内構造物主要機器仕様</p> <p>(3) <u>ジェット・ポンプ</u>（定格出力，定格炉心流量において）</p> <p>台 数 20</p> <p>流 量 約 2,400m³/h/台</p> <p>駆動流体流量 約 710m³/h/台</p> <p>流 量 比^(注1) 約 2.3</p> <p>ノズル直径 約 30mm（ジェット・ポンプ 1 台当たりノズル 5 個）</p> <p style="text-align: center;">(注 1) 流量比 = $\frac{\text{流量} - \text{駆動流体流量}}{\text{駆動流体流量}}$</p>	<p>【原子炉本体】 (要目表)</p> <p>7. 原子炉圧力容器に係る次の事項 (4) 原子炉圧力容器内部構造物に係る次の事項</p> <p style="text-align: center;">ニ ジェットポンプの名称，種類，主要寸法，材料及び個数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変 更 前</th> <th style="width: 10%;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名 称</td> <td>ジェットポンプ</td> <td>ジェットポンプ*1</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>流体噴射駆動式</td> <td rowspan="8" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td rowspan="8" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主 要 小 法</td> <td>ノ ズ ル 内 径</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>混 合 室 内 径</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>混 合 室 全 長</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>デ ィ フ ユ ー ザ 全 長*3</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>ラ イ ザ 外 径*4</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>ラ イ ザ 厚 さ*4</td> <td>mm □ (□*2)</td> </tr> <tr> <td>デ ィ フ ユ ー ザ 外 径*4</td> <td>mm □*2</td> </tr> <tr> <td>デ ィ フ ユ ー ザ 厚 さ*4</td> <td>mm □ (□*2)</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>—</td> <td>SUS316L, SUS316LTP, SCS19A, NCF600-B</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>20 ホ(1)(ii)a.(d)-①</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）と兼用 *2：公称値を示す。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 60 年 12 月 25 日付け 60 資庁第 11431 号にて認可された工事計画の添付書類IV-3-1-2-7「ジェットポンプの応力計算書」による。</p>			変 更 前	変 更 後	名 称		ジェットポンプ	ジェットポンプ*1	種 類	—	流体噴射駆動式	変 更 な し	主 要 小 法	ノ ズ ル 内 径	mm □ *2	混 合 室 内 径	mm □ *2	混 合 室 全 長	mm □ *2	デ ィ フ ユ ー ザ 全 長*3	mm □ *2	ラ イ ザ 外 径*4	mm □ *2	ラ イ ザ 厚 さ*4	mm □ (□ *2)	デ ィ フ ユ ー ザ 外 径*4	mm □ *2	デ ィ フ ユ ー ザ 厚 さ*4	mm □ (□ *2)	材 料	—	SUS316L, SUS316LTP, SCS19A, NCF600-B	個 数	—	20 ホ(1)(ii)a.(d)-①		
		変 更 前	変 更 後																																				
名 称		ジェットポンプ	ジェットポンプ*1																																				
種 類	—	流体噴射駆動式	変 更 な し																																				
主 要 小 法	ノ ズ ル 内 径	mm □ *2																																					
	混 合 室 内 径	mm □ *2																																					
	混 合 室 全 長	mm □ *2																																					
	デ ィ フ ユ ー ザ 全 長*3	mm □ *2																																					
	ラ イ ザ 外 径*4	mm □ *2																																					
	ラ イ ザ 厚 さ*4	mm □ (□ *2)																																					
	デ ィ フ ユ ー ザ 外 径*4	mm □ *2																																					
	デ ィ フ ユ ー ザ 厚 さ*4	mm □ (□ *2)																																					
材 料	—	SUS316L, SUS316LTP, SCS19A, NCF600-B																																					
個 数	—	20 ホ(1)(ii)a.(d)-①																																					
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)a.(d)-①は原子炉再循環ループ数が2ループで，20 個の構成であることを示しており，設置変更許可申請書（本文（五号））の，ホ(1)(ii)a.(d)-①と同義であり，整合している。 ・設置変更許可申請書（本文（五号））の「ジェットポンプの容量」は，新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。 																																							

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																																																								
<p>b. 主蒸気系</p> <p>(a) 主蒸気管本数 ホ(1)(ii)b.(a)-① 4</p> <p>(b) 主蒸気管</p> <p>材 料 ホ(1)(ii)b.(b)-① 炭素鋼</p> <p>内 径 ホ(1)(ii)b.(b)-② 約0.55m</p>	<p>第 5.1-3 表 主蒸気系主要機器仕様</p> <p>(1) 主蒸気管</p> <p>本 数 4</p> <p>材 料 炭素鋼</p> <p>内 径 約0.55m</p>	<p>(S) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉压力容器</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS42</td> <td>原子炉压力容器</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS42</td> </tr> <tr> <td>D-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>D-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>D-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>D-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>C-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>C-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>C-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>C-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>B-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>B-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>B-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>B-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>A-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>A-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>A-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>A-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>原子炉压力容器</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS42</td> <td>原子炉压力容器</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS42</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>627.8</td> <td>10.0^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>627.8</td> <td>10.0^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>F-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>F-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>F-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>F-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>E-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>E-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>E-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>E-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	原子炉压力容器			609.6	30.9 ^{*1}	STS42	原子炉压力容器			609.6	30.9 ^{*1}	STS42	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	原子炉压力容器	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS42	原子炉压力容器	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS42	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部			627.8	10.0 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部			627.8	10.0 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	<p>変更後</p> <p>ホ(1)(ii)b.(b)-①a</p>	
変更前						変更後																																																																																																																																																																																																																						
名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料																																																																																																																																																																																																																	
原子炉压力容器			609.6	30.9 ^{*1}	STS42	原子炉压力容器			609.6	30.9 ^{*1}	STS42																																																																																																																																																																																																																	
D-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
D-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	D-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
C-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
C-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	C-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
B-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
B-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	B-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
A-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
A-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
原子炉压力容器	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS42	原子炉压力容器	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS42																																																																																																																																																																																																																	
原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
原子炉隔離時冷却系分岐部			627.8	10.0 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部			627.8	10.0 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
F-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
F-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B	F-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
E-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
E-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49	E-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉压力容器</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS42</td> <td>原子炉压力容器</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS42</td> </tr> <tr> <td>H-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>H-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>H-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>H-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>G-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>G-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>G-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>G-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>原子炉压力容器</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS42</td> <td>原子炉压力容器</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS42</td> </tr> <tr> <td>M-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>M-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>M-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>M-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>I-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>I-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>I-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>I-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>K-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>K-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>K-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>K-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>J-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>J-逃がし安全弁入口ライン分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>J-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> <td>J-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td></td> <td></td> <td>609.6</td> <td>30.9</td> <td>STS49</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	原子炉压力容器			609.6	30.9	STS42	原子炉压力容器			609.6	30.9	STS42	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	原子炉压力容器	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS42	原子炉压力容器	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS42	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}			609.6	30.9	STS49	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}			609.6	30.9	STS49	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	<p>ホ(1)(ii)b.(b)-①b</p>																									
変更前						変更後																																																																																																																																																																																																																						
名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料																																																																																																																																																																																																																	
原子炉压力容器			609.6	30.9	STS42	原子炉压力容器			609.6	30.9	STS42																																																																																																																																																																																																																	
H-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
H-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	H-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
G-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
G-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	G-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
原子炉压力容器	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS42	原子炉压力容器	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS42																																																																																																																																																																																																																	
M-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}			609.6	30.9	STS49	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
M-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	M-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
I-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
I-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	I-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
K-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
K-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	K-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
J-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
J-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49	J-逃がし安全弁入口ライン分岐部			609.6	30.9	STS49																																																																																																																																																																																																																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>名</th> <th>最高使用圧 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>609.6</td> <td>30.9^{*1}</td> <td>STS49</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>114.3</td> <td>11.1^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁^{*2}</td> <td></td> <td></td> <td>114.3</td> <td>11.1^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部^{*2}</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>114.3</td> <td>11.1^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>原子炉隔離時冷却系分岐部^{*2}</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>114.3</td> <td>11.1^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>216.3</td> <td>28.15^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td>A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部</td> <td>8.98^{*4}</td> <td>304^{*1}</td> <td>216.3</td> <td>28.15^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁^{*3}</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>逃がし安全弁^{*3}</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁 ^{*2}			114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁 ^{*2}			114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	216.3	28.15 ^{*1}	SFVC2B	A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	216.3	28.15 ^{*1}	SFVC2B	逃がし安全弁 ^{*3}						逃がし安全弁 ^{*3}						<p>ホ(1)(ii)b.(b)-①c</p>																																																																																																																																					
変更前						変更後																																																																																																																																																																																																																						
名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料																																																																																																																																																																																																																	
A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	609.6	30.9 ^{*1}	STS49	A, E, G, J-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	609.6	30.9 ^{*1}	STS49																																																																																																																																																																																																																	
原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁 ^{*2}			114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	原子炉格納容器外側主蒸気隔離弁 ^{*2}			114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}	8.62 ^{*3}	302	114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B	原子炉隔離時冷却系分岐部 ^{*2}	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	114.3	11.1 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.62 ^{*3}	302	216.3	28.15 ^{*1}	SFVC2B	A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M-逃がし安全弁入口ライン分岐部	8.98 ^{*4}	304 ^{*1}	216.3	28.15 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																																																																																																																	
逃がし安全弁 ^{*3}						逃がし安全弁 ^{*3}																																																																																																																																																																																																																						

整合性

- 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(a)-①a～ホ(1)(ii)b.(a)-①dは, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のホ(1)(ii)b.(a)-①を詳細に記載しており, 整合している。
- 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(b)-①a及びホ(1)(ii)b.(b)-①dは, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のホ(1)(ii)b.(b)-①と同義であり, 整合している。
- ホ(1)(ii)b.(b)-②: 609.6mm (外形) -2×30.9mm (厚さ) =547.8mm≒0.55m

設置変更許可申請書 (本文 (五号))		設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項		設計及び工事の計画 該当事項					整合性		備考					
				変更前					変更後							
				名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	
				主蒸気系 逃がし安全弁 (自動減圧機能) ～ 格納容器配管貫通部 (貫通部番号 X-280A, D, F, G, J, M) *9	3.73*3	250	267.4	15.1*1	STPT42	変更なし						
							267.4	15.1*1	STPT42							
							/267.4	/15.1*1	STPT42							
				主蒸気系 格納容器配管貫通部 (貫通部番号 X-280A, D, F, G, J, M) ～ サブプレッションチェンバ内排気管*9	3.73*3	250	267.4	15.1*1	STPT42							
							323.8	□*6 (17.4*1)	SCS19							
				変更前					変更後							
				名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料		名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
				主蒸気系 逃がし安全弁 (自動減圧機能を有するものを除く) ～ 格納容器配管貫通部 (貫通部番号 X-280B, C, E, H, K, L) *11 格納容器配管貫通部 (貫通部番号 X-280B, C, E, H, K, L) ～ サブプレッションチェンバ内排気管*11	—	—	267.4	15.1*1	STPT42		変更なし					
267.4*10	15.1*1, *10	STPT42*10														
267.4	15.1*1	STPT42														
/267.4	/15.1*1	STPT42														
/—	/—	STPT42														
主蒸気系 格納容器配管貫通部 (貫通部番号 X-280B, C, E, H, K, L) ～ サブプレッションチェンバ内排気管*11	3.73*4	250*4	267.4	15.1*1	STPT42											
			323.8	□ (17.4*1)	SCS19											

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径*1 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径*1 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">主蒸気系 逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部*12</td> <td rowspan="3">1.77*3</td> <td rowspan="3">171</td> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="12">主蒸気系 変更なし</td> <td rowspan="12">変更なし</td> <td rowspan="12"></td> <td rowspan="12"></td> <td rowspan="12"></td> <td rowspan="12"></td> </tr> <tr> <td>57.0</td> <td>□ (6.9*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>60.5</td> <td>□ (12.5*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12</td> <td rowspan="6">1.77*3</td> <td rowspan="6">171</td> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>□ (7.85*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>40.0</td> <td>0.45*1×1*13</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS316LTP</td> </tr> <tr> <td>60.5</td> <td>3.9*1</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td>60.5</td> <td>□ (12.5*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>57.0</td> <td>□ (6.9*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	主蒸気系 逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系 変更なし	変更なし					57.0	□ (6.9*1)	SUS304	60.5	□ (12.5*1)	SUS304	窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	42.7	□ (7.85*1)	SUS304	40.0	0.45*1×1*13	SUS304	42.7	4.9*1	SUS316LTP	60.5	3.9*1	SUS304TP	60.5	□ (12.5*1)	SUS304				57.0	□ (6.9*1)	SUS304								
変更前						変更後																																																																									
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料																																																																				
主蒸気系 逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系 変更なし	変更なし																																																																								
			57.0	□ (6.9*1)	SUS304																																																																										
			60.5	□ (12.5*1)	SUS304																																																																										
窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP																																																																										
			42.7	□ (7.85*1)	SUS304																																																																										
			40.0	0.45*1×1*13	SUS304																																																																										
			42.7	4.9*1	SUS316LTP																																																																										
			60.5	3.9*1	SUS304TP																																																																										
			60.5	□ (12.5*1)	SUS304																																																																										
			57.0	□ (6.9*1)	SUS304																																																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径*1 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径*1 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">主蒸気系 逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部*12</td> <td rowspan="3">1.77*3</td> <td rowspan="3">171</td> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS304TP</td> <td rowspan="12">主蒸気系 変更なし</td> <td rowspan="12">変更なし</td> <td rowspan="12">2.20*4</td> <td rowspan="12">200*4</td> <td rowspan="12">43.2*11, *15</td> <td rowspan="12">6.2*11, *15</td> <td rowspan="12">SUS304*11</td> </tr> <tr> <td colspan="3">—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS316LTP</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12</td> <td rowspan="6">1.77*3</td> <td rowspan="6">171</td> <td colspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS316LTP</td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>□ (7.85*1)</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>40.0</td> <td>0.45*1×1*13</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>42.7</td> <td>4.9*1</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変更前									変更後						名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	主蒸気系 逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系 変更なし	変更なし	2.20*4	200*4	43.2*11, *15	6.2*11, *15	SUS304*11	—					42.7	4.9*1	SUS316LTP	窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12	1.77*3	171	—			42.7	4.9*1	SUS316LTP	42.7	□ (7.85*1)	SUS304	40.0	0.45*1×1*13	SUS304	42.7	4.9*1	SUS304TP				—							
変更前												変更後																																																																			
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料																																																																				
主蒸気系 逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部*12	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系 変更なし	変更なし	2.20*4	200*4	43.2*11, *15	6.2*11, *15	SUS304*11																																																																			
			—																																																																												
			42.7	4.9*1	SUS316LTP																																																																										
窒素ガス供給ライン逃がし安全弁逃がし弁機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*12	1.77*3	171	—																																																																												
			42.7	4.9*1	SUS316LTP																																																																										
			42.7	□ (7.85*1)	SUS304																																																																										
			40.0	0.45*1×1*13	SUS304																																																																										
			42.7	4.9*1	SUS304TP																																																																										
													—																																																																		

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項					整合性					備考		
		変更前					変更後							
		名	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
		原子炉格納容器外側 主蒸気隔離弁 ～ 主蒸気ヘッド*16	8.62*3	302	609.6	30.9*1	STS49							
					609.6	□*17(30.9*1)	SB49	変更なし						
					609.6	□*17(30.9*1)	SF50A	ホ(1)(ii)b.(b)-①d						
					695.8	□*17(74.0*1)	SF50A							
		主蒸気ヘッド	8.62*3	302	609.6	□*17(30.9*1)	SF50A	変更なし						
		主蒸気ヘッド ～ 主蒸気止め弁*16	8.62*3	302	609.6	□*17(30.9*1)	SF50A	ホ(1)(ii)b.(b)-②d						
					609.6	□*17(30.9*1)	SB49							
		主蒸気系 主蒸気ヘッド ～ タービンバイパス弁 *18	8.62*3	302	1178.0	□*17(108.0*1)	SF50A	変更なし						
					1066.8	□*17(52.4*1)	SF50A							
					1066.8	□*17(52.4*1)	SB49							
					1118.0	□*17(78.0*1)	SB49							
					609.8	□*17(54.0*1)	SF50A							
					558.8	□*17(28.5*1)	SF50A							
					558.8	□*17(28.5*1)	SB49							
		タービンバイパス弁 ～ タービンバイパス減 圧管	5.88*3	275	406.4	21.4*1	STPT49	変更なし						
		変更前					変更後							
		名	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
		主蒸気系 主蒸気ヘッド ～ 弁MV202-201*19	8.62*3	302	194.0	□*17(28.7*1)	SF50A	変更なし						
					165.2	□*17(14.3*1)	SF50A							
					165.2	14.3*1	STPT42							
		<p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載</p> <p>注記*1：公称値を示す。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器から原子炉格納容器外側の主蒸気隔離弁まで」と記載</p> <p>*3：S I 単位に換算したものである。</p> <p>*4：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*5：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧原子炉代替注水系、原子炉隔離時冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（高圧原子炉代替注水系）と兼用</p> <p>*6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-2-1-1 管の基本板厚計算書」による。</p> <p>*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器から原子炉格納容器外側の主蒸気隔離弁まで」の分岐点から原子炉隔離時冷却系との取合点まで」と記載</p> <p>*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器から原子炉格納容器外側の主蒸気隔離弁まで」の分岐点から逃がし安全弁まで」と記載</p> <p>*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「逃がし安全弁（自動減圧機能）からサブプレッションチェンバ内の排気管まで」と記載</p> <p>*10：エルボを示す。</p> <p>*11：本設備は既存の設備である。</p>												

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																														
<p>(c) <u>主蒸気流量制限器</u></p> <p>個数 <u>ホ(1)(ii)b.(c)-①</u> 1 (主蒸気管1本当たり)</p> <p>容量 <u>ホ(1)(ii)b.(c)-②</u> 200% (主蒸気定格流量に対し)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>流出流量は、主蒸気流量制限器により定格流量の200%に制限されるとする。</p> <p>・記載箇所</p> <p>口(2)(iii)b.(d)</p> </div>	<p>(2) <u>主蒸気流量制限器</u></p> <p>個数 1 (主蒸気管1本当たり)</p> <p>容量 200% (定格蒸気流量に対し)</p> <p>材料 ステンレス鋼</p>	<p>(5) 主蒸気流量制限器（改良型沸騰水型発電用原子炉施設に係るものを除く。）の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、制限流量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>主蒸気流量制限器</td> <td colspan="4"></td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>ベンチュリ形</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa 8.62^{*1}</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃ 302</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>制限流量</td> <td>定格流量の200%</td> <td colspan="4">ホ(1)(ii)b.(c)-②</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>管外径</td> <td>mm 609.6</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>管厚さ^{*2}</td> <td>mm (30.9^{*3})</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>管</td> <td colspan="4">STS49</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>1</td> <td colspan="4">ホ(1)(ii)b.(c)-①</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>A-主蒸気流量制限器^{*2} (A-主蒸気系)</td> <td>B-主蒸気流量制限器^{*2} (B-主蒸気系)</td> <td>C-主蒸気流量制限器^{*2} (C-主蒸気系)</td> <td>D-主蒸気流量制限器^{*2} (D-主蒸気系)</td> </tr> <tr> <td>設置床 溢水防護上の区画番号</td> <td>原子炉格納容器内 EL 1530mm^{*2}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 1530mm^{*2}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 1530mm^{*2}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 1530mm^{*2}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：S I単位に換算したものである。 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *3：公称値を示す。</p>			変更前				変更後	名称	主蒸気流量制限器					変更なし	種類	ベンチュリ形					最高使用圧力	MPa 8.62 ^{*1}					最高使用温度	℃ 302					制限流量	定格流量の200%	ホ(1)(ii)b.(c)-②				主要寸法	管外径	mm 609.6				管厚さ ^{*2}	mm (30.9 ^{*3})				材料	管	STS49				個数	1	ホ(1)(ii)b.(c)-①				取付箇所	系統名 (ライン名)	A-主蒸気流量制限器 ^{*2} (A-主蒸気系)	B-主蒸気流量制限器 ^{*2} (B-主蒸気系)	C-主蒸気流量制限器 ^{*2} (C-主蒸気系)	D-主蒸気流量制限器 ^{*2} (D-主蒸気系)	設置床 溢水防護上の区画番号	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—				<p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(c)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)b.(c)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(c)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)b.(c)-②と同義であり、整合している。</p>	
		変更前				変更後																																																																												
名称	主蒸気流量制限器					変更なし																																																																												
種類	ベンチュリ形																																																																																	
最高使用圧力	MPa 8.62 ^{*1}																																																																																	
最高使用温度	℃ 302																																																																																	
制限流量	定格流量の200%	ホ(1)(ii)b.(c)-②																																																																																
主要寸法	管外径	mm 609.6																																																																																
	管厚さ ^{*2}	mm (30.9 ^{*3})																																																																																
材料	管	STS49																																																																																
個数	1	ホ(1)(ii)b.(c)-①																																																																																
取付箇所	系統名 (ライン名)	A-主蒸気流量制限器 ^{*2} (A-主蒸気系)	B-主蒸気流量制限器 ^{*2} (B-主蒸気系)	C-主蒸気流量制限器 ^{*2} (C-主蒸気系)	D-主蒸気流量制限器 ^{*2} (D-主蒸気系)																																																																													
	設置床 溢水防護上の区画番号	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}	原子炉格納容器内 EL 1530mm ^{*2}																																																																													
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—																																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																															
<p>(d) 主蒸気隔離弁</p> <p>個 数 ホ(1)(ii)b.(d)-①a 2 (主蒸気管1本当たり)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>本文（十号）</p> <p>ホ(1)(ii)b.(d)-①b 8個の主蒸気隔離弁のうち</p> <p>・記載箇所</p> <p>ロ(2)(iii)b.(n)</p> </div> <p>取付位置 ホ(1)(ii)b.(d)-② ドライウェル貫通部前後</p> <p>閉鎖時間 ホ(1)(ii)b.(d)-③ 3～5秒</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>本文（十号）</p> <p>主蒸気隔離弁閉止時間 3秒</p> <p>・記載箇所</p> <p>イ(2)(i)d.(c), イ(2)(ii)c.(b)a)</p> </div> <p>漏えい率 10%/d/個以下</p> <p style="margin-left: 20px;">逃がし安全弁最低設定圧力において原子炉圧力容器蒸気相の体積に対し、飽和蒸気で</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>本文（十号）</p> <p>各主蒸気隔離弁の閉止直後の漏えい率は、設計漏えい率 10%/d (逃がし安全弁の最低設定圧力において、圧力容器気相体積に対し、飽和蒸気で) とし、</p> <p>・記載箇所</p> <p>ロ(2)(iii)b.(n)</p> </div>	<p>(3) 主蒸気隔離弁</p> <p>形 式 玉形弁</p> <p>個 数 2 (主蒸気管1本当たり)</p> <p>駆動方式 窒素又は空気及びスプリング</p> <p>閉鎖時間 3～5秒</p> <p>漏えい率 10%/d/個以下</p> <p style="margin-left: 20px;">(逃がし安全弁最低設定圧力において圧力容器蒸気相の体積に対し、飽和蒸気で)</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.1 主蒸気系、復水給水系等</p> <p><中略></p> <p>なお、ホ(1)(ii)b.(d)-②主蒸気管には、逃がし安全弁及び主蒸気隔離弁を取り付ける。</p> <p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項</p> <p>4.1 主蒸気系</p> <p><small>(7) 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取付箇所（主蒸気隔離弁にあっては、閉止時間及び漏えい率を付記すること。）</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>AV202-1A, B, C, D^{*1}</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ホ(1)(ii)b.(d)-①a</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>止め弁</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa 8.62^{*2, *3}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃ 302^{*2}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主 要 寸 法</td> <td>呼 び 径 (A)</td> <td>600</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁 箱 厚 さ^{*4}</td> <td>mm □ 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>弁 箱</td> <td>□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁 箱 厚 さ^{*4}</td> <td>mm □ 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>弁 箱</td> <td>□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁 箱 厚 さ^{*4}</td> <td>mm □</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆 動 方 法</td> <td>空気作動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>閉 止 時 間^{*4}</td> <td>s 3~4.5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ホ(1)(ii)b.(d)-③a</td> <td></td> </tr> <tr> <td>漏 え い 率^{*1}</td> <td>%/d/個 10以下 (主蒸気逃がし安全弁 (逃がし弁機構) 最低設定圧力において、原子炉圧力容器蒸気相の体積に対し、飽和蒸気で)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>AV202-1A^{*4} (A-主蒸気系)</td> <td>AV202-1B^{*4} (B-主蒸気系)</td> <td>AV202-1C^{*4} (C-主蒸気系)</td> <td>AV202-1D^{*4} (D-主蒸気系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉格納容器内 EL 15300mm^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">箇 所</td> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気隔離弁」と記載</small></p> <p><small>*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「原子炉圧力容器から原子炉格納容器外側の主蒸気隔離弁まで」による。</small></p> <p><small>*3：S 1 単位に換算したものである。</small></p> <p><small>*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</small></p>			変 更 前	変 更 後	名 称	AV202-1A, B, C, D ^{*1}	ホ(1)(ii)b.(d)-①a		種 類	止め弁			最 高 使 用 圧 力	MPa 8.62 ^{*2, *3}			最 高 使 用 温 度	℃ 302 ^{*2}			主 要 寸 法	呼 び 径 (A)	600		弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □ 以上		材 料	弁 箱	□		弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □ 以上		材 料	弁 箱	□		弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □		駆 動 方 法	空気作動			閉 止 時 間 ^{*4}	s 3~4.5	ホ(1)(ii)b.(d)-③a		漏 え い 率 ^{*1}	%/d/個 10以下 (主蒸気逃がし安全弁 (逃がし弁機構) 最低設定圧力において、原子炉圧力容器蒸気相の体積に対し、飽和蒸気で)			個 数	1			取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	AV202-1A ^{*4} (A-主蒸気系)	AV202-1B ^{*4} (B-主蒸気系)	AV202-1C ^{*4} (C-主蒸気系)	AV202-1D ^{*4} (D-主蒸気系)	設 置 床	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	—	—	溢 水 防 護 上 の 配 慮 必 要 な 高 さ	—	—	—	—		
		変 更 前	変 更 後																																																																																
名 称	AV202-1A, B, C, D ^{*1}	ホ(1)(ii)b.(d)-①a																																																																																	
種 類	止め弁																																																																																		
最 高 使 用 圧 力	MPa 8.62 ^{*2, *3}																																																																																		
最 高 使 用 温 度	℃ 302 ^{*2}																																																																																		
主 要 寸 法	呼 び 径 (A)	600																																																																																	
	弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □ 以上																																																																																	
材 料	弁 箱	□																																																																																	
	弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □ 以上																																																																																	
材 料	弁 箱	□																																																																																	
	弁 箱 厚 さ ^{*4}	mm □																																																																																	
駆 動 方 法	空気作動																																																																																		
閉 止 時 間 ^{*4}	s 3~4.5	ホ(1)(ii)b.(d)-③a																																																																																	
漏 え い 率 ^{*1}	%/d/個 10以下 (主蒸気逃がし安全弁 (逃がし弁機構) 最低設定圧力において、原子炉圧力容器蒸気相の体積に対し、飽和蒸気で)																																																																																		
個 数	1																																																																																		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	AV202-1A ^{*4} (A-主蒸気系)	AV202-1B ^{*4} (B-主蒸気系)	AV202-1C ^{*4} (C-主蒸気系)	AV202-1D ^{*4} (D-主蒸気系)																																																																														
	設 置 床	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}	原子炉格納容器内 EL 15300mm ^{*4}																																																																														
箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	—	—																																																																														
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 必 要 な 高 さ	—	—	—	—																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																					
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4" style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>AV202-2A, B, C, D^{*1}</td> <td colspan="4">ホ(1)(ii)b. (d)-①b</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>止め弁</td> <td colspan="4"></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="4">8.62^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="4">302^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼び径</td> <td>(A)</td> <td colspan="4">600</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁箱厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td colspan="4">□以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁ふた厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td colspan="4">□以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁箱</td> <td>—</td> <td colspan="4">□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁ふた</td> <td>—</td> <td colspan="4">□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁体^{*4}</td> <td>—</td> <td colspan="4">□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動方法</td> <td>—</td> <td colspan="4">空気作動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>閉止時間^{*4}</td> <td>s</td> <td colspan="4">3~4.5</td> <td>ホ(1)(ii)b. (d)-③b</td> </tr> <tr> <td>漏えい率^{*4}</td> <td>%/d/個</td> <td colspan="4">10以下（主蒸気逃がし安全弁（逃がし弁機能）最低設定圧力において、原子炉圧力容器気相の体積に対し、飽和蒸気で）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="4">4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>系統名（ライン名）</td> <td>—</td> <td>AV202-2A^{*4} (A-主蒸気系)</td> <td>AV202-2B^{*4} (B-主蒸気系)</td> <td>AV202-2C^{*4} (C-主蒸気系)</td> <td>AV202-2D^{*4} (D-主蒸気系)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm^{*4}</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm^{*4}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="4">—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配管が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="4">—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;"> 注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気隔離弁」と記載 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「原子炉圧力容器から原子炉格納容器外側の主蒸気隔離弁まで」による。 *3：S I 単位に換算したものである。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 </p>			変更前				変更後	名称	AV202-2A, B, C, D ^{*1}	ホ(1)(ii)b. (d)-①b					種類	止め弁						最高使用圧力	MPa	8.62 ^{*2}					最高使用温度	℃	302 ^{*2}					呼び径	(A)	600					弁箱厚さ ^{*4}	mm	□以上					弁ふた厚さ ^{*4}	mm	□以上					弁箱	—	□					弁ふた	—	□					弁体 ^{*4}	—	□					駆動方法	—	空気作動					閉止時間 ^{*4}	s	3~4.5				ホ(1)(ii)b. (d)-③b	漏えい率 ^{*4}	%/d/個	10以下（主蒸気逃がし安全弁（逃がし弁機能）最低設定圧力において、原子炉圧力容器気相の体積に対し、飽和蒸気で）					個数	—	4					系統名（ライン名）	—	AV202-2A ^{*4} (A-主蒸気系)	AV202-2B ^{*4} (B-主蒸気系)	AV202-2C ^{*4} (C-主蒸気系)	AV202-2D ^{*4} (D-主蒸気系)		設置床	—	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}		溢水防護上の区画番号	—	—					溢水防護上の配管が必要な高さ	—	—						変更なし
		変更前				変更後																																																																																																																																			
名称	AV202-2A, B, C, D ^{*1}	ホ(1)(ii)b. (d)-①b																																																																																																																																							
種類	止め弁																																																																																																																																								
最高使用圧力	MPa	8.62 ^{*2}																																																																																																																																							
最高使用温度	℃	302 ^{*2}																																																																																																																																							
呼び径	(A)	600																																																																																																																																							
弁箱厚さ ^{*4}	mm	□以上																																																																																																																																							
弁ふた厚さ ^{*4}	mm	□以上																																																																																																																																							
弁箱	—	□																																																																																																																																							
弁ふた	—	□																																																																																																																																							
弁体 ^{*4}	—	□																																																																																																																																							
駆動方法	—	空気作動																																																																																																																																							
閉止時間 ^{*4}	s	3~4.5				ホ(1)(ii)b. (d)-③b																																																																																																																																			
漏えい率 ^{*4}	%/d/個	10以下（主蒸気逃がし安全弁（逃がし弁機能）最低設定圧力において、原子炉圧力容器気相の体積に対し、飽和蒸気で）																																																																																																																																							
個数	—	4																																																																																																																																							
系統名（ライン名）	—	AV202-2A ^{*4} (A-主蒸気系)	AV202-2B ^{*4} (B-主蒸気系)	AV202-2C ^{*4} (C-主蒸気系)	AV202-2D ^{*4} (D-主蒸気系)																																																																																																																																				
設置床	—	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}	原子炉建物 EL 15300mm ^{*4}																																																																																																																																				
溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																							
溢水防護上の配管が必要な高さ	—	—																																																																																																																																							
		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b. (d)-①a及びホ(1)(ii)b. (d)-①bは、設置変更許可申請書（本文）のホ(1)(ii)b. (d)-①a及びホ(1)(ii)b. (d)-①bを詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b. (d)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)b. (d)-②を詳細に記載しており、整合している。 ・設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b. (d)-③a及びホ(1)(ii)b. (d)-③bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)b. (d)-③を詳細に記載しており、整合している。 																																																																																																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
(e) 逃がし安全弁 形 式 <u>バネ式（アクチュエータ付）</u> 個 数 <u>12</u>	(4) 逃がし安全弁 形 式 <u>バネ式（アクチュエータ付）</u> 個 数 <u>12</u>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p>逃がし安全弁は、アクチュエータ作動の逃がし弁機能及びバネ作動の安全弁機能を有し、蒸気をサブプレッションチェンバのプール水中に導き、原子炉冷却系統の過度の圧力上昇を防止できる設計とする。</p> <p>逃がし安全弁は、ベローズと補助背圧平衡ピストンを備えたバネ式の平衡形安全弁に、外部から強制的に開閉を行うアクチュエータを取り付けたもので、蒸気圧力がスプリングの設定圧力に達すると自動開放するほか、外部信号によってアクチュエータのピストンに窒素を供給して弁を強制的に開放することができるものを使用し、サブプレッションチェンバからの背圧変動が逃がし安全弁の設定圧力に影響を与えない設計とする。</p> <p>なお、逃がし安全弁は、<u>12</u>個設置する設計とする。</p> <p>逃がし安全弁の排気は排気管によりサブプレッションプール水面下に導き凝縮する設計とする。</p>		

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																												
<p>容量 ホ(1)(ii)b.(e)-①a 約410t/h/個</p> <p>吹出し場所 ホ(1)(ii)b.(e)-② サプレッション・プール</p>	<p>(安全弁)</p> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>吹出圧力 (kg/cm²g)</th> <th>弁個数</th> <th>容量/個(吹出圧力×1.03 において) (t/h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>83.0</td><td>2</td><td>407</td></tr> <tr><td>83.7</td><td>3</td><td>410</td></tr> <tr><td>84.4</td><td>3</td><td>413</td></tr> <tr><td>85.1</td><td>4</td><td>417</td></tr> </tbody> </table> <p>(逃がし弁)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>吹出圧力 (kg/cm²g)</th> <th>弁個数</th> <th>容量/個(吹出圧力において) (t/h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>77.3</td><td>2</td><td>367</td></tr> <tr><td>78.0</td><td>3</td><td>370</td></tr> <tr><td>78.7</td><td>3</td><td>373</td></tr> <tr><td>79.4</td><td>4</td><td>377</td></tr> </tbody> </table>	吹出圧力 (kg/cm ² g)	弁個数	容量/個(吹出圧力×1.03 において) (t/h)	83.0	2	407	83.7	3	410	84.4	3	413	85.1	4	417	吹出圧力 (kg/cm ² g)	弁個数	容量/個(吹出圧力において) (t/h)	77.3	2	367	78.0	3	370	78.7	3	373	79.4	4	377	<p>【原子炉冷却系統施設 (蒸気タービンを除く。)] (要目表)</p> <p>4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項</p> <p>4.1 主蒸気系</p> <p>(6) 安全弁及び逃がし弁の名称, 種類, 吹出圧力, 吹出量, 主要寸法, 材料, 駆動方法, 個数 (自動減圧機能を有する場合は, その個数を付記すること。), 取付箇所及び吹出場所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td></td> <td>ホ(1)(ii)b.(e)-③, F, G, H, J, K, L, M*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種</td> <td></td> <td>ホ(1)(ii)b.(e)-④</td> <td>ホ(1)(ii)b.(e)-⑤</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">*2 吹出 圧力 及 び 吹 出 量</td> <td>逃がし弁機能</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>7.58*3</td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>7.65*3</td> </tr> <tr> <td>第3段</td> <td>RV202-1D, H, M</td> <td>7.72*3</td> </tr> <tr> <td>第4段</td> <td>RV202-1B, E, G, K</td> <td>7.79*3</td> </tr> <tr> <td>安全弁機能</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>8.14*3</td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>8.21*3</td> </tr> <tr> <td>第3段</td> <td>RV202-1D, H, M</td> <td>8.28*3</td> </tr> <tr> <td>第4段</td> <td>RV202-1B, E, G, K</td> <td>8.35*3</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>呼び径 (A)</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td></td> <td>のど部の径 (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>弁座口の径 (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>リフト (mm)</td> <td>以上</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料 (弁箱)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆</td> <td>動 方 法*2</td> <td>空素及びバネ作動</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>12(6*4)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>RV202-1A, B, C, D*5 (A-主蒸気管) RV202-1E, F*5 (B-主蒸気管)*5 RV202-1G, H*5 (C-主蒸気管)*5 RV202-1J, K, L, M*5 (D-主蒸気管)*5</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 23800mm*5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吹 出 場 所*2</td> <td></td> <td>サプレッションプール水面下</td> <td>ホ(1)(ii)b.(e)-②</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逃がし安全弁」と記載</p> <p>*2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和60年4月27日付け 59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1 逃がし安全弁の吹出量計算書」による。</p> <p>*3: S I 単位に換算したものである。</p> <p>*4: 自動減圧機能を有する弁の個数を示す。</p> <p>*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。</p>			変更前	変更後	名		ホ(1)(ii)b.(e)-③, F, G, H, J, K, L, M*		種		ホ(1)(ii)b.(e)-④	ホ(1)(ii)b.(e)-⑤	*2 吹出 圧力 及 び 吹 出 量	逃がし弁機能			第1段	RV202-1A, J	7.58*3	第2段	RV202-1C, F, L	7.65*3	第3段	RV202-1D, H, M	7.72*3	第4段	RV202-1B, E, G, K	7.79*3	安全弁機能			第1段	RV202-1A, J	8.14*3	第2段	RV202-1C, F, L	8.21*3	第3段	RV202-1D, H, M	8.28*3	第4段	RV202-1B, E, G, K	8.35*3	主要寸法	呼び径 (A)	150		のど部の径 (mm)			弁座口の径 (mm)			リフト (mm)	以上	材	料 (弁箱)		駆	動 方 法*2	空素及びバネ作動	個	数	12(6*4)	取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	RV202-1A, B, C, D*5 (A-主蒸気管) RV202-1E, F*5 (B-主蒸気管)*5 RV202-1G, H*5 (C-主蒸気管)*5 RV202-1J, K, L, M*5 (D-主蒸気管)*5	設置床	原子炉格納容器内 EL 23800mm*5	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	溢水防護上の区画番号		溢水防護上の配慮が必要な高さ		吹 出 場 所*2		サプレッションプール水面下	ホ(1)(ii)b.(e)-②	<p>変更なし</p>	
吹出圧力 (kg/cm ² g)	弁個数	容量/個(吹出圧力×1.03 において) (t/h)																																																																																																														
83.0	2	407																																																																																																														
83.7	3	410																																																																																																														
84.4	3	413																																																																																																														
85.1	4	417																																																																																																														
吹出圧力 (kg/cm ² g)	弁個数	容量/個(吹出圧力において) (t/h)																																																																																																														
77.3	2	367																																																																																																														
78.0	3	370																																																																																																														
78.7	3	373																																																																																																														
79.4	4	377																																																																																																														
		変更前	変更後																																																																																																													
名		ホ(1)(ii)b.(e)-③, F, G, H, J, K, L, M*																																																																																																														
種		ホ(1)(ii)b.(e)-④	ホ(1)(ii)b.(e)-⑤																																																																																																													
*2 吹出 圧力 及 び 吹 出 量	逃がし弁機能																																																																																																															
	第1段	RV202-1A, J	7.58*3																																																																																																													
	第2段	RV202-1C, F, L	7.65*3																																																																																																													
	第3段	RV202-1D, H, M	7.72*3																																																																																																													
	第4段	RV202-1B, E, G, K	7.79*3																																																																																																													
	安全弁機能																																																																																																															
	第1段	RV202-1A, J	8.14*3																																																																																																													
	第2段	RV202-1C, F, L	8.21*3																																																																																																													
	第3段	RV202-1D, H, M	8.28*3																																																																																																													
	第4段	RV202-1B, E, G, K	8.35*3																																																																																																													
	主要寸法	呼び径 (A)	150																																																																																																													
		のど部の径 (mm)																																																																																																														
	弁座口の径 (mm)																																																																																																															
	リフト (mm)	以上																																																																																																														
材	料 (弁箱)																																																																																																															
駆	動 方 法*2	空素及びバネ作動																																																																																																														
個	数	12(6*4)																																																																																																														
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	RV202-1A, B, C, D*5 (A-主蒸気管) RV202-1E, F*5 (B-主蒸気管)*5 RV202-1G, H*5 (C-主蒸気管)*5 RV202-1J, K, L, M*5 (D-主蒸気管)*5																																																																																																														
	設置床	原子炉格納容器内 EL 23800mm*5																																																																																																														
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	溢水防護上の区画番号																																																																																																															
	溢水防護上の配慮が必要な高さ																																																																																																															
吹 出 場 所*2		サプレッションプール水面下	ホ(1)(ii)b.(e)-②																																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本文（十号） 逃がし安全弁の逃がし弁機能の吹出し圧力及び容量（吹出し圧力における値）は、設計値として以下の値を用いるものとする。</p> <p>ホ(1)(ii)b.(e)-③ ホ(1)(ii)b.(e)-④a ホ(1)(ii)b.(e)-①b</p> <p>第1段：7.58MPa[gage]×2個、367t/h/個 第2段：7.65MPa[gage]×3個、370t/h/個 第3段：7.72MPa[gage]×3個、373t/h/個 第4段：7.79MPa[gage]×4個、377t/h/個</p> <p>・記載箇所 ハ(1)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3), ハ(1)(ii)a.(b)(b-2)(b-2-3)</p> <p>本文（十号） 逃がし安全弁設定点 ホ(1)(ii)b.(e)-⑤</p> <p>第1段：7.73MPa[gage]×2個 第2段：7.80MPa[gage]×3個 ホ(1)(ii)b.(e)-④b 第3段：7.87MPa[gage]×3個 第4段：7.94MPa[gage]×4個</p> <p>・記載箇所 イ(2)(i)d.(c)</p>		<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 原子炉冷却材の循環設備 3.4 逃がし安全弁の機能 3.4.1 逃がし安全弁の容量</p> <p>逃がし安全弁の容量は、原子炉冷却材圧力バウンダリの過度の圧力上昇を抑えるため、吹出し圧力と設置個数とを適切に組み合わせることにより、原子炉圧力容器の過圧防止に必要な容量以上を有する設計とする。なお、容量は運転時の異常な過渡変化時に、原子炉冷却材圧力バウンダリの圧力を最高使用圧力の1.1倍以下に保持するのに必要な容量を算定する。</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(e)-①は、設置変更許可申請書（本文）のホ(1)(ii)b.(e)-①a及びホ(1)(ii)b.(e)-①bを詳細に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(e)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)b.(e)-②を詳細に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(e)-③は、設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(1)(ii)b.(e)-③を詳細に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(e)-④は、設置変更許可申請書（本文）のホ(1)(ii)b.(e)-④a及びホ(1)(ii)b.(e)-④bを詳細に記載しており、整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(1)(ii)b.(e)-⑤は、設計及び工事の計画のホ(1)(ii)b.(e)-⑤を解析上、保守的に設定したものであり、整合している。 	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>c. 蒸気タービン</p> <p>形式 <u>くし形4車室6流排気式</u></p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>蒸気流量 <u>約4,600t/h</u></p> <p>出力 <u>820MW</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>主蒸気流量の初期値は、<u>定格値（4.74×10³t/h）</u>を用いるものとする。</p> <p>・記載箇所</p> <p>ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-1)(b-1-1-2)</p> </div> <p>d. 復水器</p> <p>形式 <u>表面接触単流半区分式</u></p> <p>基数 <u>1</u></p> <p>e. タービン・バイパス系</p> <p>系統数 <u>ホ(1)(ii)e.-①</u> <u>1</u></p> <p>容量 <u>ホ(1)(ii)e.-②</u> <u>約4,800t/h</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>タービン・バイパス弁容量 <u>4,800t/h</u></p> <p>・記載箇所</p> <p>イ(2)(i)d.(c)</p> </div>	<p>第 5.12-1 表 タービン設備主要機器仕様</p> <p>(1) 蒸気タービン</p> <p>形式 <u>くし形4車室6流排気式</u></p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>設備容量 定格 <u>820,000kW</u></p> <p>回転数 <u>1,800rpm</u></p> <p>蒸気条件 圧力 <u>66.8kg/cm²</u></p> <p style="padding-left: 20px;">温度 <u>282℃</u></p> <p style="padding-left: 20px;">湿り度 <u>0.4%</u></p> <p style="padding-left: 20px;">蒸気流量 <u>約4,600t/h</u></p> <p><中略></p> <p>(4) 復水器</p> <p>形式 <u>表面接触単流半区分式</u></p> <p>基数 <u>1</u></p> <p><中略></p> <p>(2) タービン・バイパス系</p> <p>系統数 <u>1</u></p> <p>容量 <u>約4,800t/h（定格蒸気流量の約100%）</u></p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画 該当事項</p> <p>3.1 主蒸気系，復水給水系等</p> <p><中略></p> <p>主蒸気管には，炉心で発生した蒸気をタービンを通さず直接復水器に導く <u>ホ(1)(ii)e.-①</u>タービンバイパス系を設ける設計とする。</p> <p>復水・給水系には復水中の核分裂生成物及び腐食生成物を除去するために復水脱塩装置（ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置）を設け，高純度の給水を発電用原子炉へ供給できるようにする。また，6段の給水加熱器を設け，給水を加熱する設計とする。</p> <p>タービンバイパス系は，原子炉の起動時，停止時及び過渡状態において，蒸気を直接復水器に導き， <u>ホ(1)(ii)e.-②</u>主蒸気定格流量の約100%を処理できる設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「蒸気タービン」は，新規規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「復水器」は，新規規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>ホ(1)(ii)e.-①</u>は，設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(1)(ii)e.-①</u>と同義であり，整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>ホ(1)(ii)e.-②</u>は，設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(1)(ii)e.-②</u>と同義であり，整合している。</p>	<p>備考</p>

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																
<p>f. 給水系</p> <p>(a) 系統数 2</p> <p>(b) 給水ポンプ（タービン駆動）</p> <p>台数 2</p> <p>容量 約2,900m³/h/台</p> <p>(c) 給水ポンプ（電動機駆動）</p> <p>台数 2</p> <p>容量 約1,400m³/h/台</p> <p>(d) 給水管</p> <p>材料 ホ(1)(ii)f.(d)-①炭素鋼</p> <p>内径 ホ(1)(ii)f.(d)-②約0.44m</p>	<p>(10) 給水ポンプ</p> <p>a. タービン駆動給水ポンプ</p> <p>駆動用蒸気タービン 給水ポンプ</p> <p>形式 復水式 横形うず巻式</p> <p>台数 2 2</p> <p>容量 約6,600kW/台 約2,900m³/h/台</p> <p>回転数 約5,500rpm 約5,500rpm</p> <p>b. 電動機駆動給水ポンプ</p> <p>形式 横形うず巻式</p> <p>台数 2</p> <p>容量 約1,400m³/h/台</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>（要目表）</p> <p>4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「給水系の系統数」及び「給水ポンプ」は、新規基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>																																																																																																																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>最高使用 称 圧 (MPa)</th> <th>最高使用 力 温 度 (℃)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>材 料</th> <th>名</th> <th>最高使用 称 圧 (MPa)</th> <th>最高使用 力 温 度 (℃)</th> <th>外 径 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">給水系</td> <td>原子炉浄化系合流部</td> <td></td> <td>457.2</td> <td>23.8^{*1}</td> <td>SIP23</td> <td rowspan="7">原子炉浄化系合流部</td> <td>変更なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="7">変更なし</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器**</td> <td></td> <td>457.2</td> <td>23.8^{*1}</td> <td>STS49</td> <td>原子炉圧力容器**</td> <td>変更なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>457.2</td> <td>23.8^{*1}</td> <td>STS49</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>457.2</td> <td>23.8^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>489.6</td> <td>40.0^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>457.2^{**}</td> <td>23.8^{*1}</td> <td>SGV49^{**}</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>318.5</td> <td>21.4^{*1}</td> <td>SFVC2B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>318.5</td> <td>21.4^{*1}</td> <td>STS42</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系合流部**</td> <td>8.62^{*3}</td> <td>302</td> <td>114.3</td> <td>11.1^{*1}</td> <td>SFVAF11A</td> <td>原子炉浄化系合流部**</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>144.3</td> <td>26.1^{*1}</td> <td>SFVAF11A</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					変更前					変更後					名	最高使用 称 圧 (MPa)	最高使用 力 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	最高使用 称 圧 (MPa)	最高使用 力 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	給水系	原子炉浄化系合流部		457.2	23.8 ^{*1}	SIP23	原子炉浄化系合流部	変更なし				変更なし	原子炉圧力容器**		457.2	23.8 ^{*1}	STS49	原子炉圧力容器**	変更なし						457.2	23.8 ^{*1}	STS49								457.2	23.8 ^{*1}	SFVC2B								489.6	40.0 ^{*1}	SFVC2B								457.2 ^{**}	23.8 ^{*1}	SGV49 ^{**}								318.5	21.4 ^{*1}	SFVC2B								318.5	21.4 ^{*1}	STS42						原子炉浄化系合流部**	8.62 ^{*3}	302	114.3	11.1 ^{*1}	SFVAF11A	原子炉浄化系合流部**					変更なし				144.3	26.1 ^{*1}	SFVAF11A						
変更前					変更後																																																																																																																															
名	最高使用 称 圧 (MPa)	最高使用 力 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	最高使用 称 圧 (MPa)	最高使用 力 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料																																																																																																																									
給水系	原子炉浄化系合流部		457.2	23.8 ^{*1}	SIP23	原子炉浄化系合流部	変更なし				変更なし																																																																																																																									
	原子炉圧力容器**		457.2	23.8 ^{*1}	STS49		原子炉圧力容器**	変更なし																																																																																																																												
			457.2	23.8 ^{*1}	STS49																																																																																																																															
			457.2	23.8 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																															
			489.6	40.0 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																															
			457.2 ^{**}	23.8 ^{*1}	SGV49 ^{**}																																																																																																																															
			318.5	21.4 ^{*1}	SFVC2B																																																																																																																															
		318.5	21.4 ^{*1}	STS42																																																																																																																																
原子炉浄化系合流部**	8.62 ^{*3}	302	114.3	11.1 ^{*1}	SFVAF11A	原子炉浄化系合流部**					変更なし																																																																																																																									
			144.3	26.1 ^{*1}	SFVAF11A																																																																																																																															
<p>注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載</p> <p>注記*1：公称値を示す。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン駆動原子炉給水ポンプから第5給水加熱器まで」と記載</p> <p>*3：S1単位に換算したものである。</p> <p>*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-11-3-1 管の基本板厚計算書」による。</p> <p>*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動機駆動原子炉給水ポンプから「タービン駆動原子炉給水ポンプから第5給水加熱器まで」の合流点まで」と記載</p> <p>*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「第6給水加熱器から原子炉圧力容器まで」と記載</p> <p>*7：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧原子炉代替注水系、原子炉隔離時冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（高圧原子炉代替注水系）と兼用</p> <p>*8：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉浄化系との取合点から「第6給水加熱器から原子炉圧力容器まで」の合流点まで」と記載</p>																																																																																																																																				
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(1)(ii)f.(d)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(1)(ii)f.(d)-①と同義であり、整合している。 ホ(1)(ii)f.(d)-②：457.2mm（外形）-2×23.8mm（厚さ）=409.6mm≒0.44m 																																																																																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iii) 冷却材の温度及び圧力</p> <p>原子炉入口給水温度（定格出力時） 約 216℃ 原子炉出口主蒸気温度（定格出力時） 約 286℃ 原子炉入口給水圧力（定格出力時） 約 7.2kg/cm²g</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本文（十号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給水温度の初期値は約 214℃とする。 ・ 記載箇所 <p>ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-1)(b-1-1-2)</p> </div> <p>(2) 二次冷却設備 なし</p> <p>(3) 非常用冷却設備</p> <p>(i) 冷却材の種類</p> <p>ホ(3)(i)-①軽水</p> <p>(ii) 主要な機器及び管の個数及び構造</p> <p>a. 非常用炉心冷却系</p> <p>ホ(3)(ii)a.-①非常用炉心冷却系は、工学的安全施設の一設備であって、低圧炉心スプレイ系、低圧注水系（残留熱除去系の低圧注水モード）、高圧炉心スプレイ系及び自動減圧系で構成する。非常用炉心冷却系は、サブプレッション・チェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を炉心に注入して、燃料棒を冷却できるようにする。</p>	<p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.3 非常用炉心冷却系</p> <p>5.3.1 通常運転時等</p> <p>5.3.1.1 概要</p> <p>非常用炉心冷却系は冷却材喪失事故時に、燃料被覆管の大破損を防止し、水-ジルコニウム反応を極力抑え、崩壊熱を長期にわたって除去する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 原子炉冷却材</p> <p>ホ(3)(i)-①原子炉冷却材は、通常運転時における圧力、温度及び放射線によって起こる最も厳しい条件において、核的性質として核反応断面積が核反応維持のために適切であり、熱水力的性質として冷却能力が適切であることを保持し、かつ、燃料体及び構造材の健全性を妨げることのない性質であり、通常運転時において放射線に対して化学的に安定であることを保持し得る設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.1 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備の機能</p> <p>ホ(3)(ii)a.-①非常用炉心冷却設備は、工学的安全施設の一設備であって、低圧炉心スプレイ系、低圧注水系（残留熱除去系の低圧注水モード）、高圧炉心スプレイ系及び自動減圧系から構成する。これらの系統は、原子炉冷却材喪失事故等が起こったときに、サブプレッションチェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を原子炉圧力容器内に注水し、又は原子炉蒸気をサブプレッションチェンバのプール水中に逃がし原子炉圧力を速やかに低下させるなどにより、炉心を冷却し、燃料被覆管の温度が燃料材の熔融又は燃料体の著しい破損を生ずる温度を超えて上昇するこ</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「冷却材の温度及び圧力」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(i)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)a.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)a.-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>とを防止できる設計とするとともに、燃料の過熱による燃料被覆管の大破損を防ぎ、さらにこれにともなうジルコニウムと水との反応を極力抑え、著しく多量の水素を生じない設計とする。</p> <p>非常用炉心冷却設備は、設置（変更）許可を受けた運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故の評価条件を満足する設計とする。</p> <p>非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備のうち、サブレーションチェンバのプール水を水源とするポンプは、原子炉圧力容器内又は原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに冷却材中の異物の影響について「非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）」（平成20・02・12 原院第5号（平成20年2月27日原子力安全・保安院制定））によるろ過装置の性能評価により、設計基準事故時又は重大事故等に想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>非常用炉心冷却設備のうち、復水貯蔵タンクを水源とするポンプは、復水貯蔵タンクの圧力及び温度により最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有するように設計する。</p> <p>非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備のうち、低圧原子炉代替注水槽、輪谷貯水槽（西1）、輪谷貯水槽（西2）、ほう酸水貯蔵タンク、海を水源とするポンプは、低圧原子炉代替注水槽、輪谷貯水槽（西1）、輪谷貯水槽（西2）、ほう酸水貯蔵タンク、海の圧力及び温度により、想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>自動減圧系を除く非常用炉心冷却設備については、作動性を確認するため、発電用原子炉の運転中に、テスト・ラインを用いてポンプの作動試験ができる設計とするとともに、弁については単体で開閉試験ができる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ホ(3)(ii)a.-②これらの設備は非常用炉心冷却系として独立性、多重性を有するとともに外部電源喪失時にも非常用電源を電源としてその機能が達成できる設計とする。</p>		<p>5.2 高圧炉心スプレイ系 ホ(3)(ii)a.-②a 高圧炉心スプレイ系は、原子炉冷却材喪失事故時に、非常用電源設備に結ばれた電動機駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を炉心上部より燃料集合体上に注水し、炉心を冷却する設計とする。 <中略></p> <p>5.3 低圧炉心スプレイ系 ホ(3)(ii)a.-②b 低圧炉心スプレイ系は、原子炉冷却材喪失時に、非常用電源設備に結ばれた電動機駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を炉心上部より燃料集合体上に注水し、炉心を冷却する設計とする。 <中略></p> <p>5.7 残留熱除去系（低圧注水モード） <中略></p> <p>ホ(3)(ii)a.-②c 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧炉心注水モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系（低圧注水モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>【非常用電源設備】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 直流電源設備及び計測制御用電源設備 3.3 主蒸気逃がし安全弁用可搬型直流電源設備 <中略></p> <p>ホ(3)(ii)a.-②d 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、SRV 用電源切替盤（115V, 50A のものを1個）を切り替えることにより、逃がし安全弁（8個）の作動に必要な電源を供給できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)a.-②a～ホ(3)(ii)a.-②dは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)a.-②具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、低圧炉心スプレイ系、<u>ホ(3)(ii)a.-③</u>低圧注水系（<u>残留熱除去系の低圧注水モード</u>）及び高圧炉心スプレイ系は、<u>想定される重大事故等時においても使用する。</u></p>	<p>5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.6.1 概要 <中略></p> <p>また、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）及び低圧炉心スプレイ系が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。</u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）については、「5.2 残留熱除去系」に記載する。低圧炉心スプレイ系については、「5.3 非常用炉心冷却系」に記載する。</p> <p>5.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.4.1 概要 原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備を設置する。</p> <p><中略></p> <p>また、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。</u>高圧炉心スプレイ系については、「5.3 非常用炉心冷却系」、原子炉隔離時冷却系については、「5.8 原子炉隔離時冷却系」に記載する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.3 低圧炉心スプレイ系 <中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である低圧炉心スプレイ系が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>5.7 残留熱除去系（低圧注水モード） 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である<u>ホ(3)(ii)a.-③</u>残留熱除去系（<u>低圧注水モード</u>）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p>5.2 高圧炉心スプレイ系 <中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>5.5 原子炉隔離時冷却系 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である原子炉隔離時冷却系が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																															
<p>(a) 低圧炉心スプレイ系</p> <p>ポンプ</p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>容量 <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>約1,050m³/h</p> <p>全揚程 <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>約190m</p>	<p>第5.3-1表 非常用炉心冷却系主要機器仕様</p> <p>(2) 低圧炉心スプレイ・ポンプ</p> <p>形式 たて形うず巻式</p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>容量 約1,050m³/h</p> <p>全揚程 約190m</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>(要目表)</p> <p>6.2 低圧炉心スプレイ系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" data-bbox="1635 478 2852 997"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">低圧炉心スプレイポンプ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ポンプ</td> <td>種類</td> <td>ターボ形</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td>m³/h/個 <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>以上^{*2}(1074^{*3})</td> </tr> <tr> <td>揚程^{*1}</td> <td>m <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>以上^{*2}(199^{*3})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa 吸込側1.37^{*5}、*6/吐出側4.41^{*5}、*6</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃ 100^{*5}</td> <td>変更なし 116^{*7}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込内径^{*2}</td> <td>mm 480.0^{*3}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>吐出内径^{*2}</td> <td>mm 336.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング外径^{*2}</td> <td>mm 1300^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*2}</td> <td>mm <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>(19.0^{*3})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高さ^{*8}</td> <td>高さ^{*8}</td> <td>mm 6615^{*3}</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>高さ^{*8}</td> <td>mm 6615^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td>— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u></td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td><u>1</u></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	名称		低圧炉心スプレイポンプ		ポンプ	種類	ターボ形	変更なし	容量 ^{*1}	m ³ /h/個 <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u> 以上 ^{*2} (1074 ^{*3})	揚程 ^{*1}	m <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u> 以上 ^{*2} (199 ^{*3})	最高使用圧力	MPa 吸込側1.37 ^{*5} 、*6/吐出側4.41 ^{*5} 、*6	最高使用温度	℃ 100 ^{*5}	変更なし 116 ^{*7}	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm 480.0 ^{*3}	変更なし	吐出内径 ^{*2}	mm 336.0 ^{*3}	ケーシング外径 ^{*2}	mm 1300 ^{*3}	ケーシング厚さ ^{*2}	mm <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u> (19.0 ^{*3})	高さ ^{*8}	高さ ^{*8}	mm 6615 ^{*3}	変更なし	高さ ^{*8}	mm 6615 ^{*3}	材料	ケーシング	— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>	変更なし	ケーシングカバー	— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>	個数	—	<u>1</u>		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>を詳細に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>を詳細に記載しており、整合している。 	
		変更前	変更後																																																
名称		低圧炉心スプレイポンプ																																																	
ポンプ	種類	ターボ形	変更なし																																																
	容量 ^{*1}	m ³ /h/個 <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u> 以上 ^{*2} (1074 ^{*3})																																																	
	揚程 ^{*1}	m <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u> 以上 ^{*2} (199 ^{*3})																																																	
	最高使用圧力	MPa 吸込側1.37 ^{*5} 、*6/吐出側4.41 ^{*5} 、*6																																																	
最高使用温度	℃ 100 ^{*5}	変更なし 116 ^{*7}																																																	
主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm 480.0 ^{*3}	変更なし																																																
	吐出内径 ^{*2}	mm 336.0 ^{*3}																																																	
	ケーシング外径 ^{*2}	mm 1300 ^{*3}																																																	
	ケーシング厚さ ^{*2}	mm <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u> (19.0 ^{*3})																																																	
高さ ^{*8}	高さ ^{*8}	mm 6615 ^{*3}	変更なし																																																
	高さ ^{*8}	mm 6615 ^{*3}																																																	
材料	ケーシング	— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-①</u>	変更なし																																																
	ケーシングカバー	— <u>ホ(3)(ii)a.(a)-②</u>																																																	
個数	—	<u>1</u>																																																	
<p>(b) 低圧注水系</p> <p><u>ホ(3)(ii)a.(b)-①</u>低圧注水系は、残留熱除去系を低圧注水モードとして運転するものであり、...</p> <p>主要設備については、(4)、(i) 残留熱除去系に記述する。</p>	<p>5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.6.1 概要</p> <p><中略></p> <p>また、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）及び低圧炉心スプレイ系が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。残留熱除去系（低圧注水モード）及び残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）については、「5.2 残留熱除去系」に記載する。低圧炉心スプレイ系については、「5.3 非常用炉心冷却系」に記載する。</p>	<p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.1 残留熱除去系</p> <p>4.1.1 低圧注水モード</p> <p><u>ホ(3)(ii)a.(b)-①</u>残留熱除去系（低圧注水モード）は、原子炉冷却材喪失事故時に、非常用電源設備に結ばれた電動機駆動ポンプによりサブプレッションプール水を直接炉心シュラウド内に注水し、炉心を冷却する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.(b)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.(b)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「(4)、(i) 残留熱除去系」にて示す。</p>																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																													
<p>(c) 高圧炉心スプレイ系</p> <p>ポンプ</p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>容量 <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u>約320m³/h～約1,050m³/h</p> <p>全揚程 <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>約890m～約260m</p>	<p>第5.3-1表 非常用炉心冷却系主要機器仕様</p> <p>(3) 高圧炉心スプレイ・ポンプ</p> <p>形式 たて形うず巻式</p> <p>台数 <u>1</u></p> <p>容量 約320m³/h～約1,050m³/h</p> <p>全揚程 約890m～約260m</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>（要目表）</p> <p>6. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項</p> <p>6.1 高圧炉心スプレイ系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名称</td> <td colspan="2">高圧炉心スプレイポンプ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="2">ターボ形</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td>高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u>以上^{*2}(342^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u>以上^{*2}(1074^{*3})</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>揚程^{*4}</td> <td>高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>以上^{*2}(907^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>以上^{*2}(288^{*3})</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa 吸込側 1.37^{*5}、*6/吐出側 12.2^{*5}、*6</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃ 100^{*5}</td> <td>110^{*7}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込内径^{*2}</td> <td>mm 480.0^{*3}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>吐出内径^{*2}</td> <td>mm 292.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング外径^{*2}</td> <td>mm 1300^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*2}</td> <td>mm <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>(19.0^{*3})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>高さ^{*8}</td> <td>mm 7865^{*3}</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>, <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u></td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>— <u>1</u></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	名称	高圧炉心スプレイポンプ		種類	ターボ形		容量 ^{*1}	高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u> 以上 ^{*2} (342 ^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u> 以上 ^{*2} (1074 ^{*3})	変更なし	揚程 ^{*4}	高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> 以上 ^{*2} (907 ^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> 以上 ^{*2} (288 ^{*3})	変更なし	最高使用圧力	MPa 吸込側 1.37 ^{*5} 、*6/吐出側 12.2 ^{*5} 、*6	変更なし	最高使用温度	℃ 100 ^{*5}	110 ^{*7}	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm 480.0 ^{*3}	変更なし	吐出内径 ^{*2}	mm 292.0 ^{*3}	ケーシング外径 ^{*2}	mm 1300 ^{*3}	ケーシング厚さ ^{*2}	mm <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> (19.0 ^{*3})	材料	高さ ^{*8}	mm 7865 ^{*3}	変更なし	ケーシング	— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> , <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>	ケーシングカバー	— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>		個数	— <u>1</u>		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u>を詳細に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>を詳細に記載しており、整合している。 	
		変更前	変更後																																														
ポンプ	名称	高圧炉心スプレイポンプ																																															
	種類	ターボ形																																															
	容量 ^{*1}	高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u> 以上 ^{*2} (342 ^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-①</u> 以上 ^{*2} (1074 ^{*3})	変更なし																																														
	揚程 ^{*4}	高圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> 以上 ^{*2} (907 ^{*3}) 低圧時: <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> 以上 ^{*2} (288 ^{*3})	変更なし																																														
	最高使用圧力	MPa 吸込側 1.37 ^{*5} 、*6/吐出側 12.2 ^{*5} 、*6	変更なし																																														
	最高使用温度	℃ 100 ^{*5}	110 ^{*7}																																														
	主要寸法	吸込内径 ^{*2}	mm 480.0 ^{*3}	変更なし																																													
		吐出内径 ^{*2}	mm 292.0 ^{*3}																																														
		ケーシング外径 ^{*2}	mm 1300 ^{*3}																																														
		ケーシング厚さ ^{*2}	mm <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> (19.0 ^{*3})																																														
材料	高さ ^{*8}	mm 7865 ^{*3}	変更なし																																														
	ケーシング	— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u> , <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>																																															
ケーシングカバー	— <u>ホ(3)(ii)a.(c)-②</u>																																																
個数	— <u>1</u>																																																
<p>(d) 自動減圧系</p> <p>弁個数 <u>6</u>（主蒸気系の逃がし安全弁と共用）</p>	<p>(4) 自動減圧系逃がし安全弁</p> <p>弁個数 <u>6</u></p>	<p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p>3.4.2 自動減圧系による原子炉圧力容器の減圧</p> <p>自動減圧系は、中小破断の原子炉冷却材喪失事故時に原子炉蒸気をサブプレッションプール水へ逃がし原子炉圧力を速やかに低下させて低圧注水系又は低圧炉心スプレイ系による注水を早期に可能とし、燃料被覆管の大破損を防止しジルコニウム-水反応を極力抑えることができる設計とする。</p> <p>自動減圧系については、発電用原子炉の運転中に逃がし安全弁の駆動用窒素供給圧力の確認を行うことで、非常用炉心冷却設備の能力の維持状況を確認できる設計とする。</p> <p>なお、発電用原子炉停止中に、逃がし安全弁の作動試験ができる設計とする。</p>																																															

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																		
<p>弁容量 ホ(3)(ii)a.(d)-①約400t/h/個 (原子炉圧力83.0kg/cm²g.で)</p> <p>本文 (十号) ホ(3)(ii)a.(d)-②また、原子炉減圧には逃がし安全弁(自動減圧機能付き)(6個)を使用するものとし、容量として、1個当たり定格主蒸気流量の約8%を処理するものとする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(a)(a-5), ハ(2)(ii)b.(b)(b-5), ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-6), ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-6), ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-6), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-6), ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-6), ハ(2)(ii)b.(e)(e-7), ハ(2)(ii)b.(f)(f-5), ハ(2)(ii)c.(b)(b-9)</p>	<p>弁容量 約400t/h/個 (原子炉圧力83.0kg/cm²g.で)</p>	<p>【原子炉冷却系統施設 (蒸気タービンを除く。)】 (要目表)</p> <p>4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項</p> <p>4.1 主蒸気系</p> <p>(6) 安全弁及び逃がし弁の名称, 種類, 吹出圧力, 吹出量, 主要寸法, 材料, 駆動方法, 個数 (自動減圧機能を有する場合は, その個数を付記すること。), 取付箇所及び吹出場所</p> <table border="1" data-bbox="1644 499 2516 1682"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M^{*1}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">— 平衡型</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">吹出圧力</td> <td>逃がし弁機能</td> <td>吹出圧力(MPa)</td> <td colspan="2">吹出量(t/h/個)</td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>—</td> <td>7.58^{*3}</td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>—</td> <td>ホ(3)(iii)a.(d)-① ホ(3)(iii)a.(d)-②</td> </tr> <tr> <td>第3段</td> <td>RV202-1D, H, M</td> <td>—</td> <td>7.72^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">及び吹出量</td> <td>第4段</td> <td>RV202-1B, E, G, K</td> <td>—</td> <td>7.79^{*3}</td> </tr> <tr> <td>安全弁機能</td> <td>吹出圧力(MPa)</td> <td colspan="2">吹出量(t/h/個)</td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>—</td> <td>8.14^{*3}</td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>—</td> <td>8.21^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>呼び径(A)</td> <td colspan="2">150</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>のど部の径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料(弁箱)</td> <td>弁座口の径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>リフト</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□以上</td> </tr> <tr> <td>駆動方法^{*2}</td> <td colspan="4">— 窒素及びバネ作動</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">— 12(6^{*4})</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>RV202-1A, B, C, D^{*5} (A-主蒸気管)</td> <td>RV202-1E, F^{*5} (B-主蒸気管)^{*5}</td> <td>RV202-1G, H^{*5} (C-主蒸気管)^{*5}</td> <td>RV202-1J, K, L, M^{*5} (D-主蒸気管)^{*5}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="4">— 原子炉格納容器内 EL 23800mm^{*5}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>吹出場所^{*2}</td> <td colspan="4">— サプレッションプール水面下</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名	称	RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M ^{*1}			種	類	— 平衡型			吹出圧力	逃がし弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)		第1段	RV202-1A, J	—	7.58 ^{*3}	第2段	RV202-1C, F, L	—	ホ(3)(iii)a.(d)-① ホ(3)(iii)a.(d)-②	第3段	RV202-1D, H, M	—	7.72 ^{*3}	及び吹出量	第4段	RV202-1B, E, G, K	—	7.79 ^{*3}	安全弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)		第1段	RV202-1A, J	—	8.14 ^{*3}	第2段	RV202-1C, F, L	—	8.21 ^{*3}	主要寸法	呼び径(A)	150		変更なし	のど部の径	mm	□		材料(弁箱)	弁座口の径	mm	□		リフト	mm	□ 以上		駆動方法 ^{*2}	— 窒素及びバネ作動				個数	— 12(6 ^{*4})				取付箇所	系統名(ライン名)	RV202-1A, B, C, D ^{*5} (A-主蒸気管)	RV202-1E, F ^{*5} (B-主蒸気管) ^{*5}	RV202-1G, H ^{*5} (C-主蒸気管) ^{*5}	RV202-1J, K, L, M ^{*5} (D-主蒸気管) ^{*5}	設置床	— 原子炉格納容器内 EL 23800mm ^{*5}				溢水防護上の区画番号	—				吹出場所 ^{*2}	— サプレッションプール水面下				<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のホ(3)(iii)a.(d)-①は、設置変更許可申請書(本文(五号))のホ(3)(iii)a.(d)-①(83.0kg/cm²g÷10.19716=8.14MPa)を詳細に記載しており、整合している。</p> <p>・設計及び工事の計画のホ(3)(iii)a.(d)-②は、設置変更許可申請書(本文(五号))のホ(3)(iii)a.(d)-②(4740t/h(定格主蒸気流量)×0.08=約379t/h)を詳細に記載しており、整合している。</p>	
		変更前		変更後																																																																																																		
名	称	RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M ^{*1}																																																																																																				
種	類	— 平衡型																																																																																																				
吹出圧力	逃がし弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)																																																																																																			
	第1段	RV202-1A, J	—	7.58 ^{*3}																																																																																																		
	第2段	RV202-1C, F, L	—	ホ(3)(iii)a.(d)-① ホ(3)(iii)a.(d)-②																																																																																																		
	第3段	RV202-1D, H, M	—	7.72 ^{*3}																																																																																																		
及び吹出量	第4段	RV202-1B, E, G, K	—	7.79 ^{*3}																																																																																																		
	安全弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)																																																																																																			
	第1段	RV202-1A, J	—	8.14 ^{*3}																																																																																																		
	第2段	RV202-1C, F, L	—	8.21 ^{*3}																																																																																																		
主要寸法	呼び径(A)	150		変更なし																																																																																																		
	のど部の径	mm	□																																																																																																			
材料(弁箱)	弁座口の径	mm	□																																																																																																			
	リフト	mm	□ 以上																																																																																																			
駆動方法 ^{*2}	— 窒素及びバネ作動																																																																																																					
個数	— 12(6 ^{*4})																																																																																																					
取付箇所	系統名(ライン名)	RV202-1A, B, C, D ^{*5} (A-主蒸気管)	RV202-1E, F ^{*5} (B-主蒸気管) ^{*5}	RV202-1G, H ^{*5} (C-主蒸気管) ^{*5}	RV202-1J, K, L, M ^{*5} (D-主蒸気管) ^{*5}																																																																																																	
	設置床	— 原子炉格納容器内 EL 23800mm ^{*5}																																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																				
吹出場所 ^{*2}	— サプレッションプール水面下																																																																																																					
<p>注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逃がし安全弁」と記載</p> <p>*2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1 逃がし安全弁の吹出量計算書」による。</p> <p>*3: S I単位に換算したものである。</p> <p>*4: 自動減圧機能を有する弁の個数を示す。</p> <p>*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>																																																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 重大事故等対処設備</p> <p>(a) 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備 <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①</u> を設置する。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、炉心を冷却するための設備として、高圧原子炉代替注水系を設ける。また、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により起動できない、かつ、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系を起動できない場合に、高圧原子炉代替注水系又は原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動できる設計とする。</p>	<p>5.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.4.1 概要</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備を設置する。</p> <p><中略></p> <p>5.4.2 設計方針</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、炉心を冷却するための設備として、高圧原子炉代替注水系を設ける。また、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により起動できない、かつ、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系を起動できない場合に、高圧原子炉代替注水系又は原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動できる設計とする。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.4 高圧原子炉代替注水系</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備 <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①a</u> とし、高圧原子炉代替注水系を設ける設計とする。また、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により起動できない、かつ、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系を起動できない場合に、高圧原子炉代替注水系を現場操作により起動できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.5 原子炉隔離時冷却系</p> <p><中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備 <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①b</u> とし、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により起動できない、かつ、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系を起動できない場合に、原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動できる設計とする。</p> <p>原子炉隔離時冷却系は、全交流動力電源及び常設直流電源系統が機能喪失した場合においても、現場で復水器冷却水入口弁（MV221-7）、R C I C 真空タンクドレン弁（V221-575）、R C I C 真空タンク水位検出配管ドレン弁（V221-577）、R C I C 注水弁（MV221-2）、ミニマムフロー弁（MV221-6）、タービン蒸気入口弁（MV221-22）、蒸気外側隔離弁（MV221-21）を人力操作することにより起動し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで原子炉冷</p>	<p>設計及び工事の計画の <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①a</u> 及び <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①b</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(3)(ii)b.(a)-①</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a-1-1) 高圧原子炉代替注水系による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、高圧原子炉代替注水系は、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉隔離時冷却系等を経由して、原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>高圧原子炉代替注水系は、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電が可能な設計とし、中央制御室からの操作が可能な設計とする。</u></p>	<p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>a. 高圧原子炉代替注水系による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として、高圧原子炉代替注水系を使用する。</u></p> <p><u>高圧原子炉代替注水系は、蒸気タービン駆動ポンプである高圧原子炉代替注水ポンプ、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉隔離時冷却系等を経由して、原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>a. 高圧原子炉代替注水系による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>高圧原子炉代替注水系は、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電が可能な設計とし、中央制御室からの操作が可能な設計とする。</u></p>	<p>却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は現場にハンドルを設置することで容易に行える設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.4 高圧原子炉代替注水系</p> <p><u>高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が機能喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する高圧原子炉代替注水系は、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉隔離時冷却系等を経由して、原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>高圧原子炉代替注水系は、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電が可能な設計とし、中央制御室からの操作が可能な設計とする。</u></p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.6 熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止のための原子炉圧力容器への注水及び注入</p> <p>(3) 高圧原子炉代替注水系による原子炉圧力容器への注水</p> <p><中略></p> <p>高圧原子炉代替注水系は、蒸気タービン駆動ポンプによ</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、高圧原子炉代替注水系は、常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備の機能喪失により中央制御室からの操作ができない場合においても、現場での人力によるホ(3)(ii)b.(a)(a-1)(a-1-1)-①弁の操作により、原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は容易に行える設計とする。</p>	<p>また、高圧原子炉代替注水系は、常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備の機能喪失により中央制御室からの操作ができない場合においても、現場での人力による弁の操作により、原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は容易に行える設計とする。</p>	<p>りサプレッションチェンバのプール水を原子炉隔離時冷却系等を経由して、原子炉圧力容器へ注水することで溶融炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>高圧原子炉代替注水系は、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電が可能な設計とし、中央制御室からの操作が可能な設計とする。</p> <p>高圧原子炉代替注水系の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.4 高圧原子炉代替注水系</p> <p><中略></p> <p>高圧原子炉代替注水系は、常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備の機能喪失により中央制御室からの操作ができない場合においても、現場での人力によるホ(3)(ii)b.(a)(a-1)(a-1-1)-①H.P.A.C注水弁(MV2B1-4)、タービン蒸気入口弁(MV221-22)、R.C.I.C.H.P.A.Cタービン蒸気入口弁(MV221-34)、蒸気外側隔離弁(MV221-21)の操作により、原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は現場にハンドルを設置することで容易に行える設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(a)(a-1)(a-1-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-1)(a-1-1)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a-2-1) 原子炉隔離時冷却系の現場操作による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により、高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系</u> ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-① <u>での発電用原子炉の冷却ができない場合であって、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系が起動できない場合の重大事故等対処設備として、原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動させて使用する。</u></p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>全交流動力電源及び常設直流電源系統が機能喪失した場合においても、現場で</u> ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-② <u>弁を人力操作することにより起動し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は容易に行える設計とする。</u></p> <p>(a-2-2) 代替電源設備による原子炉隔離時冷却系の復旧</p> <p><u>全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内常設蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内常設蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保する。</u></p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電に</u></p>	<p>(2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>a. 原子炉隔離時冷却系の現場操作による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により、高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系での発電用原子炉の冷却ができない場合であって、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系が起動できない場合の重大事故等対処設備として、原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動させて使用する。</u></p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>全交流動力電源及び常設直流電源系統が機能喪失した場合においても、現場で弁を人力操作することにより起動し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は容易に行える設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>b. 代替電源設備による原子炉隔離時冷却系の復旧</p> <p><u>全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内常設蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内常設蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保する。</u></p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電に</u></p>	<p>5.5 原子炉隔離時冷却系</p> <p><中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷を防止するために必要な重大事故等対処設備として、設計基準事故対処設備である高圧炉心スプレイ系及び原子炉隔離時冷却系が全交流動力電源及び常設直流電源系統の機能喪失により ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-① <u>起動できない、かつ、中央制御室からの操作により高圧原子炉代替注水系を起動できない場合に、原子炉隔離時冷却系を現場操作により起動できる設計とする。</u></p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>全交流動力電源及び常設直流電源系統が機能喪失した場合においても、現場で</u> ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-② <u>復水器冷却水入口弁(MV221-7)、R.C.I.C真空タンクドレン弁(V221-575)、R.C.I.C真空タンク水位検出配管ドレン弁(V221-577)、R.C.I.C注水弁(MV221-2)、ミニマムフロー弁(MV221-6)、タービン蒸気入口弁(MV221-22)、蒸気外側隔離弁(MV221-21)を人力操作することにより起動し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間にわたり、発電用原子炉の冷却を継続できる設計とする。なお、人力による措置は現場にハンドルを設置することで容易に行える設計とする。</u></p> <p>全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内常設蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内常設蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保する設計とする。</p> <p>原子炉隔離時冷却系は、<u>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備又は可搬型直流電源設備からの給電に</u></p>	<p>設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-① は、設置変更許可申請書（本文（五号））の ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-① と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-② は、設置変更許可申請書（本文（五号））の ホ(3)(ii)b.(a)(a-2)(a-2-1)-② と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>より機能を復旧し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>(a-3) 監視及び制御に用いる設備</p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態が発電用原子炉を冷却する場合に監視及び制御に使用する重大事故等対処設備として、原子炉水位（広帯域）、原子炉水位（燃料域）及び原子炉水位（S A）は原子炉水位を監視又は推定でき、原子炉圧力、原子炉圧力（S A）、高圧原子炉代替注水流量及びサプレッション・プール水位（S A）は原子炉圧力容器へ注水するための高圧原子炉代替注水系の作動状況を確認できる設計とする。</p>	<p>より機能を復旧し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(3) 監視及び制御に用いる設備</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態が発電用原子炉を冷却する場合に監視及び制御に使用する重大事故等対処設備として、原子炉水位（広帯域）、原子炉水位（燃料域）、原子炉水位（S A）、原子炉圧力、原子炉圧力（S A）、高圧原子炉代替注水流量及びサプレッション・プール水位（S A）を使用する。</p> <p>原子炉水位（広帯域）、原子炉水位（燃料域）及び原子炉水位（S A）は原子炉水位を監視又は推定でき、原子炉圧力、原子炉圧力（S A）、高圧原子炉代替注水流量及びサプレッション・プール水位（S A）は原子炉圧力容器へ注水するための高圧原子炉代替注水系の作動状況を確認できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>より機能を復旧し、蒸気タービン駆動ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.1 計測装置</p> <p>2.1.1 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及び重大事故等時における計測</p> <p><中略></p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①a 重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量、原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、水素濃度及び酸素濃度、原子炉建物内の水素濃度、未臨界の維持又は監視、最終ヒートシンクの確保の監視、格納容器バイパスの監視並びに水源の確保の監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.3 計測結果の表示、記録及び保存</p> <p><中略></p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①b 炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。</p> <p>また、重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量等のパラメータの計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①a及びホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-3)-①を全て含んでおり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(a-4) 事象進展抑制のために用いる設備 (a-4-1) ほう酸水注入系による進展抑制</p> <p><u>高圧原子炉代替注水系及び原子炉隔離時冷却系を用いた発電用原子炉への高圧注水により原子炉水位を維持できない場合を想定した重大事故等対処設備として、ほう酸水注入系は、ほう酸水注入ポンプにより、ほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで、重大事故等の進展を抑制できる設計とする。</u></p> <p>本系統の詳細については、へ、(5)、(xii) 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備に記載する。</p>	<p>(4) 事象進展抑制のために用いる設備 a. ほう酸水注入系による進展抑制</p> <p><u>高圧原子炉代替注水系及び原子炉隔離時冷却系を用いた発電用原子炉への高圧注水により原子炉水位を維持できない場合を想定した重大事故等対処設備として、ほう酸水注入系を使用する。</u></p> <p><u>ほう酸水注入系は、ほう酸水注入ポンプ、ほう酸水貯蔵タンク、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、ほう酸水注入ポンプにより、ほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで、重大事故等の進展を抑制できる設計とする。</u></p> <p>本系統の詳細については、「6.7 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備」に記載する。</p> <p><中略></p>	<p><中略></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.8 ほう酸水注入系</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、事象進展抑制のための設備として、ほう酸水注入系を設ける設計とする。</p> <p><u>高圧原子炉代替注水系及び原子炉隔離時冷却系を用いた発電用原子炉への高圧注水により原子炉水位を維持できない場合を想定した重大事故等対処設備として使用するほう酸水注入系は、ほう酸水注入ポンプにより、ほう酸水貯蔵タンクのほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで、重大事故等の進展を抑制できる設計とする。</u></p> <p>ほう酸水注入系の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「へ、(5)、(xii) 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																							
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>高圧原子炉代替注水系 高圧原子炉代替注水ポンプ</p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①(リ),(3),(ii),c...原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備と兼用)</p> <p>台数 1</p> <p>容量 ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②a 75m³/h以上</p> <p>全揚程 ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③ 913m以上</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②b 設計値である 93m³/h (8.21MPa[dif]において) ~70m³/h (0.74MPa[dif]において) に対し...</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-5)</p> </div>	<p>第 5.4-1 表 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 高圧原子炉代替注水系</p> <p>a. 高圧原子炉代替注水ポンプ</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <p>・原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備</p> <p>台数 1</p> <p>容量 75m³/h以上</p> <p>全揚程 913m以上</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 (要目表)</p> <p>6.3 高圧原子炉代替注水系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名称</td> <td></td> <td>高圧原子炉代替注水ポンプ*1</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>ターボ形</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②</td> </tr> <tr> <td>揚程</td> <td>m</td> <td>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*3</td> <td>MPa</td> <td>吸込側 1.37/吐出側 11.3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*3</td> <td>℃</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>吸込内径</td> <td>mm</td> <td>144.0*2</td> </tr> <tr> <td>吐出内径</td> <td>mm</td> <td>108.0*2</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-② (66.0*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>850*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>771.6*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>SCS6 相当 ()</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>—</td> <td>SCS6 相当 ()</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>取付箇所</td> <td></td> <td>高圧原子炉代替注水ポンプ（高圧原子炉代替注水系）</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原動機</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 1300mm</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>R-B2F-03N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>EL 1603mm 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原動機</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>背圧式蒸気タービン</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（高圧原子炉代替注水系）と兼用 *2：公称値を示す。 *3：重大事故等時における使用時の値</p>			変更前	変更後	ポンプ	名称		高圧原子炉代替注水ポンプ*1	種類	—	ターボ形	容量	m ³ /h/個	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②	揚程	m	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③	最高使用圧力*3	MPa	吸込側 1.37/吐出側 11.3	最高使用温度*3	℃	120	主要寸法	吸込内径	mm	144.0*2	吐出内径	mm	108.0*2	ケーシング厚さ	mm	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-② (66.0*2)	寸法	たて	mm	850*2	横	mm	771.6*2	材料	ケーシング	—	SCS6 相当 ()	ケーシングカバー	—	SCS6 相当 ()	個数	—	1				変更前	変更後	ポンプ	取付箇所		高圧原子炉代替注水ポンプ（高圧原子炉代替注水系）	原動機	系統名（ライン名）	—	原子炉建物 EL 1300mm	設置床	—	R-B2F-03N	溢水防護上の区画番号	—	EL 1603mm 以上	原動機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	背圧式蒸気タービン	種類	—	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①	出力	kW/個	1	個数	—	1		取付箇所	—	ポンプと同じ			
		変更前	変更後																																																																																								
ポンプ	名称		高圧原子炉代替注水ポンプ*1																																																																																								
	種類	—	ターボ形																																																																																								
	容量	m ³ /h/個	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②																																																																																								
	揚程	m	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③																																																																																								
	最高使用圧力*3	MPa	吸込側 1.37/吐出側 11.3																																																																																								
	最高使用温度*3	℃	120																																																																																								
	主要寸法	吸込内径	mm	144.0*2																																																																																							
		吐出内径	mm	108.0*2																																																																																							
		ケーシング厚さ	mm	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-② (66.0*2)																																																																																							
	寸法	たて	mm	850*2																																																																																							
横		mm	771.6*2																																																																																								
材料	ケーシング	—	SCS6 相当 ()																																																																																								
	ケーシングカバー	—	SCS6 相当 ()																																																																																								
個数	—	1																																																																																									
		変更前	変更後																																																																																								
ポンプ	取付箇所		高圧原子炉代替注水ポンプ（高圧原子炉代替注水系）																																																																																								
	原動機	系統名（ライン名）	—	原子炉建物 EL 1300mm																																																																																							
		設置床	—	R-B2F-03N																																																																																							
		溢水防護上の区画番号	—	EL 1603mm 以上																																																																																							
原動機	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	背圧式蒸気タービン																																																																																								
	種類	—	ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①																																																																																								
	出力	kW/個	1																																																																																								
個数	—	1																																																																																									
取付箇所	—	ポンプと同じ																																																																																									
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-①と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②は、設置変更許可申請書（本文）のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②a及びホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-②bを上回る値であり、整合している。 <p>尚、設置変更許可申請書（本文（十号））の「93m³/h (8.21MPa[dif]において) ~70m³/h (0.74MPa[dif]において)」は、設計及び工事の計画の「VI-1-1-4-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（原子炉冷却系統施設）」の記載と同義であり、整合している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-③を詳細に記載しており、整合している。 </div>																																																																																											

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ほう酸水注入系</p> <p>ほう酸水注入ポンプ</p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-④ (へ、(4) 非常用制御設備他と兼用)...</p> <p>ほう酸水貯蔵タンク</p> <p>ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-⑤ (へ、(4) 非常用制御設備他と兼用)...</p>	<p>(3) ほう酸水注入系</p> <p>a. ほう酸水注入ポンプ</p> <p>第 6. 1. 2-3 表 ほう酸水注入系主要仕様に記載する。</p> <p>b. ほう酸水貯蔵タンク</p> <p>第 6. 1. 2-3 表 ほう酸水注入系主要仕様に記載する。</p>	<p>6.7 ほう酸水注入系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>以下の設備は、既存の計測制御系統施設のうちほう酸水注入設備のほう酸水注入系であり、ほう酸水注入系として本工事計画で兼用する。</p> <p>常設 ほう酸水注入ポンプ ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-④</p> <p>(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>以下の設備は、既存の計測制御系統施設のうちほう酸水注入設備のほう酸水注入系であり、ほう酸水注入系として本工事計画で兼用する。</p> <p>常設 ほう酸水貯蔵タンク ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-⑤</p>	<p>設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-④と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(a)(a-4)(a-4-1)-⑤と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備 <u>ホ(3)(ii)b.(b)-①</u> を設置及び保管する。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための <u>ホ(3)(ii)b.(b)-②</u> 設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧時に炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として逃がし安全弁を設ける。</p> <p>(b-1) フロントライン系故障時に用いる設備 (b-1-1) 原子炉減圧の自動化</p> <p>逃がし安全弁の自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁は、代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）からの信号により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッション・チェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</p>	<p>5.5 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備</p> <p>5.5.1 概要</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p><中略></p> <p>5.5.2 設計方針</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧時に炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として逃がし安全弁を設ける。</p> <p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>a. 原子炉減圧の自動化</p> <p>逃がし安全弁の自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁を代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）により作動させ使用する。</p> <p>逃がし安全弁は、代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）からの信号により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッション・チェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p>3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備 <u>ホ(3)(ii)b.(b)-①</u> として、逃がし安全弁を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが <u>ホ(3)(ii)b.(b)-②</u> 高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備として、逃がし安全弁を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の <u>ホ(3)(ii)b.(b)-①</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(3)(ii)b.(b)-①</u> と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>ホ(3)(ii)b.(b)-②</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(3)(ii)b.(b)-②</u> と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、<u>高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p> <p>(b-1-2) 手動による原子炉減圧</p> <p><u>逃がし安全弁の自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁は、中央制御室からの遠隔手動操作により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッション・チェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p>	<p>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、<u>高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p> <p><中略></p> <p>b. 手動による原子炉減圧</p> <p><u>逃がし安全弁の自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁を手動により作動させて使用する。</u></p> <p><u>逃がし安全弁は、中央制御室からの遠隔手動操作により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッション・チェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 安全保護装置等</p> <p>3.5 自動減圧機能作動阻止</p> <p>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生した場合に、自動減圧起動阻止スイッチ2個及び代替自動減圧起動阻止スイッチ1個を作動させることで発電用原子炉の自動による減圧を防止できる設計とする。</p> <p>原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、<u>高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水系）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止できる設計とする。</u></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 原子炉冷却材の循環設備</p> <p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p>3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧</p> <p><中略></p> <p><u>逃がし安全弁の自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する逃がし安全弁は、中央制御室からの遠隔手動操作により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッションチェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2) サポート系故障時に用いる設備 (b-2-1) 常設直流電源系統喪失時の減圧</p> <p><u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備及び主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）を使用する。</u></p> <p>(b-2-1-1) 可搬型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、SRV用電源切替盤を切り替えることにより、逃がし安全弁（8個）の作動に必要な電源を供給できる設計とする。</u></p> <p>(b-2-1-2) 主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）による逃がし安全弁機能回復 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、逃がし安全弁の作動回路に接続することにより、逃がし安全弁（2個）を一定期間にわたり連続して開状態を保持できる設計とする。</u></p>	<p>(2) サポート系故障時に用いる設備 a. 常設直流電源系統喪失時の減圧</p> <p><u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備及び主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）を使用する。</u></p> <p>(a) 可搬型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備及びSRV用電源切替盤を使用する。</u> <u>可搬型直流電源設備は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、SRV用電源切替盤を切り替えることにより、逃がし安全弁（8個）の作動に必要な電源を供給できる設計とする。</u></p> <p>(b) 主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）による逃がし安全弁機能回復 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）を使用する。</u> <u>主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、逃がし安全弁の作動回路に接続することにより、逃がし安全弁（2個）を一定期間にわたり連続して開状態を保持できる設計とする。</u> <中略></p>	<p>【非常用電源設備】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 3. 直流電源設備及び計測制御用電源設備 3.3 主蒸気逃がし安全弁用可搬型直流電源設備 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備及び主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）を使用できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、SRV用電源切替盤（115V, 50Aのものを1個）を切り替えることにより、逃がし安全弁（8個）の作動に必要な電源を供給できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として使用する主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）は、逃がし安全弁の作動に必要な常設直流電源系統が喪失した場合においても、逃がし安全弁の作動回路に接続することにより、逃がし安全弁（2個）を一定期間にわたり連続して開状態を保持できる設計とする。</u> <中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2-2) 逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、<u>ホ(3)(ii)b.(b)(b-2)(b-2-2)-①</u>逃がし安全弁窒素ガス供給系は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>なお、逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替えが可能な設計とする。</p>	<p>b. 逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、<u>逃がし安全弁窒素ガス供給系</u>を使用する。</p> <p>逃がし安全弁窒素ガス供給系は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>なお、逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替えが可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>本システムの流路として、逃がし安全弁窒素ガス供給系の配管及び弁並びに逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>その他、設計基準事故対処設備である逃がし安全弁を重大事故等対処設備として使用する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 制御用空気設備</p> <p>5.2 逃がし安全弁窒素ガス供給系</p> <p><中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として使用する<u>ホ(3)(ii)b.(b)(b-2)(b-2-2)-①</u>逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁用窒素ガスポンベにより逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替えが可能な設計とする。</p> <p>逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備の流路として、逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備として設計する。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)b.(b)(b-2)(b-2-2)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)b.(b)(b-2)(b-2-2)-①</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-2-3) 代替電源設備を用いた逃がし安全弁の復旧 (b-2-3-1) 代替直流電源設備による復旧 <u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁は、可搬型直流電源設備により作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p>(b-2-3-2) 代替交流電源設備による復旧 <u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により所内常設蓄電式直流電源設備を受電し、作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p>(b-3) 炉心損傷時における高圧溶融物放出／格納容器雰囲気直接加熱の防止 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、炉心損傷時に原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧状態である場合において、高圧溶融物放出及び格納容器雰囲気直接加熱による原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として、ホ(3)(ii)b.(b)(b-3)-①本系統は、(b-1-2) 手動による原子炉減圧と同じである。</u></p>	<p>c. 代替電源設備を用いた逃がし安全弁の復旧 (a) 代替直流電源設備による復旧 <u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として、可搬型直流電源設備を使用する。</u> <u>逃がし安全弁は、可搬型直流電源設備により作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p>(b) 代替交流電源設備による復旧 <u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備を使用する。</u> <u>逃がし安全弁は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により所内常設蓄電式直流電源設備を受電し、作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p>(3) 炉心損傷時における高圧溶融物放出／格納容器雰囲気直接加熱の防止 <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、炉心損傷時に原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧状態である場合において、高圧溶融物放出及び格納容器雰囲気直接加熱による原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として、逃がし安全弁を使用する。</u> <u>本系統は、「(1) b. 手動による原子炉減圧」と同じである。</u></p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 原子炉冷却材の循環設備 3.4 逃がし安全弁の機能 3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧 <中略> <u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する逃がし安全弁は、可搬型直流電源設備又は主蒸気逃がし安全弁用蓄電池（補助盤室）により作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p><u>全交流動力電源又は常設直流電源が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する逃がし安全弁は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により所内常設蓄電式直流電源設備を受電し、作動に必要な直流電源が供給されることにより機能を復旧し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p> <p>3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧 <中略> <u>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、炉心損傷時に原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧状態である場合において、高圧溶融物放出及び格納容器雰囲気直接加熱による原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として使用するホ(3)(ii)b.(b)(b-3)-①逃がし安全弁は、中央制御室からの遠隔手動操作により、逃がし安全弁逃がし弁機能用アクチュエータに蓄圧された窒素ガスをアクチュエータのピストンに供給することで作動し、蒸気を排気管によりサプレッションチェンバのプール水面下に導き凝縮させることで、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧できる設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(b)(b-3)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(b)(b-3)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(b-4) インターフェイスシステムLOCA発生時に用いる設備</p> <p><u>インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁は、中央制御室からの手動操作によって作動させ、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることで原子炉冷却材の漏えいを抑制できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネルは、高圧の原子炉冷却材が原子炉建物原子炉棟へ漏えいして蒸気となり、原子炉建物原子炉棟内の圧力が上昇した場合において、外気との差圧により自動的に開放し、原子炉建物原子炉棟内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>残留熱除去系注水弁及び低圧炉心スプレイ系注水弁は、現場で弁を操作することにより原子炉冷却材の漏えい箇所を隔離できる設計とする。</u></p>	<p>(4) インターフェイスシステムLOCA発生時に用いる設備</p> <p><u>インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として、逃がし安全弁、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル、残留熱除去系注水弁及び低圧炉心スプレイ系注水弁を使用する。</u></p> <p><u>逃がし安全弁は、中央制御室からの手動操作によって作動させ、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることで原子炉冷却材の漏えいを抑制できる設計とする。</u></p> <p><u>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネルは、高圧の原子炉冷却材が原子炉建物原子炉棟へ漏えいして蒸気となり、原子炉建物原子炉棟内の圧力が上昇した場合において、外気との差圧により自動的に開放し、原子炉建物原子炉棟内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p> <p><u>残留熱除去系注水弁及び低圧炉心スプレイ系注水弁は、現場で弁を操作することにより原子炉冷却材の漏えい箇所を隔離できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p><中略></p> <p>11. インターフェイスシステムLOCA発生時に用いる設備（第61条）</p> <p><u>インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として使用する逃がし安全弁は、中央制御室からの手動操作によって作動させ、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることで原子炉冷却材の漏えいを抑制できる設計とする。</u></p> <p><u>インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系注水弁（MV222-5A, 5B, 5C）及び低圧炉心スプレイ系注水弁（MV223-2）は、現場で弁を操作することにより原子炉冷却材の漏えい箇所を隔離できる設計とする。</u></p> <p>なお、設計基準事故対処設備である残留熱除去系注水弁（MV222-5A, 5B, 5C）及び低圧炉心スプレイ系注水弁（MV223-2）を重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用することから、重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><u>インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として使用する原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル（設置枚数2枚、開放差圧6.9kPa以下）（原子炉格納施設の設備を原子炉冷却系統施設の設備として兼用）は、高圧の原子炉冷却材が原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内へ漏えいして蒸気となり、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内の圧力が上昇した場合において、外気との差圧により自動的に開放し、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>逃がし安全弁は、想定される重大事故等時に確実に作動するように、原子炉格納容器内に設置し、制御用空気が喪失した場合に使用するホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-①逃がし安全弁窒素ガス供給系の逃がし安全弁用窒素ガスポンベの容量の設定も含めて、想定される重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。操作は、中央制御室で可能な設計とする。</p>	<p>5.5.2.4 環境条件等 <中略></p> <p>逃がし安全弁は、想定される重大事故等時に確実に作動するように、原子炉格納容器内に設置し、制御用空気が喪失した場合に使用する逃がし安全弁窒素ガス供給系の逃がし安全弁用窒素ガスポンベの容量の設定も含めて、想定される重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>逃がし安全弁の操作は、想定される重大事故等時において中央制御室で可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>3.4 逃がし安全弁の機能</p> <p>3.4.3 逃がし安全弁による原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時の減圧</p> <p><中略></p> <p>逃がし安全弁は、想定される重大事故等時に確実に作動するように、原子炉格納容器内に設置し、制御用空気が喪失した場合に使用するホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-①逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備の逃がし安全弁用窒素ガスポンベの容量の設定も含めて、想定される重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。操作は、中央制御室で可能な設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																					
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>逃がし安全弁 ホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-② ((1)...(ii)...b...主蒸気系と兼用)...</p>	<p>第 5.5-1 表 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 逃がし安全弁</p> <p>第 5.1-3 表 主蒸気系主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項</p> <p>4.1 主蒸気系</p> <p>(6) 安全弁及び逃がし弁の名称、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、駆動方法、個数（自動減圧機能を有する場合は、その個数を付記すること。）、取付箇所及び吹出場所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M^{*1}</td> <td rowspan="20" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">— 平衡型</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">吹出圧力</td> <td rowspan="4">逃がし弁機能</td> <td>吹出圧力(MPa)</td> <td>吹出量(t/h/個)</td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>—</td> <td>7.58^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>—</td> <td>7.65^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>第3段</td> <td>RV202-1D, H, M</td> <td>—</td> <td>7.72^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">及び吹出量</td> <td rowspan="4">安全弁機能</td> <td>吹出圧力(MPa)</td> <td>吹出量(t/h/個)</td> </tr> <tr> <td>第1段</td> <td>RV202-1A, J</td> <td>—</td> <td>8.14^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>第2段</td> <td>RV202-1C, F, L</td> <td>—</td> <td>8.21^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>第3段</td> <td>RV202-1D, H, M</td> <td>—</td> <td>8.28^{*3}</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>呼び径(A)</td> <td colspan="2">150</td> </tr> <tr> <td>のど部の径</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>弁座口の径</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>リフト</td> <td>mm</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/>以上</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料(弁箱)</td> <td colspan="2">— <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>駆動方法^{*2}</td> <td></td> <td colspan="2">— 室素及びバネ作動</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td colspan="2">— 12(6^{*4})</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td rowspan="3">系統名(ライン名)</td> <td>RV202-1A, B, C, D^{*5}</td> <td>RV202-1E, F^{*5}</td> <td>RV202-1G, H^{*5}</td> <td>RV202-1J, K, L, M^{*5}</td> </tr> <tr> <td colspan="4">(A-主蒸気管) (B-主蒸気管)^{*5} (C-主蒸気管)^{*5} (D-主蒸気管)^{*5}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="3">— 原子炉格納容器内 EL 2380mm^{*5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">吹出場所^{*2}</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="3">—</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名	称	RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M ^{*1}		変更なし	種	類	— 平衡型		吹出圧力	逃がし弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)	第1段	RV202-1A, J	—	7.58 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	第2段	RV202-1C, F, L	—	7.65 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	第3段	RV202-1D, H, M	—	7.72 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	及び吹出量	安全弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)	第1段	RV202-1A, J	—	8.14 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	第2段	RV202-1C, F, L	—	8.21 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	第3段	RV202-1D, H, M	—	8.28 ^{*3}	<input type="checkbox"/>	主要寸法	呼び径(A)	150		のど部の径	mm	<input type="checkbox"/>	弁座口の径	mm	<input type="checkbox"/>	リフト	mm	<input type="checkbox"/> 以上		材	料(弁箱)	— <input type="checkbox"/>		駆動方法 ^{*2}		— 室素及びバネ作動		個	数	— 12(6 ^{*4})		取付箇所	系統名(ライン名)	RV202-1A, B, C, D ^{*5}	RV202-1E, F ^{*5}	RV202-1G, H ^{*5}	RV202-1J, K, L, M ^{*5}	(A-主蒸気管) (B-主蒸気管) ^{*5} (C-主蒸気管) ^{*5} (D-主蒸気管) ^{*5}				設置床	— 原子炉格納容器内 EL 2380mm ^{*5}			吹出場所 ^{*2}	溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			<p>整合性</p> <p>・「逃がし安全弁」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における ホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-② を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち、「原子炉冷却材の循環設備」に整理しており、整合している。</p>	<p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「逃がし安全弁」と記載</p> <p>*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け 59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-1 逃がし安全弁の吹出量計算書」による。</p> <p>*3：S I 単位に換算したものである。</p> <p>*4：自動減圧機能を有する弁の個数を示す。</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>
		変更前		変更後																																																																																																					
名	称	RV202-1A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M ^{*1}		変更なし																																																																																																					
種	類	— 平衡型																																																																																																							
吹出圧力	逃がし弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)																																																																																																						
		第1段	RV202-1A, J		—	7.58 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
		第2段	RV202-1C, F, L		—	7.65 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
		第3段	RV202-1D, H, M		—	7.72 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
及び吹出量	安全弁機能	吹出圧力(MPa)	吹出量(t/h/個)																																																																																																						
		第1段	RV202-1A, J		—	8.14 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
		第2段	RV202-1C, F, L		—	8.21 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
		第3段	RV202-1D, H, M		—	8.28 ^{*3}	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
主要寸法	呼び径(A)	150																																																																																																							
	のど部の径	mm	<input type="checkbox"/>																																																																																																						
	弁座口の径	mm	<input type="checkbox"/>																																																																																																						
リフト	mm	<input type="checkbox"/> 以上																																																																																																							
材	料(弁箱)	— <input type="checkbox"/>																																																																																																							
駆動方法 ^{*2}		— 室素及びバネ作動																																																																																																							
個	数	— 12(6 ^{*4})																																																																																																							
取付箇所	系統名(ライン名)	RV202-1A, B, C, D ^{*5}	RV202-1E, F ^{*5}		RV202-1G, H ^{*5}	RV202-1J, K, L, M ^{*5}																																																																																																			
		(A-主蒸気管) (B-主蒸気管) ^{*5} (C-主蒸気管) ^{*5} (D-主蒸気管) ^{*5}																																																																																																							
		設置床	— 原子炉格納容器内 EL 2380mm ^{*5}																																																																																																						
吹出場所 ^{*2}	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																							
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル 個 数 ホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-③ 1式</p>	<p>(5) <u>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル</u> 個 数 1式 取付箇所 原子炉建物原子炉棟4階</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 11. インターフェイスシステムLOCA発生時に用いる設備 <中略> インターフェイスシステムLOCA発生時の重大事故等対処設備として使用する<u>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル</u> (ホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-③)設置枚数2枚、開放差圧6.9kPa以下（原子炉格納施設の設備を原子炉冷却系統施設の設備として兼用）は、高圧の原子炉冷却材が原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内へ漏えいして蒸気となり、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内の圧力が上昇した場合において、外気との差圧により自動的に開放し、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内の圧力及び温度を低下させることができる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(b)(b-4)-③を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																						
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p><u>主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)</u></p> <p>個 数 <u>2 (予備 2)</u></p> <p>容 量 <u>約 24Ah/個</u></p>	<p>(3) <u>主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)</u></p> <p>型 式 制御弁式据置鉛蓄電池</p> <p>個 数 <u>2 (予備 2)</u></p> <p>容 量 <u>約 24Ah/個</u></p> <p>電 圧 115V</p> <p>使用箇所 廃棄物処理建物 1 階 (補助盤室)</p> <p>保管場所 廃棄物処理建物 1 階 (補助盤室)</p>	<p>【非常用電源設備】</p> <p>(要目表)</p> <p>1. 非常用電源設備</p> <p>1.3 その他の電源設備 (非常用のものに限る。)に係る次の事項</p> <p>(2)電力貯蔵装置の名称, 酒類, 容量, 電圧, 主要寸法, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p style="text-align: center;">可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 5%;">変更前</th> <th style="width: 15%;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">名</td> <td style="width: 10%;">称</td> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 15%;">主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>制御弁式鉛蓄電池</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>Ah/個</td> <td>24* (20 時間率)</td> </tr> <tr> <td>電</td> <td>圧</td> <td>V</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>た て</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>2(予備 2)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td></td> <td>—</td> <td>保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注記* : 公称値を示す。</p>			変更前	変 更 後	名	称		主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)	種	類	—	制御弁式鉛蓄電池	容	量	Ah/個	24* (20 時間率)	電	圧	V	115	主 要 寸 法	た て	mm	<input type="checkbox"/> *	横	mm	<input type="checkbox"/> *	高 さ	mm	<input type="checkbox"/> *	個	数	—	2(予備 2)	取 付 箇 所		—	保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm		
		変更前	変 更 後																																							
名	称		主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)																																							
種	類	—	制御弁式鉛蓄電池																																							
容	量	Ah/個	24* (20 時間率)																																							
電	圧	V	115																																							
主 要 寸 法	た て	mm	<input type="checkbox"/> *																																							
	横	mm	<input type="checkbox"/> *																																							
	高 さ	mm	<input type="checkbox"/> *																																							
個	数	—	2(予備 2)																																							
取 付 箇 所		—	保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 15300mm																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備ホ(3)(ii)b.(c)-①を設置及び保管する。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧ホ(3)(ii)b.(c)-②時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、発電用原子炉を冷却し、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、低圧原子炉代替注水系（可搬型）を設ける。</p>	<p>5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.6.1 概要</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p><中略></p> <p>5.6.2 設計方針</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備のうち、発電用原子炉を冷却し、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、低圧原子炉代替注水系（可搬型）を設ける。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備ホ(3)(ii)b.(c)-①として、炉心の著しい損傷に至るまでの時間的余裕のない場合に対応するための低圧原子炉代替注水系（常設）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備ホ(3)(ii)b.(c)-①bとして、低圧原子炉代替注水系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧ホ(3)(ii)b.(c)-②の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水系（可搬型）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)-①a及びホ(3)(ii)b.(c)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>また、炉心の著しい損傷に至るまでの時間的余裕のない場合に対応するため、低圧原子炉代替注水系（常設）を設ける。</u></p> <p>(c-1) 原子炉運転中の場合に用いる設備 (c-1-1) フロントライン系故障時に用いる設備 (c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p>	<p><u>また、炉心の著しい損傷に至るまでの時間的余裕のない場合に対応するため、低圧原子炉代替注水系（常設）を設ける。</u></p> <p>(1) 原子炉運転中の場合に用いる設備 a. フロントライン系故障時に用いる設備 (a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水系（常設）を使用する。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水ポンプ、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが低圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の冷却機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、発電用原子炉を冷却するために必要な重大事故等対処設備として、<u>炉心の著しい損傷に至るまでの時間的余裕のない場合に対応するための低圧原子炉代替注水系（常設）を設ける設計とする。</u></p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合並びに全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物及び原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、大量送水車により、代替淡水源の水を残留熱除去系を経由して原子炉压力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①</u>代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-②</u>非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水系（可搬型）を使用する。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、大量送水車、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、大量送水車により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉压力容器に注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、代替淡水源が枯渇した場合において、重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車により海を利用できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、<u>非常用交流電源設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合並びに全交流動力電源喪失又は原子炉補器冷却系機能喪失により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、大量送水車により、代替淡水源の水を残留熱除去系を経由して原子炉压力容器に注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-②</u>非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><u>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保す</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①a</u>及び<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>ることに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土砂流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①a</u>淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）</u>、<u>格納容器代替スプレイ系（可搬型）</u>及び<u>ベDESTAL代替注水系（可搬型）</u>の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である<u>燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッダ）</u>及び<u>燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）</u>の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な十分な量のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-1)(c-1-1-2)-①b</u>水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(c-1-2-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-1)-①(c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却と同じである。</u></p>	<p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><u>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、「(1) a. (a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</u></p>	<p>のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合並びに全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-1)-①低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を經由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を經由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-1)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-1)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-2-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却と同じである。</p>	<p>(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、「(1).a.(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</p>	<p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系の機能が喪失した場合並びに全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失により、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①a 大量送水車により、代替淡水源の水を残留熱除去系を經由して原子炉圧力容器に注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を經由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①a～ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①b淡水が枯渇した場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びベデスタル代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッダ）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-2)-①c重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-2-3) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（低圧注水モード）の復旧</p> <p>全交流動力電源喪失又はホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-3)-①原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、残留熱除去系（低圧注水モード）を復旧する。</p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉压力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>(c-1-2-4) 常設代替交流電源設備による低圧炉心スプレイ系の復旧</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-4)-①を使用し、低圧炉心スプレイ系を復旧する。</p> <p>低圧炉心スプレイ系は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、低圧炉心スプレイ・ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉压力容器へスプレイすることで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p>	<p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（低圧注水モード）の復旧</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧注水モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、残留熱除去系（低圧注水モード）を復旧する。</p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉压力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>(d) 常設代替交流電源設備による低圧炉心スプレイ系の復旧</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、低圧炉心スプレイ系を復旧する。</p> <p>低圧炉心スプレイ系は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、低圧炉心スプレイ・ポンプによりサプレッション・チェンバのプール水を原子炉压力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p>	<p>5.7 残留熱除去系（低圧注水モード）</p> <p><中略></p> <p>全交流動力電源喪失又はホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-3)-①原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（低圧炉心注水モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系（低圧注水モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、残留熱除去ポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉压力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（低圧注水モード）の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物、残留熱除去系熱交換器、原子炉格納容器（サプレッションチェンバ）及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5.3 低圧炉心スプレイ系</p> <p><中略></p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、低圧炉心スプレイ系が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧炉心スプレイ系は、常設代替交流電源設備ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-4)-①からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>低圧炉心スプレイ系は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、低圧炉心スプレイポンプによりサプレッションチェンバのプール水を原子炉压力容器へスプレイすることで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-3)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-3)-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-4)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-2)(c-1-2-4)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-3) 溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合に用いる設備</p> <p>(c-1-3-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による残留溶融炉心の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷，溶融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に溶融炉心が存在する場合に，溶融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として，低圧原子炉代替注水系（常設）は，低圧原子炉代替注水ポンプにより，低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器へ注水することで原子炉圧力容器内に存在する溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は，ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-1)-①非常用交流電源設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>c. 溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合に用いる設備</p> <p>(a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による残留溶融炉心の冷却</p> <p><u>炉心の著しい損傷，溶融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に溶融炉心が存在する場合に，溶融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として，低圧原子炉代替注水系（常設）を使用する。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は，低圧原子炉代替注水ポンプ，配管・弁類，計測制御装置等で構成し，低圧原子炉代替注水ポンプにより，低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器へ注水することで原子炉圧力容器内に存在する溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は，非常用交流電源設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p><u>炉心の著しい損傷，溶融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に溶融炉心が存在する場合に，溶融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は，低圧原子炉代替注水ポンプにより，低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器へ注水することで原子炉圧力容器内に存在する溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は，ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-1)-①a非常用交流電源設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として，設計基準対象施設である原子炉圧力容器，炉心支持構造物，原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.6 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止のための原子炉圧力容器への注水及び注入 (1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による原子炉圧力容器への注水</p> <p><中略></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（常設）は，低圧原子炉代替注水ポンプにより，低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器へ注水することで溶融炉心</u></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-1)-①a及びホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-1)-①bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-1)-①と同義であり，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本系統の詳細については、(c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却に記載する。</p>	<p>本系統の詳細については、「(1) a. (a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却」に記載する。</p>	<p>を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ (3) (ii) b. (c) (c-1) (c-1-3) (c-1-3-1) -①b 非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「(c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-1-3-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による残留 熔融炉心の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷，熔融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に熔融炉心が存在する場合に，熔融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として，</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，大量送水車により，代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器へ注水することで原子炉圧力容器内に存在する熔融炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-①代替淡水源が枯渇した場合において，重大事故等の収束に必要な水の供給設備である大量送水車からの送水により海を利用できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-②非常用交流電源設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また，大量送水車は，ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による残留熔融炉心の冷却</p> <p>炉心の著しい損傷，熔融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に熔融炉心が存在する場合に，熔融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として，低圧原子炉代替注水系（可搬型）を使用する。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，大量送水車，配管・ホース・弁類，計測制御装置等で構成し，大量送水車により，代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器に注水することで原子炉圧力容器内に存在する熔融炉心を冷却できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，非常用交流電源設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また，大量送水車は，ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷，熔融が発生した場合において，原子炉圧力容器内に熔融炉心が存在する場合に，熔融炉心を冷却し，原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，大量送水車により，代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器に注水することで原子炉圧力容器内に存在する熔融炉心を冷却できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は，ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-②a非常用ディーゼル発電設備に加えて，代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>大量送水車は，ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として，設計基</p>	<p>設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-①a 及び ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-①b は，設置変更許可申請書 （本文（五号））のホ(3) (ii)b.(c)(c-1)(c-1-3) (c-1-3-2)-①と同義で あり，整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-②a 及び ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-②b は，設置変更許可申請書 （本文（五号））のホ(3) (ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>準対象施設である原子炉压力容器，炉心支持構造物，原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に，重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて，設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として，低圧原子炉代替注水槽，サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に，代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また，淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に，海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は，想定される重大事故等時において，ホ (3) (ii) b. (c) (c-1) (c-1-3) (c-1-3-2) -①a 淡水が枯渇した場合に，低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに，原子炉压力容器への注水又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型），格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びベDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として，また，燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッダ）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として，さらに，原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p>	<p>(c-1-3-2)-②と同義であり，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p><u>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備 設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>重大事故等の収束に必要な十分な量</u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-①bの水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>【原子炉格納施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.2 原子炉格納容器安全設備 3.2.6 溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下遅延・防止のための原子炉圧力容器への注水及び注入 (2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による原子炉圧力容器への注水 <中略> <u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、大量送水車により、代替淡水源の水を残留熱除去系等を経由して原子炉圧力容器に注水することで溶融炉心を冷却できる設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-3)(c-1-3-2)-②b非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p><u>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本系統の詳細については、(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却に記載する。</p> <p>(c-2) 原子炉停止中の場合に用いる設備 (c-2-1) フロントライン系故障時に用いる設備 (c-2-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-1)-①(c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却と同じである。</p>	<p>本系統の詳細については、「(1) a. (b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却」に記載する。</p> <p>(2) 原子炉停止中の場合に用いる設備 a. フロントライン系故障時に用いる設備 (a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、「(1) a. (a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合及び発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-1)-①低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-1)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-2-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却と同じである。</p>	<p>(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、「(1) a. (b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</p>	<p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合及び発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①a大量送水車により代替淡水源の水を残留熱除去系を經由して原子炉圧力容器に注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を經由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①a～ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、<u>ホ(3)(ii)b.(c)</u> <u>(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①b</u>淡水が枯渇した場合に、... 低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p>大量送水車は、<u>海水を各系統へ供給できる設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-1)(c-2-1-2)-①c</u>重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-2-2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(c-2-2-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-1)-①(c-1-1-1) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却と同じである。</p>	<p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、「(1).a.(a) 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</p>	<p>5.6 低圧原子炉代替注水系</p> <p>5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合及び発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（常設）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-1)-①低圧原子炉代替注水ポンプにより、低圧原子炉代替注水槽の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器へ注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-1)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-1)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	
<p>(c-2-2-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①(c-1-1-2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却と同じである。</p>	<p>(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p>原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、「(1).a.(b) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却」と同じである。</p>	<p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉停止中において残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の機能が喪失した場合及び発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①a大量送水車により代替淡水源の水を残留熱除去系を経由して原子炉圧力容器に注水することで炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、非常用ディーゼル</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①a～ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①を具体的に記載しており、整合してい</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>発電設備に加えて、代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>大量送水車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の流路として、設計基準対象施設である原子炉压力容器、炉心支持構造物、原子炉压力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p><中略></p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、低圧原子炉代替注水槽、サプレッションチェンバ及びほう酸水貯蔵タンクを重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>海は、想定される重大事故等時において、ホ(3)(ii)b.(c) (c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①b淡水が枯渇した場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉压力容器への注水又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源と</p>	<p>る。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c-2-2-3) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の復旧</p> <p>発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-①を使用し、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）を復旧する。</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、冷却材を原子炉圧力容器から残留熱除去ポンプ及びホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-②熱交換器を経由して原子炉圧力容器に戻すことにより炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補</p>	<p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の復旧</p> <p>原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として、常設代替交流電源設備を使用し、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）を復旧する。</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、冷却材を原子炉圧力容器から残留熱除去ポンプ及び熱交換器を経由して原子炉圧力容器に戻すことにより炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は原子炉補機冷却系（原子炉補</p>	<p>して、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。 <中略></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-2)-①c重大事故等の収束に必要なとなる十分な量の水を供給するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>代替水源からの移送ルートを確認するとともに、可搬型のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.1 残留熱除去系</p> <p>4.1.2 原子炉停止時冷却モード</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉停止中において全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系機能喪失によるサポート系の故障により、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が起動できない場合の重大事故等対処設備として使用する残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、常設代替交流電源設備ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-①からの給電により復旧できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、常設代替交流電源設備からの給電により機能を復旧し、冷却材を原子炉圧力容器から残留熱除去ポンプ及びホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-②残留熱除去系熱交換器を経由して原子炉圧力容器に戻すことにより炉心を冷却できる設計とする。</p> <p>本系統に使用する冷却水は、原子炉補機冷却系（原子炉補</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-②と同義であ</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>補機海水系を含む。)又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び代替所内電気設備については、ス、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、低圧原子炉代替注水ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備からの給電により駆動することで、非常用所内電気設備を経由したホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-③非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去ポンプを用いた残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ・ポンプを用いた低圧炉心スプレイ系に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水槽を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して異なる水源を有する設計とする。</p>	<p>機海水系を含む。)又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備及び燃料補給設備については、「10.2 代替電源設備」に記載する。</p> <p>5.6.2.1 多様性、位置的分散 <中略></p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、低圧原子炉代替注水ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備からの給電により駆動することで、非常用所内電気設備を経由した非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去ポンプを用いた残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ・ポンプを用いた低圧炉心スプレイ系に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>また、低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水槽を水源とすることで、サブプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して異なる水源を有する設計とする。</p>	<p>補機海水系を含む。)又は原子炉補機代替冷却系から供給できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の流路として、設計基準対象施設である原子炉圧力容器、炉心支持構造物、原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.6 低圧原子炉代替注水系 5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却 <中略> a. 多様性、位置的分散及び独立性 低圧原子炉代替注水系（常設）は、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、低圧原子炉代替注水ポンプを代替所内電気設備を経由した常設代替交流電源設備からの給電により駆動することで、非常用所内電気設備を経由したホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-③非常用ディーゼル発電設備からの給電により駆動する残留熱除去ポンプを用いた残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイポンプを用いた低圧炉心スプレイ系に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）は、低圧原子炉代替注水槽を水源とすることで、サブプレッションチェンバのプールを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して異なる水源を有する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水ポンプ及び低圧原子炉代替注水槽は、原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内に設置することで、原子炉建物内の低圧炉心スプレイポンプ、残留熱除去ポンプ及びサブプレッションチェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用ディーゼル発</p>	<p>り、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>低圧原子炉代替注水ポンプ及び低圧原子炉代替注水槽は、原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内に設置することで、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ、低圧炉心スプレイ・ポンプ及びサプレッション・チェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、大量送水車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-④非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>また、低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、代替淡水源を水源とすることで、サプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水槽を水源とする低圧原子炉代替注水系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</u></p> <p><u>大量送水車は、原子炉建物及び原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ及び低圧炉心スプレイ・ポンプ並びに原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内の低圧原子炉代替注水ポンプと共通</u></p>	<p><u>低圧原子炉代替注水ポンプ及び低圧原子炉代替注水槽は、原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内に設置することで、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ、低圧炉心スプレイ・ポンプ及びサプレッション・チェンバと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、大量送水車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><u>また、低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、代替淡水源を水源とすることで、サプレッション・チェンバを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系並びに低圧原子炉代替注水槽を水源とする低圧原子炉代替注水系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</u></p> <p><u>大量送水車は、原子炉建物及び原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ及び低圧炉心スプレイ・ポンプ並びに原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内の低圧原子炉代替注水ポンプと共通</u></p>	<p><u>電設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とする。また、低圧原子炉代替注水系（常設）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>5.6.2 低圧原子炉代替注水系（可搬型）による発電用原子炉の冷却</p> <p><中略></p> <p>a. 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、大量送水車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水系（常設）に対して多様性を有する設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、代替淡水源を水源とすることで、サプレッションチェンバのプールを水源とする残留熱除去系（低圧注水モード）、低圧炉心スプレイ系及び低圧原子炉代替注水槽を水源とする低圧原子炉代替注水系（常設）に対して異なる水源を有する設計とする。</u></p> <p><u>大量送水車は、原子炉建物及び原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ及び低圧炉心スプレイポンプ並びに原子炉建物外の低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内の低圧原子炉代替注水ポンプと共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</u></p> <p><u>大量送水車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</u></p> <p><u>低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、ハンドルを設けて手動操作を可能とすることで、ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-④非常用ディーゼル発電設備からの給電による遠隔操作に対して多様性を有する設計とす</u></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-④と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>大量送水車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）及び低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、残留熱除去系に対しては水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、低圧炉心スプレイ系に対しては、水源から注水先である原子炉压力容器までの系統全体に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、低圧原子炉代替注水系（常設）及び低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>電源設備の多様性及び独立性、位置的分散については、ス(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p>	<p>要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>大量送水車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設）及び低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、残留熱除去系に対しては、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、低圧炉心スプレイ系に対しては、水源から注水先である原子炉压力容器までの系統全体に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、低圧原子炉代替注水系（常設）及び低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>電源設備の多様性、位置的分散については「10.2 代替電源設備」に記載する。</p>	<p>る。また、低圧原子炉代替注水系（可搬型）の電動弁は、代替所内電気設備を経由して給電する系統において、独立した電路で系統構成することにより、非常用所内電気設備を経由して給電する系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、残留熱除去系及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、残留熱除去系に対しては、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統について、低圧炉心スプレイ系に対しては、水源から注水先である原子炉压力容器までの系統全体に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。また、これらの多様性及び位置的分散によって、低圧原子炉代替注水系（常設）及び低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、互いに重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>5.6 低圧原子炉代替注水系 5.6.1 低圧原子炉代替注水系（常設）による発電用原子炉の冷却 <中略> 低圧原子炉代替注水系（常設）は、残留熱除去系及び低圧炉心スプレイ系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、水源から残留熱除去系配管との合流点までの系統に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、低圧原子炉代替注水系（常設）は、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																													
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>低圧原子炉代替注水系（常設） 低圧原子炉代替注水ポンプ</p> <p>（リ，（3），（ii），a．原子炉格納容器内の冷却等のための設備及びリ，（3），（ii），c．原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備と兼用）</p> <p>台 数 ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤ 1.(予備1)..</p> <p>容 量 約 230m³/h/台 全揚程 約 190m</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥低圧原子炉代替注水系（常設）は、逃がし安全弁（自動減圧機能付き）による原子炉減圧後に、最大 250m³/h にて原子炉注水し、その後は炉心を冠水維持するように注水する。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(a)(a-6)，ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-7)，ハ(2)(ii)b.(f)(f-6)，ハ(2)(ii)c.(a)(a-1)(a-1-8)，ハ(2)(ii)c.(a)(a-2)(a-2-8)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦70m³/h にて原子炉注水し、その後は炉心を冠水維持するように注水するものとする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-7)，ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-7)</p> </div>	<p>第 5.6-1 表 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 低圧原子炉代替注水系（常設） a. 低圧原子炉代替注水ポンプ</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 <p>台 数 1.(予備1)..</p> <p>容 量 約 230m³/h/台 全揚程 約 190m</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>6.5 低圧原子炉代替注水系 (1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">ボ ン プ</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>低圧原子炉代替注水ポンプ*1</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td></td> <td>ターボ形</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">容 量</td> <td>—</td> <td></td> <td>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧</td> </tr> <tr> <td>以上*5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>以上*6,*7</td> <td></td> <td>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">揚 程</td> <td>—</td> <td></td> <td>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥</td> </tr> <tr> <td>以上*5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>以上*6,*7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力*3</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>吸込側 静水頭/吐出側 3.92</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度*3</td> <td>℃</td> <td></td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 内 径</td> <td>mm</td> <td>199.9*2</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径</td> <td>mm</td> <td>151.0*2</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>55.0*3</td> </tr> <tr> <td>た 横</td> <td>mm</td> <td>860*2</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>2035*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">ボ ン プ</td> <td>材 料</td> <td>ケーシング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケ ー シ ン グ カ バ ー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td></td> <td>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td></td> <td>低圧原子炉代替注水ポンプ（低圧原子炉代替注水系）</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td>低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内 EL. 700mm</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td></td> <td>Y-S1-02</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">機</td> <td>取 付 箇 所</td> <td></td> <td>Y-S1-02</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>EL. 830mm 以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>EL. 830mm 以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>210*2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2*4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系、ベデスタル代替注水系、低圧原子炉代替注水系）と兼用 *2：公称値を示す。 *3：重大事故等時における使用時の値 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（うち1個は予備）」と記載 *5：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器代替スプレイ系、ベデスタル代替注水系）として格納容器にスプレイ及びベデスタルに注水する場合の値 *6：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（低圧原子炉代替注水系）として原子炉圧力容器に注水する場合の値 *7：原子炉圧力容器の圧力 1.0MPa 時に原子炉圧力容器に注水する場合の値 *8：原子炉圧力容器の圧力 0.0MPa 時に原子炉圧力容器に注水する場合の値</p>			変更前	変更後	ボ ン プ	名 称		低圧原子炉代替注水ポンプ*1	種 類		ターボ形	容 量	—		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧	以上*5			以上*6,*7		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦	揚 程	—		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥	以上*5			以上*6,*7			最 高 使 用 圧 力*3	MPa		吸込側 静水頭/吐出側 3.92	最 高 使 用 温 度*3	℃		66	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	199.9*2	吐 出 内 径	mm	151.0*2	ケーシング厚さ	mm	55.0*3	た 横	mm	860*2	高 さ	mm	2035*2			変更前	変更後	ボ ン プ	材 料	ケーシング		ケ ー シ ン グ カ バ ー			個 数		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤	取 付 箇 所			原 動 機	種 類		低圧原子炉代替注水ポンプ（低圧原子炉代替注水系）	出 力	kW/個	低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内 EL. 700mm	個 数		Y-S1-02	機	取 付 箇 所		Y-S1-02			EL. 830mm 以上				EL. 830mm 以上				誘導電動機				210*2				2*4				ポンプと同じ		
		変更前	変更後																																																																																																														
ボ ン プ	名 称		低圧原子炉代替注水ポンプ*1																																																																																																														
	種 類		ターボ形																																																																																																														
	容 量	—		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧																																																																																																													
		以上*5																																																																																																															
		以上*6,*7		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦																																																																																																													
	揚 程	—		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥																																																																																																													
		以上*5																																																																																																															
		以上*6,*7																																																																																																															
	最 高 使 用 圧 力*3	MPa		吸込側 静水頭/吐出側 3.92																																																																																																													
	最 高 使 用 温 度*3	℃		66																																																																																																													
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	199.9*2																																																																																																														
	吐 出 内 径	mm	151.0*2																																																																																																														
	ケーシング厚さ	mm	55.0*3																																																																																																														
	た 横	mm	860*2																																																																																																														
	高 さ	mm	2035*2																																																																																																														
		変更前	変更後																																																																																																														
ボ ン プ	材 料	ケーシング																																																																																																															
	ケ ー シ ン グ カ バ ー																																																																																																																
	個 数		ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤																																																																																																														
	取 付 箇 所																																																																																																																
原 動 機	種 類		低圧原子炉代替注水ポンプ（低圧原子炉代替注水系）																																																																																																														
	出 力	kW/個	低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽内 EL. 700mm																																																																																																														
	個 数		Y-S1-02																																																																																																														
機	取 付 箇 所		Y-S1-02																																																																																																														
			EL. 830mm 以上																																																																																																														
			EL. 830mm 以上																																																																																																														
			誘導電動機																																																																																																														
			210*2																																																																																																														
			2*4																																																																																																														
			ポンプと同じ																																																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本文（十号）</p> <p>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧ 低圧原子炉代替注水系（常設）は、200m³/hの流量で注水するものとする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)e.(b)(b-9)</p> <p>[可搬型重大事故等対処設備] 低圧原子炉代替注水系（可搬型） 大量送水車 ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑨（ニ、(3)(ii)燃料プールの冷却等のための設備他と兼用）</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑤と同義であり、整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥は、設計及び工事の計画ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑥の容量 <input type="text"/> m³/h と整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦は、設計及び工事の計画ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑦の容量 <input type="text"/> m³/h に含まれており、整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧は、設計及び工事の計画ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑧の容量 <input type="text"/> m³/h と整合している。 <p>(2) 低圧原子炉代替注水系（可搬型）</p> <p>a. 大量送水車</p> <p>第 4.3-1 表 燃料プールの冷却等のための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>6. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項</p> <p>6.8 水の供給設備</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>以下の設備は、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備の燃料プールのスプレイ系であり、水の供給設備として本工事計画で兼用する。</p> <p>可搬型 大量送水車</p>	<p>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑨</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																				
<p>本文（十号）</p> <p>低圧原子炉代替注水系（可搬型）は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩</u>逃がし安全弁(自動減圧機能付き)による原子炉減圧後に、70m³/hにて原子炉注水し、その後は炉心を冠水維持するように注水するものとする。また、原子炉注水と格納容器スプレイを同時に実施する場合は、<u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪</u>30m³/hにて原子炉へ注水する。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-7) ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-7) ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-7)</p>		<p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>4.2 燃料プールのスプレイ系</p> <p>(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1644 533 2594 1486"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">ポンプ</td> <td>名称</td> <td></td> <td>大量送水車*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">種類</td> <td>—</td> <td>ディフューザ形</td> </tr> <tr> <td>容量*2</td> <td>m³/h/個</td> <td>48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩</u>, 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*4) <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪</u></td> </tr> <tr> <td>吐出圧力*2</td> <td>MPa</td> <td>1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*2</td> <td>MPa</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*2</td> <td>℃</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>*13</td> </tr> <tr> <td>車両全長</td> <td>mm</td> <td>8350*13</td> </tr> <tr> <td>車両全幅</td> <td>mm</td> <td>2490*13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>4(予備1)</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	名称		大量送水車*1	種類	—	ディフューザ形	容量*2	m ³ /h/個	48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩</u> , 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*4) <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪</u>	吐出圧力*2	MPa	1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)	最高使用圧力*2	MPa	<input type="text"/>	最高使用温度*2	℃	<input type="text"/>	主要寸法	吸込口径	mm	<input type="text"/> *13	吐出口径	mm	<input type="text"/> *13	たて	mm	<input type="text"/> *13	横	mm	<input type="text"/> *13	高さ	mm	<input type="text"/> *13	車両全長	mm	8350*13	車両全幅	mm	2490*13	材料	ケーシング	—	<input type="text"/>	個数	—	4(予備1)		
		変更前	変更後																																																					
ポンプ	名称		大量送水車*1																																																					
	種類	—	ディフューザ形																																																					
		容量*2	m ³ /h/個	48以上*3, 48以上*4, 48以上*5, 120以上*6, 70以上*7, <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩</u> , 120以上*8, 120以上*9, 120以上*10, 150以上*11 (168以上*4) <u>ホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪</u>																																																				
	吐出圧力*2	MPa	1.36*3以上, 0.48以上*4, 1.36以上*5, 1.58以上*6, 1.21以上*7, 0.33以上*8, 0.99以上*8, 1.38以上*9, 1.37以上*10, 1.44以上*11 (0.85以上*12,*13)																																																					
	最高使用圧力*2	MPa	<input type="text"/>																																																					
	最高使用温度*2	℃	<input type="text"/>																																																					
	主要寸法	吸込口径	mm	<input type="text"/> *13																																																				
		吐出口径	mm	<input type="text"/> *13																																																				
		たて	mm	<input type="text"/> *13																																																				
		横	mm	<input type="text"/> *13																																																				
高さ		mm	<input type="text"/> *13																																																					
車両全長		mm	8350*13																																																					
車両全幅		mm	2490*13																																																					
材料	ケーシング	—	<input type="text"/>																																																					
	個数	—	4(予備1)																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項		整合性	備考																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ポンプ</td> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>ディーゼルエンジン</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>□*13</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>4(予備1)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	取付箇所	—	—	種類	—	ディーゼルエンジン	出力	kW/個	□*13	個数	—	4(予備1)	取付箇所	—	—	ポンプと同じ	<p>保管場所：</p> <p>屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 44000mm 第2保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア</p> <p>予備を含めた5個を上記4箇所のうち第1保管エリアに1個，第2保管エリアに1個，第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに2個保管する。</p> <p>取付箇所：*14</p> <p>屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽及びタービン建物近傍 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物近傍 屋外 EL 約 44900mm 輪谷貯水槽近傍 屋外 EL 約 53200mm 輪谷貯水槽(西1)又は輪谷貯水槽(西2)上部</p>	
		変更前	変更後																						
ポンプ	取付箇所	—	—																						
	種類	—	ディーゼルエンジン																						
	出力	kW/個	□*13																						
	個数	—	4(予備1)																						
取付箇所	—	—	ポンプと同じ																						
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑨は，設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑨と同義であり，整合している。 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩は，設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑩を全て含んでおり，整合している。 設計及び工事の計画のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪は，低圧代替注水系と代替格納容器スプレイ冷却系を同時に使用する場合の値であり，内訳は，低圧代替注水系が30m³/h，代替格納容器スプレイ冷却系が120m³/hで使用されることから，設置変更許可申請書（本文（十号））のホ(3)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-2)(c-2-2-3)-⑪と整合している。尚，内訳については，設計及び工事の計画の「VI-1-1-4-2 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設）」の記載と同義であり，整合している。 		<p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系，水の供給設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系，ペダスタル代替注水系，低圧原子炉代替注水系）と兼用</p> <p>*2：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*3：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（可搬型スプレイノズルを用いた燃料プールへの注水）で使用する場合の値</p> <p>*4：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（常設スプレイヘッドを用いた燃料プールへの注水）で使用する場合の値</p> <p>*5：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（可搬型スプレイノズルを用いた燃料プールへのスプレイ）で使用する場合の値</p> <p>*6：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（常設スプレイヘッドを用いた燃料プールへのスプレイ）で使用する場合の値</p>																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(4) その他の主要な事項</p> <p>(i) 残留熱除去系</p> <p>ホ(4)(i)-①残留熱除去系は、その運転方法（モード）により次の各機能をもたせる。</p> <p>すなわち、ホ(4)(i)-②原子炉停止後、崩壊熱と原子炉圧力容器、配管及び冷却材の保有熱とを除去する原子炉停止時冷却モード並びに非常用炉心冷却系としての低圧注水モードの各機能をもたせ、ポンプ、熱交換器等で構成する。</p> <p>また、本系統は、想定される重大事故等時においても使用する。</p>	<p>5.2 残留熱除去系</p> <p>5.2.1 通常運転時等</p> <p>5.2.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系は、通常の原子炉停止時及び原子炉隔離時の崩壊熱及び残留熱の除去、原子炉冷却材喪失事故時の炉心冷却等を目的とし、弁の切替操作によって以下の4モードと1つの補助機能を有す。</p> <p>(1) 原子炉停止時冷却モード（2ループ）</p> <p>(2) 低圧注水モード（3ループ）</p> <p>(3) 格納容器冷却モード（2ループ）</p> <p>(4) サプレッション・プール水冷却モード（2ループ）</p> <p>(5) 燃料プール冷却（2ループ）</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.1 残留熱除去系</p> <p>4.1.2 原子炉停止時冷却モード</p> <p>ホ(4)(i)-②a 発電用原子炉を停止した場合において、燃料要素の許容損傷限界及び原子炉冷却材圧力バウンダリの健全性を維持するために必要なパラメータが設計値を超えないようにするため、原子炉圧力容器内において発生した残留熱を除去することができる設備として残留熱除去系を設ける設計とする。</p> <p>残留熱除去系の冷却速度は、原子炉冷却材圧力バウンダリの冷却速度の制限値（55℃/h）を超えないように制限できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、発電用原子炉停止時に原子炉圧力容器内において発生した残留熱及び炉心の崩壊熱を除去できる設計とする。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(1) 多様性、位置的分散等</p> <p>残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(i)-①は、以下で示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(i)-②a～ホ(4)(i)-②eは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(i)-②を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>4.1.1 低圧注水モード</p> <p>ホ(4)(i)-②b 残留熱除去系（低圧注水モード）は、原子炉冷却材喪失事故時に、非常用電源設備に結ばれた電動機駆動ポンプによりサブプレッションプール水を直接炉心シュラウド内に注水し、炉心を冷却する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4.1.3 格納容器冷却モード</p> <p>ホ(4)(i)-②c 原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障の際に生ずる原子炉格納容器内の圧力及び温度の上昇により原子炉格納容器の安全性を損なうことを防止するため、原子炉格納容器内において発生した熱を除去する設備として、残留熱除去系（格納容器冷却モード）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>残留熱除去系（格納容器冷却モード）は、原子炉冷却材圧力バウンダリ配管の最も過酷な破断を想定した場合でも、放出されるエネルギーによる設計基準事故時の原子炉格納容器内圧力、温度が最高使用圧力、最高使用温度を超えないようにし、かつ、原子炉格納容器の内圧を速やかに下げて低く維持することにより、放射性物質の外部への漏えいを少なくする設計とする。</p> <p>原子炉格納容器安全設備のうち、サブプレッションチェンバのプール水を水源として原子炉格納容器除熱のために運転するポンプは、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに冷却材中の異物の影響について「非常用炉心冷却設備又は格納容器熱除去設備に係るろ過装置の性能評価等について（内規）」（平成20・02・12 原院第5号（平成20年2月27日原子力安全・保安院制定））によるろ過装置の性能評価により、設計基準事故時及び重大事故等時に想定される最も小さい有効吸込水頭においても、正常に機能する能力を有する設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器冷却モード）の仕様は、設置（変更）許可を受けた設計基準事故の評価の条件を満足する設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器冷却モード）は、テストラインを構成することにより、発電用原子炉の運転中に試験ができる設計とする。また、設計基準事故時に動作する弁については、残留熱除去ポンプが停止中に開閉試験ができる設</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>計とする。</p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器冷却モード）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(1) 多様性，位置的分散等</p> <p>残留熱除去系（格納容器冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性，位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p> <p>4.1.4 サプレッションプール水冷却モード</p> <p>ホ(4)(i)-②d 残留熱除去系（サプレッションプール水冷却モード）は、サプレッションプール水温度を所定の温度以下に冷却できるように設計する。</p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備として、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（サプレッションプール水冷却モード）が使用できる場合は、重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(1) 多様性，位置的分散等</p> <p>残留熱除去系（サプレッションプール水冷却モード）は、設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性，位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p> <p>4.1.5 燃料プール冷却</p> <p>ホ(4)(i)-②e 全炉心燃料を燃料プールに取り出した場合や燃料プール冷却系で燃料プール水の冷却ができない場合は、残留熱除去系を用いて使用済燃料からの崩壊熱を</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>除去できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系熱交換器で除去した熱は、原子炉補機冷却系及び原子炉補機海水系を経て、最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																		
<p>a. ポンプ 台数 <u>3</u> 容量 <u>ホ(4)(i)a.-①</u>約1,200m³/h/台</p> <p>本文（十号） 低圧注水系流量（定格値） <u>ホ(4)(i)a.-①</u>1,136m³/h <u>ホ(4)(i)a.-②</u>（ポンプ1台当たり、圧力容器と水源との差圧0.14MPaにおいて）</p> <p>・記載箇所 ロ(2)(i)a.(k), ハ(2)(ii)b.(b)(b-6) ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-9), ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-10), ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-9), ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-10), ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-10), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-7), ハ(2)(ii)e.(a)(a-9), ハ(2)(ii)e.(c)(c-7)</p> <p>全揚程 <u>ホ(4)(i)a.-③</u>約95m</p>	<p>第5.2-1表 残留熱除去系主要機器仕様</p> <p>(1) ポンプ 台数 <u>3</u> 容量 <u>約1,200m³/h/台</u></p> <p>なお、非常用炉心冷却系の低圧注水系では低圧注水ポンプ、格納容器冷却系では格納容器冷却ポンプと呼ぶ。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （要目表）</p> <p>5. 残留熱除去設備に係る次の事項</p> <p>5.1 残留熱除去系</p> <p>(3) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <table border="1" data-bbox="1647 493 2864 1050"> <thead> <tr> <th colspan="2">常設</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>残留熱除去ポンプ</td> <td>ホ(4)(i)a.-①</td> <td>ホ(4)(i)a.-①</td> <td colspan="3">残留熱除去ポンプ**、**</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>ターボ形</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>以上*(1218**)</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>揚程</td> <td>m</td> <td>以上*(98**)</td> <td>ホ(4)(i)a.-③</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>吸込側1.37**、吐出側3.92**、**</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>A、B-残留熱除去ポンプ：185**、C-残留熱除去ポンプ：100**</td> <td></td> <td colspan="3">変更なし C-残留熱除去ポンプ：116**</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>吸込内径*</td> <td>mm</td> <td>480.0**</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>吐出内径*</td> <td>mm</td> <td>336.0**</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ケーシング外径**</td> <td>mm</td> <td>1300**</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ**</td> <td>mm</td> <td>(19.0**)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>高さ**</td> <td>mm</td> <td>6065**</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>ケーシング</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td></td> <td>A-残留熱除去ポンプ**（A-残留熱除去系）</td> <td>B-残留熱除去ポンプ**（B-残留熱除去系）</td> <td colspan="2">C-残留熱除去ポンプ**（C-残留熱除去系）</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td></td> <td>原子炉建物 EL 1300mm**</td> <td>原子炉建物 EL 1300mm**</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 1300mm**</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R-B2F-02N</td> <td>R-B2F-15N</td> <td>R-B2F-03N</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td>種類</td> <td></td> <td>誘導電動機</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>560**</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機取付箇所</td> <td>個数</td> <td></td> <td>3</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td></td> <td>ポンプと同じ**</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：A、B-残留熱除去ポンプは非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード、サブプレッションプール水冷却モード））と兼用）と兼用 *2：C-残留熱除去ポンプは非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）と兼用 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5：公称値を示す。 *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載 *7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「原子炉再循環系との取合点からA-残留熱除去ポンプまで、A-残留熱除去ポンプからA-残留熱除去系熱交換器まで」、「原子炉再循環系との取合点からA-残留熱除去ポンプまで、の分岐点からA-残留熱除去ポンプまで、B-残留熱除去ポンプからB-残留熱除去系熱交換器まで」及び「サブプレッションチェンバからC-残留熱除去ポンプまで、C-残留熱除去ポンプから原子炉圧力容器まで」による。 *8：S1単位に換算したものである。 *9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「原子炉再循環系との取合点からA-残留熱除去ポンプまで、A-残留熱除去ポンプからA-残留熱除去系熱交換器まで」及び「原子炉再循環系との取合点からA-残留熱除去ポンプまで」の分岐点からA-残留熱除去ポンプからB-残留熱除去系熱交換器まで」による。 *10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「サブプレッションチェンバからC-残留熱除去ポンプまで、C-残留熱除去ポンプから原子炉圧力容器まで」による。 *11：重大事故等時における使用時の値 *12：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「第3-4-4図 残留熱除去ポンプ構造図」による。</p>	常設		変更前		変更後			名称	残留熱除去ポンプ	ホ(4)(i)a.-①	ホ(4)(i)a.-①	残留熱除去ポンプ**、**			種類	ターボ形			変更なし			容量	m ³ /h/個	以上*(1218**)					揚程	m	以上*(98**)	ホ(4)(i)a.-③				最高使用圧力	MPa	吸込側1.37**、吐出側3.92**、**					最高使用温度	℃	A、B-残留熱除去ポンプ：185**、C-残留熱除去ポンプ：100**		変更なし C-残留熱除去ポンプ：116**			主要寸法	吸込内径*	mm	480.0**				吐出内径*	mm	336.0**				ケーシング外径**	mm	1300**				ケーシング厚さ**	mm	(19.0**)				高さ**	mm	6065**				材料	ケーシング			変更なし			ケーシングカバー						個数		3					取付箇所	系統名（ライン名）		A-残留熱除去ポンプ**（A-残留熱除去系）	B-残留熱除去ポンプ**（B-残留熱除去系）	C-残留熱除去ポンプ**（C-残留熱除去系）		設置床		原子炉建物 EL 1300mm**	原子炉建物 EL 1300mm**	原子炉建物 EL 1300mm**		溢水防護上の区画番号				R-B2F-02N	R-B2F-15N	R-B2F-03N	原動機	種類		誘導電動機				出力	kW/個	560**				機取付箇所	個数		3				取付箇所		ポンプと同じ**				<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(i)a.-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(i)a.-①</u>を詳細に記載しており、整合している。</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（十号））の<u>ホ(4)(i)a.-②</u>は、設計及び工事の計画の「VI-1-1-4-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（原子炉冷却系施設）」の記載と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(i)a.-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(i)a.-③</u>を詳細に記載しており、整合している。</p>	
常設		変更前		変更後																																																																																																																																																		
名称	残留熱除去ポンプ	ホ(4)(i)a.-①	ホ(4)(i)a.-①	残留熱除去ポンプ**、**																																																																																																																																																		
種類	ターボ形			変更なし																																																																																																																																																		
容量	m ³ /h/個	以上*(1218**)																																																																																																																																																				
揚程	m	以上*(98**)	ホ(4)(i)a.-③																																																																																																																																																			
最高使用圧力	MPa	吸込側1.37**、吐出側3.92**、**																																																																																																																																																				
最高使用温度	℃	A、B-残留熱除去ポンプ：185**、C-残留熱除去ポンプ：100**		変更なし C-残留熱除去ポンプ：116**																																																																																																																																																		
主要寸法	吸込内径*	mm	480.0**																																																																																																																																																			
	吐出内径*	mm	336.0**																																																																																																																																																			
	ケーシング外径**	mm	1300**																																																																																																																																																			
	ケーシング厚さ**	mm	(19.0**)																																																																																																																																																			
	高さ**	mm	6065**																																																																																																																																																			
材料	ケーシング			変更なし																																																																																																																																																		
	ケーシングカバー																																																																																																																																																					
個数		3																																																																																																																																																				
取付箇所	系統名（ライン名）		A-残留熱除去ポンプ**（A-残留熱除去系）	B-残留熱除去ポンプ**（B-残留熱除去系）	C-残留熱除去ポンプ**（C-残留熱除去系）																																																																																																																																																	
	設置床		原子炉建物 EL 1300mm**	原子炉建物 EL 1300mm**	原子炉建物 EL 1300mm**																																																																																																																																																	
	溢水防護上の区画番号				R-B2F-02N	R-B2F-15N	R-B2F-03N																																																																																																																																															
原動機	種類		誘導電動機																																																																																																																																																			
	出力	kW/個	560**																																																																																																																																																			
機取付箇所	個数		3																																																																																																																																																			
	取付箇所		ポンプと同じ**																																																																																																																																																			

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																
<p>b. 熱交換器 基 数 <u>2</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文 (十号) 残留熱除去系 (サプレッション・プール水冷却モード及び原子炉停止時冷却モード) の伝熱容量は、熱交換器 1 基当たりホ(4)(i)b.-①約9MWホ(4)(i)b.-② (サプレッション・プール水温度又は原子炉冷却材温度 52℃、海水温度 30℃において) とする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(b)(b-7) ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-10), ハ(2)(ii)b.(c)(c-2)(c-2-10) ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-9), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-9), ハ(2)(ii)b.(e)(e-12), ハ(2)(ii)e.(a)(a-10), ハ(2)(ii)e.(b)(b-10)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のホ(4)(i)b.-①は、設置変更許可申請書 (本文 (十号)) のホ(4)(i)b.-①を詳細に記載しており、整合している。 設置変更許可申請書 (本文 (十号)) のホ(4)(i)b.-②は、設計及び工事の計画の「VI-1-1-4-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書 (原子炉冷却系施設)」の記載と同義であり、整合している。 </div>	<p>(2) 熱交換器 基 数 <u>2</u> 伝 熱 容 量 約 8×10^6 kcal/h/基</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>原子炉停止時冷却モード、原子炉冷却水温度 52℃及び海水温度 30℃において</p> </div>	<p>5. 残留熱除去設備に係る次の事項</p> <p>5.1 残留熱除去系</p> <p>(2) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力 (管側及び胴側の別に記載すること。), 最高使用温度 (管側及び胴側の別に記載すること。), 伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td colspan="2">残留熱除去系熱交換器</td> <td></td> <td>残留熱除去系熱交換器^{*1,*2}</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td colspan="2">たて置U字管式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>容 量 (設 計 熱 交 換 量)</td> <td>MW/個</td> <td>以上^{*3}(9.13^{*4,*5})</td> <td>ホ(4)(i)b.-①</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管 側</td> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>3.92^{*4}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>185</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴 側</td> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>1.37^{*4}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>85</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伝 熱 面 積</td> <td>m²/個</td> <td>以上^{*3}(<input type="text"/>^{*5})</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">主 要 寸 法</td> <td rowspan="7">管 側</td> <td>胴 内 径^{*6}</td> <td>mm</td> <td>1800^{*5}</td> <td rowspan="7" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ^{*7}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*8}(50.0^{*5})</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法^{*8}</td> <td>mm</td> <td>900^{*5} (鏡板の内半径)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(管側入口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td>400.0^{*5}</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(管側入口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^(33.3^{*5})</td> </tr> <tr> <td>管台外径(管側出口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td>400.0^{*5}</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(管側出口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^(33.3^{*5})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴 側</td> <td>フ ラ ン ジ 厚 さ^{*8}</td> <td>mm</td> <td>170.0^{*5}</td> </tr> <tr> <td>胴 内 径^{*9}</td> <td>mm</td> <td>1800^{*5}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>胴 板 厚 さ^{*10}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*8}(16.0^{*5}), <input type="text"/>^{*8}(38.0^{*5})</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">主 要 寸 法</td> <td rowspan="3">胴 側</td> <td>鏡 板 厚 さ^{*11}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*8}(16.0^{*5})</td> <td rowspan="7" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法^{*8}</td> <td>mm</td> <td>1800^{*5} (鏡板の内面における長径) 450^{*5} (鏡板の内面における短径の2分の1)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(胴側入口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td>457.2^{*5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">管 側</td> <td>管台厚さ(胴側入口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^(9.5^{*5})</td> </tr> <tr> <td>管台外径(胴側出口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td>457.2^{*5}</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(胴側出口)^{*8}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^(9.5^{*5})</td> </tr> <tr> <td>管 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*8}(235.0^{*5})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">伝 熱 管</td> <td>伝 熱 管 外 径</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*5}</td> </tr> <tr> <td>伝 熱 管 厚 さ</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/>^{*8}(<input type="text"/>^{*5})</td> </tr> <tr> <td>高 さ^{*12}</td> <td>mm</td> <td>6695^{*5}</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">材 料</td> <td rowspan="2">管 側</td> <td>鏡 板^{*13}</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>フ ラ ン ジ^{*8}</td> <td>—</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴 側</td> <td>胴 板^{*14}</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>鏡 板^{*15}</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>管 板</td> <td>—</td> <td>SFVC2B^{*16}</td> </tr> <tr> <td>伝 熱 管</td> <td>—</td> <td>SUS304TB</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td><u>2</u></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				変 更 前	変 更 後	名 称	残留熱除去系熱交換器			残留熱除去系熱交換器 ^{*1,*2}	種 類	たて置U字管式				容 量 (設 計 熱 交 換 量)	MW/個	以上 ^{*3} (9.13 ^{*4,*5})	ホ(4)(i)b.-①		管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	3.92 ^{*4}		最 高 使 用 温 度	℃	185		胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37 ^{*4}		最 高 使 用 温 度	℃	85		伝 熱 面 積	m ² /個	以上 ^{*3} (<input type="text"/> ^{*5})			主 要 寸 法	管 側	胴 内 径 ^{*6}	mm	1800 ^{*5}	変 更 な し	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (50.0 ^{*5})	鏡板の形状に係る寸法 ^{*8}	mm	900 ^{*5} (鏡板の内半径)	管台外径(管側入口) ^{*8}	mm	400.0 ^{*5}	管台厚さ(管側入口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(33.3^{*5})	管台外径(管側出口) ^{*8}	mm	400.0 ^{*5}	管台厚さ(管側出口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(33.3^{*5})	胴 側	フ ラ ン ジ 厚 さ ^{*8}	mm	170.0 ^{*5}	胴 内 径 ^{*9}	mm	1800 ^{*5}		胴 板 厚 さ ^{*10}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (16.0 ^{*5}), <input type="text"/> ^{*8} (38.0 ^{*5})				変 更 前	変 更 後	主 要 寸 法	胴 側	鏡 板 厚 さ ^{*11}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (16.0 ^{*5})	変 更 な し	鏡板の形状に係る寸法 ^{*8}	mm	1800 ^{*5} (鏡板の内面における長径) 450 ^{*5} (鏡板の内面における短径の2分の1)	管台外径(胴側入口) ^{*8}	mm	457.2 ^{*5}	管 側	管台厚さ(胴側入口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(9.5^{*5})	管台外径(胴側出口) ^{*8}	mm	457.2 ^{*5}	管台厚さ(胴側出口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(9.5^{*5})	管 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> ^{*8} (235.0 ^{*5})	伝 熱 管	伝 熱 管 外 径	mm	<input type="text"/> ^{*5}	伝 熱 管 厚 さ	mm	<input type="text"/> ^{*8} (<input type="text"/> ^{*5})	高 さ ^{*12}	mm	6695 ^{*5}		材 料	管 側	鏡 板 ^{*13}	—	SGV49	フ ラ ン ジ ^{*8}	—	SFVC2B	胴 側	胴 板 ^{*14}	—	SGV49	鏡 板 ^{*15}	—	SGV49	管 板	—	SFVC2B ^{*16}	伝 熱 管	—	SUS304TB	個 数	—	<u>2</u>			
			変 更 前	変 更 後																																																																																																																																																
名 称	残留熱除去系熱交換器			残留熱除去系熱交換器 ^{*1,*2}																																																																																																																																																
種 類	たて置U字管式																																																																																																																																																			
容 量 (設 計 熱 交 換 量)	MW/個	以上 ^{*3} (9.13 ^{*4,*5})	ホ(4)(i)b.-①																																																																																																																																																	
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	3.92 ^{*4}																																																																																																																																																	
	最 高 使 用 温 度	℃	185																																																																																																																																																	
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.37 ^{*4}																																																																																																																																																	
	最 高 使 用 温 度	℃	85																																																																																																																																																	
伝 熱 面 積	m ² /個	以上 ^{*3} (<input type="text"/> ^{*5})																																																																																																																																																		
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径 ^{*6}	mm	1800 ^{*5}	変 更 な し																																																																																																																																															
		鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (50.0 ^{*5})																																																																																																																																																
		鏡板の形状に係る寸法 ^{*8}	mm	900 ^{*5} (鏡板の内半径)																																																																																																																																																
		管台外径(管側入口) ^{*8}	mm	400.0 ^{*5}																																																																																																																																																
		管台厚さ(管側入口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(33.3^{*5})																																																																																																																																																
		管台外径(管側出口) ^{*8}	mm	400.0 ^{*5}																																																																																																																																																
		管台厚さ(管側出口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(33.3^{*5})																																																																																																																																																
胴 側	フ ラ ン ジ 厚 さ ^{*8}	mm	170.0 ^{*5}																																																																																																																																																	
	胴 内 径 ^{*9}	mm	1800 ^{*5}																																																																																																																																																	
	胴 板 厚 さ ^{*10}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (16.0 ^{*5}), <input type="text"/> ^{*8} (38.0 ^{*5})																																																																																																																																																	
			変 更 前	変 更 後																																																																																																																																																
主 要 寸 法	胴 側	鏡 板 厚 さ ^{*11}	mm	<input type="text"/> ^{*8} (16.0 ^{*5})	変 更 な し																																																																																																																																															
		鏡板の形状に係る寸法 ^{*8}	mm	1800 ^{*5} (鏡板の内面における長径) 450 ^{*5} (鏡板の内面における短径の2分の1)																																																																																																																																																
		管台外径(胴側入口) ^{*8}	mm	457.2 ^{*5}																																																																																																																																																
	管 側	管台厚さ(胴側入口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(9.5^{*5})																																																																																																																																																
		管台外径(胴側出口) ^{*8}	mm	457.2 ^{*5}																																																																																																																																																
		管台厚さ(胴側出口) ^{*8}	mm	<input type="text"/> ^(9.5^{*5})																																																																																																																																																
		管 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> ^{*8} (235.0 ^{*5})																																																																																																																																																
伝 熱 管	伝 熱 管 外 径	mm	<input type="text"/> ^{*5}																																																																																																																																																	
	伝 熱 管 厚 さ	mm	<input type="text"/> ^{*8} (<input type="text"/> ^{*5})																																																																																																																																																	
高 さ ^{*12}	mm	6695 ^{*5}																																																																																																																																																		
材 料	管 側	鏡 板 ^{*13}	—	SGV49																																																																																																																																																
		フ ラ ン ジ ^{*8}	—	SFVC2B																																																																																																																																																
	胴 側	胴 板 ^{*14}	—	SGV49																																																																																																																																																
		鏡 板 ^{*15}	—	SGV49																																																																																																																																																
	管 板	—	SFVC2B ^{*16}																																																																																																																																																	
伝 熱 管	—	SUS304TB																																																																																																																																																		
個 数	—	<u>2</u>																																																																																																																																																		

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																							
		<p>(つづき)</p> <table border="1" data-bbox="1656 352 2852 579"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td>A-残留熱除去系熱交換器*3 (A-残留熱除去系)</td> <td>B-残留熱除去系熱交換器*3 (B-残留熱除去系)</td> <td rowspan="4">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm*3</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm*3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1 : A-残留熱除去系熱交換器は非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系), 原子炉補機冷却設備 (原子炉補機代替冷却系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器スプレイ設備 (残留熱除去系 (格納容器冷却モード, サプレッションプール水冷却モード))) と兼用</p> <p>*2 : B-残留熱除去系熱交換器は非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (残留熱除去系), 原子炉補機冷却設備 (原子炉補機代替冷却系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器スプレイ設備 (残留熱除去系 (格納容器冷却モード, サプレッションプール水冷却モード))), (残留熱代替除去系) と兼用</p> <p>*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。</p> <p>*4 : S I 単位に換算したものである。</p> <p>*5 : 公称値を示す。</p> <p>*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内半径」と記載</p> <p>*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載</p> <p>*8 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-4-1 残留熱除去系熱交換器の強度計算書」による。</p> <p>*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載</p> <p>*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体胴板厚さ」と記載</p> <p>*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体鏡板厚さ」と記載</p> <p>*12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載</p>			変 更 前		変 更 後	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-残留熱除去系熱交換器*3 (A-残留熱除去系)	B-残留熱除去系熱交換器*3 (B-残留熱除去系)	変 更 な し	設 置 床	—	原子炉建物 EL 23800mm*3	原子炉建物 EL 23800mm*3	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—			
		変 更 前		変 更 後																							
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-残留熱除去系熱交換器*3 (A-残留熱除去系)	B-残留熱除去系熱交換器*3 (B-残留熱除去系)	変 更 な し																						
	設 置 床	—	原子炉建物 EL 23800mm*3	原子炉建物 EL 23800mm*3																							
	溢水防護上の区画番号	—	—																								
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 原子炉隔離時冷却系</p> <p>ホ(4)(ii)-①原子炉隔離時冷却系は、原子炉停止後、何らかの原因で給水系が停止した場合に原子炉水位を維持するための設備であり、原子炉蒸気の一部を用いたタービン駆動ポンプにより、サプレッション・チェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を原子炉圧力容器に注入する。</p>	<p>5.8 原子炉隔離時冷却系</p> <p>5.8.1 通常運転時等</p> <p>5.8.1.1 概要</p> <p>5.8.1.1.2 設備の機能</p> <p>原子炉隔離時冷却系は、原子炉停止後何らかの原因で復水・給水が停止した場合に、原子炉水位を維持するため、原子炉蒸気の一部を用いたタービン駆動ポンプにより、サプレッション・チェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を炉心に注入することを目的とする。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>6. 原子炉冷却材補給設備</p> <p>6.1 原子炉隔離時冷却系</p> <p>ホ(4)(ii)-①原子炉隔離時冷却系は、発電用原子炉停止後、何らかの原因で給水系が停止した場合に原子炉水位を維持するための設備であり、原子炉蒸気の一部を用いたタービン駆動ポンプにより、サプレッションチェンバのプール水又は復水貯蔵タンクの水を原子炉圧力容器に補給し、水位を維持できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(4)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(ii)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																							
<p>ポンプ</p> <p>台 数 <u>1</u></p> <p>容 量 <u>ホ(4)(ii)-②a</u> 約 100m³/h</p> <p>全 揚 程 <u>ホ(4)(ii)-③</u> 約 120m～約 900m</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>原子炉隔離時冷却系は原子炉水位低（レベル2）で自動起動し、<u>ホ(4)(ii)-②b</u> 91m³/h（8.21～0.74MPa[gage]において）の流量で注水するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(c)(c-1)(c-1-5) ハ(2)(ii)b.(c)(c-4)(c-4-5), ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-5) ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-5), ハ(2)(ii)b.(e)(e-9), ハ(2)(ii)b.(g)(g-5) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(ii)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(ii)-②a</u>及び<u>ホ(4)(ii)-②b</u>を詳細に記載しており、整合している。尚、設置変更許可申請書（本文（十号））の「91m³/h（8.21～0.73MPa[gage]において）」は、設計及び工事の計画の「VI-1-1-4-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（原子炉冷却系施設）」の記載と同義であり、整合している。 ・設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(ii)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(ii)-③</u>を詳細に記載しており、整合している。 </div>	<p>第 5.8-1 表 原子炉隔離時冷却系主要機器仕様</p> <p><中略></p> <p>(2) ポンプ</p> <p>台 数 <u>1</u></p> <p>容 量 約 100m³/h</p> <p>全 揚 程 約 120m～約 900m</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>(要目表)</p> <p>7. 原子炉冷却材補給設備に係る次の事項</p> <p>7.1 原子炉隔離時冷却系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ボ ン プ</td> <td>名 称</td> <td colspan="2">原子炉隔離時冷却ポンプ</td> <td colspan="2">原子炉隔離時冷却ポンプ*1</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>ターボ形</td> <td colspan="2" rowspan="3" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>容 量*2</td> <td>m³/h/個</td> <td><input type="checkbox"/> 以上*3(99*4) <u>ホ(4)(ii)-②</u></td> </tr> <tr> <td>揚 程*5</td> <td>m</td> <td> 高压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(918*4) <u>ホ(4)(ii)-③</u> 低压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(128*4) </td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">吸込側 1.37*6, *7/吐出側 11.3*6, *7</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">66*6</td> <td>100*8</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 内 径*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">152.4*4</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">87.3*4</td> </tr> <tr> <td>ケ ー シ ン グ 厚 さ*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/> (28.5*4)</td> </tr> <tr> <td>た て*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1130*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ブ 法</td> <td>横 寸*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">2078*4</td> </tr> <tr> <td>高 寸*9</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1190*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">材 料</td> <td>ケ ー シ ン グ</td> <td>—</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ケ ー シ ン グ カ バ ー</td> <td>—</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ボ ン プ 取 付 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td colspan="2">原子炉隔離時冷却ポンプ*3(原子炉隔離時冷却系)</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 1300mm*3</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td colspan="2"></td> <td>R-B2F-01N</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">—</td> <td>EL 2188mm 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">背圧式蒸気タービン</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">変 更 な し</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td colspan="2">550*4</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">1</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td colspan="2">ポンプと同じ*3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備の原子炉隔離時冷却系と兼用 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：公称値を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「サブプレッションチェンバから原子炉隔離時冷却ポンプまで、原子炉隔離時冷却ポンプから原子炉浄化系との取合点まで」による。 *7：S I 単位に換算したものである。 *8：重大事故等時における使用時の値 *9：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-5-2 図 原子炉隔離時冷却ポンプ構造図」による。</p>			変 更 前		変 更 後		ボ ン プ	名 称	原子炉隔離時冷却ポンプ		原子炉隔離時冷却ポンプ*1		種 類	—	ターボ形	変 更 な し		容 量*2	m ³ /h/個	<input type="checkbox"/> 以上*3(99*4) <u>ホ(4)(ii)-②</u>	揚 程*5	m	高压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(918*4) <u>ホ(4)(ii)-③</u> 低压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(128*4)	最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 1.37*6, *7/吐出側 11.3*6, *7		変更なし	最 高 使 用 温 度	℃	66*6		100*8	主 要 寸 法	吸 込 内 径*3	mm	152.4*4		変 更 な し	吐 出 内 径*3	mm	87.3*4		ケ ー シ ン グ 厚 さ*3	mm	<input type="checkbox"/> (28.5*4)		た て*3	mm	1130*4		ブ 法	横 寸*3	mm	2078*4		高 寸*9	mm	1190*4		材 料	ケ ー シ ン グ	—	<input type="checkbox"/>		ケ ー シ ン グ カ バ ー	—	<input type="checkbox"/>		個 数	—	1					変 更 前		変 更 後		ボ ン プ 取 付 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	原子炉隔離時冷却ポンプ*3(原子炉隔離時冷却系)		変 更 な し	設 置 床	—	原子炉建物 EL 1300mm*3		溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			R-B2F-01N	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		EL 2188mm 以上	原 動 機	種 類	—	背圧式蒸気タービン		変 更 な し	出 力	kW/個	550*4		個 数	—	1		取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*3				
		変 更 前		変 更 後																																																																																																																							
ボ ン プ	名 称	原子炉隔離時冷却ポンプ		原子炉隔離時冷却ポンプ*1																																																																																																																							
	種 類	—	ターボ形	変 更 な し																																																																																																																							
	容 量*2	m ³ /h/個	<input type="checkbox"/> 以上*3(99*4) <u>ホ(4)(ii)-②</u>																																																																																																																								
	揚 程*5	m	高压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(918*4) <u>ホ(4)(ii)-③</u> 低压時 <input type="checkbox"/> 以上*3(128*4)																																																																																																																								
	最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 1.37*6, *7/吐出側 11.3*6, *7		変更なし																																																																																																																						
	最 高 使 用 温 度	℃	66*6		100*8																																																																																																																						
	主 要 寸 法	吸 込 内 径*3	mm	152.4*4		変 更 な し																																																																																																																					
		吐 出 内 径*3	mm	87.3*4																																																																																																																							
		ケ ー シ ン グ 厚 さ*3	mm	<input type="checkbox"/> (28.5*4)																																																																																																																							
		た て*3	mm	1130*4																																																																																																																							
ブ 法	横 寸*3	mm	2078*4																																																																																																																								
	高 寸*9	mm	1190*4																																																																																																																								
材 料	ケ ー シ ン グ	—	<input type="checkbox"/>																																																																																																																								
	ケ ー シ ン グ カ バ ー	—	<input type="checkbox"/>																																																																																																																								
個 数	—	1																																																																																																																									
		変 更 前		変 更 後																																																																																																																							
ボ ン プ 取 付 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	原子炉隔離時冷却ポンプ*3(原子炉隔離時冷却系)		変 更 な し																																																																																																																						
	設 置 床	—	原子炉建物 EL 1300mm*3																																																																																																																								
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			R-B2F-01N																																																																																																																						
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		EL 2188mm 以上																																																																																																																						
原 動 機	種 類	—	背圧式蒸気タービン		変 更 な し																																																																																																																						
	出 力	kW/個	550*4																																																																																																																								
	個 数	—	1																																																																																																																								
取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*3																																																																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iii) 原子炉浄化系</p> <p>原子炉浄化系は、原子炉冷却材の純度を保つための設備であり、原子炉再循環配管及び原子炉压力容器底部から原子炉冷却材の一部を抜き出して、ろ過脱塩した後、原子炉压力容器にもどす。</p>	<p>5.11 原子炉浄化系</p> <p>5.11.4 主要設備</p> <p>第 6.2-1 図に示すように再循環配管及び压力容器底部から冷却材の一部を連続的に抜き出し、再生熱交換器、非再生熱交換器で冷却し、ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置でろ過脱塩し、再生熱交換器で加熱し、給水系を経て压力容器にもどすか、又は再生熱交換器の上流から復水器若しくは液体廃棄物処理系に排出する。ろ過脱塩装置及び混床式脱塩装置のフィルタ・スラッジ及び使用済樹脂は固体廃棄物処理系で処理する。</p> <p>また、原子炉停止時又は原子炉隔離時等必要に応じ、再生熱交換器をバイパスして、非再生熱交換器及び補助熱交換器で原子炉の崩壊熱、残留熱の除去を行う。</p> <p>非再生熱交換器及び補助熱交換器は原子炉補機冷却系で冷却する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>8. 原子炉浄化設備</p> <p>8.1 原子炉浄化系</p> <p>原子炉浄化系は、原子炉冷却材の純度を保つための設備であり、原子炉再循環配管及び原子炉压力容器底部から原子炉冷却材の一部を抜き出して、ろ過脱塩した後、原子炉压力容器に戻すことにより、原子炉冷却材中の不純物及び放射性物質の濃度を発電用原子炉施設の運転に支障を及ぼさない値以下に保つことができる設計とする。</p> <p>放射性物質を含む原子炉冷却材を原子炉起動時、停止時及び高温待機時において原子炉冷却系統外に排出する場合は、原子炉浄化系により原子炉冷却材を浄化して、液体廃棄物処理系へ導く設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. <u>循環ポンプ</u> 台 数 2 容 量 約110m³/h/台 全揚程 約800m</p> <p>b. <u>補助ポンプ</u> 台 数 1 容 量 約220m³/h 全揚程 約150m</p> <p>c. <u>ろ過脱塩装置</u> 基 数 2 容 量 約110m³/h/基</p> <p>d. <u>混床式脱塩装置</u> 基 数 2 容 量 約110m³/h/基</p>	<p>第 5.11-1 表 原子炉冷却材浄化系主要機器仕様 (4) ポンプ a. <u>循環ポンプ</u> 台 数 2 容 量 約110m³/h/台 全揚程 約800m</p> <p>b. <u>補助ポンプ</u> 台 数 1 容 量 約220m³/h 全揚程 約150m</p> <p>(1) <u>ろ過脱塩装置</u> 形 式 <u>圧力ポリコート形</u> 基 数 2 容 量 約110m³/h/基</p> <p>(2) <u>混床式脱塩装置</u> 形 式 <u>混床式</u> 基 数 2 容 量 約110m³/h/基</p>		<p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「循環ポンプ」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「補助ポンプ」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「ろ過脱塩装置」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「混床式脱塩装置」は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																		
<p>(iv) 原子炉補機冷却系</p> <p>ホ(4)(iv)-①原子炉補機冷却系は、原子炉補機の冷却を行うための設備であり、ホ(4)(iv)-②ポンプ、熱交換器等で構成する。</p>	<p>5.9 原子炉補機冷却系</p> <p>5.9.1 通常運転時等</p> <p>5.9.1.1 概要</p> <p>原子炉補機冷却系は、原子炉設備の非常用機器及び常用機器で発生する熱を冷却除去するために設けるものである。</p> <p>本システムは、「5.3 非常用炉心冷却系」で述べる区分Ⅰ、区分Ⅱ及び区分Ⅲに対応して、原子炉補機冷却系区分Ⅰ、原子炉補機冷却系区分Ⅱ及び原子炉補機冷却系区分Ⅲに分け、非常用炉心冷却系の各区分ごとに独立に冷却できる機能を有する。</p> <p>また、残留熱除去系機器の冷却は、残留熱除去系の2系統に対応して上記の原子炉補機冷却系区分Ⅰ、区分Ⅱの2区分に分離し、また、高圧炉心スプレイ系機器の冷却は、原子炉補機冷却系区分Ⅲで独立に冷却を行うことができる。</p> <p>その他常用機器冷却は上記の原子炉補機冷却系区分Ⅰ、区分Ⅱで行い、非常時には弁により非常用機器冷却と分離することができる。</p> <p>概略系統図を第5.9-1図に示す。</p>	<p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.1 原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む）</p> <p><中略></p> <p>ホ(4)(iv)-①原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）は、原子炉補機から発生する熱を最終的な熱の逃がし場である海水に輸送するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）は、残留熱除去系の2系統に対応して原子炉補機冷却系区分Ⅰ、区分Ⅱの2区分に分離し、残留熱除去系機器の冷却を行うことができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>8. 原子炉補機冷却設備に係る次の事項</p> <p>8.1 原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）</p> <p>(2) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。）、最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。）、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">原子炉補機冷却系熱交換器</td> <td>ホ(4)(iv)-②a</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td colspan="2">横置直管式</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量（設計熱交換量）</td> <td>MW/個</td> <td colspan="2">□以上*1(□*2,*3)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管</td> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> </tr> <tr> <td>側</td> <td>圧</td> <td>力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴</td> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> </tr> <tr> <td>側</td> <td>温</td> <td>度</td> <td>℃</td> </tr> <tr> <td>伝</td> <td>熱</td> <td>面</td> <td>積</td> <td>m²/個</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主</td> <td rowspan="4">管</td> <td>胴</td> <td>内</td> <td>径*4</td> <td>mm</td> <td>1700*3</td> <td rowspan="5">変更なし</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ*5</td> <td>mm</td> <td>□*6(14.0*3)</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ*7</td> <td>mm</td> <td>□*6(16.0*3)</td> </tr> <tr> <td>平</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ*8</td> <td>mm</td> <td>□*6(145.0*3)</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>鏡</td> <td>板</td> <td>の</td> <td>形</td> <td>状</td> <td>に</td> <td>係</td> <td>る</td> <td>寸</td> <td>法*6</td> <td>mm</td> <td>1700*3（鏡板の中央部における内面の半径） 170*3（すみの丸みの内半径）</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名	称	原子炉補機冷却系熱交換器		ホ(4)(iv)-②a	種	類	—	横置直管式		容	量（設計熱交換量）	MW/個	□以上*1(□*2,*3)		管	最	高	使	用	側	圧	力	MPa	胴	最	高	使	用	側	温	度	℃	伝	熱	面	積	m ² /個	主	管	胴	内	径*4	mm	1700*3	変更なし	胴	板	厚	さ*5	mm	□*6(14.0*3)	鏡	板	厚	さ*7	mm	□*6(16.0*3)	平	板	厚	さ*8	mm	□*6(145.0*3)	法	鏡	板	の	形	状	に	係	る	寸	法*6	mm	1700*3（鏡板の中央部における内面の半径） 170*3（すみの丸みの内半径）	<p>設計及び工事の計画のホ(4)(iv)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(iv)-①と同義であり、整合している。</p>	
		変更前		変更後																																																																																		
名	称	原子炉補機冷却系熱交換器		ホ(4)(iv)-②a																																																																																		
種	類	—	横置直管式																																																																																			
容	量（設計熱交換量）	MW/個	□以上*1(□*2,*3)																																																																																			
管	最	高	使	用																																																																																		
	側	圧	力	MPa																																																																																		
胴	最	高	使	用																																																																																		
	側	温	度	℃																																																																																		
伝	熱	面	積	m ² /個																																																																																		
主	管	胴	内	径*4	mm	1700*3	変更なし																																																																															
		胴	板	厚	さ*5	mm		□*6(14.0*3)																																																																														
		鏡	板	厚	さ*7	mm		□*6(16.0*3)																																																																														
		平	板	厚	さ*8	mm		□*6(145.0*3)																																																																														
法	鏡	板	の	形	状	に		係	る	寸	法*6	mm	1700*3（鏡板の中央部における内面の半径） 170*3（すみの丸みの内半径）																																																																									

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																							
		<p>(つづき)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">主 要 寸 法</td> <td rowspan="5">管 側</td> <td>管台外径(管側入口) *6</td> <td>mm</td> <td>457.2*3</td> <td rowspan="15">変更なし</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(管側入口) *6</td> <td>mm</td> <td>□ (14.3*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(管側出口) *6</td> <td>mm</td> <td>457.2*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(管側出口) *6</td> <td>mm</td> <td>□ (14.3*3)</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ *6</td> <td>mm</td> <td>65.0*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">胴 側</td> <td>胴内径 *9</td> <td>mm</td> <td>1700*3</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ *10</td> <td>mm</td> <td>□ *6 (14.0*3), □ *6 (28.0*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(胴側入口) *6</td> <td>mm</td> <td>406.4*3</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(胴側入口) *6</td> <td>mm</td> <td>□ (12.7*3)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(胴側出口) *6</td> <td>mm</td> <td>406.4*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">伝 熱 管</td> <td>管板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ *6 (115.0*3)</td> </tr> <tr> <td>伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>□ *3</td> </tr> <tr> <td>伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ *6 (□ *3)</td> </tr> <tr> <td>全長</td> <td>mm</td> <td>8556*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">材 料</td> <td rowspan="4">管 側</td> <td>胴板 *11</td> <td>—</td> <td>SGV49 *12</td> </tr> <tr> <td>鏡板 *13</td> <td>—</td> <td>SGV49 *12</td> </tr> <tr> <td>平板 *14</td> <td>—</td> <td>SGV49 *12</td> </tr> <tr> <td>フランジ *6</td> <td>—</td> <td>SFVC2B</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">胴 側</td> <td>胴板 *15</td> <td>—</td> <td>SGV49</td> </tr> <tr> <td>管板</td> <td>—</td> <td>SGV49 *16</td> </tr> <tr> <td>伝熱管</td> <td>—</td> <td>C6870T</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>6</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td>A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系)</td> <td>B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm *1</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm *1</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2 : S I 単位に換算したものである。 *3 : 公称値を示す。 *4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載 *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴板厚さ」と記載 *6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-8-1 原子炉補機冷却系熱交換器の強度計算書」による。 *7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載 *8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室平板厚さ」と記載 *9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載 *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体胴板厚さ」と記載 *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴板」と記載 *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV49 (内面ゴムライニング)」と記載 *13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板」と記載 *14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室平板」と記載 *15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体胴板」と記載 *16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV49 (管側銅合金クラッド)」と記載</p>			変更前		変更後	主 要 寸 法	管 側	管台外径(管側入口) *6	mm	457.2*3	変更なし	管台厚さ(管側入口) *6	mm	□ (14.3*3)	管台外径(管側出口) *6	mm	457.2*3	管台厚さ(管側出口) *6	mm	□ (14.3*3)	フランジ厚さ *6	mm	65.0*3	胴 側	胴内径 *9	mm	1700*3	胴板厚さ *10	mm	□ *6 (14.0*3), □ *6 (28.0*3)	管台外径(胴側入口) *6	mm	406.4*3	管台厚さ(胴側入口) *6	mm	□ (12.7*3)	管台外径(胴側出口) *6	mm	406.4*3	伝 熱 管	管板厚さ	mm	□ *6 (115.0*3)	伝熱管外径	mm	□ *3	伝熱管厚さ	mm	□ *6 (□ *3)	全長	mm	8556*3	材 料	管 側	胴板 *11	—	SGV49 *12	鏡板 *13	—	SGV49 *12	平板 *14	—	SGV49 *12	フランジ *6	—	SFVC2B	胴 側	胴板 *15	—	SGV49	管板	—	SGV49 *16	伝熱管	—	C6870T			変更前		変更後	個	数	—	6	変更なし	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系)	B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系)	設 置 床	—	原子炉建物 EL 15300mm *1	原子炉建物 EL 15300mm *1	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—			
		変更前		変更後																																																																																																							
主 要 寸 法	管 側	管台外径(管側入口) *6	mm	457.2*3	変更なし																																																																																																						
		管台厚さ(管側入口) *6	mm	□ (14.3*3)																																																																																																							
		管台外径(管側出口) *6	mm	457.2*3																																																																																																							
		管台厚さ(管側出口) *6	mm	□ (14.3*3)																																																																																																							
		フランジ厚さ *6	mm	65.0*3																																																																																																							
	胴 側	胴内径 *9	mm	1700*3																																																																																																							
		胴板厚さ *10	mm	□ *6 (14.0*3), □ *6 (28.0*3)																																																																																																							
		管台外径(胴側入口) *6	mm	406.4*3																																																																																																							
		管台厚さ(胴側入口) *6	mm	□ (12.7*3)																																																																																																							
		管台外径(胴側出口) *6	mm	406.4*3																																																																																																							
	伝 熱 管	管板厚さ	mm	□ *6 (115.0*3)																																																																																																							
		伝熱管外径	mm	□ *3																																																																																																							
		伝熱管厚さ	mm	□ *6 (□ *3)																																																																																																							
		全長	mm	8556*3																																																																																																							
	材 料	管 側	胴板 *11	—		SGV49 *12																																																																																																					
鏡板 *13			—	SGV49 *12																																																																																																							
平板 *14			—	SGV49 *12																																																																																																							
フランジ *6			—	SFVC2B																																																																																																							
胴 側		胴板 *15	—	SGV49																																																																																																							
		管板	—	SGV49 *16																																																																																																							
伝熱管	—	C6870T																																																																																																									
		変更前		変更後																																																																																																							
個	数	—	6	変更なし																																																																																																							
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (A-1, A-2, A-3 原子炉補機冷却系)		B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系熱交換器 *1 (B-1, B-2, B-3 原子炉補機冷却系)																																																																																																						
	設 置 床	—	原子炉建物 EL 15300mm *1		原子炉建物 EL 15300mm *1																																																																																																						
溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																									
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																									

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																
		<p>(3) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td colspan="2">ボ (4) (iv)-②b</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">うず巻形</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量^{*1}</td> <td colspan="2">m³/h/個</td> <td colspan="2">□以上^{*2}(1680^{*3})</td> </tr> <tr> <td>揚</td> <td>程^{*4}</td> <td colspan="2">m</td> <td colspan="2">□以上^{*2}(57^{*3})</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 圧 力</td> <td colspan="2">MPa</td> <td colspan="2">1.37^{*5} **</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 温 度</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">85^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ボ</td> <td>吸 込 内 径^{*3}</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">450.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径^{*3}</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">400.0^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ケ ー シ ン グ 厚 さ^{*3}</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">□(15.7^{*3})</td> </tr> <tr> <td>た て^{*2}</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">1200^{*3}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">1706^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ン</td> <td>高</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">1340^{*3}</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td colspan="2">ケ ー シ ン グ</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">4^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">プ</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td colspan="2">A、C-原子炉補機冷却水ポンプ^{*2} (A、C-原子炉補機冷却系)</td> <td colspan="2">B、D-原子炉補機冷却水ポンプ^{*2} (B、D-原子炉補機冷却系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 15300mm^{*2}</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 15300mm^{*2}</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">R-1F-14N</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 所</td> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">EL 15755mm 以上</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> <td colspan="2">R-1F-15N</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原 動 機</td> <td>出 力</td> <td colspan="2">kW/個</td> <td colspan="2">360^{*3}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">4</td> </tr> <tr> <td>取 付 所</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">ボンプと同じ^{*2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更なし</p> <p>注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載 *2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「A、C-原子炉補機冷却水ポンプからA-1、A-2、A-3原子炉補機冷却系熱交換器まで、原子炉浄化系非再生熱交換器からA、C-原子炉補機冷却水ポンプまで、「戻り母管」の分岐点からB、D-原子炉補機冷却水ポンプまで、B、D-原子炉補機冷却水ポンプからB-1、B-2、B-3原子炉補機冷却系熱交換器」による。 *6: S I 単位に換算したものである。 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年4月27日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類「第3-8-5図 原子炉補機冷却水ポンプ構造図」による。 *8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (予備2)」と記載</p>			変更前		変更後		名	称	原子炉補機冷却水ポンプ		ボ (4) (iv)-②b		種	類	うず巻形				容	量 ^{*1}	m ³ /h/個		□以上 ^{*2} (1680 ^{*3})		揚	程 ^{*4}	m		□以上 ^{*2} (57 ^{*3})		最	高 使 用 圧 力	MPa		1.37 ^{*5} **		最	高 使 用 温 度	℃		85 ^{*3}		ボ	吸 込 内 径 ^{*3}	mm		450.0 ^{*3}		吐 出 内 径 ^{*3}	mm		400.0 ^{*3}		ケ ー シ ン グ 厚 さ ^{*3}	mm		□(15.7 ^{*3})		た て ^{*2}	mm		1200 ^{*3}		横	mm		1706 ^{*3}		ン	高	mm		1340 ^{*3}		材 料	ケ ー シ ン グ		□		個	数	—		4 ^{*3}		プ	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A、C-原子炉補機冷却水ポンプ ^{*2} (A、C-原子炉補機冷却系)		B、D-原子炉補機冷却水ポンプ ^{*2} (B、D-原子炉補機冷却系)		設 置 床	原子炉建物 EL 15300mm ^{*2}		原子炉建物 EL 15300mm ^{*2}		溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		R-1F-14N		取 付 所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL 15755mm 以上		種 類	誘導電動機		R-1F-15N		原 動 機	出 力	kW/個		360 ^{*3}		個 数	—		4		取 付 所	—		ボンプと同じ ^{*2}			
		変更前		変更後																																																																																																																																
名	称	原子炉補機冷却水ポンプ		ボ (4) (iv)-②b																																																																																																																																
種	類	うず巻形																																																																																																																																		
容	量 ^{*1}	m ³ /h/個		□以上 ^{*2} (1680 ^{*3})																																																																																																																																
揚	程 ^{*4}	m		□以上 ^{*2} (57 ^{*3})																																																																																																																																
最	高 使 用 圧 力	MPa		1.37 ^{*5} **																																																																																																																																
最	高 使 用 温 度	℃		85 ^{*3}																																																																																																																																
ボ	吸 込 内 径 ^{*3}	mm		450.0 ^{*3}																																																																																																																																
	吐 出 内 径 ^{*3}	mm		400.0 ^{*3}																																																																																																																																
	ケ ー シ ン グ 厚 さ ^{*3}	mm		□(15.7 ^{*3})																																																																																																																																
	た て ^{*2}	mm		1200 ^{*3}																																																																																																																																
	横	mm		1706 ^{*3}																																																																																																																																
ン	高	mm		1340 ^{*3}																																																																																																																																
	材 料	ケ ー シ ン グ		□																																																																																																																																
個	数	—		4 ^{*3}																																																																																																																																
プ	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A、C-原子炉補機冷却水ポンプ ^{*2} (A、C-原子炉補機冷却系)		B、D-原子炉補機冷却水ポンプ ^{*2} (B、D-原子炉補機冷却系)																																																																																																																																
	設 置 床	原子炉建物 EL 15300mm ^{*2}		原子炉建物 EL 15300mm ^{*2}																																																																																																																																
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		R-1F-14N																																																																																																																																
取 付 所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL 15755mm 以上																																																																																																																																
	種 類	誘導電動機		R-1F-15N																																																																																																																																
原 動 機	出 力	kW/個		360 ^{*3}																																																																																																																																
	個 数	—		4																																																																																																																																
	取 付 所	—		ボンプと同じ ^{*2}																																																																																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前^{*1}</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">原子炉補機海水ポンプ</td> <td colspan="2">ボ (4) (iv)-②c</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">ターボ形</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td colspan="2">m³/h/個</td> <td colspan="2">□以上(2040^{*3})</td> </tr> <tr> <td>揚</td> <td>程</td> <td colspan="2">m</td> <td colspan="2">□以上(50^{*3})</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 圧 力</td> <td colspan="2">MPa</td> <td colspan="2">0.98</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 温 度</td> <td colspan="2">℃</td> <td colspan="2">40</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ボ</td> <td>吸 込 内 径</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">392.0^{*2}</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">530.8^{*2}</td> </tr> <tr> <td>コ ラ ム 外 径</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">558.8^{*2}</td> </tr> <tr> <td>コ ラ ム 厚 さ</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">□(14.0^{*3})</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td colspan="2">mm</td> <td colspan="2">12085^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ン</td> <td>材 料</td> <td colspan="2">ケ ー シ ン グ</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">4^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">プ</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td colspan="2">A、C-原子炉補機海水ポンプ^{*4} (A、C-原子炉補機海水系)</td> <td colspan="2">B、D-原子炉補機海水ポンプ^{*4} (B、D-原子炉補機海水系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td colspan="2">取水槽 EL 1100mm^{*4}</td> <td colspan="2">取水槽 EL 1100mm^{*4}</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">Y-24N</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 所</td> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">EL 2729mm 以上</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> <td colspan="2">Y-24AN</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原 動 機</td> <td>出 力</td> <td colspan="2">kW/個</td> <td colspan="2">410^{*2}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">4</td> </tr> <tr> <td>取 付 所</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">ボンプと同じ^{*4}</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更なし</p> <p>注記*1: 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成25年4月16日付け電原設第7号工事計画認可申請書、平成25年7月1日付け原管B発第1306065号 (20130416 商第29号) にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。 *2: 公称値を示す。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (予備2)」と記載 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>			変更前 ^{*1}		変更後		名	称	原子炉補機海水ポンプ		ボ (4) (iv)-②c		種	類	ターボ形				容	量	m ³ /h/個		□以上(2040 ^{*3})		揚	程	m		□以上(50 ^{*3})		最	高 使 用 圧 力	MPa		0.98		最	高 使 用 温 度	℃		40		ボ	吸 込 内 径	mm		392.0 ^{*2}		吐 出 内 径	mm		530.8 ^{*2}		コ ラ ム 外 径	mm		558.8 ^{*2}		コ ラ ム 厚 さ	mm		□(14.0 ^{*3})		高	mm		12085 ^{*2}		ン	材 料	ケ ー シ ン グ		□		個 数	—		4 ^{*3}		プ	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A、C-原子炉補機海水ポンプ ^{*4} (A、C-原子炉補機海水系)		B、D-原子炉補機海水ポンプ ^{*4} (B、D-原子炉補機海水系)		設 置 床	取水槽 EL 1100mm ^{*4}		取水槽 EL 1100mm ^{*4}		溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		Y-24N		取 付 所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL 2729mm 以上		種 類	誘導電動機		Y-24AN		原 動 機	出 力	kW/個		410 ^{*2}		個 数	—		4		取 付 所	—		ボンプと同じ ^{*4}									
		変更前 ^{*1}		変更後																																																																																																																																
名	称	原子炉補機海水ポンプ		ボ (4) (iv)-②c																																																																																																																																
種	類	ターボ形																																																																																																																																		
容	量	m ³ /h/個		□以上(2040 ^{*3})																																																																																																																																
揚	程	m		□以上(50 ^{*3})																																																																																																																																
最	高 使 用 圧 力	MPa		0.98																																																																																																																																
最	高 使 用 温 度	℃		40																																																																																																																																
ボ	吸 込 内 径	mm		392.0 ^{*2}																																																																																																																																
	吐 出 内 径	mm		530.8 ^{*2}																																																																																																																																
	コ ラ ム 外 径	mm		558.8 ^{*2}																																																																																																																																
	コ ラ ム 厚 さ	mm		□(14.0 ^{*3})																																																																																																																																
	高	mm		12085 ^{*2}																																																																																																																																
ン	材 料	ケ ー シ ン グ		□																																																																																																																																
	個 数	—		4 ^{*3}																																																																																																																																
プ	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A、C-原子炉補機海水ポンプ ^{*4} (A、C-原子炉補機海水系)		B、D-原子炉補機海水ポンプ ^{*4} (B、D-原子炉補機海水系)																																																																																																																																
	設 置 床	取水槽 EL 1100mm ^{*4}		取水槽 EL 1100mm ^{*4}																																																																																																																																
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		Y-24N																																																																																																																																
取 付 所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL 2729mm 以上																																																																																																																																
	種 類	誘導電動機		Y-24AN																																																																																																																																
原 動 機	出 力	kW/個		410 ^{*2}																																																																																																																																
	個 数	—		4																																																																																																																																
	取 付 所	—		ボンプと同じ ^{*4}																																																																																																																																

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																				
		<p>(5) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) 常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">原子炉補機冷却系サージタンク</td> <td colspan="2">原子炉補機冷却系サージタンク*1</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>たて置円筒形</td> <td colspan="2" rowspan="15">ホ(4)(iv)-②d 変更なし</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>m³/個</td> <td>□以上 (11*2)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> <td>圧</td> <td>力</td> </tr> <tr> <td>MPa</td> <td colspan="2">静水頭</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> <td>温</td> <td>度</td> </tr> <tr> <td>°C</td> <td colspan="2">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主</td> <td>胴</td> <td>内</td> <td>径</td> <td>mm</td> <td>2500*2</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (9.0*2)</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (9.0*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">要</td> <td colspan="2">鏡板の形状に係る寸法*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">2500*2 (鏡板の中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>mm</td> <td colspan="2">250*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">寸</td> <td>平</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>*4</td> </tr> <tr> <td>mm</td> <td colspan="2">9.0*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">法</td> <td>管</td> <td>台</td> <td>外</td> <td>径</td> <td>(流体出口)*4</td> </tr> <tr> <td>mm</td> <td colspan="2">165.2*2</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>(流体出口)*3</td> </tr> <tr> <td>mm</td> <td colspan="2">□ (7.1*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管</td> <td>台</td> <td>外</td> <td>径</td> <td>(連絡管)*4</td> </tr> <tr> <td>mm</td> <td colspan="2">216.3*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管</td> <td>台</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>(連絡管)*4</td> </tr> <tr> <td>mm</td> <td colspan="2">□ (8.2*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高</td> <td colspan="2">さ*5</td> <td>mm</td> <td colspan="2">2810*2,*4</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>胴</td> <td>板</td> <td>—</td> <td>SM41A (内面樹脂コーティング)</td> </tr> <tr> <td>料</td> <td>鏡</td> <td>板</td> <td>—</td> <td>SM41A (内面樹脂コーティング)</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td colspan="2">2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">取</td> <td rowspan="2">系</td> <td>統</td> <td>名</td> <td>—</td> <td>A-原子炉補機冷却系サージタンク*1</td> </tr> <tr> <td>(</td> <td>ラ</td> <td>イ</td> <td>ン</td> <td>名)</td> <td>B-原子炉補機冷却系サージタンク*1</td> </tr> <tr> <td>設</td> <td>置</td> <td>床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL.42800mm*4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">箇</td> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2" rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 原子炉補機冷却設備 (原子炉補機代替冷却系) と兼用 *2: 公称値を示す。 *3: 既工事計画に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和59年12月18日付け59資庁第17250号にて認可された工事計画の添付書類IV-2-1-8-2「原子炉補機冷却系サージタンクの強度計算書」による。 *4: 既工事計画に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画には「全高 3500」と記載。</p>			変更前		変更後		名	称	原子炉補機冷却系サージタンク		原子炉補機冷却系サージタンク*1		種	類	—	たて置円筒形	ホ(4)(iv)-②d 変更なし		容	量	m ³ /個	□以上 (11*2)	最	高	使	用	圧	力	MPa	静水頭		最	高	使	用	温	度	°C	66		主	胴	内	径	mm	2500*2	胴	板	厚	さ	mm	□*3 (9.0*2)	鏡	板	厚	さ	mm	□*3 (9.0*2)	要	鏡板の形状に係る寸法*3		mm	2500*2 (鏡板の中央部における内面の半径)				mm	250*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)		寸	平	板	厚	さ	*4	mm	9.0*2		法	管	台	外	径	(流体出口)*4	mm	165.2*2		管	台	厚	さ	(流体出口)*3	mm	□ (7.1*2)		管	台	外	径	(連絡管)*4	mm	216.3*2		管	台	厚	さ	(連絡管)*4	mm	□ (8.2*2)		高	さ*5		mm	2810*2,*4		材	胴	板	—	SM41A (内面樹脂コーティング)	料	鏡	板	—	SM41A (内面樹脂コーティング)	個	数	—	2				変更前		変更後		取	系	統	名	—	A-原子炉補機冷却系サージタンク*1	(ラ	イ	ン	名)	B-原子炉補機冷却系サージタンク*1	設	置	床	—	原子炉建物 EL.42800mm*4	箇	溢水防護上の区画番号		—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ		—		
		変更前		変更後																																																																																																																																																																				
名	称	原子炉補機冷却系サージタンク		原子炉補機冷却系サージタンク*1																																																																																																																																																																				
種	類	—	たて置円筒形	ホ(4)(iv)-②d 変更なし																																																																																																																																																																				
容	量	m ³ /個	□以上 (11*2)																																																																																																																																																																					
最	高	使	用			圧	力																																																																																																																																																																	
MPa	静水頭																																																																																																																																																																							
最	高	使	用			温	度																																																																																																																																																																	
°C	66																																																																																																																																																																							
主	胴	内	径			mm	2500*2																																																																																																																																																																	
	胴	板	厚			さ	mm	□*3 (9.0*2)																																																																																																																																																																
	鏡	板	厚			さ	mm	□*3 (9.0*2)																																																																																																																																																																
要	鏡板の形状に係る寸法*3		mm			2500*2 (鏡板の中央部における内面の半径)																																																																																																																																																																		
			mm			250*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)																																																																																																																																																																		
寸	平	板	厚			さ	*4																																																																																																																																																																	
	mm	9.0*2																																																																																																																																																																						
法	管	台	外			径	(流体出口)*4																																																																																																																																																																	
	mm	165.2*2																																																																																																																																																																						
	管	台	厚	さ	(流体出口)*3																																																																																																																																																																			
	mm	□ (7.1*2)																																																																																																																																																																						
管	台	外	径	(連絡管)*4																																																																																																																																																																				
	mm	216.3*2																																																																																																																																																																						
管	台	厚	さ	(連絡管)*4																																																																																																																																																																				
	mm	□ (8.2*2)																																																																																																																																																																						
高	さ*5		mm	2810*2,*4																																																																																																																																																																				
	材	胴	板	—	SM41A (内面樹脂コーティング)																																																																																																																																																																			
料	鏡	板	—	SM41A (内面樹脂コーティング)																																																																																																																																																																				
個	数	—	2																																																																																																																																																																					
		変更前		変更後																																																																																																																																																																				
取	系	統	名	—	A-原子炉補機冷却系サージタンク*1																																																																																																																																																																			
		(ラ	イ	ン	名)	B-原子炉補機冷却系サージタンク*1																																																																																																																																																																	
	設	置	床	—	原子炉建物 EL.42800mm*4																																																																																																																																																																			
箇	溢水防護上の区画番号		—	—																																																																																																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—																																																																																																																																																																					

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																														
		<p>(6) ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>原子炉補機海水ストレーナ</td> <td>ホ(4)(iv)-②e</td> <td rowspan="14">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>バスケット形ダブルストレーナ</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>m³/h/個</td> <td>□以上(4080*¹)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> </tr> <tr> <td>圧</td> <td>力</td> <td>MPa</td> <td>0.98*²</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使</td> <td>用</td> </tr> <tr> <td>温</td> <td>度</td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主</td> <td>胴</td> <td>板</td> <td>厚</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>□*¹</td> </tr> <tr> <td>カ</td> <td>バ</td> <td>ー</td> </tr> <tr> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>*³</td> <td>mm</td> <td>□*¹</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">要</td> <td>管</td> <td>台</td> <td>口</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>(海</td> <td>水</td> </tr> <tr> <td>入</td> <td>口)</td> <td>*⁴</td> <td>mm</td> <td>700*¹</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台</td> <td>厚</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>(海</td> <td>水</td> <td>入</td> </tr> <tr> <td>口)</td> <td>*³</td> <td>mm</td> <td>□*¹</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">寸</td> <td>管</td> <td>台</td> <td>口</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>(海</td> <td>水</td> </tr> <tr> <td>出</td> <td>口)</td> <td>*⁴</td> <td>mm</td> <td>700*¹</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台</td> <td>厚</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>(海</td> <td>水</td> <td>出</td> </tr> <tr> <td>口)</td> <td>*³</td> <td>mm</td> <td>□*¹</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法</td> <td>胴</td> <td>フ</td> <td>ラ</td> </tr> <tr> <td>ン</td> <td>ジ</td> <td>厚</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>*³</td> <td>mm</td> <td>□*¹</td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>長</td> <td>mm</td> <td>2800*¹</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材</td> <td>胴</td> <td>—</td> <td>□ (□)</td> </tr> <tr> <td>ボ</td> <td>ン</td> <td>ネ</td> </tr> <tr> <td>ッ</td> <td>ト</td> <td>—</td> <td>□ (□)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">料</td> <td>カ</td> <td>バ</td> <td>ー</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>□ (□)</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">取</td> <td>系</td> <td>統</td> <td>名</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(</td> <td>ラ</td> <td>イ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">付</td> <td>設</td> <td>置</td> <td>床</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>取</td> <td>水</td> <td>槽</td> <td>EL 1100mm*³</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">箇</td> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> </tr> <tr> <td>護</td> <td>上</td> <td>の</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">所</td> <td>区</td> <td>画</td> <td>番</td> <td>号</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> <td>護</td> <td>上</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>配</td> <td>慮</td> <td>が</td> <td>必</td> </tr> <tr> <td>配</td> <td>慮</td> <td>が</td> <td>必</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 公称値を示す。 *2: S I 単位に換算したものである。 *3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「第 3-8-8 図 原子炉補機海水ストレーナ構造図」による。</p>			変更前		変更後	名	称	原子炉補機海水ストレーナ	ホ(4)(iv)-②e	変更なし	種	類	—	バスケット形ダブルストレーナ	容	量	m ³ /h/個	□以上(4080* ¹)	最	高	使	用	圧	力	MPa	0.98* ²	最	高	使	用	温	度	℃	40	主	胴	板	厚	さ	mm	□* ¹	カ	バ	ー	厚	さ	* ³	mm	□* ¹	要	管	台	口	径	(海	水	入	口)	* ⁴	mm	700* ¹	管	台	厚	さ	(海	水	入	口)	* ³	mm	□* ¹	寸	管	台	口	径	(海	水	出	口)	* ⁴	mm	700* ¹	管	台	厚	さ	(海	水	出	口)	* ³	mm	□* ¹	法	胴	フ	ラ	ン	ジ	厚	さ	* ³	mm	□* ¹	全	長	mm	2800* ¹	材	胴	—	□ (□)	ボ	ン	ネ	ッ	ト	—	□ (□)	料	カ	バ	ー	—	—	□ (□)	個	数	—	2			変更前		変更後	取	系	統	名	—	(ラ	イ	付	設	置	床	—	取	水	槽	EL 1100mm* ³	箇	溢	水	防	護	上	の	所	区	画	番	号	—	—	—	—	溢	水	防	護	上	の	配	慮	が	必	配	慮	が	必	要	高	さ	—	—	—		<p>設計及び工事の計画の ホ(4)(iv)-②a 及びホ (4)(iv)-②e は, 設置変 更許可申請書 (本文 (五 号)) のホ(4)(iv)-②を詳 細に記載しており, 整合 している。</p>
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																														
名	称	原子炉補機海水ストレーナ	ホ(4)(iv)-②e	変更なし																																																																																																																																																																																														
種	類	—	バスケット形ダブルストレーナ																																																																																																																																																																																															
容	量	m ³ /h/個	□以上(4080* ¹)																																																																																																																																																																																															
最	高	使	用																																																																																																																																																																																															
圧	力	MPa	0.98* ²																																																																																																																																																																																															
最	高	使	用																																																																																																																																																																																															
温	度	℃	40																																																																																																																																																																																															
主	胴	板	厚																																																																																																																																																																																															
	さ	mm	□* ¹																																																																																																																																																																																															
	カ	バ	ー																																																																																																																																																																																															
	厚	さ	* ³		mm	□* ¹																																																																																																																																																																																												
要	管	台	口																																																																																																																																																																																															
	径	(海	水																																																																																																																																																																																															
	入	口)	* ⁴		mm	700* ¹																																																																																																																																																																																												
	管	台	厚																																																																																																																																																																																															
さ	(海	水	入																																																																																																																																																																																															
口)	* ³	mm	□* ¹																																																																																																																																																																																															
寸	管	台	口																																																																																																																																																																																															
	径	(海	水																																																																																																																																																																																															
	出	口)	* ⁴	mm	700* ¹																																																																																																																																																																																													
	管	台	厚																																																																																																																																																																																															
さ	(海	水	出																																																																																																																																																																																															
口)	* ³	mm	□* ¹																																																																																																																																																																																															
法	胴	フ	ラ																																																																																																																																																																																															
	ン	ジ	厚																																																																																																																																																																																															
さ	* ³	mm	□* ¹																																																																																																																																																																																															
全	長	mm	2800* ¹																																																																																																																																																																																															
材	胴	—	□ (□)																																																																																																																																																																																															
	ボ	ン	ネ																																																																																																																																																																																															
	ッ	ト	—	□ (□)																																																																																																																																																																																														
料	カ	バ	ー																																																																																																																																																																																															
	—	—	□ (□)																																																																																																																																																																																															
個	数	—	2																																																																																																																																																																																															
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																														
取	系	統	名	—																																																																																																																																																																																														
	(ラ	イ																																																																																																																																																																																															
付	設	置	床	—																																																																																																																																																																																														
	取	水	槽	EL 1100mm* ³																																																																																																																																																																																														
箇	溢	水	防																																																																																																																																																																																															
	護	上	の																																																																																																																																																																																															
所	区	画	番	号																																																																																																																																																																																														
	—	—	—	—																																																																																																																																																																																														
溢	水	防	護	上																																																																																																																																																																																														
の	配	慮	が	必																																																																																																																																																																																														
配	慮	が	必	要																																																																																																																																																																																														
高	さ	—	—	—																																																																																																																																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、<u>ホ(4)(iv)-③</u>この系統は、<u>想定される重大事故等時においても使用する。</u></p> <p>(v) 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備</p> <p><u>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備</u><u>ホ(4)(v)-①</u>を設置及び保管する。</p>	<p>5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備</p> <p>5.6.2 設計方針</p> <p>(1) 原子炉運転中の場合に用いる設備</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（低圧注水モード）の復旧</p> <p><中略></p> <p>その他、設計基準対象施設である原子炉圧力容器を重大事故等対処設備として使用し、設計基準事故対処設備である残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）を<u>重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。</u></p> <p>(2) 原子炉停止中の場合に用いる設備</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(c) 常設代替交流電源設備による残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の復旧</p> <p><中略></p> <p>その他、設計基準対象施設である原子炉圧力容器を重大事故等対処設備として使用し、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）を<u>重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。</u></p> <p>5.10 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備</p> <p>5.10.1 概要</p> <p><u>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備</u>を設置及び保管する。</p> <p><中略></p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.1 原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む） <中略></p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備として、<u>想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である</u><u>ホ(4)(iv)-③</u>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）が使用できる場合は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用できる設計とする。</p> <p>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）は、設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち「5.1.2 多様性、位置的分散等」に示す設計方針は適用しない。</p> <p>7.3 原子炉補機代替冷却系</p> <p><u>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備</u><u>ホ(4)(v)-①a</u>として、原子炉補機代替冷却系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(iv)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(iv)-③</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(v)-①a</u>～<u>ホ(4)(v)-①b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(v)-①</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ホ(4)(v)-②最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、格納容器フィルタベント系及び原子炉補機代替冷却系を設ける。</p>	<p>5.10.2 設計方針</p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備のうち、設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、格納容器フィルタベント系及び原子炉補機代替冷却系を設ける。</p>	<p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.2 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備ホ(4)(v)-①bとして、格納容器フィルタベント系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.3 原子炉補機代替冷却系</p> <p>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、ホ(4)(v)-②a最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備として、原子炉補機代替冷却系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.2 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>設計基準事故対処設備が有する最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損（炉心の著しい損傷が発生する前に生ずるものに限る。）を防止するため、ホ(4)(v)-②b最終ヒートシンクへ熱を輸送するために必要な重大事故等対処設備として、格納容器フィルタベント系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(4)(v)-②a～ホ(4)(v)-②bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(v)-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>残留熱除去系の故障等により最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合に、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として、格納容器フィルタベント系は、原子炉格納容器内雰囲気ガスを窒素ガス制御系等を経由して、第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器へ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建物屋上に設ける放出口から放出することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を抑制しつつ、原子炉格納容器内に蓄積した熱を最終的な熱の逃がし場である大気へ輸送できる設計とする。</u></p> <p>格納容器フィルタベント系を使用した場合に放出される放射性物質の放出量に対して、<u>ホ(4)(v)a.(a)-①</u>あらかじめ敷地境界での線量評価を行うこととする。</p>	<p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>a. 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>残留熱除去系の故障等により最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合に、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として、格納容器フィルタベント系を使用する。</u></p> <p>格納容器フィルタベント系は、第1ベントフィルタスクラバ容器、第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器、圧力開放板、遠隔手動弁操作機構、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、<u>原子炉格納容器内雰囲気ガスを窒素ガス制御系等を経由して、第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器へ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建物屋上に設ける放出口から放出することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を抑制しつつ、原子炉格納容器内に蓄積した熱を最終的な熱の逃がし場である大気へ輸送できる設計とする。</u></p> <p>格納容器フィルタベント系を使用した場合に放出される放射性物質の放出量に対して、<u>あらかじめ敷地境界での線量評価を行うこととする。</u></p>	<p>4.2 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><中略></p> <p><u>残留熱除去系の故障等により最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合に、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための重大事故等対処設備として使用する格納容器フィルタベント系は、第1ベントフィルタスクラバ容器（スクラビング水、金属フィルタ）、第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器（銀ゼオライトフィルタ）、圧力開放板、遠隔手動弁操作機構、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、原子炉格納容器内雰囲気ガスを窒素ガス制御系等を経由して、第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器へ導き、放射性物質を低減させた後に原子炉建物屋上に設ける放出口から放出（系統設計流量 9.8kg/s（1Pd において））することで、排気中に含まれる放射性物質の環境への放出量を抑制しつつ、原子炉格納容器内に蓄積した熱を最終的な熱の逃がし場である大気へ輸送できる設計とする。</u></p> <p>最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備として使用する場合の格納容器フィルタベント系は、炉心損傷前に使用するため、排気中に含まれる放射性物質及び可燃性ガスは微量である。</p> <p>格納容器フィルタベント系を使用した場合に放出される放射性物質の放出量に対して、<u>ホ(4)(v)a.(a)-①</u>設置（変更）許可において敷地境界での線量評価を行い、<u>実効線量が5mSv以下であることを確認しており、格納容器フィルタベント系はこの評価条件を満足する設計とする。</u></p> <p>第1ベントフィルタスクラバ容器は4個を並列に設置し、排気中に含まれる粒子状放射性物質及びガス状の無機よう素を除去し、第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器は、排気中に含まれる有機よう素を除去できる設計とする。また、無機よう素をスクラビング水中に捕集・保持するためにアルカリ性の状態（pH13以上）に維持する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(v)a.(a)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(v)a.(a)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>本系統の詳細については、リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備に記載する。</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 原子炉補機代替冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）の故障又は全交流動力電源の喪失により、最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、原子炉補機代替冷却系は、サブプレッション・チェンバへの熱の蓄積により原子炉冷却機能が確保できる一定の期間内に、屋外の接続口より移動式代替熱交換設備を原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><u>また、屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><u>移動式代替熱交換設備は、常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大型送水ポンプ車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p>	<p>本系統の詳細については、「9.3 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備」に記載する。</p> <p>(2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>a. 原子炉補機代替冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p><u>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）の故障又は全交流動力電源の喪失により、最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、原子炉補機代替冷却系を使用する。</u></p> <p><u>原子炉補機代替冷却系は、移動式代替熱交換設備淡水ポンプ及び熱交換器を搭載した移動式代替熱交換設備、大型送水ポンプ車、配管・ホース・弁類、計測制御装置等で構成し、サブプレッション・チェンバへの熱の蓄積により原子炉冷却機能が確保できる一定の期間内に、屋外の接続口より移動式代替熱交換設備を原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><u>また、屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><u>移動式代替熱交換設備は、常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大型送水ポンプ車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。燃料は燃料補給設備であるガスタービン発電機用軽油タンク、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンクからタンクローリにより補給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>7. 原子炉補機冷却設備</p> <p>7.3 原子炉補機代替冷却系</p> <p><中略></p> <p><u>原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）の故障又は全交流動力電源の喪失により、最終ヒートシンクへ熱を輸送する機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する原子炉補機代替冷却系は、サブプレッションチェンバへの熱の蓄積により原子炉冷却機能が確保できる一定の期間内に、移動式代替熱交換設備を原子炉補機冷却系に接続し、大型送水ポンプ車により移動式代替熱交換設備に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>また、屋外の接続口が使用できない場合には、大型送水ポンプ車を屋内の接続口より原子炉補機冷却系に接続し、原子炉補機冷却系に海水を送水することで、残留熱除去系等の機器で発生した熱を最終的な熱の逃がし場である海へ輸送できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>移動式代替熱交換設備は、常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、大型送水ポンプ車は、ディーゼルエンジンにより駆動できる設計とする。</u></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備については、ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p>	<p>本システムの流路として、原子炉補機冷却系の配管、弁及びサージタンク並びに残留熱除去系の熱交換器並びにホースを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>その他、設計基準事故対処設備である非常用取水設備の取水口、取水管及び取水槽を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>原子炉格納容器については、「9.1 原子炉格納施設」に記載する。</p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備及び燃料補給設備については「10.2 代替電源設備」に記載する。</p> <p><中略></p>		<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>格納容器フィルタベント系は、残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、ポンプ及び熱交換器を使用せずに最終的な熱の逃がし場である大気へ熱を輸送できる設計とすることで、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>また、格納容器フィルタベント系は、排出経路に設置される隔離弁の電動弁を常設代替交流電源設備若しくは可搬型代替交流電源設備からの給電による遠隔操作を可能とすること又は遠隔手動弁操作機構を用いた人力による遠隔操作を可能とすることで、<u>ホ(4)(v)b.(a)-①</u>非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系の第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器は原子炉建物外の第1ベントフィルタ格納槽内に、圧力開放板は原子炉建物近傍の屋外に設置し、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ、残留熱除去系熱交換器、原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプと異なる区画に設置することで、共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図った設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系は、除熱手段の多様性及び機器の位置的分散によって、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して独立性を有する設計とする。</p>	<p>5.10.2.1 多様性及び独立性，位置的分散 <中略></p> <p>格納容器フィルタベント系は、残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、ポンプ及び熱交換器を使用せずに最終的な熱の逃がし場である大気へ熱を輸送できる設計とすることで、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>また、格納容器フィルタベント系は、排出経路に設置される隔離弁の電動弁を常設代替交流電源設備若しくは可搬型代替交流電源設備からの給電による遠隔操作を可能とすること又は遠隔手動弁操作機構を用いた人力による遠隔操作を可能とすることで、非常用交流電源設備からの給電により駆動する残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系の第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器は原子炉建物外の第1ベントフィルタ格納槽内に、圧力開放板は原子炉建物近傍の屋外に設置し、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ、残留熱除去系熱交換器、原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプと異なる区画に設置することで、共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図った設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系は、除熱手段の多様性及び機器の位置的分散によって、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して独立性を有する設計とする。</p>	<p>4. 残留熱除去設備</p> <p>4.2 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>4.2.1 多様性，位置的分散及び独立性</p> <p>格納容器フィルタベント系は、残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、ポンプ及び熱交換器を使用せずに最終的な熱の逃がし場である大気へ熱を輸送できる設計とすることで、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系は、排出経路に設置される隔離弁の電動弁を常設代替交流電源設備若しくは可搬型代替交流電源設備からの給電による遠隔操作を可能とすること又は遠隔手動弁操作機構を用いた人力による遠隔操作を可能とすることで、<u>ホ(4)(v)b.(a)-①</u>非常用ディーゼル発電設備からの給電により駆動する残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性を有する設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系の第1ベントフィルタスクラバ容器及び第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器は原子炉建物外の第1ベントフィルタ格納槽内に、圧力開放板は原子炉建物近傍の屋外に設置し、原子炉建物内の残留熱除去ポンプ、残留熱除去系熱交換器、原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプと異なる区画に設置することで、残留熱除去系（格納容器冷却モード）及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図った設計とする。</p> <p>格納容器フィルタベント系は、除熱手段の多様性及び機器の位置的分散によって、残留熱除去系及び原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して独立性を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(v)b.(a)-①</u>及びは、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(v)b.(a)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、移動式代替熱交換設備を常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とすることで、非常用交流電源設備からの給電により駆動する原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性及び独立性を有する設計とし、大型送水ポンプ車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して多様性を有する設計とする。また、原子炉補機代替冷却系は、格納容器フィルタベント系に対して、除熱手段の多様性を有する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系の移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車は、原子炉建物及び格納容器フィルタベント系から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプ並びに原子炉建物外の格納容器フィルタベント系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原子炉補機海水系に対して独立性を有するとともに、移動式代替熱交換設備から屋外の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p>	<p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、移動式代替熱交換設備を常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とすることで、非常用交流電源設備からの給電により駆動する原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性及び独立性を有する設計とし、大型送水ポンプ車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して多様性を有する設計とする。また、原子炉補機代替冷却系は、格納容器フィルタベント系に対して、除熱手段の多様性を有する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系の移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車は、原子炉建物及び格納容器フィルタベント系から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプ並びに原子炉建物外の格納容器フィルタベント系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原子炉補機海水系に対して独立性を有するとともに、移動式代替熱交換設備から屋外の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p>	<p>7. 原子炉補機冷却設備 7.3 原子炉補機代替冷却系 7.3.1 多様性、位置的分散及び独立性</p> <p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、移動式代替熱交換設備を常設代替交流電源設備からの給電が可能な設計とすることで、非常用ディーゼル発電設備からの給電により駆動する原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して、多様性及び独立性を有する設計とし、大型送水ポンプ車をディーゼルエンジンにより駆動することで、電動機駆動ポンプにより構成される原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して多様性を有する設計とする。また、原子炉補機代替冷却系は、格納容器フィルタベント系に対して、除熱手段の多様性を有する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系の移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車は、原子炉建物及び格納容器フィルタベント系から離れた屋外に分散して保管することで、原子炉建物内の原子炉補機冷却水ポンプ、原子炉補機冷却系熱交換器及び屋外の原子炉補機海水ポンプ並びに原子炉建物外の格納容器フィルタベント系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するため、位置的分散を図った複数箇所に設置する設計とする。</p> <p>原子炉補機代替冷却系は、原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）と共通要因によって同時に機能を損なわないよう、原子炉補機海水系に対して独立性を有するとともに、移動式代替熱交換設備から屋外の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>残留熱代替除去系に使用する原子炉補機代替冷却系の移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車は、格納容器フィルタベント系から離れた屋外に分散して保管することで、格納容器フィルタベント系と共通要因によって同時に機能を損なわないよう位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式代替熱交換設備及び大型送水ポンプ車の接続口は、共通要因によって接続できなくなることを防止するた</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																								
<p>また、大型送水ポンプ車から屋内の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、原子炉補機代替冷却系は、設計基準事故対処設備である原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>電源設備の多様性及び独立性、位置的分散については、ス(2)、(iv)代替電源設備にて記載する。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>格納容器フィルタベント系 第1ベントフィルタスクラバ容器 ホ(4)(v)-③(リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備他と兼用) 第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 ホ(4)(v)-③(リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備他と兼用) 圧力開放板 ホ(4)(v)-③(リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備他と兼用) 遠隔手動弁操作機構 ホ(4)(v)-③(リ、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備他と兼用)</p>	<p>また、大型送水ポンプ車から屋内の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、原子炉補機代替冷却系は、設計基準事故対処設備である原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>電源設備の多様性及び独立性、位置的分散については「10.2.代替電源設備」にて記載する。</p> <p>第5.10-1表 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 格納容器フィルタベント系 a. 第1ベントフィルタスクラバ容器 第9.3-1表 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備の主要機器仕様に記載する。 b. 第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 第9.3-1表 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備の主要機器仕様に記載する。 c. 圧力開放板 第9.3-1表 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備の主要機器仕様に記載する。 d. 遠隔手動弁操作機構 第9.3-1表 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>め、互いに異なる複数箇所に設置し、かつ格納容器フィルタベント系との隔離を考慮した設計とする。</p> <p>また、大型送水ポンプ車から屋内の接続口を介した原子炉補機冷却系配管との合流点までの系統について、原子炉補機冷却系に対して独立性を有する設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立性並びに位置的分散によって、原子炉補機代替冷却系は、設計基準事故対処設備である原子炉補機冷却系（原子炉補機海水系を含む。）に対して重大事故等対処設備としての独立性を有する設計とする。</p> <p>【原子炉格納施設】 (要目表) 3. 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項 (9) 圧力逃がし装置に係る次の事項 (9.1) 格納容器フィルタベント系</p> <p>イ 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 常設</p> <table border="1" data-bbox="1665 1188 2822 1696"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">名</td> <td rowspan="2">称</td> <td colspan="3">第1ベントフィルタ*1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">スクラバ容器*2</td> <td>銀ゼオライト容器*2</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="3">スカート支持たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量*3</td> <td>□以上(9.3*4)</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>0.853</td> <td colspan="2">0.427</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>200</td> <td colspan="2">200</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主</td> <td>胴</td> <td>2200*1</td> <td colspan="2">3000*1</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>□(20.0*1)</td> <td colspan="2">□(20.0*1)</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>□(20.0*1)</td> <td colspan="2">□(20.0*1)</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>2200*1(中央部における内面の半径)</td> <td colspan="2">3000*1(中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">法</td> <td>管</td> <td>220*1(すみの丸みの内半径)</td> <td colspan="2">300*1(すみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>台</td> <td>216.3*4</td> <td colspan="2">318.5*4</td> </tr> <tr> <td>台</td> <td>□(8.2*1)</td> <td colspan="2">□(10.3*1)</td> </tr> <tr> <td>台</td> <td>216.3*4</td> <td colspan="2">318.5*4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>台</td> <td>□(8.2*1)</td> <td colspan="2">□(10.3*1)</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後		名	称	第1ベントフィルタ*1			スクラバ容器*2		銀ゼオライト容器*2	種	類	スカート支持たて置円筒形			容	量*3	□以上(9.3*4)	—		最	高	0.853	0.427		最	高	200	200		主	胴	2200*1	3000*1		鏡	□(20.0*1)	□(20.0*1)		鏡	□(20.0*1)	□(20.0*1)		鏡	2200*1(中央部における内面の半径)	3000*1(中央部における内面の半径)		法	管	220*1(すみの丸みの内半径)	300*1(すみの丸みの内半径)		台	216.3*4	318.5*4		台	□(8.2*1)	□(10.3*1)		台	216.3*4	318.5*4			台	□(8.2*1)	□(10.3*1)		<p>設置変更許可申請書（本文（五号）「ヌ、(2)、(iv)代替電源設備」に示す。</p>	
		変更前	変更後																																																																									
名	称	第1ベントフィルタ*1																																																																										
		スクラバ容器*2		銀ゼオライト容器*2																																																																								
種	類	スカート支持たて置円筒形																																																																										
容	量*3	□以上(9.3*4)	—																																																																									
最	高	0.853	0.427																																																																									
最	高	200	200																																																																									
主	胴	2200*1	3000*1																																																																									
	鏡	□(20.0*1)	□(20.0*1)																																																																									
	鏡	□(20.0*1)	□(20.0*1)																																																																									
	鏡	2200*1(中央部における内面の半径)	3000*1(中央部における内面の半径)																																																																									
法	管	220*1(すみの丸みの内半径)	300*1(すみの丸みの内半径)																																																																									
	台	216.3*4	318.5*4																																																																									
	台	□(8.2*1)	□(10.3*1)																																																																									
	台	216.3*4	318.5*4																																																																									
	台	□(8.2*1)	□(10.3*1)																																																																									

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																													
		<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th colspan="5">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>マンホール外径</td> <td>mm</td> <td colspan="5">558.8^{*4}</td> </tr> <tr> <td>マンホール厚さ</td> <td>mm</td> <td colspan="5">□ (20.0^{*4})</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板厚さ</td> <td>mm</td> <td colspan="5">□ (35.0^{*4})</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td colspan="5">7500^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>胴板</td> <td>—</td> <td colspan="5">SUS316L</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>—</td> <td colspan="5">SUS316L</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板</td> <td>—</td> <td colspan="5">SUSF316L</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td colspan="5">4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>第1ベントフィルタ 銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 本設備は、フィルターとして使用する第1ベントフィルタと同一機器である。 *2: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (格納容器フィルタベント系) と兼用 ホ(4)(v)-③a *3: スクラビング水の水量を示す。 *4: 公称値を示す。 *5: 重大事故等時における使用時の値</p> <p>ハ 圧力開放板の設定破裂圧力, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th colspan="5">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td></td> <td colspan="5">圧力開放板*</td> </tr> <tr> <td>設 定 破 裂 圧 力</td> <td>MPa</td> <td></td> <td colspan="5">0.08</td> </tr> <tr> <td>主 要 寸 法</td> <td>呼 び 径</td> <td>(A)</td> <td colspan="5">400</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>デ ィ ス ク</td> <td>—</td> <td colspan="5">□</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td colspan="5">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td colspan="5">圧力開放板 (格納容器フィルタベント系)</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td colspan="5">屋外 EL 19400mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (格納容器フィルタベント系) と兼用 ホ(4)(v)-③b</p>			変更前	変 更 後					主要寸法	マンホール外径	mm	558.8 ^{*4}					マンホール厚さ	mm	□ (20.0 ^{*4})					マンホール平板厚さ	mm	□ (35.0 ^{*4})					高さ	mm	7500 ^{*4}					材料	胴板	—	SUS316L					鏡板	—	SUS316L					マンホール平板	—	SUSF316L					個	数	—	4					取付箇所	系 統 名 (ライン名)	—	A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	第1ベントフィルタ 銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)	設 置 床	—	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	溢水防護上の区画番号	—	—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—							変更前	変 更 後					名	称		圧力開放板*					設 定 破 裂 圧 力	MPa		0.08					主 要 寸 法	呼 び 径	(A)	400					材 料	デ ィ ス ク	—	□					個	数	—	1					取付箇所	系 統 名 (ライン名)	—	圧力開放板 (格納容器フィルタベント系)					設 置 床	—	屋外 EL 19400mm					溢水防護上の区画番号	—	—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—						
		変更前	変 更 後																																																																																																																																																																														
主要寸法	マンホール外径	mm	558.8 ^{*4}																																																																																																																																																																														
	マンホール厚さ	mm	□ (20.0 ^{*4})																																																																																																																																																																														
	マンホール平板厚さ	mm	□ (35.0 ^{*4})																																																																																																																																																																														
	高さ	mm	7500 ^{*4}																																																																																																																																																																														
材料	胴板	—	SUS316L																																																																																																																																																																														
	鏡板	—	SUS316L																																																																																																																																																																														
	マンホール平板	—	SUSF316L																																																																																																																																																																														
個	数	—	4																																																																																																																																																																														
取付箇所	系 統 名 (ライン名)	—	A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	第1ベントフィルタ 銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)																																																																																																																																																																										
	設 置 床	—	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm																																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																																																														
		変更前	変 更 後																																																																																																																																																																														
名	称		圧力開放板*																																																																																																																																																																														
設 定 破 裂 圧 力	MPa		0.08																																																																																																																																																																														
主 要 寸 法	呼 び 径	(A)	400																																																																																																																																																																														
材 料	デ ィ ス ク	—	□																																																																																																																																																																														
個	数	—	1																																																																																																																																																																														
取付箇所	系 統 名 (ライン名)	—	圧力開放板 (格納容器フィルタベント系)																																																																																																																																																																														
	設 置 床	—	屋外 EL 19400mm																																																																																																																																																																														
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																																																														

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																										
		<p>へ フィルター (公衆の放射線障害の防止を目的として設置するものに限る。) の名称, 種類, 効率, 主要寸法, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1" data-bbox="1670 401 2849 905"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">名</td> <td rowspan="2">称</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">第1ベントフィルタ*1</td> </tr> <tr> <td>スクラバ容器*2</td> <td>銀ゼオライト容器*2</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>スクラビング水及び金属フィルタ</td> <td>銀ゼオライトフィルタ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">効</td> <td rowspan="2">率</td> <td rowspan="2">%</td> <td colspan="2">99.9以上(粒子状放射性物質に対して)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">99以上(無機よう素に対して)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主</td> <td>胴</td> <td>内</td> <td>径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ</td> </tr> <tr> <td>鏡</td> <td>板</td> <td>厚</td> <td>さ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">要</td> <td colspan="2">鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管台外径 (ベントガス入口)</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">寸</td> <td colspan="2">管台厚さ (ベントガス入口)</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管台外径 (ベントガス出口)</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管台厚さ (ベントガス出口)</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">管台厚さ (ベントガス出口)</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" data-bbox="1679 947 2837 1423"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主</td> <td>マンホール外径</td> <td>mm</td> <td>558.8*3</td> <td colspan="4">609.6*3</td> </tr> <tr> <td>マンホール厚さ</td> <td>mm</td> <td>□(20.0*3)</td> <td colspan="4">□(20.0*3)</td> </tr> <tr> <td>マンホール平板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□(35.0*3)</td> <td colspan="4">□(83.2*3)</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>7500*3</td> <td colspan="4">3850*3</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>4</td> <td colspan="4">1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td>A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)</td> <td>第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">所</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="5">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 本設備は, 容器として使用する第1ベントフィルタと同一機器である。 *2: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (格納容器フィルタベント系) と兼用 *3: 公称値を示す。</p>			変更前	変更後		名	称	—	第1ベントフィルタ*1		スクラバ容器*2	銀ゼオライト容器*2	種	類	—	スクラビング水及び金属フィルタ	銀ゼオライトフィルタ	効	率	%	99.9以上(粒子状放射性物質に対して)		99以上(無機よう素に対して)		主	胴	内	径	mm	胴	板	厚	さ	鏡	板	厚	さ	要	鏡板の形状に係る寸法		mm	—	管台外径 (ベントガス入口)		mm	—	寸	管台厚さ (ベントガス入口)		mm	—	管台外径 (ベントガス出口)		mm	—	管台厚さ (ベントガス出口)		mm	—	管台厚さ (ベントガス出口)		mm	—			変更前	変更後					主	マンホール外径	mm	558.8*3	609.6*3				マンホール厚さ	mm	□(20.0*3)	□(20.0*3)				マンホール平板厚さ	mm	□(35.0*3)	□(83.2*3)				高さ	mm	7500*3	3850*3				個	数	—	4	1				取	系統名	—	A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)	設置床	—	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	所	溢水防護上の区画番号	—	—					溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—						
		変更前	変更後																																																																																																																																											
名	称	—	第1ベントフィルタ*1																																																																																																																																											
			スクラバ容器*2	銀ゼオライト容器*2																																																																																																																																										
種	類	—	スクラビング水及び金属フィルタ	銀ゼオライトフィルタ																																																																																																																																										
効	率	%	99.9以上(粒子状放射性物質に対して)																																																																																																																																											
			99以上(無機よう素に対して)																																																																																																																																											
主	胴	内	径	mm																																																																																																																																										
	胴	板	厚	さ																																																																																																																																										
	鏡	板	厚	さ																																																																																																																																										
要	鏡板の形状に係る寸法		mm	—																																																																																																																																										
	管台外径 (ベントガス入口)		mm	—																																																																																																																																										
寸	管台厚さ (ベントガス入口)		mm	—																																																																																																																																										
	管台外径 (ベントガス出口)		mm	—																																																																																																																																										
	管台厚さ (ベントガス出口)		mm	—																																																																																																																																										
	管台厚さ (ベントガス出口)		mm	—																																																																																																																																										
		変更前	変更後																																																																																																																																											
主	マンホール外径	mm	558.8*3	609.6*3																																																																																																																																										
	マンホール厚さ	mm	□(20.0*3)	□(20.0*3)																																																																																																																																										
	マンホール平板厚さ	mm	□(35.0*3)	□(83.2*3)																																																																																																																																										
	高さ	mm	7500*3	3850*3																																																																																																																																										
個	数	—	4	1																																																																																																																																										
取	系統名	—	A-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	B-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	C-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	D-第1ベントフィルタスクラバ容器 (格納容器フィルタベント系)	第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 (格納容器フィルタベント系)																																																																																																																																							
	設置床	—	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm	第1ベントフィルタ格納槽内 EL 2700mm																																																																																																																																							
所	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																											
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																											
		<p>【原子炉格納施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.6 圧力逃がし装置 3.6.1 格納容器フィルタベント系 (1) 格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p>																																																																																																																																												

ホ(4)(v)-③c

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p><中略></p> <p>格納容器フィルタベント系使用時の排出経路に設置される隔離弁は、遠隔手動弁操作機構（個数5）ホ(4)(v)-③d原子炉冷却系統施設の設備，原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備の設備で兼用)によって人力により容易かつ確実に操作が可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のホ(4)(v)-③a～ホ(4)(v)-③dは、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(v)-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																					
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>原子炉補機代替冷却系</p> <p>ホ(4)(v)b.(a)-④ 移動式代替熱交換設備</p> <p>ホ(4)(v)b.(a)-⑤ (リ, (3), (ii), b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備及びニ, (3), (ii) 燃料プールの冷却等のための設備と兼用)</p> <p>数量 2式(予備1)</p> <p>熱交換器</p> <p>組数 ⑥ 1</p> <p>伝熱容量 ⑦a 約23MW ⑧a (海水温度30℃において)</p> <p>本文(十号)</p> <p>原子炉補機代替冷却系の伝熱容量は、⑨ 事象発生後8時間から24時間において約16MW、事象発生24時間以降において⑦b 約11MW ⑧b (サプレッション・プール水温度100℃、海水温度30℃において)とする。</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)b.(d)(d-1)(d-1-8), ハ(2)(ii)c.(a)(a-1)(a-1-10), ハ(2)(ii)c.(b)(b-13) ハ(2)(ii)e.(a)(a-10),</p>	<p>(2) 原子炉補機代替冷却系</p> <p>a. 移動式代替熱交換設備</p> <p>兼用する設備は以下のとおり...</p> <p>・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <p>・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備</p> <p>台数 2(予備1)</p> <p>熱交換器</p> <p>組数 1</p> <p>伝熱容量 約23MW(海水温度30℃において)</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】</p> <p>(要目表)</p> <p>8.3 原子炉補機代替冷却系</p> <p>(2) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。）、最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。）、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>以下の設備は、既存の残留熱除去設備の残留熱除去系であり、原子炉補機代替冷却系として本工事計画で兼用する。</p> <p>常設 残留熱除去系熱交換器</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1644 611 2466 1787"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td></td> <td>移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器 ④</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td></td> <td>プレート式</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>量*1 MW/個</td> <td></td> <td>10.5以上(11.5*2) ⑦</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">淡水側</td> <td>最高使用圧力*1 MPa</td> <td></td> <td>1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1 ℃</td> <td></td> <td>70*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">海水側</td> <td>最高使用圧力*1 MPa</td> <td></td> <td>1.00*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1 ℃</td> <td></td> <td>65*2</td> </tr> <tr> <td>伝熱面積*1</td> <td>m²/個</td> <td></td> <td>□以上(□*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>2177*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>780*2</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>2000*2</td> </tr> <tr> <td>車両全長</td> <td>mm</td> <td>15900*2</td> </tr> <tr> <td>車両全幅</td> <td>mm</td> <td>2490*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>熱交換器側板</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>熱交換器伝熱板</td> <td>—</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td></td> <td>4*3 ⑥</td> </tr> <tr> <td>車両個数</td> <td></td> <td></td> <td>2(予備1)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器は大型送水ポンプ車と連結して使用する。 注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：車両1台につき2個設置する。</p>			変更前	変更後	名称			移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器 ④	種類			プレート式	容量	量*1 MW/個		10.5以上(11.5*2) ⑦	淡水側	最高使用圧力*1 MPa		1.37*2	最高使用温度*1 ℃		70*2	海水側	最高使用圧力*1 MPa		1.00*2	最高使用温度*1 ℃		65*2	伝熱面積*1	m ² /個		□以上(□*2)	主要寸法	たて	mm	2177*2	横	mm	780*2	高さ	mm	2000*2	車両全長	mm	15900*2	車両全幅	mm	2490*2	材料	熱交換器側板	—	□	熱交換器伝熱板	—	□	個数	—		4*3 ⑥	車両個数			2(予備1)	取付箇所	—	—	保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍		
		変更前	変更後																																																																						
名称			移動式代替熱交換設備プレート式熱交換器 ④																																																																						
種類			プレート式																																																																						
容量	量*1 MW/個		10.5以上(11.5*2) ⑦																																																																						
淡水側	最高使用圧力*1 MPa		1.37*2																																																																						
	最高使用温度*1 ℃		70*2																																																																						
海水側	最高使用圧力*1 MPa		1.00*2																																																																						
	最高使用温度*1 ℃		65*2																																																																						
伝熱面積*1	m ² /個		□以上(□*2)																																																																						
主要寸法	たて	mm	2177*2																																																																						
	横	mm	780*2																																																																						
	高さ	mm	2000*2																																																																						
	車両全長	mm	15900*2																																																																						
	車両全幅	mm	2490*2																																																																						
材料	熱交換器側板	—	□																																																																						
	熱交換器伝熱板	—	□																																																																						
個数	—		4*3 ⑥																																																																						
車両個数			2(予備1)																																																																						
取付箇所	—	—	保管箇所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍																																																																						
<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の④は、設置変更許可申請書（本文）の④と同義であり、整合している。 「移動式代替熱交換設備」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における⑤を設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち「原子炉補機代替冷却設備」に整理しており、整合している。 設計及び工事の計画の⑥は、設置変更許可申請書（本文）の⑥を具体的に記載しており、整合している。 設計及び工事の計画の⑦の11.5MW×2個=23MWは、設置変更許可申請書（本文）の⑦aと⑦bと同義であり、整合している。 設置変更許可申請書（本文）の⑧a及び⑧bは、設計及び工事の計画の「VI-1-1-5-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（原子炉冷却系統施設）」の記載と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の⑨は、新規規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。 																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																								
<p>移動式代替熱交換設備淡水ポンプ</p> <p>台 数 ④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩ 2</p> <p>容 量 約 300m³/h/台</p> <p>全揚程 約 75m</p>	<p>移動式代替熱交換設備淡水ポンプ</p> <p>台 数 2</p> <p>容 量 約 300m³/h/台</p> <p>全揚程 約 75m</p>	<p>(3) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p style="text-align: center;">可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 80%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名 称</td> <td colspan="3">移動式代替熱交換設備淡水ポンプ</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">うず巻形</td> </tr> <tr> <td>容 量*1</td> <td>m³/h/個</td> <td colspan="2">300 以上 (300*2, *3)</td> </tr> <tr> <td>揚 程*1</td> <td>m</td> <td colspan="2">55 以上 (75*2)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">1.37*2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td colspan="2">70*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">150*2</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">100.0*2</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td colspan="2">670*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td colspan="2">140*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">430*2</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td colspan="2">SCS14</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td colspan="2">4*3 ④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td colspan="3"> 保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍 </td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th style="width: 10%;">変更前</th> <th style="width: 80%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原動機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td>—</td> <td>110*2</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4*4</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：車両1台につき2個設置する。 *4：車両1台につき2個設置する。</p>				変更前	変更後	ポンプ	名 称	移動式代替熱交換設備淡水ポンプ			種 類	—	うず巻形		容 量*1	m ³ /h/個	300 以上 (300*2, *3)		揚 程*1	m	55 以上 (75*2)		最高使用圧力*1	MPa	1.37*2		最高使用温度*1	℃	70*2		主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	150*2		吐 出 口 径	mm	100.0*2		た て	mm	670*2		横	mm	140*2		材 料	高 さ	mm	430*2		ケーシング	—	SCS14		個 数	—	—	4*3 ④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩		取 付 箇 所	—	保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍						変更前	変更後	原動機	種 類	—	—	誘導電動機	出 力	kW/個	—	110*2	個 数	—	—	4*4	取 付 箇 所	—	—	ポンプと同じ	<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））の④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩を具体的に記載しており、整合している。</p>	
			変更前	変更後																																																																																								
ポンプ	名 称	移動式代替熱交換設備淡水ポンプ																																																																																										
	種 類	—	うず巻形																																																																																									
	容 量*1	m ³ /h/個	300 以上 (300*2, *3)																																																																																									
	揚 程*1	m	55 以上 (75*2)																																																																																									
	最高使用圧力*1	MPa	1.37*2																																																																																									
	最高使用温度*1	℃	70*2																																																																																									
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	150*2																																																																																								
		吐 出 口 径	mm	100.0*2																																																																																								
		た て	mm	670*2																																																																																								
		横	mm	140*2																																																																																								
材 料	高 さ	mm	430*2																																																																																									
	ケーシング	—	SCS14																																																																																									
個 数	—	—	4*3 ④(ⅴ)ⅴ. (a)-⑩																																																																																									
取 付 箇 所	—	保管箇所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm～33000mm 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 15000mm 原子炉建物南側 又は西側近傍																																																																																										
			変更前	変更後																																																																																								
原動機	種 類	—	—	誘導電動機																																																																																								
	出 力	kW/個	—	110*2																																																																																								
	個 数	—	—	4*4																																																																																								
	取 付 箇 所	—	—	ポンプと同じ																																																																																								

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項		整合性	備考																																																																
<p>大型送水ポンプ車</p> <p>ホ(4)(v)b.(a)-⑩(リ),(3),(ii), b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備, ニ,(3),(ii) 燃料プールの冷却等及びホ(4),(vi) 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備と兼用)</p> <p>台数 2 (予備1)</p> <p>容量 約 1,800m³/h/台</p> <p>吐出圧力 1.2MPa[gage]</p>	<p>b. 大型送水ポンプ車</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 <p>台数 2 (予備1)</p> <p>容量 約 1,800m³/h/台</p> <p>吐出圧力 1.2MPa[gage]</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>大型送水ポンプ車</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>うず巻形</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td>m³/h/個</td> <td>□以上^{*2}, □以上^{*3} (1800^{*4})</td> </tr> <tr> <td>吐出圧力^{*1}</td> <td>MPa</td> <td>□以上^{*2}, □以上^{*3} (1.20^{*4})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力^{*1}</td> <td>MPa</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度^{*1}</td> <td>℃</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>□^{*4}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>□^{*4}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>□^{*4}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>□^{*4}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">車両寸法</td> <td>車両全長</td> <td>mm</td> <td>11995^{*4}</td> </tr> <tr> <td>車両全幅</td> <td>mm</td> <td>2495^{*4}</td> </tr> <tr> <td>車両全幅 (アウトリガ最大張出)</td> <td>mm</td> <td>— 3980^{*4}</td> </tr> <tr> <td>車両高さ</td> <td>mm</td> <td>3510^{*4}</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>□ (JIS G 5502相当)</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td></td> <td>2(予備1^{*5})</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td></td> <td>保管場所: 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所: 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍</td> </tr> </tbody> </table>				変更前	変更後	ポンプ	名 称		大型送水ポンプ車	種類	—	うず巻形	容量 ^{*1}	m ³ /h/個	□以上 ^{*2} , □以上 ^{*3} (1800 ^{*4})	吐出圧力 ^{*1}	MPa	□以上 ^{*2} , □以上 ^{*3} (1.20 ^{*4})	最高使用圧力 ^{*1}	MPa	□	最高使用温度 ^{*1}	℃	□	主要寸法	吸込口径	mm	□ ^{*4}	吐出口径	mm	□ ^{*4}	たて	mm	□ ^{*4}	横	mm	□ ^{*4}	高さ	mm	□ ^{*4}	車両寸法	車両全長	mm	11995 ^{*4}	車両全幅	mm	2495 ^{*4}	車両全幅 (アウトリガ最大張出)	mm	— 3980 ^{*4}	車両高さ	mm	3510 ^{*4}	材料	ケーシング	—	□ (JIS G 5502相当)	個数	—		2(予備1 ^{*5})	取付箇所	—		保管場所: 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所: 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍		
		変更前	変更後																																																																		
ポンプ	名 称		大型送水ポンプ車																																																																		
	種類	—	うず巻形																																																																		
	容量 ^{*1}	m ³ /h/個	□以上 ^{*2} , □以上 ^{*3} (1800 ^{*4})																																																																		
	吐出圧力 ^{*1}	MPa	□以上 ^{*2} , □以上 ^{*3} (1.20 ^{*4})																																																																		
	最高使用圧力 ^{*1}	MPa	□																																																																		
	最高使用温度 ^{*1}	℃	□																																																																		
	主要寸法	吸込口径	mm	□ ^{*4}																																																																	
		吐出口径	mm	□ ^{*4}																																																																	
		たて	mm	□ ^{*4}																																																																	
		横	mm	□ ^{*4}																																																																	
		高さ	mm	□ ^{*4}																																																																	
	車両寸法	車両全長	mm	11995 ^{*4}																																																																	
		車両全幅	mm	2495 ^{*4}																																																																	
		車両全幅 (アウトリガ最大張出)	mm	— 3980 ^{*4}																																																																	
	車両高さ	mm	3510 ^{*4}																																																																		
材料	ケーシング	—	□ (JIS G 5502相当)																																																																		
個数	—		2(予備1 ^{*5})																																																																		
取付箇所	—		保管場所: 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 13000mm~33000m 第3保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 予備を含めた3個を上記3箇所のうち第1保管エリアに1個, 第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個を保管する。 取付箇所: 屋外 EL 約 8500mm 2号取水槽近傍																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																	
		<table border="1" data-bbox="1644 281 2617 520"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>変更前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>ディーゼルエンジン</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>2（予備 1*5）</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1644 531 2617 863"> 注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備（移動式代替熱交換設備使用時）で使用する場合の値 *3：原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備（大型送水ポンプ車による海水直接注入時）で使用する場合の値 *4：公称値を示す。 *5：核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（原子炉建物放水設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備のうち原子炉格納容器安全設備（原子炉建物放水設備）と予備を兼用 </p>	名 称		変更前	変 更 後	原 動 機	種 類	—	ディーゼルエンジン	出 力	kW/個	<input type="checkbox"/>	個 数	—	2（予備 1*5）	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ	<p>「大型送水ポンプ車」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における <u>ホ(4)(v)b.(a)-①</u> を、設計及び工事の計画の「原子炉冷却系統施設」のうち、「原子炉補機代替冷却設備」に整理しており、整合している。</p>	
名 称		変更前	変 更 後																		
原 動 機	種 類	—	ディーゼルエンジン																		
	出 力	kW/個	<input type="checkbox"/>																		
	個 数	—	2（予備 1*5）																		
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(vi) 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、<u>ホ(4)(vi)-①</u>発電用原子炉施設には、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>重大事故等の収束に必要な<u>ホ(4)(vi)-②</u>水の供給設備のうち、重大事故等の収束に必要な水源として、<u>低圧原子炉代替注水槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水貯蔵タンク</u>を設ける。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける。</u></p>	<p>5.7 重大事故等の収束に必要な水の供給設備</p> <p>5.7.1 概要</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、<u>発電用原子炉施設には、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</u></p> <p><中略></p> <p>5.7.2 設計方針</p> <p>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、重大事故等の収束に必要な水源として、<u>低圧原子炉代替注水槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水貯蔵タンク</u>を設ける。これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける。また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p>重大事故等の収束に必要な水の供給設備のうち、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける。また、海を利用するために必要な設備として、大量送水車を設ける。</u></p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な重大事故等対処設備<u>ホ(4)(vi)-①</u>として、<u>低圧原子炉代替注水槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水貯蔵タンク</u>を重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>設計基準事故の収束に必要な水源とは別に、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を有する水源を確保することに加えて、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して<u>重大事故等の収束に必要な十分な量のホ(4)(vi)-②</u>水を供給するために必要な重大事故等対処設備として、<u>低圧原子炉代替注水槽、サプレッション・チェンバ及びほう酸水貯蔵タンク</u>を重大事故等の収束に必要な水源として設ける設計とする。</p> <p>これら重大事故等の収束に必要な水源とは別に、代替淡水源として輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を設ける設計とする。</p> <p>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、海を水源として利用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対して、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p> <p>また、海を利用するために必要な設備として、<u>大量送水車を設ける設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(vi)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(vi)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(vi)-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(vi)-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>代替水源からの移送ルートを確認ホ(4)(vi)-③し、ホース及びポンプについては、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>a. 重大事故等の収束に必要となる水源</p> <p>(a) 低圧原子炉代替注水槽を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、原子炉压力容器及び原子炉格納容器へのホ(4)(vi)a.(a)-①注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（常設）、格納容器代替スプレイ系（常設）及びペダスタル代替注水系（常設）の水源として、低圧原子炉代替注水槽を使用する。</p> <p>各系統の詳細については、ホ、(3)、(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、リ、(3)、(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備及びリ、(3)、(ii)、c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備に記載する。</p> <p>(b) サプレッション・チェンバを水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、原子炉压力容器及び原子炉格納容器へのホ(4)(vi)a.(b)-①注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である高圧原子炉代替注水系及び残留熱代替除去系並びに重大事故等対処設備（設計基準拡張）である原子炉隔離時冷却系、高圧炉心スプレイ系、低圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード、格納容器冷却モード及びサプレッション・プール水冷却モード）の水源として、サプレッ</p>	<p>代替水源からの移送ルートを確認し、ホース及びポンプについては、複数箇所に分散して保管する。</p> <p>(1) 重大事故等の収束に必要となる水源</p> <p>a. 低圧原子炉代替注水槽を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、原子炉压力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（常設）、格納容器代替スプレイ系（常設）及びペダスタル代替注水系（常設）の水源として、低圧原子炉代替注水槽を使用する。</p> <p><中略></p> <p>各系統の詳細については、「5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備」、「9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備」及び「9.4 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備」に記載する。</p> <p>b. サプレッション・チェンバを水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、原子炉压力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である高圧原子炉代替注水系及び残留熱代替除去系並びに重大事故等対処設備（設計基準拡張）である原子炉隔離時冷却系、高圧炉心スプレイ系、低圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード、格納容器冷却モード及びサプレッション・プール水冷却モード）の水源として、サプレッション・チェンバ</p>	<p>代替水源からの移送ルートを確認ホ(4)(vi)-③するとともに、可搬型のホース、大量送水車については、複数箇所に分散して保管する。</p> <p><中略></p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要となる水源</p> <p>(1) 低圧原子炉代替注水槽からの水の供給</p> <p>低圧原子炉代替注水槽は、想定される重大事故等時において、原子炉压力容器へのホ(4)(vi)a.(a)-①注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（常設）、格納容器代替スプレイ系（常設）及びペダスタル代替注水系（常設）の水源として使用できる設計とする。</p> <p>(2) サプレッションチェンバからの水の供給</p> <p>サプレッションチェンバ（容量 2800 m³、個数 1）は、想定される重大事故等時において、原子炉压力容器へのホ(4)(vi)a.(b)-①注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である高圧原子炉代替注水系及び残留熱代替除去系並びに重大事故等対処設備（設計基準拡張）である原子炉隔離時冷却系、高圧炉心スプレイ系、低圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）、残留熱除去系（格</p>	<p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)-③と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)a.(a)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)a.(a)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ホ、(3)、(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、リ、(3)、(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備及びリ、(3)、(ii)、c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)a.(b)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)a.(b)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>シオン・チェンバを使用する。</p> <p>各系統の詳細については、ホ、(4)、(i) 残留熱除去系、ホ、(3)、(ii)、a. 非常用炉心冷却系、ホ、(4)、(ii) 原子炉隔離時冷却系、ホ、(3)、(ii)、b. (a) 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備及び、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備に記載する。</p> <p>(c) ほう酸水貯蔵タンクを水源とした場合に用いる設備 <u>想定される重大事故等時において、原子炉圧力容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段であるほう酸水注入系の水源として、ほう酸水貯蔵タンクを使用する。</u></p> <p>本系統の詳細については、へ、(5)、(xii) 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備に記載する。</p> <p>(d) 代替淡水源を水源とした場合に用いる設備 <u>想定される重大事故等時において、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器へのホ(4)(vi)a.(d)-①注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）</u></p>	<p>を使用する。</p> <p><中略></p> <p>各系統の詳細については、「5.2 残留熱除去系」、「5.3 非常用炉心冷却系」、「5.8 原子炉隔離時冷却系」、「5.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備」及び「9.3 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備」に記載する。</p> <p>c. ほう酸水貯蔵タンクを水源とした場合に用いる設備 <u>想定される重大事故等時において、原子炉圧力容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段であるほう酸水注入系の水源として、ほう酸水貯蔵タンクを使用する。</u></p> <p><中略></p> <p>本系統の詳細については、「6.7 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備」に記載する。</p> <p>d. 代替淡水源を水源とした場合に用いる設備 <u>想定される重大事故等時において、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールスプ</u></p>	<p>納容器冷却モード）及び残留熱除去系（サブプレッションプール水冷却モード）の水源として使用できる設計とする。</p> <p>(3) ほう酸水貯蔵タンクからの水の供給 <u>ほう酸水貯蔵タンクは、想定される重大事故等時において、原子炉圧力容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段であるほう酸水注入系の水源として使用できる設計とする。</u></p> <p>(4) 代替淡水源からの水の供給 <u>代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）は、想定される重大事故等時において、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器へのホ(4)(vi)a.(d)-①注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能</u></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ホ、(4)、(i) 残留熱除去系、ホ、(3)、(ii)、a. 非常用炉心冷却系、ホ、(4)、(ii) 原子炉隔離時冷却系、ホ、(3)、(ii)、b. (a) 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備及び、(3)、(ii)、b. 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「へ、(5)、(xii) 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)a.(d)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)a.(d)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を使用する。</p> <p>各系統の詳細については、ホ(3)(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、リ(3)(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備及びリ(3)(ii)、c. 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備及びニ(3)(ii) 燃料プールの冷却等のための設備に記載する。</p> <p>(e) 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器へのホ(4)(vi)a.(e)-①注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p>	<p>レイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を使用する。</p> <p>各系統の詳細については、「5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備」、「9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備」、「9.4 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備」及び「4.2 使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備」に記載する。</p> <p>e. 海を水源とした場合に用いる設備</p> <p>想定される重大事故等時において、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として海を利用するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</p> <p>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</p> <p>また、原子炉補機代替冷却系の大型送水ポンプ車及び原子炉建物放水設備の大型送水ポンプ車の水源として、海を使用する。</p>	<p>喪失した場合の代替手段である燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として使用できる設計とする。</p> <p>(5) 海からの水の供給</p> <p>ホ(4)(vi)a.(e)-①a)海は、想定される重大事故等時において、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための水源であるとともに、原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である低圧原子炉代替注水系（可搬型）、格納容器代替スプレイ系（可搬型）及びペDESTAL代替注水系（可搬型）の水源として、また、燃料プールの冷却又は注水に使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である燃料プールのスプレイ系（常設スプレイヘッド）及び燃料プールのスプレイ系（可搬型スプレイノズル）の水源として、さらに、原子炉補機代替冷却系及び原子炉建物放水設備の水源として利用できる設計とする。</p> <p>大量送水車は、海水を各系統へ供給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備に対し</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ホ(3)(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、リ(3)(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備及びリ(3)(ii)、c. 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備及びニ(3)(ii) 燃料プールの冷却等のための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)a.(e)-①a)及びホ(4)(vi)a.(e)-①b)は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)a.(e)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>各系統の詳細については、ホ、(3)、(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、ホ、(4)、(v) 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備、リ、(3)、(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備、リ、(3)、(ii)、c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備、ニ、(3)、(ii) 燃料プールの冷却等のための設備及びリ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備に記載する。</p> <p>(f) 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上） ホ(4)(vi)a.(f)-①想定される重大事故等が発生した場合において、輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）周辺の確認ができる設備として、構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）を設置する。</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、中央制御室及び緊急時対策所から輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の周辺を監視することが可能な設計とする。</p>	<p><中略></p> <p>各系統の詳細については、「5.6 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備」、「5.10 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備」、「9.2 原子炉格納容器内の冷却等のための設備」、「9.4 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備」、「4.2 使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備」及び「9.7 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備」に記載する。</p> <p>f. 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上） 想定される重大事故等が発生した場合において、輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）周辺の確認ができる設備として、構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）を設置する。</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、中央制御室及び緊急時対策所から輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の周辺を監視することが可能な設計とする。</p>	<p>て、重大事故等の収束に必要な十分な量の水を供給するために必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p>また、海を利用するためホ(4)(vi)a.(e)-①bに必要な設備として、大量送水車を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源</p> <p>(6) 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、ホ(4)(vi)a.(f)-①想定される重大事故等が発生した場合において、中央制御室及び緊急時対策所から輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）周辺の監視が可能な設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ホ、(3)、(ii)、b.(c) 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備、ホ、(4)、(v) 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備、リ、(3)、(ii)、a. 原子炉格納容器内の冷却等のための設備、リ、(3)、(ii)、c. 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備、ニ、(3)、(ii) 燃料プールの冷却等のための設備及びリ、(3)、(ii)、e. 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のホ(4)(vi)a.(f)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)a.(f)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、非常用交流電源設備、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>b. 水源へ水を供給するための設備</p> <p>(a) 低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための設備</p> <p><u>重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ淡水を供給するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</u></p> <p><u>大量送水車は、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の淡水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ海水を供給するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</u></p> <p><u>大量送水車は、海水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p>	<p><u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、非常用交流電源設備、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>(2) 水源へ水を供給するための設備</p> <p>a. 低圧原子炉代替注水槽へ水を供給するための設備</p> <p><u>重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ淡水を供給するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</u></p> <p><u>大量送水車は、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の淡水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ海水を供給するための重大事故等対処設備として、大量送水車を使用する。</u></p> <p><u>大量送水車は、海水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p><u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、非常用ディーゼル発電設備、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</u></p> <p>5.9.2 水源へ水を供給するための設備</p> <p>(1) 低圧原子炉代替注水槽の水の供給</p> <p><u>重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ淡水を供給するための重大事故等対処設備として使用する大量送水車は、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の淡水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p> <p><u>また、淡水が枯渇した場合又は土石流の発生により輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）が使用できない場合に、重大事故等の収束に必要な水源である低圧原子炉代替注水槽へ海水を供給するための重大事故等対処設備として使用する大量送水車は、海水を低圧原子炉代替注水槽へ供給できる設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>低圧原子炉代替注水槽 <u>ホ(4)(vi)b.(a)-①</u> (ス、(3)、(x) 低圧原子炉代替注水槽と兼用)...</p> <p>サブプレッション・チェンバ <u>ホ(4)(vi)b.(a)-②</u> (リ、(1) 原子炉格納施設の構造及び設備と兼用)...</p>	<p>第 5.7-1 表 重大事故等の収束に必要なとなる水の供給設備の主要機器仕様</p> <p>(1) <u>低圧原子炉代替注水槽</u> 基数 1 容量 約 1,230 m³ 主要部材質 鉄筋コンクリート</p> <p>(2) <u>サブプレッション・チェンバ</u> 第 9.1-1 表 一次格納施設主要仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設】 (要目表)</p> <p>6. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項</p> <p>6.8 水の供給設備</p> <p>(3) 貯蔵槽の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所</p> <p style="text-align: center;"><u>ホ(4)(vi)b.(a)-①</u></p> <p>以下の設備は, <u>非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備の低圧原子炉代替注水系であり, 水の供給設備として本工事計画で兼用する。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>低圧原子炉代替注水槽</u></p> <p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 (基本設計方針)</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p> <p>5.9 水の供給設備</p> <p>5.9.1 重大事故等の収束に必要なとなる水源</p> <p>(2) サプレッションチェンバからの水の供給</p> <p><u>サブプレッションチェンバ</u> (容量 2800m³, 個数 1) は, 想定される重大事故等時において, 原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器へのスプレイに使用する設計基準事故対処設備が機能喪失した場合の代替手段である高圧原子炉代替注水系及び残留熱代替除去系並びに重大事故等対処設備 (設計基準拡張) である原子炉隔離時冷却系, 高圧炉心スプレイ系, 低圧炉心スプレイ系, 残留熱除去系 (低圧注水モード), 残留熱除去系 (格納容器冷却モード) 及び残留熱除去系 (サブプレッションプール水冷却モード) の水源として使用できる設計とする。</p>	<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の <u>ホ(4)(vi)b.(a)-①</u> は, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) の <u>ホ(4)(vi)b.(a)-①</u> と同義であり, 整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																									
		<p>13. 主要対象設備</p> <p style="text-align: center;">表2 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の兼用設備リスト（12/12）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">設備区分</th> <th rowspan="3">系統名</th> <th rowspan="3">機器区分</th> <th rowspan="3">主たる機能の施設/設備区分</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">設計基準対象施設*</th> <th colspan="2">重大事故等対処設備*</th> <th colspan="2">設計基準対象施設*</th> <th colspan="2">重大事故等対処設備*</th> </tr> <tr> <th>耐震重要度分類</th> <th>機器クラス</th> <th>設備分類</th> <th>重大事故等機器クラス</th> <th>耐震重要度分類</th> <th>機器クラス</th> <th>設備分類</th> <th>重大事故等機器クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</td> <td rowspan="12">ほう酸水注入系</td> <td rowspan="12">-</td> <td rowspan="6">原子炉本体 炉心支持構造物</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>炉心シュラウド</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>シュラウドサポート</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>上部格子板</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>炉心支持板</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>中央燃料支持金具</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>周辺燃料支持金具</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">原子炉本体 原子炉圧力容器</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>制御棒案内管</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>原子炉圧力容器</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td>SA 775.2</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>差圧検出・ほう酸水注入系配管（テューよりN11ノズルまでの外管）</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td>SA 775.2</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>差圧検出・ほう酸水注入系配管（原子炉圧力容器内部）</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>原子炉格納容器配管貫通部（貫通部番号 X-22）</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設/緩和</td> <td>SA 775.2</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">-</td> <td>原子炉格納施設 原子炉格納容器</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設耐震/防止 常設/緩和</td> <td>SA 775.2</td> </tr> <tr> <td>給水の備</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>原子炉格納施設 原子炉格納容器</td> <td>ホ(4)(vi)b.(a)-②</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>原子炉格納容器(サブレーションチェンバ)</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> <td>常設耐震/防止 常設/緩和</td> <td>SA 775.2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注記*：表2に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「8. 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。</p>	設備区分	系統名	機器区分	主たる機能の施設/設備区分	変更前				変更後				設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*		設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	ほう酸水注入系	-	原子炉本体 炉心支持構造物	-				炉心シュラウド	-		常設/緩和	-	-				シュラウドサポート	-		常設/緩和	-	-				上部格子板	-		常設/緩和	-	-				炉心支持板	-		常設/緩和	-	-				中央燃料支持金具	-		常設/緩和	-	-				周辺燃料支持金具	-		常設/緩和	-	原子炉本体 原子炉圧力容器	-				制御棒案内管	-		常設/緩和	-	-				原子炉圧力容器	-		常設/緩和	SA 775.2	-				差圧検出・ほう酸水注入系配管（テューよりN11ノズルまでの外管）	-		常設/緩和	SA 775.2	-				差圧検出・ほう酸水注入系配管（原子炉圧力容器内部）	-		常設/緩和	-	-				原子炉格納容器配管貫通部（貫通部番号 X-22）	-		常設/緩和	SA 775.2	-				原子炉格納施設 原子炉格納容器	-		常設耐震/防止 常設/緩和	SA 775.2	給水の備	-	-	原子炉格納施設 原子炉格納容器	ホ(4)(vi)b.(a)-②	-		原子炉格納容器(サブレーションチェンバ)	-		常設耐震/防止 常設/緩和	SA 775.2		
設備区分	系統名	機器区分					主たる機能の施設/設備区分	変更前				変更後																																																																																																																																																	
								設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*		設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*																																																																																																																																															
			耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス																																																																																																																																																		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	ほう酸水注入系	-	原子炉本体 炉心支持構造物	-				炉心シュラウド	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				シュラウドサポート	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				上部格子板	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				炉心支持板	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				中央燃料支持金具	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				周辺燃料支持金具	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
			原子炉本体 原子炉圧力容器	-				制御棒案内管	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				原子炉圧力容器	-		常設/緩和	SA 775.2																																																																																																																																																	
				-				差圧検出・ほう酸水注入系配管（テューよりN11ノズルまでの外管）	-		常設/緩和	SA 775.2																																																																																																																																																	
				-				差圧検出・ほう酸水注入系配管（原子炉圧力容器内部）	-		常設/緩和	-																																																																																																																																																	
				-				原子炉格納容器配管貫通部（貫通部番号 X-22）	-		常設/緩和	SA 775.2																																																																																																																																																	
				-				原子炉格納施設 原子炉格納容器	-		常設耐震/防止 常設/緩和	SA 775.2																																																																																																																																																	
給水の備	-	-	原子炉格納施設 原子炉格納容器	ホ(4)(vi)b.(a)-②	-		原子炉格納容器(サブレーションチェンバ)	-		常設耐震/防止 常設/緩和	SA 775.2																																																																																																																																																		
		<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のホ(4)(vi)b.(a)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のホ(4)(vi)b.(a)-②と同義であり、整合している。</p>																																																																																																																																																											

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ほう酸水貯蔵タンク <u>ホ(4)(vi)b.(a)-③</u>（へ、(4) 非常用制御設備と兼用）...</p>	<p>(3) <u>ほう酸水貯蔵タンク</u> 第 6.1.2-3 表 ほう酸水注入系主要仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉冷却系統施設】 （要目表） 6. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項 6.8 水の供給設備 (2) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） <u>ホ(4)(vi)b.(a)-③</u> 以下の設備は，計測制御系統施設のうちほう酸水注入設備のほう酸水注入系であり，水の供給設備として本工事計画で兼用する。 常設 <u>ほう酸水貯蔵タンク</u></p>		
<p>整合性 ・設計及び工事の計画の <u>ホ(4)(vi)b.(a)-③</u> は，設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>ホ(4)(vi)b.(a)-③</u> と同義であり，整合している。</p>				
<p><u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</u></p>	<p>(4) <u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</u> 台数 1</p>	<p>【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 5. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 5.9 水の供給設備 5.9.1 重大事故等の収束に必要な水源 (6) <u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</u> <u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</u> は，想定される重大事故等が発生した場合において，中央制御室及び緊急時対策所から輪谷貯水槽（西 1）及び輪谷貯水槽（西 2）周辺の監視が可能な設計とする。 <u>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</u> は，非常用ディーゼル発電設備，常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[可搬型重大事故等対処設備] 大量送水車 ホ(4)(vi)b.(a)-④(ニ)(3)(ii)燃料プールの冷却等 ための設備と兼用)</p>	<p>(5) 大量送水車 a. 送水用 第4.3-1表 燃料プールの冷却等のための設備主要機器仕様 に記載する。 b. 海水取水用 型式 ディフューザ形 台数 2（予備1） 容量 168m³/h/台以上（吐出圧力0.85MPa[gage]において） 120m³/h/台以上（吐出圧力1.4MPa[gage]において） 吐出圧力 0.85MPa[gage]～1.4MPa[gage]以上</p>	<p>【原子炉冷却系統施設】 （要目表） 6. 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の 事項 6.8 水の供給設備 6.8 水の供給設備 (1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸 法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可 搬型の別に記載すること。） 以下の設備は、<u>ホ(4)(vi)b.(a)-④</u> <u>核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設 備の燃料プールのスプレイ系であり、水の供給設備として本工事計画で兼用する。</u> 可搬型 <u>大量送水車</u></p>		
<p>整合性 ・設計及び工事の計画の<u>ホ(4)(vi)b.(a)-④</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ホ(4)(vi)b.(a)-④</u>と同義で あり、整合している。</p>				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>へ 計測制御系統施設の構造及び設備</p> <p>(1) 計装</p> <p>(i) 核計装の種類</p> <p>へ(1)(i)-①中性子束は、核計装（原子炉中性子計装）により、以下のように3つの領域に分けて、発電用原子炉内で測定する。</p>	<p>6. 計測制御系統施設</p> <p>6.2 原子炉中性子計装系</p> <p>6.2.6 評価</p> <p>(1) 原子炉中性子計装系は、原子炉停止状態から定格出力の125%までの原子炉出力を監視するため、中性子源領域、中間領域、出力領域の3つの計測領域を設け、更に、各領域の測定範囲に相互にオーバーラップさせて、1つの領域から他の領域に移る際にも測定が不連続とならない設計としている。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.1 計測装置</p> <p>2.1.1 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及び重大事故等時における計測</p> <p><中略></p> <p>へ(1)(i)-①炉心における中性子束密度を測定するため、原子炉内に設置した検出器で中性子源領域、中間領域、出力領域の3つの領域に分けて中性子束を測定できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））へ項において、設計及び工事の計画の内容は、以下のとおり整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(i)-①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>出力領域：<u>へ(1)(i)-④</u>小形核分裂電離箱方式 124チャンネル</p> <p>(ii) その他の主要な計装の種類</p> <p><u>へ(1)(ii)-①</u>発電用原子炉施設の監視及び制御のため、<u>へ(1)(ii)-②</u>原子炉水位、<u>へ(1)(ii)-③</u>原子炉圧力、<u>へ(1)(ii)-④</u>原子炉再循環流量、給水流量、主蒸気流量、<u>へ(1)(ii)-⑤</u>制御棒駆動水圧力、<u>へ(1)(ii)-⑥</u>等の計測制御装置を設ける。</p>	<p>適当数に分け、出力レベルを指示及び記録する。中間領域計装は、各レンジごとに、指示計が“指示低”又は“指示高”若しくは“不作動”になれば、警報を出すようにする。各レンジの“指示高”により発電用原子炉をスクラムさせ、過度に速い出力増加率に対する保護機能を与える。このため中間領域計装は、チャンネルの許されるバイパス条件下においても、各レンジの指示がフルスケールの95%以上でスクラム信号を与えるようにする。</p> <p>また、“指示高”又は“指示低”（最低レンジは除く。）若しくは“不作動”の信号により、制御棒引抜が阻止される。</p> <p>発電用原子炉の起動中、核分裂電離箱は、中性子源領域検出器と同様に、中間領域計装用ハウジングを通して、炉心内に挿入する。また、出力運転中は、炉心支持板の下側の、中性子束が5×10^8nv以下の位置に引抜いておく。第6.2-4図に中間領域計装の概要を示す。</p> <p>(3) 出力領域計装（PRM）</p> <p>出力領域計装としては、炉心内に設けた124（31×4）個の検出器を用いる局部出力領域計装及び平均出力領域計装があり、更にこれらの較正と炉心軸方向の中性子束分布の測定のために移動形出力領域計装を設ける。</p> <p><中略></p> <p>6.3 原子炉プラント・プロセス計装系</p> <p>6.3.1 概要</p> <p>発電用原子炉の適切かつ安全な運転のため、原子炉中性子計装系のほかに、発電用原子炉施設の重要な部分にはすべてプロセス計装を設ける。原子炉プラント・プロセス計装系は、温度、圧力、流量及び水位等を測定及び指示するものであるが、一部を除き必要な指示及び記録計器はすべて中央制御室に設置する。</p> <p>原子炉プラント・プロセス計装系は、圧力容器計装、再循環系計装、給水系及び主蒸気系計装、制御棒駆動系計装等の計装で構成する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.3 計測結果の表示、記録及び保存</p> <p><u>へ(1)(ii)-①a</u>発電用原子炉の停止、炉心の冷却及び放射性物質の閉じ込めの機能の状況を監視するために必要なパラメータは、設計基準事故時においても確実に記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p>設計基準対象施設として、炉心における中性子束密度を測定するための計測装置、<u>へ(1)(ii)-①b</u>原子炉冷却材の不純物の濃度を測定するための<u>へ(1)(ii)-⑥a</u>原子炉水導電率を計測する装置、<u>へ(1)(ii)-①c</u>原子炉圧力容器の入口及び出口における圧力、温度及び流量を計測するための</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>へ(1)(ii)-①a</u>～<u>へ(1)(ii)-①e</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(1)(ii)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>発電用原子炉の停止、炉心冷却及び放射性物質の閉じ込めの機能の状況を監視するために必要なパラメータは、設計基準事故時においても監視でき、確実に記録及び保存ができる。</p>	<p>へ(1)(ii)-⑥b 主蒸気圧力、給水圧力、主蒸気温度、給水温度、主蒸気流量及び給水流量を計測する装置、へ(1)(ii)-①d 原子炉圧力容器内の水位を計測するためのへ(1)(ii)-② 原子炉水位（広帯域、燃料域、狭帯域及び停止域）を計測する装置並びにへ(1)(ii)-①e 原子炉格納容器内の圧力、温度及び可燃性ガスの濃度を計測するためのへ(1)(ii)-⑥c ドライウエル圧力、サプレッションチェンバ圧力、ドライウエル温度、サプレッションチェンバ温度、格納容器水素濃度及び格納容器酸素濃度を計測する装置を設け、これらの計測装置は計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存することができる設計とする。</p> <p>へ(1)(ii)-⑥d 制御棒の位置を計測する装置を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、記録はプロセス計算機から帳票として出力し保存できる設計とする。</p> <p>へ(1)(ii)-⑥e 原子炉冷却材の不純物の濃度は、試料採取設備により断続的に試料を採取し分析を行い、測定結果を記録し、及び保存する。</p> <p><中略></p>	<p>へ(1)(ii)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-②を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-③を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-④を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-⑤は、本工事計画の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-⑥a ～へ(1)(ii)-⑥eは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-⑥を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																	
		<p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>5. 計測装置に係る次の事項 (警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。)</p> <p>(3) 原子炉压力容器本体内の圧力又は水位を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">原子炉圧力 弾性圧力 検出器</td> <td rowspan="4">*1</td> <td>*2, *3 0~10MPa</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td rowspan="4">変更なし</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>*2, *3 0~8.5MPa**</td> <td>—</td> <td>4*7</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td>溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上</td> </tr> <tr> <td>*2, *3 0~8.5MPa</td> <td>—</td> <td>1*7, **</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>*2, ** 6~7.5MPa</td> <td>—</td> <td>1**</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td>溢水防護上の 区画番号 — 溢水防護上の 配慮が必要な高さ —</td> </tr> </tbody> </table> <p>〜(1) (ii) -③</p>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	原子炉圧力 弾性圧力 検出器	*1	*2, *3 0~10MPa	—	2	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし					変更なし	*2, *3 0~8.5MPa**	—	4*7	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上	*2, *3 0~8.5MPa	—	1*7, **	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし	*2, ** 6~7.5MPa	—	1**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	溢水防護上の 区画番号 — 溢水防護上の 配慮が必要な高さ —		
変更前					変更後																																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所																																										
原子炉圧力 弾性圧力 検出器	*1	*2, *3 0~10MPa	—	2	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし					変更なし																																										
		*2, *3 0~8.5MPa**	—	4*7	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm						溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上																																										
		*2, *3 0~8.5MPa	—	1*7, **	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm						変更なし																																										
		*2, ** 6~7.5MPa	—	1**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm						溢水防護上の 区画番号 — 溢水防護上の 配慮が必要な高さ —																																										
		<p>(7) 原子炉冷却材再循環流量 (改良型沸騰水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、炉心流量) を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉再循 環ポンプ 入口流量 検出器</td> <td rowspan="2">*1</td> <td rowspan="2">0~10000m³/h</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">2</td> <td>系統名 (ライン名) A-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (A-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td>溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名) B-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (B-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>〜(1) (ii) -④</p>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	原子炉再循 環ポンプ 入口流量 検出器	*1	0~10000m ³ /h	—	2	系統名 (ライン名) A-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (A-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし					溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上	系統名 (ライン名) B-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (B-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし															
変更前					変更後																																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	個数	取付箇所																																										
原子炉再循 環ポンプ 入口流量 検出器	*1	0~10000m ³ /h	—	2	系統名 (ライン名) A-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (A-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm	変更なし					溢水防護上の 区画番号 R-1F-03N, R-1F-22N 溢水防護上の 配慮が必要な高さ EL. 15846mm 以上																																										
					系統名 (ライン名) B-原子炉再循環ポンプ 入口流量 (B-原子炉再循環系) 設置床 原子炉建物 EL. 15300mm						変更なし																																										

注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「差圧検出器」と記載
*2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>重大事故等が発生し、計測機器（非常用のものを含む。）の故障により、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために必要なパラメータを計測する設備を設置又は保管する。</p> <p>へ(1)(ii)-⑦ 当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータ（炉心損傷防止対策、格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータ）は、へ(1)(ii)-⑧a 上...ハ...①...第10-1表...重大事故等対策における手順書の概要のうち、1.15 事故時の計装に関する手順等のパラメータの選定で分類された主要パラメータ（重要監視パラメータへ(1)(ii)-⑨a 及び有効監視パラメータ）とす</p>	<p>6.4 計装設備（重大事故等対処設備）</p> <p>6.4.1 概要</p> <p>重大事故等が発生し、計測機器（非常用のものを含む。）の故障により、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために必要なパラメータを計測する設備を設置又は保管する。</p> <p>当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータ（炉心損傷防止対策、格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータ）は、添付書類十-Ⅱの「第1.1-1.表...重大事故等対策における手順書の概要」のうち、「1.15 事故時の計装に関する手順等」のパラメータの選定で分類された主要パラメータ（重要監視パラメータ及び有効監視パラメータ）とする。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.1 計測装置</p> <p>2.1.1 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及び重大事故等時における計測</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量、原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、水素濃度及び酸素濃度、原子炉建物内の水素濃度、未臨界の維持又は監視、最終ヒートシンクの確保の監視、格納容器バイパスの監視並びに水源の確保の監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。</p> <p>なお、電源設備の受電状態、重大事故等対処設備の運転状態及びその他の設備の運転状態により発電用原子炉施設の状態を補助的に監視するパラメータを補助パラメータとし、重大事故等対処設備を活用する手順等の着手の判断基準として用いる補助パラメータの運用については、保安規定に定めて管理する。</p> <p>重大事故等が発生し、計測機器（非常用のものを含む。）の故障により、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために必要なパラメータを計測する設備を設置又は保管する設計とする。</p> <p>へ(1)(ii)-⑦a 重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータは、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータとし、へ(1)(ii)-⑧a 計測する装置は「表1 計測制御系統施設の主要設備リスト」の「計測装置」に示す重大事故等対処設備の他、原子炉圧力容器温度（SA）（個数2、計測範囲0～500℃）、スクラバ容器水位（個数8、計測範囲 [] mm）、スクラ</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-⑦a ～ へ(1)(ii)-⑦cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-⑦と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-⑧a ～ へ(1)(ii)-⑧cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-⑧a</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>る。</p> <p>当該パラメータを推定するために必要なパラメータは、<u>へ(1)(ii)-⑧b</u>十、ハ、(1) 第10-1表 重大事故等対策における手順書の概要のうち、1.15 事故時の計装に関する手順等のパラメータの選定で分類された代替パラメータ（重要代替監視パラメータ<u>へ(1)(ii)-⑨b</u>及び有効監視パラメータ）とする。</p>	<p>当該パラメータを推定するために必要なパラメータは、添付書類十-Ⅱの「第1.1-1表 重大事故等対策における手順書の概要」のうち、「1.15 事故時の計装に関する手順等」のパラメータの選定で分類された代替パラメータ（重要代替監視パラメータ及び有効監視パラメータ）とする。</p>	<p>バ容器圧力（個数4、計測範囲0～1MPa）、スクラバ容器温度（個数4、計測範囲0～300℃）、第1ベントフィルタ出口水素濃度（個数1(予備1)、計測範囲0～20vol%/0～100vol%）、残留熱除去系熱交換器冷却水流量（個数2、計測範囲0～1500m³/h）、低圧原子炉代替注水ポンプ出口圧力（個数2、計測範囲0～4MPa）、原子炉隔離時冷却ポンプ出口圧力（個数1、計測範囲0～10MPa）、高圧炉心スプレイポンプ出口圧力（個数1、計測範囲0～12MPa）、残留熱代替除去ポンプ出口圧力（個数2、計測範囲0～3MPa）、静的触媒式水素処理装置入口温度（個数2、計測範囲0～100℃）、静的触媒式水素処理装置出口温度（個数2、計測範囲0～400℃）とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、燃料プールの監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。</p> <p>重大事故等が発生し、計測機器（非常用のものを含む。）の故障により、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために必要なパラメータを計測する設備を設置又は保管する設計とする。</p> <p><u>へ(1)(ii)-⑦b</u> 重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータは、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータとし、<u>へ(1)(ii)-⑧b</u> 計測する装置は「表1 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の主要設備リスト」の「使用済燃料貯蔵設備、使用済燃料貯蔵槽の温度、水位及び漏えいを監視する装置」に示す重大事故等対処設備の他、燃料プール監視カメラ（S.A）（個数1）とする。</p> <p><中略></p>	<p>及び<u>へ(1)(ii)-⑧b</u>の「重要監視パラメータ」及び「重要代替監視パラメータ」を計測する装置であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた<u>へ(1)(ii)-⑨a</u>及び<u>へ(1)(ii)-⑨b</u>は、自主対策設備の計器のみで計測されるものであり、本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>へ(1)(ii)-⑩重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを計測する設備（重大事故等対処設備）について、設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（最高計測可能温度等（設計基準最大値等））を明確にする。</p>	<p>重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを計測する設備（重大事故等対処設備）について、設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（最高計測可能温度等（設計基準最大値等））を明確にする。計測範囲を第 6.4-1 表に、設計基準最大</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 <中略> 重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、原子炉格納容器内の線量当量率、最終ヒートシンクの確保の監視及び燃料プールの監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。 重大事故等が発生し、計測機器（非常用のものを含む。）の故障により、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータを計測することが困難となった場合において、当該パラメータを推定するために必要なパラメータを計測する設備を設置又は保管する設計とする。 へ(1)(ii)-⑦c 重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータは、炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータとし、へ(1)(ii)-⑧c 計測する装置は「表 1 放射線管理施設の主要設備リスト」のプロセスモニタリング設備に示す重大事故等対処設備、エリアモニタリング設備のうち燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）、燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ）（SA）とする。 <中略> 【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 2. 計測装置等 2.3 計測結果の表示、記録及び保存 <中略> へ(1)(ii)-⑩a 炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)-⑩a ～へ(1)(ii)-⑩cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)-⑩と</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>値等を第 6.4-2 表に示す。計装設備（重大事故等対処設備）の系統概要図を第 6.4-1 図から第 6.4-4 図に示す。</p>	<p>また、重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量等のパラメータの計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に<u>設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（最高計測可能温度等（設計基準最大値等））</u>を明確にするとともに、パラメータの計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合の代替パラメータによる推定等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位を保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 3. 計測装置等 <中略></p> <p><u>へ(1)(ii)-⑩b)炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。</u>また、重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な燃料プールの監視のパラメータの計測が困難となった場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に<u>設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（計測可能範囲）</u>を明確にするとともに、パラメータの計測が困難となった場合の代替パラメータによる推定等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位を保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目</p>	<p>同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. 監視機能喪失時に使用する設備</p> <p>〔(1)(ii)a.-①a〕発電用原子炉施設の状態の把握能力を超えた場合に発電用原子炉施設の状態を推定する手段を有する設計とする。</p> <p>重要監視パラメータ又は〔(1)(ii)a.-②〕有効監視パラメータ（原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量〔(1)(ii)a.-①b〕等）の計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合は、十、ハ、(1) 第 10-1 表 重大事故等対策における手順書の概要のうち、1.15 事故時の計装に関する手順等の計器故障時の代替パラメータによる推定又は計器の計測範囲を超えた場合の代替パラメータによる推定の対応手段等により推定ができる設計とする。</p>	<p>6.4.2 設計方針</p> <p>(1) 監視機能喪失時に使用する設備</p> <p>発電用原子炉施設の状態の把握能力を超えた場合に発電用原子炉施設の状態を推定する手段を有する設計とする。</p> <p>重要監視パラメータ又は有効監視パラメータ（原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量等）の計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合は、添付書類十-Ⅱの「第 1.1-1 表 重大事故等対策における手順書の概要」のうち、「1.15 事故時の計装に関する手順等」の計器故障時の代替パラメータによる推定又は計器の計測範囲を超えた場合の代替パラメータによる推定の対応手段等により推定ができる設計とする。</p>	<p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>〔(1)(ii)-⑩c〕炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。また、重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な原子炉格納容器の線量当量率等のパラメータの計測が困難となった場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（計測可能範囲）を明確にするとともに、パラメータの計測が困難となった場合の代替パラメータによる推定等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位を保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.3 計測結果の表示、記録及び保存</p> <p><中略></p> <p>炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。また、〔(1)(ii)a.-①a〕重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な原子炉圧力容器内の温度、圧力及び水位並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量等のパラメータの計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に設計基準を超える状態における発</p>	<p>設計及び工事の計画の〔(1)(ii)a.-①a〕～〔(1)(ii)a.-①c〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(1)(ii)a.-①a〕及び〔(1)(ii)a.-①b〕を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた〔(1)(ii)〕</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>へ(1)(ii)a.-③計器故障時に、当該パラメータの他チャンネルの計器がある場合、他チャンネルの計器により計測するとともに、重要代替監視パラメータが複数ある場合は、推定する重要監視パラメータとの関係性がより直接的なパラメータ、検出器の種類及び使用環境条件を踏まえた確からしさを考慮し、優先順位をへ(1)(ii)a.-④定める。</p>	<p>計器故障時に、当該パラメータの他チャンネルの計器がある場合、他チャンネルの計器により計測するとともに、重要代替監視パラメータが複数ある場合は、推定する重要監視パラメータとの関係性がより直接的なパラメータ、検出器の種類及び使用環境条件を踏まえた確からしさを考慮し、優先順位を定める。推定手段及び優先順位を第 6.4-3 表に示す。</p>	<p>電用原子炉施設の状態を把握するための能力（最高計測可能温度等（設計基準最大値等））を明確にするとともに、へ(1)(ii)a.-③a パラメータの計測が困難となった場合又は計測範囲を超えた場合の代替パラメータによる推定等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位をへ(1)(ii)a.-④a 保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 3. 計測装置等 <中略> 炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。また、へ(1)(ii)a.-①b 重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な燃料プールの監視のパラメータの計測が困難となった場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（計測可能範囲）を明確にするとともに、へ(1)(ii)a.-③b パラメータの計測が困難となった場合の代替パラメータによる推定</p>	<p>a.-②は、自主対策設備の計器のみで計測されるものであり、本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)a.-③a ～へ(1)(ii)a.-③c は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)a.-③と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(1)(ii)a.-④a ～へ(1)(ii)a.-④c は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(1)(ii)a.-④を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 計器電源喪失時に使用する設備</p> <p><u>非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備の喪失等により計器電源が喪失した場合において、計測設備への代替電源設備として常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備を使用する。</u></p>	<p>(2) 計器電源喪失時に使用する設備</p> <p><u>非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備の喪失等により計器電源が喪失した場合において、計測設備への代替電源設備として常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備を使用する。</u></p> <p><中略></p>	<p>等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位をへ(1)(ii)a.-④b)保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置は、設計基準事故等に想定される変動範囲の最大値を考慮し、適切に対応するための計測範囲を有する設計とする。また、へ(1)(ii)a.-①c)重大事故等が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要な原子炉格納容器の線量当量率等のパラメータの計測が困難となった場合に、代替パラメータにより推定ができる設計とする。</p> <p>また、重大事故等時に設計基準を超える状態における発電用原子炉施設の状態を把握するための能力（計測可能範囲）を明確にするとともに、へ(1)(ii)a.-③c)パラメータの計測が困難となった場合の代替パラメータによる推定等、複数のパラメータの中から確からしさを考慮した優先順位をへ(1)(ii)a.-④c)保安規定に定めて管理する。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.4 電源喪失時の計測</p> <p>炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置の電源は、非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備の喪失等により計器電源が喪失した場合において、代替電源設備として常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備については、ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p>	<p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備、可搬型直流電源設備及び代替所内電気設備については、「10.2 代替電源設備」に記載する。</p>	<p>備を使用できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p>炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置の電源は、<u>非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備の喪失等により計器電源が喪失した場合において、代替電源設備として常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備を使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置の電源は、<u>非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備の喪失等により計器電源が喪失した場合において、代替電源設備として常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備又は可搬型直流電源設備を使用できる設計とする。</u></p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、代替電源設備が喪失し計測に必要な計器電源が喪失した場合、特に重要なパラメータとして、<u>へ(1)(ii)b.-②重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを計測する設備については、温度、圧力、水位及び流量に係るものについて、乾電池を電源とした可搬型計測器により計測できる設計とする。</u></p> <p>なお、可搬型計測器による計測においては、計測対象の選定を行う際の考え方として、同一パラメータにチャンネルが複数ある場合は、いずれか1つの適切なチャンネルを選定し計測又は監視するものとする。同一の物理量について、複数のパラメータがある場合は、いずれか1つの適切なパラメータを選定し計測又は監視するものとする。</p>	<p>また、代替電源設備が喪失し計測に必要な計器電源が喪失した場合、特に重要なパラメータとして、<u>重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを計測する設備については、温度、圧力、水位及び流量に係るものについて、乾電池を電源とした可搬型計測器により計測できる設計とする。</u></p> <p>なお、可搬型計測器による計測においては、計測対象の選定を行う際の考え方として、同一パラメータにチャンネルが複数ある場合は、いずれか1つの適切なチャンネルを選定し計測又は監視するものとする。同一の物理量について、複数のパラメータがある場合は、いずれか1つの適切なパラメータを選定し計測又は監視するものとする。</p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 計測装置等 2.4 電源喪失時の計測 <中略></p> <p>また、代替電源設備が喪失し計測に必要な計器電源が喪失した場合、<u>へ(1)(ii)b.-②a</u> 炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置のうち特に重要なパラメータとして、<u>温度、圧力、水位及び流量に係るものについて、乾電池を電源とした可搬型計測器（原子炉圧力容器及び原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、流量（注水量）等の計測用として測定時の故障を想定した予備1個含む1セット30個（予備30個）（核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の設備で兼用（以下同じ。））により計測できる設計とし、これらを保管する設計とする。</u></p> <p>なお、可搬型計測器による計測においては、計測対象の選定を行う際の考え方として、同一パラメータにチャンネルが複数ある場合は、いずれか1つの適切なチャンネルを選定し計測又は監視するものとする。</p> <p>同一の物理量について、複数のパラメータがある場合は、いずれか1つの適切なパラメータを選定し計測又は監視するものとする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 計測装置等 <中略></p> <p>また、代替電源設備が喪失し計測に必要な計器電源が喪失した場合、<u>へ(1)(ii)b.-②b</u> 炉心損傷防止対策及び格納容器破損防止対策等を成功させるために必要な発電用原子炉施設の状態を把握するためのパラメータを計測する装置のうち特に重要なパラメータとして、<u>温度及び水位に係るものについて、乾電池を電源とした可搬型計測器（原</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>へ(1)(ii)b.-②a</u>及び<u>へ(1)(ii)b.-②b</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(1)(ii)b.-②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>c. パラメータ記録時に使用する設備</p> <p>原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、水素濃度、<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-①放射線量率等想定される重大事故等の対応に必要となる<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータが計測又は監視及び記録できる設計とする。</p>	<p>(3) パラメータ記録時に使用する設備</p> <p>原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、水素濃度、放射線量率等想定される重大事故等の対応に必要となる重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータが計測又は監視及び記録できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>子炉圧力容器及び原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、流量（注水量）等の計測用として測定時の故障を想定した予備1個含む1セット30個（予備30個）（計測制御系統施設の設備を核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設の設備で兼用（以下同じ。））により計測できる設計とし、これらを保管する設計とする。</p> <p>なお、可搬型計測器による計測においては、計測対象の選定を行う際の考え方として、同一の物理量について、複数のパラメータがある場合は、いずれか1つの適切なパラメータを選定し計測又は監視するものとする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.3 計測結果の表示、記録及び保存</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器内の温度、圧力、水位、水素濃度等想定される重大事故等の対応に必要となる<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②aパラメータは、計測又は監視できる設計とする。また、計測結果は中央制御室に指示又は表示し、記録できる設計とする。</p> <p>重大事故等の対応に必要となるパラメータは、安全パラメータ表示システム（SPDS）のうちSPDS伝送サーバにて電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われないようにするとともに帳票が出力できる設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p><input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-①a燃料プールの監視で想定される重大事故等の対応に必要となる<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②bパラメータは、計測又は監視できる設計とする。また、計測結果は中央制</p>	<p>設計及び工事の計画の<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-①a及び<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②a～<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②cは、設置変更許可申請書（本文（五号））の<input type="checkbox"/> (1)(ii)c.-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(2) 安全保護回路</p> <p>〔(2)-①安全保護回路（安全保護系）は、「原子炉停止回路（原子炉保護系）」及び「その他の主要な安全保護回路（工学的安全施設作動回路）」で構成する。〕</p>	<p>6.6 安全保護系 6.6.1 概要</p> <p>安全保護系は、発電用原子炉の安全性を損なうおそれのある異常な過渡状態や誤動作が生じた場合、あるいは、このような事態の発生が予想される場合に、それを防止あるいは抑制するために自動的に安全保護動作を起こす等により発電用原子炉を保護するために設ける。この系は、原</p>	<p>御室に指示又は表示し、記録できる設計とする。</p> <p>重大事故等の対応に必要なパラメータは、安全パラメータ表示システム（SPDS）のうちSPDS伝送サーバにて電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われないようにするとともに帳票が出力できる設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>原子炉格納容器内の〔(1)(ii)c.-①〕線量当量率等想定される重大事故等の対応に必要な〔(1)(ii)c.-②〕パラメータは、計測又は監視できる設計とする。また、計測結果は中央制御室に指示又は表示し、記録できる設計とする。</p> <p>重大事故等の対応に必要なパラメータは、安全パラメータ表示システム（SPDS）のうちSPDS伝送サーバにて電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われないようにするとともに帳票が出力できる設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 安全保護装置等</p> <p>3.1 安全保護装置</p> <p>3.1.1 安全保護装置の機能及び構成</p> <p>〔(2)-①安全保護装置は、運転時の異常な過渡変化が発生する場合又は地震の発生により発電用原子炉の運転に支障が生ずる場合において、その異常な状態を検知し、及び原子炉停止（スクラム）系その他系統と併せて機能することにより、燃料要素の許容損傷限界を超えないようにで</p>	<p>設計及び工事の計画の〔(2)-①〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(2)-①〕と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>〔(2)-②〕安全保護回路は、不正アクセス行為その他の電子計算機に使用目的に沿うべき動作をさせず、又は使用目的に反する動作をさせる行為による被害を防止する設計とする。</p> <p>(i) 原子炉停止回路の種類</p>	<p>子炉停止（スクラム）系を作動させるための原子炉保護系及び非常用炉心冷却系等の工学的安全施設を作動させるための工学的安全施設作動回路からなる。</p> <p>6.6.2 設計方針 ＜中略＞</p> <p>(9) 安全保護系は、不正アクセス行為その他の電子計算機に使用目的に沿うべき動作をさせず、又は使用目的に反する動作をさせる行為による被害を防止することができる設計とする。</p> <p>6.6.6 手順等 安全保護系に関して、以下の内容を含む手順を定め、適切な管理を行う。</p> <p>(1) 安全保護系の制御盤については、施錠管理方法を定め、運用する。</p> <p>(3) 安全保護系の保守ツールの使用については、保守ツールを施錠管理された場所に保管するとともに、保守ツールのパスワード管理により不要なソフトウェアへのアクセスを制限することを定め、運用する。また、安全保護系のソフトウェアの使用について検証及び妥当性を確認することを定め、運用する。</p> <p>6.6.4 主要設備 6.6.4.1 原子炉保護系</p>	<p>きるものするとともに、設計基準事故が発生する場合において、その異常な状態を検知し、原子炉停止（スクラム）系及び工学的安全施設を自動的に作動させる設計とする。</p> <p>運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故時に対処し得る複数の原子炉非常停止信号及び工学的安全施設作動信号を設ける設計とする。</p> <p>＜中略＞</p> <p>3.1.2 安全保護装置の不正アクセス行為等の被害の防止</p> <p>〔(2)-②〕安全保護装置のうち、アナログ回路で構成する機器は、外部ネットワークとの物理的分離及び機能的分離、外部ネットワークからの遠隔操作防止並びに物理的及び電気的アクセスの制限を設け、システムの据付、更新、試験、保守等で、承認されていない者の操作を防止する措置を講じることで、不正アクセス行為その他の電子計算機に使用目的に沿うべき動作をさせず、又は使用目的に反する動作をさせる行為による被害を防止できる設計とする。</p> <p>安全保護装置のうち、一部デジタル演算処理を行う機器は、外部ネットワークと物理的分離及び機能的分離、外部ネットワークからの遠隔操作防止及びウイルス等の侵入防止並びに物理的及び電気的アクセスの制限を設け、システムの据付、更新、試験、保守等で、承認されていない者の操作及びウイルス等の侵入を防止する措置を講じることで、不正アクセス行為その他の電子計算機に使用目的に沿うべき動作をさせず、又は使用目的に反する動作をさせる行為による被害を防止できる設計とする。</p> <p>安全保護装置が収納された盤の施錠によりハードウェアを直接接続させない措置を実施すること、安全保護装置の保守ツールを施錠管理された場所に保管することや保守ツールのパスワード管理により不要なソフトウェアへのアクセスを制限することを保安規定に定め、不正アクセスを防止する。</p> <p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>1. 制御方式及び制御方法 (2) 発電用原子炉の制御方法 制御棒の位置の制御方法、原子炉再循環流量の制御方法、ほう酸水注入設備の制御方法、発電用原子炉の圧力の</p>	<p>設計及び工事の計画の〔(2)-②〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(2)-②〕と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>へ(2)(i)-①原子炉停止回路（原子炉保護系）は、次に示す条件により発電用原子炉をスクラムさせるため、二重（2チャンネル）の「1 out of 2」方式の回路を設け、2チャンネルの同時作動によって発電用原子炉をスクラムさせる。</p>	<p>原子炉保護系は、二重チャンネル、継電器方式の構成で、論理回路及びパイロット弁のソレノイドを制御する主トリップ継電器には、特に高信頼度の継電器を用いる。</p> <p><中略></p> <p>第 6.6-1 図に示すように、論理回路の継電器接点はすべて直列に接続するので、どの継電器でも1個が無励磁の状態になれば、その継電器接点が属している論理回路の主トリップ継電器の電源は喪失することになる。主トリップ継電器の接点は、各ソレノイド・グループ回路ごとに2つずつ直列につないで、1つの継電器接点が単独で故障して開かない場合でも、スクラム動作を妨げないようにしている。</p>	<p>制御方法、給水の制御方法及び安全保護系等の制御方法 f. 安全保護系等の制御方法*11 (a) 安全保護系の制御方法 へ(2)(i)-①原子炉保護系の作動回路は2チャンネルで構成され、原子炉非常停止*12信号により両チャンネルが同時にトリップすると原子炉はスクラムする。</p> <p>また、その他の安全保護系起動信号により工学的安全施設が起動される。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(2)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(2)(i)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																				
<p>a. <u>原子炉圧力高</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本文（十号） 原子炉圧力高スクラム へ(2)(i)a.-①7.41MPa[gage] へ(2)(i)a.-②(スクラム遅れ時間0.55秒)</p> <p>・記載箇所 イ(2)(i)d.(b)</p> </div> <p>b. <u>原子炉水位低</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本文（十号） 原子炉水位低スクラム(レベル3) 気水分離器下端から+16cm へ(2)(i)b.-①(スクラム遅れ時間1.05秒)</p> <p>・記載箇所 イ(2)(i)d.(b), ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3), ハ(2)(ii)b.(a)(a-4), ハ(2)(ii)b.(b)(b-4), ハ(2)(ii)b.(d)(d-2)(d-2-4)</p> </div> <p>c. <u>へ(2)(i)c.-①格納容器圧力高</u></p>	<p>a. <u>原子炉圧力高</u></p> <p>b. <u>原子炉水位低</u></p> <p>c. <u>格納容器圧力高</u></p>	<p>【計装制御系施設】 (要目表)</p> <p>6. 原子炉非常停止信号の種類、検出器の種類、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること）、原子炉非常停止に要する信号の個数及び設定値並びに原子炉非常停止信号を発信させない条件常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">動作条件</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">動作条件</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">原子炉非常停止信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力高</td> <td>原子炉圧力検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.15300mm</td> <td>7.2MPa以下</td> <td>7.41MPa</td> <td>原子炉圧力高</td> <td>原子炉圧力検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.15300mm</td> <td>7.2MPa以下</td> <td>7.41MPa</td> <td>原子炉非常停止信号を発信させない条件</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位低</td> <td>原子炉水位検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.15300mm</td> <td>気水分離器下端より16cm以上</td> <td>—</td> <td>原子炉水位低</td> <td>原子炉水位検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.15300mm</td> <td>気水分離器下端より16cm以上</td> <td>—</td> <td>原子炉非常停止信号を発信させない条件</td> </tr> <tr> <td>ドライウェル圧力高</td> <td>ドライウェル圧力検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.23800mm</td> <td>13.7MPa以下</td> <td>—</td> <td>ドライウェル圧力高</td> <td>ドライウェル圧力検出器</td> <td>4</td> <td>原子炉建物 EL.23800mm</td> <td>13.7MPa以下</td> <td>—</td> <td>原子炉非常停止信号を発信させない条件</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	動作条件	設定値	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	動作条件	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件	系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	原子炉圧力高	原子炉圧力検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	7.2MPa以下	7.41MPa	原子炉圧力高	原子炉圧力検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	7.2MPa以下	7.41MPa	原子炉非常停止信号を発信させない条件	原子炉水位低	原子炉水位検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	気水分離器下端より16cm以上	—	原子炉水位低	原子炉水位検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	気水分離器下端より16cm以上	—	原子炉非常停止信号を発信させない条件	ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力検出器	4	原子炉建物 EL.23800mm	13.7MPa以下	—	ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力検出器	4	原子炉建物 EL.23800mm	13.7MPa以下	—	原子炉非常停止信号を発信させない条件		
変更前						変更後																																																																		
原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	動作条件	設定値	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	動作条件	設定値	原子炉非常停止信号を発信させない条件																																																												
													系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床																																																								
原子炉圧力高	原子炉圧力検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	7.2MPa以下	7.41MPa	原子炉圧力高	原子炉圧力検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	7.2MPa以下	7.41MPa	原子炉非常停止信号を発信させない条件																																																												
原子炉水位低	原子炉水位検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	気水分離器下端より16cm以上	—	原子炉水位低	原子炉水位検出器	4	原子炉建物 EL.15300mm	気水分離器下端より16cm以上	—	原子炉非常停止信号を発信させない条件																																																												
ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力検出器	4	原子炉建物 EL.23800mm	13.7MPa以下	—	ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力検出器	4	原子炉建物 EL.23800mm	13.7MPa以下	—	原子炉非常停止信号を発信させない条件																																																												
		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置変更許可申請書（本文（十号））のへ(2)(i)a.-①は、設計及び工事の計画のへ(2)(i)a.-①を解析上、保守的に設定したものであり、整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））のへ(2)(i)a.-②及びへ(2)(i)b.-①で使用しているスクラム遅れ時間は、「VI-1-5-3 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係る制御方法に関する説明書」に記載している応答時間と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画のへ(2)(i)c.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(2)(i)c.-①と同義であり、整合している。 																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																						
<p>e. <u>中性子計装不作動</u> へ(2)(i)e.-① (平均出力領域計装又は中間領域計装)...</p>	<p>e. <u>中性子計装不作動</u> (平均出力領域計装又は中間領域計装)...</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">*1 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*1 個数</th> <th colspan="2">*2 取付箇所</th> <th rowspan="2">*2 設定値</th> <th rowspan="2">*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> <th rowspan="2">*1 原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">*1 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*1 個数</th> <th colspan="2">*2 取付箇所</th> <th rowspan="2">*2 設定値</th> <th rowspan="2">*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*15 出力領域中性子束検出器</td> <td rowspan="2">6*16</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*17</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="13" style="text-align: center;">へ(2)(i)e.-①a</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*22 中間領域中性子束検出器</td> <td rowspan="2">8</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*23</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*25 原子炉モードスイッチ「運転」位置</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="13" style="text-align: center;">へ(2)(i)e.-①b</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*31 主蒸気管放射能高</td> <td rowspan="2">*32, *33 4</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*34</td> <td rowspan="2">*35 正常時の6倍以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のへ(2)(i)e.-①a及びへ(2)(i)e.-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(2)(i)e.-①と同義であり、整合している。</p> </div>	変更前						変更後						*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	*15 出力領域中性子束検出器	6*16	—	系統名(ライン名)	—	2*17	—	変更なし	—	—	変更なし		—	変更なし	設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	へ(2)(i)e.-①a														*22 中間領域中性子束検出器	8	—	系統名(ライン名)	—	2*23	—	*25 原子炉モードスイッチ「運転」位置	変更なし	—	変更なし		—	変更なし	設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	へ(2)(i)e.-①b														*31 主蒸気管放射能高	*32, *33 4	—	系統名(ライン名)	—	2*34	*35 正常時の6倍以下	—	変更なし	—	変更なし		—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 23800mm	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		
変更前						変更後																																																																																																																				
*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件																																																																																																													
			系統名(ライン名)	設置床						系統名(ライン名)	設置床																																																																																																															
*15 出力領域中性子束検出器	6*16	—	系統名(ライン名)	—	2*17	—	変更なし	—	—	変更なし		—	変更なし																																																																																																													
			設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm						溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																											
へ(2)(i)e.-①a																																																																																																																										
*22 中間領域中性子束検出器	8	—	系統名(ライン名)	—	2*23	—	*25 原子炉モードスイッチ「運転」位置	変更なし	—	変更なし		—	変更なし																																																																																																													
			設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm						溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																											
へ(2)(i)e.-①b																																																																																																																										
*31 主蒸気管放射能高	*32, *33 4	—	系統名(ライン名)	—	2*34	*35 正常時の6倍以下	—	変更なし	—	変更なし		—	変更なし																																																																																																													
			設置床	原子炉建物 EL 23800mm						溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																											
<p>f. <u>スクラム排水容器水位高</u></p>	<p>f. <u>スクラム排水容器水位高</u></p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">*1 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*1 個数</th> <th colspan="2">*2 取付箇所</th> <th rowspan="2">*2 設定値</th> <th rowspan="2">*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> <th rowspan="2">*1 原子炉非常停止信号の種類</th> <th rowspan="2">*1 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*1 個数</th> <th colspan="2">*2 取付箇所</th> <th rowspan="2">*2 設定値</th> <th rowspan="2">*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*26 スクラム排水容器水位検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*28</td> <td rowspan="2">*29 700/個に相当するレベル以下</td> <td rowspan="2">*30 原子炉モードスイッチ「燃料交換」又は「停止」位置、かつスクラム排水容器水位高バイパススイッチ「バイパス」位置</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*27 スクラム排水容器水位検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	*26 スクラム排水容器水位検出器	4	—	系統名(ライン名)	—	2*28	*29 700/個に相当するレベル以下	*30 原子炉モードスイッチ「燃料交換」又は「停止」位置、かつスクラム排水容器水位高バイパススイッチ「バイパス」位置	変更なし	—	変更なし		—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 23800mm	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	*27 スクラム排水容器水位検出器	4	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	—	変更なし		—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 23800mm	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																			
変更前						変更後																																																																																																																				
*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件	*1 原子炉非常停止信号の種類	*1 検出器の種類	*1 個数	*2 取付箇所		*2 設定値	*3 原子炉非常停止信号を発生させない条件																																																																																																													
			系統名(ライン名)	設置床						系統名(ライン名)	設置床																																																																																																															
*26 スクラム排水容器水位検出器	4	—	系統名(ライン名)	—	2*28	*29 700/個に相当するレベル以下	*30 原子炉モードスイッチ「燃料交換」又は「停止」位置、かつスクラム排水容器水位高バイパススイッチ「バイパス」位置	変更なし	—	変更なし		—	変更なし																																																																																																													
			設置床	原子炉建物 EL 23800mm						溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																											
*27 スクラム排水容器水位検出器	4	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	—	変更なし		—	変更なし																																																																																																														
			設置床	原子炉建物 EL 23800mm					溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																												

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																													
<p>i. 蒸気加減弁急速閉 へ(2)(i)i.-① (タービン・バイパス弁不作動の場合)...</p>	<p>i. 蒸気加減弁急速閉 (タービン・バイパス弁不作動の場合)...</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>*1</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*2</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*3</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*4</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> </tr> <tr> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th> <th>設定値</th> <th>原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th> <th>設定値</th> <th>原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*11</td> <td rowspan="2">*12</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2**</td> <td rowspan="2">タービン出力45%以下は、蒸気加減弁急速閉の信号発生後、0.2秒以内にタービンバイパス弁が開いた場合...</td> <td rowspan="2">*13</td> <td rowspan="2">*14</td> <td rowspan="2">4</td> <td>取付箇所</td> <td>タービン建物 EL 12500mm</td> <td rowspan="2">4.12MPa 以上</td> <td rowspan="2">*15</td> <td rowspan="2">*16</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>タービン建物 EL 12500mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*17</td> <td rowspan="2">*18</td> <td rowspan="2">1</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">1</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*19</td> <td rowspan="2">*20</td> <td rowspan="2">1</td> <td>取付箇所</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*21</td> <td rowspan="2">*22</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						*1	検出器及び作動条件		*2	検出器及び作動条件		*3	検出器及び作動条件		*4	検出器及び作動条件		原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	*11	*12	4	系統名 (ライン名)	—	2**	タービン出力45%以下は、蒸気加減弁急速閉の信号発生後、0.2秒以内にタービンバイパス弁が開いた場合...	*13	*14	4	取付箇所	タービン建物 EL 12500mm	4.12MPa 以上	*15	*16	設置床	タービン建物 EL 12500mm	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	*17	*18	1	系統名 (ライン名)	—	1	—	—	*19	*20	1	取付箇所	制御室建物 EL 16900mm	—	*21	*22	設置床	制御室建物 EL 16900mm	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	<p>整合性</p> <p>設計及び工事の計画の へ(2)(i)i.-① は、設置変更許可申請書 (本文 (五号)) の へ(2)(i)i.-① と同義であり、整合している。</p>																									
変更前						変更後																																																																																																											
*1	検出器及び作動条件		*2	検出器及び作動条件		*3	検出器及び作動条件		*4	検出器及び作動条件																																																																																																							
原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件																																																																																																				
*11	*12	4	系統名 (ライン名)	—	2**	タービン出力45%以下は、蒸気加減弁急速閉の信号発生後、0.2秒以内にタービンバイパス弁が開いた場合...	*13	*14	4	取付箇所	タービン建物 EL 12500mm	4.12MPa 以上	*15	*16																																																																																																			
			設置床	タービン建物 EL 12500mm						変更なし	変更なし				変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																															
*17	*18	1	系統名 (ライン名)	—	1	—	—	*19	*20	1	取付箇所	制御室建物 EL 16900mm	—	*21	*22																																																																																																		
			設置床	制御室建物 EL 16900mm							変更なし	変更なし				変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																														
<p>j. 主蒸気管放射線高</p>	<p>j. 主蒸気管放射線高</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>*1</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*2</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*3</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th>*4</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> </tr> <tr> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th> <th>設定値</th> <th>原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>個数</th> <th>取付箇所</th> <th>原子炉非常停止に要する信号の個数</th> <th>設定値</th> <th>原子炉非常停止信号を発生させない条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*23</td> <td rowspan="2">*24</td> <td rowspan="2">6**16</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2**17</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*25</td> <td rowspan="2">*26</td> <td rowspan="2">2</td> <td>取付箇所</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*27</td> <td rowspan="2">*28</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*29</td> <td rowspan="2">*30</td> <td rowspan="2">8</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2**21</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*31</td> <td rowspan="2">*32</td> <td rowspan="2">8</td> <td>取付箇所</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*33</td> <td rowspan="2">*34</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉格納容器内 EL 8800mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*35</td> <td rowspan="2">*36</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2**</td> <td rowspan="2">正常時の6倍以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*37</td> <td rowspan="2">*38</td> <td rowspan="2">4</td> <td>取付箇所</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*39</td> <td rowspan="2">*40</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						*1	検出器及び作動条件		*2	検出器及び作動条件		*3	検出器及び作動条件		*4	検出器及び作動条件		原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	*23	*24	6**16	系統名 (ライン名)	—	2**17	—	—	*25	*26	2	取付箇所	原子炉格納容器内 EL 8800mm	—	*27	*28	設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	*29	*30	8	系統名 (ライン名)	—	2**21	—	*31	*32	8	取付箇所	原子炉格納容器内 EL 8800mm	—	*33	*34	設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	*35	*36	4	系統名 (ライン名)	—	2**	正常時の6倍以下	—	*37	*38	4	取付箇所	原子炉建物 EL 23800mm	—	*39	*40	設置床	原子炉建物 EL 23800mm	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
変更前						変更後																																																																																																											
*1	検出器及び作動条件		*2	検出器及び作動条件		*3	検出器及び作動条件		*4	検出器及び作動条件																																																																																																							
原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件	原子炉非常停止信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	原子炉非常停止に要する信号の個数	設定値	原子炉非常停止信号を発生させない条件																																																																																																				
*23	*24	6**16	系統名 (ライン名)	—	2**17	—	—	*25	*26	2	取付箇所	原子炉格納容器内 EL 8800mm	—	*27	*28																																																																																																		
			設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm							変更なし	変更なし				変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																														
*29	*30	8	系統名 (ライン名)	—	2**21	—	*31	*32	8	取付箇所	原子炉格納容器内 EL 8800mm	—	*33	*34																																																																																																			
			設置床	原子炉格納容器内 EL 8800mm						変更なし	変更なし				変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																															
*35	*36	4	系統名 (ライン名)	—	2**	正常時の6倍以下	—	*37	*38	4	取付箇所	原子炉建物 EL 23800mm	—	*39	*40																																																																																																		
			設置床	原子炉建物 EL 23800mm							変更なし	変更なし				変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																				
<p>(ii) その他の主要な安全保護回路の種類</p> <p>〜(2)(ii)-①その他の主要な安全保護回路（工学的安全施設作動系）には、次のものを設ける。</p> <p>a. 原子炉水位低、主蒸気管放射線高、主蒸気管圧力低、主蒸気管流量大、主蒸気管〜(2)(ii)a.-①周囲温度高、又は復水器真空度低のいずれかの信号による主蒸気隔離弁の閉鎖</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>原子炉水位低（主蒸気隔離弁閉止）設定点 気水分離器下端から-112cm（レベル2）</p> <p>〜(2)(ii)a.-②主蒸気隔離弁は、主蒸気管流量大の信号により0.5秒の動作遅れ時間を含み、事故後5.5秒で全閉するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載箇所 ロ(2)(i)a.(k), ロ(2)(iii)b.(c), ロ(2)(iii)e.(h), ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3) </div>	<p>6.6.4.3 工学的安全施設作動回路</p> <p>(1) 工学的安全施設作動回路</p> <p>工学的安全施設作動回路の主要な機能には、次のようなものがある。</p> <p>a. 原子炉水位低、主蒸気管放射線高、主蒸気管圧力低、主蒸気管流量大、主蒸気管周囲温度高、又は復水器真空度低のいずれかの信号による主蒸気隔離弁の閉鎖</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>7. 工学的安全施設等の起動信号の種類、検出器の種類、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）、工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件 常設 （工学的安全施設の起動信号）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*1 原子炉水位低 （レベル2）</td> <td rowspan="2">*5 原子炉水位検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名 （ライン名）</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*7 2*</td> <td rowspan="2">*8, *9 気水分離器下端より112cm以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*10 変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*11 変更なし</td> </tr> <tr> <td>*12 設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*10, *11 主蒸気管圧力低</td> <td rowspan="2">*12 主蒸気管圧力検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名 （ライン名）</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*7 2*</td> <td rowspan="2">*13, *14 5.87MPa以上</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*15 変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*16 原子炉モードスイッチ「運転」位置以外</td> </tr> <tr> <td>*17 設置床</td> <td>タービン建物 EL 5500mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*18 主蒸気管放射線高</td> <td rowspan="2">*19, *20 主蒸気管放射線検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名 （ライン名）</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*7 2*</td> <td rowspan="2">*21 正常時の6倍以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*22 変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*23 変更なし</td> </tr> <tr> <td>*24 設置床</td> <td>原子炉建物 EL 23800mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">（つづき）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*25, *26 主蒸気管トンネル温度高</td> <td rowspan="2">*27 主蒸気管トンネル温度検出器</td> <td rowspan="2">24</td> <td>系統名 （ライン名）</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*28 2*</td> <td rowspan="2">*29 93℃以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*30 変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*31 変更なし</td> </tr> <tr> <td>*32 設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm タービン建物 EL 12500mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*27 主蒸気管流量大</td> <td rowspan="2">*28 主蒸気管流量検出器</td> <td rowspan="2">16</td> <td>系統名 （ライン名）</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*29 2*</td> <td rowspan="2">*30 定格流量の140%以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*31 変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">*32 変更なし</td> </tr> <tr> <td>*33 設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	変更なし												*1 原子炉水位低 （レベル2）	*5 原子炉水位検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*8, *9 気水分離器下端より112cm以下	—	*10 変更なし	—	—	*11 変更なし	*12 設置床	原子炉建物 EL 15300mm	—	—	—	—	—	—	*10, *11 主蒸気管圧力低	*12 主蒸気管圧力検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*13, *14 5.87MPa以上	—	*15 変更なし	—	—	*16 原子炉モードスイッチ「運転」位置以外	*17 設置床	タービン建物 EL 5500mm	—	—	—	—	—	*18 主蒸気管放射線高	*19, *20 主蒸気管放射線検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*21 正常時の6倍以下	—	*22 変更なし	—	—	*23 変更なし	*24 設置床	原子炉建物 EL 23800mm	—	—	—	—	—	変更前					変更後					工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	変更なし												*25, *26 主蒸気管トンネル温度高	*27 主蒸気管トンネル温度検出器	24	系統名 （ライン名）	—	*28 2*	*29 93℃以下	—	*30 変更なし	—	—	*31 変更なし	*32 設置床	原子炉建物 EL 15300mm タービン建物 EL 12500mm	—	—	—	—	—	*27 主蒸気管流量大	*28 主蒸気管流量検出器	16	系統名 （ライン名）	—	*29 2*	*30 定格流量の140%以下	—	*31 変更なし	—	—	*32 変更なし	*33 設置床	原子炉建物 EL 15300mm	—	—	—	—	—	<p>設置変更許可申請書（本文（五号）） 〜(2)(ii) ①に整合していることは、本資料にて個別に示す。</p>	
変更前					変更後																																																																																																																																																																			
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																																																																													
												変更なし																																																																																																																																																												
*1 原子炉水位低 （レベル2）	*5 原子炉水位検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*8, *9 気水分離器下端より112cm以下	—	*10 変更なし	—	—	*11 変更なし																																																																																																																																																													
			*12 設置床	原子炉建物 EL 15300mm								—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																							
*10, *11 主蒸気管圧力低	*12 主蒸気管圧力検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*13, *14 5.87MPa以上	—	*15 変更なし	—	—	*16 原子炉モードスイッチ「運転」位置以外																																																																																																																																																													
			*17 設置床	タービン建物 EL 5500mm								—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
*18 主蒸気管放射線高	*19, *20 主蒸気管放射線検出器	4	系統名 （ライン名）	—	*7 2*	*21 正常時の6倍以下	—	*22 変更なし	—	—	*23 変更なし																																																																																																																																																													
			*24 設置床	原子炉建物 EL 23800mm								—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
変更前					変更後																																																																																																																																																																			
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																																																																													
												変更なし																																																																																																																																																												
*25, *26 主蒸気管トンネル温度高	*27 主蒸気管トンネル温度検出器	24	系統名 （ライン名）	—	*28 2*	*29 93℃以下	—	*30 変更なし	—	—	*31 変更なし																																																																																																																																																													
			*32 設置床	原子炉建物 EL 15300mm タービン建物 EL 12500mm								—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
*27 主蒸気管流量大	*28 主蒸気管流量検出器	16	系統名 （ライン名）	—	*29 2*	*30 定格流量の140%以下	—	*31 変更なし	—	—	*32 変更なし																																																																																																																																																													
			*33 設置床	原子炉建物 EL 15300mm								—	—	—	—	—																																																																																																																																																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																											
		<p style="text-align: center;">(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">個数</th> <th colspan="2">取付箇所</th> <th colspan="2">検出器の種類</th> <th colspan="2">個数</th> <th colspan="2">取付箇所</th> </tr> <tr> <th colspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th colspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th colspan="2">*4 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="2">*5 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th colspan="2">*6 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主 蒸 気 隔 離 弁</td> <td>*11, *20 復水器 真空度低</td> <td>*12 4</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>*13, *22, *23, *15 主蒸気止め弁 開度 90% 以下, かつ原子 炉圧力 4.11 MPa 以下, かつ 復水器真空度 低バイパスス イッチ「バイ パス」位置, かつ原子炉モ ードスイッチ 「運転」位置 以外</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設置床</td> <td>タービン建物 EL. 20600mm</td> <td>*27 2</td> <td>*28, *31 真空度 28.8kPa 以上</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td>*21, *30 復水器 真空度低</td> <td>4</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL. 16900mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td>*24 手動</td> <td>—</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						検出器の種類		個数		取付箇所		検出器の種類		個数		取付箇所		*1 工学的安全施設等の起動信号の種類		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数		*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件		*4 工学的安全施設等の起動信号の種類		*5 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数		*6 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件		主 蒸 気 隔 離 弁	*11, *20 復水器 真空度低	*12 4	系統名 (ライン名)	—	—	*13, *22, *23, *15 主蒸気止め弁 開度 90% 以下, かつ原子 炉圧力 4.11 MPa 以下, かつ 復水器真空度 低バイパスス イッチ「バイ パス」位置, かつ原子炉モ ードスイッチ 「運転」位置 以外	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし			設置床	タービン建物 EL. 20600mm	*27 2	*28, *31 真空度 28.8kPa 以上	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		*21, *30 復水器 真空度低	4	系統名 (ライン名)	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし				設置床	制御室建物 EL. 16900mm	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		*24 手動	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし				設置床	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
変更前						変更後																																																																																																									
検出器の種類		個数		取付箇所		検出器の種類		個数		取付箇所																																																																																																					
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数		*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件		*4 工学的安全施設等の起動信号の種類		*5 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数		*6 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																					
主 蒸 気 隔 離 弁	*11, *20 復水器 真空度低	*12 4	系統名 (ライン名)	—	—	*13, *22, *23, *15 主蒸気止め弁 開度 90% 以下, かつ原子 炉圧力 4.11 MPa 以下, かつ 復水器真空度 低バイパスス イッチ「バイ パス」位置, かつ原子炉モ ードスイッチ 「運転」位置 以外	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
			設置床	タービン建物 EL. 20600mm	*27 2	*28, *31 真空度 28.8kPa 以上	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
	*21, *30 復水器 真空度低	4	系統名 (ライン名)	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
			設置床	制御室建物 EL. 16900mm	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
	*24 手動	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
			設置床	—	—	—	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																				
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の へ(2)(ii)a.-① は、設置変更許可申請書（本文（五号））の へ(2)(ii)a.-① と同義であり、整合している。 設置変更許可申請書（本文（十号））の へ(2)(ii)a.-② で使用している動作遅れ時間は、「VI-1-5-3 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係る制御方法に関する説明書」に記載している応答時間と同義であり、整合している。また、主蒸気隔離弁の閉鎖時間を5秒と解析上設定して、動作遅れ時間を含めて合計5.5秒で全閉するとしており、設計及び工事の計画と整合している。 </div>																																																																																																															

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																										
<p>b. <u>へ(2)(ii)b.-①</u>格納容器圧力高, 原子炉水位低, <u>へ(2)(ii)b.-②</u>原子炉棟排気放射線高又は燃料取替階放射線高のいずれかの信号による<u>へ(2)(ii)b.-③</u>原子炉棟換気系隔離弁の閉鎖と非常用ガス処理系の起動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p><u>へ(2)(ii)b.-②</u>燃料取替階放射線高の信号により非常用ガス処理系が起動するものとする。</p> <p>・記載箇所 口(2)(iii)c.(g)</p> </div>	<p>b. <u>格納容器圧力高, 原子炉水位低, 原子炉棟排気放射線高又は燃料取替階放射線高のいずれかの信号による原子炉棟換気系隔離弁の閉鎖と非常用ガス処理系の起動</u></p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*12, *18 原子炉棟放射線検出器</td> <td rowspan="2">*13, *19 4</td> <td rowspan="2">*14, *15 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2 *15, *16</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*17 燃料取替階放射線検出器</td> <td rowspan="2">*18 4</td> <td rowspan="2">*19 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2 *15, *16</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>原子炉建物 EL 4280mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*12, *18 ドライウェル圧力高検出器</td> <td rowspan="2">*13, *19 4</td> <td rowspan="2">*14, *15 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2 *15, *16</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*1 原子炉水位検出器 (レベル-3)</td> <td rowspan="2">*12, *18 4</td> <td rowspan="2">*19 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*15, *16</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*1 手動</td> <td rowspan="2">*12, *18 —</td> <td rowspan="2">*19 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	*12, *18 原子炉棟放射線検出器	*13, *19 4	*14, *15 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—	原子炉建物 EL 2380mm	—	—	—	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	*17 燃料取替階放射線検出器	*18 4	*19 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—	原子炉建物 EL 4280mm	—	—	—	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	変更前						変更後						*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	*12, *18 ドライウェル圧力高検出器	*13, *19 4	*14, *15 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—	原子炉建物 EL 2380mm	—	—	—	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	*1 原子炉水位検出器 (レベル-3)	*12, *18 4	*19 —	—	—	*15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—	原子炉建物 EL 15300mm	—	—	—	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	*1 手動	*12, *18 —	*19 —	—	—	—	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—	制御室建物 EL 16900mm	—	—	—	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の<u>へ(2)(ii)b.-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(2)(ii)b.-①</u>と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の<u>へ(2)(ii)b.-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(2)(ii)b.-②</u>と同義であり、整合している。 	
変更前						変更後																																																																																																																																																																								
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																																																																																	
			系統名(ライン名)	設置床						系統名(ライン名)	設置床																																																																																																																																																																			
*12, *18 原子炉棟放射線検出器	*13, *19 4	*14, *15 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—																																																																																																																																																																	
			原子炉建物 EL 2380mm	—						—	—			溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																													
*17 燃料取替階放射線検出器	*18 4	*19 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—																																																																																																																																																																	
			原子炉建物 EL 4280mm	—						—	—			溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																													
変更前						変更後																																																																																																																																																																								
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																																																																																	
			系統名(ライン名)	設置床						系統名(ライン名)	設置床																																																																																																																																																																			
*12, *18 ドライウェル圧力高検出器	*13, *19 4	*14, *15 —	—	—	2 *15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—																																																																																																																																																																	
			原子炉建物 EL 2380mm	—						—	—			溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																													
*1 原子炉水位検出器 (レベル-3)	*12, *18 4	*19 —	—	—	*15, *16	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—																																																																																																																																																																	
			原子炉建物 EL 15300mm	—						—	—			溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																													
*1 手動	*12, *18 —	*19 —	—	—	—	—	変更なし	—	—	変更なし		—	—																																																																																																																																																																	
			制御室建物 EL 16900mm	—						—	—			溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備 2.2.3 原子炉棟空調換気系 <中略> また、原子炉棟空調換気系の給気及び排気ダクトには、それぞれ2個の空気作動の隔離弁を設け、<u>へ(2)(ii)b.-③</u>原子炉棟放射能高等の信号により、隔離弁を自動閉鎖するとともに原子炉棟空調換気系から非常用ガス処理系に切り替わることで放射性物質の放散を防ぐ設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の<u>へ(2)(ii)b.-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(2)(ii)b.-③</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																	
<p>c. 原子炉水位低, 又は へ(2)(ii)c.-①格納容器圧力高のいずれかの信号による高圧炉心スプレイ系, 低圧炉心スプレイ系及び低圧注水系（残留熱除去系の低圧注水モード）の起動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p><u>原子炉水位低</u> <u>（高圧炉心スプレイ系起動）設定点</u> <u>気水分離器下端から-261cm（レベル1H）</u></p> <p><u>原子炉水位低</u> <u>（低圧炉心スプレイ系, 残留熱除去系（低圧注水モード）起動, 自動減圧系作動）設定点</u> <u>気水分離器下端から-381cm（レベル1）</u> へ(2)(ii)c.-①<u>格納容器圧力高</u> <u>（高圧炉心スプレイ系起動, 自動減圧系作動）設定点</u> へ(2)(ii)c.-①<u>格納容器圧力 13.7kPa[gage]</u></p> <p>・記載箇所 ロ(2)(i)a.(k), ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3), ハ(2)(ii)b.(e)(e-10), ハ(2)(ii)b.(g)(g-6)</p> </div>	<p>c. 原子炉水位低, 又は格納容器圧力高のいずれかの信号による高圧炉心スプレイ系, 低圧炉心スプレイ系及び低圧注水系（残留熱除去系の低圧注水モード）の起動</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>7. 工学的安全施設等の起動信号の種類, 検出器の種類, 個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）、工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</p> <p style="font-size: small;">(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th colspan="7">変更前</th> <th colspan="7">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="2">検出器及び</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">*4 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*5 取付箇所</th> <th rowspan="2">*6 設定値</th> <th rowspan="2">*7 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">*8 検出器の種類</th> <th rowspan="2">*9 取付箇所</th> <th rowspan="2">*10 設定値</th> <th rowspan="2">*11 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>個数</th> <th>種類</th> <th>個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ドライウェル圧力高</td> <td rowspan="3">*12 ドライウェル圧力</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">2*01</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">原子炉建物 EL 23800mm</td> <td rowspan="3">13.7kPa以下</td> <td rowspan="3">*13, *17</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">変更なし</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>R-2F-11N, R-2F-12N, R-2F-18N, R-2F-19N, R-2F-24N, R-2F-25N</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>EL 24358mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高圧炉心スプレイ系</td> <td rowspan="3">*14 原子炉水位検出器</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">2*01</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">原子炉建物 EL 15300mm</td> <td rowspan="3">*15, *16 気水分離器下流より261cm以下</td> <td rowspan="3">*18, *19</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">変更なし</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>R-1F-03N, R-1F-22N</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>EL 15846mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">手動</td> <td rowspan="3">—</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">制御室建物 EL 16900mm</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">変更なし</td> <td colspan="2">変更なし</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	変更前							変更後							*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*4 検出器の種類	*5 取付箇所	*6 設定値	*7 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*8 検出器の種類	*9 取付箇所	*10 設定値	*11 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	種類	個数	種類	個数	ドライウェル圧力高	*12 ドライウェル圧力	系統名 (ライン名)	—	2*01	—	原子炉建物 EL 23800mm	13.7kPa以下	*13, *17	—	変更なし	変更なし		変更なし	設置床	—	溢水防護上の区画番号	R-2F-11N, R-2F-12N, R-2F-18N, R-2F-19N, R-2F-24N, R-2F-25N	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 24358mm以上	高圧炉心スプレイ系	*14 原子炉水位検出器	系統名 (ライン名)	—	2*01	—	原子炉建物 EL 15300mm	*15, *16 気水分離器下流より261cm以下	*18, *19	—	変更なし	変更なし		変更なし	設置床	—	溢水防護上の区画番号	R-1F-03N, R-1F-22N	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 15846mm以上	手動	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	制御室建物 EL 16900mm	—	—	—	変更なし	変更なし		変更なし	設置床	—	溢水防護上の区画番号	—	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		
変更前							変更後																																																																																														
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*4 検出器の種類	*5 取付箇所	*6 設定値	*7 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	*8 検出器の種類	*9 取付箇所	*10 設定値	*11 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																									
	種類	個数											種類	個数																																																																																							
ドライウェル圧力高	*12 ドライウェル圧力	系統名 (ライン名)	—	2*01	—	原子炉建物 EL 23800mm	13.7kPa以下	*13, *17	—	変更なし	変更なし		変更なし																																																																																								
		設置床	—								溢水防護上の区画番号	R-2F-11N, R-2F-12N, R-2F-18N, R-2F-19N, R-2F-24N, R-2F-25N																																																																																									
		—	—								溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 24358mm以上																																																																																									
高圧炉心スプレイ系	*14 原子炉水位検出器	系統名 (ライン名)	—	2*01	—	原子炉建物 EL 15300mm	*15, *16 気水分離器下流より261cm以下	*18, *19	—	変更なし	変更なし		変更なし																																																																																								
		設置床	—								溢水防護上の区画番号	R-1F-03N, R-1F-22N																																																																																									
		—	—								溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL 15846mm以上																																																																																									
手動	—	系統名 (ライン名)	—	—	—	制御室建物 EL 16900mm	—	—	—	変更なし	変更なし		変更なし																																																																																								
		設置床	—								溢水防護上の区画番号	—																																																																																									
		—	—								溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																														
		<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件</th> </tr> <tr> <th>取付箇所</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>取付箇所</th> <th>系統名(ライン名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ドライウェル圧力高</td> <td rowspan="2">ドライウェル圧力</td> <td rowspan="2">2</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*15</td> <td rowspan="2">13.7kPa以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">2</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> </tr> <tr> <td colspan="16" style="text-align: center;">〜(2)(ii)c.-①b</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉水位低(レベル1)</td> <td rowspan="2">原子炉水位検出器</td> <td rowspan="2">2</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*15</td> <td rowspan="2">気水分離器下流より381cm以下以上</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">2</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">手動</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	取付箇所	系統名(ライン名)	取付箇所	系統名(ライン名)	ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力	2	系統名(ライン名)	—	2*15	13.7kPa以下	—	変更なし	変更なし	2	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 2380mm	設置床	原子炉建物 EL 2380mm	〜(2)(ii)c.-①b																原子炉水位低(レベル1)	原子炉水位検出器	2	系統名(ライン名)	—	2*15	気水分離器下流より381cm以下以上	—	変更なし	変更なし	2	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 15300mm	設置床	原子炉建物 EL 15300mm	手動	—	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	制御室建物 EL 16900mm	設置床	制御室建物 EL 16900mm																						
変更前					変更後																																																																																																																													
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件																																																																																																																			
			取付箇所	系統名(ライン名)							取付箇所	系統名(ライン名)																																																																																																																						
ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力	2	系統名(ライン名)	—	2*15	13.7kPa以下	—	変更なし	変更なし	2	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	原子炉建物 EL 2380mm							設置床	原子炉建物 EL 2380mm																																																																																																																						
〜(2)(ii)c.-①b																																																																																																																																		
原子炉水位低(レベル1)	原子炉水位検出器	2	系統名(ライン名)	—	2*15	気水分離器下流より381cm以下以上	—	変更なし	変更なし	2	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	原子炉建物 EL 15300mm							設置床	原子炉建物 EL 15300mm																																																																																																																						
手動	—	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	制御室建物 EL 16900mm							設置床	制御室建物 EL 16900mm																																																																																																																						
		<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件</th> </tr> <tr> <th>取付箇所</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>取付箇所</th> <th>系統名(ライン名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ドライウェル圧力高</td> <td rowspan="2">ドライウェル圧力</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*15</td> <td rowspan="2">13.7kPa以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 2380mm</td> </tr> <tr> <td colspan="16" style="text-align: center;">〜(2)(ii)c.-①c</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉水位低(レベル1)</td> <td rowspan="2">原子炉水位検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">2*15</td> <td rowspan="2">気水分離器下流より381cm以下以上</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">4</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> <td>設置床</td> <td>原子炉建物 EL 15300mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">手動</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格納容器冷却系</td> <td rowspan="2">手動</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL 16900mm</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	取付箇所	系統名(ライン名)	取付箇所	系統名(ライン名)	ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力	4	系統名(ライン名)	—	2*15	13.7kPa以下	—	変更なし	変更なし	4	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 2380mm	設置床	原子炉建物 EL 2380mm	〜(2)(ii)c.-①c																原子炉水位低(レベル1)	原子炉水位検出器	4	系統名(ライン名)	—	2*15	気水分離器下流より381cm以下以上	—	変更なし	変更なし	4	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	原子炉建物 EL 15300mm	設置床	原子炉建物 EL 15300mm	手動	—	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	制御室建物 EL 16900mm	設置床	制御室建物 EL 16900mm	格納容器冷却系	手動	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし	設置床	制御室建物 EL 16900mm	設置床	制御室建物 EL 16900mm		
変更前					変更後																																																																																																																													
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*2 工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	*3 工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発生させない条件																																																																																																																			
			取付箇所	系統名(ライン名)							取付箇所	系統名(ライン名)																																																																																																																						
ドライウェル圧力高	ドライウェル圧力	4	系統名(ライン名)	—	2*15	13.7kPa以下	—	変更なし	変更なし	4	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	原子炉建物 EL 2380mm							設置床	原子炉建物 EL 2380mm																																																																																																																						
〜(2)(ii)c.-①c																																																																																																																																		
原子炉水位低(レベル1)	原子炉水位検出器	4	系統名(ライン名)	—	2*15	気水分離器下流より381cm以下以上	—	変更なし	変更なし	4	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	原子炉建物 EL 15300mm							設置床	原子炉建物 EL 15300mm																																																																																																																						
手動	—	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	制御室建物 EL 16900mm							設置床	制御室建物 EL 16900mm																																																																																																																						
格納容器冷却系	手動	—	系統名(ライン名)	—	—	—	—	変更なし	変更なし	—	系統名(ライン名)	—	—	—	変更なし																																																																																																																			
			設置床	制御室建物 EL 16900mm							設置床	制御室建物 EL 16900mm																																																																																																																						
<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の〜(2)(ii)c.-①a〜〜(2)(ii)c.-①cは、設置変更許可申請書（本文（五号）及び本文（十号））の〜(2)(ii)c.-①と同義であり、整合している。</p>																																																																																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																						
<p>d. 原子炉水位低及びへ(2)(ii)d. -①格納容器圧力高の同時信号による自動減圧系の作動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p><u>原子炉水位低</u> （低圧炉心スプレイ系，残留熱除去系（低圧注水モード）起動，自動減圧系作動）設定点</p> <p><u>気水分離器下端から-381cm（レベル1）</u></p> <p>へ(2)(ii)d. -①格納容器圧力高 （高圧炉心スプレイ系起動，自動減圧系作動）設定点</p> <p>へ(2)(ii)d. -①格納容器圧力13.7kPa[gage]</p> <p>・記載箇所 ロ(2)(i)a.(k)，ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3)</p> </div>	<p>d. 原子炉水位低及び格納容器圧力高の同時信号による自動減圧系の作動</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">*1 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">*5 工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th colspan="2">検出器及び作動条件</th> </tr> <tr> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> <th>系統名(ライン名)</th> <th>設置床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">*12, *13 ドライウエル圧力検出器</td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*13, *17 13.7kPa以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子伊建物 EL. 2380mm</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*10, *11 原子炉水位低(レベル1)とボイラウエル圧力高の同時信号</td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="2">*13, *16 気水分離器下流より381cm以下以上</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子伊建物 EL. 15300mm</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*4 手動</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建物 EL. 16900mm</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*5 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		系統名(ライン名)	設置床	系統名(ライン名)	設置床	*12, *13 ドライウエル圧力検出器	4	—	系統名	—	*13, *17 13.7kPa以下	—	—	—	変更なし		設置床	原子伊建物 EL. 2380mm	変更なし		*10, *11 原子炉水位低(レベル1)とボイラウエル圧力高の同時信号	4	—	系統名	—	*13, *16 気水分離器下流より381cm以下以上	—	—	—	変更なし		設置床	原子伊建物 EL. 15300mm	変更なし		*4 手動	—	—	系統名	—	—	—	—	—	変更なし		設置床	制御室建物 EL. 16900mm	変更なし		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のへ(2)(ii)d. -①は，設置変更許可申請書（本文（五号）及び本文（十号））のへ(2)(ii)d. -①と同義であり，整合している。</p> </div>	
変更前					変更後																																																																					
*1 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件		*3 工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	*5 工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	検出器及び作動条件																																																																	
			系統名(ライン名)	設置床					系統名(ライン名)	設置床																																																																
*12, *13 ドライウエル圧力検出器	4	—	系統名	—	*13, *17 13.7kPa以下	—	—	—	変更なし																																																																	
			設置床	原子伊建物 EL. 2380mm					変更なし																																																																	
*10, *11 原子炉水位低(レベル1)とボイラウエル圧力高の同時信号	4	—	系統名	—	*13, *16 気水分離器下流より381cm以下以上	—	—	—	変更なし																																																																	
			設置床	原子伊建物 EL. 15300mm					変更なし																																																																	
*4 手動	—	—	系統名	—	—	—	—	—	変更なし																																																																	
			設置床	制御室建物 EL. 16900mm					変更なし																																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>e. <u>へ(2)(ii)e.-①</u>原子炉水位低、又は格納容器圧力高のいずれかの信号による<u>へ(2)(ii)e.-②</u>高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機及び非常用ディーゼル発電機の起動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>へ(2)(ii)e.-①</u>原子炉水位低（高圧炉心スプレイ系及びそのディーゼル発電機起動）設定点 気水分離器下端から-261cm.（レベル1H） ・ 原子炉水位低（低圧炉心スプレイ系、低圧注水系及び非常用ディーゼル発電機起動、自動減圧系作動）設定点 気水分離器下端から-381cm.（レベル1） ・ 記載箇所 ロ(2)(i)a.(k) </div>	<p>e. 原子炉水位低又は格納容器圧力高のいずれかの信号による高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機及び非常用ディーゼル発電機の起動</p>	<p>【非常用電源設備】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 交流電源設備 2.1 非常用交流電源設備 <中略> <u>へ(2)(ii)e.-②</u>非常用ディーゼル発電設備（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備を含む。）は、非常用高圧母線低電圧信号又は<u>へ(2)(ii)e.-①</u>非常用炉心冷却設備作動信号で起動し、設置（変更）許可を受けた原子炉冷却材喪失事故における工学的安全施設の設備の作動開始時間を満足する時間である10秒（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備においては13秒）以内に電圧を確立した後は、各非常用高圧母線に接続し、負荷に給電する設計とする。 <中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>へ(2)(ii)e.-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(2)(ii)e.-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>へ(2)(ii)e.-②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(2)(ii)e.-②</u>を全て含んでおり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																
<p>f. 原子炉水位低, 又は^①格納容器圧力高のいずれかの信号による^②主蒸気隔離弁以外の主要な隔離弁の閉鎖</p>	<p>f. 原子炉水位低又は格納容器圧力高のいずれかの信号による主蒸気隔離弁以外の主要な隔離弁の閉鎖</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表） 7. 工学的安全施設等の起動信号の種類, 検出器の種類, 個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）、工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</p> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>その他</td> <td>ドライウェル圧力高</td> <td>4</td> <td>設置床 原子炉建物 EL 2380mm</td> <td>2^{*36}</td> <td>13.7kPa 以下</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>格納容器隔離弁</td> <td>原子炉水位低検出器</td> <td>4</td> <td>設置床 原子炉建物 EL 1530mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th rowspan="2">検出器の種類</th> <th rowspan="2">個数</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動に要する信号の個数</th> <th rowspan="2">設定値</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</th> </tr> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>その他</td> <td>原子炉水位低検出器</td> <td>4</td> <td>設置床 原子炉建物 EL 1530mm</td> <td>2^{*41}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>格納容器隔離弁</td> <td>手動</td> <td>—</td> <td>設置床 制御室建物 EL 1690mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前						変更後						工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	変更前	変更後	その他	ドライウェル圧力高	4	設置床 原子炉建物 EL 2380mm	2 ^{*36}	13.7kPa 以下	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし	格納容器隔離弁	原子炉水位低検出器	4	設置床 原子炉建物 EL 1530mm	—	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし	変更前						変更後						工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	変更前	変更後	その他	原子炉水位低検出器	4	設置床 原子炉建物 EL 1530mm	2 ^{*41}	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし	格納容器隔離弁	手動	—	設置床 制御室建物 EL 1690mm	—	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の^①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^①と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の^{②a}及び^{②b}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^②を具体的に記載しており、整合している。 	
変更前						変更後																																																																																																														
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																							
														変更前	変更後																																																																																																					
その他	ドライウェル圧力高	4	設置床 原子炉建物 EL 2380mm	2 ^{*36}	13.7kPa 以下	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし																																																																																																							
格納容器隔離弁	原子炉水位低検出器	4	設置床 原子炉建物 EL 1530mm	—	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし																																																																																																							
変更前						変更後																																																																																																														
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	個数	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の個数	設定値	工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件																																																																																																							
														変更前	変更後																																																																																																					
その他	原子炉水位低検出器	4	設置床 原子炉建物 EL 1530mm	2 ^{*41}	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし																																																																																																							
格納容器隔離弁	手動	—	設置床 制御室建物 EL 1690mm	—	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	変更なし																																																																																																							
		<p>^{②a}</p> <p>^{②b}</p> <p><small>*34：本信号により、残留熱除去系、可燃性ガス濃度制御系、液体廃棄物処理系、試料採取系（事故後サンプリング）、補給水系、窒素ガス制御系に属する格納容器隔離弁が作動する。</small></p> <p><small>*40：本信号により、残留熱除去系、原子炉浄化系に属する格納容器隔離弁が作動する。</small></p>																																																																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(3) 制御設備</p> <p>(i) 制御材の個数及び構造</p> <p>〔(3)-①〕原子炉の反応度制御及び出力制御は、制御棒位置の調整及び原子炉再循環流量の調整によって行う。</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.1.4 主要設備</p> <p>6.1.1.4.1 原子炉出力制御系</p> <p>原子炉出力制御系は、反応度制御系及びタービン制御系からなる。更に、反応度制御系は制御棒及び制御棒駆動系並びに再循環流量制御系からなる。</p> <p><中略></p> <p>6.1.2 原子炉停止系</p> <p>6.1.2.1 概要</p> <p>6.1.2.1.2 設備の機能</p> <p>原子炉停止系における制御棒及び制御棒駆動系は、原子炉停止機能を持ち、原子炉停止は、制御棒を炉心に挿入することにより行う。</p> <p>制御棒及び制御棒駆動系は通常の運転操作に必要な速度で制御棒を炉心に挿入、引抜する。また、緊急時には急速に制御棒を炉心内に挿入して発電用原子炉を停止（以下「スクラム」という。）する。</p> <p>ほう酸水注入系は、制御棒の挿入不能の場合に、発電用原子炉に中性子吸収材を注入して負の反応度を与えて発電用原子炉を停止する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.1 反応度制御系統及び原子炉停止系統共通</p> <p>〔(3)-①〕発電用原子炉施設には、制御棒の挿入位置を調節することによって反応度を制御する制御棒及び制御棒駆動系、再循環流量を調整することによって反応度を制御する原子炉再循環流量制御系の独立した原理の異なる反応度制御系統を施設し、計画的な出力変化に伴う反応度変化を燃料要素の許容損傷限界を超えることなく制御できる能力を有する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の〔(3)-①〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(3)-①〕を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																												
<p>a. 制御棒本数 137</p> <p>b. 中性子吸収材 へ(3)(i)b.-①ほう素(ボロン・カーバイド粉末) へ(3)(i)b.-②及びハフニウム</p>	<p>第 6.1.2-1 表 制御棒の主要仕様</p> <p>本数 137 形式 十字形 材料 ステンレス鋼, 中性子吸収材他 有効長さ 約 3.63m ブレード幅 約 250mm (タイプ 1) 重量 約 100kg ブレード厚さ 約 8mm シース肉厚 約 1.2mm 中性子吸収材 吸収材 ボロン・カーバイド粉末 個数 ボロン・カーバイド粉末入り ステンレス鋼管 72 本 (制御棒 1 本あたり) ステンレス鋼管 外径 約 5.6m 内径 約 4.2mm (タイプ 2) 重量 約 100kg ブレード厚さ 約 7mm シース肉厚 約 0.8mm 中性子吸収材 吸収材 ハフニウム棒 個数 ハフニウム棒 84 本 (制御棒 1 本あたり) ハフニウム棒径 約 3mm~約 5mm</p>	<p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>2. 制御材に係る次の事項 (1) 制御棒の名称, 種類, 組成, 反応度制御能力, 停止余裕, 最大反応度価値 (制御棒グループごとに引抜く場合は, グループ及び一本の別に記載すること。), 主要寸法, 個数及び落下速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>制御棒</td> <td colspan="2"></td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>十字形 (フォロー付)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>組成^{*1}</td> <td>ボロンカーバイド粉末 ハフニウム棒</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>反応度制御能力^{*2}</td> <td>Δk</td> <td>約 0.18^{*3}</td> <td>へ(3)(i)b.-① へ(3)(i)b.-②</td> </tr> <tr> <td>停止余裕</td> <td>—</td> <td colspan="2">最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)</td> </tr> <tr> <td>最大反応度価値^{*4}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.010</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>全長^{*5}</td> <td>mm</td> <td>4530^{*6}</td> </tr> <tr> <td>有効長さ</td> <td>mm</td> <td>3632^{*6}</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>249^{*6}</td> </tr> <tr> <td>ブレード厚さ</td> <td>mm</td> <td>8.3^{*6}</td> <td>6.6^{*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">シース厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>1.1^{*6}</td> <td>0.8^{*6}</td> </tr> <tr> <td>落下速度リミッタ外径</td> <td>mm</td> <td>235^{*6}</td> <td>243^{*6}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>落下速度^{*4}</td> <td>m/s</td> <td colspan="2">0.95 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「組成/制御材」と記載 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *3: 過剰反応度約 0.14Δk に対応する値 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載 *6: 公称値を示す。</p>			変更前		変更後	名称	制御棒			変更なし	種類	十字形 (フォロー付)			組成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末 ハフニウム棒			反応度制御能力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}	へ(3)(i)b.-① へ(3)(i)b.-②	停止余裕	—	最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)		最大反応度価値 ^{*4}	Δk	約 0.010		主要寸法	全長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}	有効長さ	mm	3632 ^{*6}	幅	mm	249 ^{*6}	ブレード厚さ	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}	シース厚さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}	落下速度リミッタ外径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}	個数	—	137		落下速度 ^{*4}	m/s	0.95 以下			
		変更前		変更後																																																												
名称	制御棒			変更なし																																																												
種類	十字形 (フォロー付)																																																															
組成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末 ハフニウム棒																																																															
反応度制御能力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}	へ(3)(i)b.-① へ(3)(i)b.-②																																																													
停止余裕	—	最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)																																																														
最大反応度価値 ^{*4}	Δk	約 0.010																																																														
主要寸法	全長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}																																																													
	有効長さ	mm	3632 ^{*6}																																																													
	幅	mm	249 ^{*6}																																																													
	ブレード厚さ	mm	8.3 ^{*6}		6.6 ^{*6}																																																											
シース厚さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}																																																													
	落下速度リミッタ外径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}																																																												
個数	—	137																																																														
落下速度 ^{*4}	m/s	0.95 以下																																																														
		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のへ(3)(i)b.-①は, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のへ(3)(i)b.-①と同義であり, 整合している。 ・設計及び工事の計画のへ(3)(i)b.-②は, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のへ(3)(i)b.-②と同義であり, 整合している。 																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>c. 制御棒の構造</p> <p>制御棒は、十字形に組合せたステンレス鋼製のU字形シースの中にへ(3)(i)c.-①中性子吸収材（ボロン・カーバイド粉末を充てんしたステンレス鋼管又はハフニウム棒）を納めたもので、その上端に制御棒フォロワがあり、下端に制御棒落下速度リミッタがある。落下速度リミッタは、制御棒が万一落下した場合でも、その落下速度を0.95m/s以下に制限するようにしている。各制御棒は4体のへ(3)(i)c.-②燃料集合体の中央に、炉心全体にわたって一様に配置する。</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.2 原子炉停止系</p> <p>6.1.2.4 主要設備</p> <p>6.1.2.4.1 制御棒及び制御棒駆動系</p> <p>(1) 制御棒</p> <p>制御棒は、十字形に組み合わせたステンレス鋼製のU字形シースの中に中性子吸収材を納めたものである。従来型制御棒（タイプ1）では中性子吸収材としてボロン・カーバイド粉末を充てんしたステンレス鋼管を、また、新型制御棒（タイプ2）⁽²⁾では中性子吸収材としてハフニウム棒を使用する。ボロン・カーバイド粉末は、理論密度の約70%に振動充てんし、また、ハフニウム棒は、純度95%以上のものを使用する。</p> <p>137本の制御棒は、第3.2-10図に示すように、それぞれ4体の燃料集合体の中央に約305mmのピッチで、炉心全体にわたって一様に配置し、「3.3 核設計」に述べる炉心特性とあいまって、炉心の最大過剰反応度を十分制御できるように設計する。</p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.2 制御棒及び制御棒駆動水圧系</p> <p><中略></p> <p>制御棒は、十字形に組み合わせたステンレス鋼製のU字形シースの中にへ(3)(i)c.-①中性子吸収材を納めたものであり、各制御棒は4体のへ(3)(i)c.-②燃料体の中央に、炉心全体にわたって一様に配置する設計とする。</p> <p>制御棒の駆動は、ピストン上部又は下部に駆動水を供給することにより、原子炉圧力容器底部から行う設計とする。</p> <p>通常駆動時は、駆動水ポンプにより加圧された駆動水で駆動し、スクラム時及び選択制御棒挿入時の駆動源は、各々の制御棒駆動機構ごとに設ける水圧制御ユニットのアクチュムレータの高圧窒素により加圧された駆動水を供給することで制御棒を駆動する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(3)(i)c.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(3)(i)c.-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(3)(i)c.-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(3)(i)c.-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																		
<p>〜(3)(i)c.-③中中性子吸収材部分の長さは約3.6mである。</p>	<p>第6.1.2-1表 制御棒の主要仕様</p> <p>本数 137 形式 十字形 材料 ステンレス鋼，中性子吸収材他 有効長さ 約3.63m</p>	<p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>2. 制御材に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒の名称，種類，組成，反応度制御能力，停止余裕，最大反応度価値（制御棒グループごとに引抜く場合は，グループ及び一本の別に記載すること。），主要寸法，個数及び落下速度</p> <table border="1" data-bbox="1665 533 2783 1354"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">制御棒</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">十字形（フォロー付）</td> </tr> <tr> <td>組</td> <td>成^{*1}</td> <td>ボロンカーバイド粉末</td> <td>ハフニウム棒</td> </tr> <tr> <td>反</td> <td>応度制御能力^{*2}</td> <td>Δk</td> <td>約0.18^{*3}</td> </tr> <tr> <td>停</td> <td>止</td> <td>余</td> <td>裕</td> <td>最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標0.01Δk以上)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>大</td> <td>反</td> <td>応度価値^{*4}</td> <td>Δk</td> <td>約0.010</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>全</td> <td>長^{*5}</td> <td>mm</td> <td>4530^{*6}</td> </tr> <tr> <td>有</td> <td>効</td> <td>長さ</td> <td>mm</td> <td>3632^{*6} ③</td> </tr> <tr> <td></td> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>249^{*6}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ブ</td> <td>レ</td> <td>ード</td> <td>厚</td> <td>mm</td> <td>8.3^{*6}</td> <td>6.6^{*6}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シ</td> <td>ー</td> <td>ス</td> <td>厚</td> <td>mm</td> <td>1.1^{*6}</td> <td>0.8^{*6}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>落</td> <td>下</td> <td>速</td> <td>度</td> <td>mm</td> <td>235^{*6}</td> <td>243^{*6}</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>落</td> <td>下</td> <td>速</td> <td>度^{*4}</td> <td>m/s</td> <td>0.95以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「組成/制御材」と記載 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *3：過剰反応度約0.14Δkに対応する値 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載 *6：公称値を示す。</p> <div data-bbox="1670 1669 2783 1837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の③は，設置変更許可申請書（本文（五号））の③を詳細に記載しており，整合している。</p> </div>			変更前		変更後	名	称	制御棒		変更なし	種	類	十字形（フォロー付）		組	成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒	反	応度制御能力 ^{*2}	Δk	約0.18 ^{*3}	停	止	余	裕	最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標0.01Δk以上)	最	大	反	応度価値 ^{*4}	Δk	約0.010	主 要 寸 法	全	長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}	有	効	長さ	mm	3632 ^{*6} ③		幅	mm	249 ^{*6}		ブ	レ	ード	厚	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}		シ	ー	ス	厚	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}		落	下	速	度	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}	個	数	—	137		落	下	速	度 ^{*4}	m/s	0.95以下		
		変更前		変更後																																																																																		
名	称	制御棒		変更なし																																																																																		
種	類	十字形（フォロー付）																																																																																				
組	成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒																																																																																			
反	応度制御能力 ^{*2}	Δk	約0.18 ^{*3}																																																																																			
停	止	余	裕		最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標0.01Δk以上)																																																																																	
最	大	反	応度価値 ^{*4}		Δk	約0.010																																																																																
主 要 寸 法	全	長 ^{*5}	mm		4530 ^{*6}																																																																																	
	有	効	長さ		mm	3632 ^{*6} ③																																																																																
		幅	mm		249 ^{*6}																																																																																	
	ブ	レ	ード		厚	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}																																																																														
	シ	ー	ス	厚	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}																																																																															
	落	下	速	度	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}																																																																															
個	数	—	137																																																																																			
落	下	速	度 ^{*4}	m/s	0.95以下																																																																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 制御材駆動設備の個数及び構造</p> <p>〔(3)(ii)-①〕制御材駆動設備（制御棒駆動系）は、制御棒の位置を調整するために設ける。</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.2 原子炉停止系</p> <p>6.1.2.4 主要設備</p> <p>6.1.2.4.1 制御棒及び制御棒駆動系</p> <p>(2) 制御棒駆動機構</p> <p><中略></p> <p>また、制御棒の位置指示のため、駆動機構の中心部にインジケータ・チューブを挿入し、その中に位置指示検出器を収容する。</p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.1 反応度制御系統及び原子炉停止系統共通</p> <p>発電用原子炉施設には、〔(3)(ii)-①〕制御棒の挿入位置を調節することによって反応度を制御する制御棒及び制御棒駆動系、再循環流量を調整することによって反応度を制御する原子炉再循環流量制御系の独立した原理の異なる反応度制御系統を施設し、計画的な出力変化に伴う反応度変化を燃料要素の許容損傷限界を超えることなく制御できる能力を有する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>・設計及び工事の計画の〔(3)(ii)-①〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(3)(ii)-①〕と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																													
<p>a. 個 数 <u>137 (制御棒駆動機構)</u></p>	<p>第 6.1.2-2 表 制御棒駆動水圧系主要仕様</p> <p>制御棒駆動水圧ポンプ 2 台 (うち 1 台は予備) 流量制御弁 2 個 (うち 1 個は予備) 制御棒駆動水フィルタ 2 個 (うち 1 個は予備) 水圧制御ユニット <u>137 個</u> 制御棒駆動機構 <u>137 個</u> 連続挿入・引抜速度 76±15mm/s スクラム時挿入時間 1.62 秒以下 (全ストロークの 75%挿入, 定格圧力で全炉心平均) 水圧制御ユニット充てん圧力 約 123kg/cm²g スクラム排水容器 2 個</p>	<p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>3. 制御材駆動装置に係る次の事項 (1) 制御棒駆動機構の名称, 種類, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 駆動方法, 個数, 取付箇所, 駆動速度及び挿入時間並びに電動駆動の場合にあっては原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) 常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">—</th> <th>通</th> <th>常</th> <th>スクラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>—</td> <td colspan="2">制御棒駆動機構</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">水圧駆動ピストンラッチ方式</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">8.62*2</td> <td>変更なし 8.98*3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td colspan="2">302</td> <td>変更なし 304*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>長 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*4, *5</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*1 (□*4, *5)</td> </tr> <tr> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*4, *5</td> </tr> <tr> <td>厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*1 (□*4, *5)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>フ ラ ン ジ*1</td> <td>—</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>インジケータ*1 チ ュ ー プ</td> <td>—</td> <td colspan="2">□</td> </tr> <tr> <td>駆 動 方 法</td> <td>—</td> <td>制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動</td> <td colspan="2">アキュムレータによる蓄圧駆動</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137 (20*6)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td colspan="2">制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td colspan="2">原子炉格納容器内*5</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>駆 動 速 度</td> <td>mm/s</td> <td colspan="2">76.2 *7</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>挿 入 時 間*5</td> <td>秒</td> <td colspan="2">—</td> <td>全ストロークの 75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均) *8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和 60 年 12 月 25 日付け 60 資庁第 11431 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-3-1 制御棒駆動機構の強度計算書」による。 *2: S I 単位に換算したものである。 *3: 重大事故等時における使用時の値 *4: 公称値を示す。 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *6: 予備の個数を示す。 *7: 定格値を示す。 *8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には駆動速度の項目に記載</p>			変更前		変更後	—		通	常	スクラム	名 称	—	制御棒駆動機構		変更なし	種 類	—	水圧駆動ピストンラッチ方式		変更なし	最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3	最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3	主 要 寸 法	長 さ	mm	□*4, *5		フランジ厚さ	mm	□*1 (□*4, *5)		外 径	mm	□*4, *5		厚 さ	mm	□*1 (□*4, *5)		材 料	フ ラ ン ジ*1	—	□		インジケータ*1 チ ュ ー プ	—	□		駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動	アキュムレータによる蓄圧駆動		個 数	—	137 (20*6)		変更なし	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5		設 置 床	—	原子炉格納容器内*5		溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		駆 動 速 度	mm/s	76.2 *7		—	挿 入 時 間*5	秒	—		全ストロークの 75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均) *8		
		変更前		変更後																																																																																													
—		通	常	スクラム																																																																																													
名 称	—	制御棒駆動機構		変更なし																																																																																													
種 類	—	水圧駆動ピストンラッチ方式		変更なし																																																																																													
最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3																																																																																													
最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3																																																																																													
主 要 寸 法	長 さ	mm	□*4, *5																																																																																														
	フランジ厚さ	mm	□*1 (□*4, *5)																																																																																														
	外 径	mm	□*4, *5																																																																																														
	厚 さ	mm	□*1 (□*4, *5)																																																																																														
材 料	フ ラ ン ジ*1	—	□																																																																																														
	インジケータ*1 チ ュ ー プ	—	□																																																																																														
駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動	アキュムレータによる蓄圧駆動																																																																																														
個 数	—	137 (20*6)		変更なし																																																																																													
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5																																																																																														
	設 置 床	—	原子炉格納容器内*5																																																																																														
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																														
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—																																																																																														
駆 動 速 度	mm/s	76.2 *7		—																																																																																													
挿 入 時 間*5	秒	—		全ストロークの 75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均) *8																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																														
		<p>(2) 制御棒駆動水圧設備に係る次の事項</p> <p>(2.1) 制御棒駆動水圧系</p> <p>ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p style="text-align: center;">常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">名称</th> <th colspan="3">水圧制御ユニット</th> </tr> <tr> <th>アキュムレータ</th> <th colspan="2">窒素容器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="3">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>ℓ/個</td> <td>□ (18*¹) (水側有効容量)</td> <td colspan="2">□ (36*¹)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="3">15.2*²</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="3">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">主要寸法</td> <td>シリンダ内径</td> <td>mm</td> <td>195</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>シリンダ厚さ</td> <td>mm</td> <td>□*³ (17.8*¹)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>エンドキャップ厚さ</td> <td>mm</td> <td>□*³ (94.0*¹)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>229*¹</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>□*³ (13.5*¹)</td> </tr> <tr> <td>高さ*⁴</td> <td>mm</td> <td>927*¹</td> <td colspan="2">1005*¹</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>シリンダ</td> <td>—</td> <td>SUS304TP</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>エンドキャップ</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>GSTH</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="3">137</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td colspan="2">水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系）*⁵</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 23800mm*⁵</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名称		水圧制御ユニット			アキュムレータ	窒素容器		種類	—	たて置円筒形			容量	ℓ/個	□ (18* ¹) (水側有効容量)	□ (36* ¹)		最高使用圧力	MPa	15.2* ²			最高使用温度	℃	66			主要寸法	シリンダ内径	mm	195	—	シリンダ厚さ	mm	□* ³ (17.8* ¹)	—	エンドキャップ厚さ	mm	□* ³ (94.0* ¹)	—	胴内径	mm	—	229* ¹	胴板厚さ	mm	—	□* ³ (13.5* ¹)	高さ* ⁴	mm	927* ¹	1005* ¹		材料	シリンダ	—	SUS304TP	—	エンドキャップ	—	SUS304	—	胴板	—	—	GSTH	個数	—	137			取付箇所	系統名 (ライン名)	—	水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系）* ⁵		設置床	—	原子炉建物 EL 23800mm* ⁵		溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—			変更なし
		変更前		変更後																																																																																														
名称		水圧制御ユニット																																																																																																
		アキュムレータ	窒素容器																																																																																															
種類	—	たて置円筒形																																																																																																
容量	ℓ/個	□ (18* ¹) (水側有効容量)	□ (36* ¹)																																																																																															
最高使用圧力	MPa	15.2* ²																																																																																																
最高使用温度	℃	66																																																																																																
主要寸法	シリンダ内径	mm	195	—																																																																																														
	シリンダ厚さ	mm	□* ³ (17.8* ¹)	—																																																																																														
	エンドキャップ厚さ	mm	□* ³ (94.0* ¹)	—																																																																																														
	胴内径	mm	—	229* ¹																																																																																														
	胴板厚さ	mm	—	□* ³ (13.5* ¹)																																																																																														
	高さ* ⁴	mm	927* ¹	1005* ¹																																																																																														
材料	シリンダ	—	SUS304TP	—																																																																																														
	エンドキャップ	—	SUS304	—																																																																																														
	胴板	—	—	GSTH																																																																																														
個数	—	137																																																																																																
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系）* ⁵																																																																																															
	設置床	—	原子炉建物 EL 23800mm* ⁵																																																																																															
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																															
		<p>注記*1：公称値を示す。</p> <p>*2：S I 単位に換算したものである。</p> <p>*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-2-1-2 水圧制御ユニットの強度計算書」による。</p> <p>*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。</p>																																																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 構造</p> <p>へ(3)(ii)b.-①制御棒駆動系は、制御棒駆動機構、水圧制御ユニット、ポンプ等で構成する。</p> <p>制御棒駆動機構は、ラッチ付水圧駆動ピストン式のものであり、各制御棒に独立して設ける。この駆動は、ピストン上部又は下部に駆動水を供給して行う。通常駆動時へ(3)(ii)b.-②の駆動源は、ポンプにより加圧された駆動水であり、スクラム時及び選択制御棒挿入時の駆動源は、各々の制御棒駆動機構ごとに設ける水圧制御ユニットのアキュムレータの高圧室素により加圧された駆動水である。</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.2 原子炉停止系</p> <p>6.1.2.4 主要設備</p> <p>6.1.2.4.1 制御棒及び制御棒駆動系</p> <p>(3) 制御棒駆動水圧系</p> <p><中略></p> <p>第 3.2-7 図に駆動機構を作動させる制御棒駆動水圧系を示す。制御棒駆動水圧系の主要な構成要素には、制御棒駆動水圧ポンプ、スクラム・ディスチャージ・ボリューム、水圧制御ユニット等がある。</p> <p><中略></p> <p>(2) 制御棒駆動機構</p> <p>駆動機構は、水圧駆動ピストン形式のものである。駆動機構の概略図を第 3.1-3 図に示す。この主要構成要素は、カップリング・スパッド、インデックス・チューブと駆動ピストン、コレット集合体、ピストン・チューブとストップ・ピストン及びシリンダ・チューブである。</p> <p><中略></p> <p>(3) 制御棒駆動水圧系</p> <p>第 3.2-7 図に駆動機構を作動させる制御棒駆動水圧系を示す。制御棒駆動水圧系の主要な構成要素には、制御棒駆動水圧ポンプ、スクラム・ディスチャージ・ボリューム、水圧制御ユニット等がある。</p> <p>制御棒駆動水圧系は、制御棒の挿入、引抜、スクラム動作に必要な水圧及び流量を駆動機構に供給する。また、本システムにより原子炉冷却材圧力バウンダリに接続する 10mm（3/8 インチ）径相当程度の配管破断に対して燃料の許容設計限界をこえることなく十分に給水できる。</p> <p><中略></p> <p>a. スクラム・ディスチャージ・ボリューム</p> <p>スクラム・ディスチャージ・ボリュームは、スクラム排水容器及びスクラム排水ヘッドで構成し、スクラム時、すべての駆動機構からの排水を貯える。スクラム排水容器にはレベル・スイッチを設け水位を監視する。</p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.2 制御棒及び制御棒駆動水圧系</p> <p><中略></p> <p>へ(3)(ii)b.-①a 制御棒の駆動は、ピストン上部又は下部に駆動水を供給することにより、原子炉圧力容器底部から行う設計とする。</p> <p>通常駆動時は、へ(3)(ii)b.-②駆動水ポンプにより加圧された駆動水で駆動し、スクラム時及び選択制御棒挿入時の駆動源は、各々の制御棒駆動機構ごとに設ける水圧制御ユニットのアキュムレータの高圧室素により加圧された駆動水を供給することで制御棒を駆動する設計とする。</p> <p>原子炉冷却材の漏えいが生じた場合、その漏えい量が 10 mm(3/8 インチ)径の配管破断に相当する量以下の場合は制御棒駆動水圧ポンプで補給できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>制御棒駆動機構は、各制御棒に独立して設けられたラッチ付水圧駆動ピストン式のものであり、へ(3)(ii)b.-①b カップリング・スパッド、インデックス・チューブと駆動ピストン、コレット集合体、ピストン・チューブとストップ・ピストン及びシリンダ・チューブで構成され、制御棒の駆動動力源である制御棒駆動水圧ポンプによる水圧が喪失した場合においても、ラッチ機構により制御棒を現状位置に保持し、発電用原子炉の反応度を増加させる方向に動作させない設計とする。</p> <p>また、制御棒駆動機構と制御棒とはカップリングを介して容易に外れない構造とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(3)(ii)b.-①a 及びへ(3)(ii)b.-①b は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(3)(ii)b.-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(3)(ii)b.-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(3)(ii)b.-②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本文 (十号) 落下速度は制御棒落下速度リミッタによって制限される0.95m/sとする。</p> <p>・記載箇所 ロ(2)(ii)a.(c)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>へ(3)(ii)b.-③ポンプは、各制御棒駆動機構及び水圧制御ユニットに共用である。</p> </div>		<p>【計測制御系統施設】 (要目表)</p> <p>2. 制御材に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒の名称, 種類, 組成, 反応度制御能力, 停止余裕, 最大反応度価値 (制御棒グループごとに引抜く場合は, グループ及び一本の別に記載すること。), 主要寸法, 個数及び落下速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>制御棒</td> <td colspan="2"></td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">十字形 (フォロー付)</td> </tr> <tr> <td>組 成^{*1}</td> <td>—</td> <td>ボロンカーバイド粉末</td> <td>ハフニウム棒</td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力^{*2}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.18^{*3}</td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>—</td> <td colspan="2">最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)</td> </tr> <tr> <td>最 大 反 応 度 価 値^{*4}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.010</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>全 長^{*5}</td> <td>mm</td> <td>4530^{*6}</td> </tr> <tr> <td>有 効 長 さ</td> <td>mm</td> <td>3632^{*6}</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>249^{*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法</td> <td>ブ レ ー ド 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>8.3^{*6}</td> <td>6.6^{*6}</td> </tr> <tr> <td>シ ー ス 厚 さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>1.1^{*6}</td> <td>0.8^{*6}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>落 下 速 度 リ ミ ッ タ 外 径</td> <td>mm</td> <td>235^{*6}</td> <td>243^{*6}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>落 下 速 度^{*4}</td> <td>m/s</td> <td colspan="2">0.95 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「組成/制御材」と記載 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *3: 過剰反応度約 0.14 Δk に対応する値 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載 *6: 公称値を示す。</p>			変更前		変更後	名 称	制御棒			変更なし	種 類	—	十字形 (フォロー付)		組 成 ^{*1}	—	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒	反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}		停 止 余 裕	—	最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)		最 大 反 応 度 価 値 ^{*4}	Δk	約 0.010		主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}	有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}	幅	mm	249 ^{*6}	法	ブ レ ー ド 厚 さ	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}	シ ー ス 厚 さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}		落 下 速 度 リ ミ ッ タ 外 径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}	個 数	—	137		落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下			
		変更前		変更後																																																														
名 称	制御棒			変更なし																																																														
種 類	—	十字形 (フォロー付)																																																																
組 成 ^{*1}	—	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒																																																															
反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}																																																																
停 止 余 裕	—	最大価値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)																																																																
最 大 反 応 度 価 値 ^{*4}	Δk	約 0.010																																																																
主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}																																																															
	有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}																																																															
	幅	mm	249 ^{*6}																																																															
法	ブ レ ー ド 厚 さ	mm	8.3 ^{*6}		6.6 ^{*6}																																																													
	シ ー ス 厚 さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}																																																														
	落 下 速 度 リ ミ ッ タ 外 径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}																																																														
個 数	—	137																																																																
落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下																																																																
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書 (本文 (五号)) において許可を受けたへ(3)(ii)b.-③は, 新規性基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> </div>																																																																

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																															
<p>c. 制御棒駆動機構の取付箇所 へ(3)(ii)c.-①原子炉 圧力容器底部</p> <p>d. 通常時駆動速度及びスクラム時挿入時間</p> <p>1) 通常時駆動速度 へ(3)(ii)d.-②a約7.6cm/s</p> <p>2) スクラム時挿入時間 1.62 秒以下</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">全ストロークの75%挿入までの 時間, 全制御棒についての平均 値, 原子炉定格圧力において</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本文 (十号) スクラム時挿入時間 全ストロークの75%でへ(3)(ii)d.-①1.84 秒</p> <p>・記載箇所 イ(2)(i)d.(c)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本文 (十号) へ(3)(ii)d.-②b制御棒は、引抜速度の上限値9.1cm/s で引き抜かれるとする...</p> <p>・記載箇所 イ(2)(ii)a.(a)c), ハ(2)(ii)d.(d)(d-7)</p> </div>	<p>第 6.1.2-2 表 制御棒駆動水圧系主要仕様 <中略></p> <p>連続挿入・引抜速度 $76 \pm 15 \text{mm/s}$ スクラム時挿入時間 <u>1.62 秒以下 (全ストロークの75%挿入, 定格圧力で全炉心平均)</u></p> <p>第 6.1.2-2 表 制御棒駆動水圧系主要仕様 <中略></p> <p>連続挿入・引抜速度 $76 \pm 15 \text{mm/s}$ <中略></p>	<p>3. 制御材駆動装置に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒駆動機構の名称, 種類, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 駆動方法, 個数, 取付箇所, 駆動速度及び挿入時間並びに電動駆動の場合にあっては原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p style="text-align: center;">常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>通</th> <th>常</th> <th>スクラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>制御棒駆動機構</td> <td colspan="2"></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>水圧駆動ピストンラッチ方式</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">8.62*2</td> <td>変更なし 8.98*3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td colspan="2">302</td> <td>変更なし 304*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>長 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2"> *4, *5</td> </tr> <tr> <td>フ ラ ン ジ 厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2"> *1 (*4, *5)</td> </tr> <tr> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2"> *4, *5</td> </tr> <tr> <td>厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2"> *1 (*4, *5)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>フ ラ ン ジ*1</td> <td>—</td> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>インジケータ*1 チ ュ ー プ</td> <td>—</td> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>駆 動 方 法</td> <td>—</td> <td>制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動</td> <td colspan="2">アキュムレータによる 蓄圧駆動</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137 (20*6)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td colspan="2">制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td colspan="2">原子炉格納容器内*5</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td colspan="2">へ(3)(ii)c.-①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">へ(3)(ii)d.-②</td> </tr> <tr> <td>駆 動 速 度</td> <td>mm/s</td> <td colspan="2">76.2*7</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>挿 入 時 間*5</td> <td>秒</td> <td>—</td> <td colspan="2">全ストロークの75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均)*8</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後			通	常	スクラム	名 称	制御棒駆動機構			変更なし	種 類	水圧駆動ピストンラッチ方式				最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3	最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3	主 要 寸 法	長 さ	mm	 *4, *5		フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	 *1 (*4, *5)		外 径	mm	 *4, *5		厚 さ	mm	 *1 (*4, *5)		材 料	フ ラ ン ジ*1	—	 		インジケータ*1 チ ュ ー プ	—	 		駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動	アキュムレータによる 蓄圧駆動		個 数	—	137 (20*6)		変更なし	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5		設 置 床	—	原子炉格納容器内*5		溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	へ(3)(ii)c.-①			溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	へ(3)(ii)d.-②		駆 動 速 度	mm/s	76.2*7		—	挿 入 時 間*5	秒	—	全ストロークの75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均)*8		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のへ(3)(ii)c.-①は, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のへ(3)(ii)c.-①と同義であり, 整合している。 設置変更許可申請書 (本文 (十号)) のへ(3)(ii)d.-①は, 設計及び工事の計画のへ(3)(ii)d.-①を解析上, 保守的に設定しており, 整合している。 設計及び工事の計画のへ(3)(ii)d.-②は, 設置変更許可申請書 (本文 (五号)) のへ(3)(ii)d.-②aと同義 (約 7.6cm/s=76.2 mm/s) であり, 整合している。 <p>また, 設置変更許可申請書 (本文 (十号)) のへ(3)(ii)d.-②bは, 設計及び工事の計画のへ(3)(ii)d.-②を解析上, 保守的に設定しており, 整合している。</p>	<p>注記*1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-3-1 制御棒駆動機構の強度計算書」による。</p> <p>*2: S I 単位に換算したものである。</p> <p>*3: 重大事故等時における使用時の値</p> <p>*4: 公称値を示す。</p> <p>*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。</p> <p>*6: 予備の個数を示す。</p> <p>*7: 定格値を示す。</p> <p>*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には駆動速度の項目に記載</p>	<p style="text-align: center;">へ(3)(ii)d.-①</p>
		変更前		変更後																																																																																															
		通	常	スクラム																																																																																															
名 称	制御棒駆動機構			変更なし																																																																																															
種 類	水圧駆動ピストンラッチ方式																																																																																																		
最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3																																																																																															
最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3																																																																																															
主 要 寸 法	長 さ	mm	 *4, *5																																																																																																
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	 *1 (*4, *5)																																																																																																
	外 径	mm	 *4, *5																																																																																																
	厚 さ	mm	 *1 (*4, *5)																																																																																																
材 料	フ ラ ン ジ*1	—	 																																																																																																
	インジケータ*1 チ ュ ー プ	—	 																																																																																																
駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプ による水圧駆動	アキュムレータによる 蓄圧駆動																																																																																																
個 数	—	137 (20*6)		変更なし																																																																																															
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5																																																																																																
	設 置 床	—	原子炉格納容器内*5																																																																																																
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	へ(3)(ii)c.-①																																																																																																
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	へ(3)(ii)d.-②																																																																																																
駆 動 速 度	mm/s	76.2*7		—																																																																																															
挿 入 時 間*5	秒	—	全ストロークの75% 挿入まで 1.62 以下 (全炉心平均)*8																																																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																
<p>(iii) 反応度制御能力</p> <p>a. 反応度制御能力 約0.18 Δk</p> <p>b. 反応度停止余裕 実効増倍率 1未満 〜(3)(iii)a.-①制御棒が1本抜けているとき)</p>	<p>1. 安全設計</p> <p>1.2 発電用軽水型原子炉施設に関する安全設計審査指針への適合</p> <p>指針 22. 原子炉停止能力 適合のための設計方針 <中略></p> <p>反応度制御能力 約 0.18 Δk (最大過剰増倍率約 0.14 Δk の場合)</p> <p>指針 23. 原子力停止系の反応度停止余裕 適合のための設計方針</p> <p>最大の反応度値をもつ制御棒1本が完全に炉心の外に引き抜かれていて、その他の制御棒が全挿入の場合、高温状態及び低温状態において常に炉心を臨界未満にできる設計とする。</p> <p>また、原子炉運転中に、完全に挿入されている制御棒を除く、他のいずれかの制御棒が動作不能となった場合は、動作可能な制御棒のうち最大反応度値を有する制御棒1本が完全に炉心の外に引き抜かれた状態でも、他のすべての動作可能な制御棒により、炉心を高温状態及び低温状態において炉心を臨界未満にできることを評価確認する。</p> <p>この確認ができない場合には、発電用原子炉を停止するように運転管理手順を定める。</p>	<p>2. 制御材に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒の名称、種類、組成、反応度制御能力、停止余裕、最大反応度値（制御棒グループごとに引抜く場合は、グループ及び一本の別に記載すること。）、主要寸法、個数及び落下速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">制御棒</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">十字形（フォロワ付）</td> </tr> <tr> <td>組</td> <td>成^{*1}</td> <td>ボロンカーバイド粉末</td> <td>ハフニウム棒</td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力^{*2}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.18^{*3}</td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>—</td> <td colspan="2">最大値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)</td> </tr> <tr> <td>最 大 反 応 度 値^{*4}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.010</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主 要 寸 法</td> <td>全 長^{*5}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">4530^{*6}</td> </tr> <tr> <td>有 効 長 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">3632^{*6}</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td colspan="2">249^{*6}</td> </tr> <tr> <td>ブ レ ー ド 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>8.3^{*6}</td> <td>6.6^{*6}</td> </tr> <tr> <td>シ ー ス 厚 さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>1.1^{*6}</td> <td>0.8^{*6}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>落 下 速 度^{*4}</td> <td>mm</td> <td>235^{*6}</td> <td>243^{*6}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>落 下 速 度^{*4}</td> <td>m/s</td> <td colspan="2">0.95 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「組成/制御材」と記載</p> <p style="margin-left: 20px;">*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載</p> <p style="margin-left: 20px;">*3：過剰反応度約 0.14 Δk に対応する値</p> <p style="margin-left: 20px;">*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p style="margin-left: 20px;">*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載</p> <p style="margin-left: 20px;">*6：公称値を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の〜(3)(iii)a.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〜(3)(iii)a.-①と同義であり、整合している。</p> </div>			変更前		変更後	名	称	制御棒		変更なし	種	類	十字形（フォロワ付）		組	成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒	反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}		停 止 余 裕	—	最大値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)		最 大 反 応 度 値 ^{*4}	Δk	約 0.010		主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}		有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}		幅	mm	249 ^{*6}		ブ レ ー ド 厚 さ	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}	シ ー ス 厚 さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}		落 下 速 度 ^{*4}	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}	個 数	—	137		落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下			
		変更前		変更後																																																																
名	称	制御棒		変更なし																																																																
種	類	十字形（フォロワ付）																																																																		
組	成 ^{*1}	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒																																																																	
反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}																																																																		
停 止 余 裕	—	最大値制御棒1本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率<1 (設計目標 0.01 Δk 以上)																																																																		
最 大 反 応 度 値 ^{*4}	Δk	約 0.010																																																																		
主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}																																																																	
	有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}																																																																	
	幅	mm	249 ^{*6}																																																																	
	ブ レ ー ド 厚 さ	mm	8.3 ^{*6}		6.6 ^{*6}																																																															
	シ ー ス 厚 さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}																																																																
	落 下 速 度 ^{*4}	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}																																																																
個 数	—	137																																																																		
落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下																																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(4) 非常用制御設備 (i) 制御材の個数及び構造</p> <p>〔(4)(i)-①〕非常用制御設備としてほう酸水注入系を設ける。この系は、手でポンプを起動して、中性子を吸収するほう素（五ほう酸ナトリウム溶液）を原子炉压力容器に注入し、発電用原子炉を臨界未満にする。</p> <p>a. 系統数 〔(4)(i)a.-①〕1.</p>	<p>6. 計測制御系統施設 6.1 原子炉制御系 6.1.2 原子炉停止系 6.1.2.4 主要設備 6.1.2.4.2 ほう酸水注入系</p> <p>ほう酸水注入系は、制御棒の挿入不能によって発電用原子炉の低温停止ができない場合に、中性子吸収材を炉心底部から注入して毎分0.001Δk以上の負の反応度を与え、発電用原子炉を徐々に低温停止する能力をもっている。予備的計算によれば、ほう酸水注入系は約30分間で低温停止に必要な負の反応度を投入する能力を有している。</p> <p>中性子吸収材としては、発電用原子炉を定格出力運転状態から0.05Δk以上の余裕をもって低温停止し、この状態に維持することができる濃度の五ほう酸ナトリウム溶液を使用する。</p> <p>ほう酸水注入系は、第6.7-3図に示すように、ほう酸水貯蔵タンク、ポンプ、テスト・タンク、配管、弁等で構成する。</p> <p>第6.1.2-3表 ほう酸水注入系主要仕様 系統数 1.</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 計測制御系統施設 1.4 ほう酸水注入系</p> <p>ほう酸水注入系〔(4)(i)-①〕は、制御棒挿入による原子炉停止が不能になった場合、手で中性子を吸収するほう酸水（五ほう酸ナトリウム溶液）を炉心に注入する設備であり、単独で定格出力運転中の発電用原子炉を高温状態及び低温状態において十分未臨界に維持できるだけの反応度効果を持つ設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の〔(4)(i)-①〕は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(4)(i)-①〕と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の〔(4)(i)a.-①〕は、設計及び工事の計画の「第5-3-1-3-1図 計測制御系統施設のうちほう酸水注入設備（ほう酸水注入系）の系統図（その1）（設計基準対象施設）」の記載と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																										
<p>b. 中性子吸収材 へ(4)(i)b.-①ほう素（五ほう酸ナトリウム溶液）</p>	<p>中性子吸収材 ほう素（五ほう酸ナトリウム溶液） <中略></p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表） 2. 制御材に係る次の事項 (2) ほう酸水の名称，種類，組成，反応度制御能力，停止余裕，負の反応度添加率及び貯蔵量</p> <table border="1" data-bbox="1665 443 2739 816"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td>ほう酸水</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>ほう酸水</td> </tr> <tr> <td>組 成</td> <td>wt%</td> <td>五ほう酸ナトリウム濃度 □</td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力*1</td> <td>Δk</td> <td>約 0.18 へ(4)(i)b.-①</td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>Δk</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>負 の 反 応 度 添 加 率*2</td> <td>Δk</td> <td>毎分 0.001 以上</td> </tr> <tr> <td>貯 蔵 量*3</td> <td>m³</td> <td>□（最 小）</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貯蔵容量」と記載</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>設計及び工事の計画の へ(4)(i)b.-①は，設置変更許可申請書（本文（五号））の へ(4)(i)b.-①と同義であり，整合している。</p> </div>			変更前	変更後	名 称		ほう酸水	変更なし	種 類	—	ほう酸水	組 成	wt%	五ほう酸ナトリウム濃度 □	反 応 度 制 御 能 力*1	Δk	約 0.18 へ(4)(i)b.-①	停 止 余 裕	Δk	0.05	負 の 反 応 度 添 加 率*2	Δk	毎分 0.001 以上	貯 蔵 量*3	m ³	□ （最 小）		
		変更前	変更後																											
名 称		ほう酸水	変更なし																											
種 類	—	ほう酸水																												
組 成	wt%	五ほう酸ナトリウム濃度 □																												
反 応 度 制 御 能 力*1	Δk	約 0.18 へ(4)(i)b.-①																												
停 止 余 裕	Δk	0.05																												
負 の 反 応 度 添 加 率*2	Δk	毎分 0.001 以上																												
貯 蔵 量*3	m ³	□ （最 小）																												

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																		
<p>(ii) 主要な機器の個数及び構造</p> <p>ポンプ</p> <p>台数 へ(4)(ii)-① 2 (うち1台は予備)...</p> <p>容量 へ(4)(ii)-② 約10m³/h/台</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文（十号）</p> <p>へ(4)(ii)-③162L/min</p> <p>・記載箇所</p> <p>ハ(2)(ii)b.(e)(e-11)</p> </div> <p>全揚程 へ(4)(ii)-④ 約870m</p>	<p>ポンプ</p> <p>台数 2 (うち1台は予備)...</p> <p>容量 約10m³/h/台</p> <p>全揚程 約870m</p>	<p>4. ほう酸水注入設備に係る次の事項</p> <p>4.1 ほう酸水注入系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p style="text-align: center;">常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 15%;">変更前</th> <th style="width: 15%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>名 称</td> <td>ほう酸水注入ポンプ</td> <td>ほう酸水注入ポンプ*<!--1</td--> </td></tr> <tr> <td>種 類</td> <td>往復形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容 量*<!--2</td--> <td>□以上*3 (9.72*4)</td> <td>へ(4)(ii)-②, へ(4)(ii)-③</td> </td></tr> <tr> <td>吐 出 圧 力</td> <td>MPa □以上*3 (11.04*4, *6)</td> <td>へ(4)(ii)-④</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa 吸込側 0.93*5, *6 / 吐出側 11.8*5, *6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃ 66</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 内 径*3</td> <td>mm 78.1*4</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径*3</td> <td>mm 38.4*4</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ*3</td> <td>mm □ (17.6*4)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>リキッドシリンダー</td> <td>□</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リキッドシリンダーカバー</td> <td>□</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 15%;">変更前</th> <th style="width: 15%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ</td> <td>個 数</td> <td>2*5 へ(4)(ii)-①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系)*3</td> <td>B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系)*3</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm*3</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm*3</td> </tr> <tr> <td>取 付 所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原動機</td> <td>種 類</td> <td>誘導電動機</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個 □*4</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>2*5</td> </tr> <tr> <td>取 付 所</td> <td>ポンプと同じ*3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	ポンプ	名 称	ほう酸水注入ポンプ	ほう酸水注入ポンプ* 1</td	種 類	往復形		容 量* 2</td <td>□以上*3 (9.72*4)</td> <td>へ(4)(ii)-②, へ(4)(ii)-③</td>	□ 以上*3 (9.72*4)	へ(4)(ii)-② , へ(4)(ii)-③	吐 出 圧 力	MPa □ 以上*3 (11.04*4, *6)	へ(4)(ii)-④	最 高 使 用 圧 力	MPa 吸込側 0.93*5, *6 / 吐出側 11.8*5, *6		最 高 使 用 温 度	℃ 66		主 要 寸 法	吸 込 内 径*3	mm 78.1*4	変更なし	吐 出 内 径*3	mm 38.4*4	ケーシング厚さ*3	mm □ (17.6*4)	材 料	リキッドシリンダー	□		リキッドシリンダーカバー	□				変更前	変更後	ポンプ	個 数	2*5 へ(4)(ii)-①		系 統 名 (ライン名)	A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系)*3	B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系)*3	設 置 床	原子炉建物 EL 34800mm*3	原子炉建物 EL 34800mm*3	取 付 所			原動機	種 類	誘導電動機	変更なし	出 力	kW/個 □ *4	個 数	2*5	取 付 所	ポンプと同じ*3		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のへ(4)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(4)(ii)-①と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画のへ(4)(ii)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(4)(ii)-②を詳細に記載しており、整合している。 へ(4)(ii)-③ 9.72m³/h÷60min×1000=162L/min 設計及び工事の計画のへ(4)(ii)-④の全揚程 (11.04MPa×1000÷9.8=1126.531m) は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(4)(ii)-④（ポンプの定格仕様値）を上回っているため、満足している。 </div>	<p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（ほう酸水注入系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ほう酸水注入系）と兼用</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載</p> <p>*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*4：公称値を示す。</p> <p>*5：S1単位に換算したものである。</p> <p>*6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「ほう酸水貯蔵タンクからほう酸水注入ポンプ」及び「ほう酸水注入ポンプから差圧検出・ほう酸水注入系配管（ティーよりN11ノズルまでの外管）まで」による。</p>
		変更前	変更後																																																																			
ポンプ	名 称	ほう酸水注入ポンプ	ほう酸水注入ポンプ* 1</td																																																																			
	種 類	往復形																																																																				
	容 量* 2</td <td>□以上*3 (9.72*4)</td> <td>へ(4)(ii)-②, へ(4)(ii)-③</td>	□ 以上*3 (9.72*4)	へ(4)(ii)-② , へ(4)(ii)-③																																																																			
	吐 出 圧 力	MPa □ 以上*3 (11.04*4, *6)	へ(4)(ii)-④																																																																			
	最 高 使 用 圧 力	MPa 吸込側 0.93*5, *6 / 吐出側 11.8*5, *6																																																																				
	最 高 使 用 温 度	℃ 66																																																																				
	主 要 寸 法	吸 込 内 径*3	mm 78.1*4	変更なし																																																																		
		吐 出 内 径*3	mm 38.4*4																																																																			
		ケーシング厚さ*3	mm □ (17.6*4)																																																																			
	材 料	リキッドシリンダー	□																																																																			
リキッドシリンダーカバー		□																																																																				
		変更前	変更後																																																																			
ポンプ	個 数	2*5 へ(4)(ii)-①																																																																				
	系 統 名 (ライン名)	A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系)*3	B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系)*3																																																																			
	設 置 床	原子炉建物 EL 34800mm*3	原子炉建物 EL 34800mm*3																																																																			
	取 付 所																																																																					
原動機	種 類	誘導電動機	変更なし																																																																			
	出 力	kW/個 □ *4																																																																				
	個 数	2*5																																																																				
取 付 所	ポンプと同じ*3																																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																					
<p>ほう酸水貯蔵タンク</p> <p>基数 <u>1</u></p> <p>容量 へ(4)(ii)-⑤約20m³</p>	<p>第6.1.2-3表 ほう酸水注入系主要仕様 <中略></p> <p>ほう酸水貯蔵タンク</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">材</td> <td style="width: 10%;">料</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>基</td> <td>数</td> <td><u>1</u></td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>約20m³</td> </tr> </table>	材	料	ステンレス鋼	基	数	<u>1</u>	容	量	約20m ³	<p>(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク*1</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>m³/個 □以上(23.2*2)</td> <td>へ(4)(ii)-⑤</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>静水頭</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">主 要 寸 法</td> <td>胴</td> <td>内 径</td> <td>mm</td> <td>3000*2</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (8.0*2)</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (10.0*2)</td> </tr> <tr> <td>平</td> <td>板 厚 さ*4</td> <td>mm</td> <td>8.0*2</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台 外 径 (流 体 出 口) *5</td> <td>mm</td> <td>89.1*2</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台 厚 さ (流 体 出 口) *3</td> <td>mm</td> <td>□ (5.5*2)</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台 外 径 (加 熱 用 ヒ ー タ) *5</td> <td>mm</td> <td>267.4*2</td> </tr> <tr> <td>管</td> <td>台 厚 さ (加 熱 用 ヒ ー タ) *3</td> <td>mm</td> <td>□ (9.3*2)</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ*6</td> <td>mm</td> <td>3858*2, *4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>胴</td> <td>板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td><u>1</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取 付 箇 所</td> <td>系</td> <td>統 名</td> <td>—</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系) *4</td> </tr> <tr> <td>設</td> <td>置 床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm*4</td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	名	称	ほう酸水貯蔵タンク	ほう酸水貯蔵タンク*1	種	類	—	たて置円筒形	容	量	m ³ /個 □ 以上(23.2*2)	へ(4)(ii)-⑤	最	高 使 用 圧 力	MPa	静水頭	最	高 使 用 温 度	℃	66	主 要 寸 法	胴	内 径	mm	3000*2	胴	板 厚 さ	mm	□ *3 (8.0*2)	底	板 厚 さ	mm	□ *3 (10.0*2)	平	板 厚 さ*4	mm	8.0*2	管	台 外 径 (流 体 出 口) *5	mm	89.1*2	管	台 厚 さ (流 体 出 口) *3	mm	□ (5.5*2)	管	台 外 径 (加 熱 用 ヒ ー タ) *5	mm	267.4*2	管	台 厚 さ (加 熱 用 ヒ ー タ) *3	mm	□ (9.3*2)	高	さ*6	mm	3858*2, *4	材 料	胴	板	—	SUS316L	底	板	—	SUS316L	個	数	—	<u>1</u>	取 付 箇 所	系	統 名	—	ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系) *4	設	置 床	—	原子炉建物 EL 34800mm*4	溢	水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	溢	水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	—	<p>変更なし</p>	
材	料	ステンレス鋼																																																																																																							
基	数	<u>1</u>																																																																																																							
容	量	約20m ³																																																																																																							
		変更前	変更後																																																																																																						
名	称	ほう酸水貯蔵タンク	ほう酸水貯蔵タンク*1																																																																																																						
種	類	—	たて置円筒形																																																																																																						
容	量	m ³ /個 □ 以上(23.2*2)	へ(4)(ii)-⑤																																																																																																						
最	高 使 用 圧 力	MPa	静水頭																																																																																																						
最	高 使 用 温 度	℃	66																																																																																																						
主 要 寸 法	胴	内 径	mm	3000*2																																																																																																					
	胴	板 厚 さ	mm	□ *3 (8.0*2)																																																																																																					
	底	板 厚 さ	mm	□ *3 (10.0*2)																																																																																																					
	平	板 厚 さ*4	mm	8.0*2																																																																																																					
	管	台 外 径 (流 体 出 口) *5	mm	89.1*2																																																																																																					
	管	台 厚 さ (流 体 出 口) *3	mm	□ (5.5*2)																																																																																																					
	管	台 外 径 (加 熱 用 ヒ ー タ) *5	mm	267.4*2																																																																																																					
	管	台 厚 さ (加 熱 用 ヒ ー タ) *3	mm	□ (9.3*2)																																																																																																					
高	さ*6	mm	3858*2, *4																																																																																																						
材 料	胴	板	—	SUS316L																																																																																																					
	底	板	—	SUS316L																																																																																																					
個	数	—	<u>1</u>																																																																																																						
取 付 箇 所	系	統 名	—	ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系) *4																																																																																																					
	設	置 床	—	原子炉建物 EL 34800mm*4																																																																																																					
	溢	水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																																					
溢	水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	—																																																																																																					
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のへ(4)(ii)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(4)(ii)-⑤を詳細に記載しており、整合している。</p> </div>		<p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（ほう酸水注入系）、（水の供給設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ほう酸水注入系）と兼用</p> <p>*2：公称値を示す。</p> <p>*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-3-2-1 ほう酸水貯蔵タンクの強度計算書」による。</p> <p>*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「第6-4-3 図 ほう酸水貯蔵タンク構造図」による。</p> <p>*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高 3850」と記載</p>																																																																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																										
<p>(iii) 反応度制御能力</p> <p>a. へ(4)(iii)a.-①定格出力運転中に引抜状態にある全制御棒が挿入不能の場合でも、炉心の実効増倍率を低温で0.95未満にできる（MOX燃料が装荷されるまでのサイクル）。</p> <p>定格出力運転中に引抜状態にある全制御棒が挿入不能の場合でも、炉心のへ(4)(iii)a.-②実効増倍率を0.985以下にできる（MOX燃料が装荷されたサイクル以降）。</p> <p>b. 反応度添加速度 <u>0.001Δk/min 以上</u></p>	<p>第6.1.2-3表 ほう酸水注入系主要仕様 <中略></p> <p>停止時実効増倍率 $k_{eff} < 0.95$</p> <p>反応度投入速度 最低 <u>0.001 Δk/min</u></p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.4 ほう酸水注入系</p> <p>へ(4)(iii)a.-①ほう酸水注入系は、制御棒挿入による原子炉停止が不能になった場合、手で中性子を吸収するほう酸水（五ほう酸ナトリウム溶液）を炉心に注入する設備であり、単独で定格出力運転中の発電用原子炉を高温状態及び低温状態において十分未臨界に維持できるだけの反応度効果を持つ設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>2. 制御材に係る次の事項</p> <p>(2) ほう酸水の名称、種類、組成、反応度制御能力、停止余裕、負の反応度添加率及び貯蔵量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>ほう酸水</td> <td></td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>ほう酸水</td> <td></td> </tr> <tr> <td>組 成</td> <td>五ほう酸ナトリウム濃度 □</td> <td></td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力*1</td> <td>Δk 約 0.18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>Δk 0.05 へ(4)(iii)a.-①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負 の 反 応 度 添 加 率*2</td> <td>Δk 毎分 0.001 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>貯 蔵 量*3</td> <td>m³ □ (最小)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載</p> <p>*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貯蔵容量」と記載</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けたへ(4)(iii)a.-②は、9×9燃料のみを申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> </div>			変 更 前	変更後	名 称	ほう酸水		変更なし	種 類	ほう酸水		組 成	五ほう酸ナトリウム濃度 □		反 応 度 制 御 能 力*1	Δk 約 0.18		停 止 余 裕	Δk 0.05 へ(4)(iii)a.-①		負 の 反 応 度 添 加 率*2	Δk 毎分 0.001 以上		貯 蔵 量*3	m ³ □ (最小)		<p>設計及び工事の計画のへ(4)(iii)a.-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(4)(iii)a.-①と同義であり、整合している。</p>	
		変 更 前	変更後																											
名 称	ほう酸水		変更なし																											
種 類	ほう酸水																													
組 成	五ほう酸ナトリウム濃度 □																													
反 応 度 制 御 能 力*1	Δk 約 0.18																													
停 止 余 裕	Δk 0.05 へ(4)(iii)a.-①																													
負 の 反 応 度 添 加 率*2	Δk 毎分 0.001 以上																													
貯 蔵 量*3	m ³ □ (最小)																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(5) その他の主要な事項</p> <p>(i) 制御棒引抜阻止回路</p> <p>へ(5)(i)-①次のような場合には、制御棒の引抜を阻止する。</p> <p>a. 原子炉モード・スイッチが「停止」位置にある場合</p> <p>b. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、1本制御棒が引抜かれているとき</p> <p>c. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、燃料取替機が原子炉上部にあり、荷重中のとき</p> <p>d. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、スクラム排出水容器水位高によるスクラム信号をバイパスしているとき</p> <p>e. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」又は「起動」位置にある場合で、中性子源領域計装又は中間領域計装の指示高、指示低若しくは動作不能及び同計装の検出器が炉心内の所定の位置にないとき</p> <p>f. 原子炉モード・スイッチが「運転」位置にある場合で、平均出力領域計装の指示低のとき</p> <p>g. 平均出力領域計装の指示高又は動作不能のとき</p> <p>h. スクラム排出水容器水位高による制御棒引抜阻止信号のあるとき</p> <p>i. 制御棒価値ミニマイザによる制御棒引抜阻止信号のあるとき</p> <p>j. 制御棒引抜監視装置からの制御棒引抜阻止信号のあるとき</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.3 運転監視補助装置</p> <p>6.1.3.4 主要設備</p> <p>(1) 制御棒引抜阻止</p> <p>次のような場合には、制御棒の引抜を阻止するインターロックを設ける。</p> <p>a. 原子炉モード・スイッチが「停止」位置にある場合</p> <p>b. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、1本制御棒が引抜かれているとき</p> <p>c. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、燃料取替機が原子炉上部にあり、荷重中のとき</p> <p>d. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」位置にある場合で、スクラム排出水容器水位高によるスクラム信号をバイパスしているとき</p> <p>e. 原子炉モード・スイッチが「燃料取替」又は「起動」位置にある場合で、中性子源領域計装又は中間領域計装の指示高、指示低若しくは動作不能及び同計装の検出器が炉心内の所定の位置にないとき</p> <p>f. 原子炉モード・スイッチが「運転」位置にある場合で、平均出力領域計装の指示低のとき</p> <p>g. 平均出力領域計装の指示高又は動作不能のとき（ただし、指示高による制御棒引抜阻止の設定点は、再循環流量の変化に対して自動的に変えられるようにしている。）</p> <p>h. スクラム排出水容器水位高による制御棒引抜阻止信号のあるとき</p> <p>i. 制御棒価値ミニマイザによる制御棒引抜阻止信号のあるとき</p> <p>j. 制御棒引抜監視装置からの制御棒引抜阻止信号のあるとき（ただし、制御棒引抜阻止は任意の出力運転状態からの制御棒引抜によってMCPRが過渡時の限界値を下回らないようにするために設けられており、この制御棒引抜阻止信号の設定点は、再循環流量によって変えられるようになっている。）</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.2 制御棒及び制御棒駆動水圧系</p> <p><中略></p> <p>へ(5)(i)-①制御棒は、原子炉モードスイッチが「停止」の位置にあるとき、原子炉モードスイッチが「燃料取替」位置にある場合で、1本制御棒が引抜かれているとき、原子炉モードスイッチが「燃料取替」位置にある場合で、燃料取替機が原子炉上部にあり、荷重中のとき、原子炉モードスイッチが「燃料取替」位置にある場合で、スクラム排出水容器水位高によるスクラム信号をバイパスしているとき、原子炉モードスイッチが「燃料取替」又は「起動」位置にある場合で、中性子源領域計装又は中間領域計装の指示高、指示低若しくは動作不能及び同計装の検出器が炉心内の所定の位置にないとき、原子炉モードスイッチが「運転」位置にある場合で、平均出力領域計装の指示低のとき、平均出力領域計装の指示高又は動作不能のとき、スクラム排出水容器水位高による制御棒引抜阻止信号のあるとき、制御棒価値ミニマイザによる制御棒引抜阻止信号のあるときは、引抜きを阻止できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(i)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ii) 警報装置</p> <p>中性子束, 温度, 圧力, 流量, 水位, へ(5) (ii) -①放射線レベル等のプロセス量に異常を生じた場合又は工学的安全施設が作動した場合へ(5) (ii) -②等, 中央制御室に警報を発するための装置を設ける。</p>	<p>6.6 安全保護系</p> <p>6.6.2 設計方針</p> <p>(8) 安全保護系は, 監視装置, 警報等によりその作動状況が確認できる設計とする。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 計測装置等</p> <p>2.2 警報装置等</p> <p>設計基準対象施設は, 発電用原子炉施設の機械又は器具の機能の喪失, 誤操作その他の異常により発電用原子炉の運転に著しい支障を及ぼすおそれが発生した場合（中性子束, 温度, 圧力, 流量, 水位へ(5) (ii) -①a等のプロセス変数が異常値になった場合, 工学的安全施設が作動した場合へ(5) (ii) -②a等）に, これらを実際に検出して自動的に警報（原子炉水位低又は高, 原子炉圧力高, 中性子束高等）を発信する装置を設けるとともに, 表示ランプの点灯, ブザー鳴動等により運転員に通報できる設計とする。</p> <p>発電用原子炉並びに原子炉冷却系統及び放射性廃棄物を処理し, 又は貯蔵する設備に係る主要な機械又は器具の動作状態を正確, かつ迅速に把握できるようポンプの運転停止状態, 弁の開閉状態等を表示灯により監視できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 計測装置等</p> <p><中略></p> <p>へ(5) (ii) -②b燃料プールの水溫の著しい上昇又は燃料プールの水位の著しい低下の場合に, これらを実際に検知して自動的に中央制御室に警報（燃料プール水溫高又は燃料プール水位低）を発信する装置を設けるとともに, 表示ランプの点灯, ブザー鳴動等により運転員に通報できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射性廃棄物の廃棄施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 警報装置等</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (ii) -①a及びへ(5) (ii) -①cは, 設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (ii) -①と同義であり, 整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (ii) -②a～へ(5) (ii) -②dは, 設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (ii) -②を具体的に記載しており, 整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
		<p>へ(5) (ii) -②c 流体状の放射性廃棄物を処理し、又は貯蔵する設備から流体状の放射性廃棄物が著しく漏えいするおそれが発生した場合（床への漏えい又はそのおそれ（数滴程度の微小漏えいを除く。））を早期に検出するよう、タンクの水位、漏えい検知等によりこれらを確実に検出して自動的に警報（機器ドレン、床ドレンの容器又はサンプルの水位）を発信する装置を設けるとともに、表示ランプの点灯及びブザー鳴動等により運転員に通報できる設計とする。</p> <p>また、タンク水位の検出器、インターロック等の適切な計測制御設備を設けることにより、漏えいの発生を防止できる設計とする。</p> <p>放射性廃棄物を処理し、又は貯蔵する設備に係る主要な機械又は器具の動作状態を正確、かつ迅速に把握できるようポンプの運転停止状態、弁の開閉状態等を表示灯により監視できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>設計基準対象施設は、発電用原子炉施設の機械又は器具の機能の喪失、誤操作その他の異常により発電用原子炉の運転に著しい支障を及ぼすおそれが発生した場合（へ(5) (ii) -①b 原子炉建物内の放射能レベルが設定値を超えた場合、主蒸気管又は空気抽出器排ガス中の放射能レベルが設定値を超えた場合へ(5) (ii) -②d等）に、これらを確実に検出して自動的に警報（原子炉建屋放射能高、主蒸気管放射能高等）を発信する装置を設ける設計とする。</p> <p>へ(5) (ii) -①c 排気筒の出口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度、管理区域内において人が常時立ち入る場所その他放射線管理を特に必要とする場所（燃料取扱場所その他の放射線業務従事者に対する放射線障害の防止のための措置を必要とする場所をいう。）の線量当量率及び周辺監視区域に</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iii) 制御棒価値ミニマイザ</p> <p><u>へ(5)(iii)-①起動・停止時における制御棒操作の過程で、高い制御棒価値を生じるような制御棒パターンができることを防止するため、あらかじめ定められているシーケンスを外れないよう、補助装置として制御棒価値ミニマイザを設ける。</u></p>	<p>6.1 原子炉制御系 6.1.3 運転監視補助装置 6.1.3.4 主要設備 (3) 制御棒価値ミニマイザ（RWM）</p> <p>制御棒価値ミニマイザは、起動・停止時における制御棒操作の過程で、誤って高い制御棒価値を生じ得るような制御棒パターンの形成を防止する補助装置であり、これによって引き抜く制御棒の最大反応度価値を0.015Δk以下(9×9燃料が装荷されるまでのサイクル)、0.013Δk以下(9×9燃料が装荷され、MOX燃料が装荷されるまでのサイクル)又は0.010Δk以下(MOX燃料が装荷されたサイクル以降)となるように制限する。制御棒価値ミニマイザによる制御棒パターン規制は、制御棒落下速度リミッタの効果とあいまって制御棒落下の影響を十分小さく抑えることを目的としている。</p> <p>なお、ある程度出力が上昇し、ボイドが発生するようになると、一般に制御棒価値は非常に小さくなる傾向にある。また、制御棒が落下した場合の反応度添加率も緩やかとなり、ドップラ効果やボイドによる負の反応度も大きくなるため、制御棒落下の影響が大きく軽減されることから、ある出力以上では制御棒価値ミニマイザによる制御棒パターン規制はバイパスされる。</p> <p>制御棒価値ミニマイザへの主要な入力信号は、あらかじめ定めた制御棒操作シーケンス・プログラム、運転中時々刻々の制御棒位置、操作される制御棒の座標及び原子炉熱出力であり、主要な出力信号は、制御棒価値ミニマイザの規制シーケンスを外れている制御棒の確認のための表示</p>	<p>隣接する地域における空間線量率が著しく上昇した場合に、これらを確実に検出して自動的に中央制御室に警報（排気筒放射能高，エリア放射線モニタ放射能高及び周辺監視区域放射能高）を発信する装置を設ける設計とする。</p> <p>上記の警報を発信する装置は、表示ランプの点灯，ブザー鳴動等により運転員に通報できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目 1. 計測制御系統施設 1.2 制御棒及び制御棒駆動水圧系</p> <p><中略></p> <p>反応度が大きく、かつ急激に投入される事象による影響を小さくするため、制御棒の落下速度を設置（変更）許可を受けた「制御棒落下」の評価で想定した落下速度以下に制御棒落下速度リミッタの効果により制限することで、反応度添加率を抑制する。</p> <p>また、「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」の評価で想定した制御棒引抜速度以下に制限することで、反応度添加率を抑制するとともに、<u>へ(5)(iii)-①零出力ないし低出力においては、運転員の制御棒引抜操作を制限する補助機能として、制御棒価値ミニマイザを設けることで、引き抜く制御棒の最大反応度価値を制限する。</u></p> <p>さらに、中性子束高による原子炉スクラム信号を設ける設計とする。</p> <p>これらにより、想定される反応度投入事象発生時に燃料の最大エンタルピーや原子炉圧力の上昇を低く抑え、原子炉冷却材圧力バウンダリを破損せず、かつ、炉心の冷却機能を損なうような炉心、炉内支持構造物及び原子炉圧力容器内部構造物の破損を生じさせない設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>へ(5)(iii)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>へ(5)(iii)-①</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iv) 原子炉再循環流量制御系</p> <p>原子炉再循環流量制御系は、原子炉再循環ポンプの速度を調整へ(5) (iv) -①して原子炉再循環流量を変えることにより、原子炉出力を制御する。</p> <p>(v) 原子炉圧力制御系</p> <p>原子炉圧力制御系は、原子炉圧力をあらかじめ定めた値に保つため、蒸気加減弁及びへ(5) (v) -①タービン・バイパス弁の開度を制御する。</p> <p>また、原子炉圧力が急激に上昇するような場合には、タービン・バイパス弁を開き、原子炉圧力の過度の上昇を抑制する。</p>	<p>及び制御棒操作のインターロック信号である。</p> <p>6.1.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.1.4 主要設備</p> <p>6.1.1.4.1 原子炉出力制御系</p> <p>c. 再循環流量制御系</p> <p>再循環流量の調整による出力制御の原理は、以下のとおりである。</p> <p>原子炉出力を増加させるには、炉心流量を増加する。これにより炉心内のボイドを炉心外にスイープする速度が増す。一方、ボイド発生率は変化しないため、炉心内ボイド率は低下し、正の反応度が加えられる。これにより出力が増加し、ボイド発生量が増加し、過渡的に加わった反応度が打ち消されるところで平衡に達する。また、出力を減少させるには、逆に炉心流量を減少させる。流量減少により増加した炉心内ボイド率は、出力を減少させ、新しい流量に対応した出力に落ち着く。この間、制御棒操作は不要である。</p> <p>第6.1.1-2図及び第6.1.1-3図に、再循環流量制御系の構成を示す。</p> <p>再循環流量制御は、再循環ポンプMGセットにより再循環ポンプ駆動電動機の電源周波数を調整することによって行う。すなわち、出力変化の要求信号が、手動あるいは負荷/速度偏差信号として主制御器に与えられる。主制御器からの出力信号は速度制御器に入る。速度制御器は、主制御器からの出力信号と速度検出器からの信号との偏差がなくなるまで、再循環ポンプMGセットの流体継手を通じて、再循環ポンプMGセットの発電機速度、すなわち再循環ポンプ速度を変えていく。</p> <p><中略></p> <p>6.1.1.4.2 原子炉圧力制御系</p> <p>(2) 圧力制御装置</p> <p>タービン制御系の圧力制御装置は、速度及び負荷制御と組み合わせ原子炉圧力をあらかじめ定めた値に制御する。圧力制御装置は主蒸気止め弁の上流側の主蒸気圧力と、あらかじめ設定した圧力設定値とを比較し、圧力偏差信号を発生する。</p> <p>この圧力偏差信号は蒸気加減弁及びタービン・バイパス</p>	<p>1.3 原子炉再循環流量制御系</p> <p>原子炉再循環流量制御系は、原子炉再循環ポンプ速度を調整へ(5) (iv) -①することにより、原子炉出力を制御できる設計とする。</p> <p>また、タービントリップ又は発電機負荷遮断直後の原子炉出力を抑制するため、主蒸気止め弁閉止又は蒸気加減弁急速閉止の信号により、原子炉再循環ポンプ 2 台が同時にトリップする機能を設ける設計とする。</p> <p>1.5 原子炉圧力制御系</p> <p>原子炉圧力制御系は、原子炉圧力をあらかじめ定めた値に保つため、蒸気加減弁及びへ(5) (v) -①タービンバイパス弁の開度を自動制御する設計とする。</p> <p>また、原子炉圧力が急激に上昇するような場合には、タービンバイパス弁を開き、原子炉圧力の過度の上昇を抑制する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (iv) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (iv) -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (v) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (v) -①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(vi) 中央制御室</p> <p><u>中央制御室は、設計基準対象施設の健全性を確認するために必要なパラメータを監視できるとともに、発電用原子炉施設の安全性を確保するために必要な操作を手動により行うことができる設計とする。</u></p>	<p>弁の開度を制御する。圧力制御装置は多重性を有しており、万一1系統の機能の喪失があっても原子炉圧力制御系の機能が喪失することはない。</p> <p>なお、圧力偏差信号の最大は、通常、主蒸気流量が、定格の115%を超えないようにタービン制御系の最大流量制限器により制限する。</p> <p><中略></p> <p>6.10 制御室</p> <p>6.10.1 通常運転時等</p> <p>6.10.1.1 概要</p> <p><u>計測制御装置のうち、本発電用原子炉の主要な系統の運転、制御に必要な監視及び制御装置は、集中的に監視及び制御が行えるよう中央制御室及び補助盤室に設置する。</u></p> <p><中略></p>	<p>圧力制御装置は主蒸気止め弁の上流側の主蒸気圧力と、あらかじめ設定した圧力設定値とを比較し、圧力偏差信号を発信して、蒸気加減弁及びタービンバイパス弁の開度を制御することにより、負荷の変動その他の発電用原子炉の運転に伴う原子炉圧力容器内の圧力の変動を自動的に調整する設計とする。</p> <p>【計測制御系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>(1) 中央制御室機能</p> <p>中央制御室（「1, 2号機共用」（以下同じ。））は以下の機能を有する。</p> <p><u>中央制御室は耐震性を有する制御室建物内に設置し、基準地震動S_sによる地震力に対し必要となる機能が喪失しない設計とするとともに、発電用原子炉の事故対策に必要な各種指示計、反応度制御系統及び原子炉停止系統に係る設備、発電用原子炉を安全に停止するために必要な安全保護系及び工学的安全施設関係の操作盤は、中央制御室に集中して設ける設計とする。</u></p> <p>発電用原子炉及び主要な関連施設の運転状況（発電用原子炉の制御棒の動作状態、発電用原子炉及び原子炉冷却系統に係る主要なポンプの起動・停止状態、発電用原子炉及び原子炉冷却系統に係る主要な弁の開閉状態）の監視及び制御ができるとともに、<u>発電用原子炉施設の安全性を確保するために必要な操作を手動により行うことができる設計とする。</u></p> <p>b. 中央制御室の制御盤等</p> <p>中央制御室の制御盤は、原子炉制御関係、プロセス計装関係、安全保護系関係、タービン発電機関係、所内電気設備関係等の計測制御装置を設けた中央監視操作盤及びその他制御盤で構成し、<u>設計基準対象施設の健全性を確認するために必要なパラメータ（炉心の中性子束、制御棒位置、原子炉冷却材の圧力、温度及び流量、原子炉水位、原子炉格納容器内の圧力及び温度等）を監視できるとともに、全てのプラント運転状態</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため、<input type="checkbox"/> (5) (vi) -①監視カメラ、気象観測設備、公的機関から<input type="checkbox"/> (5) (vi) -②気象情報を入手できる設備等を設置し、中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。</p>	<p>6.10.1.2 設計方針</p> <p>(7) 昼夜にわたり、発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性があると想定される自然現象等や発電所構内の状況を把握することができる設計とする。</p> <p>6.10.1.4 主要設備</p> <p>6.10.1.4.1 中央制御室</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性があると想定される自然現象等や発電所構内の状況を把握するため遠隔操作、暗視機能等を持った監視カメラを設置し、中央制御室で監視できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室において発電用原子炉施設の外の状況を把握するための設備については、「1.1.1.4 外部からの衝撃による損傷の防止」で選定した発電所敷地で想定される自然現象、発電所敷地又はその周辺において想定される発電用原子炉施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがあるものがあって人為によるもの（故意によるものを除く。）のうち、発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある事象や発電所構内の状況を把握できるように、以下の設備を設置する。</p> <p>a. 監視カメラ</p> <p>想定される自然現象等（地震、津波、風（台風）、竜巻、降水、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、森林火災、飛来物（航空機落下）、近隣工場等の火災、船舶の衝突）の影響について、昼夜にわたり発電所構内の状況（海側、山側）を把握することができる暗視機能等を持った監視カメラを設置する。</p> <p>b. 気象観測設備等の設置</p>	<p>において、運転員に過度な負担とならないよう、中央制御室の制御盤において監視、操作する対象を定め、通常運転、運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故の対応に必要な操作器具、指示計、記録計及び警報装置（核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設及び放射線管理施設の警報装置を含む。）を有する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>c. 外部状況把握</p> <p>発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため、<input type="checkbox"/> (5) (vi) -①津波監視カメラ（浸水防護施設の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。）、構内監視カメラ（このうちガスタービン発電機建物屋上に設置する構内監視カメラについては、原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。）風向、風速その他の気象条件を測定する気象観測設備（「1、2及び3号機共用」（以下同じ。））を設置し、津波監視カメラ及び構内監視カメラの映像、気象観測設備のパラメータ及び公的機関から<input type="checkbox"/> (5) (vi) -②の地震、津波、竜巻情報等の入手により中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。</p> <p>津波監視カメラ及び構内監視カメラは暗視機能等を持ち、中央制御室にて遠隔操作することにより、発電所構内の周辺状況（海側及び山側）を昼夜にわたり把握できる設計とする。</p> <p>なお、津波監視カメラは、地震荷重等を考慮し必要な強度を有する設計とするとともに、代替交流電源設備から給電できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の<input type="checkbox"/> (5) (vi) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<input type="checkbox"/> (5) (vi) -①と同義であり整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<input type="checkbox"/> (5) (vi) -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<input type="checkbox"/> (5) (vi) -②を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>風（台風）、竜巻、凍結、降水等による発電所構内の状況を把握するため、風向、風速、気温、降水量等を測定する気象観測設備を設置する。また、津波及び高潮については、津波監視設備として取水槽水位計を設置する。</p> <p>c. 公的機関から気象情報を入手できる設備の設置</p> <p>地震、津波、竜巻、落雷等の発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性がある事象に関する情報を入手するため、中央制御室に電話、FAX及び社内ネットワークに接続されたパソコン等の公的機関から気象情報を入手できる設備を設置する。</p> <p>6.10.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>へ(5)(vi)-③発電用原子炉施設には、火災その他の異常な状態により中央制御室が使用できない場合において、中央制御室以外の場所から、発電用原子炉を高温停止の状態に直ちに移行させ、及び必要なパラメータを想定される範囲内に制御し、その後、発電用原子炉を安全な低温停止の状態に移行させ、及び低温停止の状態を維持させるために必要な機能を有する装置を設ける設計とする。</p> <p>気体状の放射性物質並びに火災等により発生する燃焼ガス、ばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離へ(5)(vi)-④その他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p> <p>中央制御室及びこれに連絡する通路並びに運転員その他の従事者が中央制御室に出入りするための区域は、原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常が発生した場合に、発電用原子炉の運転停止その他の発電用原子炉施設の安全性を確保するための措置をとるため、従</p>	<p>風（台風）、竜巻、凍結、降水等による発電所構内の状況を把握するため、風向、風速、気温、降水量等を測定する気象観測設備を設置する。また、津波及び高潮については、津波監視設備として取水槽水位計を設置する。</p> <p>c. 公的機関から気象情報を入手できる設備の設置</p> <p>地震、津波、竜巻、落雷等の発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性がある事象に関する情報を入手するため、中央制御室に電話、FAX及び社内ネットワークに接続されたパソコン等の公的機関から気象情報を入手できる設備を設置する。</p> <p>6.10.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>また、中央制御室内での操作が困難な場合に、発電用原子炉をスクラム後の高温停止状態から低温停止状態に導くことのできる中央制御室外原子炉停止装置を設置する。</p> <p>6.10.1.4.1 中央制御室</p> <p>中央制御室は、制御室建物内に設置し、原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障が発生した場合に、従事者が支障なく中央制御室に入ることができるよう、これに連絡する通路及び出入りするための区域を多重化する。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室は、当該操作が必要となる理由となった事象が有意な可能性をもって同時にもたらされる環境条件及び発電用原子炉施設で有意な可能性をもって同時にもた</p>	<p>(2) 中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>中央制御室外原子炉停止機能は以下の機能を有する。</p> <p>火災その他の異常な状態により中央制御室が使用できない場合において、中央制御室以外の場所から、発電用原子炉を高温停止の状態に直ちに移行させ、及び必要なパラメータを想定される範囲内に制御し、その後、発電用原子炉を安全な低温停止の状態に移行させ、及び低温停止の状態を維持させるために必要な機能を有するへ(5)(vi)-③中央制御室外原子炉停止装置を設ける設計とする。</p> <p>【計測制御系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>(1) 中央制御室機能</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p>中央制御室及びこれに連絡する通路並びに運転員その他の従事者が中央制御室に出入りするための区域は、原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常が発生した場合に、中央制御室の気密性、遮蔽その他適切な放射線防護措置、気体状の放射性物質並びに中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガスやばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離へ(5)(vi)-④その他の適切な防護措置を講じることにより、発電用原子炉の運転の停止</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5)(vi)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-③と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5)(vi)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-④と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>事者が支障なく中央制御室に入ることが(5)(vi)-⑤できるようにする...</p> <p>また、中央制御室内にとどまり、必要な操作を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、(5)(vi)-⑥中央制御室換気系等の機能とあいまって、(5)(vi)-⑦「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」及び「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈」に示される 100mSv を下回るように遮蔽を設ける...</p> <p>その他、運転員その他の従事者が中央制御室にとどまるため、気体状の放射性物質及び中央制御室外の火災により発生する有毒ガスに対する換気設備の隔離その他の適切に防護するための設備を設ける。</p>	<p>らされる環境条件（地震、内部火災、内部溢水、外部電源喪失並びにばい煙、有毒ガス、降下火砕物による操作雰囲気悪化及び凍結）を想定しても、適切な措置を講じることにより運転員が運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故に対応するための設備を容易に操作ができるものとする。</p> <p><中略></p> <p>6.10.1.4.1 中央制御室</p> <p><中略></p> <p>また、中央制御室内にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽（1号及び2号炉共用）を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気系等の機能とあいまって、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」及び「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈」に示される100mSvを下回るように遮蔽を設ける。中央制御室換気系は他と独立して設け、事故時には外気との連絡口を遮断し、チャコール・フィルタを通る系統隔離運転モードとし運転員その他の従事者を過度の被ばくから防護する設計とする。外部との遮断が長期にわたり、室内の雰囲気が悪くなった場合には、外気をチャコール・フィルタで浄化しながら取り入れることも可能な設計とする。</p>	<p>その他の発電用原子炉施設の安全性を確保するための措置をとるための機能を有するとともに連絡する通路及び出入りするのための区域は従事者が支障なく中央制御室に入ることが(5)(vi)-⑤できるように、複数のルートを有する設計とする...</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備、生体遮蔽装置等</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p>中央制御室及びこれに連絡する通路並びに運転員その他の従事者が中央制御室に出入りするのための区域は、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作及び措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽（「1、2号機共用」（以下同じ。））を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、(5)(vi)-⑥中央制御室の気密性並びに中央制御室空調換気系、中央制御室遮蔽、原子炉二次遮蔽及び補助遮蔽の機能とあいまって、(5)(vi)-⑦「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）」に基づく被ばく評価により、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に示される 100mSv を下回る設計とする...</p> <p>また、運転員その他の従事者が中央制御室にとどまるため、気体状の放射性物質並びに中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガスやばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離その他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-⑤を具体的に記載しており整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-⑥と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-⑦は、技術基準規則及びその解釈に示されている内規及び告示を記載していることから、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-⑦と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>さらに、中央制御室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握できるよう酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を保管する。</p> <p>中央制御室は、有毒ガスが運転員に及ぼす影響により、運転員の対処能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがない設計とする。へ(5) (vi) -⑧そのため、有毒ガス防護に係る影響評価を実施する。有毒ガス防護に係る影響評価に当たっては、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から有毒化学物質の性状、貯蔵状況等を踏まえ、固定源及び可動源を特定する。</p> <p>また、固定源の有毒ガス防護に係る影響評価に用いる防液堤等は、現場の状況を踏まえ、評価条件を設定する。固定源に対しては、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回ることにより運転員</p>	<p>また、室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障のない範囲であることを把握できるよう、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を保管する。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室は、有毒ガスが運転員に及ぼす影響により、運転員の対処能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがない設計とする。そのため、「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」(平成29年4月5日 原規技発第1704052号原子力規制委員会決定) (以下「有毒ガス評価ガイド」という。)を参照し、有毒ガス防護に係る影響評価を実施する。有毒ガス防護に係る影響評価に当たっては、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から、有毒化学物質の揮発性等の性状、貯蔵量、建物内保管、換気等の貯蔵状況等を踏まえ、敷地内及び中央制御室等から半径10km以内にある敷地外の固定源並びに敷地内の可動源を特定し、特定した有毒化学物質に対して有毒ガス防護のための判断基準値を設定する。</p> <p>また、固定源の有毒ガス防護に係る影響評価に用いる防液堤等は、現場の状況を踏まえ評価条件を設定する。固定源に対しては、貯蔵容器すべてが損傷し、有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出され</p>	<p>【計測制御系統施設】 (要目表) 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 (1) 中央制御室機能 e. 居住性の確保 <中略></p> <p>設計基準事故時及び炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握できるよう、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計（個数2（予備1））を中央制御室内に保管する設計とする。 <中略></p> <p>d. 有毒ガスに対する防護措置 中央制御室は、有毒ガスが運転員に及ぼす影響により、運転員の対処能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、運転員が中央制御室内にとどまり、必要な操作及び措置を行うことができる設計とする。 へ(5) (vi) -⑧敷地内外において貯蔵施設に保管されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質（以下「固定源」という。）及び敷地内において輸送手段の輸送容器に保管されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質（以下「可動源」という。）それぞれに対して有毒ガスが発生した場合の影響評価（以下「有毒ガス防護に係る影響評価」という。）を実施する。 有毒ガス防護に係る影響評価に当たっては、「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」を参照して評価を実施し、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から、有毒化学物質の性状、貯蔵状況等を踏まえ、固定源及び可動源を特定する。 固定源の有毒ガス防護に係る影響評価に用いる防液堤等は、現場の状況を踏まえ評価条件を設定する。 固定源に対しては、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -⑧は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -⑧と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>を防護できる設計とする。可動源に対しては、中央制御室換気系の隔離等の対策により運転員を防護できる設計とする。有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤は、保守管理^{へ(5)(vi)-⑨}及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>^{へ(5)(vi)-⑩}中央制御室には、炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p>	<p>る事象を想定し、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が有毒ガス防護のための判断基準値を下回ることにより、運転員を防護できる設計とする。可動源に対しては、「10.11 通信連絡設備」に記載する通信連絡設備による連絡、中央制御室換気系の隔離、防護具の着用等により運転員を防護できる設計とする。有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤は、保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>6.10.2 重大事故等時 6.10.2.2 設計方針 (1) 居住性を確保するための設備</p> <p>重大事故が発生した場合における炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に、放出される放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設ける設計とする。</p>	<p>回ることにより運転員を防護できる設計とする。</p> <p>可動源に対しては、中央制御室空調換気系の隔離等の対策により運転員を防護できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤は、保守管理^{へ(5)(vi)-⑨}を適切に実施し、運用については保安規定に定めて管理する。</p> <p>e. 居住性の確保 <中略></p> <p>^{へ(5)(vi)-⑩a}炉心の著しい損傷後に格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるプルーム通過時に、運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設ける設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、L.E.Dライト（三脚タイプ）、中央制御室差圧計、待避室差圧計、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計により、運転員が中央制御室にとどまり必要な操作ができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても^{へ(5)(vi)-⑩b}中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。また、待避室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、中央制御室内と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。</p> <p>設計基準事故時及び炉心の著しい損傷が発生した場合においても^{へ(5)(vi)-⑩c}中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握できるよう、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計（個数 2（予備 1））を中央制御室内に保管する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の^{へ(5)(vi)-⑨}、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{へ(5)(vi)-⑨}を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{へ(5)(vi)-⑩a}～^{へ(5)(vi)-⑩d}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{へ(5)(vi)-⑩}を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、運転員がとどまる(5) (vi) -⑩のために必要な重大事故等対処設備として、LEDライト（三脚タイプ）、再循環用ファン、チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン、非常用チャコール・フィルタ・ユニット、中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽、中央制御室</p>	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員が中央制御室及び中央制御室待避室にとどまるために必要な重大事故等対処設備として、LEDライト（三脚タイプ）、チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン、再循環用ファン、非常用チャコール・フィルタ・ユニット、中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）、中央制御室遮蔽、</p>	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、以下の設備を設置する。 中央制御室待避室に待避した運転員が、緊急時対策所と通信連絡を行うため、必要な数量の無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）を設置する設計とする。 中央制御室待避室に待避した運転員が、中央制御室待避室の外に出ることなく発電用原子炉施設の主要な計測装置の監視を行うため、プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）を設置する設計とする。 <中略> 【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置等 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合においても、(5) (vi) -⑩d 中央制御室送風機，中央制御室非常用再循環送風機，中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ，中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ），中央制御室遮蔽，中央制御室待避室遮蔽により，運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。 【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置等 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合においても、(5) (vi) -⑩a 中央制御室送風機，中央制御室非常用再循環送風機，中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ，中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ），中央制御室遮蔽，中央制御室待避室遮蔽により，運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の(5) (vi) -⑩a 及び(5) (vi) -⑩b は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5) (vi) -⑩を具体的に記載しており、整合してい</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>差圧計，待避室差圧計，酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を設置する設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても(5)(vi)-12)運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備として，中央制御室換気系は，重大事故等時に炉心の著しい損傷が発生した場合において，粒子用高効率フィルタ及びチャコール・フィルタを内蔵した(5)(vi)-13)非常用チャコール・フィルタ・ユニット並びにチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンからなる非常用ラインを設け，非常用チャコール・フィルタ・ユニットを通した外気を取り込み中央制御室を正圧化することにより，放射性物質を含む外気が中央制御室に直接流入することを防ぐことができる設計とする。</p>	<p>中央制御室待避室遮蔽，中央制御室差圧計，待避室差圧計，酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を設置する設計とする。</p> <p>a. 換気空調設備及び遮蔽設備</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備として，中央制御室及び中央制御室待避室の運転員の過度の放射線被ばくから防護するためにチャコール・フィルタ・ブースタ・ファン，再循環用ファン及び非常用チャコール・フィルタ・ユニットを使用する。</p> <p>中央制御室換気系は，重大事故等時に炉心の著しい損傷が発生した場合において，粒子用高効率フィルタ及びチャコール・フィルタを内蔵した非常用チャコール・フィルタ・ユニット並びにチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンからなる非常用ラインを設け，非常用チャコール・フィルタ・ユニットを通した外気を取り込み中央制御室を正圧化することにより，放射性物質を含む外気が中央制御室に直接流入することを防ぐことができる設計とする。</p>	<p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 (1) 中央制御室機能 e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても，(5)(vi)-11b) LEDライト（三脚タイプ），中央制御室差圧計，待避室差圧計，酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計により，運転員が中央制御室にとどまり必要な操作ができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備，生体遮蔽装置等</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても，(5)(vi)-12)中央制御室送風機，中央制御室非常用再循環送風機，中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ，中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンプ），中央制御室遮蔽，中央制御室待避室遮蔽により，運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室空調換気系は，重大事故等時に炉心の著しい損傷が発生した場合において，粒子用高効率フィルタ及びチャコール・フィルタを内蔵した(5)(vi)-13)中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ並びに中央制御室非常用再循環送風機からなる非常用ラインを設け，中央制御室非常用再循環処理装置フィルタを通した外気を取り込み中央制御室を正圧化することにより，放射性物質を含む外気が中央制御室に直接流入することを防ぐことができる設計とする。</p>	<p>る。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-12)は，設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-12)を具体的に記載しており，整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-13)は，設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-13)と同義であり，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるへ(5)(vi)-⑭放射性雲通過時において、中央制御室換気系は外気との連絡口を遮断し、へ(5)(vi)-⑮非常用チャコール・フィルタ・ユニットを通る系統隔離運転モードとすることにより、中央制御室バウンダリを外気から隔離するとともに、中央制御室待避室を中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p> <p>中央制御室遮蔽及び中央制御室待避室遮蔽は、運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる重大事故時に、中央制御室換気系及び中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）の機能とあいまって、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>また、全面マスク等の着用及び運転員の交代要員体制を考慮し、その実施のための体制を整備する。</p> <p>へ(5)(vi)-⑯再循環用ファン及びチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンは、非常用交流電源設備に加えて、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>また、炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出される放射性雲通過時において、中央制御室換気系は外気との連絡口を遮断し、非常用チャコール・フィルタ・ユニットを通る系統隔離運転モードとすることにより、中央制御室バウンダリを外気から隔離するとともに、中央制御室待避室を中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p> <p>中央制御室遮蔽及び中央制御室待避室遮蔽は、運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる重大事故時に、中央制御室換気系及び中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）の機能とあいまって、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>また、全面マスク等の着用及び運転員の交替要員体制を考慮し、その実施のための体制を整備する。</p> <p>再循環用ファン及びチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンは、非常用交流電源設備に加えて、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p><中略></p> <p>2.2.1 中央制御室空調換気系</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるへ(5)(vi)-⑭ブルー通過時において、中央制御室空調換気系は中央制御室外気取入調節弁（MV264-1）を閉操作することで、外気との連絡口を遮断し、へ(5)(vi)-⑮中央制御室非常用再循環処理装置フィルタを通る系統隔離運転モードとすることにより、中央制御室バウンダリを外気から隔離可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室待避室は、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>運転員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる重大事故等時においても中央制御室に運転員がとどまるために必要な設備を施設し、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御室に取り込まれた外気による線量及び入退域時の線量が、全面マスク等の着用及び運転員の交替要員体制を考慮し、その実施のための体制を整備することで、中央制御室の気密性並びに中央制御室空調換気系、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽、原子炉二次遮蔽、補助遮蔽及び中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）の機能とあいまって、運転員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p><中略></p> <p>へ(5)(vi)-⑯中央制御室送風機及び中央制御室非常用再循環送風機は、非常用ディーゼル発電設備に加えて、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5)(vi)-⑭は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-⑭と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5)(vi)-⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-⑮と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5)(vi)-⑯は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-⑯と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために(5)(vi)-⑰必要な重大事故等対処設備として、中央制御室待避室に待避した運転員が、緊急時対策所と通信連絡を行うため、無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）を使用する。</p> <p>無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために(5)(vi)-⑱必要な重大事故等対処設備として、中央制御室待避室に待避した運転員が、中央制御室待避室の外に出ることなく発電用原子炉施設の主要な計測装置の監視を行うためにプラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）を設置する。</p> <p>プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>b. 通信連絡設備</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備として、中央制御室待避室に待避した運転員が、緊急時対策所と通信連絡を行うため、無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）を使用する。</p> <p>無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>c. プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備として、中央制御室待避室に待避した運転員が、中央制御室待避室の外に出ることなく発電用原子炉施設の主要な計測装置の監視を行うためにプラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）を設置する。</p> <p>プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>【計測制御系統施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>(1) 中央制御室機能</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、以下の設備を設置する。</p> <p>(5)(vi)-⑰中央制御室待避室に待避した運転員が、緊急時対策所と通信連絡を行うため、必要な数量の無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）を設置する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>無線通信設備（固定型）及び衛星電話設備（固定型）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、(5)(vi)-⑱以下の設備を設置する。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室待避室に待避した運転員が、中央制御室待避室の外に出ることなく発電用原子炉施設の主要な計測装置の監視を行うため、プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）（個数1（予備1））を設置する。</p> <p><中略></p> <p>プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-⑰は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-⑰と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-⑱は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-⑱と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>へ(5) (vi) -⑱想定される重大事故等時において、設計基準対象施設である非常用照明が使用できない場合の重大事故等対処設備としてLEDライト（三脚タイプ）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるためにへ(5) (vi) -⑳必要な重大事故等対処設備として、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧が確保できていること、及び中央制御室と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握するため、中央制御室差圧計及び待避室差圧計を使用する。</p> <p>また、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握へ(5) (vi) -㉑するため、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を使用する。</p> <p>重大事故等が発生し、中央制御室の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、運転員が中央制御室の外側から中央制御室に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止するため、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける設計とする。</p>	<p>d. 中央制御室の照明を確保する設備 想定される重大事故等時において、設計基準対象施設である非常用照明が使用できない場合の重大事故等対処設備として、LEDライト（三脚タイプ）を使用する。 LEDライト（三脚タイプ）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。 <中略></p> <p>e. 中央制御室差圧計、待避室差圧計、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計 炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重大事故等対処設備として、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧が確保できていること、及び中央制御室と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握するため、中央制御室差圧計及び待避室差圧計を使用する。</p> <p>また、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握するため、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を使用する。 <中略></p> <p>(2) 汚染の持ち込みを防止するための設備 重大事故等が発生し、中央制御室の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、運転員が中央制御室の外側から中央制御室に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止するため、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける設計とする。</p>	<p>e. 居住性の確保 <中略> LEDライト（三脚タイプ）は、全交流動力電源喪失時においても常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から給電が可能な設計とする。 へ(5) (vi) -⑱重大事故等時に、中央制御室内及び中央制御室待避室内での監視操作に必要な照度の確保は、LEDライト（三脚タイプ）（個数2（予備1））及びLEDライト（ランタンタイプ）（個数2）によりできる設計とする。 <中略></p> <p>e. 居住性の確保 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、へ(5) (vi) -⑳中央制御室差圧計（個数1、計測範囲0～200Pa）により、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。また、待避室差圧計（個数1、計測範囲0～200Pa）により、中央制御室内と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。</p> <p>設計基準事故時及び炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握へ(5) (vi) -㉑できるよう、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計（個数2（予備1））を中央制御室内に保管する設計とする。</p> <p>e. 居住性の確保 <中略> 重大事故等が発生し、中央制御室の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、運転員が中央制御室の外側から中央制御室に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止するため、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -⑱は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -⑱と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -⑳は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -⑳と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -㉑は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -㉑と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>身体サーベイの結果、運転員の汚染が確認された場合は、<u>運転員の除染を行うことができる区画を、身体サーベイを行う区画に隣接して設置する設計とする。</u>〔5〕(vi)-②また、<u>照明については、チェンジングエリア用照明により確保できる設計とする。</u>...</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合に〔5〕(vi)-③において、<u>運転員の被ばくを低減するための重大事故等対処設備として、非常用ガス処理系及び原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置を使用する。</u></p> <p>非常用ガス処理系は、<u>非常用ガス処理系排気ファン、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、非常用ガス処理系排気ファンにより原子炉建物原子炉棟内を負圧に維持するとともに、原子炉格納容器から原子炉建物原子炉棟内に漏えいした放射性物質を含む気体を排気筒に沿わせて設ける排気管から排気することで、中央制御室の運転員の被ばくを低減することができる設計とする。</u></p>	<p>身体サーベイの結果、運転員の汚染が確認された場合は、<u>運転員の除染を行うことができる区画を、身体サーベイを行う区画に隣接して設置する設計とする。</u></p> <p>また、<u>照明については、チェンジングエリア用照明により確保できる設計とする。</u>...</p> <p>(3) 運転員の被ばくを低減するための設備</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、<u>運転員の被ばくを低減するための重大事故等対処設備として、非常用ガス処理系及び原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置を使用する。</u></p> <p>非常用ガス処理系は、<u>非常用ガス処理系排気ファン、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、非常用ガス処理系排気ファンにより原子炉建物原子炉棟内を負圧に維持するとともに、原子炉格納容器から原子炉建物原子炉棟内に漏えいした放射性物質を含む気体を排気筒に沿わせて設ける排気管から排気することで、中央制御室の運転員の被ばくを低減することができる設計とする。</u>なお、本システムを使用することにより緊急時対策要員の被ばくを低減することも可能である。</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備、生体遮蔽装置等 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 身体サーベイの結果、運転員の汚染が確認された場合は、<u>運転員の除染を行うことができる区画を、身体サーベイを行う区画に隣接して設置する設計とする。</u></p> <p>重大事故等時に、身体サーベイ、作業服の着替え等に〔5〕(vi)-②必要な照度の確保は、<u>チェンジングエリア用照明（個数2（予備1））によりできる設計とする。</u>...</p> <p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.3 放射性物質濃度制御設備 3.3.1 非常用ガス処理系 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合に、〔5〕(vi)-③a非常用ガス処理系は、<u>非常用ガス処理系排風機により原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内を負圧に維持するとともに、原子炉格納容器から原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）内に漏えいした放射性物質を含む気体を排気筒（非常用ガス処理系用）から排気し、原子炉格納容器から漏えいした空気中の放射性物質の濃度を低減させることで、中央制御室にとどまる運転員の被ばくを低減することができる設計とする。</u></p> <p>〔5〕(vi)-③b炉心の著しい損傷が発生し、<u>非常用ガス処理系を起動する際に、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル（原子炉冷却系統施設の設備、浸水防護施設の設備で兼用）を閉止する必要がある場合には、中央制御室から原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置（個数2）を操作し、容易かつ確実に閉止できる設計とする。</u>また、原子炉建物燃料取替階</p>	<p>設計及び工事の計画の〔5〕(vi)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔5〕(vi)-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の〔5〕(vi)-③a及び〔5〕(vi)-③bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔5〕(vi)-③と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉建物原子炉棟の気密バウンダリの一部として原子炉建物に設置する(5)(vi)-24原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル及び主蒸気管トンネル室ブローアウトパネルは、閉状態を維持できる設計とする。また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、中央制御室の居住性確保のために原子炉建物原子炉棟の気密バウンダリを形成する必要がある場合は、容易かつ確実に閉止できる設計とする。</p> <p>なお、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、中央制御室から遠隔操作又は現場において人力により操作できる設計とする。</p> <p>非常用ガス処理系は、(5)(vi)-25非常用交流電源設備に加えて、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>原子炉建物原子炉棟の気密バウンダリの一部として原子炉建物に設置する原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル及び主蒸気管トンネル室ブローアウトパネルは、閉状態を維持できる設計とする。また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、中央制御室の居住性確保のために原子炉建物原子炉棟の気密バウンダリを形成する必要がある場合は、容易かつ確実に閉止できる設計とする。</p> <p>なお、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、中央制御室からの遠隔操作又は現場において人力により操作できる設計とする。</p> <p>非常用ガス処理系は、非常用交流電源設備に加えて、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び代替所内電気設備については、「10.2 代替電源設備」にて</p>	<p>ブローアウトパネル閉止装置は現場においても、人力により操作できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2. 原子炉建物</p> <p>2.1 原子炉建物原子炉棟等</p> <p><中略></p> <p>原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）は、重大事故等時においても、非常用ガス処理系により、内部の負圧を確保することができる設計とする。原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）の気密バウンダリの一部として原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）に設置する(5)(vi)-24a主蒸気管トンネル室ブローアウトパネル（浸水防護施設の設備で兼用）は、閉状態の維持が可能な設計とする。</p> <p>3. 圧力低減設備その他の安全設備</p> <p>3.3 放射性物質濃度制御設備</p> <p>3.3.1 非常用ガス処理系</p> <p><中略></p> <p>(5)(vi)-24b炉心の著しい損傷が発生し、非常用ガス処理系を起動する際に、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル（原子炉冷却系統施設の設備、浸水防護施設の設備で兼用）を閉止する必要がある場合には、中央制御室から原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置（個数2）を操作し、容易かつ確実に閉止できる設計とする。また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は現場においても、人力により操作できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>非常用ガス処理系は、(5)(vi)-25非常用ディーゼル発電設備に加えて、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が可能な設計とする。また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源からの給電が可能な設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-24a及び(5)(vi)-24bは、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-24を詳細設計した結果であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の(5)(vi)-25は、設置変更許可申請書（本文（五号））の(5)(vi)-25と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室遮蔽及び中央制御室待避室遮蔽は、チ、(1)、(v) 遮蔽設備に記載する。</p> <p>再循環用ファン、チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン、非常用チャコール・フィルタ・ユニット、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンプ）、中央制御室差圧計及び待避室差圧計は、チ、(1)、(vi) 換気空調設備に記載する。</p> <p>代替交流電源設備は、ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p> <p>非常用ガス処理系は、リ、(4)、(ii) 非常用ガス処理系に記載する。</p>	記載する。		<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「チ、(1)、(v) 遮蔽設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「チ、(1)、(vi) 換気空調設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「リ、(4)、(ii) 非常用ガス処理系」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																							
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室遮蔽 へ(5) (vi) -㉔ (チ, (1), (v) 遮蔽設備と兼用)...</p> <p>中央制御室待避室遮蔽 へ(5) (vi) -㉔ (チ, (1), (v) 遮蔽設備と兼用)...</p>	<p>第 6.10-2 表 中央制御室（重大事故等時）（常設）の設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 居住性を確保するための設備</p> <p>a. 中央制御室遮蔽 第 8.3-2 表 遮蔽設備（重大事故等時）の主要仕様に記載する。</p> <p>b. 中央制御室待避室遮蔽 第 8.3-2 表 遮蔽設備（重大事故等時）の主要仕様に記載する。</p>	<p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>3. 生体遮蔽装置（一次遮蔽，二次遮蔽，補助遮蔽，中央制御室遮蔽，原子炉遮蔽並びに緊急時制御室及び緊急時対策所において従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。使用済燃料運搬用容器の放射線遮蔽材，使用済燃料貯蔵用容器の放射線遮蔽材，放射性廃棄物運搬用容器の放射線遮蔽材及び一時的に設置するものを除く。）の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料</p> <p style="text-align: center;">中央制御室遮蔽</p> <table border="1" data-bbox="1673 600 2496 911"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th>名 種</th> <th>称 類</th> <th>主 要 寸 法*1 [最小厚さ mm*2,*3]</th> <th>冷 却 方 法</th> <th>材 料</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]</td> <td>地上 4 階 (EL 16900)</td> <td>□□, □□, □□, □□</td> <td rowspan="2">自然冷却</td> <td rowspan="2">普通コンクリート (密度 2.1g/cm³ 以上*)</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>屋 上 階 (EL 22050)</td> <td>□□</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：主要寸法欄は（ ）内に公称値を示す。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書の「m」を「mm」と記載する。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <p style="text-align: center;">中央制御室待避室遮蔽</p> <table border="1" data-bbox="1673 1062 2487 1352"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 種</th> <th>称 類</th> <th></th> <th>主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]</th> <th>冷 却 方 法</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央制御室待避室遮蔽</td> <td rowspan="2">地上 4 階 (EL 16900)</td> <td rowspan="2">—</td> <td>□□</td> <td rowspan="2">自然冷却</td> <td>鉛 (密度 11.3g/cm³ 以上)</td> </tr> <tr> <td>□□</td> <td>鋼板 (SS400)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：主要寸法欄は（ ）内に公称値を示す。</p>			変更前			変更後	名 種	称 類	主 要 寸 法*1 [最小厚さ mm*2,*3]	冷 却 方 法	材 料		中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]	地上 4 階 (EL 16900)	□□, □□, □□, □□	自然冷却	普通コンクリート (密度 2.1g/cm ³ 以上*)	変更なし	屋 上 階 (EL 22050)	□□			変更前	変 更 後		名 種	称 類		主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]	冷 却 方 法	材 料	中央制御室待避室遮蔽	地上 4 階 (EL 16900)	—	□□	自然冷却	鉛 (密度 11.3g/cm ³ 以上)	□□	鋼板 (SS400)	<p>「中央制御室遮蔽」及び「中央制御室待避室遮蔽」は，設置許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -㉔を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており，整合している。</p>	
		変更前			変更後																																						
名 種	称 類	主 要 寸 法*1 [最小厚さ mm*2,*3]	冷 却 方 法	材 料																																							
中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]	地上 4 階 (EL 16900)	□□, □□, □□, □□	自然冷却	普通コンクリート (密度 2.1g/cm ³ 以上*)	変更なし																																						
	屋 上 階 (EL 22050)	□□																																									
		変更前	変 更 後																																								
名 種	称 類		主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]	冷 却 方 法	材 料																																						
中央制御室待避室遮蔽	地上 4 階 (EL 16900)	—	□□	自然冷却	鉛 (密度 11.3g/cm ³ 以上)																																						
			□□		鋼板 (SS400)																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>無線通信設備（固定型） へ(5) (vi) -㉔ (ヌ, (3), (vii) 通信連絡設備と兼用)...</p> <p>衛星電話設備（固定型） へ(5) (vi) -㉔ (ヌ, (3), (vii) 通信連絡設備と兼用)...</p>	<p>d. 無線通信設備（固定型） 第 10.11-2 表 通信連絡を行うために必要な設備（固定型）の設備主要仕様に記載する。</p> <p>e. 衛星電話設備（固定型） 第 10.11-2 表 通信連絡を行うために必要な設備（固定型）の設備主要仕様に記載する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針） 第 2 章 個別項目 4. 通信連絡設備 4.1 通信連絡設備（発電所内） <中略> 警報装置として、十分な数量の所内通信連絡設備（警報装置を含む。）並びに多様性を確保した通信連絡設備（発電所内）として、十分な数量の所内通信連絡設備（警報装置を含む。）、電力保安通信用電話設備（固定電話機、PHS 端末及び F A X）、無線通信設備（固定型）、衛星電話設備（固定型）、有線式通信設備（有線式通信機）、無線通信設備（携帯型）及び衛星電話設備（携帯型）を設置又は保管する設計とする。 <中略></p>	<p>「無線通信設備（固定型）」及び「衛星電話設備（固定型）」は、設置許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -㉔を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「基本設計方針」に整理しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																												
<p>へ(5) (vi) -28再循環用ファン へ(5) (vi) -29a (チ, (1), (vi) 換気空調設備と兼用) へ(5) (vi) -30チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン へ(5) (vi) -29b (チ, (1), (vi) 換気空調設備と兼用) へ(5) (vi) -31非常用チャコール・フィルタ・ユニット へ(5) (vi) -29c (チ, (1), (vi) 換気空調設備と兼用)</p>	<p>c. 中央制御室換気系 (b) 再循環用ファン 第 8.2-1 表 換気空調設備の主要機器仕様に記載する。 (c) チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン 第 8.2-1 表 換気空調設備の主要機器仕様に記載する。 (a) 非常用チャコール・フィルタ・ユニット 第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【放射線管理施設】 （要目表） 2. 換気設備（中央制御室，緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの（非常用のものに限る。）並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気又は排気設備として設置するもの。一時的に設置する可搬型のものを除く。）に係る次の事項 <中略></p> <p>(4) 送風機の名称，種類，容量，主要寸法，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">送風機</td> <td>名称</td> <td colspan="2">中央制御室送風機</td> <td colspan="2">へ(5) (vi) -28</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="2">遠心式</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td colspan="2">120000以上 (120000*2)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*3 主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1800*2 **×1000*2 **</td> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1600*2 **×1100*2 **</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td colspan="2">3585*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td colspan="2">4820*2</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">3000*2</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td colspan="2">2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*4 取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td></td> <td>A-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3</td> <td colspan="2">B-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td></td> <td>廃棄物処理建物 EL 22100mm *3</td> <td colspan="2">廃棄物処理建物 EL 22100mm *3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td colspan="2">-</td> <td>RW-2F-02N RW-2F-02N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td></td> <td colspan="2">-</td> <td>EL 22276mm 以上 EL 22276mm 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">原動機</td> <td>*1 種類</td> <td colspan="2">誘導電動機</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td colspan="2">□ *2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td colspan="2">2</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td></td> <td colspan="2">送風機と同じ</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>設計上の空気の流入率</td> <td>回/h</td> <td colspan="2">0.5</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">変更なし*1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;"> 注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量（定格流量）」と記載 *2: 公称値を示す。 *3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *4: 内面の寸法を示す。 *5: 重大事故等時は正圧管理 </p>			変更前		変更後		送風機	名称	中央制御室送風機		へ(5) (vi) -28		種類	遠心式				容量	m ³ /h/個	120000以上 (120000*2)				*3 主要寸法	吸込口径	mm	1800*2 **×1000*2 **		変更なし	吐出口径	mm	1600*2 **×1100*2 **		たて	mm	3585*2		横	mm	4820*2		高さ	mm	3000*2		個数		2				*4 取付箇所	系統名 (ライン名)		A-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3	B-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3		設置床		廃棄物処理建物 EL 22100mm *3	廃棄物処理建物 EL 22100mm *3		溢水防護上の区画番号		-		RW-2F-02N RW-2F-02N	溢水防護上の配慮が必要な高さ		-		EL 22276mm 以上 EL 22276mm 以上			変更前		変更後		原動機	*1 種類	誘導電動機				出力	kW/個	□ *2				個数		2		変更なし		取付箇所		送風機と同じ				設計上の空気の流入率	回/h	0.5		変更なし*1		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -28は，設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -28と同義であり，整合している。 ・設計及び工事の計画の「中央制御室送風機」は設置許可申請書（本文（五号））におけるへ(5) (vi) -29aを設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており，整合している。 	
		変更前		変更後																																																																																																												
送風機	名称	中央制御室送風機		へ(5) (vi) -28																																																																																																												
	種類	遠心式																																																																																																														
	容量	m ³ /h/個	120000以上 (120000*2)																																																																																																													
	*3 主要寸法	吸込口径	mm	1800*2 **×1000*2 **		変更なし																																																																																																										
		吐出口径	mm	1600*2 **×1100*2 **																																																																																																												
		たて	mm	3585*2																																																																																																												
		横	mm	4820*2																																																																																																												
	高さ	mm	3000*2																																																																																																													
	個数		2																																																																																																													
	*4 取付箇所	系統名 (ライン名)		A-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3	B-中央制御室送風機 (中央制御室空調換気系) *3																																																																																																											
設置床			廃棄物処理建物 EL 22100mm *3	廃棄物処理建物 EL 22100mm *3																																																																																																												
溢水防護上の区画番号			-		RW-2F-02N RW-2F-02N																																																																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ			-		EL 22276mm 以上 EL 22276mm 以上																																																																																																											
		変更前		変更後																																																																																																												
原動機	*1 種類	誘導電動機																																																																																																														
	出力	kW/個	□ *2																																																																																																													
	個数		2		変更なし																																																																																																											
取付箇所		送風機と同じ																																																																																																														
設計上の空気の流入率	回/h	0.5		変更なし*1																																																																																																												

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																																													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔}$は、設置変更許可申請書（本文（五号））の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔}$と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の「中央制御室非常用再循環送風機」は設置許可申請書（本文（五号））における$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔b}$を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉕}$は、設置変更許可申請書（本文（五号））の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉕}$と同義であり、整合している。 設計及び工事の計画の「中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ」は設置許可申請書（本文（五号））における$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔c}$を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 </div>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">送風機</td> <td>名称</td> <td colspan="4">中央制御室非常用再循環送風機</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="4">遠心式</td> </tr> <tr> <td>容量^{*1}</td> <td colspan="4">32000以上 (32000^{*2})</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td colspan="4">1040^{*4}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td colspan="4">923^{*2} ^{*4}×832^{*2} ^{*4}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td colspan="4">1807^{*2}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td colspan="4">2696^{*2}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td colspan="4">1740^{*2}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>A-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系）^{*3}</td> <td colspan="3">B-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系）^{*3}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="4">廃棄物処理建物 EL 22100mm^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">溢水防護上の区画番号</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> <td>RW-2F-01N</td> <td>RW-2F-01N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> <td>EL 25785mm以上</td> <td>EL 25785mm以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">送風機</td> <td>種類</td> <td colspan="4">誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td colspan="4">□^{*2}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">2</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td colspan="4">送風機と同じ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設計上の空気の流入率</td> <td colspan="2">回/h</td> <td colspan="2">0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量（定格流量）」と記載 *2：公称値を示す。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：内面の寸法を示す。 *5：重大事故等時は正圧管理</p> <p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、効率、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="4">中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">効率</td> <td>単体</td> <td>99.97以上^{*1} (0.3μm 粒子)</td> <td colspan="3">96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>99.9以上^{*1} (0.3μm 粒子)</td> <td colspan="3">95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td colspan="4">800^{*3} ^{*4}×3000^{*3} ^{*4}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td colspan="4">900^{*3} ^{*4}×900^{*3} ^{*4} (2個)</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td colspan="4">5000^{*3}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td colspan="4">7500^{*3}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td colspan="4">2450^{*3}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td colspan="4">中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ (中央制御室空調換気系) ^{*3}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="4">廃棄物処理建物 EL 22100mm^{*1}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">RW-2F-01N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">EL 25785mm以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「能力」と記載 *3：公称値を示す。 *4：内面の寸法を示す。</p>			変更前		変更後		送風機	名称	中央制御室非常用再循環送風機				種類	遠心式				容量 ^{*1}	32000以上 (32000 ^{*2})				主要寸法	吸込口径	1040 ^{*4}				吐出口径	923 ^{*2} ^{*4} ×832 ^{*2} ^{*4}				たて	1807 ^{*2}				横	2696 ^{*2}				高さ	1740 ^{*2}				個数	2				取付箇所	系統名（ライン名）	A-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系） ^{*3}	B-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系） ^{*3}			設置床	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}				溢水防護上の区画番号	溢水防護上の区画番号	—		RW-2F-01N	RW-2F-01N	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL 25785mm以上	EL 25785mm以上			変更前		変更後		送風機	種類	誘導電動機				出力	□ ^{*2}				個数	2				取付箇所	送風機と同じ				設計上の空気の流入率		回/h		0.5				変更前		変更後				中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ				効率	単体	99.97以上 ^{*1} (0.3 μ m 粒子)	96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)			総合	99.9以上 ^{*1} (0.3 μ m 粒子)	95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)			主要寸法	吸込口径	800 ^{*3} ^{*4} ×3000 ^{*3} ^{*4}				吐出口径	900 ^{*3} ^{*4} ×900 ^{*3} ^{*4} (2個)				たて	5000 ^{*3}				横	7500 ^{*3}				高さ	2450 ^{*3}				個数	1						変更前		変更後		取付箇所	系統名（ライン名）	中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ (中央制御室空調換気系) ^{*3}				設置床	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*1}				溢水防護上の区画番号	—		RW-2F-01N		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL 25785mm以上		<p>整合性</p> <p>設計及び工事の計画の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔}$は、設置変更許可申請書（本文（五号））の$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔}$と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の「中央制御室非常用再循環送風機」は設置許可申請書（本文（五号））における$\text{へ}(5) \text{(vi)} - \text{㉔b}$を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。</p>	
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																													
送風機	名称	中央制御室非常用再循環送風機																																																																																																																																																																																															
	種類	遠心式																																																																																																																																																																																															
	容量 ^{*1}	32000以上 (32000 ^{*2})																																																																																																																																																																																															
	主要寸法	吸込口径	1040 ^{*4}																																																																																																																																																																																														
		吐出口径	923 ^{*2} ^{*4} ×832 ^{*2} ^{*4}																																																																																																																																																																																														
		たて	1807 ^{*2}																																																																																																																																																																																														
横		2696 ^{*2}																																																																																																																																																																																															
高さ	1740 ^{*2}																																																																																																																																																																																																
個数	2																																																																																																																																																																																																
取付箇所	系統名（ライン名）	A-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系） ^{*3}	B-中央制御室非常用再循環送風機（中央制御室空調換気系） ^{*3}																																																																																																																																																																																														
	設置床	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}																																																																																																																																																																																															
溢水防護上の区画番号	溢水防護上の区画番号	—		RW-2F-01N	RW-2F-01N																																																																																																																																																																																												
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL 25785mm以上	EL 25785mm以上																																																																																																																																																																																												
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																													
送風機	種類	誘導電動機																																																																																																																																																																																															
	出力	□ ^{*2}																																																																																																																																																																																															
	個数	2																																																																																																																																																																																															
	取付箇所	送風機と同じ																																																																																																																																																																																															
設計上の空気の流入率		回/h		0.5																																																																																																																																																																																													
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																													
		中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ																																																																																																																																																																																															
効率	単体	99.97以上 ^{*1} (0.3 μ m 粒子)	96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)																																																																																																																																																																																														
	総合	99.9以上 ^{*1} (0.3 μ m 粒子)	95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)																																																																																																																																																																																														
主要寸法	吸込口径	800 ^{*3} ^{*4} ×3000 ^{*3} ^{*4}																																																																																																																																																																																															
	吐出口径	900 ^{*3} ^{*4} ×900 ^{*3} ^{*4} (2個)																																																																																																																																																																																															
	たて	5000 ^{*3}																																																																																																																																																																																															
	横	7500 ^{*3}																																																																																																																																																																																															
高さ	2450 ^{*3}																																																																																																																																																																																																
個数	1																																																																																																																																																																																																
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																													
取付箇所	系統名（ライン名）	中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ (中央制御室空調換気系) ^{*3}																																																																																																																																																																																															
	設置床	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*1}																																																																																																																																																																																															
	溢水防護上の区画番号	—		RW-2F-01N																																																																																																																																																																																													
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL 25785mm以上																																																																																																																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室差圧計 へ(5)(vi)-㉔ (チ, (1), (vi) 換気空調設備と兼用)</p> <p>待避室差圧計 へ(5)(vi)-㉔ (チ, (1), (vi) 換気空調設備と兼用)</p>	<p>f. <u>中央制御室差圧計</u> 第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様に記載する。</p> <p>g. <u>待避室差圧計</u> 第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 (1) 中央制御室機能 e. 居住性の確保 <中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても，LED ライト（三脚タイプ），<u>中央制御室差圧計</u>，<u>待避室差圧計</u>，酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計により，運転員が中央制御室にとどまり必要な操作ができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため，<u>中央制御室差圧計</u>（個数 1，計測範囲 0～200Pa）により，外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。また，<u>待避室差圧計</u>（個数 1，計測範囲 0～200Pa）により，中央制御室内と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>「中央制御室差圧計」及び「待避室差圧計」は，設置許可申請書（本文（五号））のへ(5)(vi)-㉔を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「中央制御室機能」に整理しており，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																						
<p>へ(5) (vi) -㉓非常用ガス処理系排気ファン へ(5) (vi) -㉔ (リ), (4), (ii) 非常用ガス処理系と兼用)</p>	<p>(2) 中央制御室の運転員の被ばくを低減するための設備</p> <p>a. 非常用ガス処理系 第9.1-4表 非常用ガス処理系主要仕様に記載する。</p>	<p>【原子炉格納施設】 (要目表) (7) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項 (7.1) 非常用ガス処理系</p> <p style="font-size: small;">☐ 排風機の種類、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">排風機</td> <td>名称</td> <td colspan="4">非常用ガス処理系排風機*1</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td colspan="4">遠心式</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td colspan="4">m³/h/個 ☐以上(4400*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">*3 主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td colspan="4">mm 406.4*2 *4</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td colspan="4">mm 406.4*2 *4</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td colspan="4">mm 1400*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td colspan="4">mm 2645*2</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td colspan="4">mm 1540*2</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td colspan="2">A-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3</td> <td colspan="2">B-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 3480mm*3</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 3480mm*3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">-</td> <td colspan="2">R-3F-04-1N, R-3F-04-2N, R-3F-07N, R-3F-16-1N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">-</td> <td colspan="2">EL 35381mm以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">*3 原動機</td> <td>種類</td> <td colspan="4">誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td colspan="4">kW/個 ☐*2</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="4">2</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td colspan="5">排風機と同じ</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、放射線管理施設のうち換気設備に記載 *2: 公称値を示す。 *3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4: 外面の寸法を示す。</p>			変更前		変更後		排風機	名称	非常用ガス処理系排風機*1				種類	遠心式				容量	m ³ /h/個 ☐以上(4400*2)				*3 主要寸法	吸込口径	mm 406.4*2 *4				吐出口径	mm 406.4*2 *4				たて	mm 1400*2				横	mm 2645*2				高さ	mm 1540*2				個数	2				取付箇所	系統名 (ライン名)	A-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3		B-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3		設置床	原子炉建物 EL 3480mm*3		原子炉建物 EL 3480mm*3		溢水防護上の区画番号	-		R-3F-04-1N, R-3F-04-2N, R-3F-07N, R-3F-16-1N		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-		EL 35381mm以上				変更前		変更後		*3 原動機	種類	誘導電動機				出力	kW/個 ☐*2				個数	2				取付箇所	排風機と同じ					<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のへ(5) (vi) -㉓は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -㉓と同義であり、整合している。 「非常用ガス処理系排風機」は、設置許可申請書（本文（五号））におけるへ(5) (vi) -㉔を設計及び工事の計画の「原子炉格納施設」のうち「放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備」に整理しており、整合している。 	
		変更前		変更後																																																																																																						
排風機	名称	非常用ガス処理系排風機*1																																																																																																								
	種類	遠心式																																																																																																								
	容量	m ³ /h/個 ☐以上(4400*2)																																																																																																								
	*3 主要寸法	吸込口径	mm 406.4*2 *4																																																																																																							
		吐出口径	mm 406.4*2 *4																																																																																																							
		たて	mm 1400*2																																																																																																							
		横	mm 2645*2																																																																																																							
	高さ	mm 1540*2																																																																																																								
	個数	2																																																																																																								
	取付箇所	系統名 (ライン名)	A-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3		B-非常用ガス処理系排風機 (非常用ガス処理系)*3																																																																																																					
設置床		原子炉建物 EL 3480mm*3		原子炉建物 EL 3480mm*3																																																																																																						
溢水防護上の区画番号		-		R-3F-04-1N, R-3F-04-2N, R-3F-07N, R-3F-16-1N																																																																																																						
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-		EL 35381mm以上																																																																																																							
		変更前		変更後																																																																																																						
*3 原動機	種類	誘導電動機																																																																																																								
	出力	kW/個 ☐*2																																																																																																								
	個数	2																																																																																																								
取付箇所	排風機と同じ																																																																																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置 個 数 2</p>	<p>b. 原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置 個 数 2</p>	<p>【原子炉格納施設】 （基本設計方針） 3. 圧力低減設備その他の安全設備 3.3 放射性物質濃度制御設備 3.3.1 非常用ガス処理系 <中略> 炉心の著しい損傷が発生し、非常用ガス処理系を起動する際に、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル（原子炉冷却系統施設の設備、浸水防護施設の設備で兼用）を閉止する必要がある場合には、中央制御室から原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置（<u>個数2</u>）を操作し、容易かつ確実に閉止できる設計とする。また、原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル閉止装置は現場においても、人力により操作できる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																	
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）</p> <p>へ(5) (vi) -㉔(チ) (1) (vi) 換気空調設備と兼用...</p>	<p>第 6.10-3 表 中央制御室（重大事故等時）（可搬型）の設備の主要機器仕様</p> <p>(1) 居住性を確保するための設備</p> <p>a. 中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）</p> <p>第 8.2-3 表 換気空調設備（重大事故等時）（可搬型）の主要機器仕様に記載する。</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>2. 換気設備(中央制御室, 緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの(非常用のものに限る。))並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気又は排気設備として設置するもの。(一時的に設置する可搬型のものを除く。)に係る次の事項</p> <p>2.5 中央制御室空気供給系</p> <p>(1) 容器(中央制御室, 緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。)の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p style="text-align: center;">可搬型</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td></td> <td>中央制御室待避室正圧化装置(空気ポンベ)</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量*1</td> <td>ℓ/個</td> <td>50.0 以上 (50.0*2)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 圧 力*1</td> <td>MPa</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 温 度*1</td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td>232*2</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>1460*2</td> </tr> <tr> <td>胴 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>5.6*2</td> </tr> <tr> <td>底 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>11.2*2</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td>クロモリブデン鋼</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>15 (予備 35)</td> </tr> <tr> <td>取</td> <td>付 箇 所</td> <td>—</td> <td>保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに, 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 重大事故等時における使用時の値 *2: 公称値を示す。</p>			変更前	変更後	名	称		中央制御室待避室正圧化装置(空気ポンベ)	種	類	—	一般継目なし鋼製容器	容	量*1	ℓ/個	50.0 以上 (50.0*2)	最	高 使 用 圧 力*1	MPa	19.6	最	高 使 用 温 度*1	℃	40	主 要 寸 法	外 径	mm	232*2	高 さ	mm	1460*2	胴 部 厚 さ	mm	5.6*2	底 部 厚 さ	mm	11.2*2	材	料	—	クロモリブデン鋼	個	数	—	15 (予備 35)	取	付 箇 所	—	保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに, 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm	<p>整合性</p> <p>・「中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンベ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vi) -㉔を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。</p>	
		変更前	変更後																																																		
名	称		中央制御室待避室正圧化装置(空気ポンベ)																																																		
種	類	—	一般継目なし鋼製容器																																																		
容	量*1	ℓ/個	50.0 以上 (50.0*2)																																																		
最	高 使 用 圧 力*1	MPa	19.6																																																		
最	高 使 用 温 度*1	℃	40																																																		
主 要 寸 法	外 径	mm	232*2																																																		
	高 さ	mm	1460*2																																																		
	胴 部 厚 さ	mm	5.6*2																																																		
	底 部 厚 さ	mm	11.2*2																																																		
材	料	—	クロモリブデン鋼																																																		
個	数	—	15 (予備 35)																																																		
取	付 箇 所	—	保管場所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに, 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所: 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm																																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>LEDライト（三脚タイプ） 個数 2（予備1）</p> <p>酸素濃度計 個数 2（予備1）</p> <p>二酸化炭素濃度計 個数 2（予備1）</p> <p>プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室） 個数 1（予備1）</p> <p>〔5〕(vi)-③⑥酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計は、設計基準事故時及び重大事故等時ともに使用する。</p>	<p>b. LEDライト（三脚タイプ） 個数 2（予備1）</p> <p>c. 酸素濃度計 個数 2（予備1）</p> <p>d. 二酸化炭素濃度計 個数 2（予備1）</p> <p>e. プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室） 個数 1（予備1）</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置 2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 （1）中央制御室機能 e. 居住性の確保 ＜中略＞ 重大事故等時に、中央制御室内及び中央制御室待避室内での監視操作に必要な照度の確保は、LEDライト（三脚タイプ）（個数2（予備1））及びLEDライト（ランタンタイプ）（個数2）によりできる設計とする。 ＜中略＞ 〔5〕(vi)-③⑥設計基準事故時及び炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室内及び中央制御室待避室内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が活動に支障がない範囲にあることを把握できるよう、酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計（個数2（予備1））を中央制御室内に保管する設計とする。 ＜中略＞ 中央制御室待避室に待避した運転員が、中央制御室待避室の外に出ることなく発電用原子炉施設の主要な計測装置の監視を行うため、プラントパラメータ監視装置（中央制御室待避室）（個数1（予備1））を設置する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の〔5〕(vi)-③⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〔5〕(vi)-③⑥と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(vii) 原子炉水位制御系</p> <p>原子炉水位を一定に保つようにするため、原子炉水位制御系へ(5) (vii) -①を設ける。</p> <p>この系は、原子炉給水流量、主蒸気流量及び原子炉水位の信号を取り入れ、タービン駆動給水ポンプの速度を調整すること等により原子炉給水流量を制御する。</p> <p>(viii) 選択制御棒挿入機構</p> <p>へ(5) (viii) -①発電機負荷しゃ断時に、あらかじめ選択された制御棒を挿入して投入反応度を抑制する選択制御棒挿入機構を設ける。</p>	<p>6.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.1 原子炉制御系</p> <p>6.1.1.4 主要設備</p> <p>6.1.1.4.3 原子炉水位制御系</p> <p>原子炉水位は、出力運転中常に一定に保持されるように自動制御する。この目的のために、三要素給水制御方式による原子炉水位制御系を設ける。</p> <p>給水流量、主蒸気流量及び原子炉水位の3種類の信号を取入れた三要素給水制御方式によって、タービン駆動給水ポンプの速度調整、あるいは電動機駆動給水ポンプ吐出側に設ける給水制御弁の開度調整により、給水流量を自動的に調整し、あらかじめ定めた水位を保つように制御する。</p> <p>第 6.1.1-6 図は原子炉水位制御系の機能説明図である。</p> <p>また、発電機負荷遮断時には、2 台運転中のタービン駆動給水ポンプのうち 1 台のポンプをトリップし、原子炉への過給水を抑制する。</p> <p><中略></p> <p>6.1.1.4.1 原子炉出力制御系</p> <p>(1) 反応度制御系</p> <p>b. 選択制御棒挿入機構</p> <p>発電機負荷が喪失した場合、給水加熱器の加熱源がなくなるため低温の給水が炉心に流入し、これによって生ずる印加反応度により炉心内中性子束が増加し、スクラムを引き起こすおそれがある。このような事態を防ぐため、発電機負荷しゃ断時にあらかじめ選択された制御棒を自動的に挿入する選択制御棒挿入機構を設ける。制御棒は、目標とする出力及び出力分布等を考慮して選択される。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.6 原子炉給水制御系</p> <p>原子炉水位制御系へ(5) (vii) -①は、原子炉水位を一定に保つようにするため、原子炉給水流量、主蒸気流量及び原子炉水位の信号を取り入れ、タービン駆動給水ポンプの速度を調整すること等により原子炉給水流量を自動的に制御できる設計とする。</p> <p>【計測制御系統施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>1. 制御方式及び制御方法</p> <p>(2) 発電用原子炉の制御方法</p> <p>制御棒の位置の制御方法、原子炉再循環流量の制御方法、ほう酸水注入設備の制御方法、発電用原子炉の圧力の制御方法、給水の制御方法及び安全保護系等の制御方法</p> <p>発電用原子炉の制御は以下の方法で行う。*2</p> <p>a. 制御棒の位置の制御方法*3,*4</p> <p><中略></p> <p>スクラム動作及び選択制御棒挿入*5 動作時はスクラムアキュムレータの圧力を利用して急速に制御棒が挿入*5 される。</p> <p>へ(5) (viii) -①選択制御棒はタービン出力45%以上における蒸気加減弁急速閉の信号により自動的に挿入*5 される。</p> <p>また、原子炉出力 35%以上で原子炉再循環ポンプが</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (vii) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (vii) -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (viii) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (viii) -①を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ix) 再循環ポンプ・トリップ機能</p> <p>タービン・トリップ又は発電機負荷遮断直後の原子炉出力を抑制するため、主蒸気止め弁の閉止又は蒸気加減弁急速閉止の信号により、再循環ポンプ2台を同時にトリップする機能を設ける。</p> <p>(x) 所内用空気系</p> <p>へ(5)(x)-①所内用空気系は、圧縮機、空気レシーバ等で構成する。空気レシーバを経て供給される圧縮空気は、ろ過機の逆洗、ほう酸水貯蔵タンクの攪拌等に用いる。</p>	<p>なお、本機能の構成は多重性、独立性を有し安全保護系と同程度の信頼性を有する設計とする。</p> <p>また、再循環ポンプが1台以上トリップし、低炉心流量高出力領域に入った場合にも、出力を抑制し、安定性の余裕を増すために、あらかじめ選択された制御棒を自動的に挿入させる。</p> <p>c. 再循環流量制御系 <中略></p> <p>タービン・トリップ又は発電機負荷遮断時に再循環ポンプ2台を同時にトリップする機能を設ける。本機能により、タービン・トリップ又は発電機負荷遮断時には、主蒸気止め弁の閉止又は蒸気加減弁の急速閉止の信号により、再循環ポンプ2台を同時にトリップし、タービン・トリップ又は発電機負荷遮断直後の原子炉出力を抑制する。</p> <p><中略></p> <p>6.9 圧縮空気系</p> <p>6.9.1 概要</p> <p>圧縮空気系は計装用空気系と所内用空気系で構成し、発電所運転に必要な圧縮空気を供給する。</p> <p><中略></p> <p>6.9.3 主要設備</p> <p><中略></p> <p>本システムを構成する機器は、圧縮機のほか、アフタクーラ、空気レシーバ、フィルタ、空気乾燥器等がある。使用される圧縮空気は、フィルタにより細かい粒子を取り除くとともに、油気、湿分のない空気とする。</p> <p>所内用空気系は、圧縮機を2台、空気レシーバを1基設ける。レシーバを経て供給する圧縮空気は、ろ過機の逆洗、空気作動用具、ほう酸水貯蔵タンクのかくはん等の目的に用いる。</p>	<p>1台以上トリップした場合には、原子炉出力を制御して安定性の余裕を増すために自動的に挿入^{*5}される。この制御棒は、自然循環状態で原子炉出力約35%を目標に選択される。</p> <p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.3 原子炉再循環流量制御系</p> <p>原子炉再循環流量制御系は、原子炉再循環ポンプ速度を調整することにより、原子炉出力を制御できる設計とする。</p> <p>また、タービントリップ又は発電機負荷遮断直後の原子炉出力を抑制するため、主蒸気止め弁閉止又は蒸気加減弁急速閉止の信号により、原子炉再循環ポンプ2台が同時にトリップする機能を設ける設計とする。</p> <p>5. 制御用空気設備</p> <p>5.1 計装用圧縮空気系</p> <p>原子炉の運転に必要な圧縮空気を供給する制御用空気設備として、計装用圧縮空気系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>へ(5)(x)-①所内用圧縮空気系は、所内用空気圧縮機、所内用空気槽、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、所内用空気槽を経て各使用先へ圧縮空気を供給できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5)(x)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(x)-①と同義で</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(xi) 計装用空気系 <u>へ(5) (xi) -①計装用空気系は、圧縮機、空気レシーバ、空気乾燥器等で構成する。</u> <u>本システムにより圧縮空気を供給される機器は、空気作動の弁、制御器等である。計装用空気系の圧縮機が故障した場合でも、所内用空気系の圧縮機によって、計装用空気系に圧縮空気を供給できる設計とする。</u></p> <p>(xii) 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備 <u>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生するおそれがある場合又は当該事象が発生した場合においても炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行するために必要な重大事故等対処設備へ(5) (xii) -①を設置する。</u> <u>緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行し、炉心の著しい損傷を防止するための設備として、ATWS緩和設備（代替制御棒挿入機能）、ATWS緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）及びほう酸水注入系を設ける。</u></p>	<p>6.9.2 設計方針 (2) 計装用空気系の圧縮機が故障した場合でも、所内用空気系の圧縮機によって圧縮空気を供給できるようにする。</p> <p>6.9.3 主要設備 計装用空気系は、100%容量の圧縮機を2台設け、故障時には自動的に他へ切替可能とする。本システムにより圧縮空気を供給する機器は、空気作動の弁、制御器等である。本システムを構成する機器は、圧縮機のほか、アフタクーラ、空気レシーバ、フィルタ、空気乾燥器等がある。</p> <p><中略></p> <p>6.7 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備 6.7.1 概要 <u>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生するおそれがある場合又は当該事象が発生した場合においても炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行するために必要な重大事故等対処設備を設置する。</u> <中略></p> <p>6.7.2 設計方針 <u>緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行し、炉心の著しい損傷を防止するための設備として、ATWS緩和設備（代替制御棒挿入機能）、ATWS緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）及びほう酸水注入系を設ける。</u></p>	<p><中略></p> <p>へ(5) (xi) -①計装用圧縮空気系は、計装用空気圧縮機、計装用空気槽、計装用空気槽安全弁、計装用空気脱湿塔、配管・弁類、計測制御装置等で構成し、空気作動の弁、流量制御器等に圧縮空気を供給できる設計とする。</p> <p>計装用圧縮空気系の計装用空気圧縮機が故障した場合でも、所内用圧縮空気系の空気圧縮機によって、計装用圧縮空気系に圧縮空気を供給できる設計とする。</p> <p>1.4 ほう酸水注入系 <中略></p> <p>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生するおそれがある場合又は当該事象が発生した場合においても炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行するために必要な重大事故等対処設備へ(5) (xii) -①aとして、ほう酸水注入系を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>3. 安全保護装置等 3.2 ATWS緩和設備（代替制御棒挿入機能） <u>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生するおそれがある場合又は当該事象が発生した場合においても炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行するために必要な重大事故等対処設備へ(5) (xii) -①bとして、ATWS緩和設備（代替制御棒挿入機能）を設ける設計とする。</u></p>	<p>あり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (xi) -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xi) -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のへ(5) (xii) -①a～へ(5) (xii) -①cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xii) -①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、<u>高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、へ(5) (xii) -②自動減圧起動阻止スイッチ及び代替自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系及び代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p> <p><u>自動減圧起動阻止スイッチ及び代替自動減圧起動阻止スイッチについては、(5)、(xiii) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備に記載する。</u></p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備 (a) A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）による制御棒緊急挿入 <u>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならない状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として、A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、全制御棒を全挿入させて発電用原子炉を未臨</u></p>	<p>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、<u>高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチ及び代替自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系及び代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p> <p><u>自動減圧起動阻止スイッチ及び代替自動減圧起動阻止スイッチについては、「6.8 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備」に記載する。</u></p> <p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備 a. A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）による制御棒緊急挿入 <u>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならない状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として、A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）を使用する。</u> <u>A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、検出器（原</u></p>	<p><中略> 3.3 A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能） <u>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生するおそれがある場合又は当該事象が発生した場合においても炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器の健全性を維持するとともに、発電用原子炉を未臨界に移行するために必要な重大事故等対処設備へ(5) (xii) -①cとして、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）を設ける設計とする。</u> <中略> 3.5 自動減圧機能作動阻止 <中略> <u>原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水系）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、へ(5) (xii) -②自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止できる設計とする。</u> <中略> 3.2 A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能） <中略> <u>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならない状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として使用するA T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、全</u></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (xii) -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xii) -②と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「へ(5) (xiii) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>界にできる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することで作動させることができる設計とする。</p> <p>(b) 原子炉再循環ポンプ停止による原子炉出力抑制</p> <p>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならぬ状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、原子炉再循環ポンプ2台を自動停止させて、発電用原子炉の出力を(5) (xii) b. (b)-①制御できる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、自動で停止しない場合に、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することで、原子炉再循環ポンプを停止させることができる設計とする。</p>	<p>子炉圧力及び原子炉水位)、論理回路、代替制御棒挿入機能用電磁弁等で構成し、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、全制御棒を全挿入させて発電用原子炉を未臨界にできる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することで作動させることができる設計とする。</p> <p>主要な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能） ・制御棒（6.1.2 原子炉停止系） ・制御棒駆動機構（6.1.2 原子炉停止系） ・制御棒駆動水圧系水圧制御ユニット（6.1.2 原子炉停止系） <p>その他、設計基準事故対処設備である非常用交流電源設備を重大事故等対処設備（設計基準拡張）として使用する。</p> <p>b. 原子炉再循環ポンプ停止による原子炉出力抑制</p> <p>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならぬ状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）を使用する。</p> <p>A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、検出器（原子炉圧力及び原子炉水位）、論理回路、原子炉再循環ポンプトリップ遮断器等で構成し、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、原子炉再循環ポンプ2台を自動停止させて、発電用原子炉の出力を制御できる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、自動で停止しない場合に、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することで、原子炉再循環ポンプを停止させることができる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>制御棒を全挿入させて発電用原子炉を未臨界にできる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）は、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することで作動させることができる設計とする。</p> <p>その他、設計基準対象施設である制御棒及び制御棒駆動系のうち制御棒駆動水圧系水圧制御ユニット、制御棒駆動機構等を重大事故等対処設備として使用できる設計とする。また、制御棒駆動系の流路として、設計基準対象施設である配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p> <p>3.3 A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）</p> <p><中略></p> <p>発電用原子炉が運転を緊急に停止していなければならぬ状況にもかかわらず、原子炉出力、原子炉圧力等のパラメータの変化から緊急停止していないことが推定される場合の重大事故等対処設備として使用するA T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、原子炉圧力高又は原子炉水位低（レベル2）の信号により、原子炉再循環ポンプ2台を自動停止させて、発電用原子炉の出力を(5) (xii) b. (b)-①抑制できる設計とする。</p> <p>また、A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）は、自動で停止しない場合に、中央制御室の操作スイッチを手動で操作することにより、原子炉再循環ポンプトリップ遮断器を開放し、原子炉再循環ポンプを停止させることができる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の(5) (xii) b. (b)-①は、設置変更許可申請書（本文（十号））の(5) (xii) b. (b)-①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																												
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本文（十号） <u>原子炉圧力高（代替原子炉再循環ポンプトリップ）設定点</u> 原子炉圧力7.41MPa[gage]</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3), ハ(2)(ii)b.(e)(e-6)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本文（十号） <u>原子炉水位低（再循環ポンプトリップ）設定点</u> 気水分離器下端から-112cm（レベル2）</p> <p>・記載箇所 ハ(2)(ii)a.(b)(b-1)(b-1-3), ハ(2)(ii)b.(e)(e-6)</p> </div>		<p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th rowspan="2">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> </tr> <tr> <th>検出器の種類</th> <th>種別</th> <th>取付箇所</th> <th>検出器の種類</th> <th>種別</th> <th>取付箇所</th> <th>検出器の種類</th> <th>種別</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）</td> <td rowspan="3">原子炉圧力高</td> <td rowspan="3">4</td> <td rowspan="3">原子炉圧力検出器</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="3">2*7</td> <td rowspan="3">7.41MPa以下</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建屋 EL 15300mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>R-1P-02N, R-1P-22N</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉水位低（レベル2）</td> <td rowspan="3">4</td> <td rowspan="3">原子炉水位検出器</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="3">2*7</td> <td rowspan="3">気水分離器下端より112cm以下</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>原子炉建屋 EL 15300mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">手動</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td>系統名</td> <td>—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>制御室建屋 EL 16900mm</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち、A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）「原子炉圧力高」として使用する検出器と同じである。 *2：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち、A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）「原子炉水位低（レベル2）」として使用する検出器と同じである。 *3：A T W S 検知設備（代替制御挿入機能）作動回路は、検出器各2個からなる論理和2個の直列回路からなるチャンネル2系統で構成され、同じチャンネルに属する検出器最低2個の動作でチャンネルが動作、両チャンネル同時動作でA T W S 検知設備（代替制御挿入機能）が動作する。 *4：気水分離器下端は、原子炉圧力容器レベルより1325cm上 *5：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち、A T W S 検知設備（代替制御挿入機能）「原子炉圧力高」として使用する検出器と同じである。 *6：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち、A T W S 検知設備（代替制御挿入機能）「原子炉水位低（レベル2）」として使用する検出器と同じである。 *7：A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）作動回路は、検出器各2個からなる論理和2個の直列回路からなるチャンネル2系統で構成され、同じチャンネルに属する検出器最低2個の動作でチャンネルが動作、A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）が動作する。</p>	変更前						変更後						工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件			検出器の種類	種別	取付箇所	検出器の種類	種別	取付箇所	検出器の種類	種別	取付箇所	A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）	原子炉圧力高	4	原子炉圧力検出器	系統名	—	2*7	7.41MPa以下	—	—	—	設置床	原子炉建屋 EL 15300mm	溢水防護上の区画番号	R-1P-02N, R-1P-22N	原子炉水位低（レベル2）	4	原子炉水位検出器	系統名	—	2*7	気水分離器下端より112cm以下	—	—	—	設置床	原子炉建屋 EL 15300mm	溢水防護上の区画番号	—	手動	—	—	系統名	—	—	—	—	—	—	設置床	制御室建屋 EL 16900mm	溢水防護上の区画番号	—		
変更前						変更後																																																																										
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器及び作動条件																																																																							
	検出器の種類	種別	取付箇所		検出器の種類	種別	取付箇所		検出器の種類	種別	取付箇所																																																																					
A T W S 検知設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）	原子炉圧力高	4	原子炉圧力検出器	系統名	—	2*7	7.41MPa以下	—	—	—																																																																						
				設置床	原子炉建屋 EL 15300mm																																																																											
				溢水防護上の区画番号	R-1P-02N, R-1P-22N																																																																											
	原子炉水位低（レベル2）	4	原子炉水位検出器	系統名	—	2*7	気水分離器下端より112cm以下	—	—	—																																																																						
				設置床	原子炉建屋 EL 15300mm																																																																											
				溢水防護上の区画番号	—																																																																											
手動	—	—	系統名	—	—	—	—	—	—																																																																							
			設置床	制御室建屋 EL 16900mm																																																																												
			溢水防護上の区画番号	—																																																																												

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(c) ほう酸水注入</p> <p><u>へ(5) (xii) b. (c)原子炉保護系, 制御棒, 制御棒駆動機構, 制御棒駆動水圧系水圧制御ユニットの機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として, ほう酸水注入系は, ほう酸水注入ポンプにより, ほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで, 発電用原子炉を未臨界にできる設計とする。</u></p>	<p>c. ほう酸水注入</p> <p>原子炉保護系, 制御棒, 制御棒駆動機構, 制御棒駆動水圧系水圧制御ユニットの機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として, ほう酸水注入系を使用する。</p> <p>ほう酸水注入系は, ほう酸水注入ポンプ, ほう酸水貯蔵タンク, 配管・弁類, 計測制御装置等で構成し, ほう酸水注入ポンプにより, ほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで, 発電用原子炉を未臨界にできる設計とする。</p> <p>主要な設備は, 以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう酸水注入ポンプ ・ほう酸水貯蔵タンク <p>本系統の流路として, ほう酸水注入系の配管及び弁並びに差圧検出・ほう酸水注入系配管を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>その他, 設計基準対象施設である原子炉圧力容器を重大事故等対処設備として使用し, 設計基準事故対処設備である非常用交流電源設備を重大事故等対処設備(設計基準拡張)として使用する。</p> <p>原子炉圧力容器については, 「5.1 原子炉圧力容器及び一次冷却材設備」に記載する。</p> <p>非常用交流電源設備については, 「10.1 非常用電源設備」に記載する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>(基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 計測制御系統施設</p> <p>1.4 ほう酸水注入系</p> <p><中略></p> <p>原子炉保護系, 制御棒, 制御棒駆動機構及び制御棒駆動水圧系水圧制御ユニットの機能が喪失した場合の重大事故等対処設備としてへ(5) (xii) b. (c)使用する。ほう酸水注入系は, ほう酸水注入ポンプにより, ほう酸水貯蔵タンクのほう酸水を原子炉圧力容器へ注入することで, 発電用原子炉を未臨界にできる設計とする。</p> <p>ほう酸水注入系の流路として, 設計基準対象施設である原子炉圧力容器, 炉心支持構造物, 原子炉圧力容器内部構造物及び配管貫通部を重大事故等対処設備として使用することから, 流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。</p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5) (xii) b. (c)は, 設置変更許可申請書(本文(五号))のへ(5) (xii) b. (c)と同義であり, 整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																				
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能） 個 数 〜(5) (xii) b. (c)-① 1.</p> <p>A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能） 個 数 〜(5) (xii) b. (c)-② 1.</p>	<p>第 6.7-1 表 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能） 個 数 1.</p> <p>(2) A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能） 個 数 1.</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>7. 工学的安全施設等の起動信号の種類，検出器の種類，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること），工学的安全施設等の起動に要する信号の個数及び設定値並びに工学的安全施設等の起動信号を発信させない条件</p>																																						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画の〜(5) (xii) b. (c)-①は，設置変更許可申請書（本文（五号））の〜(5) (xii) b. (c)-①を具体的に記載しており，整合している。 設計及び工事の計画の〜(5) (xii) b. (c)-②は，設置変更許可申請書（本文（五号））の〜(5) (xii) b. (c)-②を具体的に記載しており，整合している。 </div>																																								
<p style="text-align: center;">（緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備の起動信号）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th colspan="3">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th colspan="3">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力高</td> <td>4</td> <td>〜(5) (xii) b. (c)-①</td> <td>原子炉圧力高</td> <td>4</td> <td>7.4MPa 以下</td> <td>原子炉水位低（レベル2）</td> <td>4</td> <td>〜</td> <td>原子炉水位低（レベル2）</td> <td>4</td> <td>気水分離器下流より 112cm 以下</td> </tr> </tbody> </table>					変更前						変更後						検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			原子炉圧力高	4	〜(5) (xii) b. (c)-①	原子炉圧力高	4	7.4MPa 以下	原子炉水位低（レベル2）	4	〜	原子炉水位低（レベル2）	4	気水分離器下流より 112cm 以下
変更前						変更後																																		
検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類																															
原子炉圧力高	4	〜(5) (xii) b. (c)-①	原子炉圧力高	4	7.4MPa 以下	原子炉水位低（レベル2）	4	〜	原子炉水位低（レベル2）	4	気水分離器下流より 112cm 以下																													
<p style="text-align: center;">（つづき）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th colspan="3">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th colspan="3">検出器及び作動条件</th> <th colspan="3">工学的安全施設等の起動信号の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉圧力高</td> <td>4</td> <td>〜(5) (xii) b. (c)-②</td> <td>原子炉圧力高</td> <td>4</td> <td>7.4MPa 以下</td> <td>原子炉水位低（レベル2）</td> <td>4</td> <td>〜</td> <td>原子炉水位低（レベル2）</td> <td>4</td> <td>気水分離器下流より 112cm 以下</td> </tr> </tbody> </table>					変更前						変更後						検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			原子炉圧力高	4	〜(5) (xii) b. (c)-②	原子炉圧力高	4	7.4MPa 以下	原子炉水位低（レベル2）	4	〜	原子炉水位低（レベル2）	4	気水分離器下流より 112cm 以下
変更前						変更後																																		
検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類			検出器及び作動条件			工学的安全施設等の起動信号の種類																															
原子炉圧力高	4	〜(5) (xii) b. (c)-②	原子炉圧力高	4	7.4MPa 以下	原子炉水位低（レベル2）	4	〜	原子炉水位低（レベル2）	4	気水分離器下流より 112cm 以下																													
<p>注記①：本検出器は，工学的安全施設等の起動信号のうち，A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）「原子炉水位低（レベル2）」として使用する検出器と同じである。</p> <p>②：本検出器は，工学的安全施設等の起動信号のうち，A T W S 緩和設備（代替原子炉再循環ポンプトリップ機能）「原子炉水位低（レベル2）」として使用する検出器と同じである。</p> <p>③：A T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）作動回路は，検出器を2個からなる論理和2重の直列回路からなるチャンネル2系統で構成され，同じチャンネルに属する検出器は2個の動作でチャンネルが動作し，両チャンネルでA T W S 緩和設備（代替制御棒挿入機能）が動作する。</p> <p>④：気水分離器下流は，原子炉圧力高レベルより 132cm 上</p>																																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																		
<p>制御棒</p> <p>〜(5) (xii) b. (c)-③... (〜, (3) 制御設備と兼用)...</p>	<p>第 6.1.2-1 表 制御棒の主要仕様</p> <p>本 数 137</p> <p>形 式 十字形</p> <p>材 料 ステンレス鋼, 中性子吸収材他</p> <p>有効長さ 約 3.63m</p> <p>ブレード幅 約 250mm (タイプ 1)</p> <p>重 量 約 100kg</p> <p>ブレード厚さ 約 8mm</p> <p>シース肉厚 約 1.2mm</p> <p>中性子吸収材</p> <p>吸収材 ボロン・カーバイド粉末</p> <p>個 数 ボロン・カーバイド粉末入り ステンレス鋼管 72 本 (制御棒 1 本当たり)</p> <p>ステンレス鋼管</p> <p>外径 約 5.6m</p> <p>内径 約 4.2mm (タイプ 2)</p> <p>重 量 約 100kg</p> <p>ブレード厚さ 約 7mm</p> <p>シース肉厚 約 0.8mm</p> <p>中性子吸収材</p> <p>吸収材 ハフニウム棒</p> <p>個 数 ハフニウム棒 84 本 (制御棒 1 本当たり)</p> <p>ハフニウム棒径 約 3m〜約 5mm</p>	<p>【計測制御系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>2. 制御材に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒の名称, 種類, 組成, 反応度制御能力, 停止余裕, 最大反応度価値 (制御棒グループごとに引抜く場合は, グループ及び一本の別に記載すること。), 主要寸法, 個数及び落下速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td colspan="3">制御棒</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">十字形 (フォロー付)</td> </tr> <tr> <td>組 成^{*1}</td> <td>—</td> <td>ボロンカーバイド粉末</td> <td>ハフニウム棒</td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力^{*2}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.18^{*3}</td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>—</td> <td colspan="2">最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)</td> </tr> <tr> <td>最 大 反 応 度 価 値^{*4}</td> <td>Δk</td> <td colspan="2">約 0.010</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>全 長^{*5}</td> <td>mm</td> <td colspan="2">4530^{*6}</td> </tr> <tr> <td>有 効 長 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">3632^{*6}</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td colspan="2">249^{*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法</td> <td>ブレード厚さ</td> <td>mm</td> <td>8.3^{*6}</td> <td>6.6^{*6}</td> </tr> <tr> <td>シース厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>1.1^{*6}</td> <td>0.8^{*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">個 数</td> <td>落下速度リミッタ外径</td> <td>mm</td> <td>235^{*6}</td> <td>243^{*6}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>落 下 速 度^{*4}</td> <td>m/s</td> <td colspan="3">0.95 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;"> 注記*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「組成/制御材」と記載 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *3: 過剰反応度約 0.14 Δk に対応する値 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載 *6: 公称値を示す。 </p>			変 更 前		変更後	名 称	制御棒			変更なし	種 類	—	十字形 (フォロー付)		組 成 ^{*1}	—	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒	反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}		停 止 余 裕	—	最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)		最 大 反 応 度 価 値 ^{*4}	Δk	約 0.010		主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}		有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}		幅	mm	249 ^{*6}		法	ブレード厚さ	mm	8.3 ^{*6}	6.6 ^{*6}	シース厚さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}	個 数	落下速度リミッタ外径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}	個 数	—	137		落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下			<p>整合性</p> <p>・「制御棒」は, 設置許可申請書 (本文 (五号)) の〜(5) (xii) b. (c)-③を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「制御設備」に整理しており, 整合している。</p>	
		変 更 前		変更後																																																																		
名 称	制御棒			変更なし																																																																		
種 類	—	十字形 (フォロー付)																																																																				
組 成 ^{*1}	—	ボロンカーバイド粉末	ハフニウム棒																																																																			
反 応 度 制 御 能 力 ^{*2}	Δk	約 0.18 ^{*3}																																																																				
停 止 余 裕	—	最大価値制御棒 1 本の全引抜時臨界未満維持 実効増倍率 < 1 (設計目標 0.01 Δk 以上)																																																																				
最 大 反 応 度 価 値 ^{*4}	Δk	約 0.010																																																																				
主 要 寸 法	全 長 ^{*5}	mm	4530 ^{*6}																																																																			
	有 効 長 さ	mm	3632 ^{*6}																																																																			
	幅	mm	249 ^{*6}																																																																			
法	ブレード厚さ	mm	8.3 ^{*6}		6.6 ^{*6}																																																																	
	シース厚さ ^{*4}	mm	1.1 ^{*6}	0.8 ^{*6}																																																																		
個 数	落下速度リミッタ外径	mm	235 ^{*6}	243 ^{*6}																																																																		
	個 数	—	137																																																																			
落 下 速 度 ^{*4}	m/s	0.95 以下																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																															
<p>制御棒駆動機構</p> <p>へ(5) (xii) b. (c)-④ (へ、(3) 制御設備と兼用)</p>	<p>第 6. 1. 2-2 表 制御棒駆動水圧系主要仕様</p> <p>制御棒駆動水圧ポンプ 2台（うち1台は予備）</p> <p>流量制御弁 2個（うち1個は予備）</p> <p>制御棒駆動水フィルタ 2個（うち1個は予備）</p> <p>水圧制御ユニット 137個</p> <p>制御棒駆動機構 137個</p> <p>連続挿入・引抜速度 76±15mm/s</p> <p>スクラム時挿入時間 1.62秒以下（全ストロークの75%挿入，定格圧力で全炉心平均）</p> <p>水圧制御ユニット充てん圧力 約 123kg/cm²g</p> <p>スクラム排水容器 2個</p>	<p>3. 制御材駆動装置に係る次の事項</p> <p>(1) 制御棒駆動機構の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数，取付箇所，駆動速度及び挿入時間並びに電動駆動の場合にあっては原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <table border="1" data-bbox="1670 426 2410 1125"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">—</th> <th colspan="2">通 常 ス ク ラ ム</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>種類</td> <td colspan="2">制御棒駆動機構 水圧駆動ピストンラッチ方式</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力*1</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">8.62*2</td> <td>変更なし 8.98*3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度*1</td> <td>℃</td> <td colspan="2">302</td> <td>変更なし 304*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>長 さ</td> <td>mm</td> <td>□*4 *5</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>フ ラ ン ジ 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*1 (□*4 *5)</td> </tr> <tr> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td>□*4 *5</td> </tr> <tr> <td>厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*1 (□*4 *5)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>フ ラ ン ジ*1</td> <td colspan="2">—</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>インジケータ*1 チューブ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>駆 動 方 法</td> <td>—</td> <td>制御棒駆動水圧ポンプによる水圧駆動</td> <td>アキュムレータによる蓄圧駆動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137 (20*6)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td colspan="2">制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td colspan="2">原子炉格納容器内*5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">駆 動 速 度</td> <td>mm/s</td> <td colspan="2">76.2 *7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>秒</td> <td colspan="2">—</td> <td>全ストロークの75%挿入まで1.62以下(全炉心平均) *8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-3-1 制御棒駆動機構の強度計算書」による。</p> <p>*2：SI単位に換算したものである。</p> <p>*3：重大事故等時における使用時の値</p> <p>*4：公称値を示す。</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。</p> <p>*6：予備の個数を示す。</p> <p>*7：定格値を示す。</p> <p>*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には駆動速度の項目に記載</p>			変更前		変更後	—		通 常 ス ク ラ ム			名 称	種類	制御棒駆動機構 水圧駆動ピストンラッチ方式		変更なし	最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3	最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3	主 要 寸 法	長 さ	mm	□*4 *5	変更なし	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	□*1 (□*4 *5)	外 径	mm	□*4 *5	厚 さ	mm	□*1 (□*4 *5)	材 料	フ ラ ン ジ*1	—		変更なし	インジケータ*1 チューブ	—		駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプによる水圧駆動	アキュムレータによる蓄圧駆動		個 数	—	137 (20*6)			取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5			設 置 床	原子炉格納容器内*5			溢水防護上の区画番号	—			駆 動 速 度	mm/s	76.2 *7			秒	—		全ストロークの75%挿入まで1.62以下(全炉心平均) *8	<p>整合性</p> <p>・「制御棒駆動機構」は，設置許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xii) b. (c)-④を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「制御材駆動装置」に整理しており，整合している。</p>	
		変更前		変更後																																																																															
—		通 常 ス ク ラ ム																																																																																	
名 称	種類	制御棒駆動機構 水圧駆動ピストンラッチ方式		変更なし																																																																															
最高使用圧力*1	MPa	8.62*2		変更なし 8.98*3																																																																															
最高使用温度*1	℃	302		変更なし 304*3																																																																															
主 要 寸 法	長 さ	mm	□*4 *5	変更なし																																																																															
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	□*1 (□*4 *5)																																																																																
	外 径	mm	□*4 *5																																																																																
	厚 さ	mm	□*1 (□*4 *5)																																																																																
材 料	フ ラ ン ジ*1	—		変更なし																																																																															
	インジケータ*1 チューブ	—																																																																																	
駆 動 方 法	—	制御棒駆動水圧ポンプによる水圧駆動	アキュムレータによる蓄圧駆動																																																																																
個 数	—	137 (20*6)																																																																																	
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	制御棒駆動機構 (制御棒駆動水圧系) *5																																																																																	
	設 置 床	原子炉格納容器内*5																																																																																	
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																	
駆 動 速 度	mm/s	76.2 *7																																																																																	
	秒	—		全ストロークの75%挿入まで1.62以下(全炉心平均) *8																																																																															

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																														
<p>水圧制御ユニット</p> <p>へ(5) (xii) b. (c)-⑤ (へ、(3) 制御設備と兼用)</p>	<p>第 6. 1. 2-2 表 制御棒駆動水圧系主要仕様</p> <p>制御棒駆動水圧ポンプ 2台（うち1台は予備）</p> <p>流量制御弁 2個（うち1個は予備）</p> <p>制御棒駆動水フィルタ 2個（うち1個は予備）</p> <p>水圧制御ユニット 137個</p> <p>制御棒駆動機構 137個</p> <p>連続挿入・引抜速度 76±15mm/s</p> <p>スクラム時挿入時間 1.62秒以下（全ストロークの75%挿入，定格圧力で全炉心平均）</p> <p>水圧制御ユニット充てん圧力 約 123kg/cm²g</p> <p>スクラム排水容器 2個</p>	<p>(2) 制御棒駆動水圧設備に係る次の事項</p> <p>(2.1) 制御棒駆動水圧系</p> <p>ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th rowspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th colspan="2">水圧制御ユニット</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th></th> <th>アキュムレータ</th> <th>窒素容器</th> <th rowspan="15" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">変更なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>l/個</td> <td>□ (18^{*1})</td> <td>□ (36^{*1})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">15.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>シリンダ内径</td> <td>mm</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>シリンダ厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*3} (17.8^{*1})</td> </tr> <tr> <td>エンドキャップ厚さ</td> <td>mm</td> <td>□^{*3} (94.0^{*1})</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">寸法</td> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>高さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>927^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>シリンダ</td> <td>—</td> <td>SUS304TP</td> </tr> <tr> <td>エンドキャップ</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">137</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td colspan="2">水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系）^{*5}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>設置床</td> <td colspan="2">原子炉建物 EL 2380mm^{*5}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：公称値を示す。</p> <p>*2：S I単位に換算したものである。</p> <p>*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和60年4月27日付け59資序第17250号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-2-1-2 水圧制御ユニットの強度計算書」による。</p> <p>*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載</p> <p>*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。</p>			変更前		変更後	水圧制御ユニット		名称		アキュムレータ	窒素容器	変更なし	種類	—	たて置円筒形		容量	l/個	□ (18 ^{*1})	□ (36 ^{*1})	最高使用圧力	MPa	15.2 ^{*2}		最高使用温度	℃	66		主要寸法	シリンダ内径	mm	195	シリンダ厚さ	mm	□ ^{*3} (17.8 ^{*1})	エンドキャップ厚さ	mm	□ ^{*3} (94.0 ^{*1})	寸法	胴内径	mm	—	胴板厚さ	mm	—	高さ ^{*4}	mm	927 ^{*1}	材料	シリンダ	—	SUS304TP	エンドキャップ	—	SUS304	胴板	—	—	個数	—	137		取付箇所	系統名（ライン名）	水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系） ^{*5}			設置床	原子炉建物 EL 2380mm ^{*5}			溢水防護上の区画番号	—			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		<p>整合性</p> <p>・「水圧制御ユニット」は，設置許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xii) b. (c)-⑤を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「制御材駆動装置」に整理しており，整合している。</p>	
		変更前			変更後																																																																													
		水圧制御ユニット																																																																																
名称		アキュムレータ	窒素容器	変更なし																																																																														
種類	—	たて置円筒形																																																																																
容量	l/個	□ (18 ^{*1})	□ (36 ^{*1})																																																																															
最高使用圧力	MPa	15.2 ^{*2}																																																																																
最高使用温度	℃	66																																																																																
主要寸法	シリンダ内径	mm	195																																																																															
	シリンダ厚さ	mm	□ ^{*3} (17.8 ^{*1})																																																																															
	エンドキャップ厚さ	mm	□ ^{*3} (94.0 ^{*1})																																																																															
寸法	胴内径	mm	—																																																																															
	胴板厚さ	mm	—																																																																															
	高さ ^{*4}	mm	927 ^{*1}																																																																															
材料	シリンダ	—	SUS304TP																																																																															
	エンドキャップ	—	SUS304																																																																															
	胴板	—	—																																																																															
個数	—	137																																																																																
取付箇所	系統名（ライン名）	水圧制御ユニット（制御棒駆動水圧系） ^{*5}																																																																																
	設置床	原子炉建物 EL 2380mm ^{*5}																																																																																
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																									
<p>へ(5) (xii) b. (c)-⑥ほう酸水注入系 (へ、(4) 非常用制御設備他と兼用)...</p>	<p>第 6. 1. 2-3 表 ほう酸水注入系主要仕様</p> <p>系統数 1 中性子吸収材 ほう素（五ほう酸ナトリウム溶液） 停止時実効増倍率 $k_{eff} < 0.95$ 反応度投入速度 最低 0.001 $\Delta k/min$ ほう酸水貯蔵タンク 材 料 ステンレス鋼 基 数 1 容 量 約 20m³ ポンプ 台 数 2（うち 1 台は予備） 容 量 約 10m³/h/台 全揚程 約 870m</p>	<p>(2) ほう酸水の名称、種類、組成、反応度制御能力、停止余裕、負の反応度添加率及び貯蔵量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td>ほう酸水</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>ほう酸水</td> </tr> <tr> <td>組 成</td> <td>wt%</td> <td>五ほう酸ナトリウム濃度 <input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>反 応 度 制 御 能 力^{*1}</td> <td>Δk</td> <td>約 0.18</td> </tr> <tr> <td>停 止 余 裕</td> <td>Δk</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>負 の 反 応 度 添 加 率^{*2}</td> <td>Δk</td> <td>毎分 0.001 以上</td> </tr> <tr> <td>貯 蔵 量^{*3}</td> <td>m³</td> <td><input type="text"/> (最 小)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「反応度抑制効果」と記載 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「貯蔵容量」と記載</p> <p>4. ほう酸水注入設備に係る次の事項</p> <p>4.1 ほう酸水注入系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p style="text-align: center;">常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td>ほう酸水注入ポンプ</td> <td>ほう酸水注入ポンプ^{*1}</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>往復形</td> <td rowspan="10" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容 量^{*2}</td> <td>m³/h/個</td> <td><input type="text"/> 以上^{*3} (9.72^{*4})</td> </tr> <tr> <td>吐 出 圧 力</td> <td>MPa</td> <td><input type="text"/> 以上^{*3} (11.04^{*4} *⁵)</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>吸込側 0.93^{*5} *⁶ /吐出側 11.8^{*5} *⁶</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>°C</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>吸 込 内 径^{*3}</td> <td>mm</td> <td>78.1^{*4}</td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径^{*3}</td> <td>mm</td> <td>38.4^{*4}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ^{*3}</td> <td>mm</td> <td><input type="text"/> (17.6^{*4})</td> </tr> <tr> <td>た て^{*3}</td> <td>mm</td> <td>1515^{*4}</td> </tr> <tr> <td>横 寸^{*3}</td> <td>mm</td> <td>900^{*4}</td> </tr> <tr> <td>高 さ^{*3}</td> <td>mm</td> <td>850^{*4}</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>リキッドシリンダー</td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>リキッドシリンダーカバー</td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ボ 取 付 所</td> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>2^{*3}</td> </tr> <tr> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td>A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系) ^{*2} B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系) ^{*1}</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 3480mm^{*3} 原子炉建物 EL 3480mm^{*3}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td><input type="text"/>^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">機 取 付 所</td> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>2^{*3}</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td>ポンプと同じ^{*3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（ほう酸水注入系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ほう酸水注入系）と兼用 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：公称値を示す。 *5：S I 単位に換算したものである。 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「ほう酸水貯蔵タンクからほう酸水注入ポンプ」及び「ほう酸水注入ポンプから差圧検出・ほう酸水注入系配管（ディーよりN 1 1ノズルまでの外管）まで」による。 *7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 12 月 25 日付け 60 資序第 11431 号にて認可された工事計画書の添付書類「第 6-4-2 図 ほう酸水注入ポンプ構造図」による。 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（予備 1）」と記載</p>			変 更 前	変 更 後	名 称		ほう酸水	変更なし	種 類	—	ほう酸水	組 成	wt%	五ほう酸ナトリウム濃度 <input type="text"/>	反 応 度 制 御 能 力 ^{*1}	Δk	約 0.18	停 止 余 裕	Δk	0.05	負 の 反 応 度 添 加 率 ^{*2}	Δk	毎分 0.001 以上	貯 蔵 量 ^{*3}	m ³	<input type="text"/> (最 小)			変 更 前	変 更 後	名 称		ほう酸水注入ポンプ	ほう酸水注入ポンプ ^{*1}	種 類	—	往復形	変更なし	容 量 ^{*2}	m ³ /h/個	<input type="text"/> 以上 ^{*3} (9.72 ^{*4})	吐 出 圧 力	MPa	<input type="text"/> 以上 ^{*3} (11.04 ^{*4} * ⁵)	最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 0.93 ^{*5} * ⁶ /吐出側 11.8 ^{*5} * ⁶	最 高 使 用 温 度	°C	66	吸 込 内 径 ^{*3}	mm	78.1 ^{*4}	吐 出 内 径 ^{*3}	mm	38.4 ^{*4}	ケーシング厚さ ^{*3}	mm	<input type="text"/> (17.6 ^{*4})	た て ^{*3}	mm	1515 ^{*4}	横 寸 ^{*3}	mm	900 ^{*4}	高 さ ^{*3}	mm	850 ^{*4}	材 料	リキッドシリンダー	<input type="text"/>	材 料	リキッドシリンダーカバー	<input type="text"/>			変 更 前	変 更 後	ボ 取 付 所	個 数	—	2 ^{*3}	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系) ^{*2} B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系) ^{*1}	設 置 床	—	原子炉建物 EL 3480mm ^{*3} 原子炉建物 EL 3480mm ^{*3}	溢水防護上の区画番号	—	—	原 動 機	種 類	—	誘導電動機	出 力	kW/個	<input type="text"/> ^{*4}	機 取 付 所	個 数	—	2 ^{*3}	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ ^{*3}		
		変 更 前	変 更 後																																																																																																										
名 称		ほう酸水	変更なし																																																																																																										
種 類	—	ほう酸水																																																																																																											
組 成	wt%	五ほう酸ナトリウム濃度 <input type="text"/>																																																																																																											
反 応 度 制 御 能 力 ^{*1}	Δk	約 0.18																																																																																																											
停 止 余 裕	Δk	0.05																																																																																																											
負 の 反 応 度 添 加 率 ^{*2}	Δk	毎分 0.001 以上																																																																																																											
貯 蔵 量 ^{*3}	m ³	<input type="text"/> (最 小)																																																																																																											
		変 更 前	変 更 後																																																																																																										
名 称		ほう酸水注入ポンプ	ほう酸水注入ポンプ ^{*1}																																																																																																										
種 類	—	往復形	変更なし																																																																																																										
容 量 ^{*2}	m ³ /h/個	<input type="text"/> 以上 ^{*3} (9.72 ^{*4})																																																																																																											
吐 出 圧 力	MPa	<input type="text"/> 以上 ^{*3} (11.04 ^{*4} * ⁵)																																																																																																											
最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 0.93 ^{*5} * ⁶ /吐出側 11.8 ^{*5} * ⁶																																																																																																											
最 高 使 用 温 度	°C	66																																																																																																											
吸 込 内 径 ^{*3}	mm	78.1 ^{*4}																																																																																																											
吐 出 内 径 ^{*3}	mm	38.4 ^{*4}																																																																																																											
ケーシング厚さ ^{*3}	mm	<input type="text"/> (17.6 ^{*4})																																																																																																											
た て ^{*3}	mm	1515 ^{*4}																																																																																																											
横 寸 ^{*3}	mm	900 ^{*4}																																																																																																											
高 さ ^{*3}	mm	850 ^{*4}																																																																																																											
材 料	リキッドシリンダー	<input type="text"/>																																																																																																											
材 料	リキッドシリンダーカバー	<input type="text"/>																																																																																																											
		変 更 前	変 更 後																																																																																																										
ボ 取 付 所	個 数	—	2 ^{*3}																																																																																																										
	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A-ほう酸水注入ポンプ (A-ほう酸水注入系) ^{*2} B-ほう酸水注入ポンプ (B-ほう酸水注入系) ^{*1}																																																																																																										
	設 置 床	—	原子炉建物 EL 3480mm ^{*3} 原子炉建物 EL 3480mm ^{*3}																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																										
原 動 機	種 類	—	誘導電動機																																																																																																										
	出 力	kW/個	<input type="text"/> ^{*4}																																																																																																										
機 取 付 所	個 数	—	2 ^{*3}																																																																																																										
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ ^{*3}																																																																																																										

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																			
		<p>(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。） 常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td>ほう酸水貯蔵タンク</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク*1</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>たて置円筒形</td> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/個</td> <td>□以上(23.2*²)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>静水頭</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">主要寸法</td> <td>胴内径</td> <td>mm</td> <td>3000*²</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□*³ (8.0*²)</td> </tr> <tr> <td>底板厚さ</td> <td>mm</td> <td>□*³ (10.0*²)</td> </tr> <tr> <td>平板厚さ*⁴</td> <td>mm</td> <td>8.0*²</td> </tr> <tr> <td>管台外径(流体出口)*⁵</td> <td>mm</td> <td>89.1*²</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(流体出口)*³</td> <td>mm</td> <td>□ (5.5*²)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(加熱用ヒータ)*⁵</td> <td>mm</td> <td>267.4*²</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(加熱用ヒータ)*³</td> <td>mm</td> <td>□ (9.3*²)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>—</td> <td>SUS316L</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系)*⁴</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>原子炉建物 EL 34800mm*⁴</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号 溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（ほう酸水注入系）、（水の供給設備）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ほう酸水注入系）と兼用 *2：公称値を示す。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-3-2-1 ほう酸水貯蔵タンクの強度計算書」による。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類「第6-4-3図 ほう酸水貯蔵タンク構造図」による。 *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高 3850」と記載</p>			変更前	変更後	名称		ほう酸水貯蔵タンク	ほう酸水貯蔵タンク*1	種類	—	たて置円筒形	変更なし	容量	m ³ /個	□以上(23.2* ²)	最高使用圧力	MPa	静水頭	最高使用温度	℃	66	主要寸法	胴内径	mm	3000* ²	胴板厚さ	mm	□* ³ (8.0* ²)	底板厚さ	mm	□* ³ (10.0* ²)	平板厚さ* ⁴	mm	8.0* ²	管台外径(流体出口)* ⁵	mm	89.1* ²	管台厚さ(流体出口)* ³	mm	□ (5.5* ²)	管台外径(加熱用ヒータ)* ⁵	mm	267.4* ²	管台厚さ(加熱用ヒータ)* ³	mm	□ (9.3* ²)	材料	胴板	—	SUS316L	底板	—	SUS316L	個数	—	1		取付箇所	系統名 (ライン名)	—	ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系)* ⁴	設置床	—	原子炉建物 EL 34800mm* ⁴	溢水防護上の区画番号 溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—		
		変更前	変更後																																																																				
名称		ほう酸水貯蔵タンク	ほう酸水貯蔵タンク*1																																																																				
種類	—	たて置円筒形	変更なし																																																																				
容量	m ³ /個	□以上(23.2* ²)																																																																					
最高使用圧力	MPa	静水頭																																																																					
最高使用温度	℃	66																																																																					
主要寸法	胴内径	mm		3000* ²																																																																			
	胴板厚さ	mm		□* ³ (8.0* ²)																																																																			
	底板厚さ	mm		□* ³ (10.0* ²)																																																																			
	平板厚さ* ⁴	mm		8.0* ²																																																																			
	管台外径(流体出口)* ⁵	mm		89.1* ²																																																																			
	管台厚さ(流体出口)* ³	mm		□ (5.5* ²)																																																																			
	管台外径(加熱用ヒータ)* ⁵	mm		267.4* ²																																																																			
	管台厚さ(加熱用ヒータ)* ³	mm		□ (9.3* ²)																																																																			
材料	胴板	—		SUS316L																																																																			
	底板	—		SUS316L																																																																			
個数	—	1																																																																					
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	ほう酸水貯蔵タンク (ほう酸水注入系)* ⁴																																																																				
	設置床	—	原子炉建物 EL 34800mm* ⁴																																																																				
	溢水防護上の区画番号 溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—																																																																				
	<p>整合性 ・「ほう酸水注入系」は、設置許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xii) b. (c)-⑥を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「ほう酸水注入設備」に整理しており、整合している。</p>																																																																						

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(xiii) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備へ(5)(xiii)-①を設置及び保管する。</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧時に炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、逃がし安全弁を作動させる代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）及び逃がし安全弁窒素ガス供給系を設ける。</p> <p>逃がし安全弁については、ホ、(3)、(ii)、b、(b) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備に記載する。</p>	<p>6.8 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備</p> <p>6.8.1 概要</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p><中略></p> <p>6.8.2 設計方針</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧時に炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するための設備として、逃がし安全弁を作動させる代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）及び逃がし安全弁窒素ガス供給系を設ける。</p> <p>逃がし安全弁については、「5.5 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備」に記載する。</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>3. 安全保護装置等</p> <p>3.4 代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備へ(5)(xiii)-①aとして、逃がし安全弁を作動させる代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>5. 制御用空気設備</p> <p>5.2 逃がし安全弁窒素ガス供給系</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態であって、設計基準事故対処設備が有する発電用原子炉の減圧機能が喪失した場合においても炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するために必要な重大事故等対処設備へ(5)(xiii)-①bとして、逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のへ(5)(xiii)-①a及びへ(5)(xiii)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5)(xiii)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設置許可申請書（本文（五号））「ホ、(3)、(ii)、b、(b) 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. フロントライン系故障時に用いる設備 (a) 原子炉減圧の自動化</p> <p><u>自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）は、原子炉水位低（レベル1）及び残留熱除去ポンプ運転（低圧注水モード）又は低圧炉心スプレイ・ポンプ運転の場合に、逃がし安全弁用電磁弁を作動させることにより、逃がし安全弁を強制的に開放し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることができる設計とする。</u></p> <p><u>12 個の逃がし安全弁のうち、2 個がこの機能を有している。</u></p> <p><u>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p>	<p>(1) フロントライン系故障時に用いる設備 a. 原子炉減圧の自動化</p> <p><u>自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として、代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）を使用する。</u></p> <p><u>代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）は、原子炉水位低（レベル1）及び残留熱除去ポンプ運転（低圧注水モード）又は低圧炉心スプレイ・ポンプ運転の場合に、逃がし安全弁用電磁弁を作動させることにより、逃がし安全弁を強制的に開放し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることができる設計とする。12 個の逃がし安全弁のうち、2 個がこの機能を有している。</u></p> <p><u>なお、原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水モード）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止する。</u></p> <p><中略></p>	<p>3. 安全保護装置等</p> <p>3.4 代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） <中略></p> <p><u>自動減圧機能が喪失した場合の重大事故等対処設備として使用する代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）は、原子炉水位低（レベル1）及び残留熱除去ポンプ運転又は低圧炉心スプレイポンプ運転の場合に、逃がし安全弁用電磁弁を作動させることにより、逃がし安全弁を強制的に開放し、原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧させることができる設計とする。なお、12 個の逃がし安全弁のうち、2 個がこの機能を有するとともに、自動減圧系との干渉及び起動阻止スイッチの判断操作の時間的余裕を考慮し、時間遅れを設ける設計とする。</u></p> <p>3.5 自動減圧機能作動阻止 <中略></p> <p><u>原子炉緊急停止失敗時に自動減圧系が作動すると、高圧炉心スプレイ系、残留熱除去系（低圧注水系）及び低圧炉心スプレイ系から大量の冷水が注水され出力の急激な上昇につながるため、自動減圧起動阻止スイッチにより自動減圧系による自動減圧を阻止し、代替自動減圧起動阻止スイッチにより代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）による自動減圧を阻止できる設計とする。</u></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																				
<p>本文（十号）</p> <p>〜(5) (xiii) a. (a)-①代替自動減圧機能を用いた逃がし安全弁（自動減圧機能付き）による原子炉減圧は、原子炉水位低（レベル1）到達から</p> <p>・記載箇所 ハ(2) (ii) b. (b) (b-5)</p>	<p>設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項</p>	<p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>（原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備の作動信号）</p> <table border="1" data-bbox="1665 384 2748 814"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>工学的安全施設等の作動信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>取付箇所</th> <th>工学的安全施設等の作動信号の名称</th> <th>設定値</th> <th>注</th> <th>工学的安全施設等の作動信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>取付箇所</th> <th>工学的安全施設等の作動信号の名称</th> <th>設定値</th> <th>注</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〜(5) (xiii) a. (a)-①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>設置床</td> <td>原子炉建屋 EL 1300mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防壁上の圧差検出器</td> <td>R-1F-02B, R-1F-22B</td> <td>2^{*)}</td> <td>汽水分離器下流より 381cm 以下^{*)}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防壁上の配管が必要な高さ</td> <td>EL 15845mm E.L.</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*) 設置開始前ポンプ又は配圧停止スプレイポンプ運転中のみ *) 本検出器は、工学的安全施設等の作動信号のうち、配圧注水系、配圧停止スプレイ系、自動減圧系（原子炉水位低（レベル1））として使用する検出器と同じである。 *) 代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）作動回路は、検出器2個の直列回路からなる2系統のチャンネルで構成され、同じチャンネルに属する2個の検出器の同時動作でチャンネル起動、代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）が作動する。 *) 汽水分離器下流は、原子炉圧力容器レベルより1300cm上</p>	変更前						変更後						工学的安全施設等の作動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の作動信号の名称	設定値	注	工学的安全施設等の作動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の作動信号の名称	設定値	注																〜(5) (xiii) a. (a)-①					系統名 (ライン名)	—						—					設置床	原子炉建屋 EL 1300mm											溢水防壁上の圧差検出器	R-1F-02B, R-1F-22B	2 ^{*)}	汽水分離器下流より 381cm 以下 ^{*)}									溢水防壁上の配管が必要な高さ	EL 15845mm E.L.			<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の〜(5) (xiii) a. (a)-①は、設置許可申請書（本文（十号））の〜(5) (xiii) a. (a)-①を同義であり、整合している。</p>	<p>備考</p>
変更前						変更後																																																																																		
工学的安全施設等の作動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の作動信号の名称	設定値	注	工学的安全施設等の作動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の作動信号の名称	設定値	注																																																																													
			〜(5) (xiii) a. (a)-①					系統名 (ライン名)	—																																																																															
			—					設置床	原子炉建屋 EL 1300mm																																																																															
								溢水防壁上の圧差検出器	R-1F-02B, R-1F-22B	2 ^{*)}	汽水分離器下流より 381cm 以下 ^{*)}																																																																													
								溢水防壁上の配管が必要な高さ	EL 15845mm E.L.																																																																															
<p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、〜(5) (xiii) b. (a)-①逃がし安全弁窒素ガス供給系は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>なお、逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替えが可能</p>	<p>(2) サポート系故障時に用いる設備</p> <p>a. 逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧</p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として、逃がし安全弁窒素ガス供給系を使用する。</p> <p>逃がし安全弁窒素ガス供給系は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>なお、逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替えが</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>5. 制御用空気設備</p> <p>5.2 逃がし安全弁窒素ガス供給系</p> <p><中略></p> <p>原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備のうち、逃がし安全弁の機能回復のための重大事故等対処設備として使用する〜(5) (xiii) b. (a)-①逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガス喪失時の減圧設備は、逃がし安全弁の作動に必要な逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータの充填圧力が喪失した場合において、逃がし安全弁用窒素ガスポンベにより逃がし安全弁の作動に必要な窒素ガスを供給できる設計とする。</p> <p>逃がし安全弁用窒素ガスポンベの圧力が低下した場合は、現場で逃がし安全弁用窒素ガスポンベの切替え</p>	<p>計及び工事の計画の〜(5) (xiii) b. (a)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の〜(5) (xiii) b. (a)-①と同義であり、整合している。</p>	<p>備考</p>																																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																								
<p>な設計とする。</p> <p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） 個数 へ(5) (xiii) -② 1.</p>	<p>可能な設計とする。</p> <p>第 6.8-1 表 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備の主要機器仕様</p> <p>(1) <u>代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）</u> 個数 1.</p>	<p>が可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">（原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備の作動信号）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>取付箇所</th> <th>工学的安全施設等の起動に要する信号の例数</th> <th>設定値</th> <th>工学的安全施設等の起動信号の種類</th> <th>検出器の種類</th> <th>取付箇所</th> <th>工学的安全施設等の起動に要する信号の例数</th> <th>設定値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">へ(5) (xiii) -②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注記*1：設備精除泡ポンプ又は低圧炉心スプレイポンプ運転中のみ *2：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち、低圧注水系、低圧炉心スプレイ系、自動減圧系（原子炉水位検（レベル1））として使用する検出器と同じである。 *3：代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）作動回路は、検出器 2 個の重列回路からなる 2 系統のチャンネルで構成され、同じチャンネルに属する 2 個の検出器の同時動作でチャンネルが動作。代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能）が作動する。 *4：汽水分離器下流は、原子炉圧力容器管レベルより 1305mm 上</p> </div>	変更前					変更後					工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の例数	設定値	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の例数	設定値				へ(5) (xiii) -②										-								
変更前					変更後																																							
工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の例数	設定値	工学的安全施設等の起動信号の種類	検出器の種類	取付箇所	工学的安全施設等の起動に要する信号の例数	設定値																																			
			へ(5) (xiii) -②																																									
			-																																									
<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のへ(5) (xiii) -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のへ(5) (xiii) -②を具体的に記載しており、整合している。</p>																																												
<p>自動減圧起動阻止スイッチ 個数 2</p> <p>代替自動減圧起動阻止スイッチ 個数 1</p>	<p>(2) <u>自動減圧起動阻止スイッチ</u> 個数 2</p> <p>(3) <u>代替自動減圧起動阻止スイッチ</u> 個数 1</p>	<p>【計測制御系統施設（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置を除く。）】 （基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>3. 安全保護装置等</p> <p>3.5 自動減圧機能作動阻止</p> <p>運転時の異常な過渡変化時において発電用原子炉の運転を緊急に停止することができない事象が発生した場合に、<u>自動減圧起動阻止スイッチ 2 個</u>及び<u>代替自動減圧起動阻止スイッチ 1 個</u>を作動させることで発電用原子炉の自動による減圧を防止できる設計とする。</p> <p><中略></p>																																										

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																					
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>逃がし安全弁用窒素ガスボンベ</p> <p>個数 <u>15（予備15）</u></p> <p>容量 <u>へ(5)(xii)-③約47L/個</u></p> <p>充填圧力 <u>へ(5)(xii)-④約15MPa[gage]</u></p>	<p>(4) <u>逃がし安全弁用窒素ガスボンベ</u></p> <p>個数 <u>15（予備15）</u></p> <p>容量 <u>約47L/個</u></p> <p>充填圧力 <u>約15MPa[gage]</u></p> <p>使用箇所 原子炉建物附属棟2階</p> <p>保管場所 原子炉建物附属棟2階</p>	<p>【計測制御系統施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>8. 制御用空気設備に係る次の事項</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1665 422 2561 1094"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td></td> <td>逃がし安全弁用窒素ガスボンベ</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量*1</td> <td>ℓ/個</td> <td>46.7以上(46.7*2) へ(5)(xii)-③</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用圧力*1</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用温度*1</td> <td>℃</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外</td> <td>径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>部</td> <td>厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>部</td> <td>厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>15（予備15）</td> </tr> <tr> <td>取</td> <td>付</td> <td>箇</td> <td>所</td> <td>—</td> <td>保管場所： 原子炉建物 EL約23800mm 取付箇所： 原子炉建物 EL約23800mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。</p>			変更前	変更後	名	称		逃がし安全弁用窒素ガスボンベ	種	類	—	一般継目なし鋼製容器	容	量*1	ℓ/個	46.7以上(46.7*2) へ(5)(xii)-③	最	高	使用圧力*1	MPa	最	高	使用温度*1	℃	主 要 寸 法	外	径	mm	高	さ	mm	胴	部	厚さ	mm	底	部	厚さ	mm	材	料	—	マンガン鋼	個	数	—	15（予備15）	取	付	箇	所	—	保管場所： 原子炉建物 EL約23800mm 取付箇所： 原子炉建物 EL約23800mm	<p>設計及び工事の計画の <u>へ(5)(xii)-③</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>へ(5)(xii)-③</u> を詳細に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の <u>へ(5)(xii)-④</u> は、設置変更許可申請書（本文（五号））の <u>へ(5)(xii)-④</u> を詳細に記載しており、整合している。</p>	
		変更前	変更後																																																						
名	称		逃がし安全弁用窒素ガスボンベ																																																						
種	類	—	一般継目なし鋼製容器																																																						
容	量*1	ℓ/個	46.7以上(46.7*2) へ(5)(xii)-③																																																						
最	高	使用圧力*1	MPa																																																						
最	高	使用温度*1	℃																																																						
主 要 寸 法	外	径	mm																																																						
	高	さ	mm																																																						
	胴	部	厚さ	mm																																																					
	底	部	厚さ	mm																																																					
材	料	—	マンガン鋼																																																						
個	数	—	15（予備15）																																																						
取	付	箇	所	—	保管場所： 原子炉建物 EL約23800mm 取付箇所： 原子炉建物 EL約23800mm																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ト 放射性廃棄物の廃棄施設の構造及び設備</p> <p><u>ト-①放射性廃棄物の廃棄施設は、気体、液体及び固体の各廃棄物処理系で構成する。</u></p> <p>(1) 気体廃棄物の廃棄施設 (i) 構造</p> <p><u>ト(1)(i)-①気体廃棄物処理系の主要な設備は発電用原子炉で発生する水素と酸素とを再結合させる排ガス再結合器、排ガス中の放射能を減衰させる活性炭式希ガス・ホールドアップ塔である。排ガスは、放射性物質濃度を監視しながら排気筒から放出する。</u></p> <p>なお、タービン・グラントのシールには、復水貯蔵タンク水を加熱蒸発した蒸気を使用する。</p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設</p> <p>7.1 気体廃棄物処理系</p> <p>7.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>気体廃棄物のうち主要なものは、空気抽出器排ガスである。これは、活性炭式希ガス・ホールドアップ塔で排ガス中の放射能を十分減衰させた後、放射性物質濃度を監視しながら排気筒から放出する。</p> <p><中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設</p> <p>5.12 タービン設備</p> <p>5.12.3 主要設備</p> <p>5.12.3.1 蒸気タービン</p> <p>(6) タービン・グラント蒸気系</p> <p>タービン・グラントのシールには、復水貯蔵タンクの水をグラント蒸気発生器に導き、タービン抽気あるいは主蒸気で加熱し発生した蒸気を使用する。</p>	<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 (基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 廃棄物貯蔵設備、廃棄物処理設備等</p> <p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p><中略></p> <p><u>ト(1)(i)-①気体廃棄物処理設備は、主として排ガス予熱器、原子炉で発生する水素と酸素とを再結合させる排ガス再結合器、排ガス復水器、除湿冷却器、脱湿塔、活性炭式希ガスホールドアップ塔等で構成し、排ガスは、放射性物質の濃度を監視しながら排気筒から放出する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p>気体状の放射性廃棄物は、フィルタを通し放射性物質の濃度を監視可能な排気筒等から放出する設計とする。</p> <p>また、フィルタは、放射性物質による汚染の除去又は交換に必要な空間を有するとともに、必要に応じて梯子等を設置し、取替が容易な設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））第五号ト項において、設計及び工事の計画の内容は、以下の通り整合している。</p> <p>設置許可申請書（本文（五号））<u>ト-①</u>に整合していることは、本資料にて個別に示す。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>ト(1)(i)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>ト(1)(i)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「タービン・</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																															
<p>(ii) 廃棄物の処理能力</p> <p>ト(1)(ii)-①活性炭式希ガス・ホールドアップ塔により、キセノンを約30日間、クリプトンを約40時間保留できる...</p> <p>(iii) 排気口の位置</p> <p>排気筒位置 発電用原子炉中心からほぼ北西約100m</p> <p>排気口地上高さ 約120mト(1)(iii)-①(標高約130m)...</p>	<p><中略></p> <p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設</p> <p>7.1 気体廃棄物処理系</p> <p>7.1.3 主要設備</p> <p><中略></p> <p>排ガス復水器を出た排ガスを、活性炭式希ガス・ホールドアップ塔に導く。ここでキセノンを約30日間、クリプトンを約40時間保留して放射能を減衰させ、フィルタを通した後、排気筒から放出する。</p> <p>なお、触媒による水素ガスと酸素ガスの再結合の効率を高めるため、排ガス予熱器を設け排ガスを加熱する。また、排ガス復水器を出た排ガスは、活性炭の保留性能を高くするために除湿冷却器及び脱湿塔で水分を除去する。</p> <p><中略></p> <p>2. プラント配置</p> <p>2.5 建物及び構築物</p> <p>2.5.8 排気筒</p> <p>タービン建物の西側に設置する排気筒は地上高さ約120mの鋼製鉄塔支持型とする。</p>	<p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p><中略></p> <p>なお、ト(1)(ii)-①活性炭式希ガスホールドアップ塔は、キセノンを約30日間、クリプトンを約40時間保持する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射性廃棄物の廃棄施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>2. 気体、液体又は固体廃棄物処理設備に係る次の事項</p> <p>2.1 気体廃棄物処理系</p>	<p>グラウンドのシール」は、設置許可のみの要求事項であり、本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のト(1)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(1)(ii)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の排気口の位置のうち「排気筒位置」は、本工事計画の対象外である。</p>																																
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>整合性</p> <p>・設置変更許可申請書（本文（五号））のト(1)(iii)-①は、設計及び工事の計画の「第6-1-1-2-1 図 排気筒構造図」と同義であり、整合している。</p> </div>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: left;">(16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数（内筒及び外筒の別に記載すること。）</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変更前*1</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">名</td> <td style="text-align: center;">称</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">排気筒</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">種</td> <td style="text-align: center;">類</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">鋼製鉄塔支持型 (制震装置付 [減衰係数:72kN・s/m/台])</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">主要寸法</td> <td style="text-align: center;">口 径</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td style="text-align: center;">3.3*3 (空調換気系用) 0.4*3 (非常用ガス処理系用)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地 表 上 の 高 さ</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td style="text-align: center;">120*3 (空調換気系用) 120*3 (非常用ガス処理系用)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">材</td> <td style="text-align: center;">料</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">SMA41A (空調換気系用) STK41 (非常用ガス処理系用)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">個</td> <td style="text-align: center;">数</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">1 (空調換気系用) 1 (非常用ガス処理系用)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注記*1：記載内容は、既工事計画届出書（平成25年5月30日付け電耐建第5号工事計画届出書及び平成25年6月14日付け電耐建第6号工事計画届出書の一部補正）による。 なお、本工事計画は、届出した工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。 *2：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（非常用ガス処理系）と兼用 *3：公称値を示す。</p>			(16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数（内筒及び外筒の別に記載すること。）						変更前*1	変更後	名	称	排気筒		種	類	鋼製鉄塔支持型 (制震装置付 [減衰係数:72kN・s/m/台])		主要寸法	口 径	m	3.3*3 (空調換気系用) 0.4*3 (非常用ガス処理系用)	地 表 上 の 高 さ	m	120*3 (空調換気系用) 120*3 (非常用ガス処理系用)	材	料	SMA41A (空調換気系用) STK41 (非常用ガス処理系用)		個	数	1 (空調換気系用) 1 (非常用ガス処理系用)	
(16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数（内筒及び外筒の別に記載すること。）																																			
		変更前*1	変更後																																
名	称	排気筒																																	
種	類	鋼製鉄塔支持型 (制震装置付 [減衰係数:72kN・s/m/台])																																	
主要寸法	口 径	m	3.3*3 (空調換気系用) 0.4*3 (非常用ガス処理系用)																																
	地 表 上 の 高 さ	m	120*3 (空調換気系用) 120*3 (非常用ガス処理系用)																																
材	料	SMA41A (空調換気系用) STK41 (非常用ガス処理系用)																																	
個	数	1 (空調換気系用) 1 (非常用ガス処理系用)																																	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(2) 液体廃棄物の廃棄設備 (i) 構造</p> <p>ト(2)(i)-①液体廃棄物の廃棄設備（液体廃棄物処理系）は、廃棄物の性状に応じて処理するため、機器ドレン系（1号及び2号炉共用、既設）、床ドレン・化学廃液系（1号及び2号炉共用、既設）、ランドリ・ドレン系（1号及び2号炉共用、既設）等で構成する。</p> <p>ト(2)(i)-②a. 機器ドレン系は、機器ドレン・タンク、ろ過脱塩器、脱塩器、処理水タンク等で構成する。 本系の処理液は、復水貯蔵タンクに回収して再使用する。</p>	<p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設 7.2 液体廃棄物処理系 7.2.1 概要</p> <p>液体廃棄物処理系は、機器ドレン系（1号及び2号炉共用、既設）、床ドレン・化学廃液系（1号及び2号炉共用、既設）、ランドリ・ドレン系（1号及び2号炉共用、既設）等で構成する。 液体廃棄物処理系系統概要図を第7.2-1図に示す。 <中略></p> <p>5. 原子炉冷却系統施設 5.11 原子炉浄化系 5.11.2 設計方針 (2) 冷却材の系外排出</p> <p>原子炉の起動時、停止時及び高温待機時に冷却材を浄化して復水器又は液体廃棄物処理系へ排出が可能なようにする。</p> <p>7. 放射性廃棄物の廃棄施設 7.2 液体廃棄物処理系 7.2.3 主要設備</p> <p>(1) 機器ドレン系 機器ドレン系は、機器ドレン・タンク、ろ過脱塩器、脱塩器、機器ドレン処理水タンク、計測制御装置等で構成する。</p>	<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 廃棄物貯蔵設備、廃棄物処理設備等 1.2 廃棄物処理設備 <中略> ト(2)(i)-①液体廃棄物処理設備は、廃液の性状により、機器ドレン系、床ドレン化学廃液系、ランドリドレン系等で処理する設計とする。 放射性物質を含む原子炉冷却材を通常運転時において原子炉冷却系統外に排出する場合は、床ドレン及び機器ドレン系のサンプルを介して、液体廃棄物処理系へ導く設計とする。 <中略> 【原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）】 （基本設計方針） 第1章 共通項目 5. 設備に対する要求 5.1 安全設備、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備 5.1.1 通常運転時の一般要求 (2) 通常運転時に漏えいを許容する場合の措置 設計基準対象施設は、通常運転時において、放射性物質を含む液体を内包する容器、配管、ポンプ、弁その他の設備から放射性物質を含む液体があふれ出た場合においては、系統外に漏えいさせることなく、各建屋等に設けられた機器ドレン又は床ドレン等のサンプル又はタンクに収集し、液体廃棄物処理設備に送水する設計とする。 【放射性廃棄物の廃棄施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 廃棄物貯蔵設備、廃棄物処理設備等 1.2 廃棄物処理設備 <中略> ト(2)(i)-②液体廃棄物処理設備は、廃液の性状により、機器ドレン系、床ドレン化学廃液系、ランドリドレン系等で処理する設計とする。 放射性物質を含む原子炉冷却材を通常運転時において</p>	<p>設計及び工事の計画のト(2)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(2)(i)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(i)-②</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 床ドレン・化学廃液系は、床ドレン・タンク、化学廃液タンク、濃縮器、ろ過脱塩器、脱塩器、処理水タンク等で構成する。</p> <p>本系の処理済液は、原則として復水貯蔵タンクに回収して再使用するが、一部については放射性物質濃度が低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する場合があります。</p> <p>c. ランドリ・ドレン系は、収集タンク、濃縮器、脱塩器、サンプル・タンク、ろ過器、ランドリ・ドレン・タンク等で構成する。</p> <p>本系の処理済液は、放射性物質濃度が低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する。</p>	<p>機器ドレン廃液は、原子炉建物、ドライウエル、タービン建物及び廃棄物処理建物の各機器ドレン・サンプルにそれぞれ集めた後、あるいは直接タンクに収集し、機器ドレン系で処理する。機器ドレン系によりろ過、脱塩した処理済液は、復水貯蔵タンク又は補助復水貯蔵タンクに回収し再使用する。</p> <p>なお、機器ドレン廃液は、トーラス水受入タンク（1号及び2号炉共用、既設）に貯留することもできる。</p> <p>(2) 床ドレン・化学廃液系</p> <p>床ドレン・化学廃液系は、床ドレン・タンク、化学廃液タンク、濃縮器、ろ過脱塩器、脱塩器、処理水タンク、計測制御装置等で構成する。</p> <p>導電率が高く脱塩処理に適さない原子炉建物、ドライウエル、タービン建物及び廃棄物処理建物等の床ドレン・サンプルに集めた床ドレン廃液、脱塩器の樹脂再生等で発生する化学廃液、機器の除染廃液等はタンクに収集し、床ドレン・化学廃液系で処理する。</p> <p>床ドレン・化学廃液系により、蒸留、ろ過、脱塩した処理済液は、原則として復水貯蔵タンク又は補助復水貯蔵タンクに回収して再使用するが、一部については放射性物質の濃度が十分低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する場合があります。</p> <p>なお、床ドレン廃液は、トーラス水受入タンクに貯留することもできる。</p> <p>化学廃液タンクは、廃液の中和用にも使用する。</p> <p>(3) ランドリ・ドレン系</p> <p>ランドリ・ドレン系は、ランドリ・ドレン収集タンク、濃縮器、脱塩器、ランドリ・ドレン・サンプル・タンク、ろ過器、ランドリ・ドレン・タンク、計測制御装置等で構成する。</p> <p>保護衣類を除染する際に発生するランドリ・ドレン廃液等はタンクに収集し、ランドリ・ドレン系で処理する。</p> <p>ランドリ・ドレン系により、蒸留し、必要に応じて脱塩処理した処理済液は、放射性物質の濃度が十分低いことを確認して、復水器冷却水放水路に放出する。</p> <p>なお、放射性物質による汚染がほとんどない下着類のランドリ・ドレン廃液は必要に応じ、ランドリ・ドレン・タンクに収集し、放射性物質の濃度が十分低いことを確認し</p>	<p>原子炉冷却系統外に排出する場合は、床ドレン及び機器ドレン系のサンプルを介して、液体廃棄物処理系へ導く設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ト(2)(i)-③これら液体廃棄物処理系の主要機器は独立した区域に設けるか、せきを設置する等、放射性物質の漏えいを防止する設計とする。</p> <p>(ii) 廃棄物の処理能力 ト(2)(ii)-①液体廃棄物処理系の各タンク類の容量及び濃縮器、脱塩器等の処理容量は、発電用原子炉の起動、停止の態様を考慮して発生廃液量が最大と予想される場合に対して十分対処できる大きさとする。 濃縮器、脱塩器等の除染能力は、処理済液の発電所内再</p>	<p>て、復水器冷却水放水路に放出する場合がある。 また、上着類の洗濯は、ドライ・クリーニングする場合がある。</p> <p>7.2.2 設計方針</p> <p>(4) 放射性物質の漏えい防止及び管理されない放出の防止 液体廃棄物処理系の機器等及びこれを収納する建物又は区域は、液体状の放射性物質の漏えいの防止及び敷地外への管理されない放出を防止するため、次の各項を考慮した設計とする。 <中略> e. 液体廃棄物処理系の機器は、独立した区画内に設けるか、周辺にせきを設け建物又は区域内での漏えいの拡大を防止し、建物又は区域外に通じる出入口等にはせきを設け、建物又は区域外への漏出を防止する。 また、屋外設備、屋外配管は、漏えい液体を遮へい壁、配管ダクト等内に留めるようにする。液体状の放射性廃棄物が留まるおそれのある建物又は区域の床及び壁面は、漏えいし難い構造とする。</p> <p>7.2.1 概要 <中略> 液体廃棄物処理系は、本原子炉施設で発生する放射性廃液及び潜在的に放射性物質による汚染の可能性のある廃液を、その性状により分離収集し、処理する。 液体廃棄物処理系により処理した後の処理済液は、原則として回収して再使用するが、試料採取分析を行い、放射性物質の濃度の低いことを確認して放出する場合もある。 液体廃棄物処理系は屋外タンクを除き2号炉廃棄物処理建物に設置する。</p> <p><中略></p> <p>7.2.2 設計方針 (2) 処理能力 液体廃棄物処理系の各タンク類、脱塩器、濃縮器等は、原子炉施設の運転に伴い発生する廃液量が最大と予想される場合に対して十分対処できる処理容量とする。</p>	<p>1.3 汚染拡大防止 1.3.1 流体状の放射性廃棄物の漏えいし難い構造及び漏えいの拡大防止</p> <p>(2) 漏えいの拡大防止 ト(2)(i)-③床面は、床面の傾斜又は床面に設けられた溝の傾斜により流体状の放射性廃棄物が排液受け口に導かれる構造とし、かつ、気体状のものを除く流体状の放射性廃棄物を貯蔵する設備の周辺部には、堰又は堰と同様の効果を有するものを施設し、流体状の放射性廃棄物の漏えいの拡大を防止する設計とする。</p> <p>1.2 廃棄物処理設備 ト(2)(ii)-①放射性廃棄物を処理する設備は、周辺監視区域の外の空気中及び周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度が、それぞれ、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に定められた濃度限度以下となる</p>	<p>設計及び工事の計画のト(2)(i)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(i)-③と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(2)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(2)(ii)-①を全て含んでおり、</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>使用あるいは所外放出を可能とするのに十分な性能を有するものとする。</p> <p>(iii) 排水口の位置 排水口は、発電所敷地前面の沖合約 100m の海底に設置する復水器冷却水放水口（1号、2号及び3号炉共用、既設）である。</p> <p>(3) 固体廃棄物の廃棄設備 (i) 構造 ト(3)(i)-①固体廃棄物の廃棄設備（固体廃棄物処理系）は、廃棄物の種類に応じて処理又は貯蔵保管するため、ト(3)(i)-②a濃縮廃液タンク（1号及び2号炉共用、既設）、ランドリ・ドレン濃縮廃液タンク（1号及び2号炉共用、既設）、樹脂貯蔵タンク（1号及び2号炉共用、既設）、スラッジ貯蔵タンク（1号及び2号炉一部共用、既設）、ドラム詰装置（1号及び2号炉共用）、雑固体廃棄物焼却設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）、雑固体廃棄物処理設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）、減容機（1号及び2号炉共用、既設）、サイトバンカ（1号、2号及び3号炉共用、既設）、固体廃棄物貯蔵所（1号、2号及び3号炉共用、既設）等で構成する。</p> <p>床ドレン・化学廃液系の濃縮器から発生する濃縮廃液は、濃縮廃液タンクで放射能を減衰させた後、ドラム詰装置でト(3)(i)-③ドラム缶内に固化材（セメント）と混合して固化しト(3)(i)-②b貯蔵保管する。</p> <p>ランドリ・ドレン系の濃縮器から発生する濃縮廃液は、ランドリ・ドレン濃縮廃液タンクに集め放射能を減衰させた後、ト(3)(i)-④a雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。ト(3)(i)-②c焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で溶解した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。</p>	<p>濃縮器、脱塩器等の除染能力は、処理済液の発電所内再使用あるいは所外放出を可能とするのに十分な性能を有するものとする。</p> <p>7.3 固体廃棄物処理系 7.3.1 概要 固体廃棄物処理系は、廃棄物の種類に応じて処理又は貯蔵保管するため、濃縮廃液タンク（1号及び2号炉共用、既設）、ランドリ・ドレン濃縮廃液タンク（1号及び2号炉共用、既設）、樹脂貯蔵タンク（1号及び2号炉共用、既設）、スラッジ貯蔵タンク（1号及び2号炉一部共用、既設）、ドラム詰装置（1号及び2号炉共用）、雑固体廃棄物焼却設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）、雑固体廃棄物処理設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）、減容機（1号及び2号炉共用、既設）、サイトバンカ（1号、2号及び3号炉共用、既設）、固体廃棄物貯蔵所（1号、2号及び3号炉共用、既設）等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>7.3.3 主要設備 (1) 濃縮廃液の処理 <中略></p> <p>床ドレン・化学廃液系の濃縮器から発生する濃縮廃液は、約3年分の貯蔵容量を有する濃縮廃液タンクに集め、放射能を減衰させた後、ドラム詰装置でドラム缶内に固化材（セメント）と混合して固化し貯蔵保管する。</p> <p>ランドリ・ドレン系の濃縮器から発生する濃縮廃液は、約3か月分の貯蔵容量を有するランドリ・ドレン濃縮廃液タンクに集め、放射能を減衰させた後、雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で溶解した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。</p>	<p>ように、発電用原子炉施設において発生する放射性廃棄物を処理する能力を有する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1 廃棄物貯蔵設備 ト(3)(i)-①a放射性廃棄物を貯蔵する設備の容量は、通常運転時に発生する放射性廃棄物の発生量と放射性廃棄物処理設備の処理能力、また、放射性廃棄物処理設備の稼働率を想定した設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.2 廃棄物処理設備 ト(3)(i)-①b固体廃棄物処理設備は、廃棄物の種類に応じて、濃縮廃液をト(3)(i)-③a固化材（プラスチック）と混合して固化するドラム詰装置（2号機設備、1,2号機共用）、ト(3)(i)-④可燃性雑固体廃棄物、濃縮廃液、使用済樹脂及びフィルタスラッジを焼却する雑固体廃棄物焼却設備（1号機設備、1,2,3号機共用）、ト(3)(i)-⑤不燃性雑固体廃棄物を溶解又はモルタル固化する雑固体廃棄物処理設備（1号機設備、1,2,3号機共用）で処理する設計とする。</p> <p>なお、ト(3)(i)-③b火災評価の前提条件としてプラスチック固化材を考慮していないため、2号機の再稼働の時点では可燃性のプラスチック固化材はドラム詰装置内に保管しない設計とする。今後、プラスチック固化に関する機器等を撤去し、セメント固化専用の機器等を追設する。</p> <p><中略></p> <p>ト(3)(i)-⑧放射性廃棄物を処理する設備は、放射性廃棄物が漏えいし難い又は処理する過程において放射性物質が散逸し難い構造とし、かつ、放射性廃棄物に含まれる化学薬品の影響及び不純物の影響により著しく腐食しない設計とする。</p>	<p>整合している。</p> <p>設置許可変更申請書（本文（五号））において許可を受けた「排水口」は、新規基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-①a及びト(3)(i)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-②a～ト(3)(i)-②hと同義であり整合している。</p> <p>設置許可変更申請書（本文（五号））のト(3)(i)-③の固化材については、新規基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外であるものの、設計及び工事の計画のト(3)(i)-③a及びト(3)(i)-③bにて、今後、固化材を変</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>復水系及び液体廃棄物処理系の脱塩器から発生する使用済樹脂及びろ過脱塩器から発生するフィルタ・スラッジは、樹脂貯蔵タンク及びスラッジ貯蔵タンクに貯蔵し放射能を減衰させた後、ト(3)(i)-④b 雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。ト(3)(i)-②d 焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で熔融した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。</p> <p>ト(3)(i)-②e 復水系及び液体廃棄物処理系以外の脱塩器から発生する使用済樹脂及びろ過脱塩器から発生するフィルタ・スラッジは、樹脂貯蔵タンク及びスラッジ貯蔵タンクに貯蔵する。</p> <p>可燃性雑固体廃棄物は、ドラム缶等に詰めて貯蔵保管するか、又はト(3)(i)-④c 雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。ト(3)(i)-②f 焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で熔融した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。ト(3)(i)-⑤ 不燃性雑固体廃棄物は、圧縮可能なものは圧縮減容し、ト(3)(i)-②g ドラム缶等に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で、熔融してドラム缶内にモルタル固化するか、若しくは熔融しないでドラム缶内にモルタル固化して、貯蔵保管する。</p> <p>なお、貯蔵保管している可燃性雑固体廃棄物、焼却灰、不燃性雑固体廃棄物についても必要に応じて焼却、熔融、モルタル固化し、ドラム缶に詰めて貯蔵保管する。</p> <p>ト(3)(i)-⑥ また、使用済制御棒等の放射化された機器は燃料プールに貯蔵した後、サイトバンカに貯蔵保管する。</p>	<p>(2) 使用済樹脂及びフィルタ・スラッジの処理 <中略> 復水系及び液体廃棄物処理系の脱塩器から発生する使用済樹脂及びろ過脱塩器から発生するフィルタ・スラッジは、約5年分の貯蔵容量を有する復水系樹脂貯蔵タンク及び約5年分の貯蔵容量を有する復水系スラッジ貯蔵タンクに貯蔵し、放射能を減衰させた後、雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で熔融した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。</p> <p>復水系及び液体廃棄物処理系以外の脱塩器から発生する使用済樹脂及びろ過脱塩器から発生するフィルタ・スラッジは、約30年分の貯蔵容量を有する原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク及び約30年分の貯蔵容量を有する原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンクに貯蔵する。</p> <p>(3) 雑固体廃棄物の処理 <中略> 可燃性雑固体廃棄物は、ドラム缶等に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物焼却設備で焼却する。焼却灰はドラム缶に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で熔融した後、ドラム缶内にモルタル固化して貯蔵保管する。不燃性雑固体廃棄物は、圧縮可能なものは減容機により圧縮減容を行い、ドラム缶等に詰めて貯蔵保管するか、又は雑固体廃棄物処理設備で、熔融してドラム缶内にモルタル固化するか、若しくは熔融しないでドラム缶内にモルタル固化して、貯蔵保管する。</p> <p><中略> なお、貯蔵保管している可燃性雑固体廃棄物、焼却灰、不燃性雑固体廃棄物についても必要に応じて焼却、熔融、モルタル固化し、ドラム缶に詰めて貯蔵保管する。</p> <p><中略> 7.3.2 設計方針 (3) 散逸等の防止 <中略> 使用済制御棒等は、その放射能を減衰させるため、燃料プールに貯蔵した後、サイトバンカに貯蔵保管する。</p> <p><中略> 7.3.3 主要設備</p>	<p><中略> 1.3 汚染拡大防止 1.3.2 固体状の放射性廃棄物の汚染拡大防止 ト(3)(i)-② 固体状の放射性廃棄物を貯蔵する設備が設置される発電用原子炉施設は、固体状の放射性廃棄物をドラム缶に詰める、容器に入れる又はタンク内に貯蔵することによる汚染拡大防止措置を講じることにより、放射性廃棄物による汚染が広がらない設計とする。</p> <p>【核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 燃料貯蔵設備 <中略> ト(3)(i)-⑥ 燃料プールは、2号機の約630%炉心分の燃料の貯蔵が可能であり、さらに放射化された機器等の貯蔵及び取扱いができるスペースを確保した設計とする。なお、通常運転中、全炉心の燃料体等を貯蔵できる容量を確保できる設計とする。</p>	<p>更することを示しており整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-④a～ト(3)(i)-④cを具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-⑤と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-⑥と同義であり整合</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>ト(3)(i)-⑦ 雑固体廃棄物焼却設備及び雑固体廃棄物処理設備からの排ガスは、フィルタを通し放射性物質濃度を監視しつつ専用の排気口から放出する。</p> <p>ト(3)(i)-⑧ 固体廃棄物処理系は、廃棄物の破砕、圧縮、焼却、溶融、固化等の処理過程における放射性物質の散逸等を防止する設計とする。</p> <p>ト(3)(i)-②h 上記濃縮廃液等を詰めたドラム缶等は、所要の遮蔽設計を行った発電所内の固体廃棄物貯蔵所に貯蔵保管する。</p> <p>ト(3)(i)-⑨ なお、必要に応じて、固体廃棄物を廃棄事業者の廃棄施設へ廃棄する。</p>	<p>(4) 固体廃棄物の焼却処理 雑固体廃棄物焼却設備は、可燃性雑固体廃棄物、使用済樹脂、フィルタ・スラッジ及びランドリ・ドレン系の濃縮廃液を焼却するための設備である。⁽¹⁾ 本設備は、雑固体焼却炉、焼却排ガス処理装置等で構成する。 焼却排ガス処理装置は、1次及び2次のセラミック・フィルタ並びに排ガス・フィルタで構成する。 系統全体の除染係数10^6以上⁽¹⁾⁽²⁾で処理された焼却排ガスは、放射性物質濃度を監視しつつ、サイトバンカ建物排気口（地上高さ約24m）から放出する。</p> <p><中略></p> <p>(5) 固体廃棄物の溶融処理 雑固体廃棄物処理設備は、不燃性雑固体廃棄物及び焼却灰を溶融しドラム缶内にモルタル固化するか、又は不燃性雑固体廃棄物を溶融しないでドラム缶内にモルタル固化するための設備である。 本設備は、雑固体溶融炉、溶融排ガス処理装置、モルタル固化装置等で構成する。 溶融排ガス処理装置は、セラミック・フィルタ及び排ガス・フィルタで構成する。 系統全体の除染係数10^7以上⁽³⁾⁽⁴⁾で処理された溶融排ガスは、放射性物質濃度を監視しつつ、サイトバンカ建物排気口（地上高さ約24m）から放出する。</p> <p><中略></p> <p>7.3.2 設計方針</p> <p>(3) 散逸等の防止 固体廃棄物処理系は廃棄物の破砕、圧縮、焼却、溶融、固化等の処理過程における放射性物質の散逸等を防止する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>7.3.3 主要設備</p> <p>(6) 固体廃棄物の貯蔵</p>	<p><中略></p> <p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 廃棄物貯蔵設備，廃棄物処理設備等</p> <p>1.2 廃棄物処理設備</p> <p><中略></p> <p>ト(3)(i)-⑦ 気体状の放射性廃棄物は、フィルタを通し放射性物質の濃度を監視可能な排気筒等から放出する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑦は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-⑦と同義であり整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(i)-⑧は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-⑧と同義であり整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(i)-⑨</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																				
<p>(ii) 廃棄物の処理能力</p> <p>ト(3)(ii)-①a 原子炉浄化系樹脂貯蔵タンクの容量はト(3)(ii)-①b 約520m³、復水系樹脂貯蔵タンクの容量はト(3)(ii)-①c 約250m³、原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンクの容量はト(3)(ii)-①d 約140m³、復水系スラッジ貯蔵タンクの容量はト(3)(ii)-①e 約790m³、また、サイトバンカの容量はト(3)(ii)-①f 約2,200m³である。</p> <p>ト(3)(ii)-①g 固体廃棄物貯蔵所は、200Lドラム缶約35,500本相当を貯蔵保管する能力がある。</p> <p>これらは、必要がある場合には増設を考慮する。</p>	<p>a. 固体廃棄物貯蔵所</p> <p>固体廃棄物貯蔵所は、所要の遮へい設計を行うとともに、200Lドラム缶約35,500本相当を貯蔵保管することができる。</p> <p><中略></p> <p>第7.3-1表 固体廃棄物処理系基本仕様</p> <p>(1) タンク</p> <table border="1" data-bbox="923 569 1605 1058"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>基数</th> <th>容量 (m³/基)</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>濃 縮 廃 液 タ ン ク (既設)*</td> <td>3</td> <td>約 60</td> <td>炭 素 鋼 (樹脂ライニング)</td> </tr> <tr> <td>ランドリ・ドレン濃縮廃液タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約 13</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約270</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約250</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約140</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>復水系樹脂貯蔵タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約250</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>復水系スラッジ貯蔵タンク (既設)*</td> <td>2</td> <td>約270</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>約250</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>復水ろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)</td> <td>1</td> <td>約 60</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>機器ドレンろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)</td> <td>1</td> <td>約 18</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>復水スラッジ分離タンク (既設)*</td> <td>2</td> <td>約108</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>機器ドレン・スラッジ分離タンク (既設)*</td> <td>1</td> <td>約108</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 1号及び2号炉共用</p> <p>7.3.2 設計方針</p> <p>(5) 貯蔵容量</p> <p><中略></p> <p>固体廃棄物貯蔵所は、200Lドラム缶約35,500本相当を貯蔵保管できる設計とする。サイトバンカは、使用済制御棒等を発生量の約20年分を貯蔵保管できる設計とする。</p> <p>これらは、必要がある場合には増設を考慮する。</p>	名 称	基数	容量 (m ³ /基)	材 料	濃 縮 廃 液 タ ン ク (既設)*	3	約 60	炭 素 鋼 (樹脂ライニング)	ランドリ・ドレン濃縮廃液タンク (既設)*	1	約 13	ステンレス鋼	原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (既設)*	1	約270	ステンレス鋼	原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	1	約250	ステンレス鋼	原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	1	約140	ステンレス鋼	復水系樹脂貯蔵タンク (既設)*	1	約250	ステンレス鋼	復水系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	2	約270	ステンレス鋼		1	約250	ステンレス鋼	復水ろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)	1	約 60	ステンレス鋼	機器ドレンろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)	1	約 18	ステンレス鋼	復水スラッジ分離タンク (既設)*	2	約108	ステンレス鋼	機器ドレン・スラッジ分離タンク (既設)*	1	約108	ステンレス鋼	<p>設計及び工事の計画 該当事項</p> <p>1. 廃棄物貯蔵設備、廃棄物処理設備等</p> <p>1.1 廃棄物貯蔵設備</p> <p>ト(3)(ii)-①放射性廃棄物を貯蔵する設備の容量は、通常運転時に発生する放射性廃棄物の発生量と放射性廃棄物処理設備の処理能力、また、放射性廃棄物処理設備の稼働率を想定した設計とする。</p> <p>放射性廃棄物を貯蔵する設備は、放射性廃棄物が漏えいし難い設計とする。また、崩壊熱及び放射線の照射により発生する熱に耐え、かつ、放射性廃棄物に含まれる化学薬品の影響及び不純物の影響により著しく腐食しない設計とする。</p>	<p>⑨は、保安規定にて対応する。</p> <p>設計及び工事の計画のト(3)(ii)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(ii)-①a～ト(3)(ii)-①gと同義であり、整合している。</p> <p>なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けたト(3)(ii)-①の容量及びト(3)(ii)-①gの保管能力については、本工事計画の対象外である。</p>	<p>備 考</p>
名 称	基数	容量 (m ³ /基)	材 料																																																					
濃 縮 廃 液 タ ン ク (既設)*	3	約 60	炭 素 鋼 (樹脂ライニング)																																																					
ランドリ・ドレン濃縮廃液タンク (既設)*	1	約 13	ステンレス鋼																																																					
原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (既設)*	1	約270	ステンレス鋼																																																					
原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	1	約250	ステンレス鋼																																																					
原子炉浄化系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	1	約140	ステンレス鋼																																																					
復水系樹脂貯蔵タンク (既設)*	1	約250	ステンレス鋼																																																					
復水系スラッジ貯蔵タンク (既設)*	2	約270	ステンレス鋼																																																					
	1	約250	ステンレス鋼																																																					
復水ろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)	1	約 60	ステンレス鋼																																																					
機器ドレンろ過脱塩装置逆洗水受タンク (既設)	1	約 18	ステンレス鋼																																																					
復水スラッジ分離タンク (既設)*	2	約108	ステンレス鋼																																																					
機器ドレン・スラッジ分離タンク (既設)*	1	約108	ステンレス鋼																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																												
<div data-bbox="385 378 1558 535" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のト(3)(ii)-①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(ii)-①bを詳細設計した結果であり、整合している。</p> </div>		<p>【放射性廃棄物の廃棄施設】 (要目表)</p> <p>1. 気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備に係る次の事項</p> <p>1.1 固体廃棄物貯蔵設備</p> <p>(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法</p> <table border="1" data-bbox="1656 504 2507 1606"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td colspan="4">原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="3">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>m³/個</td> <td>215 以上*1 (235*2)</td> <td>215 以上*1 (260*2)...</td> <td>ト(3)(ii)-①b</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td colspan="3">静水頭</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td colspan="3">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>胴 内 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">5600*2</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*3 (12.0*2)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*3 (12.0*2)</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径) 560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">寸 法</td> <td>平 板 厚 さ*1</td> <td>mm</td> <td colspan="2">6.0*2</td> </tr> <tr> <td>管台外径(使用済樹脂入口)*1</td> <td>mm</td> <td colspan="2">89.1*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(使用済樹脂入口)*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□(5.5*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(分離水出口)*1</td> <td>mm</td> <td colspan="2">76.3*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(分離水出口)*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□(5.2*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(使用済樹脂入口)*1</td> <td>mm</td> <td colspan="2">34.0*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(使用済樹脂入口)*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□(4.5*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(オーバーフロー)*1</td> <td>mm</td> <td colspan="2">114.3*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(オーバーフロー)*3</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□(6.0*2)</td> </tr> <tr> <td>高 さ*4</td> <td>mm</td> <td>10406*2</td> <td>11406*2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td colspan="2">SUS304</td> </tr> <tr> <td>鏡 板</td> <td>—</td> <td colspan="2">SUS304</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>漏えい防止のための制御方法*5</td> <td>—</td> <td colspan="3">水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更なし</p>			変更前		変更後	名 称	原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)				種 類	—	たて置円筒形			容 量	m ³ /個	215 以上*1 (235*2)	215 以上*1 (260*2)...	ト(3)(ii)-①b	最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭			最 高 使 用 温 度	℃	66			主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600*2		胴 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)		鏡 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)		鏡板の形状に係る寸法*3	mm	5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径) 560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)		寸 法	平 板 厚 さ*1	mm	6.0*2		管台外径(使用済樹脂入口)*1	mm	89.1*2		管台厚さ(使用済樹脂入口)*3	mm	□(5.5*2)		管台外径(分離水出口)*1	mm	76.3*2		管台厚さ(分離水出口)*3	mm	□(5.2*2)		管台外径(使用済樹脂入口)*1	mm	34.0*2		管台厚さ(使用済樹脂入口)*3	mm	□(4.5*2)		管台外径(オーバーフロー)*1	mm	114.3*2		管台厚さ(オーバーフロー)*3	mm	□(6.0*2)		高 さ*4	mm	10406*2	11406*2		材 料	胴 板	—	SUS304		鏡 板	—	SUS304		個 数	—	1	1		漏えい防止のための制御方法*5	—	水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路				
		変更前		変更後																																																																																																												
名 称	原子炉浄化系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)																																																																																																															
種 類	—	たて置円筒形																																																																																																														
容 量	m ³ /個	215 以上*1 (235*2)	215 以上*1 (260*2)...	ト(3)(ii)-①b																																																																																																												
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭																																																																																																														
最 高 使 用 温 度	℃	66																																																																																																														
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600*2																																																																																																													
	胴 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)																																																																																																													
	鏡 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)																																																																																																													
	鏡板の形状に係る寸法*3	mm	5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径) 560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)																																																																																																													
寸 法	平 板 厚 さ*1	mm	6.0*2																																																																																																													
	管台外径(使用済樹脂入口)*1	mm	89.1*2																																																																																																													
	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3	mm	□(5.5*2)																																																																																																													
	管台外径(分離水出口)*1	mm	76.3*2																																																																																																													
	管台厚さ(分離水出口)*3	mm	□(5.2*2)																																																																																																													
	管台外径(使用済樹脂入口)*1	mm	34.0*2																																																																																																													
	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3	mm	□(4.5*2)																																																																																																													
	管台外径(オーバーフロー)*1	mm	114.3*2																																																																																																													
	管台厚さ(オーバーフロー)*3	mm	□(6.0*2)																																																																																																													
	高 さ*4	mm	10406*2	11406*2																																																																																																												
材 料	胴 板	—	SUS304																																																																																																													
	鏡 板	—	SUS304																																																																																																													
個 数	—	1	1																																																																																																													
漏えい防止のための制御方法*5	—	水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路																																																																																																														

注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *2：公称値を示す。
 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和59年9月17日付け59資庁第8283号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-2-6 原子炉浄化系樹脂貯蔵タンクの強度計算書」による。
 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高 10900, 11900」と記載
 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																				
<div data-bbox="397 310 1567 474" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画の「ト(3)(ii)-①c」は、設置変更許可申請書（本文（五号））の「ト(3)(ii)-①c」を詳細設計した結果であり、整合している。</p> </div>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変 更 前</th> <th style="text-align: center;">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td colspan="2">復水系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="2">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>m³/個</td> <td>125 以上*1 (235*2)</td> <td>「ト(3)(ii)-①c」</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">静水頭</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">主 要 寸 法</td> <td>胴 内 径</td> <td>mm</td> <td>5600*2</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (12.0*2)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□*3 (12.0*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鏡板の形状に係る寸法*3</td> <td rowspan="2">mm</td> <td>5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径)</td> <td rowspan="2">変 更 不 可</td> </tr> <tr> <td>560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>平 板 厚 さ*1</td> <td>mm</td> <td>6.0*2</td> </tr> <tr> <td>管台外径(使用済樹脂入口)*1, *4</td> <td>mm</td> <td>114.3*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *4</td> <td>mm</td> <td>□ (6.0*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(使用済樹脂入口)*1, *5</td> <td>mm</td> <td>34.0*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *5</td> <td>mm</td> <td>□ (4.5*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(分離水出口)*1</td> <td>mm</td> <td>76.3*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(分離水出口)*3</td> <td>mm</td> <td>□ (5.2*2)</td> </tr> <tr> <td>管台外径(オーバーフロー)*1</td> <td>mm</td> <td>139.8*2</td> </tr> <tr> <td>管台厚さ(オーバーフロー)*3</td> <td>mm</td> <td>□ (6.6*2)</td> </tr> <tr> <td>高 さ*6</td> <td>mm</td> <td>10406*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>鏡 板</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td colspan="2">1</td> </tr> <tr> <td>漏えい防止のための制御方法*7</td> <td>—</td> <td colspan="2">水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路</td> </tr> </tbody> </table>			変 更 前	変 更 後	名 称		復水系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)		種 類	—	たて置円筒形		容 量	m ³ /個	125 以上*1 (235*2)	「ト(3)(ii)-①c」	最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		最 高 使 用 温 度	℃	66		主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600*2	胴 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)	鏡 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)	鏡板の形状に係る寸法*3	mm	5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径)	変 更 不 可	560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)	平 板 厚 さ*1	mm	6.0*2	管台外径(使用済樹脂入口)*1, *4	mm	114.3*2	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *4	mm	□ (6.0*2)	管台外径(使用済樹脂入口)*1, *5	mm	34.0*2	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *5	mm	□ (4.5*2)	管台外径(分離水出口)*1	mm	76.3*2	管台厚さ(分離水出口)*3	mm	□ (5.2*2)	管台外径(オーバーフロー)*1	mm	139.8*2	管台厚さ(オーバーフロー)*3	mm	□ (6.6*2)	高 さ*6	mm	10406*2	材 料	胴 板	—	SUS304	鏡 板	—	SUS304	個 数	—	1		漏えい防止のための制御方法*7	—	水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路		<p>変 更 不 可</p>	
				変 更 前	変 更 後																																																																																			
名 称		復水系樹脂貯蔵タンク (1, 2号機共用)																																																																																						
種 類	—	たて置円筒形																																																																																						
容 量	m ³ /個	125 以上*1 (235*2)	「ト(3)(ii)-①c」																																																																																					
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭																																																																																						
最 高 使 用 温 度	℃	66																																																																																						
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600*2																																																																																					
	胴 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)																																																																																					
	鏡 板 厚 さ	mm	□*3 (12.0*2)																																																																																					
	鏡板の形状に係る寸法*3	mm	5600*2 (鏡板の中央部における内面の半径)	変 更 不 可																																																																																				
			560*2 (鏡板のすみの丸みの内半径)																																																																																					
	平 板 厚 さ*1	mm	6.0*2																																																																																					
	管台外径(使用済樹脂入口)*1, *4	mm	114.3*2																																																																																					
	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *4	mm	□ (6.0*2)																																																																																					
	管台外径(使用済樹脂入口)*1, *5	mm	34.0*2																																																																																					
	管台厚さ(使用済樹脂入口)*3, *5	mm	□ (4.5*2)																																																																																					
	管台外径(分離水出口)*1	mm	76.3*2																																																																																					
	管台厚さ(分離水出口)*3	mm	□ (5.2*2)																																																																																					
	管台外径(オーバーフロー)*1	mm	139.8*2																																																																																					
管台厚さ(オーバーフロー)*3	mm	□ (6.6*2)																																																																																						
高 さ*6	mm	10406*2																																																																																						
材 料	胴 板	—	SUS304																																																																																					
	鏡 板	—	SUS304																																																																																					
個 数	—	1																																																																																						
漏えい防止のための制御方法*7	—	水位高による規定時間洗浄運転後受入ポンプ自動停止回路及び受入弁自動閉回路 水位高高による受入ポンプ自動停止回路																																																																																						
<p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*2：公称値を示す。</p> <p>*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和59年9月17日付け59資庁第8283号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-2-5 復水系樹脂貯蔵タンクの強度計算書」による。</p> <p>*4：管台符号N1を示す。</p> <p>*5：管台符号N2を示す。</p> <p>*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高 10900」と記載</p> <p>*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載</p>																																																																																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備 考																																																																																																					
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変 更 前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td colspan="3">復水系スラッジ貯蔵タンク (1, 2号機共用)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td colspan="3">たて置円筒形</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>m³/個</td> <td>232 以上*¹ (235*²)</td> <td>232 以上*¹ (260*²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td colspan="3">静水頭</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td colspan="3">66</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主 要 寸 法</td> <td>胴 内 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">5600*²</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*³ (12.0*²)</td> </tr> <tr> <td>鏡 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□*³ (12.0*²)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法*³</td> <td rowspan="2">mm</td> <td colspan="2">(鏡板の中央部における内面の半径)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">560*² (鏡板のすみの丸みの内半径)</td> </tr> <tr> <td>平 板 厚 さ*¹</td> <td>mm</td> <td colspan="2">6.0*²</td> </tr> <tr> <td>管 台 外 径 (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)*¹</td> <td>mm</td> <td colspan="2">34.0*²</td> </tr> <tr> <td>管 台 厚 さ (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)*³</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□ (4.5*²)</td> </tr> <tr> <td>管 台 外 径 (第 一 分 離 水 出 口)*¹</td> <td>mm</td> <td colspan="2">76.3*²</td> </tr> <tr> <td>管 台 厚 さ (第 一 分 離 水 出 口)*³</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□ (5.2*²)</td> </tr> <tr> <td>管 台 外 径 (第 二 分 離 水 出 口)*¹</td> <td>mm</td> <td colspan="2">76.3*²</td> </tr> <tr> <td>管 台 厚 さ (第 二 分 離 水 出 口)*³</td> <td>mm</td> <td colspan="2">□ (5.2*²)</td> </tr> <tr> <td>高 さ*⁴</td> <td>mm</td> <td>10406*²</td> <td colspan="2">11406*²</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材 料</td> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td colspan="2">SUS304</td> </tr> <tr> <td>鏡 板</td> <td>—</td> <td colspan="2">SUS304</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1</td> <td colspan="2">2</td> </tr> <tr> <td>漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法*⁵</td> <td>—</td> <td colspan="3">水位高による規定時間洗浄運転後タンク入口弁自動閉回路 水位高高によるタンク入口弁自動閉回路</td> </tr> </tbody> </table>			変 更 前		変 更 後	名 称		復水系スラッジ貯蔵タンク (1, 2号機共用)			種 類	—	たて置円筒形			容 量	m ³ /個	232 以上* ¹ (235* ²)	232 以上* ¹ (260* ²)		最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭			最 高 使 用 温 度	℃	66			主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600* ²		胴 板 厚 さ	mm	□* ³ (12.0* ²)		鏡 板 厚 さ	mm	□* ³ (12.0* ²)		鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法* ³	mm	(鏡板の中央部における内面の半径)		560* ² (鏡板のすみの丸みの内半径)		平 板 厚 さ* ¹	mm	6.0* ²		管 台 外 径 (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)* ¹	mm	34.0* ²		管 台 厚 さ (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)* ³	mm	□ (4.5* ²)		管 台 外 径 (第 一 分 離 水 出 口)* ¹	mm	76.3* ²		管 台 厚 さ (第 一 分 離 水 出 口)* ³	mm	□ (5.2* ²)		管 台 外 径 (第 二 分 離 水 出 口)* ¹	mm	76.3* ²		管 台 厚 さ (第 二 分 離 水 出 口)* ³	mm	□ (5.2* ²)		高 さ* ⁴	mm	10406* ²	11406* ²		材 料	胴 板	—	SUS304		鏡 板	—	SUS304		個 数	—	1	2		漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法* ⁵	—	水位高による規定時間洗浄運転後タンク入口弁自動閉回路 水位高高によるタンク入口弁自動閉回路			変 更 し な し	
		変 更 前		変 更 後																																																																																																					
名 称		復水系スラッジ貯蔵タンク (1, 2号機共用)																																																																																																							
種 類	—	たて置円筒形																																																																																																							
容 量	m ³ /個	232 以上* ¹ (235* ²)	232 以上* ¹ (260* ²)																																																																																																						
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭																																																																																																							
最 高 使 用 温 度	℃	66																																																																																																							
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	5600* ²																																																																																																						
	胴 板 厚 さ	mm	□* ³ (12.0* ²)																																																																																																						
	鏡 板 厚 さ	mm	□* ³ (12.0* ²)																																																																																																						
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法* ³	mm	(鏡板の中央部における内面の半径)																																																																																																						
			560* ² (鏡板のすみの丸みの内半径)																																																																																																						
	平 板 厚 さ* ¹	mm	6.0* ²																																																																																																						
	管 台 外 径 (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)* ¹	mm	34.0* ²																																																																																																						
	管 台 厚 さ (フ ィ ル タ ス ラ ッ ジ 入 口)* ³	mm	□ (4.5* ²)																																																																																																						
	管 台 外 径 (第 一 分 離 水 出 口)* ¹	mm	76.3* ²																																																																																																						
	管 台 厚 さ (第 一 分 離 水 出 口)* ³	mm	□ (5.2* ²)																																																																																																						
管 台 外 径 (第 二 分 離 水 出 口)* ¹	mm	76.3* ²																																																																																																							
管 台 厚 さ (第 二 分 離 水 出 口)* ³	mm	□ (5.2* ²)																																																																																																							
高 さ* ⁴	mm	10406* ²	11406* ²																																																																																																						
材 料	胴 板	—	SUS304																																																																																																						
	鏡 板	—	SUS304																																																																																																						
個 数	—	1	2																																																																																																						
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法* ⁵	—	水位高による規定時間洗浄運転後タンク入口弁自動閉回路 水位高高によるタンク入口弁自動閉回路																																																																																																							
<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のト(3)(ii)－①eは、設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(ii)－①eを詳細設計した結果であり、整合している。</p>																																																																																																									

注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *2：公称値を示す。
 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 59 年 9 月 17 日 付け 59 資庁第 8283 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-2-3 復水系スラッジ貯蔵タンクの強度計算書」による。
 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高 10900, 11900」と記載
 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																															
		<p>1.2 固体廃棄物貯蔵設備（サイトバンカ設備） (3) 貯蔵槽の名称、種類、容量、主要寸法、材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="3">貯蔵プール（1号機設備，1，2，3号機共用）*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">種</td> <td rowspan="2">類</td> <td colspan="2">ステンレス鋼板内張りプール形（漏えい検出装置付）</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>プール</td> <td>キャスクピット</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>m³/個</td> <td>2080*2</td> <td>290*2 ト(3)(ii)-①f</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">主 要 寸 法</td> <td>た</td> <td>て</td> <td>mm</td> <td>13000*2, *3, *4</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td></td> <td>mm</td> <td>20000*2, *3, *6</td> </tr> <tr> <td>深</td> <td>さ*8</td> <td>mm</td> <td>8400*2, *9</td> </tr> <tr> <td>ライ</td> <td>ニング材厚さ*11</td> <td>mm</td> <td>4.0 (6.0*2), 7.7 (12.0*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">厚</td> <td>東</td> <td>壁*11</td> <td>mm</td> <td>1700*2, *12</td> </tr> <tr> <td>西</td> <td>壁*11</td> <td>mm</td> <td>1700*2, *12</td> </tr> <tr> <td>南</td> <td>壁*11</td> <td>mm</td> <td>1706*2, *12</td> </tr> <tr> <td>北</td> <td>壁*11</td> <td>mm</td> <td>1700*2, *12</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>*11</td> <td>mm</td> <td>3000*2, *12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材</td> <td>ライ</td> <td>ニング材*11</td> <td>—</td> <td>SUS304*13</td> </tr> <tr> <td>壁</td> <td>床*11</td> <td>—</td> <td>鉄筋コンクリート*13</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数*11</td> <td>—</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">漏えい防止のための制御方法*11</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名	称	貯蔵プール（1号機設備，1，2，3号機共用）*1			種	類	ステンレス鋼板内張りプール形（漏えい検出装置付）		—	プール	キャスクピット	容	量	m ³ /個	2080*2	290*2 ト(3)(ii)-①f	主 要 寸 法	た	て	mm	13000*2, *3, *4	横		mm	20000*2, *3, *6	深	さ*8	mm	8400*2, *9	ライ	ニング材厚さ*11	mm	4.0 (6.0*2), 7.7 (12.0*2)	厚	東	壁*11	mm	1700*2, *12	西	壁*11	mm	1700*2, *12	南	壁*11	mm	1706*2, *12	北	壁*11	mm	1700*2, *12	床	*11	mm	3000*2, *12	材	ライ	ニング材*11	—	SUS304*13	壁	床*11	—	鉄筋コンクリート*13	個	数*11	—	1		漏えい防止のための制御方法*11		—	—		<p>整合性 ・設計及び工事の計画のト(3)(ii)-①fは，設置変更許可申請書（本文（五号））のト(3)(ii)-①fを詳細設計した結果であり，整合している。</p>	
		変更前		変更後																																																																															
名	称	貯蔵プール（1号機設備，1，2，3号機共用）*1																																																																																	
種	類	ステンレス鋼板内張りプール形（漏えい検出装置付）		—																																																																															
		プール	キャスクピット																																																																																
容	量	m ³ /個	2080*2	290*2 ト(3)(ii)-①f																																																																															
主 要 寸 法	た	て	mm	13000*2, *3, *4																																																																															
	横		mm	20000*2, *3, *6																																																																															
	深	さ*8	mm	8400*2, *9																																																																															
	ライ	ニング材厚さ*11	mm	4.0 (6.0*2), 7.7 (12.0*2)																																																																															
	厚	東	壁*11	mm	1700*2, *12																																																																														
		西	壁*11	mm	1700*2, *12																																																																														
		南	壁*11	mm	1706*2, *12																																																																														
北		壁*11	mm	1700*2, *12																																																																															
床	*11	mm	3000*2, *12																																																																																
材	ライ	ニング材*11	—	SUS304*13																																																																															
	壁	床*11	—	鉄筋コンクリート*13																																																																															
個	数*11	—	1																																																																																
漏えい防止のための制御方法*11		—	—																																																																																
		<p>注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，平成18年10月5日付け平成18・02・28原第2号にて認可された島根原子力発電所第3号機のI工事計画書による。 *2：公称値を示す。 *3：プール内のり *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「13」と記載 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.0」と記載 *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「20」と記載 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「5.75」と記載 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高さ（水深）」と記載 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「8.4 (8.0)」と記載 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「13.0 (12.6)」と記載 *11：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。 *12：ライニング材を含む厚さ *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鉄筋（SD35）コンクリート（SUS304張り）」と記載</p>	変更なし																																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ 放射線管理施設の構造及び設備</p> <p>チ-①発電所周辺の一般公衆及び放射線業務従事者等の安全管理を確実にを行うため、次の放射線管理施設を設ける。</p> <p>(1) 屋内管理用の主要な設備の種類</p> <p>(i) 出入管理設備（1号及び2号炉共用，既設）</p> <p>チ(1)(i)-①管理区域への出入及び被ばく線量並びに汚染の管理のため、チ(1)(i)-②出入管理室を設け、出入・被ばく線量管理設備及び汚染管理設備を備える。</p> <p>(ii) 試料分析・測定設備（1号及び2号炉共用，既設）</p> <p>各系統の試料，放射性廃棄物の放出管理用試料の放射能測定及び化学分析を行うため、チ(1)(ii)-①放射能測定室及び分析室を設け、必要な測定機器等を備える。</p>	<p>8. 放射線管理施設</p> <p>8.1 放射線管理設備</p> <p>8.1.1 通常運転時等</p> <p>8.1.1.1 概要</p> <p>放射線管理設備は、発電所周辺の一般公衆及び放射線業務従事者等の放射線被ばくを管理するためのもので、出入管理関係設備，試料分析関係設備及び放射線監視設備等からなる。</p> <p>8.1.1.2 設計方針</p> <p>放射線被ばくは、合理的に達成できる限り低くすることとし、次の設計方針に基づき、放射線管理設備を設ける。</p> <p>(1) 放射線業務従事者等及び物品の搬出入に対して、出入の管理，汚染管理及び各個人の被ばく管理ができるようにする。</p> <p>(3) 万一の事故に備えて、必要な放射線測定器を備える。</p> <p>(5) 通常運転時の放射性物質放出に係る放射線監視設備は、「発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>チ-①発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異なる過渡変化時及び設計基準事故時において、当該発電用原子炉施設における各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所の外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するために、プロセスモニタリング設備、エリアモニタリング設備及び放射線サーベイ機器を設ける設計とする。</p> <p>チ(1)(i)-②a 出入管理関係設備（1，2号機共用）には、チ(1)(i)-①放射線業務従事者及び一時立入者の出入管理、汚染管理のためのチ(1)(i)-②b 測定機器等を設ける設計とする。各系統の試料，放射性廃棄物の放出管理用試料及び環境試料の化学分析並びに放射能測定を行うため、試料分析測定設備（1，2，3号機共用）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>出入管理関係設備（1，2号機共用）には、放射線業務従事者及び一時立入者の出入管理，汚染管理のための測定機器等を設ける設計とする。各系統の試料，放射性廃棄物</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））第五号チ項において、設計および工事の計画の内容は、以下のとおり満足している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ-①を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(i)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(i)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(i)-②a及びチ(1)(i)-②bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(i)-②と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(ii)-①a及びチ(1)(ii)-②bは、設置</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iii) 放射線監視設備</p> <p>各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所の外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するために、<u>チ(1)(iii)-①</u>プロセス放射線モニタリング設備、<u>エリア放射線モニタリング設備及び放射線サーベイ機器</u><u>チ(1)(iii)-②</u>（1号、2号及び3号炉共用、既設）を設ける。</p> <p><u>チ(1)(iii)-③</u>プロセス放射線モニタリング設備及びエリア放射線モニタリング設備については、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室及び緊急時対策所に表示できる設計とする。</p>	<p>測定に関する指針」に適合するようにする。</p> <p>(2) 発電所内外の外部放射線に係る線量当量率及び放射性物質濃度等を測定、監視できるようにする。</p> <p>(3) 万一の事故に備えて、必要な放射線測定器を備える。</p> <p>(4) 中央制御室及び緊急時対策所に必要な情報の通報が可能である設計とする。</p> <p>(6) 設計基準事故時に必要な放射線監視設備は、「発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針」に適合する設計とする。</p>	<p>の放出管理用試料及び<u>チ(1)(ii)-①a</u>環境試料の化学分析並びに放射能測定を行うため、<u>チ(1)(ii)-①b</u>試料分析測定設備（1、2、3号機共用）を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、当該発電用原子炉施設における各系統の放射性物質の濃度、管理区域内等の主要箇所の外部放射線に係る線量当量率等を監視、測定するために、<u>チ(1)(iii)-①</u>プロセスモニタリング設備、<u>エリアモニタリング設備及び放射線サーベイ機器</u>を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p><u>チ(1)(iii)-③</u>プロセスモニタリング設備、<u>エリアモニタリング設備及び固定式周辺モニタリング設備</u>については、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室及び緊急時対策所に表示できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(ii)-①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1)(iii)-①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(iii)-①</u>と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(iii)-②</u>の「放射線サーベイ機器（1号、2号及び3号炉共用、既設）」は、設計及び工事の計画においては、<u>チ(1)(iii)-②</u>の重大事故等時に使用する放射線サーベイ機器の記載と同義であり、整合している。</p> <p>なお、設計基準事故のみに使用する放射線サーベイ機器は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1)(iii)-③</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(iii)-③</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																											
		<p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所 個数</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所 個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">チ(1)(iii)-②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可搬式モニタリングポスト</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>10~10⁶ nGy/h</td> <td>10~10⁶ nGy/h</td> <td>10 (2*)</td> <td> 保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 850mm 第4保管エリア 予備を含めた 12 台を第1保管エリアに 6 台及び第4保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No.1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No.2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No.3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No.4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No.5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No.6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No.1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>GM汚染 サーバイメータ</td> <td>GM管</td> <td>0~100 kmin⁻¹</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td> 保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個] </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Na I シンチレーション サーバイメータ</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>0~30 ks⁻¹</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td> 保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個] </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>α・β線 サーバイメータ</td> <td>ZnS (Ag) シンチレーション プラスチック シンチレーション</td> <td>0~100 kmin⁻¹</td> <td>—</td> <td>1 (1*)</td> <td> 保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [1 個] [1 個] </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>電離箱 サーバイメータ</td> <td>電離箱</td> <td>1 μSv/h ~ 300mSv/h</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td> 保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個] </td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：予備の個数を示す。 *2：発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）のうち、任意の場所でのモニタリング時に使用する。</p>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数		チ(1)(iii)-②				可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁶ nGy/h	10~10 ⁶ nGy/h	10 (2*)	保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 850mm 第4保管エリア 予備を含めた 12 台を第1保管エリアに 6 台及び第4保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No.1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No.2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No.3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No.4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No.5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No.6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No.1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm						GM汚染 サーバイメータ	GM管	0~100 kmin ⁻¹	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]						Na I シンチレーション サーバイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]						α・β線 サーバイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション プラスチック シンチレーション	0~100 kmin ⁻¹	—	1 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [1 個] [1 個]						電離箱 サーバイメータ	電離箱	1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]		
変更前					変更後																																																																										
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数																																																																						
	チ(1)(iii)-②				可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁶ nGy/h	10~10 ⁶ nGy/h	10 (2*)	保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 850mm 第4保管エリア 予備を含めた 12 台を第1保管エリアに 6 台及び第4保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No.1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No.2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No.3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No.4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No.5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No.6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No.1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No.3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm																																																																					
					GM汚染 サーバイメータ	GM管	0~100 kmin ⁻¹	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]																																																																					
					Na I シンチレーション サーバイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]																																																																					
					α・β線 サーバイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション プラスチック シンチレーション	0~100 kmin ⁻¹	—	1 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [1 個] [1 個]																																																																					
					電離箱 サーバイメータ	電離箱	1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 [2 個] [2 個]																																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>8.1.1.4 主要設備</p> <p>8.1.1.4.3 放射線監視設備</p> <p>放射線監視設備は、プロセス放射線モニタリング設備、エリア放射線モニタリング設備、環境モニタリング設備、携帯用及び半固定放射線測定機器からなり次の機能を持つ。</p> <p>1) 各系統及び各領域における放射線レベルの異常を早期に検出し警報する。</p> <p>2) 発電所外へ放出する放射性物質を常時監視する。</p> <p>3) 格納容器雰囲気放射線モニタは、事故時においても対応し得るよう多重性、独立性を有し、格納容器エリア放射線量率を監視する。</p> <p>(1) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>プロセス放射線モニタは、連続的に放射線を測定し、中央制御室、廃棄物処理制御室又はサイトバンカ建物制御室で記録、指示を行い、放射線レベルがあらかじめ設定した値をこえたときは警報を発する。主なプロセス放射線モニタとして次のものがあり、その配置図を第 8.1-1 図に示す。</p> <p>a. 格納容器雰囲気放射線モニタ</p> <p>事故時における放射性物質に対する放射能障壁の健全性を把握するために格納容器エリア放射線量率の監視を行う。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>c. サイトバンカ建物排気筒モニタ（1号炉と共用、既設）</p> <p>サイトバンカ建物排気筒から放出する気体廃棄物の監視を行う。検出器にはNaIシンチレータを使用し、粒子用フィルタを設けて粒子状放射性物質を連続的に捕集、測定する。</p> <p>また、よう素用フィルタを設けて放射性よう素を連続的に捕集し、定期的に回収、測定する。</p> <p>d. 空気抽出器排ガス・モニタ</p> <p>空気抽出器から放出する気体の放射線レベルを監視する。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>e. 活性炭式希ガス・ホールドアップ塔排ガス・モニタ</p> <p>活性炭式希ガス・ホールドアップ塔通過後の空気抽出器から放出する気体の放射線レベルを監視する。検出器にはNaIシンチレータを使用する。</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.1 プロセスモニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、原子炉格納容器内の放射性物質の濃度及び線量当量率、主蒸気管中及び空気抽出器その他の蒸気タービン又は復水器に接続する放射性物質を内包する設備の排ガス中の放射性物質の濃度、排気筒の出口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度を計測するためのプロセスモニタリング設備を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存できる設計とする。</p> <p>原子炉冷却材の放射性物質の濃度、排気筒の出口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度及び排水口又はこれに近接する箇所における排水中の放射性物質の濃度は、試料採取設備により断続的に試料を採取し分析を行い、測定結果を記録し、及び保存する。</p> <p>放射性物質により汚染するおそれがある管理区域内に開口部がある排水路を施設しないことから、排水路の出口近傍における排水中の放射性物質の濃度を計測するための設備を設けない設計とする。</p> <p>プロセスモニタリング設備のうち、原子炉格納容器内の放射線量率を計測する格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）及び格納容器雰囲気放射線モニタ（サプレッションチェンバ）は、それぞれ多重性、独立性を確保した設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>f. グランド蒸気排ガス・モニタ グランド蒸気復水器及び復水器の真空ポンプから放出する気体の放射線レベルの監視を行う。検出器にはN a Iシンチレータを使用する。</p> <p>g. 主蒸気管モニタ 主蒸気中の放射線レベルを監視し、主蒸気管放射線高により原子炉スクラム信号を出すとともに主蒸気隔離弁を閉鎖する。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>h. 換気系排気モニタ 換気系排気中の放射線レベルを監視する。検出器にはN a Iシンチレータを使用する。</p> <p>i. 原子炉棟排気モニタ 原子炉建物原子炉棟排気中の放射線レベルを監視し、原子炉棟排気放射線高により非常用ガス処理系を起動させる。検出器にはN a Iシンチレータ及び半導体検出器を使用する。</p> <p>j. 燃料取替階放射線モニタ 燃料取替階雰囲気中の放射線レベルを監視し、燃料取替階放射線高により非常用ガス処理系を起動させる。検出器には半導体検出器を使用する。</p> <p>k. 非常用ガス処理系排ガス・モニタ 非常用ガス処理系から放出する気体廃棄物の監視を行う。検出器には電離箱及びN a Iシンチレータを使用する。 また、サンプリング用のよう素及び粒子フィルタを設けて、事故時には、放射性よう素及び粒子状放射性物質を定期的に捕集し測定する。</p> <p>m. 原子炉補機冷却水モニタ 原子炉補機冷却水中の放射線レベルの監視を行い、熱交換器の細管漏えいを検知する。検出器にはN a Iシンチレータを使用する。</p> <p>n. 原子炉補機海水モニタ 原子炉補機冷却系海水中の放射線レベルの監視を行う。検出器にはN a Iシンチレータを使用する。</p>			

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>(2) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>エリア放射線モニタは建物内に設置し、中央制御室で記録、指示を行い、放射線レベルがあらかじめ設定した値をこえたときは、中央制御室及びその他必要な箇所で警報を発するようにする。検出器には電離箱を使用する。</p> <p>エリア放射線モニタを設ける主な区域は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 中央制御室（1号炉と共用、既設） b. 燃料取替階 c. 原子炉浄化系の操作区域 d. 制御棒駆動系の水圧制御ユニット区域 e. 原子炉建物機器搬入口 f. タービン発電機運転階 g. 復水昇圧ポンプ区域 h. 固体廃棄物ドラム詰操作区域 i. 廃棄物処理制御室（1号炉と共用、既設） 	<p>1.1.2 エリアモニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時に、管理区域内において人が常時立ち入る場所その他放射線管理を特に必要とする場所の線量当量率を計測するためのエリアモニタリング設備を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存できる設計とする。</p> <p><中略></p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>重大事故等時の燃料プール上部の空間線量率を測定するための燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）については、ニ、(3)、(ii) 燃料プールの冷却等のための設備に記載する。</p> <p>重大事故等チ(1)(iii)-④時の原子炉格納容器内の放射線量率をチ(1)(iii)-⑤測定するための格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）及び格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）を設ける。</p> <p>格納容器フィルタベント系の排出経路における放射性物質濃度を測定するための第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）については、リ、(3)、(ii)、d. 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備に記載する。</p> <p>緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための加圧判断ができるよう、放射線量を監視、測定するための可搬式エリア放射線モニタについては、ス、(3)、(vi) 緊急時対策所に記載する。</p>	<p>8.1.2 重大事故等時 8.1.2.2 設計方針 <中略> (4) 燃料プールの状態監視に用いる設備 重大事故等時の燃料プール上部の空間線量率を測定するための燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）（SA）については、「4.2 使用済燃料貯蔵プールの冷却等のための設備」に記載する。</p> <p>(5) 原子炉格納容器内の状態監視に用いる設備 重大事故等時の原子炉格納容器内の放射線量率を測定するための格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）及び格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）については、「6.4 計装設備（重大事故等対処設備）」に記載する。</p> <p>(6) 格納容器フィルタベント系の状態監視に用いる設備 格納容器フィルタベント系の排出経路における放射性物質濃度を測定するための第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）については、「9.5 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」に記載する。</p> <p>(7) 緊急時対策所の放射線量の測定に用いる設備 緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための加圧判断ができるよう、放射線量を監視、測定するための可搬式エリア放射線モニタについては、「10.8 緊急時対策所」に記載する。</p>	<p>1.1 放射線管理用計測装置 <中略> 重大事故等チ(1)(iii)-④が発生し、当該重大事故等に対処するために監視することが必要なパラメータとして、原子炉格納容器内の線量当量率、最終ヒートシンクの確保チ(1)(iii)-⑤の監視及び燃料プールの監視に必要なパラメータを計測する装置を設ける設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ニ、(3)、(ii) 燃料プールの冷却等のための設備」に示す。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-④と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑤を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「リ、(3)、(iii)d. 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備」に示す。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(3)、(vi) 緊急時対策所」に示す。</p>	

設置変更許可申請書 (本文 (五号))	設置変更許可申請書 (添付書類八) 該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																								
<p>チ(1) (iii) -⑥ プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>チ(1) (iii) -⑦ 一式</p>	<p>第8.1-1表 放射線管理設備の主要機器仕様</p> <p>(3) 放射線監視設備</p> <p>一式</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>1. 放射線管理用計測装置に係る次の事項 (警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。)</p> <p>(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>イ 主蒸気管中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所(常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。)及び個数</p> <table border="1" data-bbox="1656 514 2567 724"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主蒸気管放射線モニタ*</td> <td>電離箱*</td> <td>$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> </tbody> </table> <p>ロ 原子炉格納容器本体内の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所(常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。)及び個数</p> <table border="1" data-bbox="1656 798 2567 1239"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器雰囲気放射線モニタ (ドライブウェル) *</td> <td>電離箱**</td> <td>$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし*</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし*</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> </tbody> </table> <p>ハ 放射性物質による汚染のおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所(常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。)及び個数</p> <table border="1" data-bbox="1656 1396 2567 1911"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排気筒低レンジ放射線モニタ**</td> <td>シンチレーション</td> <td>$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$</td> <td>$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> <tr> <td>燃料取扱放射線モニタ**</td> <td>半導体式</td> <td>$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> <tr> <td>原子炉棟排気筒低レンジ放射線モニタ**</td> <td>半導体式</td> <td>$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$</td> <td>$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> <td colspan="4"> 系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。) </td> </tr> </tbody> </table>	変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	主蒸気管放射線モニタ*	電離箱*	$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	格納容器雰囲気放射線モニタ (ドライブウェル) *	電離箱**	$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし*	変更なし	変更なし*	系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	排気筒低レンジ放射線モニタ**	シンチレーション	$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$	$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				燃料取扱放射線モニタ**	半導体式	$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				原子炉棟排気筒低レンジ放射線モニタ**	半導体式	$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$	$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)					
変更前				変更後																																																																																																																																								
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																																																																																																																					
主蒸気管放射線モニタ*	電離箱*	$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-7} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																					
系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								
変更前				変更後																																																																																																																																								
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																																																																																																																					
格納容器雰囲気放射線モニタ (ドライブウェル) *	電離箱**	$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-2} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし*	変更なし	変更なし*																																																																																																																																					
系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.15300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								
系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								
変更前				変更後																																																																																																																																								
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																																																																																																																					
排気筒低レンジ放射線モニタ**	シンチレーション	$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$	$10^{-2} \sim 10^6 \text{ Sv}^{***}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																					
系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 屋外 EL.8900mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								
燃料取扱放射線モニタ**	半導体式	$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	$10^{-3} \sim 10^3 \text{ Sv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																					
系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.42800mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								
原子炉棟排気筒低レンジ放射線モニタ**	半導体式	$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$	$10^{-3} \sim 1 \text{ mSv/h}^{**}$	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																																																																																																					
系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)				系統名 (ライン名) --- 設置床 原子炉建物 EL.2300mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)																																																																																																																																								

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																											
		<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用ガス処理系排ガス高レンジ放射線モニタ**</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁰μSv/h**</td> <td>10⁻²~10⁰μSv/h**</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10⁰μSv/h**</td> <td>10⁻²~10⁰μSv/h**</td> <td>設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数	非常用ガス処理系排ガス高レンジ放射線モニタ**	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1	変更なし											変更なし		
変更前					変更後																																										
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数																																					
非常用ガス処理系排ガス高レンジ放射線モニタ**	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	10 ⁻² ~10 ⁰ μSv/h**	設置床 原子炉建物 EL 23000mm (監視・記録は中央制御室にて行う。)*1	変更なし																																					
										変更なし																																					

整合性

- 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑥a及びチ(1)(iii)-⑥bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑥を具体的に記載しており、整合している。
- 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑦a及びチ(1)(iii)-⑦bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑦を具体的に記載しており、整合している。

なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「プロセスモニタリング設備」のうち「主蒸気管放射線モニタ」、「格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）」、「格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッションチェンバ）」、「排気筒低レンジ放射線モニタ」、「燃料取替階放射線モニタ」、「原子炉棟排気高レンジ放射線モニタ」、「非常用ガス処理系排ガス高レンジ放射線モニタ」以外のプロセスモニタリング設備については、新規規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。

<p>チ(1)(iii)-⑧ エリア放射線モニタリング設備 チ(1)(iii)-⑨ 一式</p>	<p>(3) 放射線監視設備 一式</p>	<p>(2) エリアモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>ニ 使用済燃料貯蔵庫エリアの線量当量率を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所(常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。)及び個数 ・常設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建物放射線モニタ(燃料取替階エリア)*1</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10nSv/h**</td> <td>10⁻²~10nSv/h**</td> <td>系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2</td> <td>変更なし</td> <td>電離箱**</td> <td>10⁻²~10nSv/h**</td> <td>10⁻²~10nSv/h**</td> <td>設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数	原子炉建物放射線モニタ(燃料取替階エリア)*1	電離箱**	10 ⁻² ~10nSv/h**	10 ⁻² ~10nSv/h**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10nSv/h**	10 ⁻² ~10nSv/h**	設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2	変更なし											変更なし		
変更前					変更後																																										
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数																																					
原子炉建物放射線モニタ(燃料取替階エリア)*1	電離箱**	10 ⁻² ~10nSv/h**	10 ⁻² ~10nSv/h**	系統名 (ライン名) — 設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2	変更なし	電離箱**	10 ⁻² ~10nSv/h**	10 ⁻² ~10nSv/h**	設置床 原子炉建物 EL 42800mm (監視・記録は中央制御室 所にて行う。)*2	変更なし																																					
										変更なし																																					

整合性

- 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑧は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑧を具体的に記載しており、整合している。
- 設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑨は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑨を具体的に記載しており、整合している。

なお、設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「エリアモニタリング設備」のうち「原子炉建物放射線モニタ（燃料取替階エリア）」以外のエリアモニタリング設備については、新規規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																										
<p>チ(1)(iii)-⑩放射線サーベイ機器（1号、2号及び3号炉共用、既設） チ(1)(iii)-⑪一式</p>	<p>(3) 放射線監視設備 一式</p>	<p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所 個数</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所 個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式モニタリングポスト</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10 (2*)</td> <td>可搬式モニタリングポスト</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10 (2*)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>半導体式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>GM管</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>GM管</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> </tr> <tr> <td>Na I シンチレーションサーベイメータ</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>0~30 ks⁻¹</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td>Na I シンチレーションサーベイメータ</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>0~30 ks⁻¹</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> </tr> <tr> <td>α・β線サーベイメータ</td> <td>ZnS (Ag) シンチレーション</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>1 (1*)</td> <td>α・β線サーベイメータ</td> <td>ZnS (Ag) シンチレーション</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>1 (1*)</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>電離箱</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>1 (1*)</td> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>電離箱</td> <td>0~100 kmⁱⁿ-1</td> <td>—</td> <td>1 (1*)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1 μSv/h ~ 300mSv/h</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> <td></td> <td></td> <td>1 μSv/h ~ 300mSv/h</td> <td>—</td> <td>2 (1*)</td> </tr> </tbody> </table> <p>チ(1)(iii)-⑩</p> <p>注記*1：予備の個数を示す。 *2：発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）のうち、任意の場所でのモニタリング時に使用する。</p>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数	可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (2*)	可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (2*)		半導体式									GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ⁱⁿ -1	—	2 (1*)	GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ⁱⁿ -1	—	2 (1*)	Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)	Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)	α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)	α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)	電離箱サーベイメータ	電離箱	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)	電離箱サーベイメータ	電離箱	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)			1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)			1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)	<p>チ(1)(iii)-⑪</p>	<p>チ(1)(iii)-⑪</p>
変更前					変更後																																																																																									
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所 個数																																																																																					
可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (2*)	可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (2*)																																																																																					
	半導体式																																																																																													
GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ⁱⁿ -1	—	2 (1*)	GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ⁱⁿ -1	—	2 (1*)																																																																																					
Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)	Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (1*)																																																																																					
α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)	α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)																																																																																					
電離箱サーベイメータ	電離箱	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)	電離箱サーベイメータ	電離箱	0~100 km ⁱⁿ -1	—	1 (1*)																																																																																					
		1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)			1 μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (1*)																																																																																					
		<p>整合性</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑩及びチ(1)(iii)-⑪の「放射線サーベイ機器（1号、2号及び3号炉共用、既設）一式」は設計及び工事の計画ではチ(1)(iii)-⑩及びチ(1)(iii)-⑪の重大事故等時に使用する放射線サーベイ機器の記載と同義であり、整合している。</p> <p>なお、設計基準事故のみに使用する放射線サーベイ機器は、新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>																																																																																												

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>チ(1)(iii)-⑫ 燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ・低レンジ)(SA)</p> <p>チ(1)(iii)-⑬ (ニ、(3)、(ii) 燃料プールの冷却等のための設備及びへ 計測制御系統施設の構造及び設備と兼用)</p> <p>高レンジ 個 数 1</p> <p>低レンジ 個 数 1</p>	<p>第8.1-2表 放射線管理設備（重大事故等時）の主要機器仕様</p> <p>(3) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>a. 燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ・低レンジ)(SA)</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 ・計装設備(重大事故等対処設備) <p>高レンジ 個 数 1 計測範囲 $10^1 \sim 10^8 \text{mSv/h}$</p> <p>低レンジ 個 数 1 計測範囲 $10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="6">変 更 前</th> <th colspan="6">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取 付 箇 所</th> <th>個 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>燃料プールエリア放射線モニタ(低レンジ)(SA)</td> <td>電離箱</td> <td>$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$</td> <td>$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$</td> <td>系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>チ(1)(iii)-⑫</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ)(SA)</td> <td>電離箱</td> <td>$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$</td> <td>$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$</td> <td>系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変 更 前						変 更 後						名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数							燃料プールエリア放射線モニタ(低レンジ)(SA)	電離箱	$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$	$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$	系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1							チ(1)(iii)-⑫				溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N												溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上								燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ)(SA)	電離箱	$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$	$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$	系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1											溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N												溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計及び工事の計画のチ(1)(iii)-⑫は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(iii)-⑫と同義であり、整合している。 ・「燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ）（SA）」及び「燃料プールエリア放射線モニタ（低レンジ）（SA）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(iii)-⑬を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。 	
変 更 前						変 更 後																																																																																														
名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数																																																																																									
						燃料プールエリア放射線モニタ(低レンジ)(SA)	電離箱	$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$	$10^{-3} \sim 10^4 \text{mSv/h}$	系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1																																																																																									
						チ(1)(iii)-⑫				溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N																																																																																										
										溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上																																																																																										
						燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ)(SA)	電離箱	$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$	$10 \sim 10^8 \text{mSv/h}$	系 統 名 (ライン名) — 設 置 床 原子炉建物 EL 42800mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1																																																																																									
										溢水防護上の区画番号 R-4F-01-1N																																																																																										
										溢水防護上の配慮が必要な高さ EL 42800mm 以上																																																																																										

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																
<p>格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）</p> <p>チ(1)(iii)-⑭（へ...計測制御系統施設の構造及び設備と兼用）...</p> <p>個 数 2</p> <p>格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）</p> <p>チ(1)(iii)-⑭（へ...計測制御系統施設の構造及び設備と兼用）...</p> <p>個 数 2</p>	<p>(2) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>a. 格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉プラント・プロセス計装 計装設備（重大事故等対処設備） 放射線管理設備（通常運転時等） <p>個 数 2</p> <p>計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$</p> <p>b. 格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉プラント・プロセス計装 計装設備（重大事故等対処設備） 放射線管理設備（通常運転時等） <p>個 数 2</p> <p>計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$</p>	<p>(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>ロ 原子炉格納容器本体内の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <table border="1" data-bbox="1665 359 2742 863"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警動作範囲</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）^{*1}</td> <td>電離箱^{*2}</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$^{*3}</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$^{*4}</td> <td>原子炉建物 EL 1530mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）</td> <td>—</td> <td>2^{**}</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）^{*1}</td> <td>電離箱^{*2}</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$^{*3}</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$^{*4}</td> <td>原子炉建物 EL 880mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）</td> <td>—</td> <td>2^{**}</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table>	変更前				変更後				名称	検出器の種類	計測範囲	警動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警動作範囲	格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル） ^{*1}	電離箱 ^{*2}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*3}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*4}	原子炉建物 EL 1530mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）	—	2 ^{**}	変更なし	格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ） ^{*1}	電離箱 ^{*2}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*3}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*4}	原子炉建物 EL 880mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）	—	2 ^{**}	変更なし	<p>「格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル）」及び「格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(iii)-⑭を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p>	
変更前				変更後																																
名称	検出器の種類	計測範囲	警動作範囲	名称	検出器の種類	計測範囲	警動作範囲																													
格納容器雰囲気放射線モニタ（ドライウエル） ^{*1}	電離箱 ^{*2}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*3}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*4}	原子炉建物 EL 1530mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）	—	2 ^{**}	変更なし																													
格納容器雰囲気放射線モニタ（サブプレッション・チェンバ） ^{*1}	電離箱 ^{*2}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*3}	$10^{-2} \sim 10^5 \text{ Sv/h}$ ^{*4}	原子炉建物 EL 880mm 設置床 （監視・記録は中央制御室にて行う。）	—	2 ^{**}	変更なし																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																																																																																																																				
<p>チ(1) (iii) -⑮第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）</p> <p>チ(1) (iii) -⑯（へ 計測制御系統施設の構造及び設備及びり、(3)、(ii)、d 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備と兼用）</p> <p>高レンジ 個 数 2</p> <p>低レンジ 個 数 1</p> <p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>可搬式エリア放射線モニタ</p> <p>チ(1) (iii) -⑯（ヌ、(3)、(vi) 緊急時対策所と兼用）</p> <p>個 数 1（予備1）</p>	<p>c. 第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計装設備（重大事故等対処設備） 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 <p>高レンジ 個 数 2 計測範囲 $10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h</p> <p>低レンジ 個 数 1 計測範囲 $10^{-3} \sim 10^4$ mSv/h</p> <p>(3) エリア放射線モニタリング設備</p> <p>b. 可搬式エリア放射線モニタ</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時対策所（重大事故等時） <p>種 類 半導体式検出器 計測範囲 0.001~999.9mSv/h 台 数 1（予備1）</p>	<p>(つづき)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変 更 前</th> <th colspan="5">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個 数</th> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取 付 箇 所</th> <th>個 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ）</td> <td>電離箱</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽 EL. 19400mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ）</td> <td>電離箱</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h</td> <td>$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h</td> <td>第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>Y-S2-08</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の配管が必要な高さ</td> <td>EL. 19742mm以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>Y-S2-05</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の配管が必要な高さ</td> <td>EL. 16928mm以上</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1) (iii) -⑮a及びチ(1) (iii) -⑮bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1) (iii) -⑮と同義であり、整合している。 「第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ）」及び「第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1) (iii) -⑯を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。 </div> <p>ハ 緊急時対策所の線量当量率を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し、監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">変 更 前</th> <th colspan="5">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個 数</th> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報動作範囲</th> <th>取 付 箇 所</th> <th>個 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線管理用計測装置</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可搬式エリア放射線モニタ</td> <td>半導体式</td> <td>0.001~999.9 mSv/h</td> <td>0.001~999.9 mSv/h</td> <td>保管場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 取付場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 監視・記録は緊急時対策所にて行う。</td> <td>1 (*)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：予備の個数を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>整合性</p> <p>「可搬式エリア放射線モニタ」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1) (iii) -⑯を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p> </div>	変 更 前					変 更 後					名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個 数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数											系 統 名 (ライン名)	—							第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ）	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	第1ベントフィルタ格納槽 EL. 19400mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1							第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ）	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	2											溢水防護上の区画番号	Y-S2-08											溢水防護上の配管が必要な高さ	EL. 19742mm以上											系 統 名 (ライン名)	—											第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	2											溢水防護上の区画番号	Y-S2-05											溢水防護上の配管が必要な高さ	EL. 16928mm以上	変 更 前					変 更 後					名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個 数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数	放射線管理用計測装置						可搬式エリア放射線モニタ	半導体式	0.001~999.9 mSv/h	0.001~999.9 mSv/h	保管場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 取付場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 監視・記録は緊急時対策所にて行う。	1 (*)		
変 更 前					変 更 後																																																																																																																																																																			
名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個 数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数																																																																																																																																																													
										系 統 名 (ライン名)	—																																																																																																																																																													
						第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（高レンジ）	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	第1ベントフィルタ格納槽 EL. 19400mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	1																																																																																																																																																													
						第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ）	電離箱	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	$10^{-2} \sim 10^5$ Sv/h	第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	2																																																																																																																																																													
										溢水防護上の区画番号	Y-S2-08																																																																																																																																																													
										溢水防護上の配管が必要な高さ	EL. 19742mm以上																																																																																																																																																													
										系 統 名 (ライン名)	—																																																																																																																																																													
										第1ベントフィルタ格納槽 EL. 14700mm (監視は中央制御室にて行う。記録は緊急時対策所にて行う。)	2																																																																																																																																																													
										溢水防護上の区画番号	Y-S2-05																																																																																																																																																													
										溢水防護上の配管が必要な高さ	EL. 16928mm以上																																																																																																																																																													
変 更 前					変 更 後																																																																																																																																																																			
名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取付箇所	個 数	名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報動作範囲	取 付 箇 所	個 数																																																																																																																																																													
放射線管理用計測装置						可搬式エリア放射線モニタ	半導体式	0.001~999.9 mSv/h	0.001~999.9 mSv/h	保管場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 取付場所：緊急時対策所 EL. 約 50250mm 監視・記録は緊急時対策所にて行う。	1 (*)																																																																																																																																																													

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(iv) 個人管理用測定設備及び測定機器（1号及び2号炉共用，既設） 個人管理用測定機器 一式 ホール・ボディ・カウンタ 一式</p> <p>(v) 遮蔽設備</p> <p>放射線業務従事者等のチ(1)(v)-①被ばく線量を低減するため，遮蔽設備を設ける。</p>	<p>第8.1-1表 放射線管理設備の主要機器仕様</p> <p>(4) 個人管理用測定設備及び測定機器 一式 (4) 個人管理用測定設備及び測定機器 一式</p> <p>1. 安全設計 1.10 発電用原子炉設置変更許可申請に係る安全設計の方針 1.10.1 発電用原子炉設置変更許可申請（平成25年12月25日申請）に係る実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則への適合 <中略></p> <p>(1) 発電用原子炉施設は，「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」に基づいて管理区域を定めるとともに通常運転時，定期事業者検査時等において放射線業務従事者が受ける線量が「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に定められた線量限度を超えないようにし，不要の被ばくを防止するような遮蔽及び機器の配置を行う設計とする。</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置等 2.3 生体遮蔽装置等</p> <p>設計基準対象施設は，通常運転時において発電用原子炉施設からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による発電所周辺の空間線量率が，放射線業務従事者等のチ(1)(v)-①放射線障害を防止するために必要な生体遮蔽等を適切に設置すること及び発電用原子炉施設と周辺監視区域境界までの距離とあいまって，発電所周辺の空間線量率を合理的に達成できる限り低減し，周辺監視区域外における線量限度に比ベ十分に下回る，空気カーマで年間50μGyを超えないような遮蔽設計とする。</p> <p>発電所内における外部放射線による放射線障害を防止する必要がある場所には，通常運転時の放射線業務従事者の被ばく線量が適切な作業管理とあいまって，「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」を満足できる遮蔽設計とする。</p>	<p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「個人管理用測定機器」及び「ホール・ボディ・カウンタ」は，新規制基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(v)-①は，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)-①と同義であり，整合している。</p>	

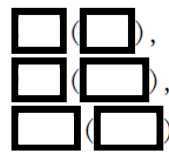
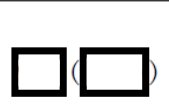
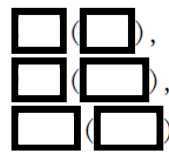
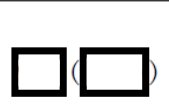
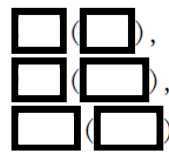
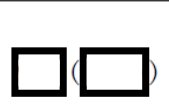
設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. 中央制御室遮蔽</p> <p><u>チ(1)(v)a. -①</u>中央制御室遮蔽は、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設する。また、運転員の勤務形態を考慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気系等の機能とあいまって、100mSv を下回るよう設計する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまる<u>チ(1)(v)a. -②</u>ために必要な遮蔽設備として、中央制御室遮蔽を設ける。</p>	<p>8.3 遮蔽設備</p> <p>8.3.4 主要設備</p> <p>8.3.4.5 中央制御室遮蔽</p> <p>(1) 通常運転時等 中央制御室遮蔽は、制御室建物内に設置し、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作、措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設する。また、運転員の勤務形態を考慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室換気系等の機能とあいまって、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」及び「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈」に示される 100mSv を下回る遮蔽とする。</p> <p>(2) 重大事故等時 炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるために必要な遮蔽設備として、中央制御室遮蔽を設ける。中央制御室遮蔽については、「6.10 制御室」に記載する。</p>	<p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><u>チ(1)(v)a. -①</u>中央制御室及びこれに連絡する通路並びに運転員その他の従事者が中央制御室に出入りするための区域は、原子炉冷却材喪失等の設計基準事故時に、中央制御室内にとどまり必要な操作及び措置を行う運転員が過度の被ばくを受けないよう施設し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後 30 日間において、運転員が中央制御室に入り、とどまっても、中央制御室遮蔽（「1、2号機共用」（以下同じ。））を透過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退域時の線量が、中央制御室の気密性並びに中央制御室空調換気系、中央制御室遮蔽、原子炉二次遮蔽及び補助遮蔽の機能とあいまって、「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）」に基づく被ばく評価により、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に示される 100mSv を下回る設計とする。また、運転員その他の従事者が中央制御室にとどまるため、気体状の放射性物質及び中央制御室外の火災により発生する燃焼ガスやばい煙、有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離その他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、中央制御室送風機、中央制御室非常用再循環送風機、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ、中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽<u>チ(1)(v)a. -②</u>により、運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(1)(v)a. -①</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(v)a. -①</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(1)(v)a. -②</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(v)a. -②</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 中央制御室待避室遮蔽</p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるチ(1)(v)b. -①放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設け、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室待避室遮蔽を設ける。</p>	<p>8.3.4.6 中央制御室待避室遮蔽</p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出される放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設け、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室待避室遮蔽を設ける。中央制御室待避室遮蔽については、「6.10 制御室」に記載する。</p>	<p>炉心の著しい損傷後に格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるチ(1)(v)b. -①a プルーム通過時に、運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽を設ける設計とする。中央制御室待避室は、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンプ）で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表）</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 (1) 中央制御室機能</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるチ(1)(v)b. -①b プルーム通過時に、運転員の被ばくを低減するため、中央制御室内に中央制御室待避室を設ける設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(v)b. -①a及びチ(1)(v)b. -①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)b. -①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																	
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室遮蔽 ② (へ、(5)、(vi) 中央制御室と兼用)。 ③ 一式</p> <p>中央制御室遮蔽は、④設計基準事故時及び重大事故等時ともに使用する。</p>	<p>第 8.3-2 表 遮蔽設備（重大事故等時）の主要仕様</p> <p>(1) 中央制御室遮蔽 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（通常運転時等） ・中央制御室（重大事故等時） 厚 さ <input type="text"/> mm 以上 材 料 普通コンクリート</p>	<p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>3. 生体遮蔽装置（一次遮蔽，二次遮蔽，補助遮蔽，中央制御室遮蔽，原子炉遮蔽並びに緊急時制御室及び緊急時対策所において従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。使用済燃料運搬用容器の放射線遮蔽材，使用済燃料貯蔵用容器の放射線遮蔽材，放射性廃棄物運搬用容器の放射線遮蔽材及び一時的に設置するものを除く。）の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料</p> <table border="1" data-bbox="1668 682 2496 1018"> <caption>中央制御室遮蔽</caption> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">名 称</th> <th colspan="3">変更前</th> <th rowspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>主要寸法*1 [最小厚さ mm*2,*3]</th> <th>冷却方法</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]</td> <td>地上 4 階 (EL 16900)</td> <td><input type="text"/>, <input type="text"/>, <input type="text"/>, <input type="text"/></td> <td rowspan="2">自然 冷却</td> <td rowspan="2">普通コンクリート (密度 2.1g/cm³ 以上*3)</td> <td rowspan="2">変更 なし</td> </tr> <tr> <td>屋上階 (EL 22050)</td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：主要寸法欄は（ ）内に公称値を示す。③ *2：記載の適正化を行う。既工事計画書の「m」を「mm」と記載する。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針)</p> <p>第 2 章 個別項目 2. 換気設備，生体遮蔽装置等 2.3 生体遮蔽装置等 <中略> 中央制御室遮蔽は、④設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、重大事故等対処設備としての基本方針に示す設計方針を適用する。ただし、多様性及び独立性並びに位置的分散を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、重大事故等対処設備の基本方針のうち多様性及び独立性並びに位置的分散の設計方針は適用しない。</p>	名 称		変更前			変更後	主要寸法*1 [最小厚さ mm*2,*3]	冷却方法	材 料	中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]	地上 4 階 (EL 16900)	<input type="text"/> , <input type="text"/> , <input type="text"/> , <input type="text"/>	自然 冷却	普通コンクリート (密度 2.1g/cm ³ 以上*3)	変更 なし	屋上階 (EL 22050)	<input type="text"/>	<p>「中央制御室遮蔽」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における②を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており，整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の③は，設置変更許可申請書（本文（五号））の③を具体的に記載しており，整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の④は，設置変更許可申請書（本文（五号））の④と同一であり，整合している。</p>	
名 称		変更前			変更後																
		主要寸法*1 [最小厚さ mm*2,*3]	冷却方法	材 料																	
中央制御室遮蔽 [1, 2号機共用]	地上 4 階 (EL 16900)	<input type="text"/> , <input type="text"/> , <input type="text"/> , <input type="text"/>	自然 冷却	普通コンクリート (密度 2.1g/cm ³ 以上*3)	変更 なし																
	屋上階 (EL 22050)	<input type="text"/>																			

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																	
<p>中央制御室待避室遮蔽</p> <p>チ(1)(v)b.-⑤ (へ, (5), (vi) 中央制御室と兼用)</p> <p>チ(1)(v)b.-⑥ 一式</p>	<p>第 8.3-2 表 遮蔽設備（重大事故等時）の主要仕様</p> <p>(2) 中央制御室待避室遮蔽</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央制御室（重大事故等時） <p>厚 さ 鉛 mm相当以上</p> <p>材 料 鉛及び鋼板</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>3. 生体遮蔽装置（一次遮蔽，二次遮蔽，補助遮蔽，中央制御室遮蔽，原子炉遮蔽並びに緊急時制御室及び緊急時対策所において従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。使用済燃料運搬用容器の放射線遮蔽材，使用済燃料貯蔵用容器の放射線遮蔽材，放射性廃棄物運搬用容器の放射線遮蔽材及び一時的に設置するものを除く。）</p> <p>の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料</p> <p style="text-align: center;">中央制御室待避室遮蔽</p> <table border="1" data-bbox="1644 695 2825 1115"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">名 称 種 類</th> <th rowspan="2">変更前</th> <th colspan="3">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>主要寸法* [最小厚さ mm]</th> <th>冷却方法</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央制御室 待 避 室 遮 蔽</td> <td rowspan="2">地 上 4 階 (EL 16900)</td> <td rowspan="2">—</td> <td style="text-align: center;">□(□)</td> <td rowspan="2">自然冷却</td> <td>鉛 (密度 11.3g/cm³ 以上)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">□(□)</td> <td>鋼板 (SS400)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：主要寸法欄は（ ）内に公称値を示す。</p>	名 称 種 類		変更前	変 更 後			主要寸法* [最小厚さ mm]	冷却方法	材 料	中央制御室 待 避 室 遮 蔽	地 上 4 階 (EL 16900)	—	□(□)	自然冷却	鉛 (密度 11.3g/cm ³ 以上)	□(□)	鋼板 (SS400)	<p>「中央制御室待避室遮蔽」は，設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(v)b.-⑤を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており，整合している。</p> <p>チ(1)(v)b.-⑥</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(v)b.-⑥は，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(v)b.-⑥を具体的に記載しており，整合している。</p>	
名 称 種 類		変更前				変 更 後															
			主要寸法* [最小厚さ mm]	冷却方法	材 料																
中央制御室 待 避 室 遮 蔽	地 上 4 階 (EL 16900)	—	□(□)	自然冷却	鉛 (密度 11.3g/cm ³ 以上)																
			□(□)		鋼板 (SS400)																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>c. 緊急時対策所遮蔽</p> <p>重大事故等が発生した場合においても、緊急時対策所^チ(1)(v)c. -①で当該重大事故等に対処するために必要な遮蔽設備として、緊急時対策所遮蔽を設置する設計とする。</p> <p>緊急時対策所遮蔽は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所換気空調^チ(1)(v)c. -②設備の機能とあいまって、居住性に係る判断基準である緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>本設備については、ヌ、(3)、(vi) 緊急時対策所に記載する。</p>	<p>8.3.1 概要 <中略></p> <p>緊急時対策所には、重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、緊急時対策所の居住性を確保するための遮蔽設備として、緊急時対策所遮蔽を設置する設計とする。</p> <p>8.3.4.8 緊急時対策所遮蔽 緊急時対策所遮蔽は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所の気密性、緊急時対策所換気空調設備の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の实効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p>本設備については、「10.8 緊急時対策所」に記載する。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 2. 換気設備、生体遮蔽装置等 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所^チ(1)(v)c. -①の居住性を確保するための設備として、緊急時対策所遮蔽、緊急時対策所換気空調系の設備、可搬式モニタリングポスト及び可搬式エリア放射線モニタを設置又は保管する設計とする。</p> <p>緊急時対策所遮蔽は、緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所換気空調^チ(1)(v)c. -②系の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の实効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の^チ(1)(v)c. -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^チ(1)(v)c. -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^チ(1)(v)c. -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^チ(1)(v)c. -②と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））「ヌ、(3)、(vi) 緊急時対策所」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																				
<p>[常設重大事故等対処設備] 緊急時対策所遮蔽 ③ (又, (3), (vi) 緊急時対策所と兼用) ④一式</p>	<p>第 8.3-2 表 遮蔽設備（重大事故等時）の主要仕様 (3) 緊急時対策所遮蔽 兼用する設備は以下のとおり。 ・緊急時対策所（重大事故等時） 厚 さ <input type="text"/> mm 材 料 普通コンクリート</p>	<p>【放射線管理施設】 (要目表) 3. 生体遮蔽装置（一次遮蔽，二次遮蔽，補助遮蔽，中央制御室遮蔽，原子炉遮蔽並びに緊急時制御室及び緊急時対策所において従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。使用済燃料運搬用容器の放射線遮蔽材，使用済燃料貯蔵用容器の放射線遮蔽材，放射性廃棄物運搬用容器の放射線遮蔽材及び一時的に設置するものを除く。） の名称，種類，主要寸法，冷却方法及び材料</p> <p>緊急時対策所遮蔽</p> <table border="1" data-bbox="1644 695 2831 1291"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">名 称 種 類</th> <th rowspan="2">変 更 前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]</th> <th>冷 却 方 法</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">緊急時 対策所 遮 蔽</td> <td>地上 1 階 (EL 50800)</td> <td rowspan="3">—</td> <td></td> <td rowspan="3">自然冷却</td> <td>普通コンクリート (密度 2.02g/cm³ 以上)</td> </tr> <tr> <td>屋 上 階 (EL 56600)</td> <td></td> <td>鋼板 (SS400)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>普通コンクリート (密度 2.02g/cm³ 以上)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：主要寸法欄は（ ）内に公称値を示す。 ④</p>	名 称 種 類		変 更 前	変 更 後		主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]	冷 却 方 法	材 料	緊急時 対策所 遮 蔽	地上 1 階 (EL 50800)	—		自然冷却	普通コンクリート (密度 2.02g/cm ³ 以上)	屋 上 階 (EL 56600)		鋼板 (SS400)			普通コンクリート (密度 2.02g/cm ³ 以上)	<p>「緊急時対策書遮蔽」は，設置変更許可申請書（本文（五号））における③を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「生体遮蔽装置」に整理しており，整合している。</p>	<p>設計及び工事の計画の④は，設置変更許可申請書（本文（五号））の④を具体的に記載しており，整合している。</p>
名 称 種 類		変 更 前				変 更 後																		
			主 要 寸 法 * [最小厚さ mm]	冷 却 方 法	材 料																			
緊急時 対策所 遮 蔽	地上 1 階 (EL 50800)	—		自然冷却	普通コンクリート (密度 2.02g/cm ³ 以上)																			
	屋 上 階 (EL 56600)				鋼板 (SS400)																			
					普通コンクリート (密度 2.02g/cm ³ 以上)																			

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(vi) 換気空調設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時、設計基準事故時及びチ(1)(vi)-①重太事故等時に発電所従業員に新鮮な空気を送るとともに、空気中の放射性物質の除去低減が可能なチ(1)(vi)-②換気空調設備を設ける。</p> <p>チ(1)(vi)-③中央制御室には、炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重太事故等対処設備を設置及び保管する。</p>	<p>8.2 換気空調設備</p> <p>8.2.1 概要</p> <p><中略></p> <p>中央制御室には、炉心の著しい損傷が発生した場合においても運転員がとどまるために必要な重太事故等対処設備を設置及び保管する。</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(基本設計方針)</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>2. 換気設備、生体遮蔽装置等</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>チ(1)(vi)-①炉心の著しい損傷が発生した場合においても、チ(1)(vi)-②a中央制御室送風機、中央制御室非常用再循環送風機、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽により、運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.2 換気設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、放射線障害を防止するため、発電所従業員に新鮮な空気を送るとともに、空気中の放射性物質の除去・低減が可能なチ(1)(vi)-②b換気設備を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても、チ(1)(vi)-③中央制御室送風機、中央制御室非常用再循環送風機、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽により、運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)-②a及びチ(1)(vi)-②bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)-②を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)-③を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>a. 原子炉棟換気系、タービン建物換気系及び廃棄物処理建物換気系</p> <p>チ(1)(vi)a. -①原子炉棟換気系、タービン建物換気系及び廃棄物処理建物換気系は、それぞれ原子炉建物、タービン建物及び廃棄物処理建物チ(1)(vi)a. -②に外気を供給し、その排気を必要に応じてフィルタを通して排気筒から大気へ放出する。</p>	<p>8.2.4 主要設備</p> <p>(1) 原子炉棟換気系</p> <p>原子炉棟換気系は、給気ファン、排気ファン、フィルタ等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>(2) タービン建物換気系</p> <p>タービン建物換気系は、給気ファン、排気ファン、フィルタ等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>(5) 廃棄物処理建物換気系</p> <p>廃棄物処理建物換気系は、給気ファン、排気ファン、フィルタ等で構成する。</p> <p><中略></p> <p>8.2.2 設計方針</p> <p><中略></p> <p>(1) 清浄区域は、汚染の可能性のある区域より正圧に保ち、排気は汚染の可能性のある区域から行う。</p> <p>(2) 汚染の可能性のある区域からの排気は、<u>フィルタを通した後、排気筒から放出する。</u></p> <p>8.2.4 主要設備</p> <p><中略></p>	<p>2.2 換気設備</p> <p>2.2.3 原子炉棟空調換気系</p> <p>チ(1)(vi)a. -①a原子炉棟空調換気系は、送風機及び排風機により、発電所通常運転中、原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）チ(1)(vi)a. -②a内の換気を行い、各建物内を負圧に保ち、排気空気は、フィルタを通したのち、排気筒から放出する。</p> <p>また、原子炉棟空調換気系の給気及び排気ダクトには、それぞれ2個の空気作動の隔離弁を設け、原子炉棟放射能高等の信号により、隔離弁を自動閉鎖するとともに原子炉棟空調換気系から非常用ガス処理系に切り替わることで放射性物質の放散を防ぐ設計とする。</p> <p>2.2.4 タービン建物空調換気系</p> <p>チ(1)(vi)a. -①bタービン建物空調換気系は、送風機及び排風機により、発電所通常運転中、タービン建物内チ(1)(vi)a. -②bの換気を行い、各建物内を負圧に保ち、汚染の可能性のある排気空気は、フィルタを通したのち、排気筒から放出する。</p> <p>2.2.5 廃棄物処理建物空調換気系</p> <p>チ(1)(vi)a. -①c廃棄物処理建物空調換気系は、送風機及び排風機により、発電所通常運転中、廃棄物処理建物チ(1)(vi)a. -②c内の換気を行い、各建物内を負圧に保ち、汚染の可能性のある排気空気は、フィルタを通したのち、排気筒から放出する。</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)a. -①a、チ(1)(vi)a. -①b及びチ(1)(vi)a. -①cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)a. -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)a. -②a、チ(1)(vi)a. -②b及びチ(1)(vi)a. -②cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)a. -②と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>b. 中央制御室換気系</p> <p>中央制御室等の換気及び冷暖房^{チ(1)(vi)b.-①}を行うための中央制御室換気系を設ける。</p> <p>中央制御室換気系^{チ(1)(vi)b.-②}には、通常のラインの他、チャコール・フィルタを内蔵した非常用チャコール・フィルタ・ユニット及びチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンからなる非常用ラインを設け、設計基準事故時には外気との連絡口を遮断し、チャコール・フィルタを通る系統隔離運転モードとし、運転員を放射線被ばくから防護する設計とする。外部との遮断が長期にわたり、室内の雰囲気が悪くなった場合には、外気をチャコール・フィルタで浄化しながら取り入れることも可能な設計とする。</p>	<p>(3) 中央制御室換気系</p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気系は、設計基準事故時に放射線業務従事者等を内部被ばくから防護し、必要な運転操作を継続することができるようにするため、他の換気系とは独立にして、外気との連絡口を遮断し、チャコール・フィルタを通して再循環することができる。また、必要に応じて、外気をチャコール・フィルタを通して取り入れることができる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室換気系は、再循環用ファン、チャコール・フィルタ、排気ファン等で構成する。</p> <p>なお、本系統の電源は、外部電源喪失時に非常用電源に切り替えることができる設計とする。</p>	<p>2.2.1 中央制御室空調換気系</p> <p>中央制御室の換気及び冷暖房は、中央制御室送風機、中央制御室排風機、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ、中央制御室非常用再循環送風機等から構成する^{チ(1)(vi)b.-①}中央制御室空調換気系により行う。</p> <p><中略></p> <p>中央制御室空調換気系は、通常のラインの他、^{チ(1)(vi)b.-②}粒子用高効率フィルタ及びチャコールフィルタを内蔵した中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ並びに中央制御室非常用再循環送風機からなる非常用ラインを設け、設計基準事故時には、中央制御室空調換気系の給気隔離弁及び排気隔離弁を閉とすることにより外気との連絡口を遮断し、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタを通る系統隔離運転モードとし、放射性物質を含む外気が中央制御室に直接流入することを防ぐことができ、運転員を放射線被ばくから防護する設計とする。外部との遮断が長期にわたり、室内の雰囲気が悪くなった場合には、外気を中央制御室非常用再循環処理装置フィルタで浄化しながら取り入れることも可能な設計とする。</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷後に格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出されるプルーム通過時において、中央制御室空調換気系は中央制御室外気取入調節弁（MV264-1）を閉操作することで、外気との連絡口を遮断し、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタを通る系統隔離運転モードとすることにより、中央制御室バウンダリを外気から隔離可能な設計とする。</p> <p>中央制御室空調換気系の外気取入ダクト及び排気ダクトの一部は中央制御室等とともに中央制御室バウンダリを形成しており、重大事故等発生時において中央制御室内にとどまる運転員の被ばく線量を低減するために必要な気密性を有する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(vi)b.-①}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(1)(vi)b.-①}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{チ(1)(vi)b.-②}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(1)(vi)b.-②}を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガス，ばい煙，有毒ガス及び降下火砕物に対し，中央制御室換気系の外気取入れを手動で遮断し，系統隔離運転モードに切り替えることが可能な設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても^チ(1)(vi)b. -③中央制御室に運転員がとどまるために必要な換気空調設備として，中央制御室換気系は，粒子用高効率フィルタ及びチャコール・フィルタを内蔵した非常用チャコール・フィルタ・ユニット並びにチャコール・フィルタ・ブースタ・ファンからなる非常用ライン及び中央制御室外気取入調節弁を設ける。</p>	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても，中央制御室に運転員がとどまるために必要な換気空調設備として，中央制御室換気系を設ける。</p>	<p>2.2.1 中央制御室空調換気系 <中略> 中央制御室外の火災等により発生する燃焼ガスやばい煙，有毒ガス及び降下火砕物に対し，中央制御室空調換気系の外気取入れを手動で遮断し，系統隔離運転モードに切り替えることが可能な設計とする。 <中略> 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 炉心の著しい損傷が発生した場合においても^チ(1)(vi)b. -③，中央制御室送風機，中央制御室非常用再循環送風機，中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ，中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンプ），中央制御室遮蔽，中央制御室待避室遮蔽により，運転員が中央制御室にとどまることができる設計とする。 <中略></p>	<p>設計及び工事の計画の^チ(1)(vi)b. -③は，設置変更許可申請書（本文（五号））の^チ(1)(vi)b. -③を具体的に記載しており，整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																							
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>チ(1)(vi)b.-④再循環用ファン チ(1)(vi)b.-⑤（へ、(5)、(vi)中央制御室と兼用）</p> <p>台数 チ(1)(vi)b.-⑥1（予備1） 容量 約120,000m³/h/台</p>	<p>第8.2-2表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様</p> <p>(1) 中央制御室換気系 a. 再循環用ファン 第8.2-1表 換気空調設備の主要仕様に記載する。</p> <p>第8.2-1表 換気空調設備の主要仕様</p> <p>(3) 中央制御室換気系 a. 再循環用ファン 台数 1（予備1） 容量 約120,000m³/h/台</p>	<p>【放射線管理施設】 （要目表）</p> <p>2. 換気設備（中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの（非常用のものに限る。）並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気又は排気設備として設置するもの。一時的に設置する可搬型のものを除く。）に係る次の事項</p> <p>(4) 送風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <p>常設</p> <table border="1" data-bbox="1647 657 2724 1178"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">送風機</td> <td>名称</td> <td>中央制御室送風機</td> <td>チ(1)(vi)b.-④</td> <td colspan="2" rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>遠心式</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>120000以上(120000*2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*3 主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>1800*2、*4×1000*2、*4</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>1600*2、*4×1100*2、*4</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>3585*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>4820*2</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>3000*2</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>チ(1)(vi)b.-⑥</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>—</td> <td>A-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3</td> <td>B-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>廃棄物処理建物 EL 22100mm*3</td> <td>廃棄物処理建物 EL 22100mm*3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>RW-2F-02N RW-2F-02N</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>EL 22276mm以上 EL 22276mm以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-④と同義であり、整合している。 「中央制御室送風機」、 「中央制御室非常用再循環送風機」及び「中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)b.-⑤を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-⑥は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-⑥と同義であり、整合している。 			変更前		変更後		送風機	名称	中央制御室送風機	チ(1)(vi)b.-④	変更なし		種類	—	遠心式	容量	m ³ /h/個	120000以上(120000*2)	*3 主要寸法	吸込口径	mm	1800*2、*4×1000*2、*4	吐出口径	mm	1600*2、*4×1100*2、*4	たて	mm	3585*2	横	mm	4820*2	高さ	mm	3000*2	個数	—	2	チ(1)(vi)b.-⑥	取付箇所	系統名（ライン名）	—	A-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3	B-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3	設置床	—	廃棄物処理建物 EL 22100mm*3	廃棄物処理建物 EL 22100mm*3	溢水防護上の区画番号	—	—	RW-2F-02N RW-2F-02N	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	EL 22276mm以上 EL 22276mm以上		
		変更前		変更後																																																							
送風機	名称	中央制御室送風機	チ(1)(vi)b.-④	変更なし																																																							
	種類	—	遠心式																																																								
	容量	m ³ /h/個	120000以上(120000*2)																																																								
	*3 主要寸法	吸込口径	mm			1800*2、*4×1000*2、*4																																																					
		吐出口径	mm			1600*2、*4×1100*2、*4																																																					
		たて	mm			3585*2																																																					
		横	mm			4820*2																																																					
	高さ	mm	3000*2																																																								
	個数	—	2			チ(1)(vi)b.-⑥																																																					
	取付箇所	系統名（ライン名）	—			A-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3	B-中央制御室送風機（中央制御室空調換気系）*3																																																				
設置床		—	廃棄物処理建物 EL 22100mm*3	廃棄物処理建物 EL 22100mm*3																																																							
溢水防護上の区画番号		—	—	RW-2F-02N RW-2F-02N																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	—	EL 22276mm以上 EL 22276mm以上																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																																					
<p>チ(1)(vi)b.-⑦)チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン</p> <p>チ(1)(vi)b.-⑧) (へ, (5), (vi) 中央制御室と兼用)</p> <p>台数 1 (予備1)</p> <p>容量 約 32,000m³/h/台</p>	<p>第8.2-2表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様</p> <p>(1) 中央制御室換気系</p> <p>b. チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン</p> <p>第8.2-1表 換気空調設備の主要仕様に記載する。</p> <p>第8.2-1表 換気空調設備の主要仕様</p> <p>(3) 中央制御室換気系</p> <p>b. チャコール・フィルタ・ブースタ・ファン</p> <p>台数 1 (予備1)</p> <p>容量 約32,000m³/h/台</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td colspan="2">中央制御室非常用再循環送風機</td> <td colspan="2">チ(1)(vi)b.-⑦</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td colspan="2">遠心式</td> <td colspan="2">チ(1)(vi)b.-⑦</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量^{*1}</td> <td colspan="2">m³/h/個 32000以上 (32000^{*2})</td> <td colspan="2">チ(1)(vi)b.-⑦</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">送風機</td> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>1040^{*2, *4}</td> <td rowspan="4">変更なし</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>923^{*2, *4}×832^{*2, *4}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>1807^{*2}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>2696^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">風</td> <td rowspan="2">個</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1740^{*2}</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">機</td> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>A-中 中央制御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系)^{*3}</td> <td>御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系)^{*3}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>廃棄物処理建物 EL 22100mm^{*3}</td> <td>廃棄物処理建物 EL 22100mm^{*3}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>RW-2F-01N RW-2F-01N</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>EL 25785mm以上 EL 25785mm以上</td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後		名	称	中央制御室非常用再循環送風機		チ(1)(vi)b.-⑦		種	類	遠心式		チ(1)(vi)b.-⑦		容	量 ^{*1}	m ³ /h/個 32000以上 (32000 ^{*2})		チ(1)(vi)b.-⑦		送風機	主要寸法	吸込口径	mm	1040 ^{*2, *4}	変更なし	吐出口径	mm	923 ^{*2, *4} ×832 ^{*2, *4}	たて	mm	1807 ^{*2}	横	mm	2696 ^{*2}	風	個	高さ	mm	1740 ^{*2}	変更なし	数	—	2	機	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-中 中央制御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系) ^{*3}	御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系) ^{*3}	設置床	—	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}	溢水防護上の区画番号	—	—	—	RW-2F-01N RW-2F-01N			溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	EL 25785mm以上 EL 25785mm以上	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-⑦)は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-⑦)と同義であり、整合している。 「中央制御室非常用再循環送風機」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)b.-⑧)を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-⑨)は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-⑨)と同義であり、整合している。 	
		変更前		変更後																																																																					
名	称	中央制御室非常用再循環送風機		チ(1)(vi)b.-⑦																																																																					
種	類	遠心式		チ(1)(vi)b.-⑦																																																																					
容	量 ^{*1}	m ³ /h/個 32000以上 (32000 ^{*2})		チ(1)(vi)b.-⑦																																																																					
送風機	主要寸法	吸込口径	mm	1040 ^{*2, *4}	変更なし																																																																				
		吐出口径	mm	923 ^{*2, *4} ×832 ^{*2, *4}																																																																					
		たて	mm	1807 ^{*2}																																																																					
		横	mm	2696 ^{*2}																																																																					
風	個	高さ	mm	1740 ^{*2}	変更なし																																																																				
		数	—	2																																																																					
機	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	A-中 中央制御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系) ^{*3}	御室非常用再循環送風機 (中央制御室空調換気系) ^{*3}																																																																				
		設置床	—	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}	廃棄物処理建物 EL 22100mm ^{*3}																																																																				
		溢水防護上の区画番号	—	—	—	RW-2F-01N RW-2F-01N																																																																			
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	EL 25785mm以上 EL 25785mm以上																																																																				

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																													
<p>チ(1)(vi)b.-⑩非常用チャコール・フィルタ・ユニット チ(1)(vi)b.-⑪(へ、(5)、(vi)中央制御室と兼用)</p> <p>基数 1 粒子除去効率 99.9%以上 (チ(1)(vi)b.-⑫0.3μm以上の粒子) よう素除去効率 95%以上 (相対湿度 70%以下において)</p>	<p>第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様</p> <p>(1) 中央制御室換気系 c. 非常用チャコール・フィルタ・ユニット 兼用する設備は以下のとおり ・中央制御室（通常運転時等） ・中央制御室（重大事故等時）</p> <p>基数 1 チャコール・フィルタのベッド厚 約 50mm 粒子除去効率 99.9%以上 (0.3μm以上の粒子) よう素除去効率 95%以上 (相対湿度 70%以下において)</p>	<p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、効率、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>常設</p> <table border="1" data-bbox="1656 348 2718 835"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ</td> <td colspan="2">チ(1)(vi)b.-⑩</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="2">粒子用高効率フィルタ*1</td> <td colspan="2">チャコールフィルタ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">*2 効 率</td> <td>単 体</td> <td>%</td> <td>99.97以上*1 (0.3μm粒子)</td> <td colspan="2">96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)</td> </tr> <tr> <td>総 合</td> <td>%</td> <td>99.9以上*1 (0.3μm粒子)</td> <td colspan="2">95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">*1 主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td>800*2</td> <td colspan="2">チ(1)(vi)b.-⑫</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td>900*2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td>5000*3</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>7500*3</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>2450*3</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後		名称		中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ		チ(1)(vi)b.-⑩		種類		粒子用高効率フィルタ*1		チャコールフィルタ		*2 効 率	単 体	%	99.97以上*1 (0.3μm粒子)	96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)		総 合	%	99.9以上*1 (0.3μm粒子)	95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)		*1 主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	800*2	チ(1)(vi)b.-⑫		吐 出 口 径	mm	900*2			た て	mm	5000*3			横	mm	7500*3			高 さ	mm	2450*3			個 数			1			<p>変更なし</p>	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-⑩と同義であり、整合している。 「中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)b.-⑩を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)b.-⑫は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)b.-⑫と同義であり、整合している。
		変更前		変更後																																																													
名称		中央制御室非常用再循環処理装置フィルタ		チ(1)(vi)b.-⑩																																																													
種類		粒子用高効率フィルタ*1		チャコールフィルタ																																																													
*2 効 率	単 体	%	99.97以上*1 (0.3μm粒子)	96以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)																																																													
	総 合	%	99.9以上*1 (0.3μm粒子)	95以上 (相対湿度70%以下、温度30℃以下において)																																																													
*1 主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	800*2	チ(1)(vi)b.-⑫																																																													
	吐 出 口 径	mm	900*2																																																														
	た て	mm	5000*3																																																														
	横	mm	7500*3																																																														
	高 さ	mm	2450*3																																																														
個 数			1																																																														

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>中央制御室差圧計</p> <p>チ(1)(vi)b. -⑧ (へ、(5)、(vi) 中央制御室と兼用)...</p> <p>個 数 1</p> <p>c. 中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）</p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を動作させる場合に放出されるチ(1)(vi)c. -①放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室を正圧化し、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐために必要な換気空調設備として、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）を設ける。</p>	<p>d. 中央制御室差圧計</p> <p>兼用する設備は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央制御室（重大事故等時） <p>個 数 1</p> <p>測定範囲 0～200Pa</p> <p>8.2.4 主要設備</p> <p>(4) 中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）</p> <p>炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を動作させる場合に放出される放射性雲による運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室を正圧化し、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐために必要な換気空調設備として、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）を設ける。</p>	<p>【計測制御系統施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>(1) 中央制御室機能</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。また、待避室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、中央制御室内と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>2. 換気設備、生体遮蔽装置等</p> <p>2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷後に格納容器フィルタベント系を動作させる場合に放出されるチ(1)(vi)c. -①プルーム通過時に、運転員の被ばくを低減するため、中央制御室待避室には、遮蔽設備として、中央制御室遮蔽、中央制御室待避室遮蔽を設ける設計とする。中央制御室待避室は、中央制御室待避室正圧化装置（空気ポンペ）で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。</p>	<p>「中央制御室差圧計」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)b. -⑧を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「中央制御室機能」に整理しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)c. -①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)c. -①と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>待避室差圧計</p> <p>チ(1)(vi)c. -② (へ、(5)、(vi) 中央制御室と兼用)</p> <p>個 数 1</p>	<p>第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様</p> <p>(2) 中央制御室待避室</p> <p>a. 待避室差圧計</p> <p>兼用する設備は以下のとおり</p> <p>・中央制御室（重大事故等時）</p> <p>個 数 1</p> <p>測定範囲 0～200Pa</p>	<p>【計測制御系統施設】</p> <p>（要目表）</p> <p>2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能</p> <p>(1) 中央制御室機能</p> <p>e. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合においても中央制御室に運転員がとどまるため、中央制御室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、外気と中央制御室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。また、待避室差圧計（個数 1、計測範囲 0～200Pa）により、中央制御室内と中央制御室待避室との間が正圧化に必要な差圧を確保できていることを把握できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>「待避室差圧計」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)c. -②を設計及び工事の計画の「計測制御系統施設」のうち「中央制御室機能」に整理しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																		
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ） 空気ボンベ チ(1)(vi)c.-③(へ)(5)(vi)中央制御室と兼用</p> <p>本 数 15 (予備 35) 容 量 約 50L/本 充填圧力 約 19.6MPa [gage]</p>	<p>第 8.2-3 表 換気空調設備（重大事故等時）（可搬型）の 主要機器仕様</p> <p>(1) 中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ） 兼用する設備は以下のとおり。 ・中央制御室（重大事故等時）</p> <p>本 数 15 (予備 35) 容 量 約 50L/本 充填圧力 約 19.6MPa [gage]</p>	<p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>2. 換気設備(中央制御室, 緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの(非常用のものに限る。))並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気又は排気設備として設置するもの。一時的に設置する可搬型のものを除く。)に係る次の事項</p> <p>2.5 中央制御室空気供給系 (1) 容器(中央制御室, 緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。)の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <table border="1" data-bbox="1668 720 2377 1470"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td></td> <td>中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td></td> <td>一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容 量^{*1}</td> <td>ℓ/個</td> <td></td> <td>50.0 以上 (50.0^{*2})</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力^{*1}</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度^{*1}</td> <td>℃</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主 要 寸 法</td> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td>232^{*2}</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>1460^{*2}</td> </tr> <tr> <td>胴 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>5.6^{*2}</td> </tr> <tr> <td>法 底 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>11.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>クロムモリブデン鋼</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>15 (予備 35)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td>保管場所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに、 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。</p>			変更前	変 更 後	名 称			中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）	種 類	—		一般継目なし鋼製容器	容 量 ^{*1}	ℓ/個		50.0 以上 (50.0 ^{*2})	最 高 使 用 圧 力 ^{*1}	MPa		19.6	最 高 使 用 温 度 ^{*1}	℃		40	主 要 寸 法	外 径	mm	232 ^{*2}	高 さ	mm	1460 ^{*2}	胴 部 厚 さ	mm	5.6 ^{*2}	法 底 部 厚 さ	mm		11.2 ^{*2}	材 料	—	—	クロムモリブデン鋼	個 数	—		15 (予備 35)	取 付 箇 所	—		保管場所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに、 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm	<p>整合性</p> <p>・「中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)c.-③を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。</p>	
		変更前	変 更 後																																																			
名 称			中央制御室待避室正圧化装置（空気ボンベ）																																																			
種 類	—		一般継目なし鋼製容器																																																			
容 量 ^{*1}	ℓ/個		50.0 以上 (50.0 ^{*2})																																																			
最 高 使 用 圧 力 ^{*1}	MPa		19.6																																																			
最 高 使 用 温 度 ^{*1}	℃		40																																																			
主 要 寸 法	外 径	mm	232 ^{*2}																																																			
	高 さ	mm	1460 ^{*2}																																																			
	胴 部 厚 さ	mm	5.6 ^{*2}																																																			
法 底 部 厚 さ	mm		11.2 ^{*2}																																																			
材 料	—	—	クロムモリブデン鋼																																																			
個 数	—		15 (予備 35)																																																			
取 付 箇 所	—		保管場所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm 保管場所① 廃棄物処理建物 EL 約 22100mm 保管場所② 保管場所①に 15 個保管するとともに、 保管場所①, ②に 35 個を分散して保管する。 取付箇所： 廃棄物処理建物 EL 約 16900mm																																																			

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>d. 緊急時対策所換気空調設備</p> <p><u>チ(1)(vi)d. -①緊急時対策所の緊急時対策所換気空調設備は、重大事故等時において、緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するため適切な換気設計を行い、緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所遮蔽の性能とあいまって、居住性に係る判断基準である緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。なお、緊急時対策所換気空調設備の設計にあたっては、緊急時対策所の建物の気密性に対して十分な余裕を考慮した設計とする。また、緊急時対策所外の火災により発生するばい煙又は有毒ガスに対する換気設備の隔離及びその他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</u></p> <p><u>緊急時対策所の緊急時対策所換気空調設備として、差圧計を設置し、緊急時対策所空気浄化送風機、緊急時対策所空気浄化フィルタユニット及びチ(1)(vi)d. -②緊急時対策所正圧化装置（空気ポンペ）を保管する設計とする。</u></p>	<p>(7) 緊急時対策所換気空調設備</p> <p><u>緊急時対策所換気空調設備は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所の気密性及び緊急時対策所遮蔽の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が7日間で100mSvを超えない設計とする。</u></p> <p><u>緊急時対策所の緊急時対策所換気空調設備として、緊急時対策所空気浄化送風機、緊急時対策所空気浄化フィルタユニット、緊急時対策所正圧化装置（空気ポンペ）及び差圧計を設置及び保管する設計とする。</u></p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 2. 換気設備、生体遮蔽装置等 2.1 中央制御室及び緊急時対策所の居住性を確保するための防護措置 <中略> 緊急時対策所遮蔽は、緊急時対策所の気密性及びチ(1)(vi)d. -①a 緊急時対策所換気空調系の機能とあいまって、緊急時対策所にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えない設計とする。 <中略></p> <p>2.2 換気設備 2.2.2 緊急時対策所換気空調系 緊急時対策所換気空調系の設備として、緊急時対策所の居住性を確保するため、緊急時対策所空気浄化送風機、緊急時対策所空気浄化フィルタユニット、チ(1)(vi)d. -②空気ポンペ加圧設備（空気ポンペ）及び差圧計を保管する設計とする。空気ポンペ加圧設備（空気ポンペ）は、プルーム通過時において、緊急時対策所を正圧化し、希ガスを含む放射性物質の侵入を防止するとともに、酸素濃度及び二酸化炭素濃度を活動に支障がない範囲に維持するために必要な容量を保管する設計とする。</p> <p>チ(1)(vi)d. -①b 緊急時対策所換気空調系は、緊急時対策所の建物の気密性に対して十分な余裕を考慮した設計とする。</p> <p>また、緊急時対策所外の火災により発生するばい煙又は有毒ガス及び降下火砕物に対する換気設備の隔離及びその他の適切に防護するための設備を設ける設計とする。</p> <p>緊急時対策所換気空調系は、基準地震動S_sによる地震力に対し、機能を喪失しないようにするとともに緊急時対策所の気密性とあいまって緊急時対策所の居住性に係る判断基準を満足する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)d. -①a及びチ(1)(vi)d. -①bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)d. -①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(1)(vi)d. -②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)d. -②を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>[常設重大事故等対処設備]</p> <p>差圧計</p> <p>チ(1)(vi)d.-②(又、(3)、(vi)緊急時対策所と兼用)</p> <p>個 数 1</p>	<p>第 8.2-2 表 換気空調設備（重大事故等時）（常設）の主要機器仕様</p> <p>(3) 緊急時対策所換気空調設備</p> <p>a. 差圧計</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <p>・緊急時対策所（重大事故等時）</p> <p>個 数 1</p> <p>測定範囲 0～500Pa</p>	<p>【緊急時対策所】 （基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>1. 緊急時対策所</p> <p>1.1 緊急時対策所の設置等</p> <p>1.1.2 設計方針</p> <p>(4) 緊急時対策所の機能の確保</p> <p>a. 居住性の確保</p> <p>緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員に加え、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含め、重大事故等に対処するために必要な数の要員を収容することができるとともに、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとどまることができるよう、適切な遮蔽設計及び換気設計を行い緊急時対策所の居住性を確保する。</p> <p>【緊急時対策所】 （基本設計方針）</p> <p>第 2 章 個別項目</p> <p>1. 緊急時対策所</p> <p>1.1 緊急時対策所の設置等</p> <p>1.1.2 設計方針</p> <p>(4) 緊急時対策所の機能の確保</p> <p>a. 居住性の確保</p> <p><中略></p> <p>差圧計（個数 1，計測範囲 0～500Pa）は、緊急時対策所の正圧化された室内と周辺エリアとの差圧範囲を監視できる設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>「差圧計」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)d.-②を設計及び工事の計画の「緊急時対策所」のうち「基本設計方針」に整理しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																			
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>緊急時対策所空気浄化送風機</p> <p>チ(1)(vi)d.-③(又、(3),(vi) 緊急時対策所と兼用)</p> <p>台 数 1 (予備2)</p> <p>容 量 チ(1)(vi)d.-④約1,500m³/h/台</p>	<p>第8.2-3表 換気空調設備（重大事故等時）（可搬型）の主要機器仕様</p> <p>(2) 緊急時対策所換気空調設備</p> <p>a. 緊急時対策所空気浄化送風機</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <p>・緊急時対策所（重大事故等時）</p> <p>台 数 1 (予備2)</p> <p>容 量 約1,500m³/h/台</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>2. 換気設備(中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置するもの（非常用のものに限る。）並びに放射性物質により汚染された空気による放射線障害を防止する目的で給気又は排気設備として設置するもの。一時的に設置する可搬型のものを除く。)に係る次の事項</p> <p>(4) 送風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）並びに設計上の空気の流入率</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1665 667 2472 1482"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">送風機</td> <td>名 称</td> <td></td> <td>緊急時対策所空気浄化送風機</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">種 類</td> <td></td> <td>遠心式</td> </tr> <tr> <td>容 量*1</td> <td>m³/h/個</td> <td>958以上(1500*2) チ(1)(vi)d.-④</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td>□*2,*3</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td>□*2,*3×□*2,*3</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td>□*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>□*2</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>□*2</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1(予備2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原 動 機</td> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>三相誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td>5.5*2</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1(予備2)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td colspan="2"> 保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 第1保管エリアに2台保管するとともに、第4保管エリアに1台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近 </td> </tr> <tr> <td>設計上の空気の流入率</td> <td>回/h</td> <td colspan="2">なし（正圧管理のため）</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：内面の寸法を示す。</p>			変更前	変更後	送風機	名 称		緊急時対策所空気浄化送風機	種 類		遠心式	容 量*1	m ³ /h/個	958以上(1500*2) チ(1)(vi)d.-④	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	□*2,*3	吐 出 口 径	mm	□*2,*3×□*2,*3	た て	mm	□*2	横	mm	□*2	高 さ	mm	□*2	個 数	—	1(予備2)	原 動 機	種 類	—	三相誘導電動機	出 力	kW/個	5.5*2	個 数	—	1(予備2)	取 付 箇 所	—	保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 第1保管エリアに2台保管するとともに、第4保管エリアに1台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近		設計上の空気の流入率	回/h	なし（正圧管理のため）		<p>整合性</p> <p>・「緊急時対策所空気浄化送風機」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)d.-③を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。</p> <p>・設計及び工事の計画のチ(1)(vi)d.-④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)d.-④と同義であり、整合している。</p>	
		変更前	変更後																																																				
送風機	名 称		緊急時対策所空気浄化送風機																																																				
	種 類		遠心式																																																				
		容 量*1	m ³ /h/個	958以上(1500*2) チ(1)(vi)d.-④																																																			
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	□*2,*3																																																			
		吐 出 口 径	mm	□*2,*3×□*2,*3																																																			
		た て	mm	□*2																																																			
		横	mm	□*2																																																			
高 さ	mm	□*2																																																					
個 数	—	1(予備2)																																																					
原 動 機	種 類	—	三相誘導電動機																																																				
	出 力	kW/個	5.5*2																																																				
	個 数	—	1(予備2)																																																				
取 付 箇 所	—	保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4保管エリア 第1保管エリアに2台保管するとともに、第4保管エリアに1台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近																																																					
設計上の空気の流入率	回/h	なし（正圧管理のため）																																																					

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																										
<p>緊急時対策所空気浄化フィルタユニット <u>チ(1)(vi)d.-⑤</u>（ス、(3)、(vi) 緊急時対策所と兼用）</p> <p>型式 <u>チ(1)(vi)d.-⑥</u>横型 基数 <u>1</u>（予備2） 容量 <u>チ(1)(vi)d.-④</u>約1,500m³/h/基 効率 単体除去効率 <u>99.97%以上（0.15μm粒子）</u> / <u>95%以上（有機よう素）、99%以上（無機よう素）</u> 総合除去効率 <u>99.99%以上（0.7μm粒子）</u> / <u>99.75%以上（有機よう素）、99.99%以上（無機よう素）</u></p>	<p>b. 緊急時対策所空気浄化フィルタユニット 兼用する設備は以下のとおり。 ・緊急時対策所（重大事故等時）</p> <p>型式 <u>粒子用フィルタ</u> / <u>よう素用フィルタ</u> 基数 <u>1</u>（予備2） 容量 <u>約1,500m³/h/基</u> 効率 単体除去効率 <u>99.97%以上（0.15μm粒子）</u> / <u>95%以上（有機よう素）、99%以上（無機よう素）</u> 総合除去効率 <u>99.99%以上（0.7μm粒子）</u> / <u>99.75%以上（有機よう素）、99.99%以上（無機よう素）</u></p>	<p>(6) フィルター（公衆の放射線障害の防止及び中央制御室の従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、効率、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1673 415 2525 1327"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">名称</td> <td>緊急時対策所空気浄化フィルタユニット</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>粒子用フィルタ</td> <td>よう素用フィルタ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">効 率</td> <td>単 体*1</td> <td><u>99.97 以上*2</u> (0.15μm粒子)</td> <td><u>95 以上*2</u> (有機よう素) <u>99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)</td> </tr> <tr> <td>総 合*1</td> <td><u>99.99 以上*2</u> (0.7μm粒子)</td> <td><u>99.75 以上*2</u> (有機よう素) <u>99.99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主 要 寸 法</td> <td>吸 込 口 径</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*2、*3</td> </tr> <tr> <td>吐 出 口 径</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*2、*3</td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*2</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td><input type="checkbox"/>*2</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td><u>1</u>(予備2)</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td>保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 2 台保管するとともに、第 4 保管エリアに 1 台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 5000mm 緊急時対策所付近</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。 *3：内面の寸法を示す。</p>			変更前	変更後	名称	緊急時対策所空気浄化フィルタユニット			種類	粒子用フィルタ	よう素用フィルタ	効 率	単 体*1	<u>99.97 以上*2</u> (0.15μm粒子)	<u>95 以上*2</u> (有機よう素) <u>99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)	総 合*1	<u>99.99 以上*2</u> (0.7μm粒子)	<u>99.75 以上*2</u> (有機よう素) <u>99.99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	<input type="checkbox"/> *2、*3	吐 出 口 径	mm	<input type="checkbox"/> *2、*3	た て	mm	<input type="checkbox"/> *2	横	mm	<input type="checkbox"/> *2	高 さ	mm	<input type="checkbox"/> *2	個 数	—		<u>1</u> (予備2)	取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 2 台保管するとともに、第 4 保管エリアに 1 台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 5000mm 緊急時対策所付近	<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 「緊急時対策所空気浄化フィルタユニット」は、設置変更許可申請書（本文（五号））における<u>チ(1)(vi)d.-⑤</u>を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(vi)d.-⑥</u>は、設計及び工事の計画の「第7-2-3-4-3 図緊急時対策所空気浄化フィルタユニット構造図」であり、整合している。 設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(1)(vi)d.-④</u>は、設計及び工事の計画の<u>チ(1)(vi)d.-④</u>の緊急時対策所空気浄化送風機の容量と同じであり、整合している。 	
		変更前	変更後																																											
名称	緊急時対策所空気浄化フィルタユニット																																													
	種類	粒子用フィルタ	よう素用フィルタ																																											
効 率	単 体*1	<u>99.97 以上*2</u> (0.15μm粒子)	<u>95 以上*2</u> (有機よう素) <u>99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)																																											
	総 合*1	<u>99.99 以上*2</u> (0.7μm粒子)	<u>99.75 以上*2</u> (有機よう素) <u>99.99 以上*2</u> (無機よう素) (相対湿度 95%、温度 30℃において)																																											
主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	<input type="checkbox"/> *2、*3																																											
	吐 出 口 径	mm	<input type="checkbox"/> *2、*3																																											
	た て	mm	<input type="checkbox"/> *2																																											
	横	mm	<input type="checkbox"/> *2																																											
	高 さ	mm	<input type="checkbox"/> *2																																											
個 数	—		<u>1</u> (予備2)																																											
取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 2 台保管するとともに、第 4 保管エリアに 1 台を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 5000mm 緊急時対策所付近																																											

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																														
<p>チ(1)(vi)d.-⑦緊急時対策所正圧化装置（空気ポンベ） チ(1)(vi)d.-⑧（ヌ、(3)、(vi) 緊急時対策所と兼用）</p> <p>本 数 454（予備 86） 容 量 約 50L/本 充填圧力 約 19.6MPa[gage]</p>	<p>c. 緊急時対策所正圧化装置（空気ポンベ） 兼用する設備は以下のとおり。 ・緊急時対策所（重大事故等時）</p> <p>本 数 454（予備 86） 容 量 約 50L/本 充填圧力 約 19.6MPa [gage]</p>	<p>2.6 緊急時対策所換気空調系 (1) 容器（中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。）の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）</p> <p>可搬型</p> <table border="1" data-bbox="1668 447 2540 1272"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th colspan="2">変 更 後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">空気ポンベ加圧設備（空気ポンベ）</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td></td> <td colspan="2">一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容 量^{*1}</td> <td>ℓ/個</td> <td></td> <td colspan="2">50.0 以上 (50.0^{*2})</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力^{*1}</td> <td>MPa</td> <td></td> <td colspan="2">19.6</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度^{*1}</td> <td>℃</td> <td></td> <td colspan="2">40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td colspan="2">232^{*2}</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td colspan="2">1460^{*2}</td> </tr> <tr> <td>胴 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>5.6^{*2}</td> <td>5.7^{*2}</td> </tr> <tr> <td>底 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>11.2^{*2}</td> <td>11.4^{*2}</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>—</td> <td></td> <td colspan="2">クロムモリブデン鋼</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td colspan="2">454（予備 86）</td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>—</td> <td></td> <td colspan="2"> 保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 454 個保管するとともに、第 1 保管エリア及び第 4 保管エリアに 86 個を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近 </td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：重大事故等時における使用時の値 *2：公称値を示す。</p>			変更前	変 更 後		名 称			空気ポンベ加圧設備（空気ポンベ）		種 類	—		一般継目なし鋼製容器		容 量 ^{*1}	ℓ/個		50.0 以上 (50.0 ^{*2})		最 高 使 用 圧 力 ^{*1}	MPa		19.6		最 高 使 用 温 度 ^{*1}	℃		40		主 要 寸 法	外 径	mm	232 ^{*2}		高 さ	mm	1460 ^{*2}		胴 部 厚 さ	mm	5.6 ^{*2}	5.7 ^{*2}	底 部 厚 さ	mm	11.2 ^{*2}	11.4 ^{*2}	材 料	—		クロムモリブデン鋼		個 数	—		454（予備 86）		取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 454 個保管するとともに、第 1 保管エリア及び第 4 保管エリアに 86 個を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近		<p>チ(1)(vi)d.-⑦</p>	
		変更前	変 更 後																																																															
名 称			空気ポンベ加圧設備（空気ポンベ）																																																															
種 類	—		一般継目なし鋼製容器																																																															
容 量 ^{*1}	ℓ/個		50.0 以上 (50.0 ^{*2})																																																															
最 高 使 用 圧 力 ^{*1}	MPa		19.6																																																															
最 高 使 用 温 度 ^{*1}	℃		40																																																															
主 要 寸 法	外 径	mm	232 ^{*2}																																																															
	高 さ	mm	1460 ^{*2}																																																															
	胴 部 厚 さ	mm	5.6 ^{*2}	5.7 ^{*2}																																																														
	底 部 厚 さ	mm	11.2 ^{*2}	11.4 ^{*2}																																																														
材 料	—		クロムモリブデン鋼																																																															
個 数	—		454（予備 86）																																																															
取 付 箇 所	—		保管場所： 屋外 EL 約 50000mm 第 1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第 4 保管エリア 第 1 保管エリアに 454 個保管するとともに、第 1 保管エリア及び第 4 保管エリアに 86 個を分散して保管する。 取付箇所： 屋外 EL 約 50000mm 緊急時対策所付近																																																															
		<p>整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計及び工事の計画のチ(1)(vi)d.-⑦は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(1)(vi)d.-⑦と同義であり、整合している。 「空気ポンベ加圧設備（空気ポンベ）」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(1)(vi)d.-⑧を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「換気設備」に整理しており、整合している。 																																																																

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(2) 屋外管理用の主要な設備の種類</p> <p>チ(2)-①発電用原子炉施設には、通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、発電所外へ放出する放射性物質の濃度、発電所敷地内外の放射線等を監視するためにチ(2)-②排気筒モニタ、液体廃棄物処理系排水モニタ（1号及び2号炉共用、既設）、チ(2)-③敷地境界付近固定モニタリング設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）、放射能観測車（1号、2号及び3号炉共用、既設）及び気象観測設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）を設ける。</p>	<p>8. 放射線管理施設</p> <p>8.1 放射線管理設備</p> <p>8.1.1 通常運転時等</p> <p>8.1.1.4 主要設備</p> <p>8.1.1.4.3 放射線監視設備</p> <p>(1) プロセス放射線モニタリング設備</p> <p>プロセス放射線モニタは、連続的に放射線を測定し、中央制御室、廃棄物処理制御室又はサイトバンカ建物制御室で記録、指示を行い、放射線レベルがあらかじめ設定した値をこえたときは警報を発する。</p> <p>主なプロセス放射線モニタとして次のものがあり、その配置図を第8.1-1図に示す。</p> <p>b. 排気筒モニタ</p> <p>排気筒から放出する気体廃棄物の監視を行う。検出器にはNaIシンチレータ及び電離箱を使用する。また、サンプリング用のよう素フィルタ及び粒子フィルタ並びにトリチウム捕集装置を設けて放射性よう素、粒子状放射性物質及びトリチウムを連続的に捕集し、定期的に回収、測定する。</p> <p>1. 液体廃棄物処理系排水モニタ（1号炉と共用、一部既設）</p> <p>液体廃棄物処理設備の排水中の放射線レベルの監視を行う。検出器にはNaIシンチレータを使用する。</p> <p>(3) 環境モニタリング設備（1号、2号及び3号炉共用、既設）</p> <p>発電所敷地周辺の放射線監視設備として次のものを設ける。</p> <p>a. 固定モニタリング設備</p> <p>周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリングポスト6台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリングポイントを設定し、蛍光ガラス線量計を配置する。</p> <p><中略></p> <p>c. 放射能観測車</p> <p>事故時等に発電所敷地周辺の空間放射線量率及び空气中の放射性物質の濃度を迅速に測定するために、γ線サーベイ・メータ、ダスト・サンプラ及びよう素サンプラ等を</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>（基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>発電所外へ放出する放射性物質の濃度、チ(2)-①周辺監視区域境界付近の空間線量率等を監視するために、チ(2)-②プロセスモニタリング設備、固定式周辺モニタリング設備及び移動式周辺モニタリング設備を設ける設計とする。また、風向、風速その他の気象条件を測定するため、環境測定装置を設ける設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.3 固定式周辺モニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の空間線量率を監視及び測定するための固定式周辺モニタリング設備としてチ(2)-③モニタリングポスト（「1号機設備、1、2、3号機共用」（以下同じ。））を設け、中央制御室及び緊急時対策所に計測結果を表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p>通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度を計測するための移動式周辺モニタリング設備として、空气中の放射性粒子及び放射性よう素の濃度を測定するサンプラと測定器を備えた放射能観測車（「1号機設備、1、2、3号機共用、屋内に保管」（以下同じ。））を設け、測定結果を表示し、記録し、及び保存できる設計とする。</p> <p>ただし、放射能観測車による断続的な試料の分析は、従事者が測定結果を記録し、及びこれを保存し、その記録を確認することをもって、これに代えるものとする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)-①は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-①と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)-②は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-②を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)-③は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-③を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
	<p>搭載した無線通話装置付の放射能観測車を備える。</p> <p>d. 気象観測設備 放射性気体廃棄物の放出管理及び発電所周辺の一般公衆の線量評価並びに一般気象データ収集のため、発電所敷地内で風向、風速、日射量、放射収支量等を測定及び記録する設備を設ける。</p> <p>6. 計測制御系統施設 6.10 制御室 6.10.1 通常運転時等 6.10.1.4 主要設備 6.10.1.4.1 中央制御室 a. 監視カメラ 想定される自然現象等（地震、津波、風（台風）、竜巻、降水、積雪、落雷、地滑り・土石流、火山の影響、森林火災、飛来物（航空機落下）、近隣工場等の火災、船舶の衝突）の影響について、昼夜にわたり発電所構内の状況（海側、山側）を把握することができる暗視機能等を持った監視カメラを設置する。 b. 気象観測設備等の設置 風（台風）、竜巻、凍結、降水等による発電所構内の状況を把握するため、風向、風速、気温、降水量等を測定する気象観測設備を設置する。また、津波及び高潮については、津波監視設備として取水槽水位計を設置する。</p>	<p>1.1.5 環境測定装置 周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度は、試料採取設備により断続的に試料を採取し分析を行い、測定結果を記録し、及び保存する。 放射性気体廃棄物の放出管理、発電所周辺の一般公衆の線量評価、一般気象データ収集及び発電用原子炉施設の外部の状況を把握するための気象観測設備（「1, 2, 3号機共用, 1号機に設置」（以下同じ。））を設け、計測結果を中央制御室に表示できる設計とする。また、発電所敷地内における風向及び風速の計測結果を記録し、及び保存できる設計とする。 <中略> 【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものにあつては次の事項 （1）中央制御室機能 2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 c. 外部状況把握 発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため、津波監視カメラ（浸水防護施設の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。））、構内監視カメラ（このうちガスタービン発電機建物屋上に設置する構内監視カメラについては、原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。））、風向、風速その他の気象条件を測定する気象観測設備（「1, 2及び3号機共用」（以下同じ。））を設置し、津波監視カメラ及び構内監視カメラの映像、気象観測設備のパラメータ及び公的機関からの地震、津波、竜巻情報等の入手により中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。 津波監視カメラ及び構内監視カメラは暗視機能等を持ち、中央制御室にて遠隔操作することにより、発電所構内の周辺状況（海側及び山側）を昼夜にわたり把握できる設計とする。 なお、津波監視カメラは、地震荷重等を考慮し必要な強度を有する設計とするとともに、代替交流電源設備から給電できる設計とする。</p>		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>チ(2)－④排気筒モニタ、液体廃棄物処理系排水モニタ並びに敷地境界付近固定モニタリング設備のうちモニタリング・ポストについては、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室及び緊急時対策所に表示できる設計とする。</p> <p>モニタリング・ポストは、チ(2)－⑤非常用所内電源に接続し、電源復旧までの期間、電源を供給できる設計とする。</p> <p>さらに、モニタリング・ポストは、専用の無停電電源装置及び非常用発電機を有し、電源切替時の短時間の停電時に電源を供給できる設計とする。なお、無停電電源装置及び非常用発電機による給電状態は中央制御室で確認することができる。</p>	<p>8. 放射線管理施設 8.1 放射線管理設備 8.1.1 通常運転時等 8.1.1.4 主要設備 8.1.1.4.3 放射線監視設備 (3) 環境モニタリング設備（1号、2号及び3号炉共用、既設） 発電所敷地周辺の放射線監視設備として次のものを設ける。 a. 固定モニタリング設備 周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリング・ポスト6台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリングポイントを設定し、蛍光ガラス線量計を配置する。</p> <p>モニタリング・ポストは、非常用所内電源に接続し、電源復旧までの期間、電源を供給できる設計とする。</p> <p>さらに、モニタリング・ポストは、専用の無停電電源装置及び非常用発電機を有し、停電時に電源を供給できる設計とする。なお、無停電電源装置及び非常用発電機による給電状態は中央制御室で確認することができる。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 <中略></p> <p>チ(2)－④プロセスモニタリング設備、エリアモニタリング設備及び固定式周辺モニタリング設備については、設計基準事故時における迅速な対応のために必要な情報を中央制御室及び緊急時対策所に表示できる設計とする。 <中略></p> <p>1.1.3 固定式周辺モニタリング設備 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の空間線量率を監視及び測定するための固定式周辺モニタリング設備としてモニタリングポスト（「1号機設備、1、2、3号機共用」（以下同じ。））を設け、チ(2)－⑦中央制御室及び緊急時対策所に計測結果を表示できる設計とする。また、計測結果を記録し、及び保存できる設計とする。 モニタリングポストは、チ(2)－⑤外部電源が使用できない場合においても、非常用所内電源により、空間線量率を計測することができる設計とする。</p> <p>さらに、モニタリングポストは、専用の無停電電源装置及び非常用発電機を有し、電源切替時の短時間の停電時に電源を供給できる設計とし、重大事故等が発生した場合には、非常用所内電源に加えて、代替電源設備である常設代替交流電源設備から給電できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)－④は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－④を全て含んでおり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)－⑤は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)－⑤と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号））の「給電状態の確認」は、設置許可のみの要求事項であり、本設工認の対象外である。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>モニタリング・ポストから中央制御室及び中央制御室から緊急時対策所^{チ(2)-⑥}までのデータ伝送系は、多様性を有する設計とする。^{チ(2)-⑦}指示値は、中央制御室で監視及び記録を行うことができる設計とする。また、緊急時対策所でも監視することができる設計とする。</p> <p>モニタリング・ポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室に警報を^{チ(2)-⑧}発する設計とする。</p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために^{チ(2)-⑨}必要な重大事故等対処設備を保管する。重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。</p>	<p>モニタリング・ポストで測定したデータの伝送系は、モニタリング・ポスト設置場所から中央制御室及び中央制御室から緊急時対策所間において有線系回線及び無線系回線により多様性を有し、指示値は、中央制御室で監視、記録を行うことができる。また、緊急時対策所でも監視することができる。</p> <p>モニタリング・ポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室に警報を発信する設計とする。</p> <p>8.1.2 重大事故等時 8.1.2.1 概要</p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために必要な重大事故等対処設備を保管する。</p> <p><中略></p>	<p>モニタリングポストで計測したデータの伝送系は、モニタリングポスト^{チ(2)-⑥}設置場所から中央制御室及び中央制御室から緊急時対策所間において有線系回線又は無線系回線により多様性を有する設計とする。</p> <p>モニタリングポストは、その測定値が設定値以上に上昇した場合、直ちに中央制御室に警報を^{チ(2)-⑧}発信する設計とする。</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置 <中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために、^{チ(2)-⑨}移動式周辺モニタリング設備を保管する設計とする。</p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するために、環境測定装置を保管する設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画の^{チ(2)-⑥}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(2)-⑥}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{チ(2)-⑦}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(2)-⑦}と文章表現は異なるが、内容に相違はないため整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{チ(2)-⑧}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(2)-⑧}と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の^{チ(2)-⑨}は、設置変更許可申請書（本文（五号））の^{チ(2)-⑨}を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、<u>チ(2)⑩</u>及び測定し、並びにその結果を記録するための設備として、<u>可搬式モニタリング・ポスト、放射能測定装置及び小型船舶を設ける。</u></p> <p><u>モニタリング・ポストが機能喪失した場合にその機能を代替するチ(2)⑪重大事故等対処設備として、可搬式モニタリング・ポストは、重大事故等が発生した場合に、チ(2)⑫発電所敷地境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とし、モニタリング・ポストを代替し得る十分な個数を保管する。</u></p>	<p>8.1.2.2 設計方針</p> <p>(1) 放射性物質の濃度及び放射線量の測定に用いる設備</p> <p>a. 可搬式モニタリング・ポストによる放射線量の測定及び代替測定</p> <p><中略></p> <p>主要な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬式モニタリング・ポスト <p><中略></p> <p>c. 放射能測定装置等による放射性物質の濃度及び放射線量の測定</p> <p><u>重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を測定するための重大事故等対処設備として、放射能測定装置及び小型船舶を使用する。</u></p> <p>a. 可搬式モニタリング・ポストによる放射線量の測定及び代替測定</p> <p><中略></p> <p><u>モニタリング・ポストが機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬式モニタリング・ポストを使用する。可搬式モニタリング・ポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所敷地境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とし、モニタリング・ポストを代替し得る十分な個数を保管する。</u></p>	<p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p><u>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を監視するためのチ(2)⑩移動式周辺モニタリング設備として使用するNaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータ、α・β線サーベイメータ及び電離箱サーベイメータを設け、測定結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、可搬式ダスト・よう素サンプラ（個数2（予備1））及び小型船舶（個数1（予備1））を保管する設計とする。</u></p> <p><中略></p> <p><u>モニタリングポストが機能喪失した場合にその機能を代替するチ(2)⑪移動式周辺モニタリング設備として使用する可搬式モニタリングポストを設け、重大事故等が発生した場合に、チ(2)⑫周辺監視区域境界付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。</u></p> <p>可搬式モニタリングポストの記録は、電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われず、必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>可搬式モニタリングポストは、<u>モニタリングポストを代替し得る十分な個数を保管する設計とする。また、指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所でデータ表示装置（可搬式モニタリングポスト用）にて監視できる設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)⑩</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)⑩</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)⑪</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)⑪</u>を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)⑫</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)⑫</u>と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>また、可搬式モニタリング・ポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び緊急時対策所付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。</p> <p>可搬式モニタリング・ポストの指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所で監視できる設計とする。</p> <p>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素モニタ又はダストモニタが機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、<u>チ(2)－⑬</u>放射能測定装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する。</p>	<p>また、可搬式モニタリング・ポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び緊急時対策所付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とする。</p> <p>可搬式モニタリング・ポストの指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所で監視できる設計とする。可搬式モニタリング・ポストで測定した放射線量は、電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われない設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p>可搬式モニタリング・ポストの電源は、蓄電池を使用する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>b. 放射能測定装置による空气中の放射性物質の濃度の代替測定</p> <p>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素モニタ又はダストモニタが機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、放射能測定装置（ダスト・よう素サンプラの代替として可搬式ダスト・よう素サンプラ、よう素モニタの代替としてNaIシンチレーション・サーベイ・メータ、ダストモニタの代替としてGM汚染サーベイ・メータ）を使用する。</p> <p>放射能測定装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する。</p> <p><中略></p>	<p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>可搬式モニタリングポストは、重大事故等が発生した場合に、発電所海側及び緊急時対策所付近において、発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる設計とするとともに、緊急時対策所内への希ガス等の放射性物質の浸入を低減又は防止するための確実な判断に用いる設計とする。</p> <p>可搬式モニタリングポストは、モニタリングポストを代替し得る十分な個数を保管する設計とする。また、指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所でデータ表示装置（可搬式モニタリングポスト用）にて監視できる設計とする。</p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>放射能観測車のダスト・よう素サンプラ、よう素モニタ又はダストモニタが機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として使用する<u>チ(2)－⑬</u>可搬式ダスト・よう素サンプラ、NaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータを設け、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中）を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、放射能観測車を代替し得る十分な個数を保管する設計とする。</p> <p><中略></p>	<p>設計及び工事の計画の<u>チ(2)－⑬</u>は、設置変更許可申請書（本文（五号））の<u>チ(2)－⑬</u>を具体的に記載しており、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>放射性物質の濃度及び放射線量を測定するための<u>チ(2)一⑭</u>重大事故等対処設備として、<u>放射能測定装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壌中）及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とする。発電所の周辺海域においては、小型船舶をチ(2)一⑮用いる設計とする。</u></p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するための設備として、可搬式気象観測装置を設ける。</p> <p>気象観測設備が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬式気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とする。</p>	<p>c. 放射能測定装置等による放射性物質の濃度及び放射線量の測定</p> <p>重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壌中）及び放射線量を測定するための重大事故等対処設備として、放射能測定装置及び小型船舶を使用する。</p> <p>放射能測定装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壌中）及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できるように測定値を表示する設計とする。発電所の周辺海域においては、小型船舶を用いる設計とする。</p> <p><中略></p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>(2) 風向、風速その他の気象条件の測定に用いる設備</p> <p>a. 可搬式気象観測装置による気象観測項目の代替測定</p> <p>気象観測設備が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として、可搬式気象観測装置を使用する。</p> <p>可搬式気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に、発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とし、気象観測設備を代替し得る十分な個数を保管する。</p>	<p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p><中略></p> <p>チ(2)一⑭a 重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するために、移動式周辺モニタリング設備を保管する設計とする。</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壌中）及び放射線量を監視するためのチ(2)一⑭b 移動式周辺モニタリング設備として使用するNa Iシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータ、$\alpha \cdot \beta$線サーベイメータ及び電離箱サーベイメータを設け、測定結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、可搬式ダスト・よう素サンプル（個数2（予備1））及び小型船舶（個数1（予備1））をチ(2)一⑮保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>これらの設備は、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損が発生した場合に放出されると想定される放射性物質の濃度及び放射線量を測定できる設計とする。</p> <p>1.1.5 環境測定装置</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録するための設備として、可搬式気象観測装置（個数1（予備1））を設ける設計とする。</p> <p>気象観測装置が機能喪失した場合にその機能を代替する重大事故等対処設備として使用する可搬式気象観測装置は、重大事故等が発生した場合に発電所において、風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる設計とする。</p> <p>可搬式気象観測装置の記録は、電磁的に記録、保存し、電源喪失により保存した記録が失われず、必要な容量を保</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)一⑭a及びチ(2)一⑭bは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)一⑭を具体的に記載しており、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)一⑮は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)一⑮と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p><u>可搬式気象観測装置の指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所で監視できる設計とする。</u></p> <p><u>モニタリング・ポストは、チ(2)-⑩非常用所内電源に接続しており、非常用所内電源が喪失した場合は、代替交流電源設備である常設代替交流電源設備から給電できる設計とする。</u></p> <p>常設代替交流電源設備については、ヌ、(2)、(iv) 代替電源設備に記載する。</p>	<p><u>可搬式気象観測装置の指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所で監視できる設計とする。</u></p> <p>可搬式気象観測装置で測定した風向、風速その他の気象条件は、電源喪失により保存した記録が失われないよう、電磁的に記録、保存する設計とする。また、記録は必要な容量を保存できる設計とする。</p> <p>可搬式気象観測装置の電源は、蓄電池を使用する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>(3) モニタリング・ポストの代替交流電源設備</p> <p><u>モニタリング・ポストは、非常用所内電源に接続しており、非常用所内電源が喪失した場合は、代替交流電源設備である常設代替交流電源設備から給電できる設計とする。</u></p> <p>主要な設備は、以下のとおりとする。</p> <p>・常設代替交流電源設備（10.2 代替電源設備）</p>	<p>存できる設計とする。</p> <p><u>可搬式気象観測装置の指示値は、衛星系回線により伝送し、緊急時対策所でデータ表示装置（可搬式気象観測装置用）にて監視できる設計とする。</u></p> <p>1.1.3 固定式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p><u>モニタリングポストは、チ(2)-⑩外部電源が使用できない場合においても、非常用所内電源により、空間線量率を計測することができる設計とする。さらに、モニタリングポストは、専用の無停電電源装置及び非常用発電機を有し、電源切替時の短時間の停電時に電源を供給できる設計とし、重大事故等が発生した場合には、非常用所内電源に加えて、代替電源設備である常設代替交流電源設備から給電できる設計とする。</u></p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)-⑩は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-⑩と同義であり、整合している。</p> <p>設置変更許可申請書（本文（五号）） 「ヌ、(2)、(iv)代替電源設備」に示す。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																								
<p>チ(2)-⑰排気筒モニタ 一式</p>	<p>8.1.1 通常運転時等 8.1.1.4.3 放射線監視設備 (1) プロセス放射線モニタリング設備 b. 排気筒モニタ 排気筒から放出する気体廃棄物の監視を行う。検出器にはNa Iシンチレータ及び電離箱を使用する。また、サンプリング用のよう素フィルタ及び粒子フィルタ並びにトリチウム捕集装置を設けて放射性よう素，粒子状放射性物質及びトリチウムを連続的に捕集し，定期的に回収，測定する。</p>	<p>【放射線管理施設】 (要目表) 1. 放射線管理用計測装置に係る次の事項（警報装置を有する場合は，その動作範囲を付記すること。） (1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項</p> <p><small>ハ 放射性物質により汚染するおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を計測する装置の名称，検出器の種類，計測範囲，取付箇所（常設及び可搬型の別を記載し，監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</small></p> <table border="1" data-bbox="1670 535 2594 1050"> <thead> <tr> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>名</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>名</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チ(2)-⑰a</td> <td>シンチレータ シオン</td> <td>10⁻²~10²Bq/h[※]</td> <td>10⁻²~10²Bq/h[※]</td> <td>チ(2)-⑰b</td> <td>シンチレータ シオン</td> <td>10⁻²~10²Bq/h[※]</td> <td>10⁻²~10²Bq/h[※]</td> </tr> <tr> <td>燃料取扱設備 放射線モニタ[※]</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻²~10αSv/h</td> <td>10⁻²~10αSv/h[※]</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉排気筒 放射線モニタ[※]</td> <td>半導体式</td> <td>10⁻²~1αSv/h</td> <td>10⁻²~1αSv/h[※]</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	変更前				変更後				名	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	チ(2)-⑰a	シンチレータ シオン	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	チ(2)-⑰b	シンチレータ シオン	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	燃料取扱設備 放射線モニタ [※]	半導体式	10 ⁻² ~10αSv/h	10 ⁻² ~10αSv/h [※]					原子炉排気筒 放射線モニタ [※]	半導体式	10 ⁻² ~1αSv/h	10 ⁻² ~1αSv/h [※]					<p>整合性 設計及び工事の計画のチ(2)-⑰a及びチ(2)-⑰bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-⑰を具体的に記載しており，整合している。</p>	
変更前				変更後																																								
名	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	名	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																					
チ(2)-⑰a	シンチレータ シオン	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	チ(2)-⑰b	シンチレータ シオン	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]	10 ⁻² ~10 ² Bq/h [※]																																					
燃料取扱設備 放射線モニタ [※]	半導体式	10 ⁻² ~10αSv/h	10 ⁻² ~10αSv/h [※]																																									
原子炉排気筒 放射線モニタ [※]	半導体式	10 ⁻² ~1αSv/h	10 ⁻² ~1αSv/h [※]																																									
<p>液体廃棄物処理系排水モニタ 一式</p>	<p>1. 液体廃棄物処理系排水モニタ（1号炉と共用，一部既設） 液体廃棄物処理設備の排水中の放射線レベルの監視を行う。検出器にはNa Iシンチレータを使用する。</p>		<p>設置変更許可申請書（本文（五号））において許可を受けた「液体廃棄物処理系排水モニタ」は，新規基準対応設備を申請範囲としている本設工認の対象外である。</p>																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																																														
<p>チ(2)-18 敷地境界付近固定モニタリング設備一式</p>	<p>(3) 固定モニタリング設備（1号，2号及び3号炉共用，既設）</p> <p>a. 固定モニタリング設備</p> <p>周辺監視区域境界付近に空間放射線量率の連続監視を行うためのモニタリング・ポスト6台及び空間放射線量測定のため適切な間隔でモニタリングポイントを設定し，蛍光ガラス線量計を配置する。</p> <p>モニタリング・ポストは，非常用所内電源に接続し，電源復旧までの期間，電源を供給できる設計とする。さらに，モニタリング・ポストは，専用の無停電電源装置及び非常用発電機を有し，停電時に電源を供給できる設計とする。</p> <p>モニタリング・ポストで測定したデータの伝送系は，モニタリング・ポスト設置場所から中央制御室及び中央制御室から緊急時対策所建物間において有線系回線及び無線系回線により多様性を有し，指示値は，中央制御室で監視，記録を行うことができる。また，緊急時対策所でも監視することができる。</p> <p>モニタリング・ポストは，その測定値が設定値以上に上昇した場合，直ちに中央制御室に警報を発信する設計とする。</p>	<p>【放射線管理施設】</p> <p>(要目表)</p> <p>2. 放射線管理用計測装置に係る次の事項（警報装置を有する場合は，その動作範囲を付記すること。）</p> <p>(3) 固定式周辺モニタリング設備の名称，検出器の種類，計測範囲，取付箇所（監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <table border="1" data-bbox="1656 464 2831 915"> <thead> <tr> <th colspan="5">変更前</th> <th colspan="5">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所*1</th> <th>個数</th> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> <th>取付箇所</th> <th>個数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">チ(2)-18a モニタリングポスト (1号機設備，1，2，3号機共用)*2</td> <td rowspan="2">NaI(Tl) シンチレーション</td> <td>10~10⁵ nGy/h</td> <td>10~10⁵ nGy/h</td> <td>系統名 (ライン名) 屋外 EL 約 54000mm EL 約 126000mm EL 約 147000mm EL 約 140000mm EL 約 109000mm EL 約 69000mm 発電所周辺監視区域境界付近 (監視・記録は中央制御室にて行う。)*3</td> <td>6*3</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>—*4</td> <td>—</td> <td>設置床</td> <td>—*1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>電離箱</td> <td>10~10⁵ nGy/h</td> <td>10~10⁵ nGy/h</td> <td>—</td> <td>6*3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書では「発電所周辺監視区域境界付近（監視記録部は中央制御室）各6」と記載 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書では「モニタリングポスト」と記載 *3：モニタリングポストは6箇所あり，モニタリングポスト1箇所あたりの検出器の個数は「1」である。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書では「(1~10⁵-1)×1，×10，×10²，×10³，×10⁴カウント(5レンジ切替式)」と記載 *5：モニタリングポストは，発電所周辺監視区域境界付近にほぼ等間隔に6箇所設置している。</p>	変更前					変更後					名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所*1	個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数	チ(2)-18a モニタリングポスト (1号機設備，1，2，3号機共用)*2	NaI(Tl) シンチレーション	10~10 ⁵ nGy/h	10~10 ⁵ nGy/h	系統名 (ライン名) 屋外 EL 約 54000mm EL 約 126000mm EL 約 147000mm EL 約 140000mm EL 約 109000mm EL 約 69000mm 発電所周辺監視区域境界付近 (監視・記録は中央制御室にて行う。)*3	6*3	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	—*4	—	設置床	—*1		電離箱	10~10 ⁵ nGy/h	10~10 ⁵ nGy/h	—	6*3					溢水防護上の 区画番号	—											溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	<p>チ(2)-18b</p>	<p>整合性</p> <p>・設計及び工事の計画のチ(2)-18a及びチ(2)-18bは，設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-18を具体的に記載しており，整合している。</p>
変更前					変更後																																																													
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所*1	個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数																																																							
チ(2)-18a モニタリングポスト (1号機設備，1，2，3号機共用)*2	NaI(Tl) シンチレーション	10~10 ⁵ nGy/h	10~10 ⁵ nGy/h	系統名 (ライン名) 屋外 EL 約 54000mm EL 約 126000mm EL 約 147000mm EL 約 140000mm EL 約 109000mm EL 約 69000mm 発電所周辺監視区域境界付近 (監視・記録は中央制御室にて行う。)*3	6*3	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし																																																							
		—*4	—	設置床	—*1																																																													
	電離箱	10~10 ⁵ nGy/h	10~10 ⁵ nGy/h	—	6*3					溢水防護上の 区画番号	—																																																							
										溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—																																																							

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>放射能観測車 チ(2)-⑱一式</p> <p>気象観測設備 チ(2)-⑳一式</p>	<p>c. 放射能観測車 事故時等に発電所敷地周辺の空間放射線量率及び空気中の放射性物質の濃度を迅速に測定するために、γ線サーベイ・メータ、ダスト・サンブラ及びよう素サンブラ等を搭載した無線通話装置付の放射能観測車を備える。</p> <p>d. 気象観測設備 放射性気体廃棄物の放出管理及び発電所周辺の一般公衆の線量評価並びに一般気象データ収集のため、発電所敷地内で風向、風速、日射量、放射収支量等を測定及び記録する設備を設ける。</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 1.1.4 移動式周辺モニタリング設備 通常運転時、運転時の異常な過渡変化時及び設計基準事故時において、周辺監視区域境界付近の放射性物質の濃度を計測するための移動式周辺モニタリング設備として、空气中の放射性粒子及び放射性よう素の濃度を測定するサンブラと測定器を備えた放射能観測車（「1号機設備、1, 2, 3号機共用、屋内に保管」（以下同じ。））チ(2)-⑱を設け、測定結果を表示し、記録し、及び保存できる設計とする。 ただし、放射能観測車による断続的な試料の分析は、従事者が測定結果を記録し、及びこれを保存し、その記録を確認することをもって、これに代えるものとする。 <中略></p> <p>【計測制御系統施設】 （要目表） 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものにあつては次の事項 (1) 中央制御室機能 2. 中央制御室機能及び中央制御室外原子炉停止機能 c. 外部状況把握 発電用原子炉施設の外部の状況を把握するため、津波監視カメラ（浸水防護施設の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。））、構内監視カメラ（このうちガスタービン発電機建物屋上に設置する構内監視カメラについては、原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の設備を計測制御系統施設の設備として兼用（以下同じ。））、風向、風速その他の気象条件を測定する気象観測設備（「1, 2及び3号機共用」（以下同じ。））をチ(2)-⑳設置し、津波監視カメラ及び構内監視カメラの映像、気象観測設備のパラメータ及び公的機関からの地震、津波、竜巻情報等の入手により中央制御室から発電用原子炉施設に影響を及ぼす可能性のある自然現象等を把握できる設計とする。</p>	<p>設計及び工事の計画のチ(2)-⑱は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-⑱と同義であり、整合している。</p> <p>設計及び工事の計画のチ(2)-⑳は、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-⑳と同義であり、整合している。</p>	

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																										
<p>[可搬型重大事故等対処設備]</p> <p>可搬式モニタリング・ポスト</p> <p>チ(2)-②(ス、(3)、(vi) 緊急時対策所と兼用)</p> <p>個 数 10 (予備2)</p>	<p>第 8.1-2 表 放射線管理設備（重大事故等時）の主要機器仕様</p> <p>(1) 環境モニタリング設備</p> <p>a. 移動式モニタリング設備</p> <p>(a) 可搬式モニタリング・ポスト</p> <p>兼用する設備は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所（重大事故等時） <p>種 類 Na I (T1) シンチレーション半導体</p> <p>計測範囲 10~10⁹nGy/h</p> <p>個 数 10 (予備2)</p> <p>伝送方法 衛星系回線</p>	<p>津波監視カメラ及び構内監視カメラは暗視機能等を持ち、中央制御室にて遠隔操作することにより、発電所構内の周辺状況（海側及び山側）を昼夜にわたり把握できる設計とする。</p> <p>なお、津波監視カメラは、地震荷重等を考慮し必要な強度を有する設計とするとともに、代替交流電源設備から給電できる設計とする。</p> <p>【放射線管理施設】 (要目表)</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所</p> <table border="1" data-bbox="1656 730 2828 1434"> <thead> <tr> <th colspan="3">変 更 前</th> <th colspan="3">変 更 後</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警 報 動作範囲</th> <th>個 数</th> <th>取 付 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式モニタリングポスト</td> <td>Na I (T1) シンチレーション 半導体式</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10~10⁹ nGy/h</td> <td>10 (予備2)</td> <td>保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4 保管エリア 予備を含めた 12 台を第1 保管エリアに 6 台及び第4 保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No. 1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No. 2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No. 3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No. 4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No. 5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No. 6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No. 1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm</td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>GM管</td> <td>0~100 km²/h</td> <td>—</td> <td>2 (予備1)</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2</td> </tr> <tr> <td>Na I シンチレーションサーベイメータ</td> <td>Na I (T1) シンチレーション</td> <td>0~30 ks⁻¹</td> <td>—</td> <td>2 (予備1)</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2</td> </tr> <tr> <td>α・β線サーベイメータ</td> <td>ZnS (Ag) シンチレーション プラスチックシンチレーション</td> <td>0~100 km²/h 0~100 km²/h</td> <td>—</td> <td>1 (予備1)</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 1 個 〕 —*2</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>電離箱</td> <td>1μSv/h ~ 300mSv/h</td> <td>—</td> <td>2 (予備1)</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：予備の個数を示す。 *2：発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）のうち、任意の場所でのモニタリング時に使用する。</p>	変 更 前			変 更 後			名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報 動作範囲	個 数	取 付 箇 所	可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション 半導体式	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (予備2)	保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4 保管エリア 予備を含めた 12 台を第1 保管エリアに 6 台及び第4 保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No. 1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No. 2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No. 3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No. 4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No. 5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No. 6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No. 1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm	GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ² /h	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2	Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2	α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション プラスチックシンチレーション	0~100 km ² /h 0~100 km ² /h	—	1 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 1 個 〕 —*2	電離箱サーベイメータ	電離箱	1μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2	<p>整合性</p> <p>・「可搬式モニタリング・ポスト」は、設置変更許可申請書（本文（五号））におけるチ(2)-②を設計及び工事の計画の「放射線管理施設」のうち「放射線管理用計測装置」に整理しており、整合している。</p>	
変 更 前			変 更 後																																											
名 称	検出器の種類	計測範囲	警 報 動作範囲	個 数	取 付 箇 所																																									
可搬式モニタリングポスト	Na I (T1) シンチレーション 半導体式	10~10 ⁹ nGy/h	10~10 ⁹ nGy/h	10 (予備2)	保管場所： 屋外 EL 約 5000mm 第1 保管エリア 屋外 EL 約 8500mm 第4 保管エリア 予備を含めた 12 台を第1 保管エリアに 6 台及び第4 保管エリアに 6 台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6 台 モニタリングポスト No. 1 付近 屋外 EL 約 87000mm モニタリングポスト No. 2 付近 屋外 EL 約 132000mm モニタリングポスト No. 3 付近 屋外 EL 約 147000mm モニタリングポスト No. 4 付近 屋外 EL 約 136000mm モニタリングポスト No. 5 付近 屋外 EL 約 108000mm モニタリングポスト No. 6 付近 屋外 EL 約 64000mm ②海側等付近 4 台 海側配置箇所 No. 1 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 2 屋外 EL 約 8500mm 海側配置箇所 No. 3 屋外 EL 約 8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約 50000mm																																									
GM汚染サーベイメータ	GM管	0~100 km ² /h	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2																																									
Na I シンチレーションサーベイメータ	Na I (T1) シンチレーション	0~30 ks ⁻¹	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2																																									
α・β線サーベイメータ	ZnS (Ag) シンチレーション プラスチックシンチレーション	0~100 km ² /h 0~100 km ² /h	—	1 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 1 個 〕 —*2																																									
電離箱サーベイメータ	電離箱	1μSv/h ~ 300mSv/h	—	2 (予備1)	保管場所： 緊急時対策所 EL 約 50250mm 取付場所 〔 2 個 〕 —*2																																									

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考																																		
<p>チ(2)-㉔放射能測定装置一式（予備を含む。）</p>	<p>(b) 放射能測定装置</p> <p>(b-1) 可搬式ダスト・よう素サンプラ 個数 2（予備1）</p> <p>(b-2) NaIシンチレーション・サーベイ・メータ 種類 NaI（T1）シンチレーション 計測範囲 0～30ks⁻¹ 個数 2（予備1）</p> <p>(b-3) GM汚染サーベイ・メータ 種類 GM管 計測範囲 0～100kmin⁻¹ 個数 2（予備1）</p> <p>(b-4) α・β線サーベイ・メータ 種類 ZnS（Ag）シンチレーション プラスチックシンチレーション 計測範囲 0～100kmin⁻¹ 個数 1（予備1）</p> <p>(b-5) 電離箱サーベイ・メータ 種類 電離箱 計測範囲 0.001～300mSv/h 個数 2（予備1）</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針）</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>1. 放射線管理施設</p> <p>1.1 放射線管理用計測装置</p> <p>1.1.4 移動式周辺モニタリング設備</p> <p><中略></p> <p>重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において、発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中、水中、土壤中）及び放射線量を監視するための移動式周辺モニタリング設備として使用するチ(2)-㉔a NaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータ、α・β線サーベイメータ及び電離箱サーベイメータを設け、測定結果を記録し、保存できるように測定値を表示できる設計とし、可搬式ダスト・よう素サンプラ（個数2（予備1））及び小型船舶（個数1（予備1））を保管する設計とする。</p> <p><中略></p> <p>【放射線管理施設】 （要目表）</p> <p>(4) 移動式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所</p> <table border="1" data-bbox="1656 1182 2834 1885"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th rowspan="2">取付箇所</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>検出器の種類</th> <th>計測範囲</th> <th>警報動作範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式モニタリングポスト</td> <td>NaI（T1）シンチレーション</td> <td>10～10⁹nGy/h</td> <td>10～10⁹nGy/h</td> <td>保管場所： 屋外 EL 約5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約8500mm 第4保管エリア 予備を含めた12台を第1保管エリアに6台及び第4保管エリアに6台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6台 モニタリングポストNo.1付近 屋外 EL 約87000mm モニタリングポストNo.2付近 屋外 EL 約132000mm モニタリングポストNo.3付近 屋外 EL 約147000mm モニタリングポストNo.4付近 屋外 EL 約136000mm モニタリングポストNo.5付近 屋外 EL 約108000mm モニタリングポストNo.6付近 屋外 EL 約64000mm ②海側等付近 4台 海側配置箇所No.1 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.2 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.3 屋外 EL 約8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約5000mm</td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>GM管</td> <td>0～100kmin⁻¹</td> <td>—</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕</td> </tr> <tr> <td>NaIシンチレーションサーベイメータ</td> <td>NaI（T1）シンチレーション</td> <td>0～30ks⁻¹</td> <td>—</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕</td> </tr> <tr> <td>α・β線サーベイメータ</td> <td>ZnS（Ag）シンチレーション プラスチックシンチレーション</td> <td>0～100kmin⁻¹</td> <td>—</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 1個 〕</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>電離箱</td> <td>1μSv/h～300mSv/h</td> <td>—</td> <td>保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：予備の個数を示す。 *2：発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）のうち、任意の場所でのモニタリング時に使用する。</p>	変更前		変更後		取付箇所	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	可搬式モニタリングポスト	NaI（T1）シンチレーション	10～10 ⁹ nGy/h	10～10 ⁹ nGy/h	保管場所： 屋外 EL 約5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約8500mm 第4保管エリア 予備を含めた12台を第1保管エリアに6台及び第4保管エリアに6台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6台 モニタリングポストNo.1付近 屋外 EL 約87000mm モニタリングポストNo.2付近 屋外 EL 約132000mm モニタリングポストNo.3付近 屋外 EL 約147000mm モニタリングポストNo.4付近 屋外 EL 約136000mm モニタリングポストNo.5付近 屋外 EL 約108000mm モニタリングポストNo.6付近 屋外 EL 約64000mm ②海側等付近 4台 海側配置箇所No.1 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.2 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.3 屋外 EL 約8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約5000mm	GM汚染サーベイメータ	GM管	0～100kmin ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕	NaIシンチレーションサーベイメータ	NaI（T1）シンチレーション	0～30ks ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕	α・β線サーベイメータ	ZnS（Ag）シンチレーション プラスチックシンチレーション	0～100kmin ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 1個 〕	電離箱サーベイメータ	電離箱	1μSv/h～300mSv/h	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕	<p>設計及び工事の計画のチ(2)-㉔a～チ(2)-㉔cは、設置変更許可申請書（本文（五号））のチ(2)-㉔を具体的に記載しており、整合している。</p>	<p>チ(2)-㉔c</p>
変更前		変更後		取付箇所																																		
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲																																			
可搬式モニタリングポスト	NaI（T1）シンチレーション	10～10 ⁹ nGy/h	10～10 ⁹ nGy/h	保管場所： 屋外 EL 約5000mm 第1保管エリア 屋外 EL 約8500mm 第4保管エリア 予備を含めた12台を第1保管エリアに6台及び第4保管エリアに6台保管する 取付場所 ①周辺モニタリングポスト付近 6台 モニタリングポストNo.1付近 屋外 EL 約87000mm モニタリングポストNo.2付近 屋外 EL 約132000mm モニタリングポストNo.3付近 屋外 EL 約147000mm モニタリングポストNo.4付近 屋外 EL 約136000mm モニタリングポストNo.5付近 屋外 EL 約108000mm モニタリングポストNo.6付近 屋外 EL 約64000mm ②海側等付近 4台 海側配置箇所No.1 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.2 屋外 EL 約8500mm 海側配置箇所No.3 屋外 EL 約8500mm 緊急時対策所付近 屋外 EL 約5000mm																																		
GM汚染サーベイメータ	GM管	0～100kmin ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕																																		
NaIシンチレーションサーベイメータ	NaI（T1）シンチレーション	0～30ks ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕																																		
α・β線サーベイメータ	ZnS（Ag）シンチレーション プラスチックシンチレーション	0～100kmin ⁻¹	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 1個 〕																																		
電離箱サーベイメータ	電離箱	1μSv/h～300mSv/h	—	保管場所： 緊急時対策所 EL 約50250mm 取付場所 〔 2個 〕																																		

設置変更許可申請書（本文（五号））	設置変更許可申請書（添付書類八）該当事項	設計及び工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>小型船舶 個 数 <u>1（予備1）</u></p> <p>可搬式気象観測装置 個 数 <u>1（予備1）</u></p>	<p>b. <u>小型船舶</u> 個 数 <u>1（予備1）</u></p> <p>c. <u>可搬式気象観測装置</u> 観測項目 風向，風速，日射量，放射収支量，雨量 個 数 <u>1（予備1）</u> 伝送方法 衛星系回線</p>	<p>【放射線管理施設】 （基本設計方針） 第2章 個別項目 1. 放射線管理施設 1.1 放射線管理用計測装置 1.1.4 移動式周辺モニタリング設備 <中略> 重大事故等が発生した場合に発電所及びその周辺（発電所の周辺海域を含む。）において，発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度（空气中，水中，土壤中）及び放射線量を監視するための移動式周辺モニタリング設備として使用するNaIシンチレーションサーベイメータ，GM汚染サーベイメータ，α・β線サーベイメータ及び電離箱サーベイメータを設け，測定結果を記録し，保存できるように測定値を表示できる設計とし，可搬式ダスト・よう素サンプラ（個数2（予備1））及び小型船舶（個数1（予備1））を保管する設計とする。 <中略> 1.1.5 環境測定装置 <中略> 重大事故等が発生した場合に発電所において，風向，風速その他の気象条件を測定し，及びその結果を記録するための設備として，<u>可搬式気象観測装置（個数1（予備1））</u>を設ける設計とする。 <中略></p>		